

茨城県教育財団文化財調査報告第264集

島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

上 卷

茨城県教育財団文化財調査報告第264集

島名熊の山遺跡
上 卷

財団法人

茨城県教育財団

平成 18 年 3 月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第264集

しま な くま やま い せき
島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

上 巻

平成 18 年 3 月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団



島名熊の山遺跡遠景（北から）



第2019号住居跡出土土器

序

茨城県は、世界的な科学研究の中心であるつくば市において、国際都市にふさわしい街づくりを推進しております。この一環である「つくばエクスプレス」の整備は、つくば市と東京圏を直結させることによって人・物・情報の交流を盛んにし、地域活性化の大きな力になるものです。そこで、平成6年7月に茨城県、つくば市、地権者が三者協議で合意に達したのを受け、新線整備と沿線開発を一体的に行う土地区画整理事業が進められております。

この予定地内に島名熊の山遺跡が所在していたため、財団法人茨城県教育財団は茨城県から埋蔵文化財の発掘調査について委託を受け、平成7年4月から発掘調査を実施しました。その成果の一部は、既当財団の文化財調査報告第120集、第133集、第149集、第166集、第174集、第190集、第214集、第236集として刊行しています。

本書は、平成15・16年度に調査を行った島名熊の山遺跡の調査成果を収録したものです。学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、ひいては教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

なお、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である茨城県から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し、感謝申し上げます。

平成18年3月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 稲葉節生

例 言

1 本書は、茨城県の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成15年度及び16年度に発掘調査を実施した、茨城県つくば市大字島名に所在する島名熊^{しまなぐま}の山遺跡^{やま}の一部である13区の発掘調査報告書である。

2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調 査 平成15年4月1日～平成16年3月31日，平成16年4月1日～平成16年6月30日

整 理 平成17年4月1日～平成18年3月31日

3 発掘調査は、調査課長川井正一のもとに行われ、担当は以下のとおりである。

首席調査員兼班長 萩野谷 悟 平成15年4月1日～平成16年3月31日

主任調査員 黒澤 秀雄 平成15年7月1日～平成15年9月30日

平成15年12月1日～平成16年3月31日

主任調査員 仲村 浩一郎 平成15年4月1日～平成16年3月31日

主任調査員 小松崎 和治 平成16年3月1日～平成16年3月31日

主任調査員 近藤 恒重 平成15年4月1日～平成15年5月31日

主任調査員 田中 幸夫 平成15年7月1日～平成16年3月31日

主任調査員 酒井 雄一 平成15年4月1日～平成16年3月31日

副主任調査員 駒澤 悦郎 平成15年4月1日～平成15年5月31日

副主任調査員 松本 直人 平成15年12月1日～平成16年3月31日

調査員 梅澤 貴司 平成15年4月1日～平成16年3月31日

首席調査員兼班長 吉原 作平 平成16年4月1日～平成16年6月30日

主任調査員 小松崎 和治 平成16年4月1日～平成16年6月30日

主任調査員 酒井 雄一 平成16年4月1日～平成16年6月30日

調査員 越田 真太郎 平成16年4月1日～平成16年5月31日

調査員 桑村 裕 平成16年4月1日～平成16年6月30日

4 整理及び本書の執筆・編集は、整理第一課長瓦吹堅のもと、以下の者が担当した。

主任調査員 田中 幸夫 第3章第3節2～6，第4節

主任調査員 酒井 雄一 第3章第3節2～4，第4節

調 査 員 桑村 裕 第3章第3節2～7，第4節

主任調査員 田月 淳一 第3章第3節1～6

主任調査員 松本 直人 第1章～第3章第2節，第3章第3節5

5 本書を作成するにあたり、土師器甕については埼玉県立博物館館長高橋一夫氏に、山口県萩市見島ジーコンボ古墳群出土の青銅製柄杓の実見に際しては、萩博物館副館長樋口尚樹ならびに上利英之の両氏、本跡出土の青銅製柄杓については、独立行政法人東京国立博物館保存修復主任研究員古谷毅氏に御指導頂いた。

凡 例

- 1 地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し、 $X = +7,320\text{m}$ 、 $Y = +20,200\text{m}$ の交点を基準点(A 1 a1)とした。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C..., 西から東へ1, 2, 3...とし、「A1区」、「B2区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa, b, c...j, 西から東へ1, 2, 3, ...0とし、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1区」、「B 2 b2区」のように呼称した。

- 2 抄録の北緯及び東経の欄には、世界測地系に基づく緯度・経度を()を付けて併記した。










- 3 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 SI - 住居跡 SB - 掘立柱建物跡 SK - 土坑 SD - 溝跡 SE - 井戸跡 P - ピット
PG - ピット群 SA - 柵跡 SF - 道路跡 SX - 不明遺構
遺物 TP - 拓本記録土器 DP - 土製品 Q - 石器・石製品 M - 金属製品・古銭
土層 K - 攪乱

- 4 当遺跡は、『茨城県遺跡地図』(茨城県教育委員会 平成13年3月改訂)において、「熊の山遺跡」から「島名熊の山遺跡」と名称が変更されているが、本書では遺跡の整合性から平成7年度調査から継続の遺構番号を使用した。

- 5 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

- (1) 遺構全体図は1200分の1, 13区全体図は500分の1, 遺構は60分の1に縮小して掲載した。
(2) 遺物は原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合もある。
(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

	焼土・赤彩・施釉・朱墨		炉・火床面・貼床・灰
	竈部材・粘土・炭化材・黒色処理		油煙・煤・墨・柱抜き取り痕、柱のあたり
	土器		土製品
	石器・石製品		金属製品
	硬化面		

- 6 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

- 7 一覧表・遺物観察表の表記については、次のとおりである。

- (1) 計測値の()内の数値は現存値を,[]内の数値は推定値を示した。計測値の単位は, cm, gで示した。
(2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率や写真図版番号, 及びその他必要と思われる事項を記した。
(3) 文字資料のうち、焼成後に線刻されたものを「刻書」として記述した。

- 8 「主軸」は、竈を持つ竪穴住居跡については竈を通る軸線とし、他の遺構については長軸(径)を主軸とみなした。「主軸・長軸方向」は主軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N - 10° - E)。

抄 録

ふりがな	しまなくまのやまいせき							
書名	島名熊の山遺跡							
副書名	島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書							
巻次	XII							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第264集							
編著者名	田中幸夫, 酒井雄一, 田月淳一, 松本直人, 桑村裕							
編集機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029 (225) 6587							
発行年月日	2006 (平成18) 年3月24日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
しまなくま やまいせき 島名熊の山遺跡 (13区)	いばらきけん し 茨城県つくば市 おおあざしま な あざせきの 大字島名字関ノ つつみまえ ばんち 包前1401番地ほ か	08220 - 214	36度 3分 50秒 (36度 4分 02秒)	140度 3分 49秒 (140度 3分 37秒)	18 ~ 23m	20030401 ~ 20040629	26,861㎡	島名・福田坪 一体型特定土 地区画整理事 業に伴う事前 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物			特記事項
島名熊の山遺跡 (13区)	集落跡	縄文	陥し穴 3基					
		古墳	竪穴住居跡 溝跡 井戸跡 土坑	147軒 1条 1基 1基	土師器(坏・埴・器台・高坏・ 甕・甑・鉢), 手捏土器, ミニ チュア土器, 須恵器(坏・蓋・ 提瓶甕), 石器・石製品(白玉・ 砥石・紡錘車・鏃), 土製品(勾 玉・土玉・小玉・球状土錘支 脚), 鉄製品(刀子・鏃・鎌), 銅製品(耳環)			
		奈良	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 溝跡 井戸跡 柵跡 土坑	53軒 39棟 2条 1基 1条 5基	土師器(坏・甕・甑), 須恵器 (坏・高台付坏・蓋・盤・甕・ 甑・鉢), 石器・石製品(紡錘 車), 鉄製品(刀子・鎌・鋤先・ 鏃・釘)			
平安	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 溝跡 井戸跡 土坑	77軒 42棟 2条 1基 6基	土師器(坏・高台付碗・甕・小 皿), 須恵器(坏・高台付坏・ 高台付皿・蓋・盤・鉢・長頸壺 甕・甑・円面碗), 灰釉陶器(碗・ 蓋・壺・長頸瓶), 土製品(支 脚・土玉・管状土錘), 石器・ 石製品(砥石・紡錘車・腰帶 具), 鉄製品(刀子・鏃・手斧・ 腰帶具・足金具・責金具・馬 具・紡錘車・釘)銅製品(柄杓)					

	その他	中世	掘立柱建物跡 方形竪穴遺構 地下式墳 溝跡 井戸跡 柵跡 土坑 火葬土坑 墓壇	7棟 26基 16基 2条 7基 2条 1基 7基 4基	土師質土器(小皿・内耳鍋), 陶器(天目茶碗・大皿・皿・折 縁深皿・縁釉小皿・片口鉢・ 甕), 古銭
		不明	溝跡 道路跡 井戸跡 柵跡 土坑 墓壇 ピット群 不明遺構	10条 2条 4基 8条 653基 2基 16か所 5基	陶器(ひょうそく), 煙管, 鉄 砲玉, 古銭
要約	今年度の調査区からは, 5か所の掘立柱建物群跡や方形竪穴遺構・地下式墳の集中域が確認されている。また, 県内で3例目となる青銅製柄杓, 「大井新家」と墨書された須恵器坏や「穴井」と刻まれた石製紡錘車などが出土している。				

総目次

- 上 卷 -

序	
例言	
凡例	
抄録	
目次	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の成果	9
第1節 調査の概要	9
第2節 基本層序	9
第3節 遺構と遺物	11
1 縄文時代の遺構	11
陥し穴	11
2 古墳時代の遺構と遺物	13
(1) 竪穴住居跡	13
(2) 溝跡	352
(3) 井戸跡	353
(4) 土坑	354

- 中 卷 -

3 奈良時代の遺構と遺物	359
(1) 竪穴住居跡	359
(2) 掘立柱建物跡	469
(3) 溝跡	518
(4) 井戸跡	519
(5) 柵跡	521
(6) 土坑	521

4 平安時代の遺構と遺物	527
(1) 竪穴住居跡	527
(2) 掘立柱建物跡	712
(3) 溝跡	779
(4) 井戸跡	781
(5) 土坑	783

- 下 巻 -

5 中世の遺構と遺物	793
(1) 掘立柱建物跡	793
(2) 方形竪穴遺構	801
(3) 地下式墳	823
(4) 溝跡	839
(5) 井戸跡	840
(6) 柵跡	846
(7) 土坑	847
(8) 火葬土坑	848
(9) 墓壇	853
6 その他の時代の遺構と遺物	858
(1) 溝跡	858
(2) 道路跡	863
(3) 井戸跡	864
(4) 柵跡	867
(5) 土坑	871
(6) 墓壇	872
(7) その他の土坑	873
(8) ピット群	900
(9) 不明遺構	921
7 遺構外出土遺物	941
第4節 まとめ	949

写真図版

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

平成6年8月18日、茨城県知事は、茨城県教育委員会教育長に対して島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及び取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成6年9月19～27日に現地踏査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成7年3月8日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県知事あてに、事業地内に島名熊の山遺跡が所在する旨回答した。

平成7年3月14日、茨城県知事は、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第57条の3第1項の規定に基づき、土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は、計画変更が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、平成7年3月16日、茨城県知事あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

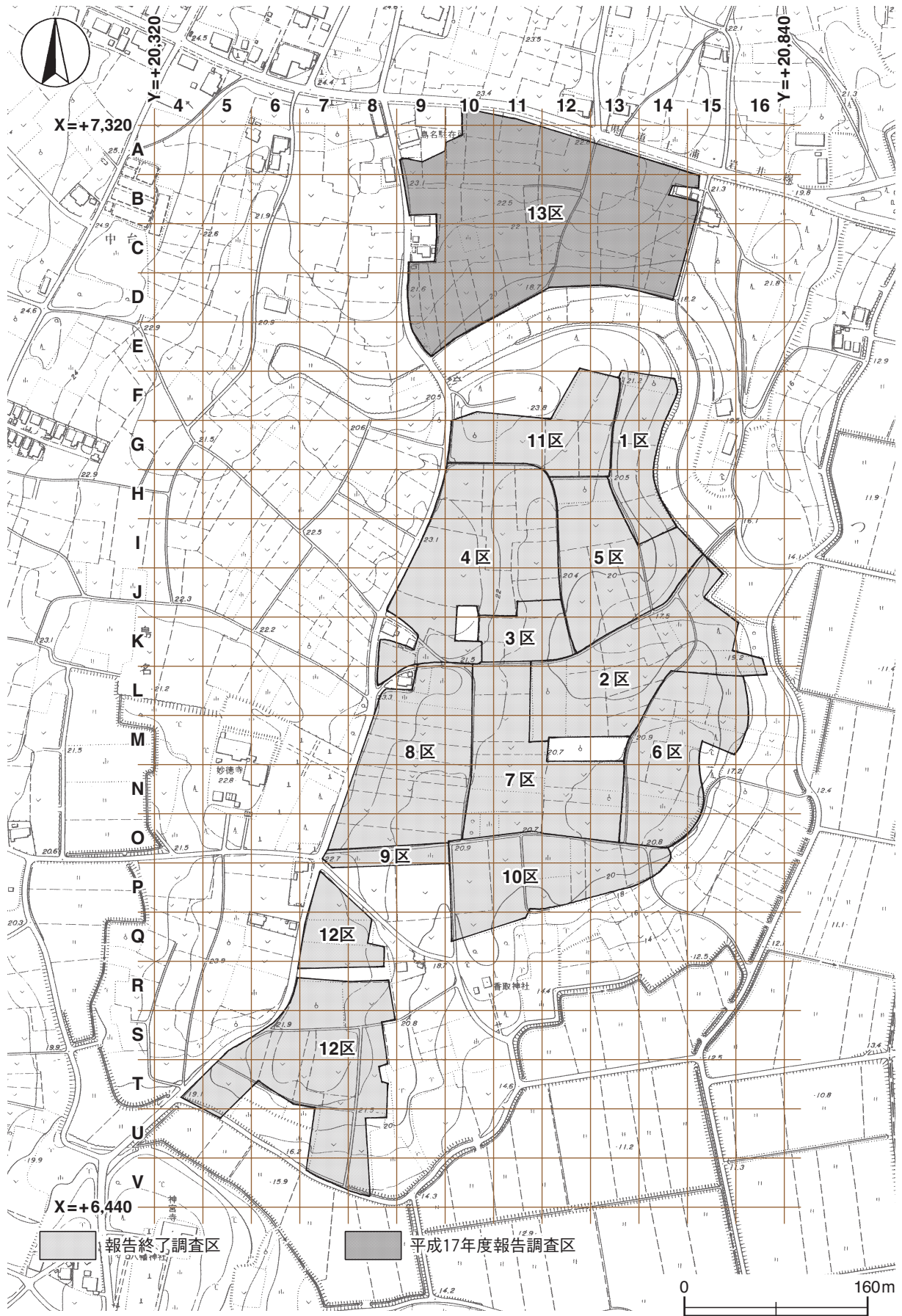
平成15年2月26日、茨城県知事は、茨城県教育委員会教育長に対して、島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議した。同日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県知事あてに、島名熊の山遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として、財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県知事から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成15年4月1日から平成16年3月31日で21,635m²、平成16年4月1日から平成16年6月30日で業務量の見直しにより繰り越された5,226m²の島名熊の山遺跡の発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査経過

島名熊の山遺跡13区の調査は、平成15年4月1日から平成16年3月31日、平成16年4月1日から平成16年6月30日までの1年3か月にわたって実施した。以下、調査の経過について、概要を表で記載する。

	平成15年度												平成16年度			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
調査準備 表土除去 遺構確認	■	■	■	■												
遺構調査				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
遺物洗浄 注記 写真整理					■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
補足調査 撤収													■			



第1図 島名熊の山遺跡グリット設定図

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

島名熊の山遺跡13区は、茨城県つくば市大字島名字関ノ包前1401番地ほかに所在している。

つくば市は、筑波山を北端にして、その南西側に広がる標高約20～25mの平坦な台地上に位置している。この台地は筑波・稲敷台地と呼ばれ、東を霞ヶ浦に流入する桜川、西を利根川に合流する小貝川によって区切られている。また、それぞれの河川によって大きく開析された流域には、標高5～10mの沖積地が発達している。さらに、両河川の間には、東から花室川、蓮沼川、小野川、東谷田川、西谷田川などの中小河川がほぼ北から南に向かって流れており、これらの河川によって台地は浅く開析され、谷津や低地が細長く入り込んでいる。

この筑波・稲敷台地は、貝化石を産する海成の砂層である成田層を基盤として、その上に竜ヶ崎層と呼ばれる斜交層理の顕著な砂層・砂礫層、さらに常総粘土層と呼ばれる泥質粘土層（0.3～5.0m）及び褐色の関東ローム層（0.5～2.0m）が連続して堆積し、最上部は腐食土層となっている¹⁾。

つくば市南西部旧谷田部町域の島名地区は、東谷田川と西谷田川に挟まれた平坦な台地上に位置している。当遺跡はその台地上の東谷田川に面した縁辺部に立地しており、標高は20～23mである。また、当遺跡を囲むように周囲には小さな谷津が入り込み、その名のように島状を呈している。この台地は主に畑地、また低地は水田としてそれぞれ利用されており、台地と水田面の比高は約10mである。当遺跡の調査前の現況は畑地であり、主に野菜畑や栗畑として利用されていた。

第2節 歴史的環境

島名熊の山遺跡周辺の小貝川や東谷田川、西谷田川、蓮沼川流域の台地上には、縄文時代から中世にかけての遺跡が数多く存在している。ここでは、主に東谷田川と西谷田川流域の遺跡について述べる。特に、当遺跡が所在する島名地区は調査事例が多く、各時代の様相をつかみやすい。

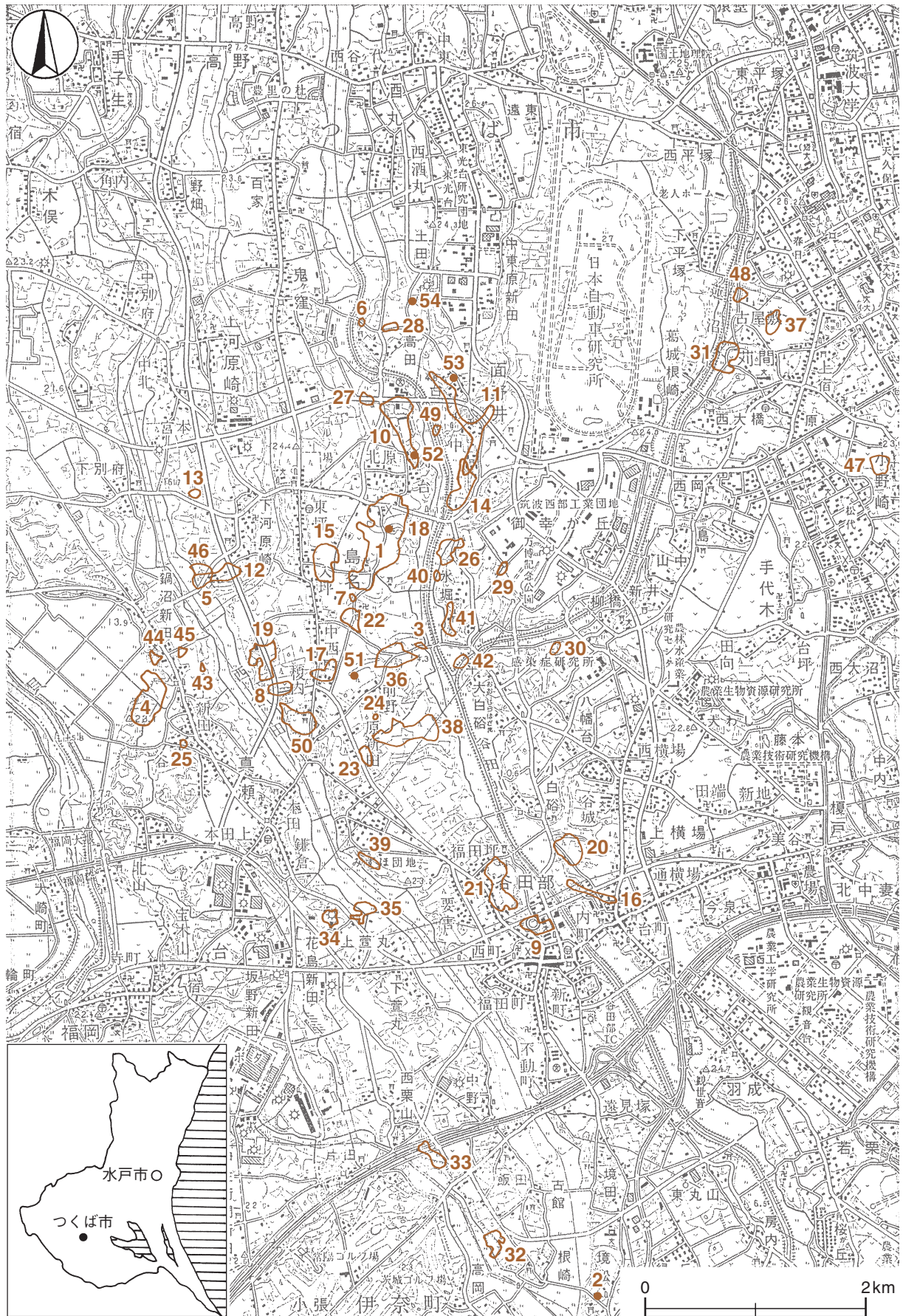
旧石器時代では、当遺跡や島名前野東遺跡²⁾ 36 からナイフ形石器や剥片、面野井北の前遺跡 53 から荒屋型彫器などが確認されている。いずれも表土中からの出土であり、旧石器時代の遺構の存在は明らかではない。

縄文時代の遺構は、近年の調査の増加に伴って確認されるようになり、特に西谷田川左岸の境松貝塚³⁾ 2 では地点貝塚、東谷田川右岸の島名境松遺跡⁴⁾ 38 では土器焼成遺構と考えられる土坑が確認されており、注目されている。当遺跡付近では、陥し穴数基と表土中から石鏃が複数確認されているにすぎない。

弥生時代の遺跡は少なく、後期の遺物が出土した当遺跡のほか、境松貝塚や島名一町田遺跡 24 などが確認されているだけであり、当遺跡から出土した土器片には籾痕が認められ、稲作を考える上で興味深い。

古墳時代になると、遺跡数の増加が顕著となる。前期では、当遺跡、島名前野遺跡⁵⁾ 3、島名前野東遺跡などで集落跡が確認され、島名前野東遺跡では集落に付随した形で方形周溝墓3基が調査されている。しかし、これらの集落はいずれも小規模で、東谷田川に沿って点在していた集落の一つととらえることができる。

中期になると、集落は西谷田川沿いにまで広がりを見せ、前述した遺跡に加えて、谷田部漆遺跡⁶⁾ 39 や島名ツバタ遺跡⁷⁾ 19、真瀬三度山遺跡⁸⁾ 34、上萱丸古屋敷遺跡⁹⁾ 35 などにおいても集落跡が確認されている。前・中期のこうした集落は、いずれも台地の縁辺部や低湿地へ向かう緩斜面部に適度な距離を置いて



第2図 島名熊の山遺跡周辺遺跡分布図(国土地理院5万分の1「土浦」)

表1 島名熊の山遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世			近世	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世
1	島名熊の山遺跡							28	高田遺跡							
2	境松貝塚							29	水堀遺跡							
3	島名前野遺跡							30	柳橋遺跡							
4	真瀬山田遺跡							31	苅間神田遺跡							
5	下河原崎高山遺跡							32	根崎遺跡							
6	高田和田台遺跡							33	西栗山遺跡							
7	島名薬師遺跡							34	真瀬三度山遺跡							
8	島名榎内遺跡							35	上萱丸古屋敷遺跡							
9	谷田部城跡							36	島名前野東遺跡							
10	島名関ノ台古墳群							37	苅間六十目遺跡							
11	面野井古墳群							38	島名境松遺跡							
12	下河原崎高山古墳群							39	谷田部漆遺跡							
13	下河原崎古墳群							40	水堀屋敷添遺跡							
14	面野井南遺跡							41	水堀道後前遺跡							
15	島名本田遺跡							42	平後遺跡							
16	谷田部台町古墳群							43	真瀬堀附北遺跡							
17	島名榎内古墳群							44	真瀬山田北遺跡							
18	島名熊の山古墳群							45	鍋沼新田長峰遺跡							
19	島名ツバタ遺跡							46	下河原崎高山遺跡							
20	谷田部台成井遺跡							47	小野崎館跡							
21	谷田部福田前遺跡							48	苅間城跡							
22	島名八幡前遺跡							49	面野井城跡							
23	島名タカド口遺跡							50	島名榎内南遺跡							
24	島名一町田遺跡							51	島名前野古墳							
25	真瀬新田谷津遺跡							52	島名関ノ台南B遺跡							
26	水堀下道遺跡							53	面野井北の前遺跡							
27	島名関ノ台遺跡							54	高田原山遺跡							

営まれており、集落の立地や経営には台地裾部の自然湧水を利用した谷津田との関わりが強く示唆される。

後期になると、台地の内陸部にまで集落が及ぶようになる。また、谷田部地区には古墳群11か所、古墳約300基が確認される¹⁰⁾など、急速に古墳が築造されたことが分かる。当遺跡周辺には、島名熊の山古墳群¹⁸、島名関ノ台古墳群¹⁰、島名前野古墳⁵¹、面野井古墳群¹¹、島名榎内古墳群¹⁷、下河原崎高山古墳群¹²などがあり、径10mほどの小円墳が大部分を占めるこれらの古墳群は、地域的な群集墳の在り方を示している。中でも、『谷田部の歴史』¹¹⁾によれば、島名関ノ台古墳群は、円墳27基の他に、全長約40mの前方後円墳が存在したとあり、埋葬者は島名地区の盟主的存在であった可能性が高い。基盤となる集落としては、馬具や農具などの鉄器の他に須恵器なども相当数保持していた当遺跡を挙げる事ができる。

当遺跡では、過去5年間の調査により、4～5世紀に台地縁辺部に集落が出現した後、6世紀後半になって台地全体に集落が拡大し、急速に発展していく様子が明らかにされている¹²⁾。当遺跡と谷津を隔てて南側に隣接する島名八幡前遺跡¹³⁾ 22は集落の形成時期を後期に求めることができ、この時期においても集落を維持していた島名前野遺跡や島名前野東遺跡とともに、当遺跡を中心とする近接する遺跡間で互いの増減を補完し合う形をとりながら、古墳時代の終わりまで集落が継続して営まれたことと考えられる。

奈良時代になると、近年の発掘調査によって島名地区は急速に集落の再編が進むことが明らかとなった。その背景には、律令国家の成立と地方の国郡制の整備があったことは明らかで、当地区は河内郡嶋名郷に編入されることとなる。当遺跡や島名八幡前遺跡は、大形住居とそれに付随する掘立柱建物が集落の中心となり、規模や形状の等質化したその他の住居跡はいずれも主軸を真北にして並存するようになる。さらに、当遺跡にはL字状に配置された掘立柱建物群も整備され、郷関連の官衙施設の可能性も示唆されている。一方、島名前野遺跡や島名前野東遺跡では7世紀に一旦集落が途絶え、8世紀中頃に再び集落が形成される。それは、約半世紀の間空閑地となっていた当地が、律令体制の進展と共に再開発の標的となったためと思われる。しかし、その一方で、これらの遺跡以外に島名地区における該期の集落は認められなくなり、当遺跡周辺だけにこの時期の集落が集中するという現象が見られる。

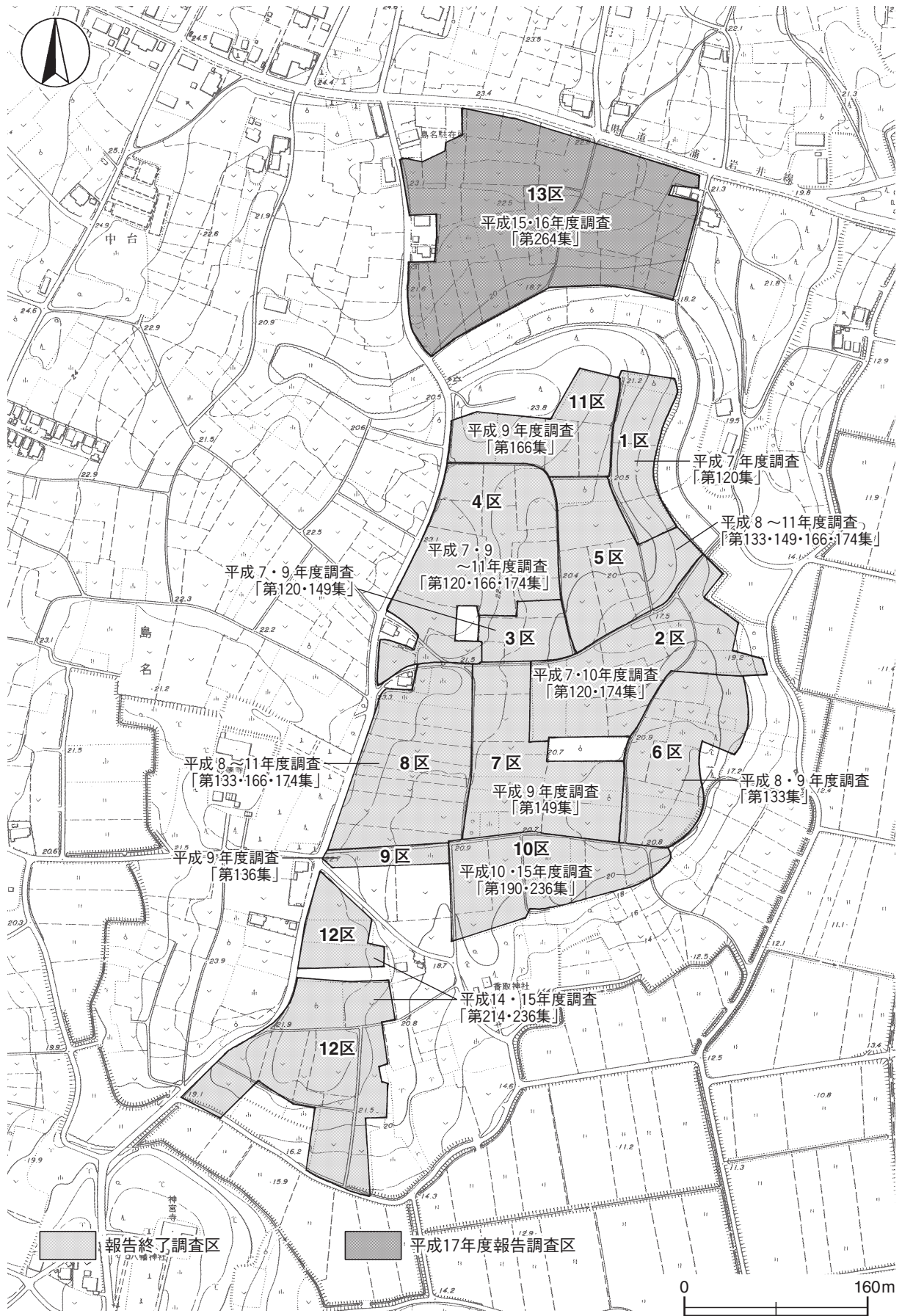
平安時代になると、遺跡数はさらに減少し、集落として明確に捉えられるのは当遺跡と島名八幡前遺跡だけとなる。この2遺跡は、鍛冶生産や紡績などの手工業と積極的に関わっており、9世紀への集落の継続性を考えたとき、極めて示唆的である。加えて、8世紀以来の集落が、大規模な集落を残し壊滅していく状況は、律令体制の行き詰まりに伴う集落の再編成と考えることもできる。この9世紀の集落編成も10世紀を迎えると新たな展開を示し、島名八幡前遺跡もまた集落としての終焉を迎えることになる。一方、当遺跡はそれ以降も存続し、11世紀まで継続的に集落が営まれるが、その後の集落の様相は、不明瞭になっていく。竪穴住居から平地住居への転換の時期と重なるためと思われるが、当遺跡の墓壇や井戸跡からは平安時代末期と考えられる和鏡や小銅仏が出土しており、遺物の面から有力者層の存在をうかがうことができる。また、13世紀末には当遺跡の西側に妙徳寺が開山され、寺域周辺は墓域として利用されていく。ほぼ同じ頃、島名前野東遺跡には方1町に巡る堀に囲まれた方形居館が出現しており、居館内に居住する在地有力者が当遺跡の所在する島名地区一帯を治めていったものと思われる。

註

- 1) 日本の地質 『関東地方』編集委員会『日本の地質3 関東地方』共立出版 1986年10月
- 2) 寺門千勝・田原康司・梅澤貴司「島名前野東遺跡・島名境松遺跡・谷田部漆遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第191集 2002年3月
- 3) 久野俊度「主要地方道取手筑波線道路改良工事地内文化財調査報告書」『茨城県教育財団調査報告』第41集 1987年3月
- 4) 註2)と同じ
- 5) 稲田義弘「島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 島名前野遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第175集 2001年3月
- 6) 註2)と同じ
- 7) 皆川修「島名ツバタ遺跡 上河原崎・中西特定区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第203集 2003年3月
- 8) 白田正子「(仮称)萱丸地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 三度山遺跡 古屋敷遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第132集 1998年3月
- 9) 註8)と同じ
- 10) 谷田部町文化財保存会『谷田部町文化財報告Ⅰ 古墳総覧』谷田部町教育委員会 1960年
- 11) 谷田部の歴史編さん委員会『谷田部の歴史』谷田部町教育委員会 1975年9月
- 12) 稲田義弘「熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第190集 2002年3月
- 13) 青木仁昌「島名八幡前遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第201集 2003年3月

参考文献

- 『つくば市遺跡地図』つくば市教育委員会 2001年7月
『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会 2001年3月



第3図 島名熊の山遺跡調査区設定図

第3章 調査の成果

第1節 遺跡の概要

島名熊の山遺跡は、つくば市西部を南流する東谷田川右岸の舌状台地上に立地し、台地の標高は19~22mである。

調査区は、便宜上1~13区に分けられている。今回報告するのは、平成15年度及び16年度に調査した13区の26,861m²についてである。

調査は平成15年4月1日から平成16年3月31日、平成16年4月1日から平成16年6月30日までの1年3か月にわたって実施され、陥し穴3基（縄文時代）、竪穴住居跡277軒（古墳時代147、奈良時代53、平安時代77）、掘立柱建物跡88棟（奈良時代39、平安時代42、中世7）、方形竪穴遺構26基、地下式壙16基、土坑650基、墓壇6基、火葬土坑7基、溝跡17条、道路跡2条、井戸跡14基、柵跡11基、ピット群16か所、不明遺構5基が検出された。

遺跡の主体は、古墳時代後期から平安時代の集落跡である。竪穴住居跡は一辺が4~6m程度で、大半が北側に竈を有している。また、南北や東西に桁行や梁行をそろえた掘立柱建物群が5か所確認されている。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に398箱出土している。主な遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、土師質土器、陶器、磁器、土製品（勾玉・支脚）、石製品（白玉・砥石・紡錘車）、鉄製品（刀子・鏃・鋤先・鎌・釘）、銅製品（柄杓）などである。

第2節 基本層序

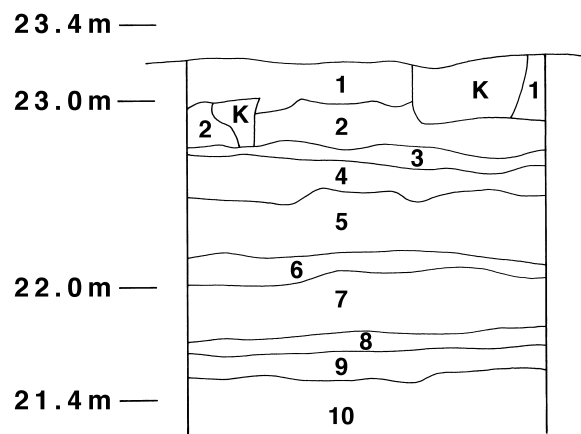
当遺跡は、標高19~22mほどの台地上の縁辺部に立地しており、調査13区の北部（B12a1区）にテストピットを設定して、基本土層の観察を行った。土層は10層に分層され、土層断面中、第2~7層が関東ローム層、第8~10層が常総粘土層である。以下、テストピットの観察から、層序を説明する。

第1層は、暗褐色を呈する耕作土層である。ローム小ブロックを少量含み、粘性・締まりとも弱く、層厚は20~35cmである。

第2層は、褐色を呈するソフトローム層である。粘性は弱く、締まりは普通で、層厚は12~25cmである。

第3層は、暗褐色を呈するソフトローム層で、第I黒色帯に相当すると考えられる。粘性・締まりともに弱く、層厚は3~13cmである。

第4層は、暗褐色を呈するソフトローム層である。粘性は弱く、締まりは普通で、層厚は6~25cmである。



第4図 基本土層図

第5層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は25～40cmである。

第6層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で、締まりは強く、層厚は5～20cmである。

第7層は、暗褐色を呈するハードローム層で、第Ⅱ黒色帯に相当すると考えられる。粘性・締まりともに強く、層厚は26～35cmである。

第8層は、にぶい黄橙色を呈する粘土層である。粘性・締まりともに特に強く、層厚は5～10cmである。

第9層は、褐灰色を呈する粘土層で、明黄橙色の砂粒を少量含んでいる。粘性・締まりとも特に強く、層厚は10～18cmである。

第10層は、灰白色を呈する粘土層である。粘性・締まりともに特に強く、層厚は27～36cmである。

なお、住居跡などの遺構は、第2層上面で確認した。

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

縄文時代の陥し穴3基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

第4号陥し穴（第5図）

位置 調査区北東部のA13i5区，標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

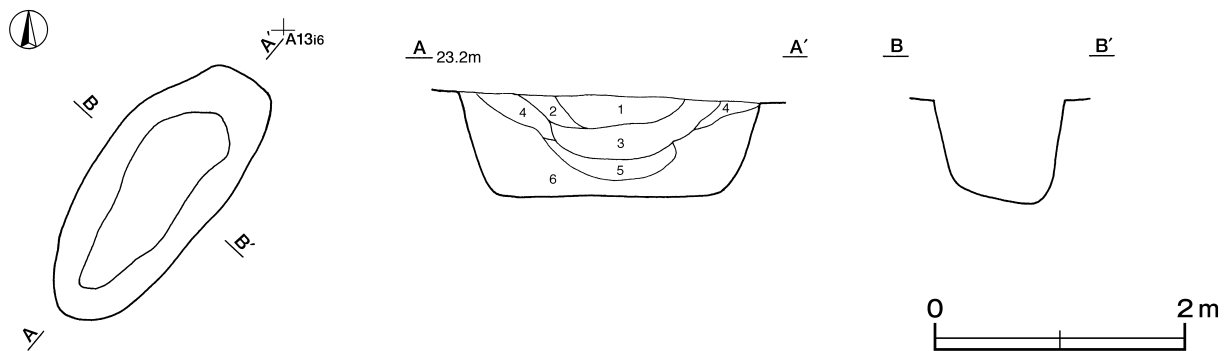
規模と形状 長径2.41m，短径1.02mの楕円形で，長径方向はN - 40° - Eである。深さは78cmで，短径方向の断面は逆台形である。南北壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 6層に分けられる。各層にロームブロックを多く含む人為堆積である。

土層解説

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1 灰褐色 ロ-ムブロック少量，炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ロ-ムブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロ-ム粒子少量，炭化粒子微量 | 5 褐灰色 ロ-ムブロック少量 |
| 3 黒褐色 ロ-ムブロック少量 | 6 褐色 ロ-ム粒子中量 |

所見 遺物は出土していないが，規模や形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。北東部の台地上に立地し，等高線に沿って配置されている。



第5図 第4号陥し穴実測図

第5号陥し穴（第6図）

位置 調査区北部のB12d6区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

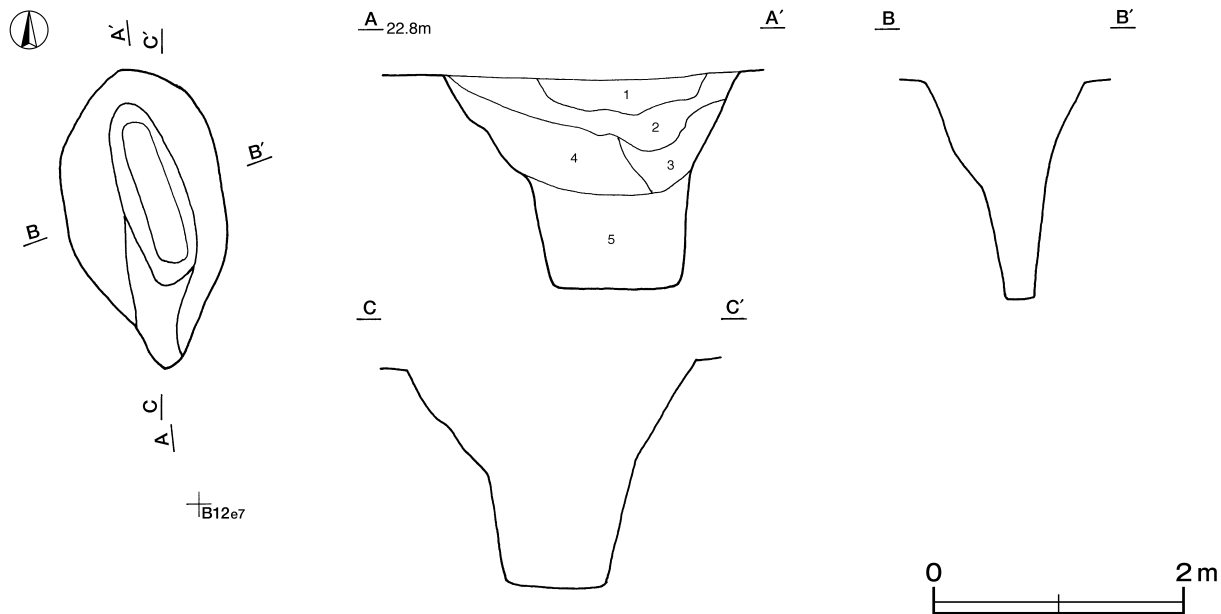
規模と形状 長径2.42m，短径1.26mの楕円形で，長径方向はN - 17° - Wである。深さは178cmで，短径方向の断面はV字形である。南北壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 5層に分けられる。第5層は含有物から自然堆積，その他の層はブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロ-ムブロック少量 | 4 黒褐色 ロ-ム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロ-ム粒子中量 | 5 黒褐色 ロ-ムブロック微量 |
| 3 暗褐色 ロ-ム粒子少量 | |

所見 遺物は出土していないが，規模や形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。北部の台地上に立地し，等高線に対してほぼ直交して配置されている。



第6図 第5号陥し穴実測図

第6号陥し穴（第7図）

位置 調査区北部のB12c4区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

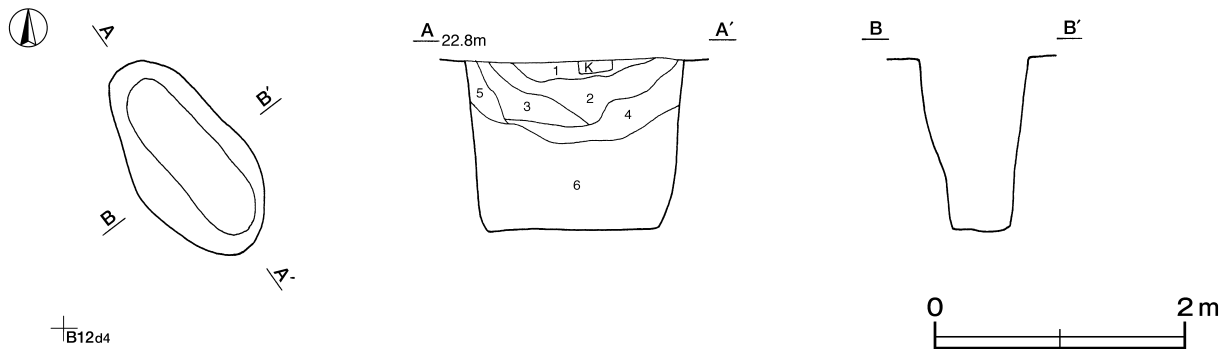
規模と形状 長径1.74m，短径0.91mの楕円形で，長径方向はN - 49° - Wである。深さは132cmで，短径方向の断面は逆台形である。南北壁は外傾して直立ぎみに立ち上がっている。

覆土 6層に分けられる。第6層は堆積状況から自然堆積である。その他の層はロームブロックや焼土粒子・炭化粒子を各層に多く含む人為堆積である。

土層解説

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量 | 4 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | 5 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量 |

所見 遺物は出土していないが，規模や形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。北部の台地上に立地し，等高線に対してほぼ直交して配置されている。



第7図 第6号陥し穴実測図

表2 縄文時代陥し穴一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		覆土	底面	壁面	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
4	A13i5	N - 40° - E	楕円形	2.41×1.02	78	人為	平坦	外傾	-	
5	B12d6	N - 17° - W	楕円形	2.42×1.26	178	人為・自然	平坦	外傾	-	
6	B12c4	N - 49° - W	楕円形	1.74×0.91	132	人為・自然	平坦	外傾	-	

2 古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の竪穴住居跡147軒，溝跡1条，井戸跡1基，土坑1基を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第2001号住居跡（第8・9図）

位置 調査区南西部のD9g5区，標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 西壁部は耕作による攪乱を受けているが，長軸3.21m，短軸3.02mの方形で，主軸方向はN - 14° - Wである。壁高は6～12cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり，壁際を除いて踏み固められている。壁下には，幅10～14cm，深さ6～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。床面には，焼土や炭化材が広がっている。

竈 北壁やや東寄りに付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで88cm，袖部幅92cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面を6cm掘りくぼめており，火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に24cm掘り込まれ，外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1 灰褐色 砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化物・ローム粒子中量	8 黒褐色 炭化物中量，ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量
2 灰褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量，炭化物・焼土粒子微量	9 灰褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3 にぶい赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量	10 灰褐色 砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
4 黒褐色 炭化物中量，ロームブロック・焼土粒子少量	11 灰黄褐色 砂質粘土粒子多量，焼土粒子少量
5 暗赤褐色 ロームブロック・焼土粒子少量	12 赤褐色 焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
6 暗赤褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量	13 にぶい赤褐色 ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
7 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量，ローム粒子・砂質粘土粒子少量	14 暗褐色 ローム粒子中量
	15 褐色 ローム粒子中量

ピット 2か所。P1は深さ34cmで，南壁際の中央部に位置していることや，硬化面の広がりから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P2の性格は不明である。

覆土 17層に分けられる。各層にロームブロックを多く含む人為堆積である。

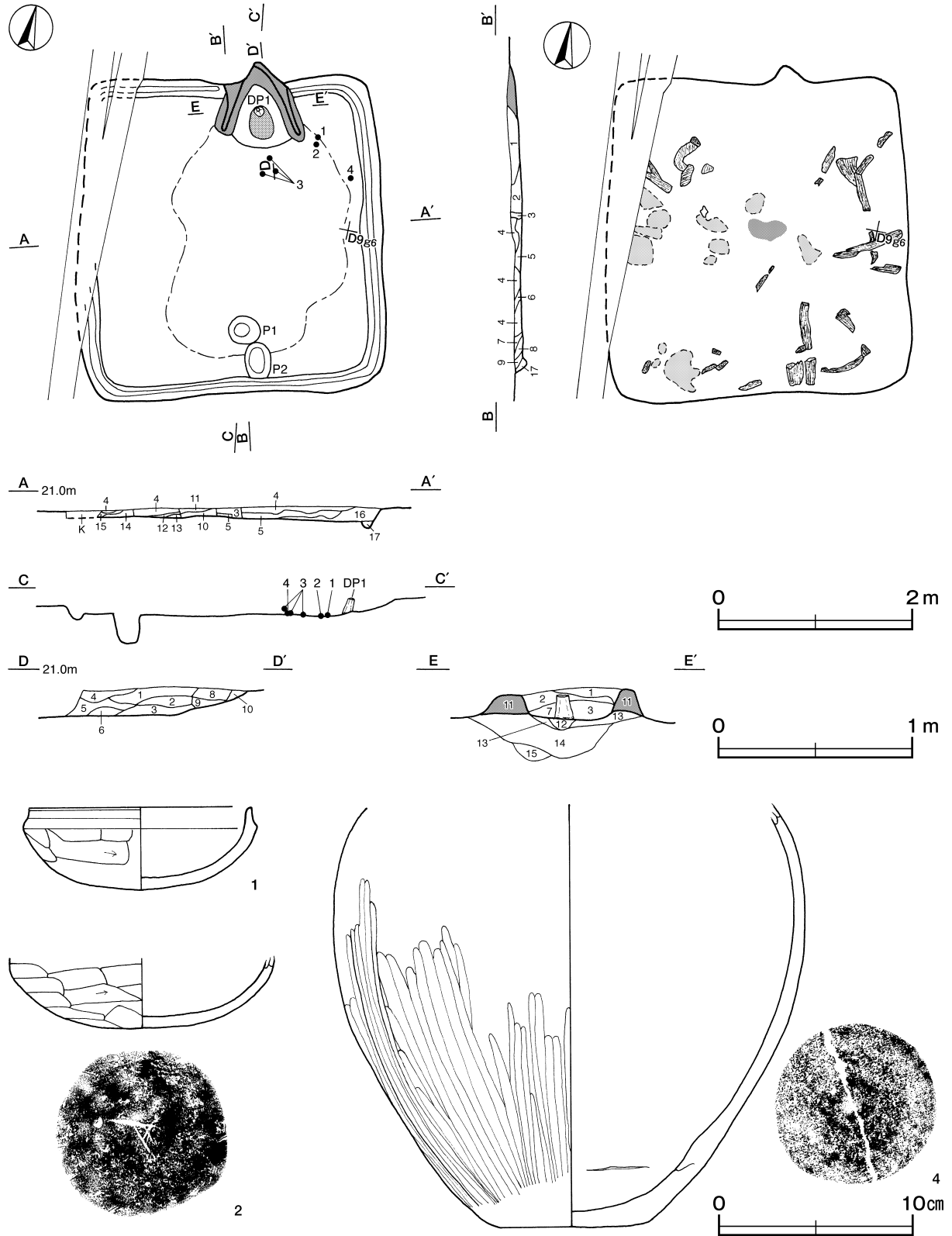
土層解説

1 極暗赤褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量	10 暗褐色 焼土ブロック・炭化物中量，ロームブロック少量
2 灰褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子少量	11 暗褐色 焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化物微量
3 灰褐色 砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量	12 極暗褐色 炭化物中量，ロームブロック少量
4 暗褐色 ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子微量	13 にぶい褐色 ロームブロック中量
5 暗褐色 炭化物中量，ローム粒子少量	14 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
6 褐色 ロームブロック中量	15 暗赤褐色 焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量
7 暗褐色 ロームブロック中量，炭化物微量	16 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量
8 褐色 ローム粒子中量，炭化物少量	17 暗褐色 ロームブロック少量，炭化物微量
9 極暗褐色 炭化粒子中量，ローム粒子少量	

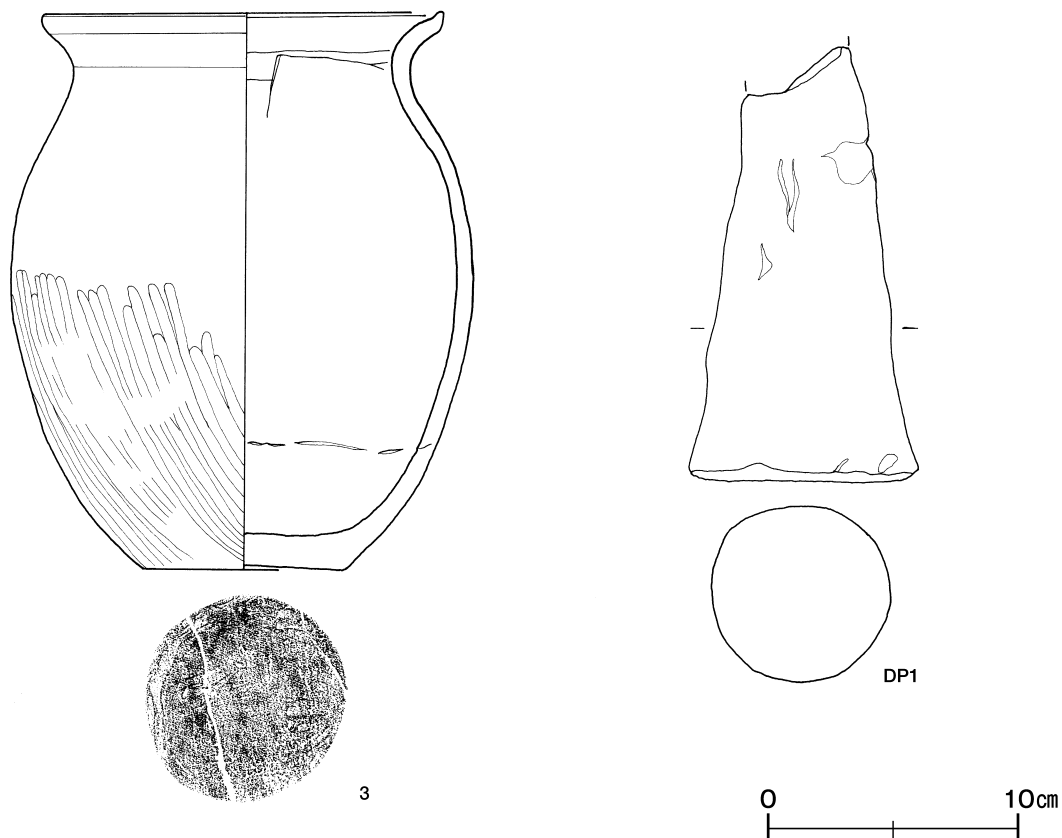
遺物出土状況 土師器片132点（坏43，高坏1，甕類88），須恵器片1点（坏），土製品1点（支脚）が出土している。1・2は右袖外側の床面から重なった状態でそれぞれ出土しており，遺棄されたものと考えられる。

3は竈付近の床面からつぶれた状態で、4は東壁際の床面からそれぞれ出土しており、廃棄されたものと考えられる。DP1は竈の火床部に据えられた状態で出土している。

所見 床面に焼土や炭化材の広がり方が確認されていることから、焼失住居と考えられる。時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第8図 第2001号住居跡・出土遺物実測図



第9図 第2001号住居跡出土遺物実測図

第2001号住居跡出土遺物観察表（第8・9図）

種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
1	土師器	坏	11.3	4.2	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	床面	95% PL151
2	土師器	坏	-	(3.5)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面へら削り 内面ナデ	床面	95%
3	土師器	甗	15.6	22.2	8.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら磨き 内面へらナデ 輪積痕 底部へら削り	床面	80%
4	土師器	甗	-	(21.7)	7.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へら磨き 内面へらナデ 輪積痕 底部へら削り	床面	50%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1	支脚	(17.3)	9.0	7.0	(846.5)	土(長石・石英)	ナデ にぶい橙色	竈火床面	PL189

第2002号住居跡（第10・11図）

位置 調査区南西部のD9e5区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2001号土坑に南東部のP2の部分が掘り込まれている。また、西部は耕作による攪乱を受けている。

規模と形状 長軸5.25m、短軸5.11mの方形で、主軸方向はN-30°-Wである。壁高は5~10cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり、中央部が踏み固められている。壁下には、幅18~20cm、深さ6~8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。左袖部は攪乱を受けて現存していないが、右袖部は砂質粘土で構築され、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

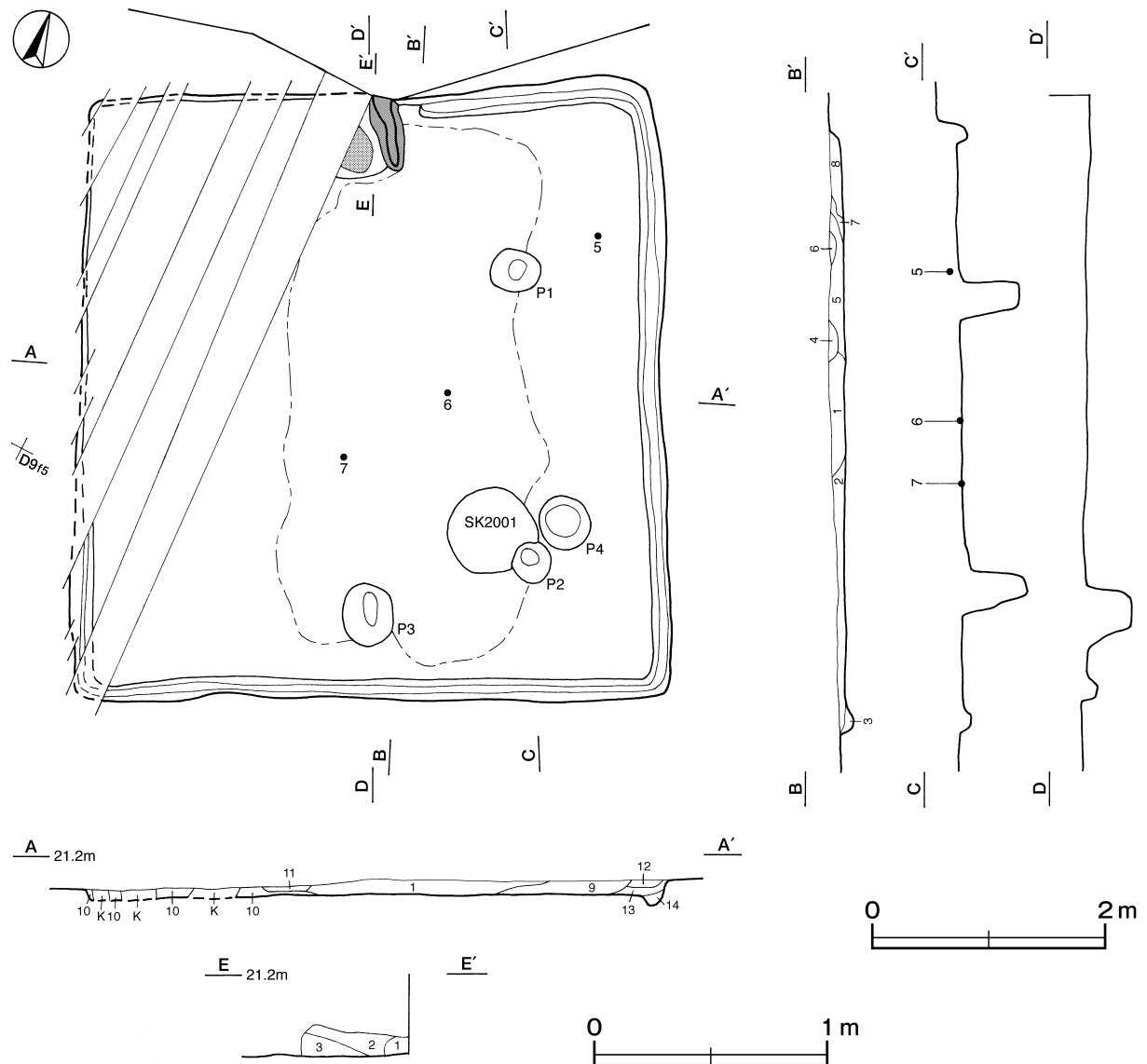
- | | | | |
|-------|--------------------------|----------|-------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量 | 3 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子微量 |
| 2 褐灰色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子少量 | | |

ピット 4か所。P1・P2は支柱穴で、深さは54・55cmである。西側部の柱穴については攪乱のため検出されていない。P3は深さ42cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P4の性格は不明である。

覆土 14層に分けられる。各層にロームブロックを多く含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------|---------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 9 褐色 | ロームブロック中量, 炭化物少量 |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子少量 | 10 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 4 灰褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック微量 | 12 極暗褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック少量 |
| 6 灰褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック微量 | 13 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 14 暗褐色 | ロームブロック中量 |



第10図 第2002号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片182点（坏38，甕類144）のほか，混入した灰釉陶器片2点も出土している。これらの遺物は各層から散在して出土しているが，7は中央部の床面から出土しており，住居廃絶時に遺棄されたと考えられる。6は中央部の床面から出土している。出土した土器のほとんどが細片であり，出土状況から住居廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられる。



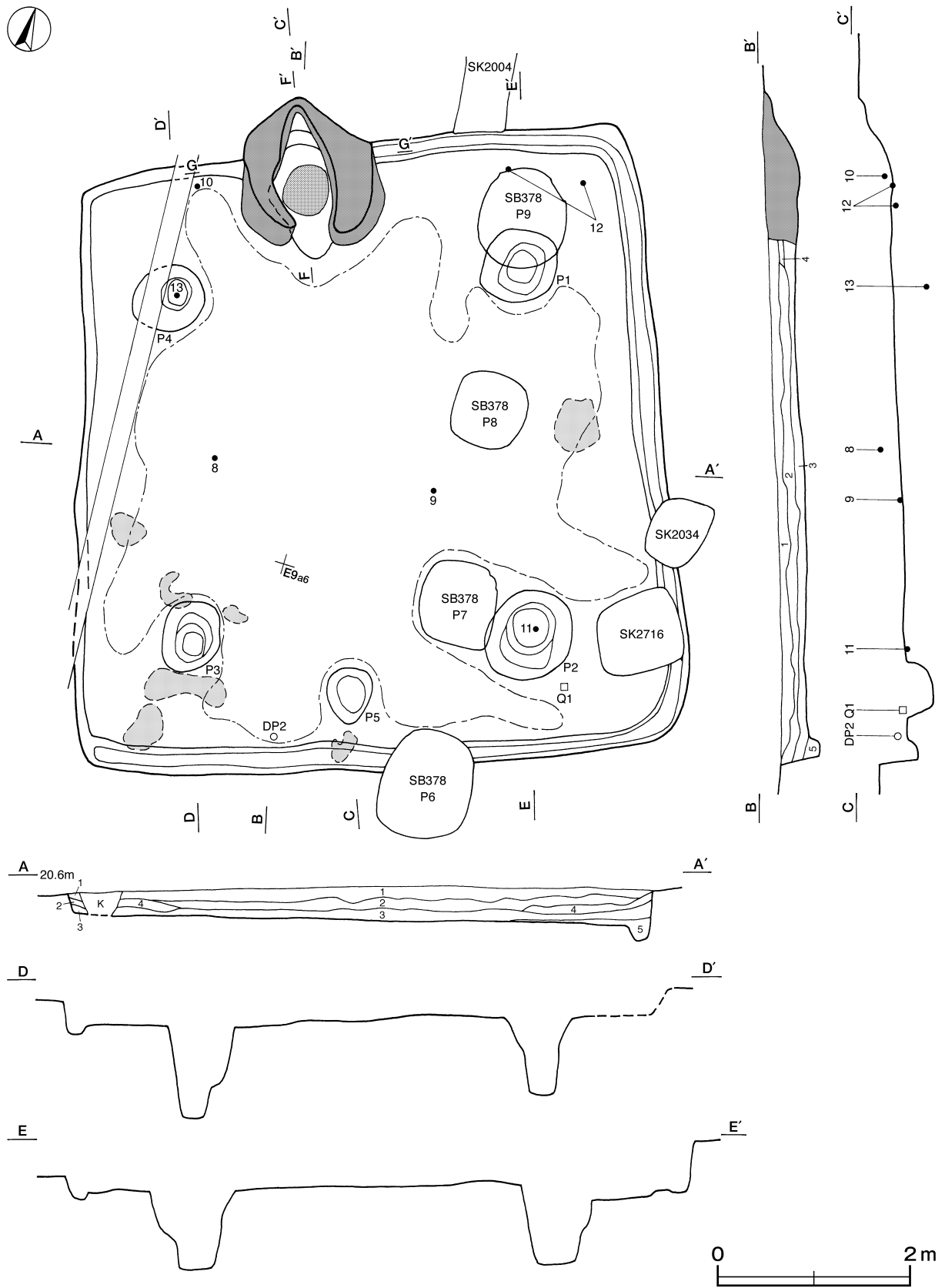
第11図 第2002号住居跡出土遺物実測図

第2002号住居跡出土遺物観察表（第11図）

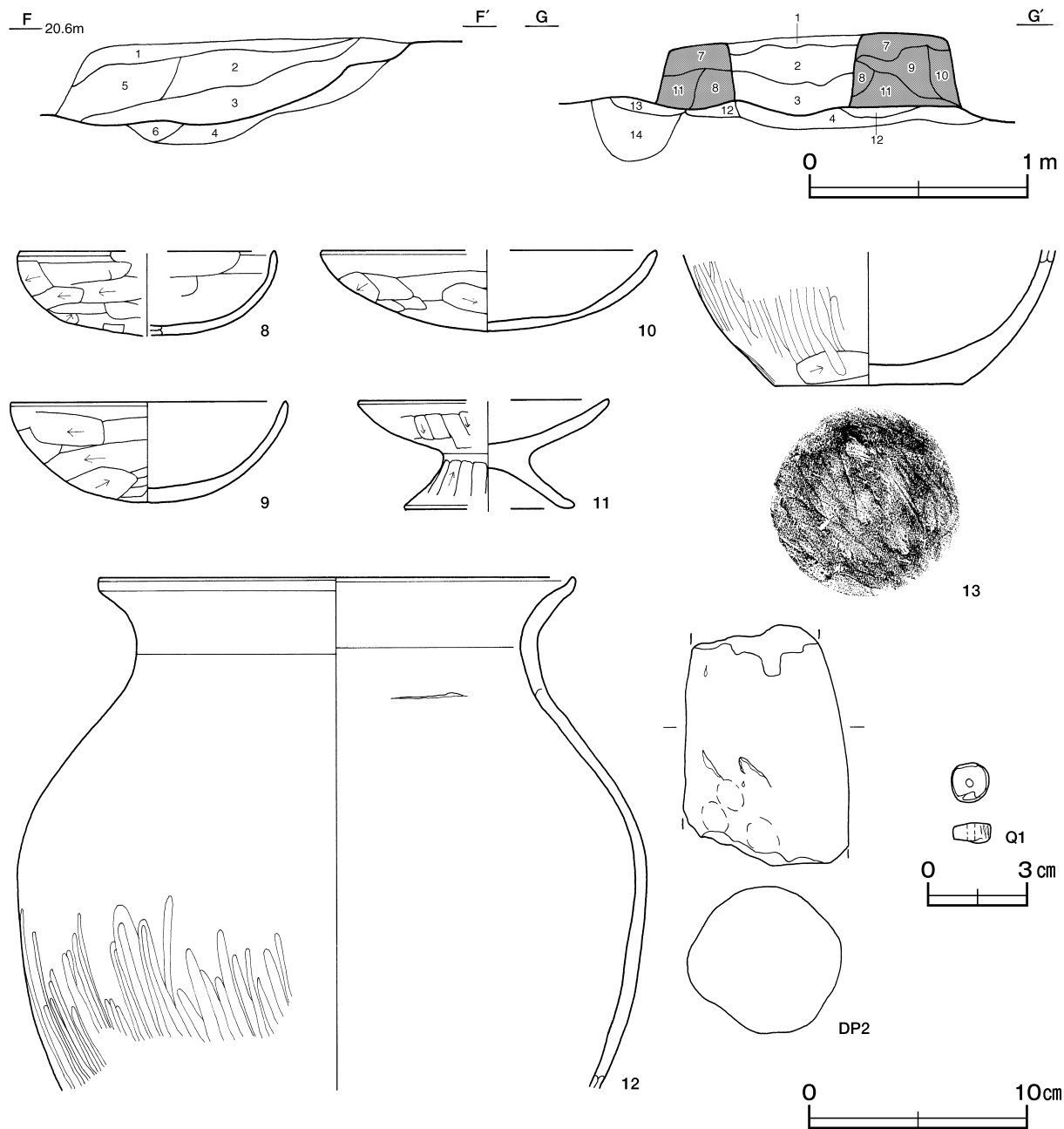
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
5	土師器	甕	-	(4.5)	[6.0]	石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面下端ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土下層	5%
6	土師器	甕	22.2	(30.5)	-	石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き	床面	40%
7	土師器	甕	[21.6]	(11.5)	-	長石・石英	明赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	床面	20%

第2004号住居跡（第12・13図）

位置 調査区南西部のD9j6区、標高20.5mほどの平坦な台地上に位置している。



第12図 第2004号住居跡実測図



第13図 第2004号住居跡・出土遺物実測図

重複関係 第378号掘立柱建物，第2004・2034・2716号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.32m，短軸6.04mの方形で，主軸方向はN - 22° - Wである。壁高は16～40cmで，壁はほぼ直立している。

床 ほぼ平坦であり，壁際を除いて踏み固められている。竈の東側から東・南壁の壁下には，幅10～18cm，深さ8～16cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。南西部を中心に，床面には焼土塊が広がっている。

竈 北壁やや西寄りに付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで166cm，袖部幅138cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面を8cm掘りくぼめており，火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に56cm掘り込まれ，外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1	褐色	ローム粒子中量, 焼土ブロック少量	7	灰褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量
2	灰褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量	8	暗赤褐色	焼土ブロック多量
3	暗赤褐色	焼土ブロック中量, 炭化物・ローム粒子少量	9	灰褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量
4	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子中量	10	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5	灰褐色	砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック少量	11	灰褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック・炭化粒子少量
6	にぶい赤褐色	焼土粒子多量, ローム粒子少量	12	暗褐色	炭化粒子・砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量
			13	褐色	砂質粘土粒子多量, ローム粒子・焼土粒子中量
			14	灰褐色	砂質粘土粒子多量, 炭化物・焼土粒子少量

ピット 5か所。P1～P4は支柱穴で、深さは80～96cmである。P5は深さ26cmで、南壁際の竈に向かい合う位置にあることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層に分けられる。ロームブロックや焼土ブロックを含む層が多いが、堆積状況から自然堆積である。

土層解説

1	褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量	4	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2	褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量	5	暗褐色	ローム粒子少量
3	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量			

遺物出土状況 土師器片815点(坏90, 高坏3, 甕類722), 須恵器片63点(坏1, 甕類62), 土製品1点(支脚), 石製品1点(白玉)が出土している。9は中央部の床面, 10は竈西の北壁側の床面から出土しており、遺棄されたものと考えられる。11はP2, 13はP4の覆土からそれぞれ出土しており、廃棄されたものと考えられる。12は北東コーナー部の床面から出土した破片が接合したものである。DP2は南壁際の覆土下層, Q1は南東部の床面からそれぞれ出土している。

所見 床面から焼土塊が検出されており焼失住居と考えられる。時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。

第2004号住居跡出土遺物観察表(第13図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
8	土師器	坏	[11.7]	3.9	-	石英・雲母・赤色粒子	黒褐色	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へらナデ	覆土中層	70%
9	土師器	坏	12.6	4.6	-	石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	床面	70%
10	土師器	坏	[15.4]	3.6	-	雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	床面	60%
11	土師器	高坏	[11.4]	5.0	[7.6]	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 坏部外面へら削り 内面ナデ 脚部外面へら削り 内面ナデ	P2覆土	50%
12	土師器	甕	21.8	(23.3)	-	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら磨き 内面へらナデ 輪積痕	床面	40%
13	土師器	甕	-	(6.1)	8.5	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面へら磨き 下端へら削り 体部内面へらナデ 底部へら削り	P4覆土	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP2	支脚	(10.9)	(7.6)	6.6	(443.6)	土(長石・石英)	ナデ 指頭痕 被熱痕有り にぶい橙色	覆土下層	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	白玉	1.2	0.6	0.2	1.2	滑石	円筒状 両面研磨 一方向からの穿孔	床面	

第2007号住居跡(第14・15図)

位置 調査区南西部のD9c8区, 標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第370・376号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.78m, 短軸2.68mの方形で、主軸方向はN-1°-Wである。壁高は48～62cmで、壁はほぼ直立している。

床 ほぼ平坦であり、壁際を除いて踏み固められている。壁下には、幅8～12cm, 深さ6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されているが、第370号掘立柱建物のP10によって掘り込まれているため全体の形状は不明であるが、袖部幅90cmほどである。袖部は床面とほぼ同じ高さを基部として砂質粘土で構築されている。火床部は床面を浅く皿状に掘りくぼめており、火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

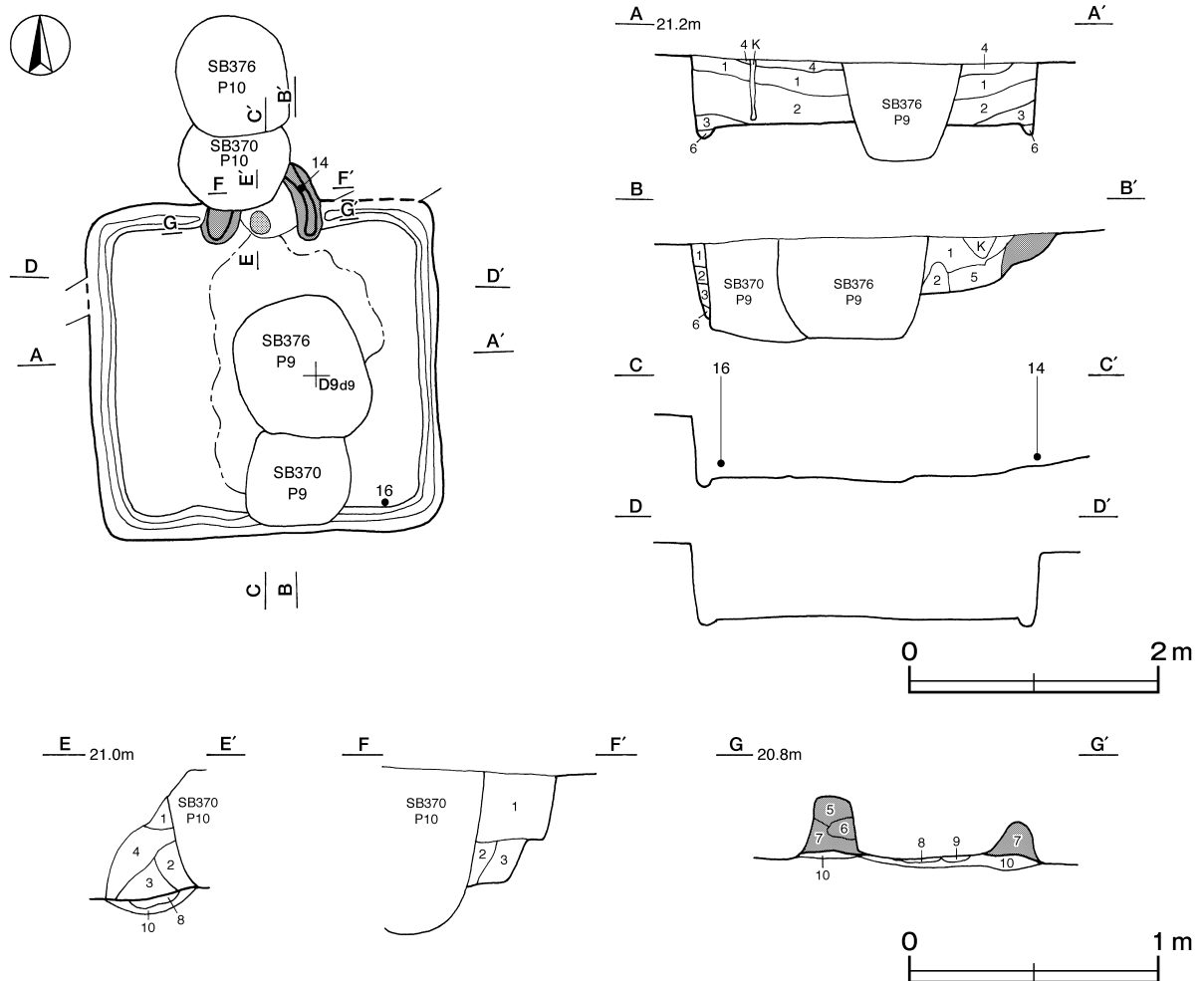
- | | | | |
|---------|-----------------------------|-------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量,炭化物微量 | 6 赤灰色 | 焼土ブロック中量,ロームブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 2 にぶい褐色 | ロームブロック中量,焼土ブロック少量,炭化物微量 | 7 赤褐色 | 砂質粘土粒子多量,焼土ブロック・炭化物中量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量,ロームブロック・砂質粘土粒子少量 | 8 褐灰色 | 焼土ブロック中量,ロームブロック少量 |
| 4 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量,ロームブロック少量,焼土ブロック微量 | 9 黒褐色 | 炭化物中量,ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 5 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量,焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量 | 10 褐色 | ローム粒子多量 |

覆土 6層に分けられる。各層にロームブロックを含むが、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

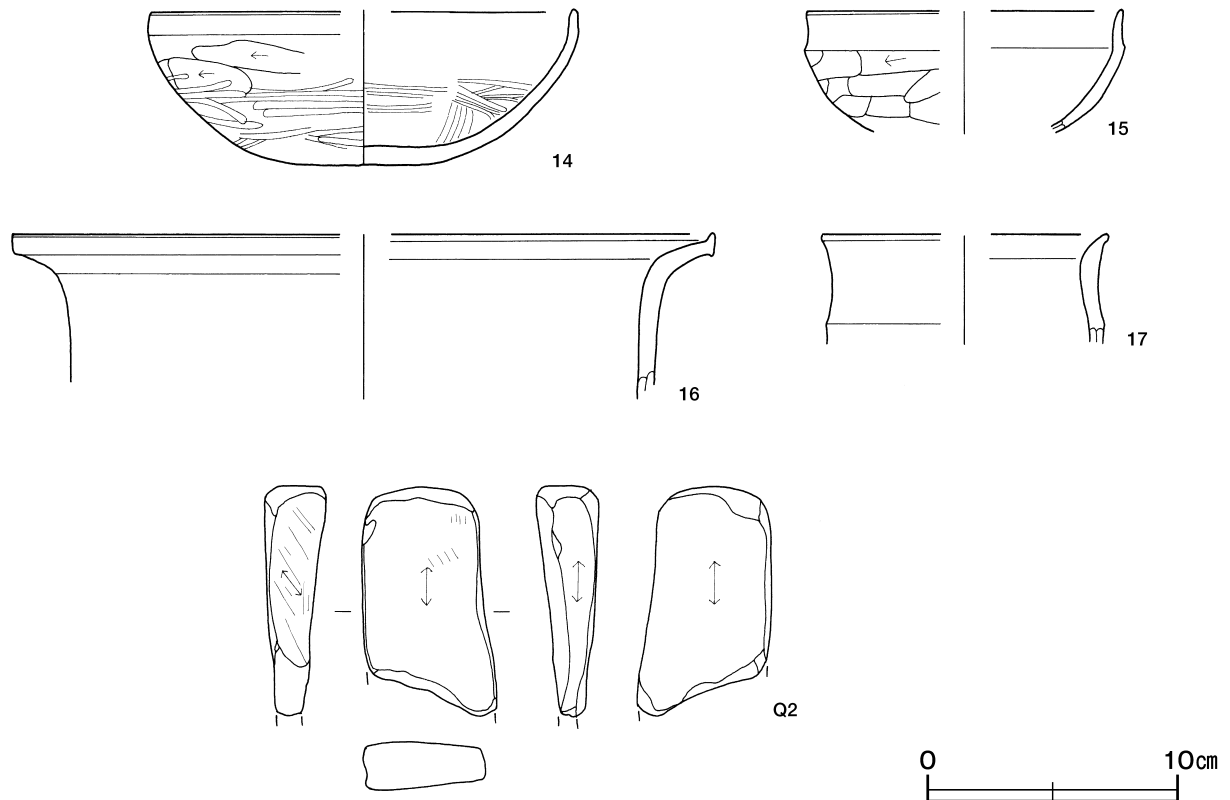
- | | | | |
|-------|-----------------|-------|-------------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量,炭化物少量 | 4 灰褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片198点(坏41,甕類157),須恵器片4点(坏),石器1点(砥石)のほか,混入した陶器片1点も出土している。14は竈の右袖部から出土し,袖部の補強材として使用されていたとも考えられるが,明確ではない。16は南東コーナー部の覆土下層,17・Q2は覆土下層からそれぞれ出土しており,住居廃絶後に廃棄されたものと考えられる。



第14図 第2007号住居跡実測図

所見 床面積7.5㎡ほどの小形住居で、ピットが確認されていない。時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第15図 第2007号住居跡出土遺物実測図

第2007号住居跡出土遺物観察表（第15図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
14	土師器	坏	[16.8]	6.1	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り後へラ磨き 内面へラ磨き	竈袖部内	60%
15	土師器	坏	[12.6]	(4.8)	-	雲母・赤色粒子	黒褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土中層	20%
16	土師器	甕	[28.0]	(6.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部内面へラナデ	覆土下層	5%
17	土師器	甕	[11.4]	(4.3)	-	石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ	覆土下層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q2	砥石	(9.1)	5.4	2.5	(130.4)	凝灰岩	砥面4面 断面長方形	覆土下層	

第2009号住居跡（第16・17図）

位置 調査区西部のC 9 e9区，標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 東部分を南北方向に第113号溝が掘り込んでいる。

規模と形状 南北軸は5.80m，東西軸は2.48mだけが確認された。形状は方形または長方形と考えられ，主軸方向はN - 10° - Wである。壁高は4～9cmで，外傾して立ち上がっている。

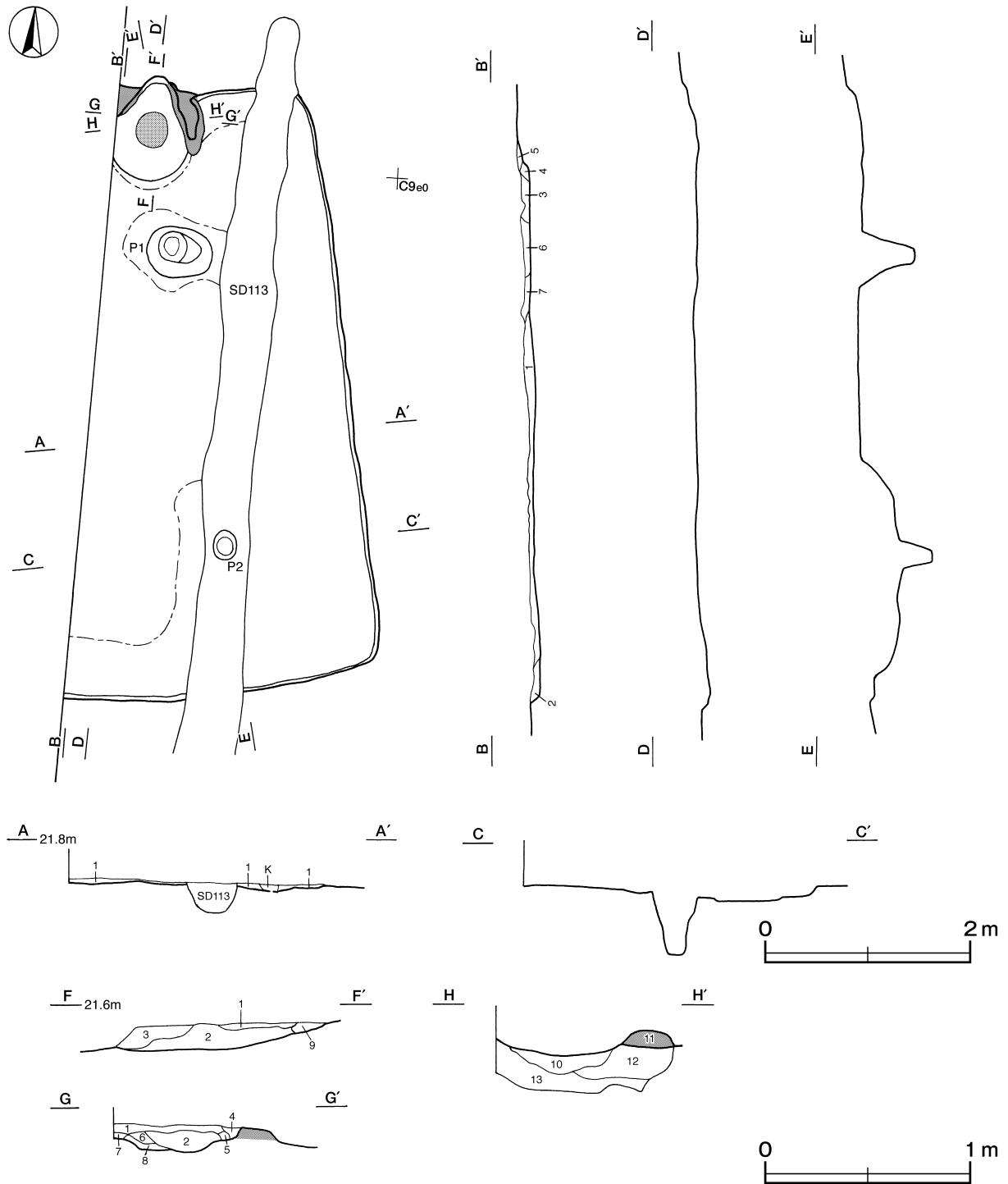
床 ほぼ平坦であり，壁際を除いて踏み固められている。

竈 北壁やや東寄りに付設されているが，左袖部は区域外である。規模は，焚口部から煙道部まで102cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面を浅く皿状に掘りくぼめており，火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に24cm掘り込まれ，外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------|-------------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 8 赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子少量 |
| 2 赤褐色 焼土粒子多量, 砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 | 9 にぶい赤褐色 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 3 暗赤褐色 ロームブロック・炭化物少量 | 10 赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量, 砂質粘土粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | 11 明褐灰色 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子微量 |
| 5 灰褐色 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量 | 12 褐灰色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 6 灰白色 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子微量 | 13 にぶい褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 7 黒褐色 炭化物中量, ローム粒子・焼土粒子少量 | |

ピット 2か所。主柱穴で、深さは58cm~60cmである。



第16図 第2009号住居跡実測図

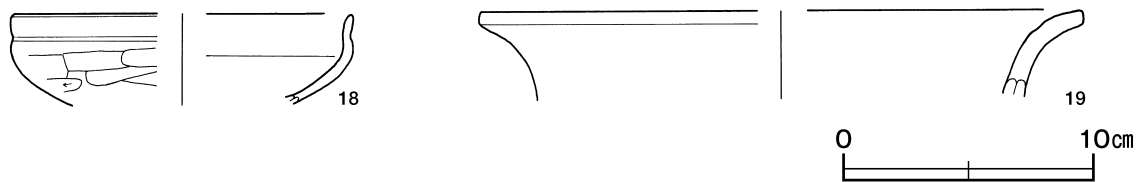
覆土 7層に分けられる。各層にロームブロックや砂質粘土を含んだ堆積状況を示していることから、人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|-------|---------------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 6 灰褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量，焼土ブロック微量 |
| 3 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 7 黒褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片43点（坏8，高坏2，甕類33）が出土している。細片が多く，18・19はいずれも覆土上層から出土しているため，投棄されたものと考えられる。

所見 竈の前面に支柱穴が確認されており，特徴的である。住居の東部が確認されただけで出土遺物の数も少ないため時期の特定が難しいが，時期は，出土土器と住居の主軸方向から7世紀代と考えられる。



第17図 第2009号住居跡出土遺物実測図

第2009号住居跡出土遺物観察表（第17図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
18	土師器	坏	[13.4]	(3.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土上層	5%
19	土師器	甕	[24.0]	(3.5)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ	覆土上層	5%

第2010号住居跡（第18・19図）

位置 調査区南西部のD9 d6区，標高21mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2013・2015住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.54m，短軸3.96mの長方形で，主軸方向はN - 97° - Eである。壁高は12～26cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部から南壁際にかけて踏み固められている。南側の壁下には，幅12～20cm，深さ6～10cmで，U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 東壁中央部の南寄りに付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで94cm，袖部幅98cmである。袖部はローム土混じりの粘土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に34cm掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | | |
|--------|-------------------------|--------------------|-----------------------|-------------------------|
| 1 褐色 | 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量，ロームブロック微量 | 9 暗赤褐色 | 炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量 | 10 灰黄褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量 | |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量 焼土ブロック微量 | 11 にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量 | |
| 4 赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 12 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子微量 | |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック中量 | |
| 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量，ロームブロック微量 | 14 褐色 | ロームブロック中量 | |
| 7 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 15 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | |
| 8 赤褐色 | 焼土ブロック中量，ローム粒子少量 | 16 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | |

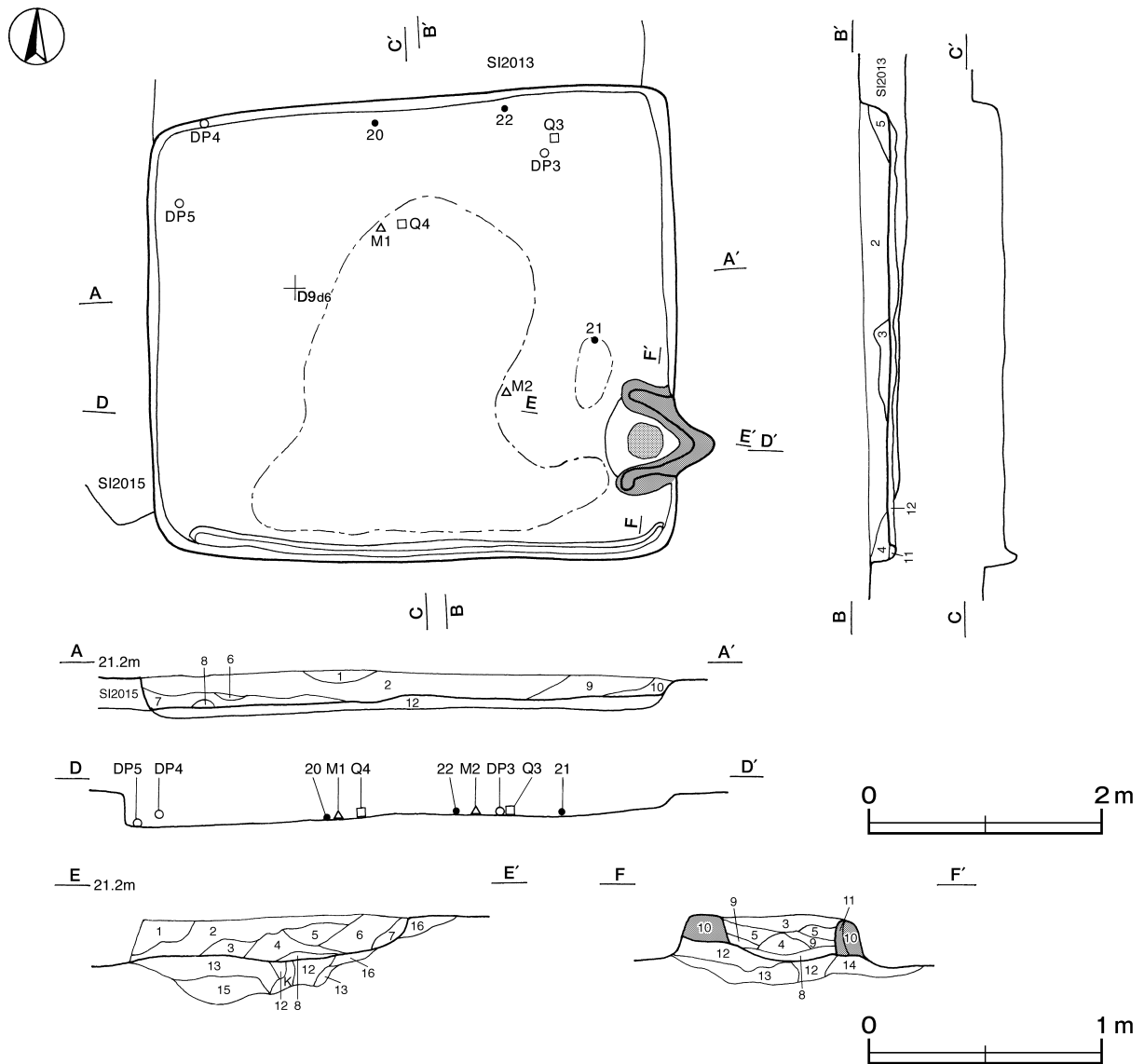
覆土 12層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

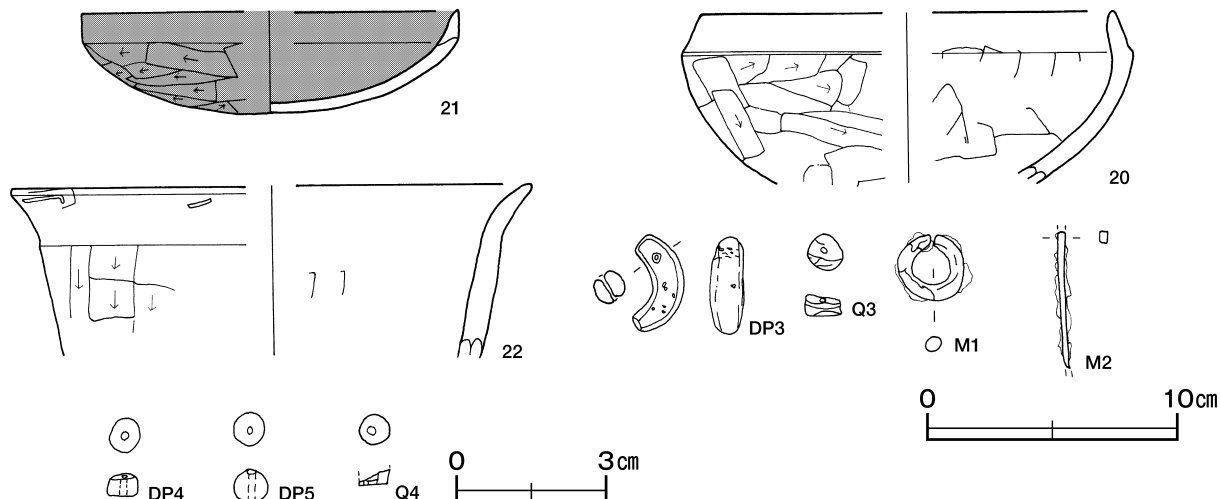
- | | | | |
|--------|--------------------------------|----------|----------------------------|
| 1 極暗褐色 | 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化物・砂質粘土ブロック微量 | 7 灰褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 砂質粘土ブロック微量 | 8 灰褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化物微量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 10 にぶい褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 11 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 極暗褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片960点(坏176, 高坏1, 甕類783), 土製品2点(小玉), 石製品2点(白玉), 鉄器・鉄製品2点(耳環, 鎌)のほか, 流れ込んだ縄文土器片1点, 混入した須恵器片9点も出土している。20・22は北壁際の床面, 21は竈付近の覆土下層からそれぞれ出土し, 時期判定の指標となる遺物である。DP4・DP5は北東コーナー際の覆土中層から下層, DP3とQ3は北壁寄りの床面と覆土下層からそれぞれ出土し, いずれも住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。M1・M2は中央部の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から7世紀後葉と考えられる。



第18図 第2010号住居跡実測図



第19図 第2010号住居跡出土遺物実測図

第2010号住居跡出土遺物観察表（第19図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
20	土師器	坏	[16.4]	(6.7)	-	長石・石英・雲母・礫	にぶい黄褐色	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り後ナデ 内面へらナデ	床面	25%
21	土師器	坏	[15.0]	4.0	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	覆土下層	25%
22	土師器	甌	[20.8]	(6.7)	-	長石	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面縦位のへら削り 内面へらナデ	床面	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP3	勾玉	3.7	1.3	1.2	8.0	土（長石）	孔径0.2cm ナデ 二方向の穿孔	床面	PL190

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP4	小玉	0.6	0.4	0.1	0.3	土（長石）	ナデ 一方向の穿孔	覆土中層	PL190
DP5	小玉	0.7	0.6	0.1	0.3	土（長石）	ナデ 一方向の穿孔	覆土下層	PL190

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q3	白玉	1.4	0.8	0.24	2.2	滑石	側面円筒状 一方向の穿孔	覆土下層	PL194
Q4	白玉	0.6	(0.3)	0.1	(0.1)	滑石	側面円筒状 一方向の穿孔	覆土下層	

番号	器種	長径	短径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	耳環	2.5	2.6	0.6	9.0	鉄	環状で開口部あり	床面	PL196

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M2	鎌カ	(5.4)	0.3	0.5	(2.4)	鉄	茎部のみ残存 断面長方形	床面	

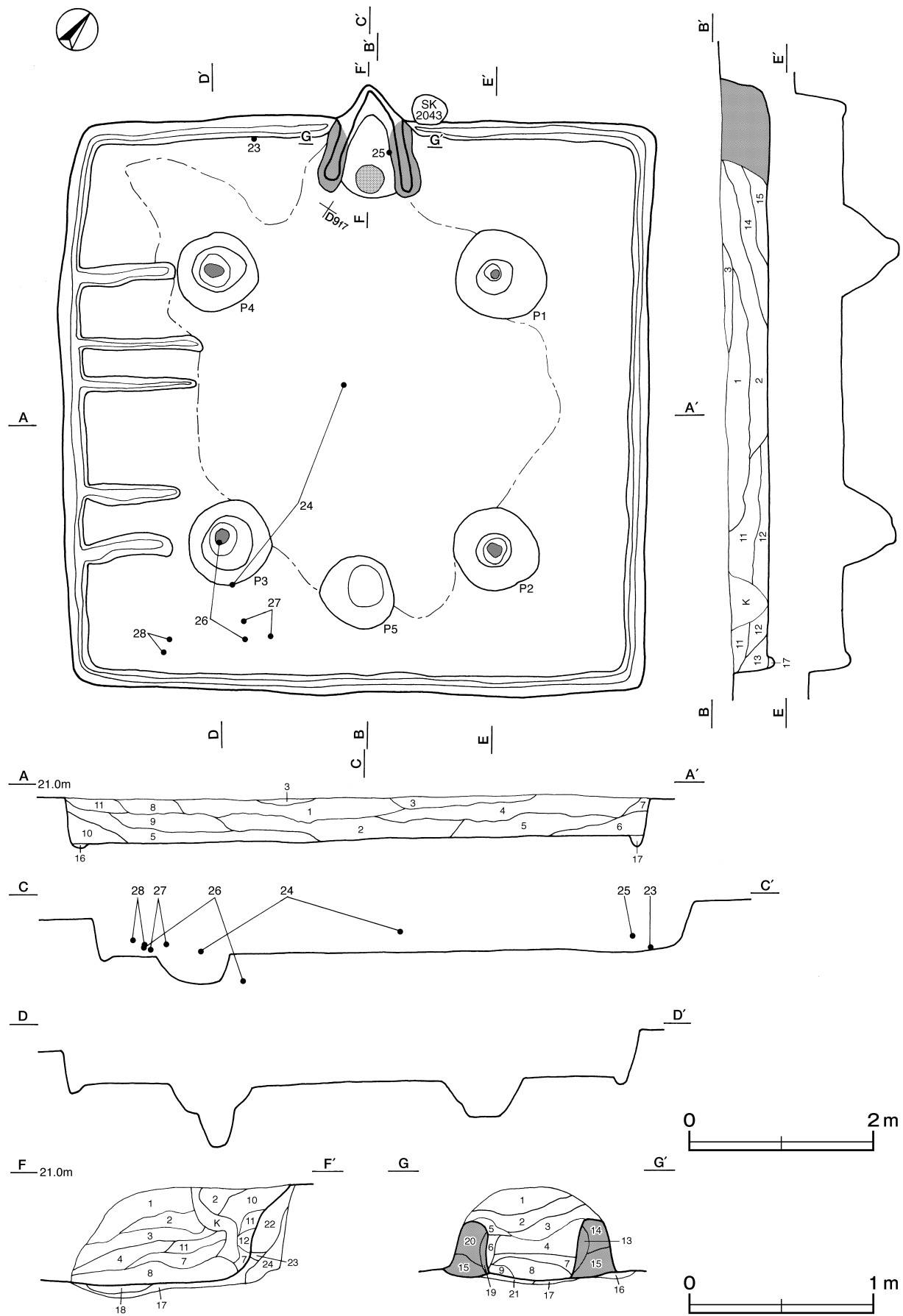
第2011号住居跡（第20・21図）

位置 調査区南西部のD9f7区，標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

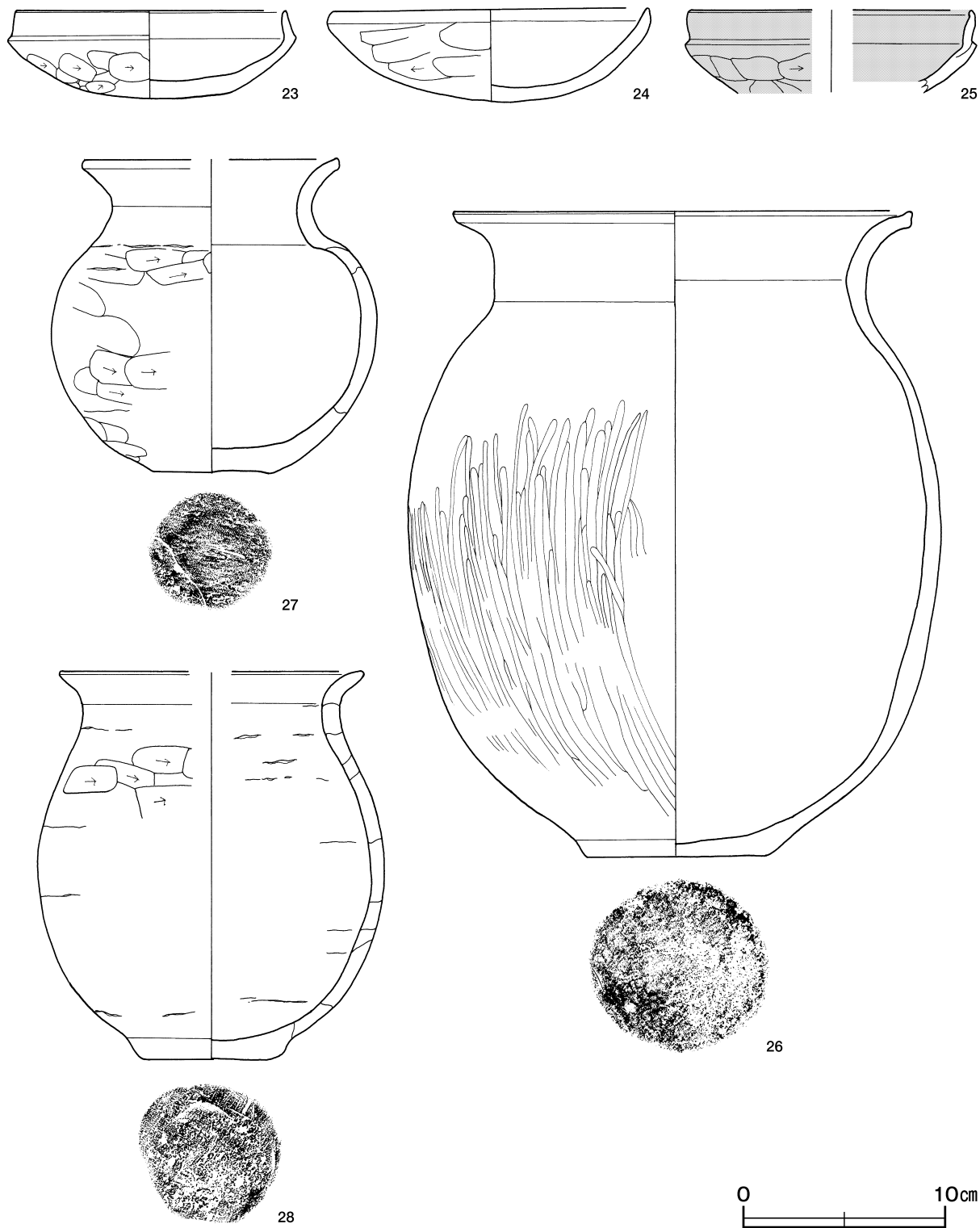
重複関係 第2043号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.34m，短軸6.21mの方形で，主軸方向はN-34°-Wである。壁高は32～52cmで，壁はほぼ直立している。

床 ほぼ平坦であり，壁際を除いて踏み固められている。壁下には，幅14～18cm，深さ5～12cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。また，幅12～18cm，深さ5～8cmの間仕切り溝が西壁側で5条確認され，断面形はU字状を呈している。



第20图 第2011号住居跡実測图



第21図 第2011号住居跡出土遺物実測図

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで126cm，袖部幅112cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さを基部とし、砂質粘土で構築されている。火床部は床面を浅く皿状に掘りくぼめており、火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に40cmほど掘り込まれ、外傾して直立ぎみに立ち上がっている。

竈土層解説

1 灰黄褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量	12 灰黄褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
2 褐灰色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量	13 赤褐色	焼土粒子多量, 砂質粘土粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子中量	14 灰黄褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
4 暗赤褐色	焼土ブロック中量, 灰少量, ローム粒子微量	15 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量
5 灰黄褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量	16 極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
6 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量, 砂質粘土粒子少量	17 褐色	ローム粒子少量
7 にぶい黄褐色	炭化材・焼土ブロック・ローム粒子・灰少量	18 赤褐色	焼土粒子多量
8 灰白色	灰多量, 焼土ブロック少量	19 にぶい赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量
9 灰赤色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	20 灰黄褐色	砂質粘土粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
10 灰黄褐色	砂質粘土粒子中量, 炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量	21 褐色	炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量
11 黒褐色	炭化粒子中量, ローム粒子・砂質粘土粒子少量	22 灰黄褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
		23 赤黒色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
		24 にぶい赤褐色	焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量

ピット 5か所。P1～P4は支柱穴で、深さは42～69cmである。P5は深さ36cmで、南壁際の中央部に位置していることや、硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 17層に分けられる。各層にロームブロックを多く含む人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量	10 暗褐色	ロームブロック中量
2 黒褐色	ローム粒子少量, 炭化物微量	11 にぶい黄褐色	ローム粒子多量
3 にぶい黄褐色	ローム粒子中量, 焼土ブロック少量	12 暗褐色	ローム粒子中量
4 灰黄褐色	砂質粘土粒子多量, ロームブロック中量, 焼土ブロック少量	13 にぶい黄褐色	ローム粒子中量
5 褐色	ロームブロック中量	14 黒褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ロームブロック・炭化物微量
6 にぶい黄褐色	ローム粒子中量	15 灰黄褐色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量
7 暗褐色	ロームブロック少量	16 褐色	ロームブロック多量
8 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量	17 灰黄褐色	ローム粒子中量
9 にぶい黄褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量		

遺物出土状況 土師器片966点(坏148, 高坏1, 甕類817), 須恵器片11点(坏1, 甕類10), 土製品1点(支脚), 鉄製品1点(不明), 種子類2点(不明), 炭化種子1点(不明)が北部を中心に全体から出土している。また、流れ込んだ縄文土器片7点と、混入した灰釉陶器片1点も出土している。23は北壁際床面から出土しており、遺棄されたものと考えられる。25は竈内, 24は中央部の覆土中層から床面, 26は覆土下層とP3の覆土からそれぞれ出土している。27・28は南西部の覆土中層から下層にかけて出土していた破片が接合したものである。北部に遺物が多く出土している状況から、住居廃絶時に伴い廃棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器や住居の形態から6世紀後葉と考えられる。

第2011号住居跡出土遺物観察表(第21図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
23	土師器	坏	13.2	4.3	-	粘土・石英・赤色粒子・黒	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	98% PL151
24	土師器	坏	15.5	4.5	-	粘土・石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土中層・床面	95%
25	土師器	坏	[13.8]	[4.1]	-	石英	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	竈袖部中層	10%
26	土師器	甕	22.8	31.8	8.8	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ磨き 内面ナデ 底部へラ削り	覆土下層・P3覆土	80% PL180
27	土師器	甕	[12.4]	15.4	5.9	雲母・赤色粒子	灰黄	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 輪積痕 内面へラナデ 底部へラ削り	覆土中層・覆土下層	90%
28	土師器	甕	[14.7]	19.1	7.2	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ 輪積痕 底部へラ削り	覆土中層・覆土下層	40%

第2012号住居跡(第22・23図)

位置 調査区南西部のD9g6区, 標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 北壁の一部を第2027号土坑, 南壁の一部を第2026・2028号土坑に掘り込まれ, 中央部は南北方向の耕作による攪乱を受けている。

規模と形状 長軸4.12m，短軸3.98mの方形で，主軸方向はN - 45° - Wである。壁高は6～17cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，壁際を除いた北西部と南東部が踏み固められている。壁下には，幅10～18cm，深さ8～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

炉 中央部やや北寄りに位置し，長径60cm，短径52cmの楕円形である。床面を浅く皿状に掘りくぼめた地床炉で，炉床面は赤変硬化している。

炉土層解説

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| 1 赤褐色 焼土ブロック中量，ローム粒子微量 | 3 赤褐色 焼土粒子中量，ローム粒子少量 |
| 2 にぶい赤褐色 焼土粒子中量，ローム粒子微量 | |

貯蔵穴 南東コーナー部に位置している。長径45cm，短径42cmの円形で，深さは29cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がり，覆土は自然堆積の状況を示している。

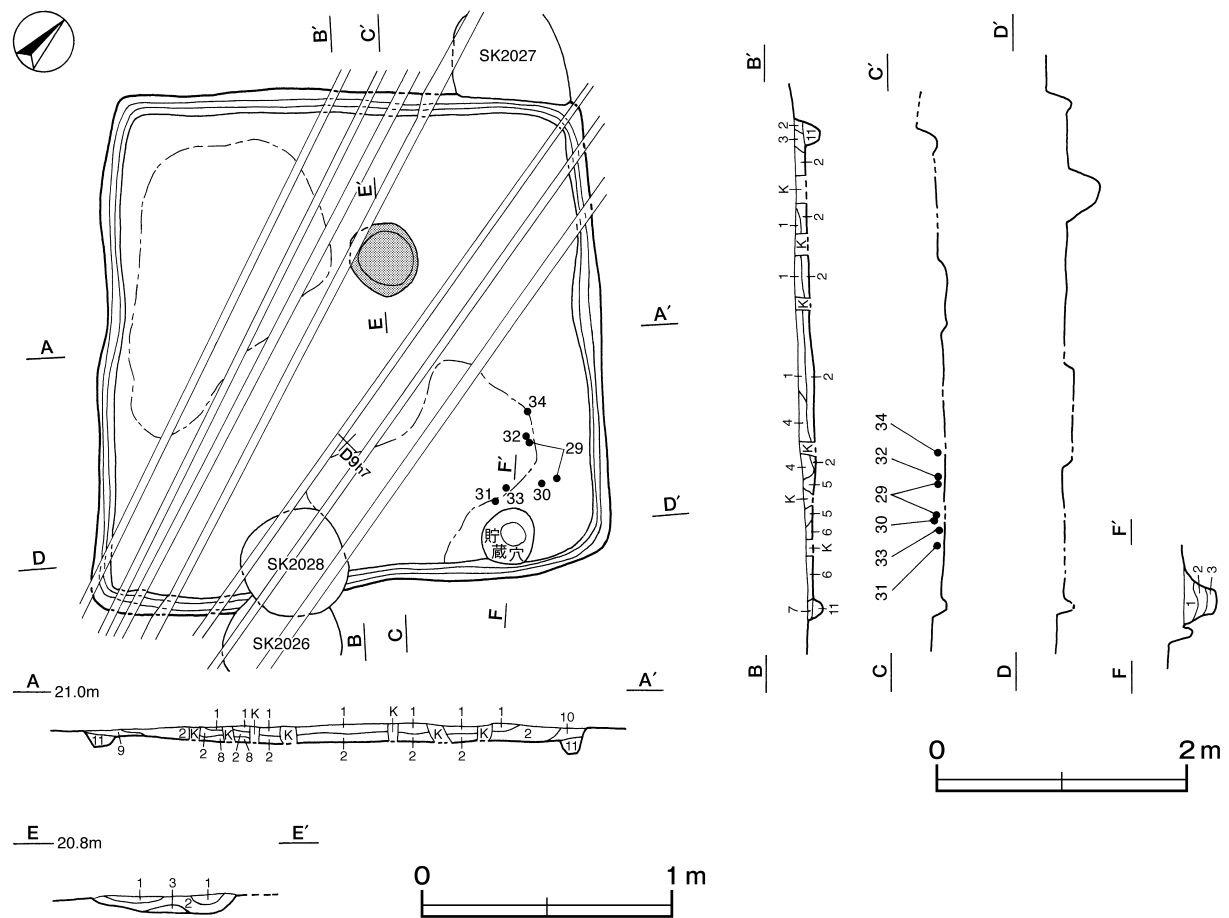
貯蔵穴土層解説

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 3 極暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 | |

覆土 11層に分けられる。全体的に焼土粒子や炭化粒子を含んでいるが，堆積状況から自然堆積である。

土層解説

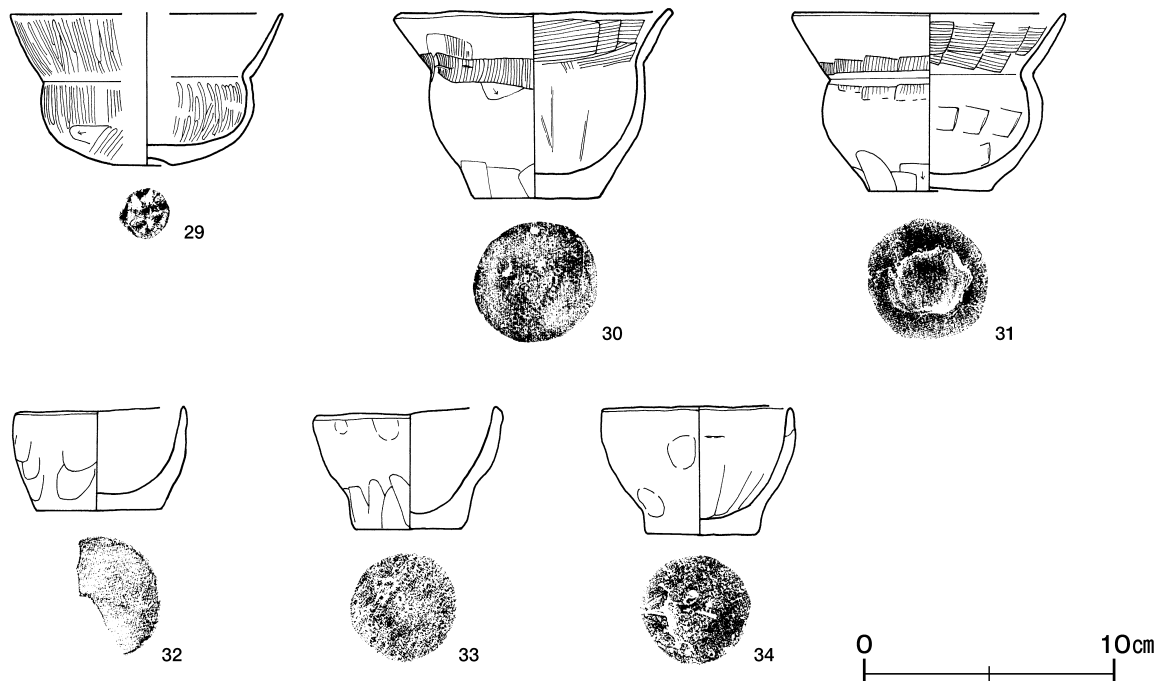
- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子微量 | 8 褐色 ローム粒子中量 |
| 3 褐色 ローム粒子少量 | 9 褐色 ローム粒子中量，焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | 10 褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 11 褐色 ロームブロック少量 |
| 6 暗褐色 焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量 | |



第22図 第2012号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片41点（坏2，埴4，甕類23，甑4，手捏土器8）が出土している。29は東コーナーの覆土下層から出土した破片が接合したものである。南東部の貯蔵穴の周辺からの出土が多く、住居廃絶時に伴い廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器や住居形態から5世紀前半と考えられる。



第23図 第2012号住居跡出土遺物実測図

第2012号住居跡出土遺物観察表（第23図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
29	土師器	埴	[10.8]	6.0	2.0	石英	明赤褐	普通	口辺部外面へら磨き 内面へらナデ 体部内外面へら磨き 底部に凹み有り	覆土下層	50% PL172
30	土師器	埴	10.8	7.6	5.1	長石・石英・雲母・白色粒子	橙	普通	口辺部外面横ナデ 内面ハケ目調整 頸部ハケ目調整 体部外面ナデ 下端へら削り 内面へらナデ	覆土下層	70% PL172
31	土師器	埴	10.8	7.1	4.8	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部外面横ナデ 内面ハケ目調整 頸部ハケ目調整 体部外面ナデ 下端へら削り 内面へらナデ	覆土下層	70% PL172
32	土師器	手捏土器	6.7	4.1	5.0	長石・石英・小礫	にぶい黄橙	普通	体部外面へら削り後ナデ 内面ナデ 底部へら削り	覆土下層	90% PL168
33	土師器	手捏土器	7.2	4.9	4.3	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面ナデ 下端へら削り 指頭痕 内面ナデ 底部へら削り	覆土下層	100% PL168
34	土師器	手捏土器	7.6	5.1	4.4	石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ナデ 指頭痕 内面へらナデ 輪襷痕 底部へら削り	覆土下層	80%

第2013号住居跡（第24・25図）

位置 調査区南西部のD9 d6区，標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2015号住居跡を掘り込み，第2010号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.55m，短軸4.09mの長方形と推定され，主軸方向はN - 3° - Wである。壁高は39cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり，壁際を除いた南部中央が踏み固められている。北壁と西壁の一部以外の壁下には，幅14～16cm，深さ7～9cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

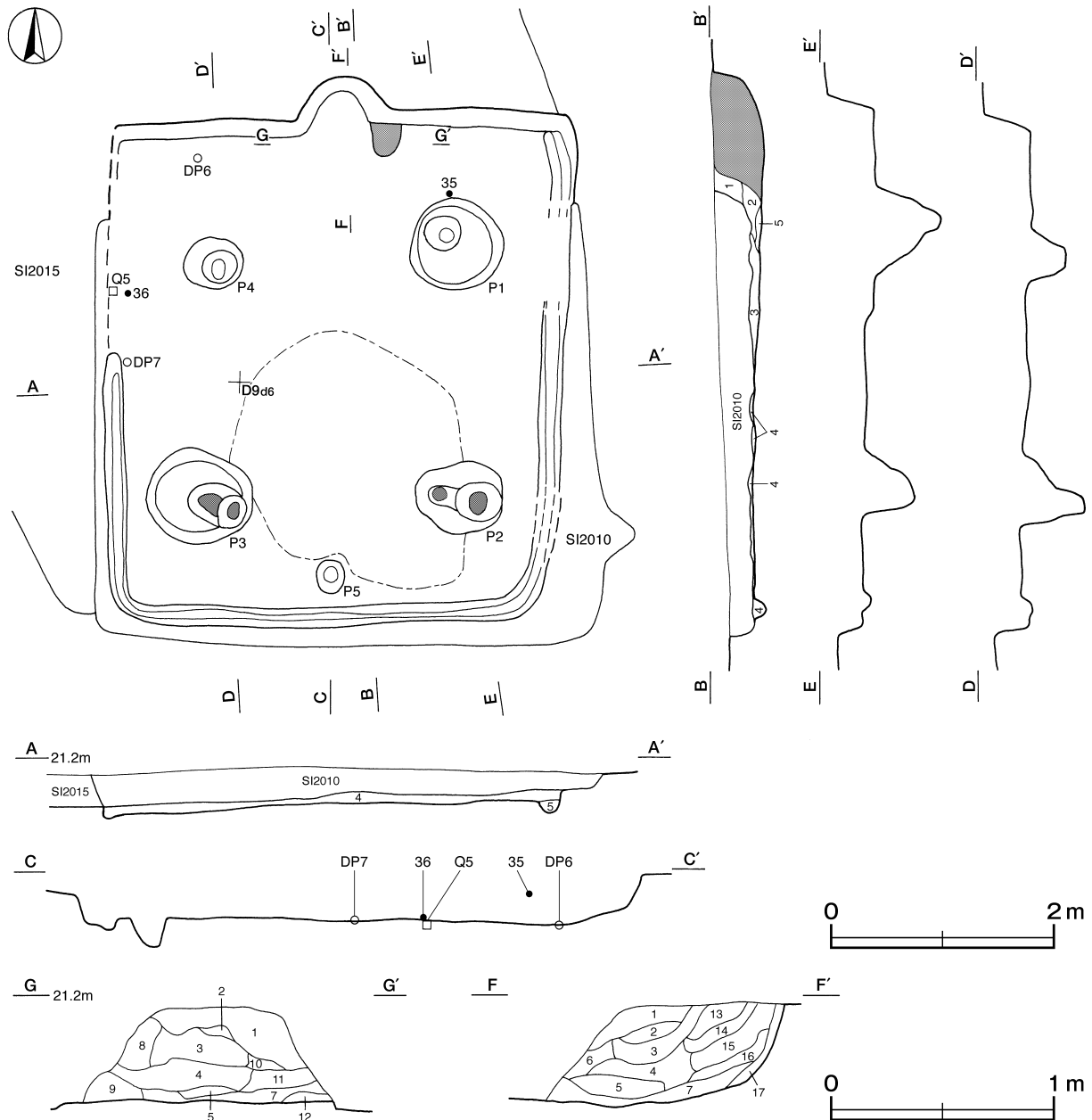
竈 北壁中央部に付設されている。袖部は明確でないが，覆土の状況から砂質粘土で構築されたと推定される。煙道部は壁外に26cm掘り込まれ，外傾して直立ぎみに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|---------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 11 灰褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量 |
| 3 褐灰色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ロームブロック微量 | 12 灰褐色 | ロームブロック・炭化物少量, 砂質粘土粒子微量 |
| 4 極暗褐色 | 炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 13 赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化物・ローム粒子少量 |
| 5 赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子少量 | 14 赤褐色 | 焼土粒子多量, ローム粒子少量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 15 赤黒色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 7 黒褐色 | 焼土粒子少量, ロームブロック微量 | 16 褐灰色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 8 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 17 極暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 9 暗褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ロームブロック微量 | | |

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で、深さは32～60cmである。P5は深さ25cmで、竈に対峙する位置にあることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層に分けられる。第2010号住居に覆土の大部分を掘り込まれているが、堆積状況から自然堆積である。



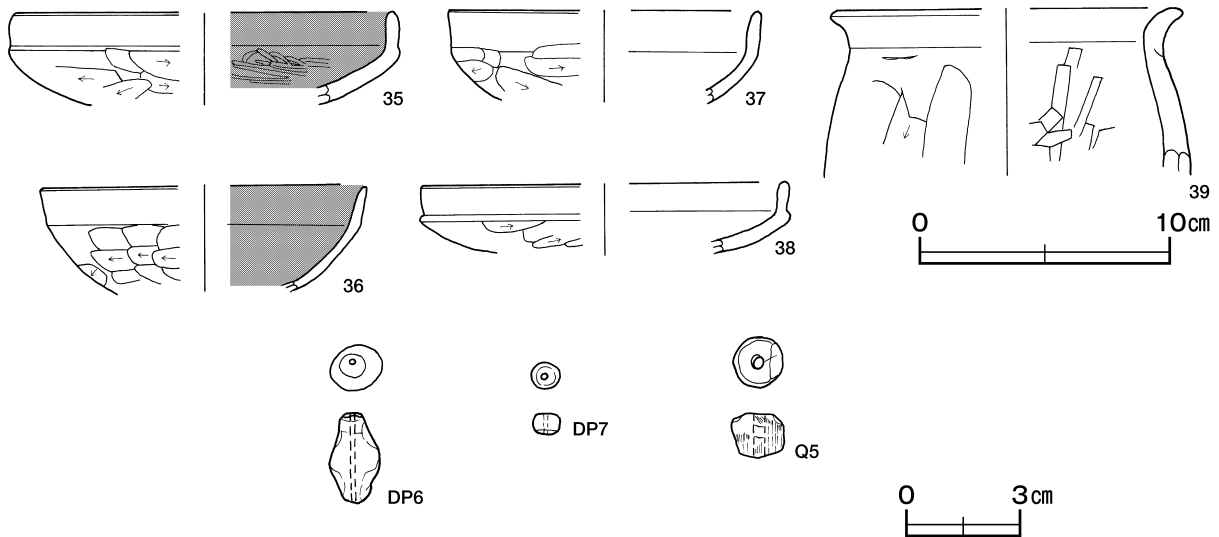
第24図 第2013号住居跡実測図

土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量
- 2 灰褐色 焼土ブロック中量,炭化物・砂質粘土粒子少量,ロームブロック微量
- 3 灰褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量
- 5 灰黄褐色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量

遺物出土状況 土師器片260点(坏67,甕類193),土製品4点(玉1,小玉1,支脚2),石製品1点(白玉)が出土している。その他,混入した須恵器片1点が出土している。竈を中心に遺物が出土し,36は西壁際床面,38・39は竈内からそれぞれ出土しており,住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。DP6は北壁際床面,DP7・Q5は西壁際床面からそれぞれ出土している。

所見 P2・P3には柱のあたりが2か所ずつあり,支柱の存在が想定される。時期は,出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第25図 第2013号住居跡出土遺物実測図

第2013号住居跡出土遺物観察表(第25図)

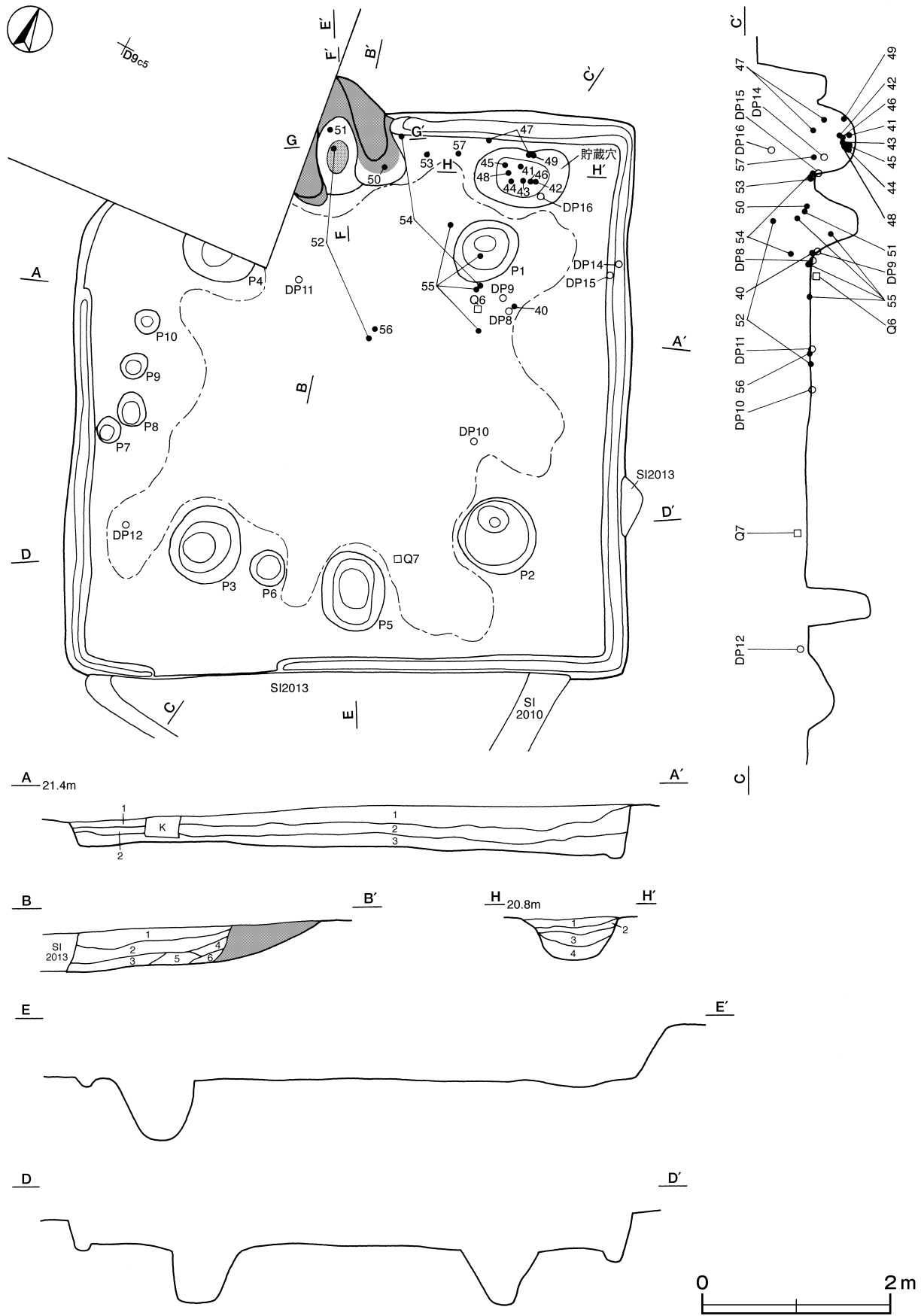
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
35	土師器	坏	[15.2]	(3.6)	-	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい褐色	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面へラ磨き	覆土中層	5%
36	土師器	坏	[12.9]	(4.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐色	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り	床面	10%
37	土師器	坏	[12.4]	(3.6)	-	赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り	P3覆土	5%
38	土師器	坏	[14.6]	(2.7)	-	石英・雲母・赤色粒子	灰褐色	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り	竈覆土	5%
39	土師器	甕	[13.6]	(6.6)	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 輪積痕 内面へラナデ	竈覆土	5%

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP6	玉	2.4	1.4	0.1	3.4	土(長石・石英)	棗状 ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL189

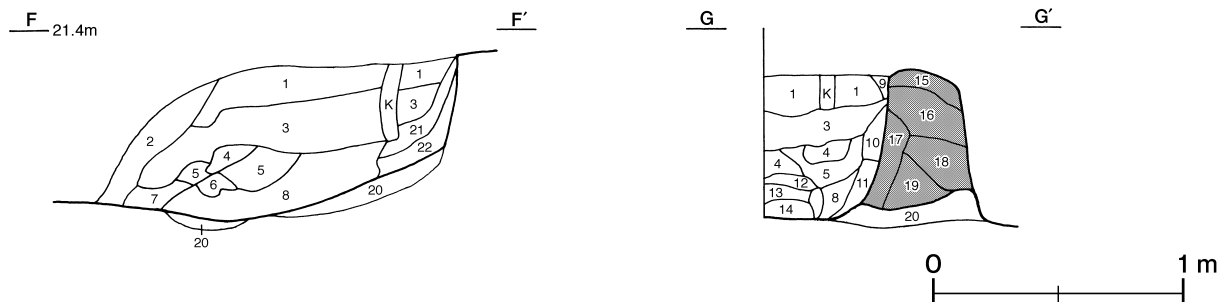
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP7	小玉	0.7	0.5	0.1	0.4	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL190

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q5	白玉	1.3	1.2	0.3	3.5	滑石	両面研磨 一方向からの穿孔	床面	

第2015号住居跡 (第26~31图)



第26图 第2015号住居跡実測图(1)



第27図 第2015号住居跡実測図(2)

位置 調査区南西部のD9c5区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2010・2013号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.96m、短軸5.92mほどの方形で、主軸方向はN-28°-Wである。壁高は30~60cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり、壁際を除いて踏み固められている。北西部を除いた壁下には、幅18~22cm、深さ10~12cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁やや西寄りに付設されている。左部分が調査区域外にあり、確認された規模は、焚口部から煙道部まで128cmと推定される。袖部は砂質粘土で構築され、火床部は床面を10cmほど掘りくぼめており、火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に38cmほど掘り込まれ、直立ぎみに立ち上がっている。第3層は砂質粘土や焼土粒子を含み、天井部の崩落層と考えられる。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------|----------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量 | 12 赤褐色 | 焼土ブロック多量、砂質粘土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 13 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 3 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量 | 14 灰褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土ブロック・ローム粒子少量 |
| 4 灰褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量 | 15 灰褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量 |
| 5 褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子中量、砂質粘土粒子少量 | 16 褐色 | ロームブロック中量、砂質粘土粒子少量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 17 にぶい赤色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量、炭化粒子少量 |
| 7 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | 18 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 8 にぶい褐色 | ロームブロック・焼土粒子中量 | 19 灰褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 9 灰褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子中量 | 20 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 10 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 21 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量、ロームブロック少量 |
| 11 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、ローム粒子少量 | 22 灰褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子中量 |

ピット 10か所。P1~P4は支柱穴で、深さは40~60cmである。P5は深さ70cmで、竈に対峙する位置にあることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6~P10は深さ14cm~62cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径100cm、短径60cmほどの不整楕円形で、深さは44cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、覆土は自然堆積の状況を示している。

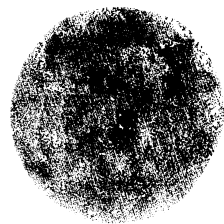
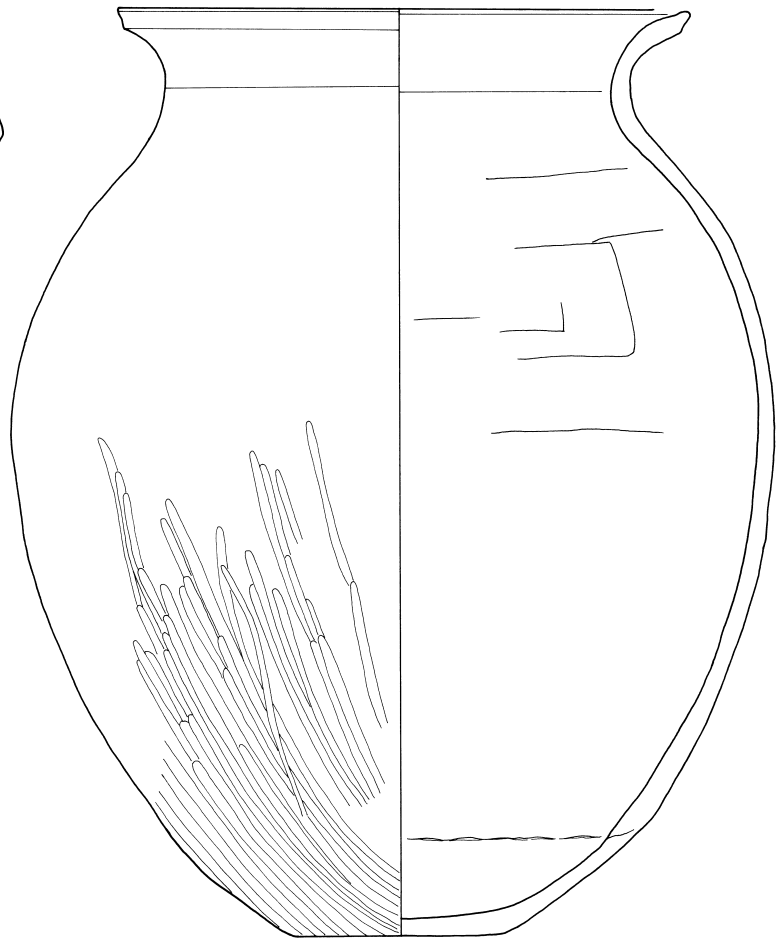
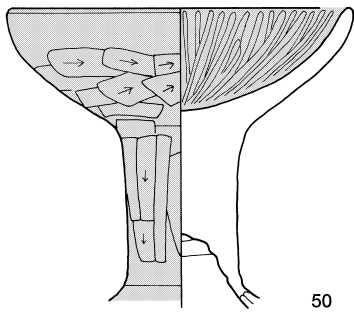
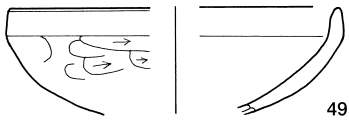
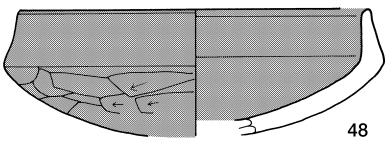
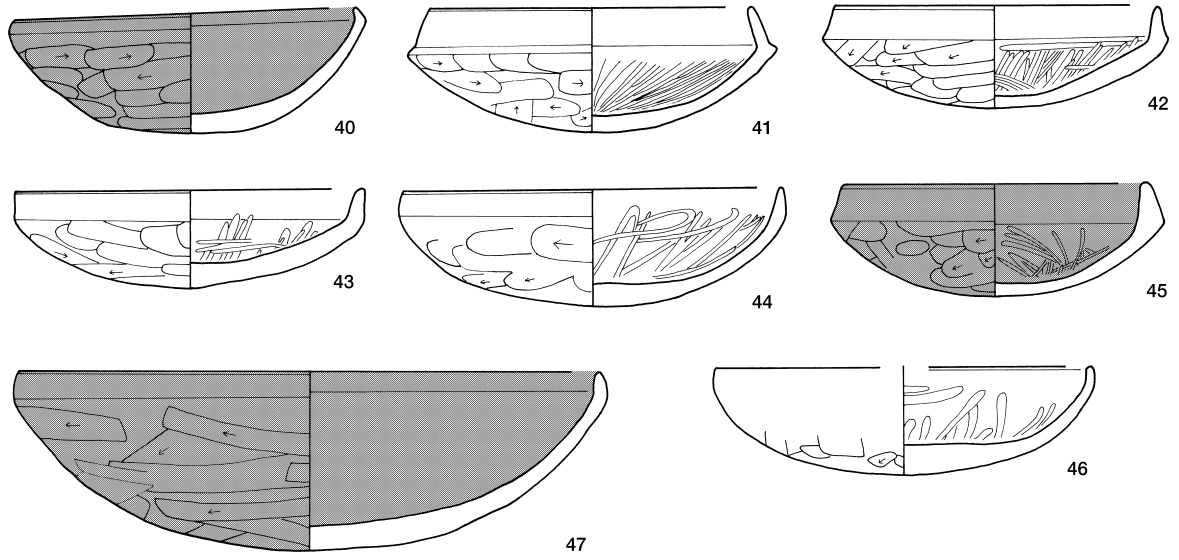
貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | 3 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 4 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量 |

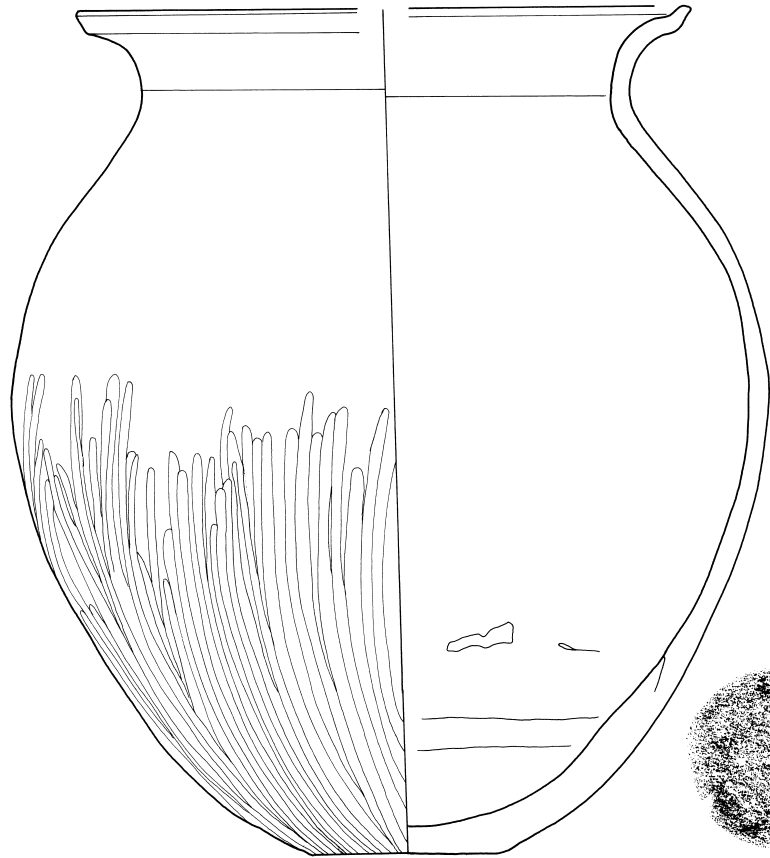
覆土 6層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

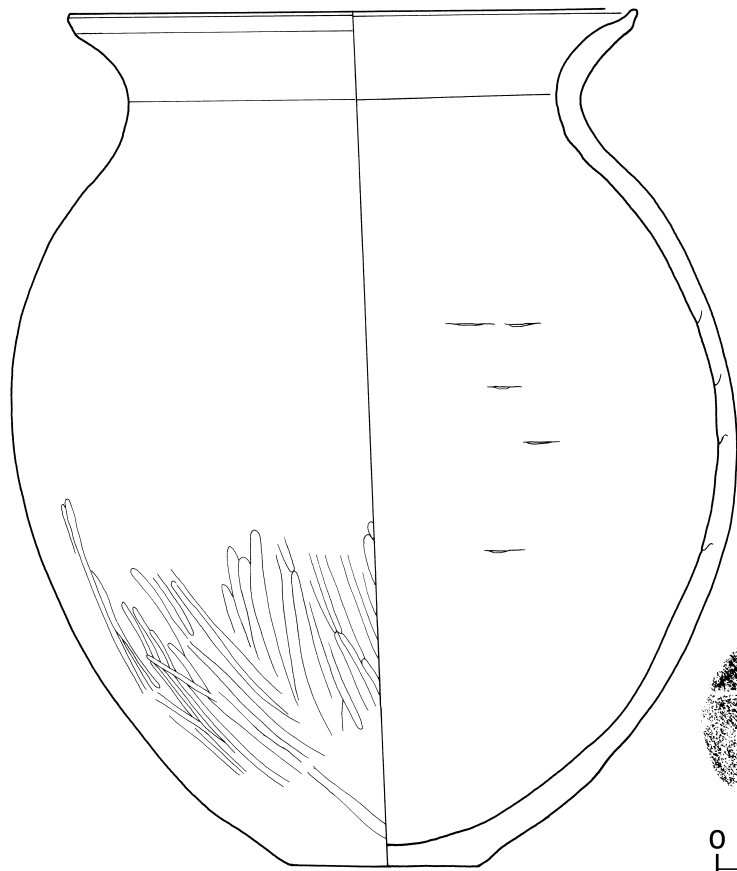
- | | | | |
|-------|-------------------------|--------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 暗赤褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 2 極暗色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 6 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック微量 | | |
| 4 黒褐色 | 砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量 | | |



第28图 第2015号住居跡出土遺物実測図(1)



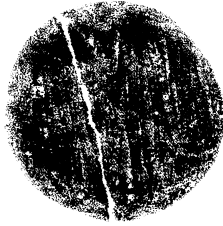
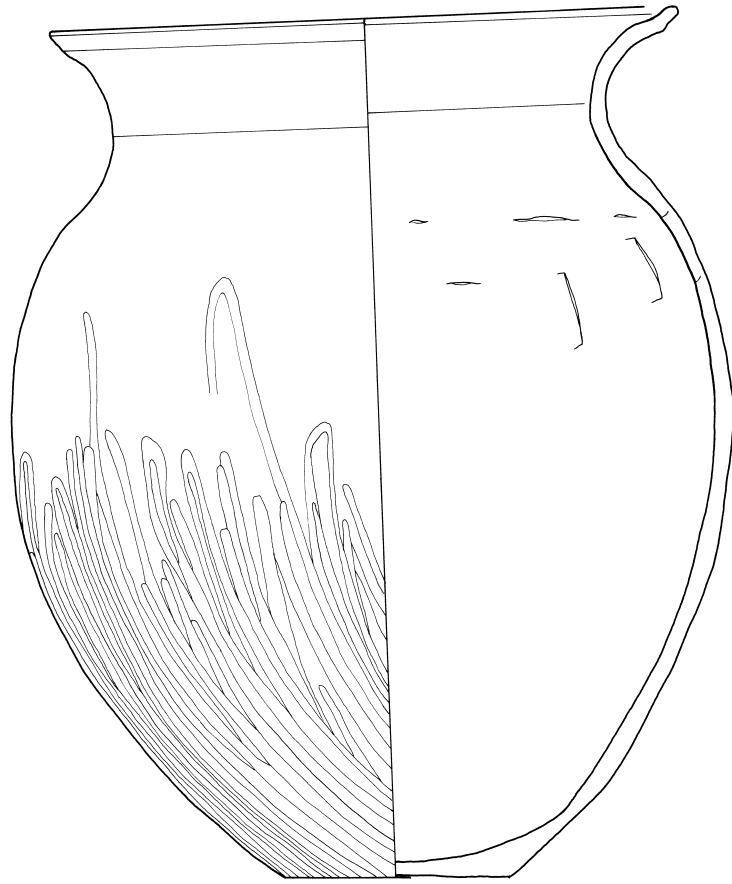
53



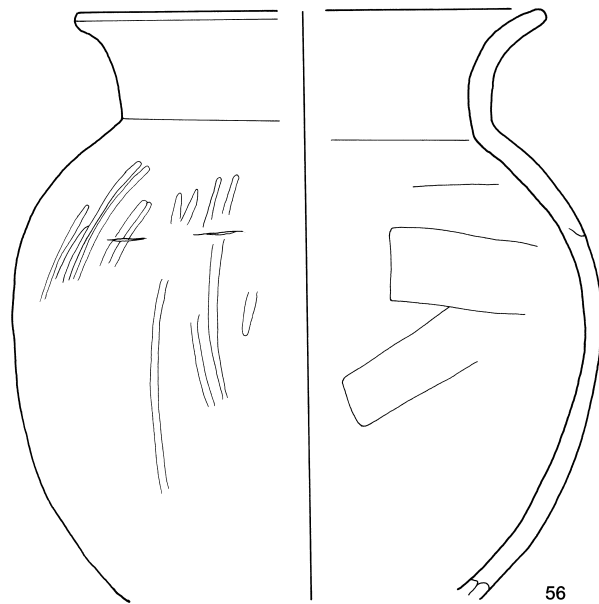
54

0 10cm

第29图 第2015号住居跡出土遺物実測図(2)



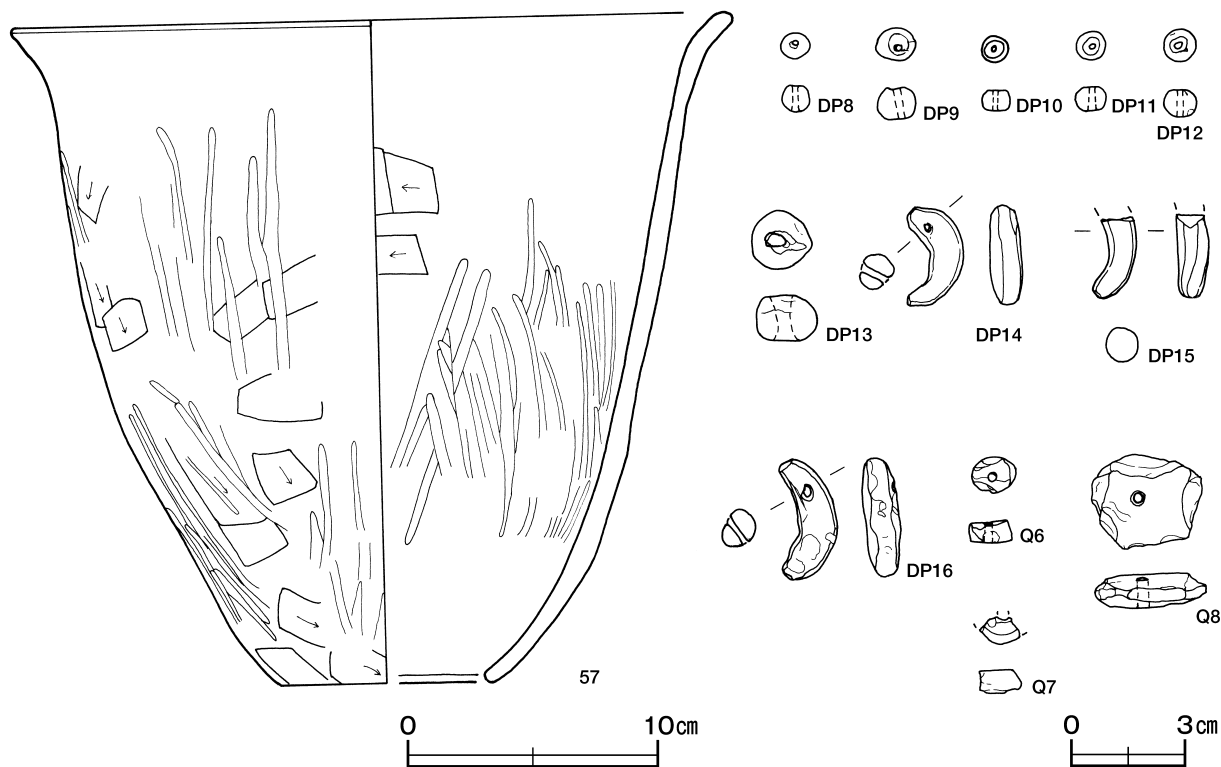
55



56



第30图 第2015号住居跡出土遺物実測図(3)



第31図 第2015号住居跡出土遺物実測図(4)

遺物出土状況 土師器片724点(坏148, 高坏3, 甕類543, 甑30), 須恵器片33点(坏31, 甕類2), 土製品9点(小玉5, 勾玉3, 土玉1), 石製品3点(白玉2, 白玉未製品1)が中央部から北部を中心に出土している。41~46・48・49は, 貯蔵穴内から重なるように出土しており, 遺棄されたものと考えられる。47は北壁際の床面や貯蔵穴内から出土した破片が接合している。甕類は竈周辺部からの出土が多く, 遺棄されたものと考えられる。55は北東部の床面やP1の覆土から出土した破片が接合したものである。DP8・DP9は北東部床面, DP10は中央部床面, DP11は中央部の床面, DP12は南西部の覆土下層, DP14・DP15は壁溝内, DP16は覆土, DP13は貯蔵穴内からそれぞれ出土している。Q6は北東部の床面, Q7は南東部の覆土下層, Q8は覆土からそれぞれ出土している。

所見 50は右竈袖部内, 51は火床部から逆位でそれぞれ出土し, 支脚としての再利用が想定される。時期は, 出土土器から6世紀後葉と考えられる。

第2015号住居跡出土遺物観察表(第28~31図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
40	土師器	坏	13.4	4.9	-	長石・石英	黒	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	床面	80%
41	土師器	坏	12.8	5.0	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へら磨き	貯蔵穴下層	98% PL151
42	土師器	坏	12.8	4.1	-	長石・石英	灰褐色	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へら磨き	貯蔵穴下層	98% PL151
43	土師器	坏	13.8	3.9	-	石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へら磨き	貯蔵穴下層	95%
44	土師器	坏	14.9	4.6	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面放射状のへら磨き	貯蔵穴下層	98% PL151
45	土師器	坏	12.0	4.5	-	長石・石英	黒褐色	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ後へら磨き	貯蔵穴下層	100% PL151
46	土師器	坏	[15.0]	4.3	-	石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面放射状の磨き	貯蔵穴下層	70%
47	土師器	坏	23.0	7.2	-	長石・石英・赤色粒子	褐灰色	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	床面	80% PL151
48	土師器	坏	13.8	(5.0)	-	長石・石英	灰褐色	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	貯蔵穴下層	50%
49	土師器	坏	[13.0]	(4.3)	-	石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り	貯蔵穴下層	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
50	土師器	高坏	13.4	(11.9)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部外面横ナデ 坏部外面へら削り 内面ナデ後へら磨き 脚部外面へら削り 内面へらナデ	竈袖部下層	75% PL173
51	土師器	高坏	-	(2.7)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	坏部外面へら削り 内面ナデ	竈覆土下層	10%
52	土師器	甕	22.6	36.9	8.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら磨き 内面へらナデ 輪積痕 底部へら削り	竈覆土上層 床面	70% PL180
53	土師器	甕	[24.0]	33.6	7.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら磨き 内面ナデ 輪積痕 底部へら削り	床面	90%
54	土師器	甕	22.5	34.0	7.5	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら磨き 内面ナデ 輪積痕 底部へら削り	覆土中層・床面	90% PL180
55	土師器	甕	24.8	34.4	9.0	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら磨き 内面へらナデ 輪積痕 底部へら磨き	床面 P1覆土	90% PL180
56	土師器	甕	[18.2]	(23.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら磨き 内面へらナデ 輪積痕	床面	75%
57	土師器	甕	28.1	26.5	8.5	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り後へら磨き 内面へらナデ後へら磨き	床面	90%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP8	小玉	0.7	0.7	0.2	0.4	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL190
DP9	小玉	0.9	0.8	0.2	0.7	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL190
DP10	小玉	0.7	0.6	0.1	0.3	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL190
DP11	小玉	0.8	0.7	0.2	0.5	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL190
DP12	小玉	0.9	0.7	0.2	0.6	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	
DP13	小玉	1.6	1.2	0.4	2.7	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	貯蔵穴覆土	PL189

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP14	勾玉	2.6	1.0	0.9	2.9	土(長石・石英)	孔径0.2cm ナデ 一方向からの穿孔	壁溝覆土	PL190
DP15	勾玉	(2.1)	0.8	0.9	(2.4)	土(長石・石英)	ナデ 頭部欠損	壁溝覆土	
DP16	勾玉	3.1	1.0	0.8	3.8	土(長石・石英)	孔径0.2cm ナデ 一方向からの穿孔	覆土上層	PL190

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q6	白玉	1.1	0.6	0.3	0.8	滑石	両面研磨 円筒状 一方向からの穿孔	床面	
Q7	白玉	(1.1)	0.6	-	(1.4)	滑石	両面研磨 2/3欠損	覆土下層	
Q8	白玉	3.0	0.9	0.3	8.6	滑石	未製品 両面研磨 一方向からの穿孔	覆土	

第2016号住居跡 (第32～35図)

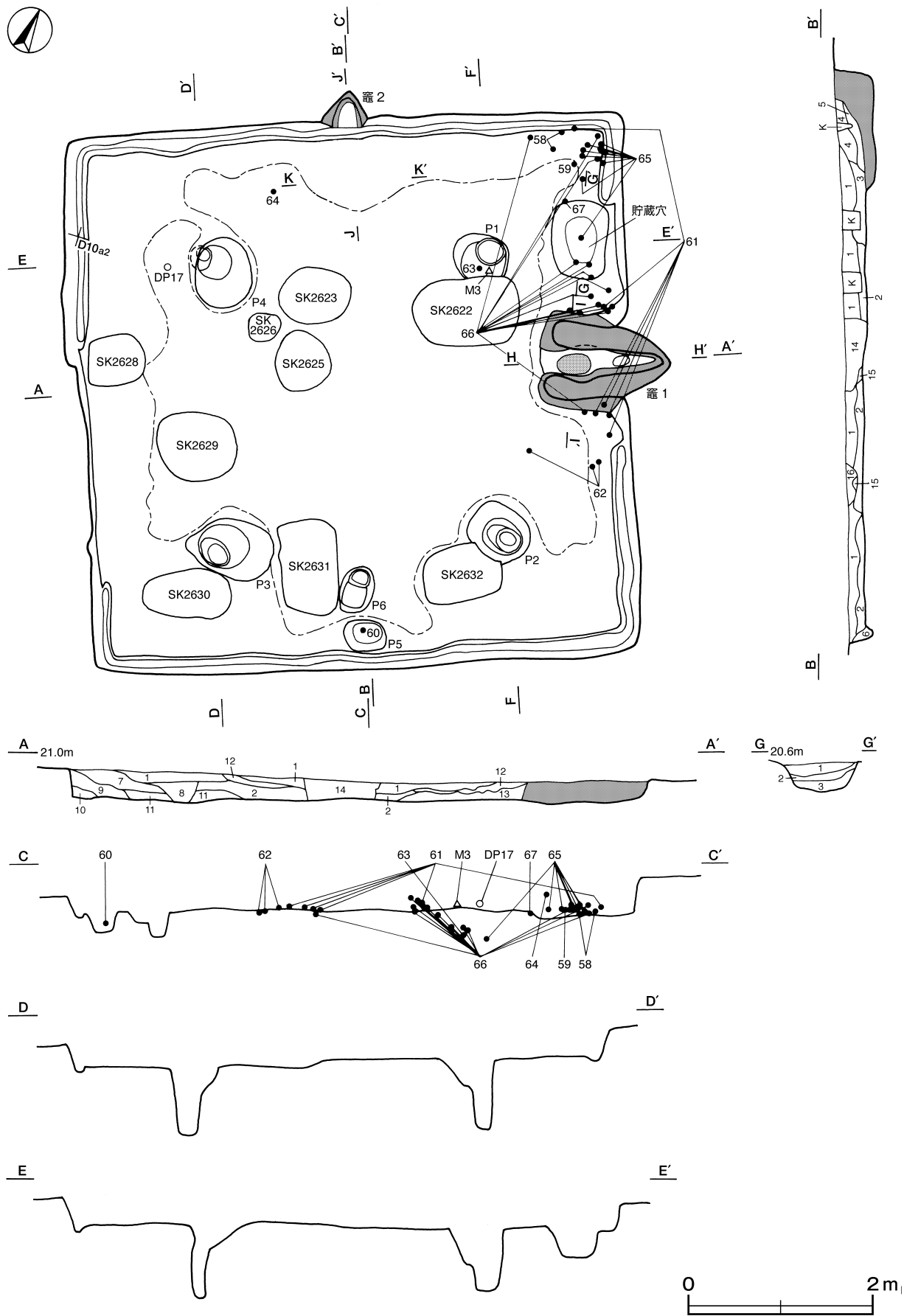
位置 調査区南西部のD10a2区，標高20.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2622・2623・2625・2626・2628～2632号土坑に掘り込まれている。

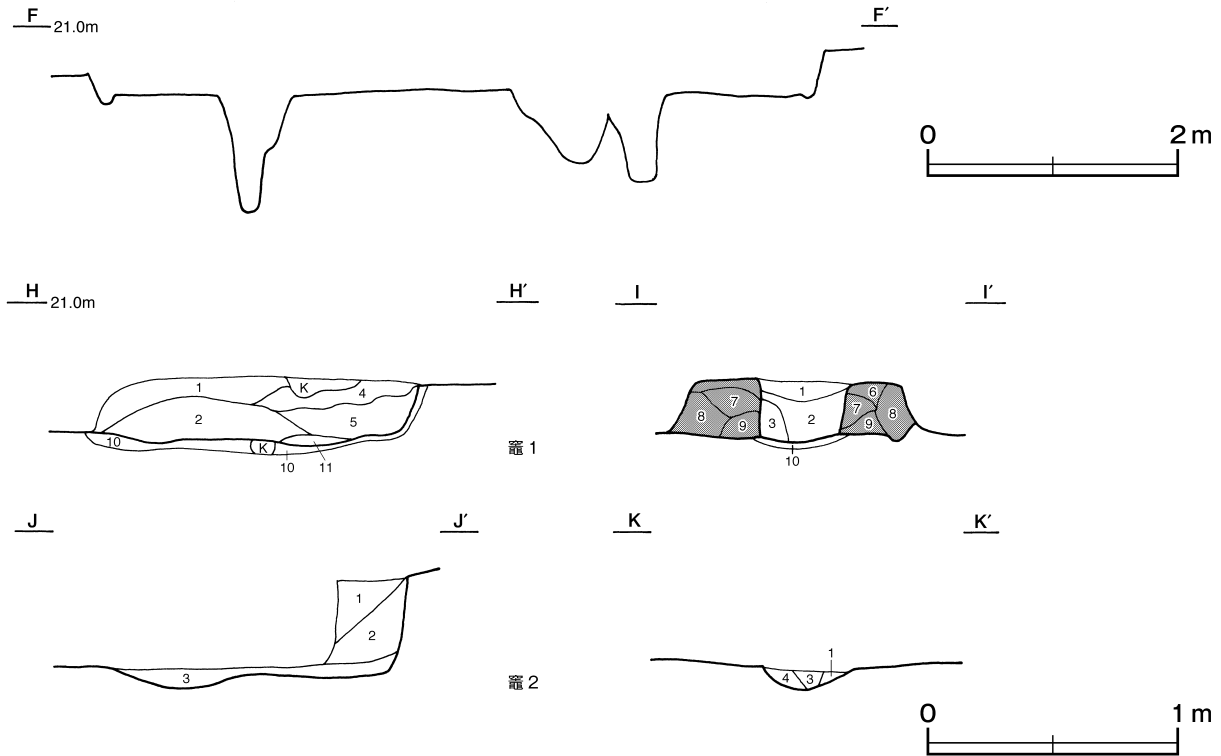
規模と形状 長軸6.12m，短軸5.88mの方形で，主軸方向はN-72°-Eである。壁高は19～36cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり，壁際を除いて踏み固められている。西壁の一部以外の壁下には，幅14～18cm，深さ3～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 2か所。竈1は東壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで140cm，袖部幅96cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さを基部とし，砂質粘土で構築されている。火床部は床面を10cmほど掘りくぼめており，火床面が縦列に2か所確認され，火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に50cmほど掘り込まれ，外傾して直立ぎみに立ち上がっている。第11層は焼土ブロックや炭化粒子を含み，天井部の崩落層と考えられる。竈2は北壁中央部に付設されている。床面を精査したところ火床面が確認され，貼床をはがしたところ袖部の痕跡が検出された。竈の作り替えが行われているため全体の形状は不明であるが，火床部は床面を8cm掘りくぼめており，火を受けて赤変している。煙道部は壁外に30cmほど掘り込まれ，外傾して直立ぎみに立ち上がっている。竈の作り替えによる出入口施設に伴うピットの移動はなく，住居の建て替えに伴って竈が作り替えられたのかは不明である。



第32图 第2016号住居迹实测图(1)



第33図 第2016号住居跡実測図(2)

竈1 土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------------|---------|------------------------|
| 1 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 | 7 赤 褐 色 | 焼土粒子多量, ロームブロック少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化物・ローム粒子少量 | 8 灰 褐 色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 9 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 褐 色 | ロームブロック・砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量 | 10 褐 色 | ロームブロック多量, 砂質粘土粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子中量 | 11 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量 |
| 6 灰 褐 色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック少量 | | |

竈2 土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|--------------------------|
| 1 褐 色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 3 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量, ロームブロック少量 |
| 2 褐 色 | ロームブロック中量, 砂質粘土粒子少量 | 4 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量 |

ピット 6か所。P1～P4は主柱穴で、深さは68cm～94cmである。P5は深さ16cm, P6は深さ28cmで、竈に対峙する位置にあることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 竈1の北側に位置している。長径84cm, 短径60cmの不整楕円形で、深さは34cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、覆土は人為堆積の状況を示している。

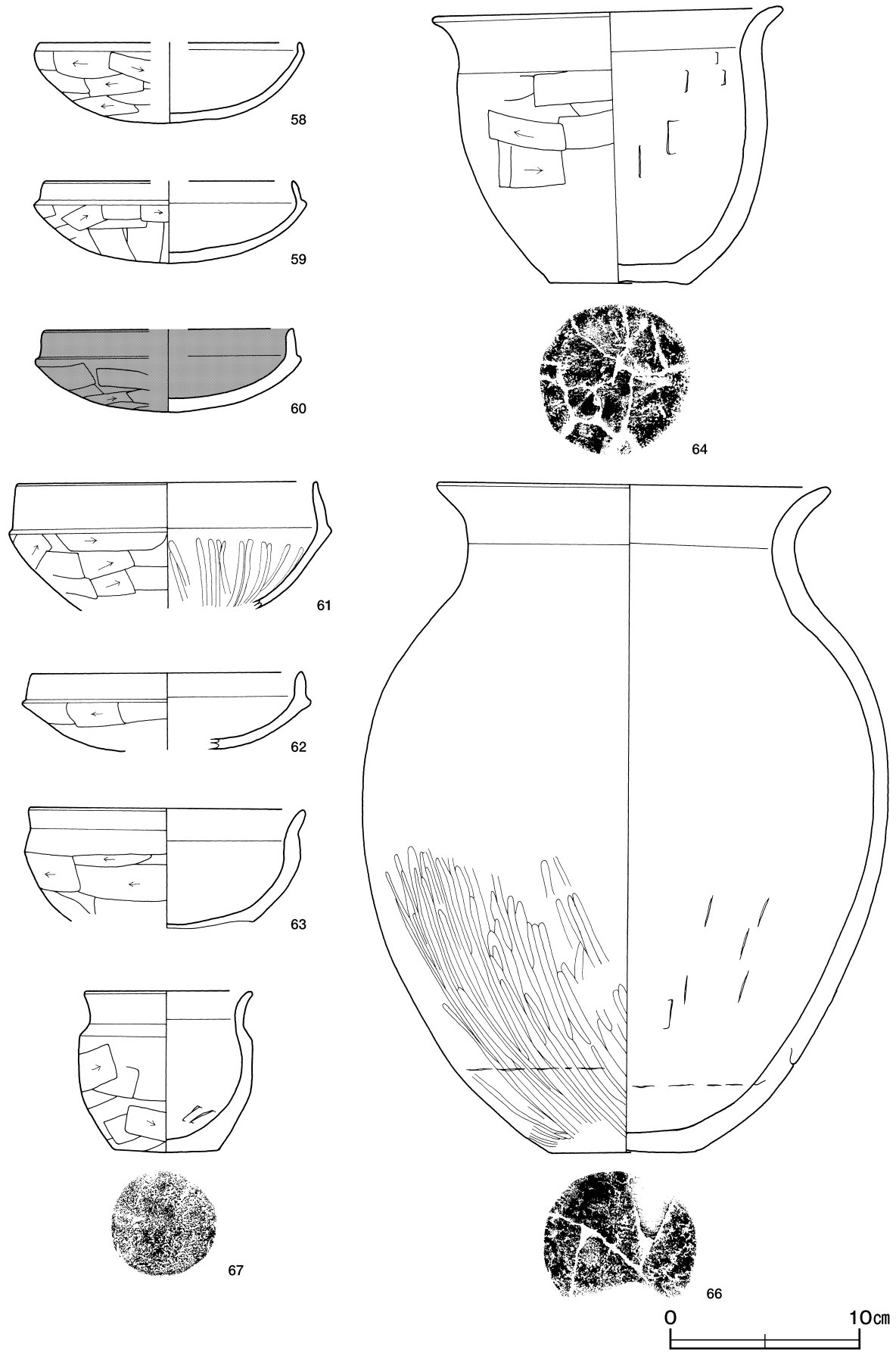
貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------|-------|-------------------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量 |
| 2 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | | |

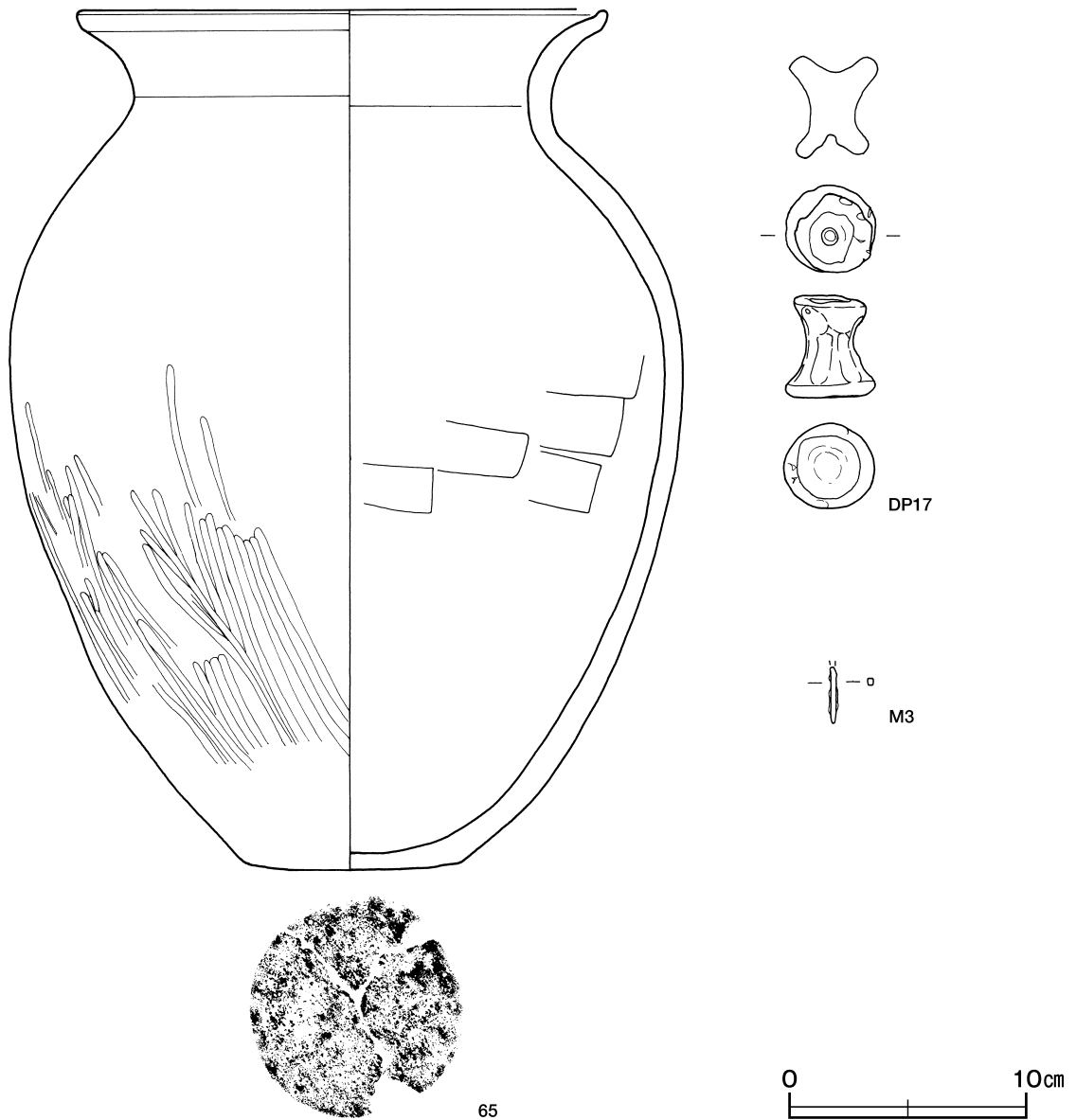
覆土 16層に分けられる。各層にロームブロックを多く含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------------|------------|--------------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 9 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒 褐 色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量 | 10 にぶい黄褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 にぶい黄褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 | 11 黒 褐 色 | ローム粒子中量 |
| 4 暗 褐 色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 | 12 灰 黄 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量 |
| 5 黒 褐 色 | 炭化粒子中量, ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 13 黒 褐 色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 6 暗 褐 色 | ローム粒子中量 | 14 黒 褐 色 | ロームブロック・炭化物微量 |
| 7 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量, 炭化物少量, 焼土粒子微量 | 15 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 8 黒 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 16 黒 褐 色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 |



第34图 第2016号住居跡出土遺物実測図(1)



第35図 第2016号住居跡出土遺物実測図(2)

遺物出土状況 土師器片1003点(坏269, 椀2, 高坏1, 甕類730, 甑1), 須恵器片9点(坏), 土製模造品1点(臼カ), 石器1点(砥石), 鉄製品1点(釘), 鉄滓1点が東部を中心に全体から出土している。その他, 混入した須恵器片1点, 磁器片1点, 灰釉陶器片1点も出土している。58は北東コーナー部床面, 60はP5の覆土, 62は竈1周辺の床面から出土した破片が接合している。北東コーナー部及び竈1周辺からの出土が多く, 住居廃絶に伴い遺棄されたものと考えられる。59は北東コーナー部床面から正位でつぶれた状態で出土しており, 65は北東コーナー部床面や貯蔵穴内, 66は竈1周辺部床面や貯蔵穴内からそれぞれ出土した破片が接合している。DP17は北西部床面, M3はP1の覆土から出土している。

所見 壁溝が竈2を掘り込んでいることから, 最初は竈2を使用し, その後, 竈1は作り替えに伴って新しく構築されたものである。時期は, 出土土器から6世紀後葉と考えられる。

第2016号住居跡出土遺物観察表（第34・35図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
58	土師器	坏	[13.6]	5.0	-	石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	98%
59	土師器	坏	[13.0]	4.3	-	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	95%
60	土師器	坏	[12.8]	4.3	-	石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	P 5 覆土	55%
61	土師器	坏	15.6 (6.6)	-	-	石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面放射状の磨き	床面	55%
62	土師器	坏	14.0 (4.1)	-	-	長石・石英	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	45%
63	土師器	椀	14.3 (6.2)	-	-	石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	P 1 覆土	65%
64	土師器	甕	18.2	14.5	7.3	石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面へラナデ	覆土下層	98% PL174
65	土師器	甕	22.0	36.1	8.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ磨き 内面へラナデ	床面 貯蔵穴下層	70%
66	土師器	甕	20.2	35.3	7.7	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ磨き 内面へラナデ 輪積痕	床面 貯蔵穴覆土	45%
67	土師器	小形甕	8.5	8.5	5.4	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面へラナデ	床面	70% PL174

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP17	土製模造品	4.3	3.7	4.3	37.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	白玉力 ナデ 断面糸巻き形 側面へラ削り 一方向からの穿孔痕有	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 3	釘	(2.4)	0.3	0.3	(1.4)	鉄	頭部欠損 断面方形	P 1 覆土	

第2018号住居跡（第36～38図）

位置 調査区北西部のB 9 i 8 区，標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 東部を南北方向に第114号溝が掘り込んでいる。

規模と形状 長軸5.68m，短軸5.49mほどの方形で，主軸方向はN - 3 ° - Wである。壁高は24～36cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦であり，壁際を除いて踏み固められている。壁下には，幅18～22cm，深さ6～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで138cm，袖部幅110cmほどである。袖部は床面とほぼ同じ高さを基部とし，砂質粘土で構築されている。火床部は床面を15cmほど掘りくぼめており，火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に40cmほど掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	灰 褐色	砂質粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	9	暗 赤 褐色	焼土ブロック中量，砂質粘土粒子少量
2	灰 褐色	砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	10	灰 褐色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量
3	灰 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子微量	11	褐 色	ローム粒子中量，焼土粒子・砂質粘土粒子少量
4	灰 褐色	砂質粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量	12	暗 赤 褐色	焼土粒子中量
5	赤 褐色	焼土粒子中量，砂質粘土粒子微量	13	暗 赤 褐色	焼土粒子中量，砂質粘土粒子少量
6	灰 褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量	14	にぶい赤褐色	炭化物・焼土粒子少量，ローム粒子・砂質粘土粒子微量
7	灰 褐色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量	15	にぶい赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量
8	褐 色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量	16	灰 褐色	砂質粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
			17	褐 色	焼土粒子少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量

ピット 5か所。P1～P4は支柱穴で，深さは52～67cmである。P5は深さ45cmで，竈に対峙する位置にあることや硬化面の広がりから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 9層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

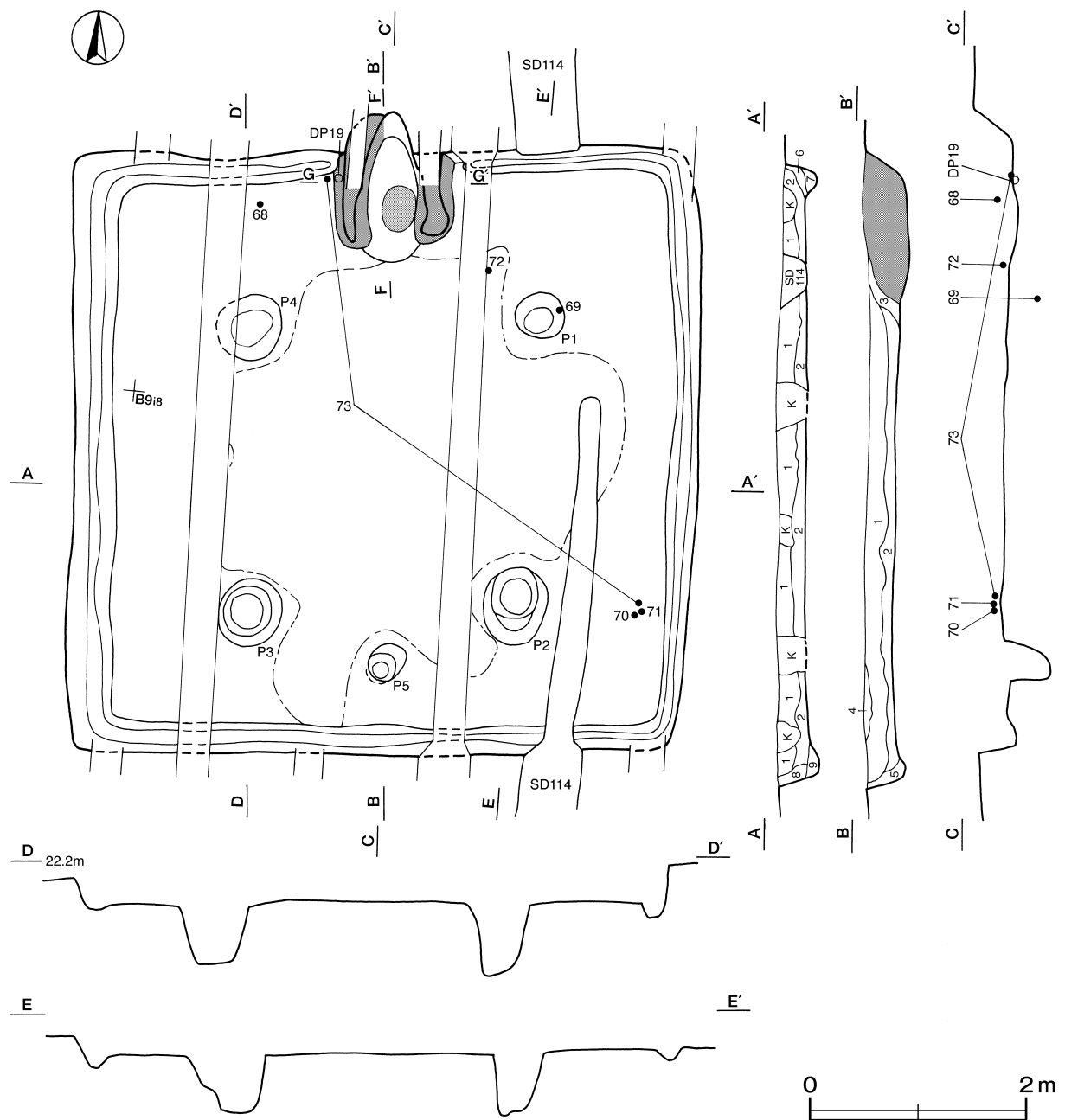
1	褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	3	褐 色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2	褐 色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量			

- 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック中量,炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子少量,炭化粒子微量

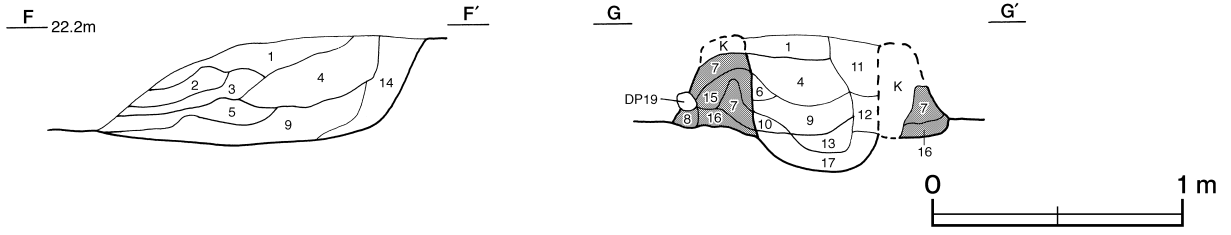
- 7 褐色 ローム粒子中量,炭化粒子微量
- 8 褐色 ローム粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量
- 9 褐色 ロームブロック少量,炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片748点(坏63, 甕類684, 甑1), 須恵器片46点(坏13, 蓋1, 甕類32), 土製品4点(玉1, 支脚1, 紡錘車1, 不明1), 鉄製品1点(釘カ)が出土している。その他, 混入した陶器片2点, 灰釉陶器片1点も出土している。68は北西部北壁際床面, 69はP1の覆土, 71は東壁際床面, 72は竈付近床面からそれぞれ出土している。出土した土器のほとんどが細片であり, 出土状況から住居廃絶後に投棄されたものと考えられる。DP21は北西部覆土, DP18は竈付近覆土, DP20は南西部覆土, DP19は竈左袖部内, M4は覆土からそれぞれ出土している。

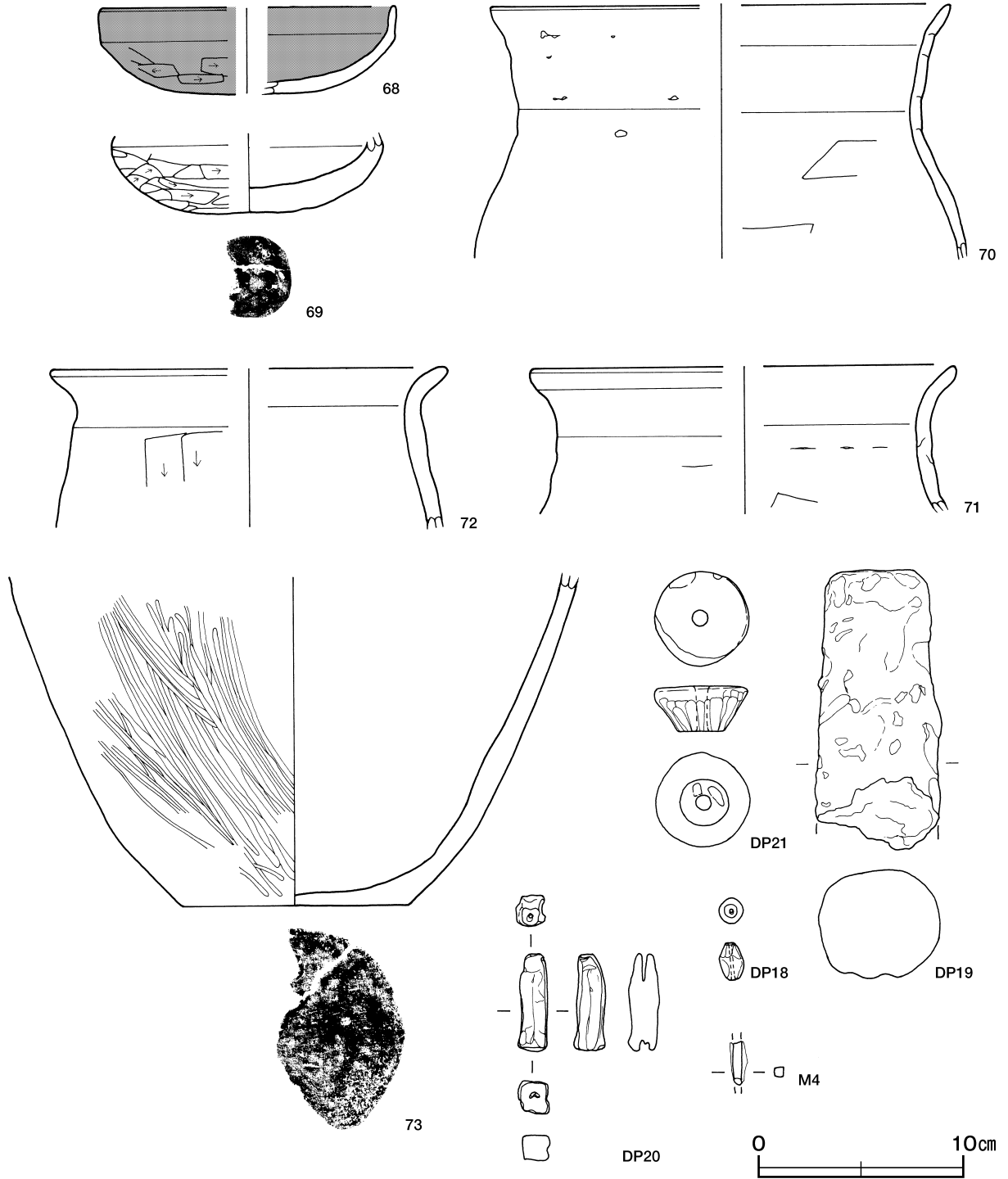
所見 時期は, 出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第36図 第2018号住居跡実測図(1)



第37图 第2018号住居跡実測图(2)



第38图 第2018号住居跡出土遺物実測图

第2018号住居跡出土遺物観察表（第38図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
68	土師器	坏	[14.2]	4.2	-	雲母・赤色粒子	灰褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	床面	40%
69	土師器	坏	- (3.9)	4.0	-	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ナデ	P 1 覆土	30%
70	土師器	甕	[22.2]	(12.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 輪積痕 体部内面ヘラナデ	床面	5 %
71	土師器	甕	[10.6]	(7.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部内面ヘラナデ 輪積痕	床面	5 %
72	土師器	甕	[19.2]	(7.7)	-	石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	床面	5 %
73	土師器	甕	- (16.1)	11.0	-	石英・雲母	浅黄橙	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	床面	30%

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP18	玉	1.8	1.2	0.2	10.3	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	覆土	PL189

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP19	支脚	(13.6)	5.9	5.2	(443.4)	土(長石・石英)	ナデ 熱を受けて脆い にぶい橙色	竈袖部内	
DP20	不明土製品	4.8	1.4	1.6	2.3	土(長石・石英)	ナデ 棒状圧痕有 両方向からの穿孔痕有	覆土	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP21	紡錘車	4.6	2.2	0.5	38.9	土(長石・石英)	ヘラ磨き 側面ヘラ削り 両方向からの穿孔	覆土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 4	釘力	(2.1)	0.4	0.5	(1.5)	鉄	断面方形	覆土	

第2019号住居跡（第39～44図）

位置 調査区北西部のB 9 h5 区，標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 南西部を南北方向に第116号溝が掘り込み，西壁の一部を第334号掘立柱建物に掘り込まれている。

また，竈の左袖部の一部が攪乱を受けている。

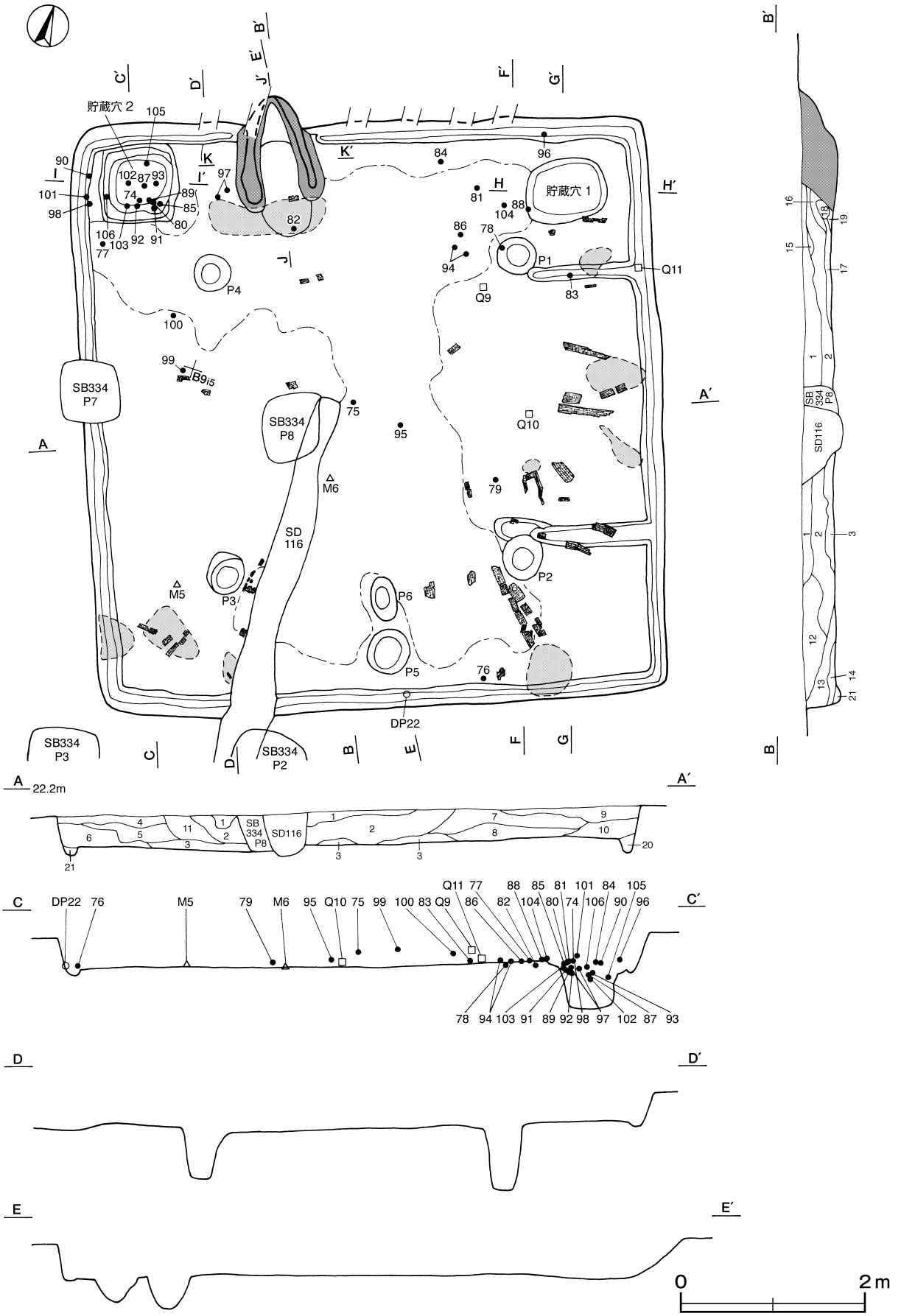
規模と形状 長軸6.36m，短軸6.31mほどの方形で，主軸方向はN - 20° - Wである。壁高は29～42cmで，壁はほぼ直立している。

床 ほぼ平坦であり，中央部が踏み固められている。壁下には，幅16～20cm，深さ5～16cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。また，幅14～20cm，深さ10cmほどの間仕切り溝が東壁側で2条確認され，断面形はU字状を呈している。東部を中心に，床面には焼土や炭化材が広がっている。

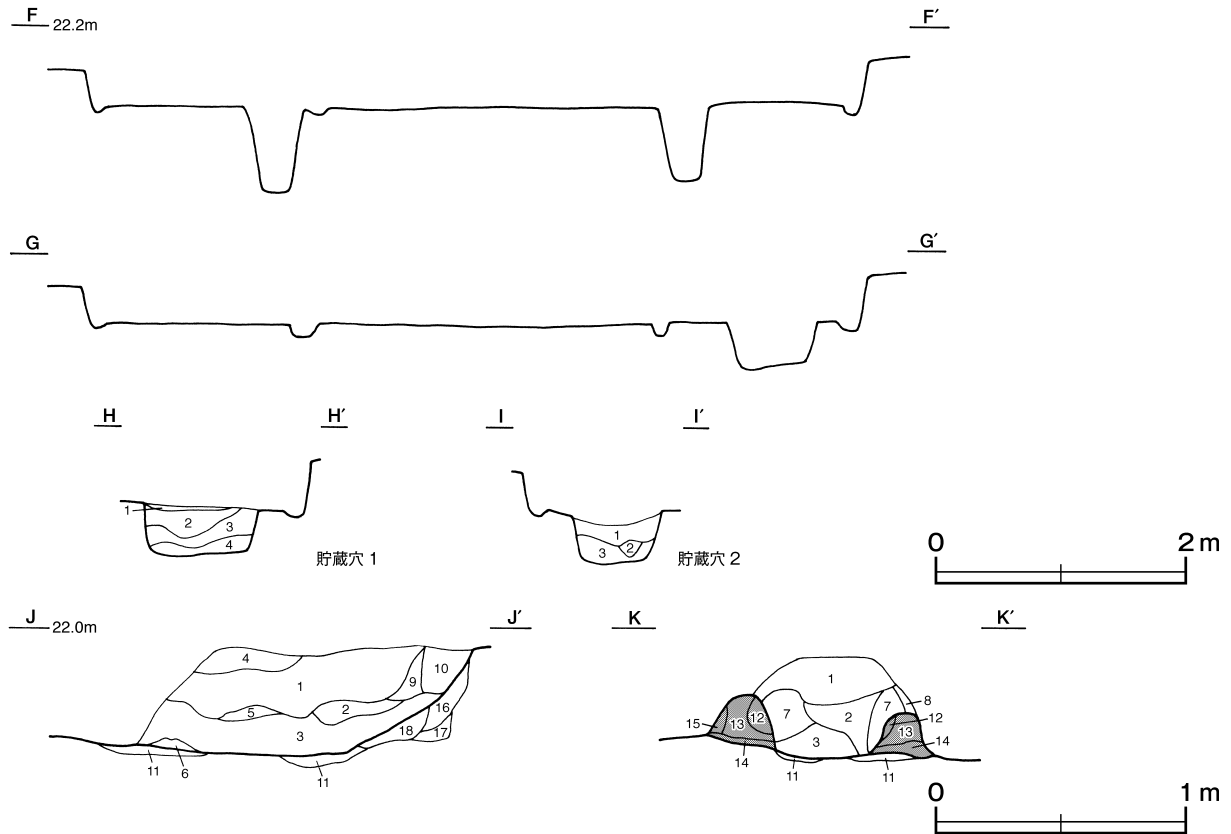
竈 北壁西寄りに付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで146cm，袖部幅96cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さを基部とし，砂質粘土で構築されている。煙道部は壁外に40cmほど掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------------------|----------|-----------------------------|
| 1 灰黄褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | 10 褐灰色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土ブロック微量 |
| 2 褐灰色 | 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量
炭化物微量 | 11 極暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量，砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量 | 12 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量 |
| 4 褐灰色 | ロームブロック少量，砂質粘土粒子微量 | 13 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子微量 |
| 5 灰赤色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 14 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 灰赤色 | 焼土粒子中量，ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 15 にぶい褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 7 赤褐色 | 焼土ブロック中量，砂質粘土粒子少量 | 16 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 8 褐灰色 | 砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量 | 17 灰赤色 | 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 9 灰黄褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 18 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，ローム粒子少量 |



第39图 第2019号住居跡実測图(1)



第40図 第2019号住居跡実測図(2)

ピット 6か所。P1～P4は主柱穴で、深さは55～73cmである。P5は深さ21cm、P6は深さ37cmで、竈に対峙する位置にあることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部と北西コーナー部に位置している。同時に機能していたものか、作り替えられたものかは不明である。貯蔵穴1は、長径90cm、短径70cmほどの不整楕円形で、深さは39cmである。底面はほぼ平坦で、壁は直立ぎみに立ち上がり、覆土は人為堆積の状況を示している。貯蔵穴2は、長軸88cm、短軸76cmの長方形で、深さは48cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がり、貯蔵穴1同様、覆土は人為堆積の状況を示している。

貯蔵穴1土層解説

- | | |
|------------------------------|--------------------|
| 1 灰褐色 ロームブロック中量 焼土ブロック・炭化物少量 | 3 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 灰黄褐色 ロームブロック中量 | 4 にぶい黄褐色 ロームブロック少量 |

貯蔵穴2土層解説

- | | |
|-----------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | |

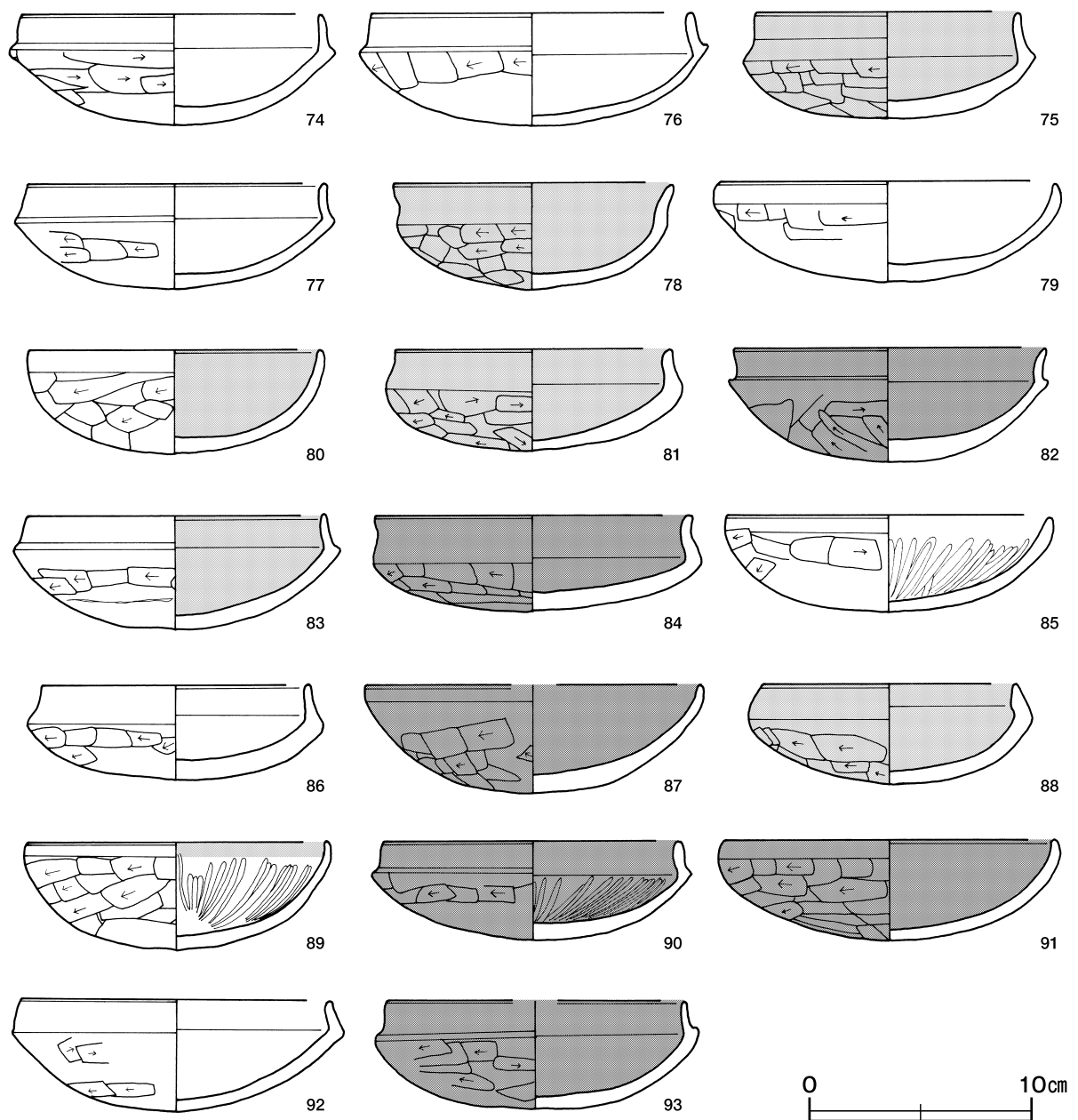
覆土 21層に分かれる。各層にロームブロックを多く含む人為堆積である。

土層解説

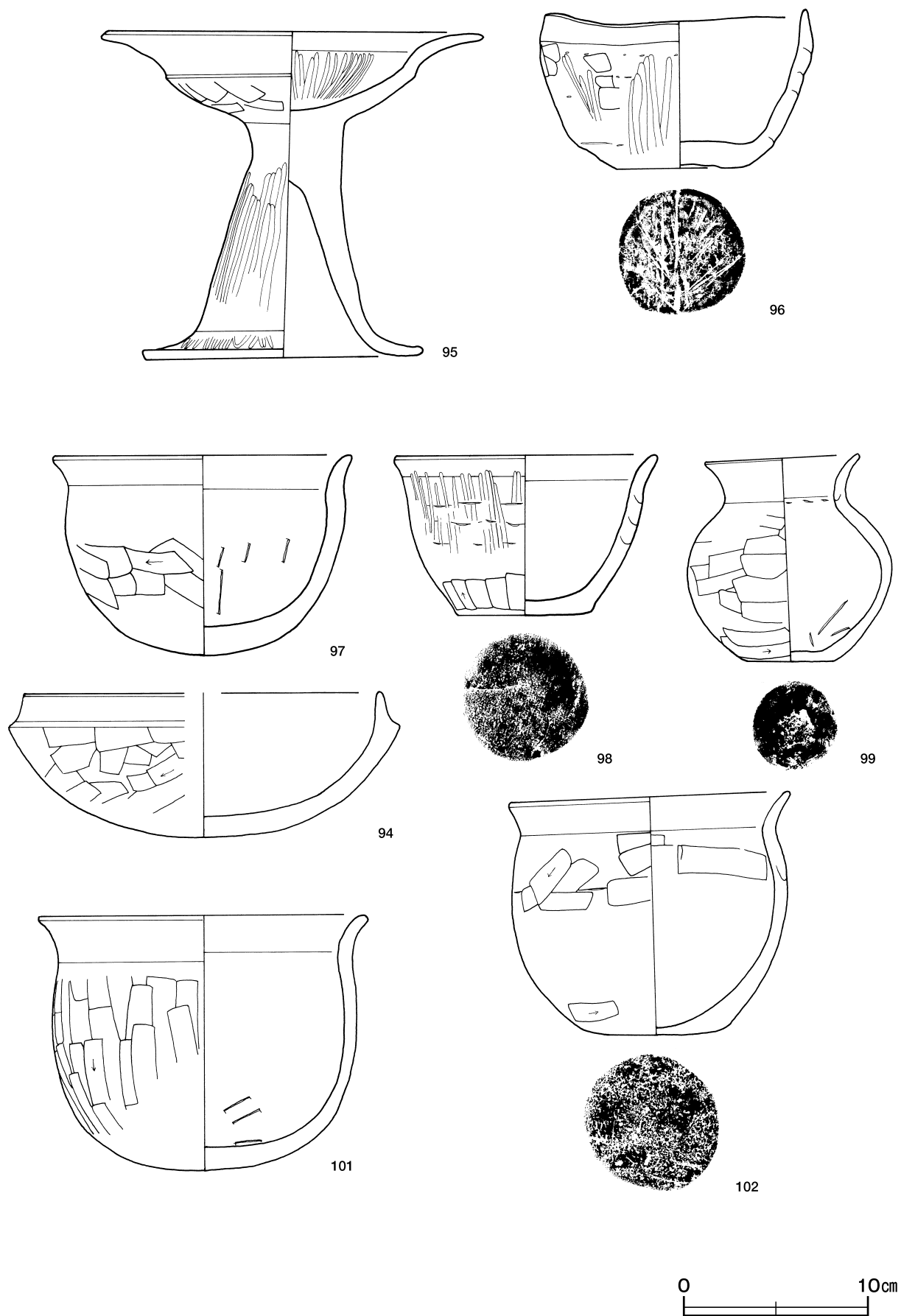
- | | |
|------------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | 12 灰黄褐色 ローム粒子少量、炭化物微量 |
| 2 黒褐色 炭化材・ロームブロック少量 焼土ブロック微量 | 13 にぶい黄褐色 ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量 焼土ブロック微量 | 14 灰黄褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子少量 | 15 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 | 16 黒褐色 ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子少量 |
| 6 暗褐色 ロームブロック中量 | 17 灰黄褐色 炭化物中量、ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 7 黒褐色 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化物少量 | 18 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子少量 |
| 8 黒褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量 | 19 灰赤色 ローム粒子中量、焼土ブロック少量 |
| 9 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 | 20 暗褐色 ローム粒子多量 |
| 10 暗褐色 ロームブロック中量 | 21 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 11 黒褐色 炭化粒子中量、ロームブロック微量 | |

遺物出土状況 土師器片2028点（坏343，高坏5，鉢21，壺2，甕類1637，甑20），須恵器片22点（甕類17，提瓶5），土製品2点（玉，支脚），石器2点（砥石），石製品1点（紡錘車），鉄製品2点（鎌，釘）が覆土上層から中層にかけてほぼ全域から出土している。また，混入した須恵器片1点，陶器片4点，磁器片1点も出土している。79は中央部の床面，82は竈前面の床面，83は北側間仕切り溝際の覆土，84は北壁際の床面，81・88は北東部の床面からいずれも正位で出土しており，ほぼ完形品であることなどから，遺棄されたものと考えられる。そのほか，75は中央部の覆土下層，78はP1の覆土，95は中央部床面からそれぞれ出土しており，出土状況から住居廃絶後間もなく投棄されたものと考えられる。DP22は南部壁溝の覆土，Q9は中央部床面，Q10は中央部下層，Q11は東部壁溝の覆土，M5・M6は南東部の床面からそれぞれ出土している。特に，貯蔵穴2とその周辺から遺物が集中して出土しており，住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

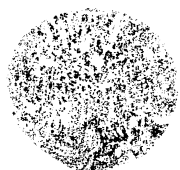
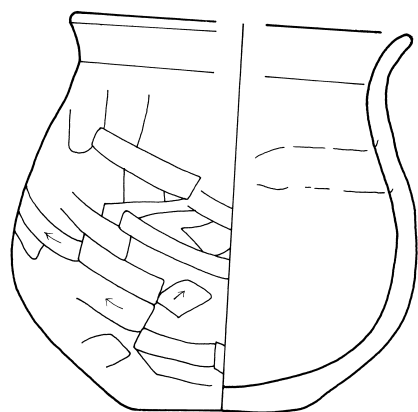
所見 床面に焼土や炭化材の広がり確認されており，焼失住居と考えられる。時期は，出土土器から6世紀中葉と考えられる。



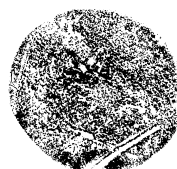
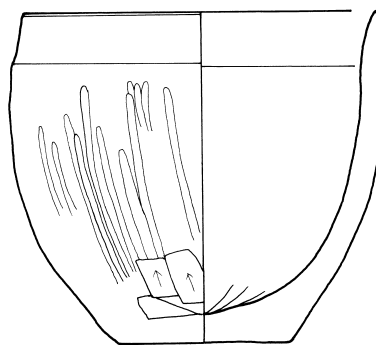
第41図 第2019号住居跡出土遺物実測図(1)



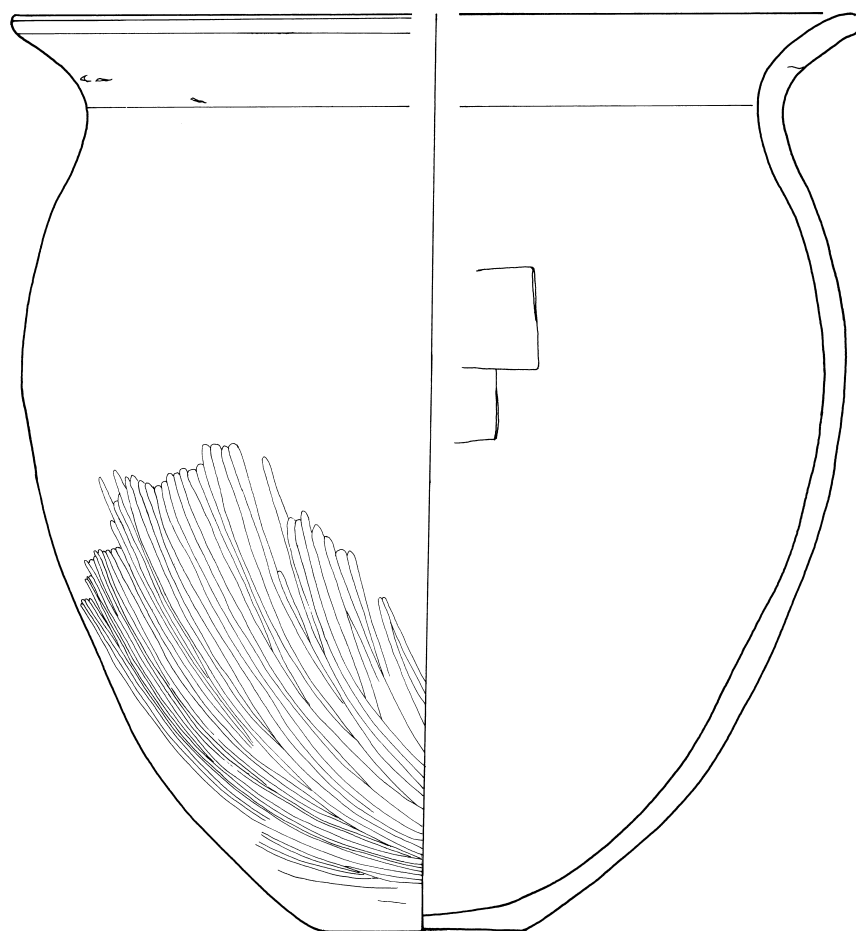
第42图 第2019号住居跡出土遺物実測図(2)



103



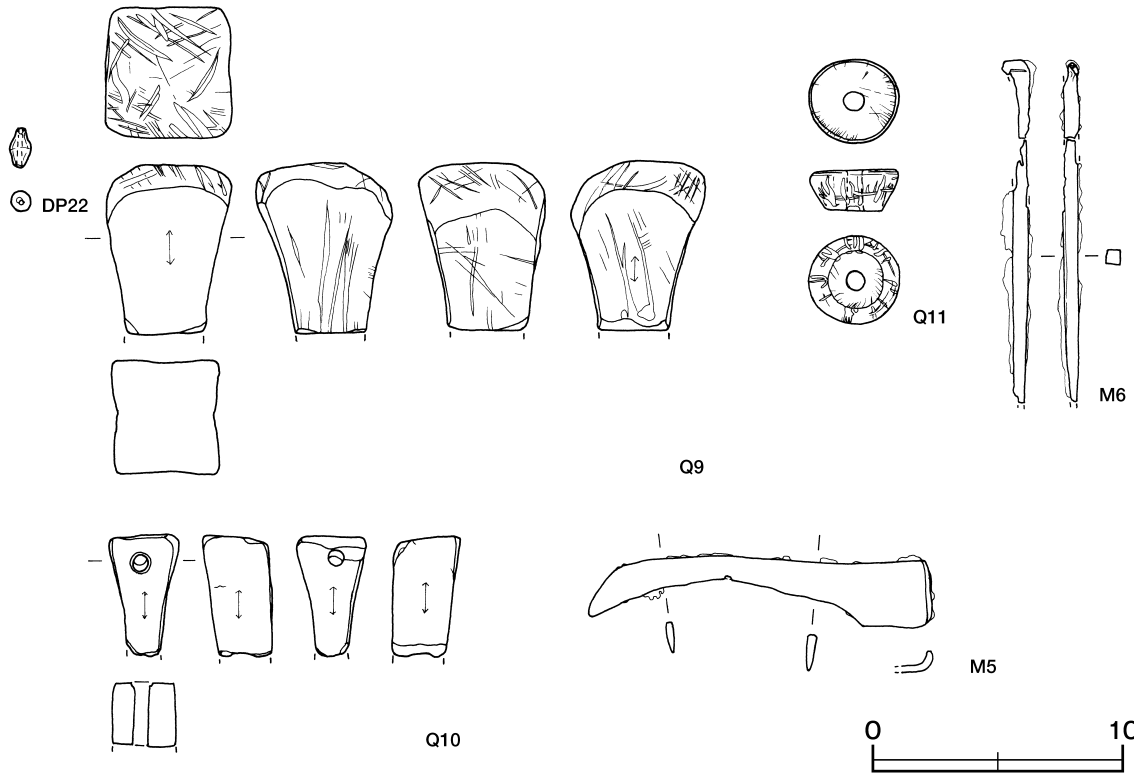
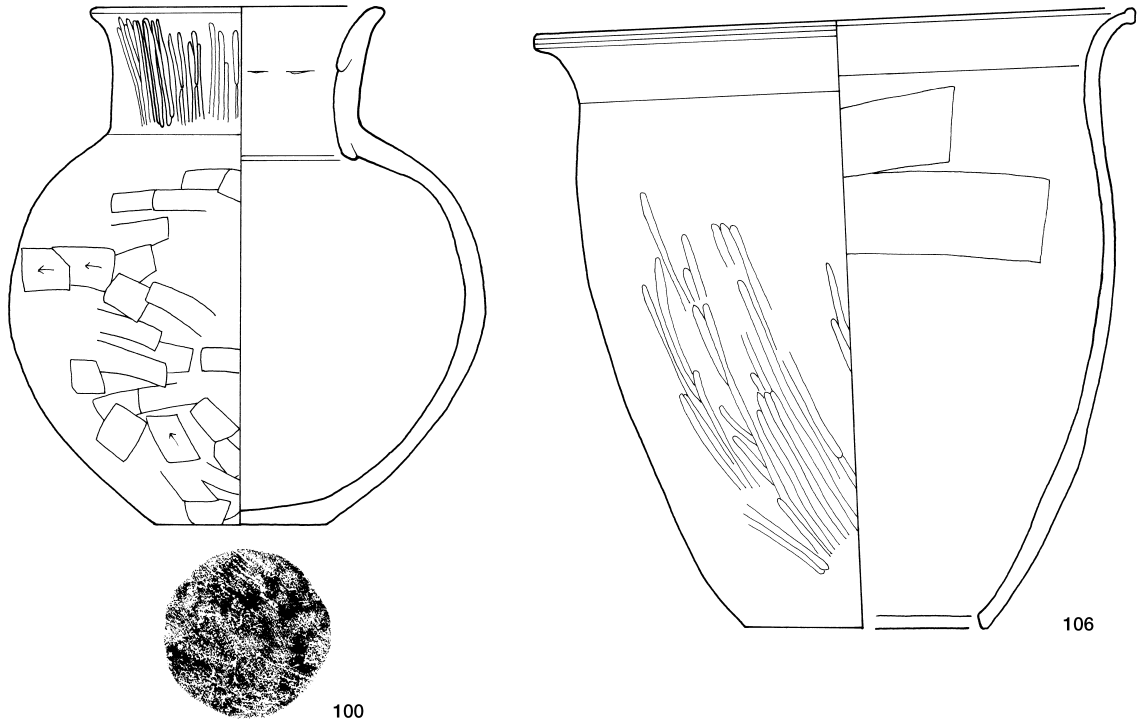
104



105



第43图 第2019号住居跡出土遺物実測図(3)



第44図 第2019号住居跡出土遺物実測図(4)

第2019号住居跡出土遺物観察表 (第41~44図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
74	土師器	坏	13.3	5.0	-	石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	貯蔵穴2覆土上層	98% PL151
75	土師器	坏	11.8	4.7	-	長石・石英	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土下層	98%
76	土師器	坏	14.4	5.0	-	石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	98% PL151

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
77	土師器	坏	13.2	4.7	-	石英・雲母・赤色粒子・礫	明赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	98% PL151
78	土師器	坏	12.4	4.8	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	P 1 覆土	100%
79	土師器	坏	15.1	4.4	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	98% PL152
80	土師器	坏	13.0	4.7	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・礫	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	貯蔵穴2覆土上層	98% PL152
81	土師器	坏	12.2	4.5	-	長石・石英	濃い赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	98% PL152
82	土師器	坏	13.8	5.1	-	長石・石英・白色粒子	黒	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	98% PL152
83	土師器	坏	13.2	5.1	-	石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	99% PL152
84	土師器	坏	14.0	4.3	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	95% PL152
85	土師器	坏	14.5	4.3	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面へラ磨き	貯蔵穴2覆土上層	95% PL152
86	土師器	坏	11.9	4.2	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	95%
87	土師器	坏	[14.8]	4.8	-	石英・雲母	黒	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	貯蔵穴2覆土上層	90%
88	土師器	坏	11.4	4.5	-	長石・石英	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	99% PL152
89	土師器	坏	13.4	5.0	-	石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面放射状のへラ磨き	貯蔵穴2覆土上層	90%
90	土師器	坏	13.2	4.4	-	石英・雲母・赤色粒子	黒	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面放射状のへラ磨き	床面	97%
91	土師器	坏	14.8	4.5	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	貯蔵穴2覆土上層	95%
92	土師器	坏	13.8	5.0	-	石英・雲母・赤色粒子・小礫	にぶい赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	貯蔵穴2覆土上層	95%
93	土師器	坏	[13.2]	4.8	-	石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	貯蔵穴2覆土上層	90%
94	土師器	坏	[19.2]	7.6	-	石英・雲母・赤色粒子・小礫	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	60%
95	土師器	高坏	20.6	17.8	15.3	長石・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 坏部外面へラ削り 内面放射状の磨き 脚部外面へラ磨き 内面ナデ	床面	80% PL173
96	土師器	鉢	14.0	8.6	6.8	長石・石英・礫	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り後へラ磨き 輪積痕 内面ナデ 底部へラ削り	壁溝覆土	100% PL169
97	土師器	鉢	16.0	10.8	-	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面へラナデ	床面	95% PL169
98	土師器	鉢	13.9	8.9	7.2	長石・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ磨き後下端へラ削り 輪積痕 内面へラナデ	床面	70% PL169
99	土師器	壺	8.3	11.2	4.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 輪積痕 内面へラナデ	覆土下層	85% PL175
100	土師器	壺	11.2	20.6	6.8	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 頸部へラ磨き 輪積痕 体部外面へラ削り 内面へラナデ 底部へラ削り	覆土下層	95% PL171
101	土師器	甕	17.4	13.8	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面へラナデ	床面	99% PL174
102	土師器	甕	14.8	13.0	7.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 輪積痕 内面へラナデ 底部へラ削り	貯蔵穴2覆土上層	97%
103	土師器	甕	[13.2]	16.0	6.0	石英・雲母・赤色粒子・小礫	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面へラナデ 輪積痕	貯蔵穴2覆土上層	90%
104	土師器	甕	14.0	13.2	6.8	石英・雲母・赤色粒子・小礫	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ磨き後下端へラ削り 内面へラナデ 底部へラ削り	床面	85% PL175
105	土師器	甕	[33.5]	36.7	8.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 輪積痕 体部外面へラ磨き 内面へラナデ	貯蔵穴2覆土上層	60%
106	土師器	甗	23.7	24.7	9.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ磨き 内面へラナデ	貯蔵穴2覆土上層	80% PL185

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP22	玉	1.5	0.8	0.2	(0.8)	土(石英・雲母)	棗状 ナデ 一方向からの穿孔 先端部欠損	壁溝覆土	PL189

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 9	砥石	(6.7)	5.0	5.4	(221.5)	砂岩	砥面5面 断面長方形	床面	
Q10	砥石	(4.9)	2.7	2.5	(44.7)	凝灰岩	砥面4面 断面長方形 一方向からの穿孔	覆土下層	PL195

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q11	紡錘車	2.6	1.6	0.6	29.9	蛇紋岩	両面研磨 一方向からの穿孔 線刻有	壁溝覆土	PL193

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 5	鎌	13.8	2.8	0.4	28.9	鉄	曲刃鎌	床面	PL196
M 6	釘	(13.6)	1.1	0.6	(17.8)	鉄	先端部欠損 頭部は叩かれ、潰れている。断面正方形	床面	

第2020号住居跡（第45～47図）

位置 調査区北西部のB 9 e7区，標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸4.75m，短軸4.72mの方形で，主軸方向はN - 14° - Eである。壁高は22～37cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり，中央部および貯蔵穴の縁が踏み固められている。南東コーナー部を除いて，幅11～15cm，深さ5～9cmで，U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで120cm，袖部幅99cmである。袖部は砂質粘土を用いて構築されており，内側は火を受けて赤変硬化している。火床部は床面を10cm掘りくぼめた後，床面とほぼ同じ高さまで埋め戻して使用しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に35cm掘り込まれ，火床部から急な傾斜で立ち上がっている。第2・5・8・9層は，天井部の崩落層である。

竈土層解説

1 灰 褐色	砂質粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量	11 暗 赤 褐色	炭化物中量，焼土ブロック少量，砂質粘土粒子微量
2 灰 褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量	12 赤 灰色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量
3 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量，ローム粒子微量	13 暗 赤 褐色	焼土ブロック中量，ロームブロック少量
4 暗 赤 褐色	焼土ブロック中量，ローム粒子少量	14 褐色	ロームブロック中量
5 赤 褐色	焼土粒子多量，砂質粘土粒子中量	15 暗 褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック微量
6 灰 褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量	16 赤 褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量
7 褐 灰色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量	17 灰 褐色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量，ローム粒子微量
8 赤 褐色	焼土粒子中量，砂質粘土粒子少量	18 灰 褐色	砂質粘土粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量
9 赤 黒色	焼土粒子中量，炭化物・ローム粒子少量	19 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
10 赤 灰色	砂質粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック少量		

炉 中央部北寄りに位置している。長径55cm，短径42cmの楕円形で，床面を皿状に掘りくぼめた地床炉である。

炉土層解説

1 黒 褐色	炭化物多量，ロームブロック少量	3 褐 灰色	ロームブロック・炭化粒子少量
2 褐 灰色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	4 にぶい赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量

ピット 5か所。P1～P4は支柱穴で，深さは63～86cmである。P5は深さ37cmで，南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径82cm，短径62cmの楕円形で，深さは37cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がり，覆土は自然堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

1 黒 褐色	ローム粒子少量	3 暗 褐色	ロームブロック中量
2 暗 褐色	ロームブロック少量		

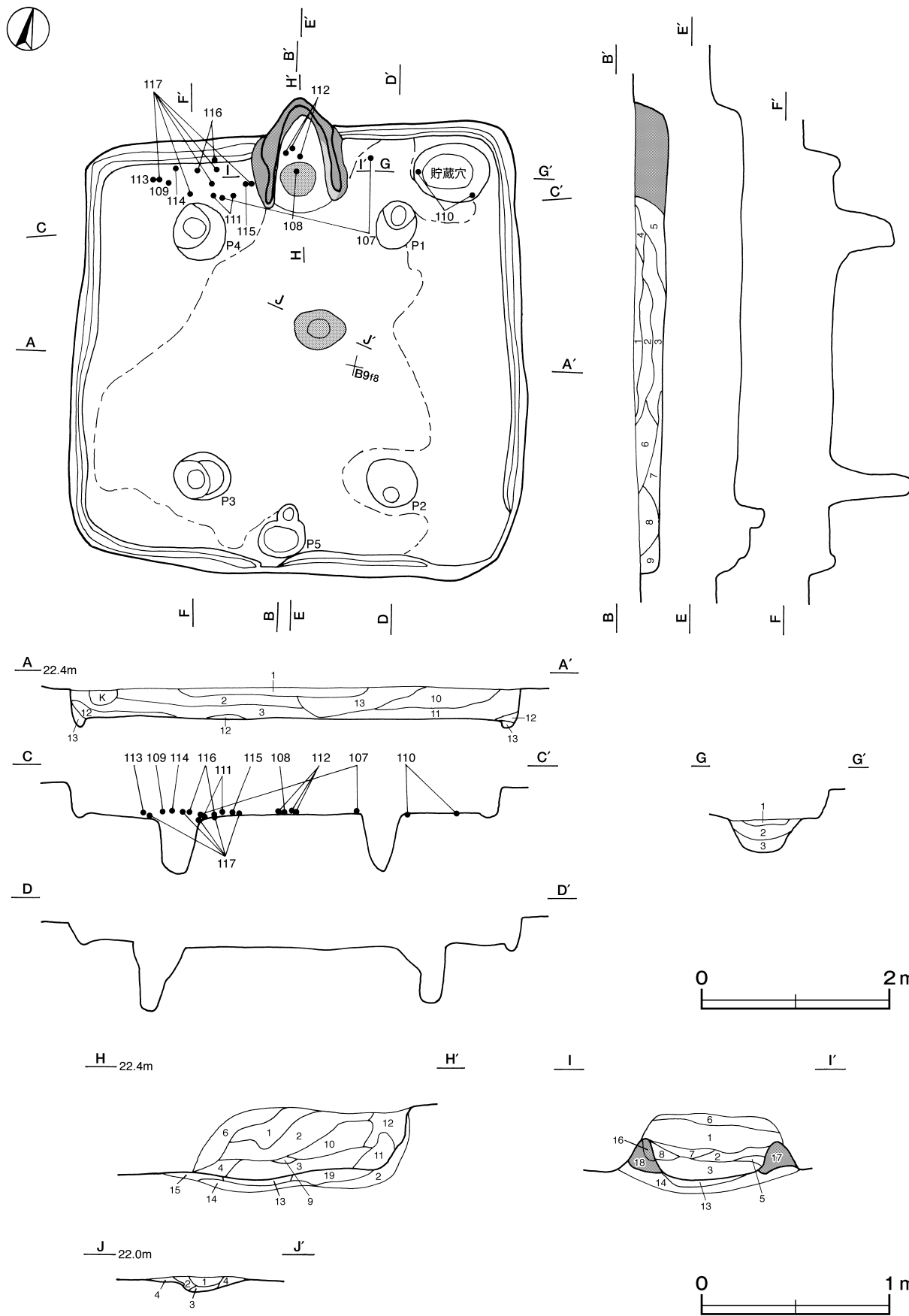
覆土 13層に分けられる。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

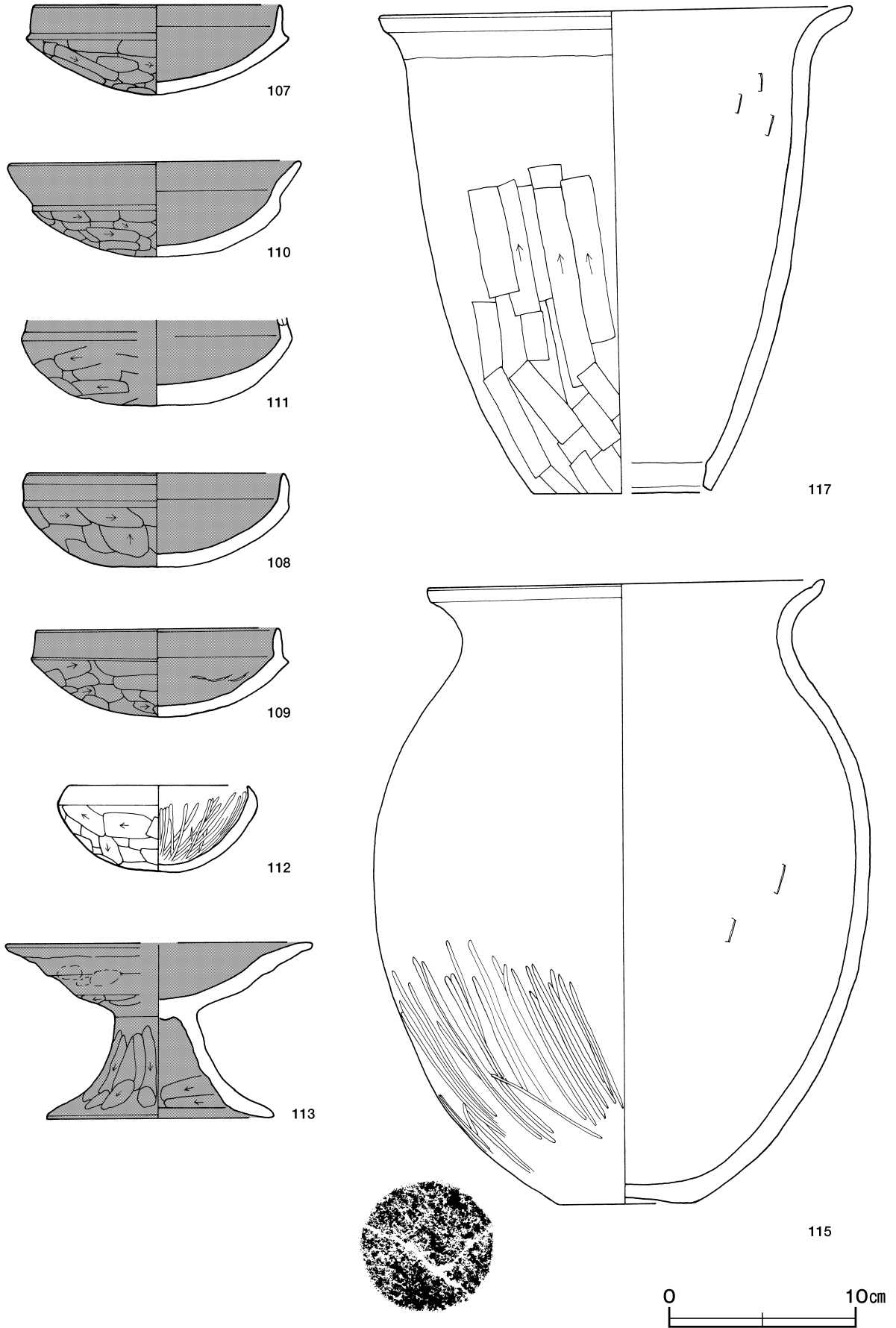
1 暗 褐色	ロームブロック少量，炭化物微量	8 黒 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
2 にぶい黄褐色	ロームブロック中量，炭化物微量	9 黒 褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
3 黒 褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量	10 褐色	ローム粒子中量，炭化物微量
4 褐色	ローム粒子中量，炭化物少量	11 にぶい黄褐色	ロームブロック中量，炭化粒子微量
5 褐色	ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化物微量	12 暗 褐色	ローム粒子中量
6 黒 褐色	ロームブロック少量，炭化物微量	13 黒 褐色	ロームブロック中量，炭化材少量
7 暗 褐色	ローム粒子中量，焼土ブロック微量		

遺物出土状況 土師器片275点（坏63，高坏10，鉢11，甕類153，甌38），土製品4点（支脚3，玉1）が，竈周辺の床面を中心に出土している。108・112は竈内，109，111・113～117は，竈左側の床面，107・110は竈右側の床面からそれぞれ出土しているが，破片を接合させたものであり，住居廃絶後に一括して廃棄されたものと考えられる。また，DP23は覆土中層から出土している。

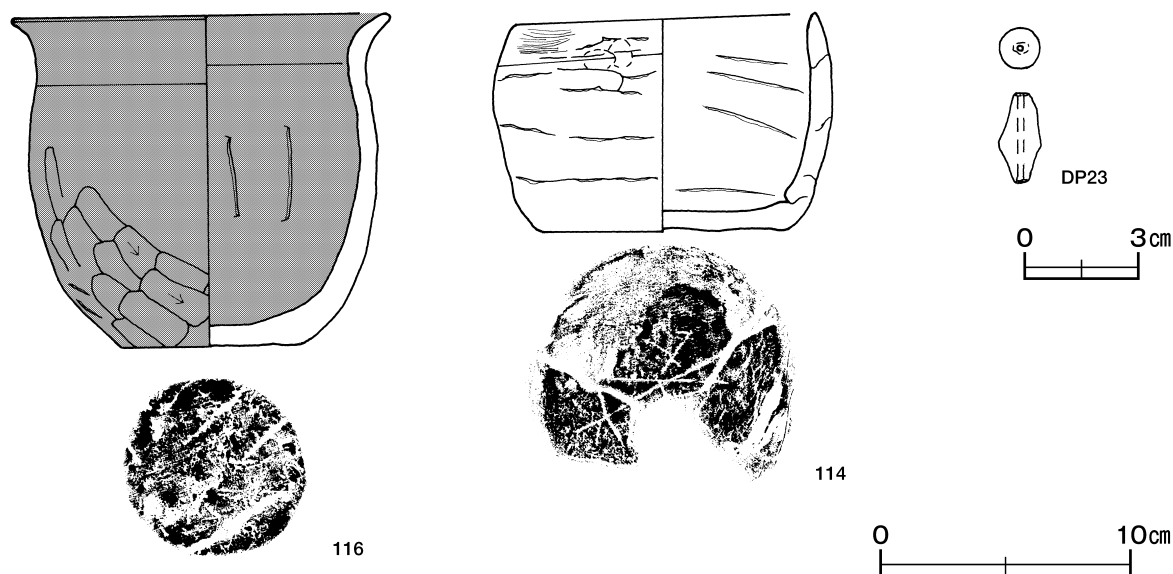
所見 炉と竈を有する住居であり，熊の山遺跡では調査例が少ない。竈，炉ともに赤変硬化していることから，同時期に使用されていたものと考えられる。時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第45图 第2020号住居跡実測图



第46图 第2020号住居跡出土遺物実測図(1)



第47図 第2020号住居跡出土遺物実測図(2)

第2020号住居跡出土遺物観察表 (第46・47図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
107	土師器	坏	13.2	4.8	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	80% PL152
108	土師器	坏	13.7	5.1	-	長石・雲母	黒褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	竈内	70% PL152
109	土師器	坏	12.8	4.8	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	60% PL153
110	土師器	坏	15.2	5.0	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	60% PL153
111	土師器	坏	-	(4.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	60% PL153
112	土師器	坏	9.6	4.8	-	長石・石英	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面放射状の磨き	竈内	60% PL153
113	土師器	高坏	[16.2]	9.4	12.0	長石・石英・雲母	褐灰	普通	口辺部内外面横ナデ 坏部外面へラ削り 指頭痕 内面ナデ 脚部内外面へラ削り	床面	80% PL173
114	土師器	鉢	12.0	8.7	10.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 指頭痕 体部内外面ナデ 輪積痕	床面	90% PL169
115	土師器	甕	21.0	33.3	7.0	長石・石英・雲母・微礫	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ磨き 内面へラナデ	床面	90% PL180
116	土師器	小型甕	15.0	13.1	7.1	長石・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面へラナデ	床面	70% PL175
117	土師器	甕	25.2	26.1	9.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面へラナデ	床面	60% PL185

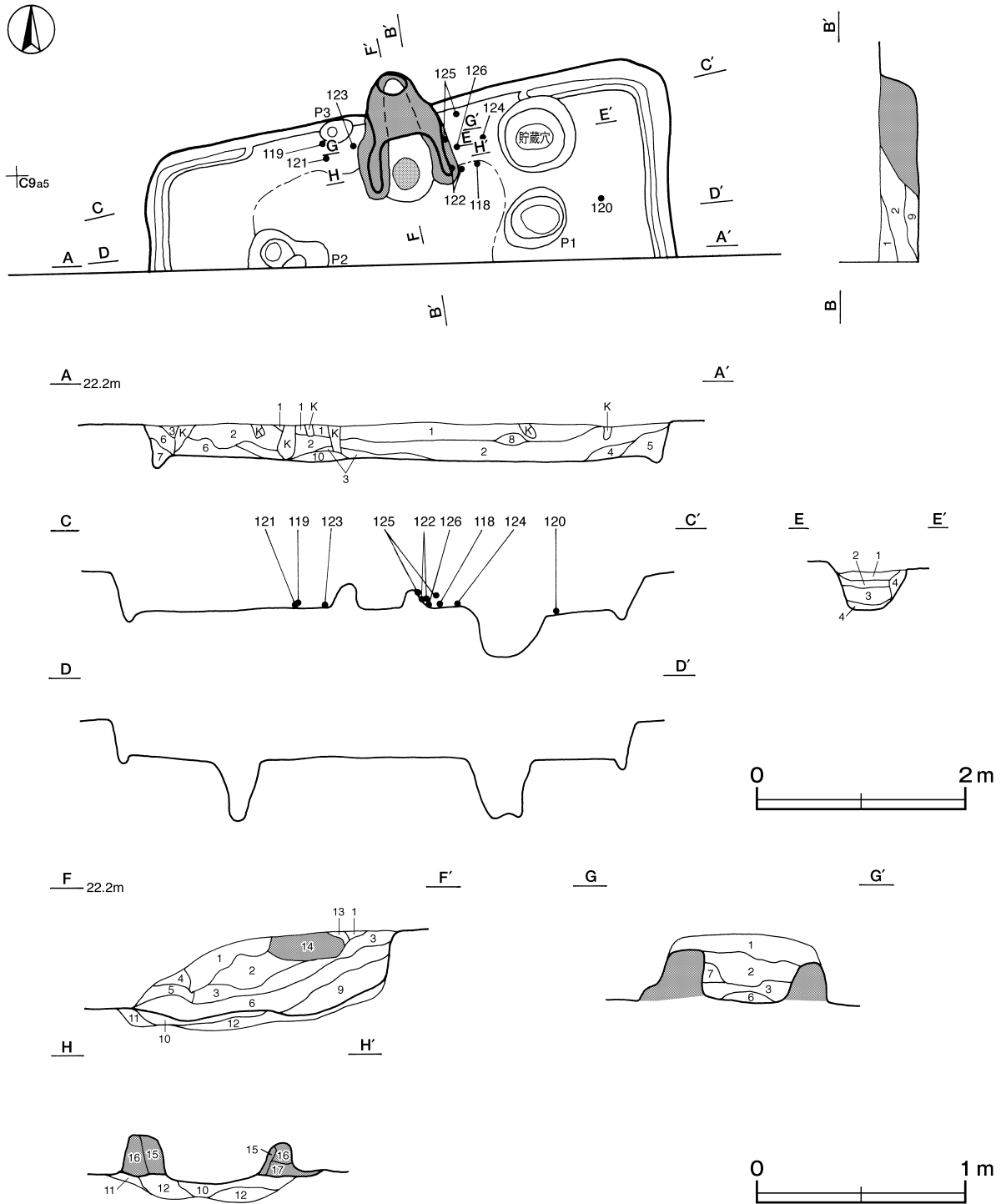
番号	器種	長さ	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP23	玉	2.4	1.1	0.1	2.3	土(長石・石英)	棗状 ナデ 一方向の穿孔	覆土中層	PL189

第2022号住居跡 (第48～50図)

位置 調査区西部のC 9 a5区, 標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 南部は調査区域外であり, 東西軸5.02m, 南北軸は1.92mだけが確認された。主軸方向をN - 8° - Wとする方形または長方形と推定される。壁高は33～35cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 竈前面が踏み固められている。幅11～13cm, 深さ9～11cmで, U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。



第48図 第2022号住居跡実測図

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで124cm、袖部幅90cmであり、天井部の一部が遺存している。袖部は砂質粘土で構築されており、内側は熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面を10cm掘り込んだ後、床面とほぼ同じ高さまで埋め戻して使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に34cm掘り込まれ、火床部から急な傾斜で立ち上がっている。土層中の第14層は、遺存する天井部である。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------------|----------|--------------------------------|
| 1 灰 褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 10 灰 褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 2 灰 褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量, 炭化粒子少量 | 11 にぶい褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 褐 灰色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量 | 12 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 4 灰 褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | 13 灰 褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗 赤褐色 | 焼土ブロック中量, 砂質粘土粒子少量 | 14 灰 褐色 | ロームブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 6 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 15 暗 赤褐色 | 焼土粒子多量, 砂質粘土粒子中量 |
| 7 赤 褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 16 灰 褐色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 8 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 17 にぶい褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 9 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | | |

ピット 2か所。P1は深さ56cm, P2は深さ60cmで,ともに支柱穴である。

貯蔵穴 北東部に位置している。長径75cm, 短径70cmの円形で, 深さは41cmである。底面は皿状で, 壁は外傾して立ち上がり, 覆土は人為堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|---------|-----------|--------|----------------|
| 1 極暗赤褐色 | ローム粒子微量 | 3 暗 褐色 | ローム粒子中量, 炭化物微量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック少量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |

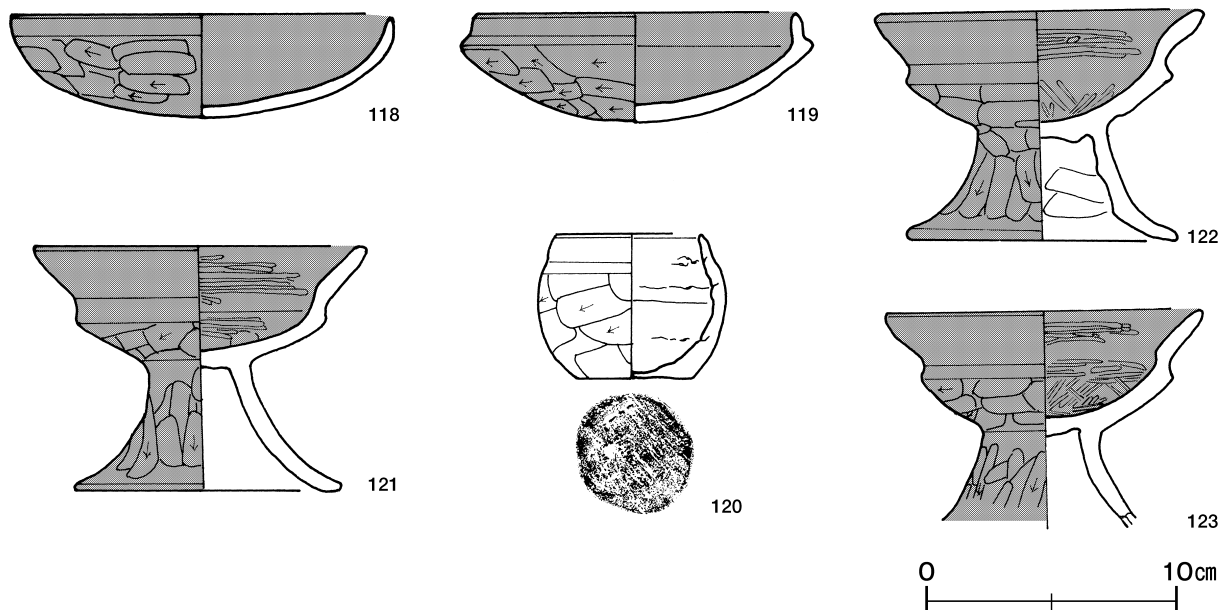
覆土 10層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

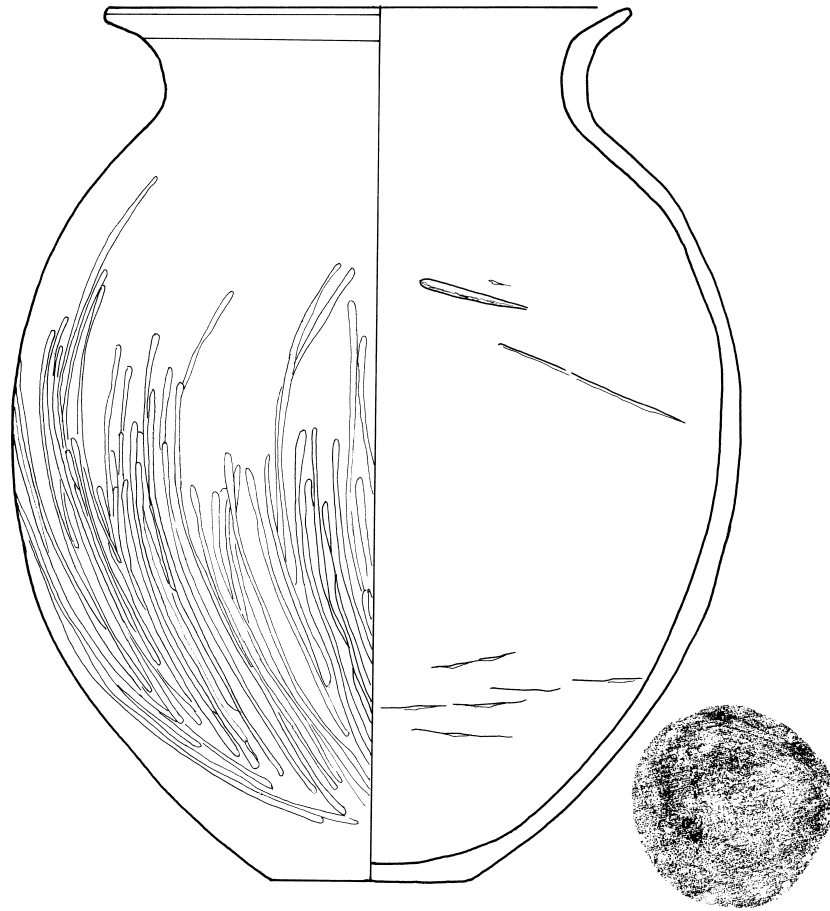
- | | | | |
|--------|--------------------------|----------|--------------------------|
| 1 黒 褐色 | ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量 | 6 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化物微量 | 7 灰 黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗 褐色 | 炭化物・ローム粒子中量 | 8 にぶい黄褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗 褐色 | ロームブロック少量 | 10 極暗赤褐色 | 炭化材中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片324点(坏16, 椀1, 高坏13, 甕類293, 甌1), 鉄製品1点(釘)が竈周辺を中心に出土している。118・122・124・126はいずれも竈右側の床面, 119・121・123は竈左側の床面からそれぞれ出土しており, 住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。125は北壁から落ち込んだ状態で出土し, また120は東壁近くの床面から出土している。

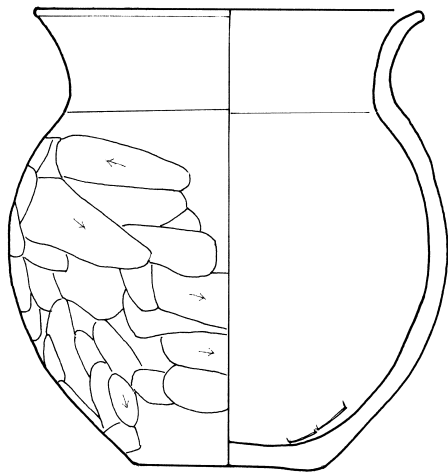
所見 時期は, 出土土器から6世紀後葉と考えられる。



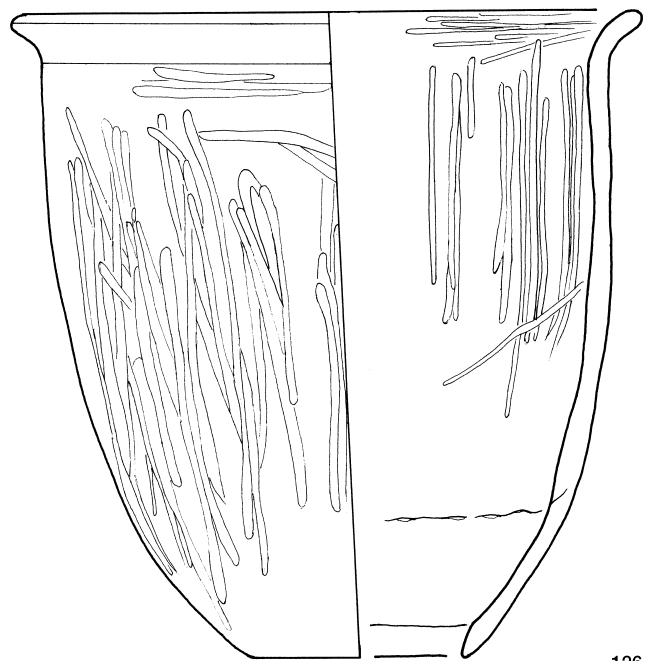
第49図 第2022号住居跡出土遺物実測図(1)



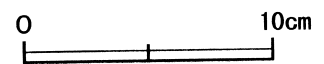
124



125



126



第50图 第2022号住居跡出土遺物実測図(2)

第2022号住居跡出土遺物観察表（第49・50図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
118	土師器	坏	15.0	4.0	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	50%
119	土師器	坏	12.8	4.8	-	長石・石英・雲母	明褐色	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	40%
120	土師器	小形椀	5.8	5.8	4.6	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ 底部外面へラ削り 輪積痕	床面	95% PL169
121	土師器	高坏	13.1	9.9	10.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部外面横ナデ 内面へラ磨き 坏部外面へラ削り 内面へラ磨き 指頭痕 脚部外面へラ削り 内面ナデ	床面	90% PL173
122	土師器	高坏	12.8	9.2	10.7	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部外面横ナデ 内面へラ磨き 坏部外面へラ削り 内面へラ磨き 脚部内外面へラ削り	床面	85% PL173
123	土師器	高坏	12.6	8.6	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部外面横ナデ 内面へラ磨き 坏部外面へラ削り 内面へラ磨き 脚部外面へラ削り 内面ナデ	床面	40%
124	土師器	甕	20.9	34.9	7.7	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ磨き 内面へラナデ 底部外面へラ削り	床面	100% PL180
125	土師器	甕	15.2	18.3	7.4	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面へラナデ	覆土下層	70% PL175
126	土師器	甌	24.6	25.8	8.6	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部外面横ナデ 内面へラ磨き 体部外面へラ磨き 内面へラ磨き 輪積痕	床面	90% PL185

第2023号住居跡（第51・52図）

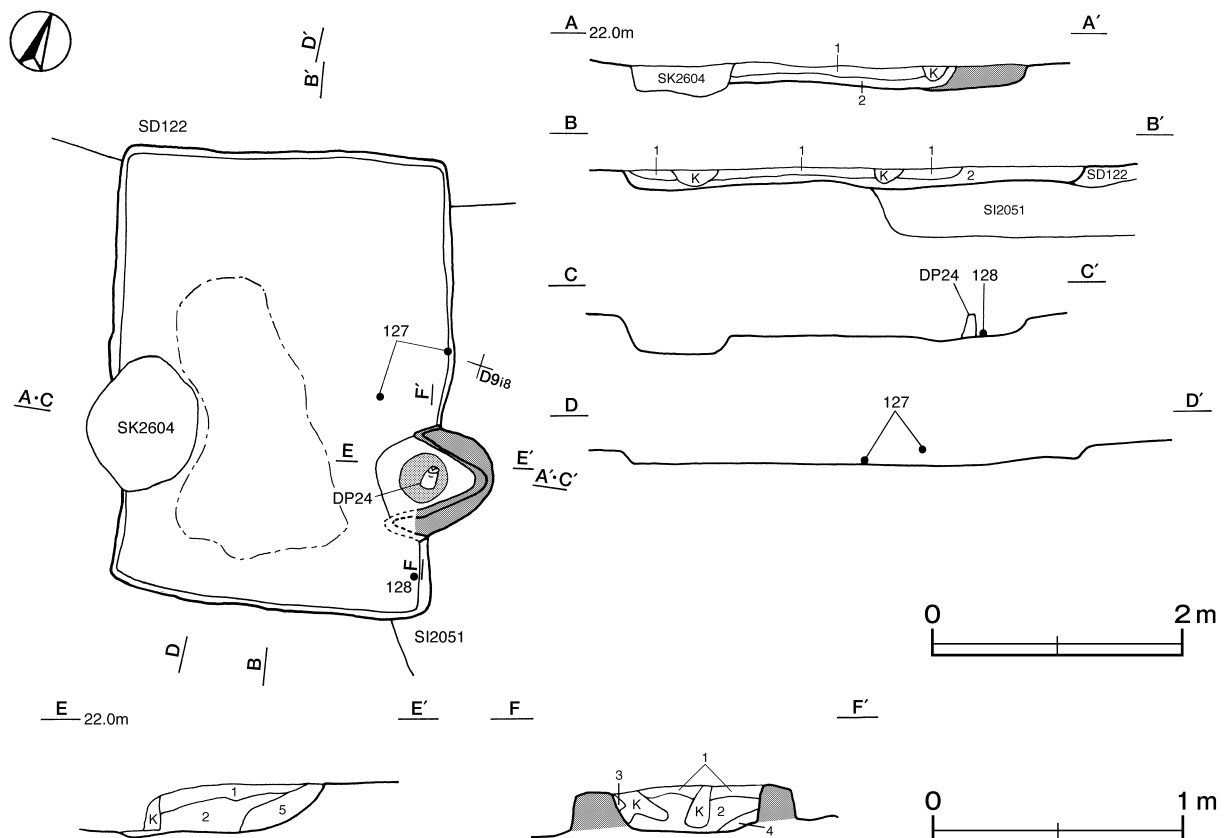
位置 調査区南西部のD9 i7区，標高20.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2051号住居跡，第122号溝跡を掘り込み，第2604号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.65m，短軸2.72mの長方形で，主軸方向はN - 75° - Eである。壁高は10～12cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 東壁中央部の南寄りに付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで94cm，右袖部の大部分は攪乱を受けているが，袖部幅は90cmで，ローム粒子混じりの砂質粘土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に48cm掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。



第51図 第2023号住居跡実測図

竈土層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
- 4 暗褐色 焼土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子少量
- 5 赤黒色 炭化粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子少量

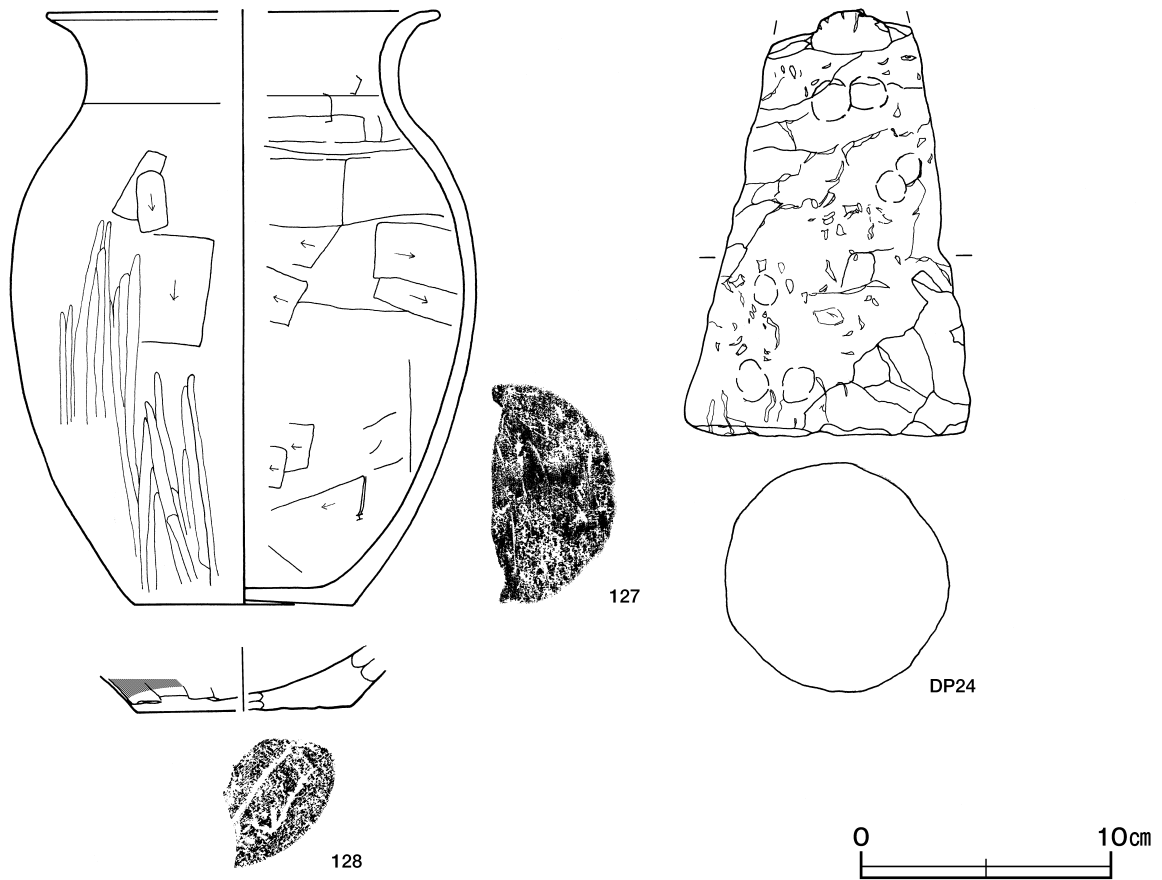
覆土 2層に分けられる。各層にロームブロックを含むが覆土が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 炭化物・砂質粘土粒子少量

遺物出土状況 土師器片111点(坏20, 甕類91), 須恵器5点(坏1, 甕類4), 土製品1点(支脚)のほか, 混入した陶器片1点も出土している。127は東壁寄りの覆土上層と床面, 128は南東コーナー際の床面から出土し, 時期判定の指標となる遺物である。DP24は竈の火床面に直立し, 住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第52図 第2023号住居跡出土遺物実測図

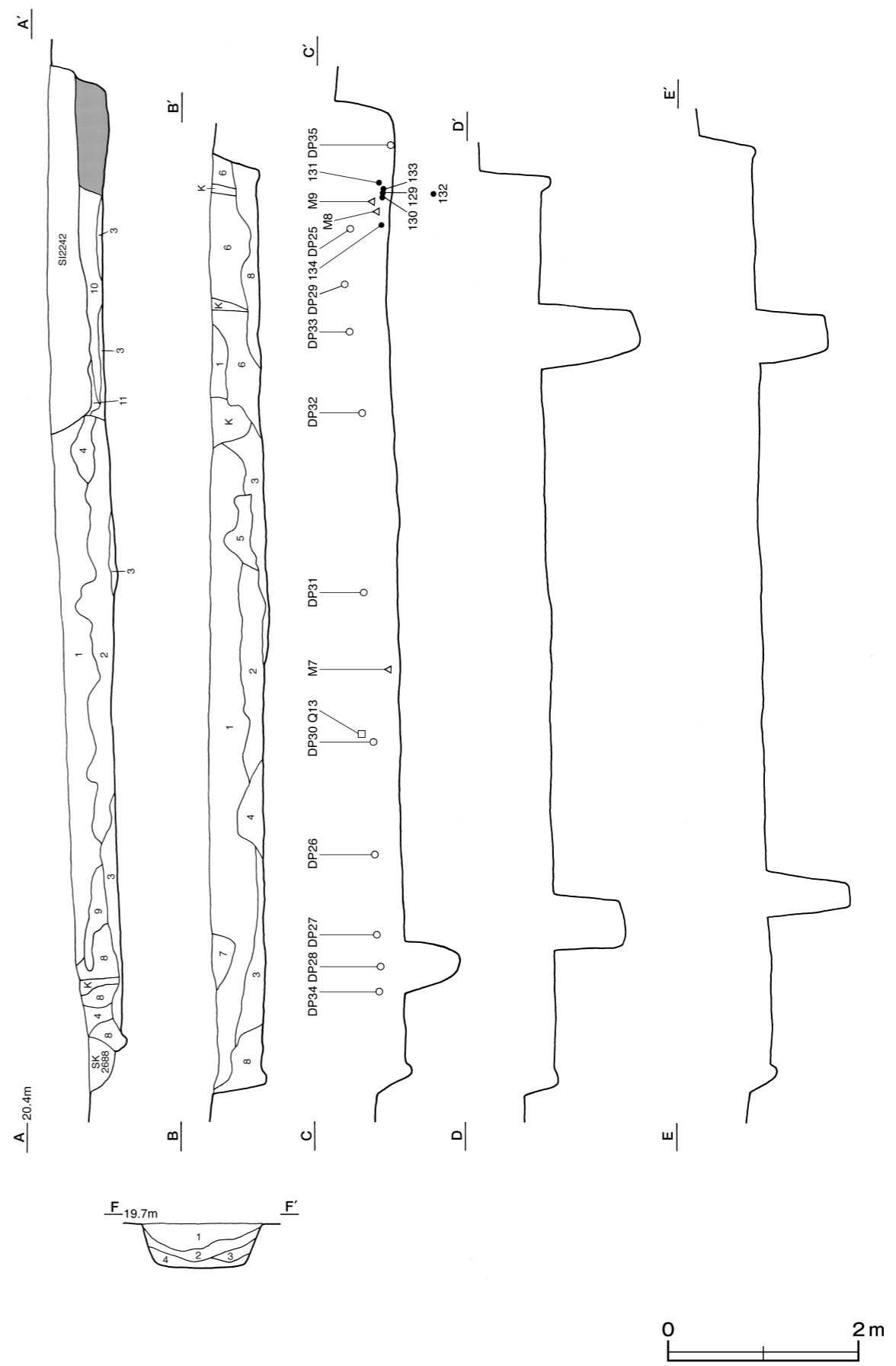
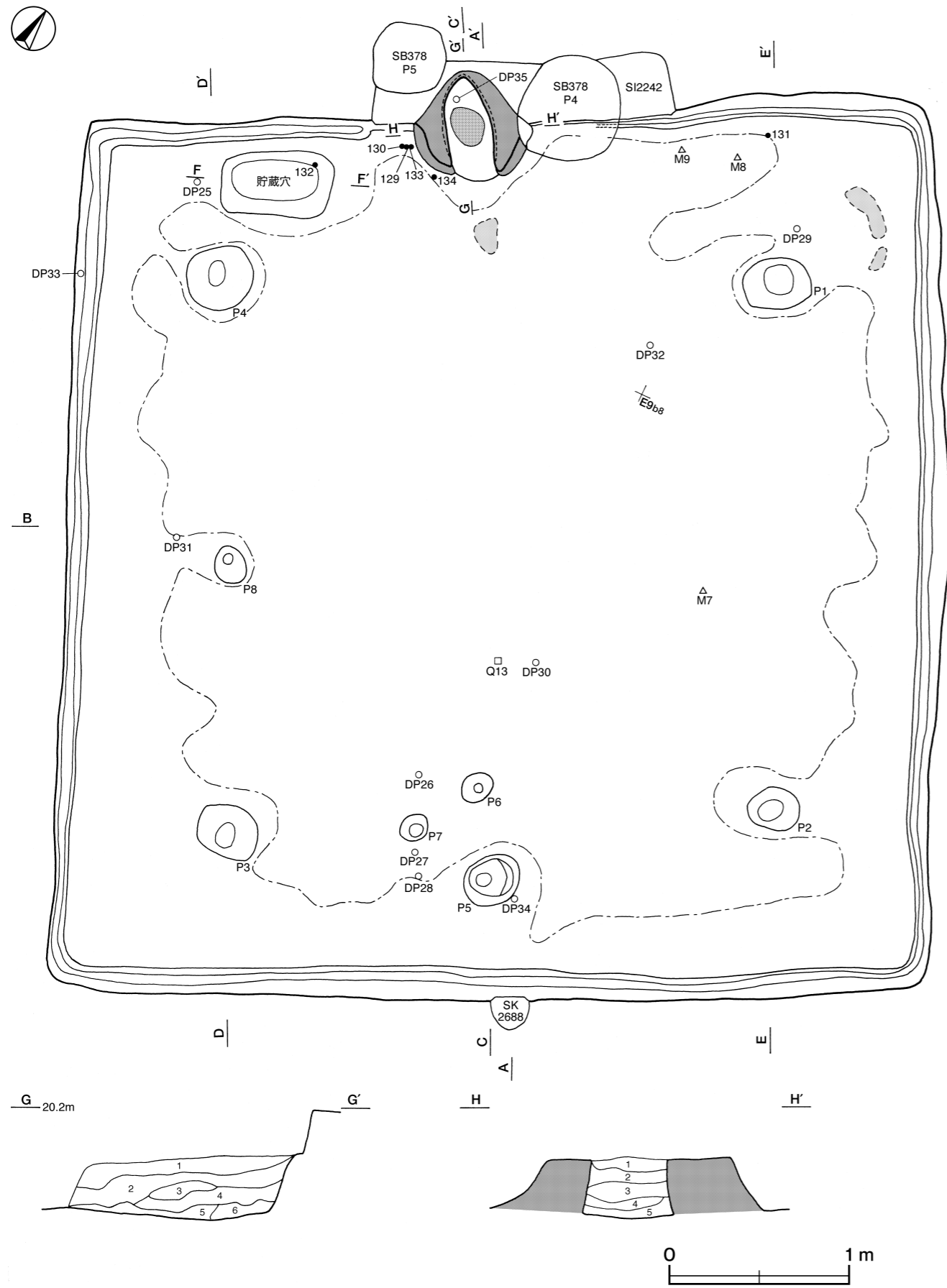
第2023号住居跡出土遺物観察表(第52図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
127	土師器	甕	[15.6]	23.7	8.8	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後縦位のヘラ磨き 内面ヘラナデ	覆土上層・床面	35%
128	土師器	甕	-	(2.4)	[8.4]	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面下端ヘラ削り 内面ナデ 底部木葉痕	床面	5% 外面下端煤付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP24	支脚	(16.9)	15.2	9.1	(1204.5)	土(長石・石英・赤磁子)	ナデ 指頭痕	竈火床面	PL189

第2024号住居跡(第53~55図)

位置 調査区南西部のE 9 b8区, 標高20mほどの南への緩斜面に位置している。



第53图 第2024号住居迹实测图

重複関係 第2242号住居，第378号掘立柱建物，第2672～2677・2679～2685・2688号土坑に掘り込まれている。
規模と形状 長軸9.82m，短軸9.75mの方形で，主軸方向はN - 28° - Wである。壁高は30～67cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，各壁近くまで踏み固められている。壁下には幅12～18cm，深さ3～6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。また，竈前部と北東コーナー部には焼土が堆積している。

竈 北壁中央部に付設されている。第2242号住居に竈上部を，第378号掘立柱建物に右袖部外側を掘り込まれており，遺存する部分の規模は，焚口部から煙道部まで115cmである。火床部は床面と同じ高さであり，火床面は火を受けて赤変硬化している。また，5cmほどの厚みで灰が堆積している。煙道部は壁外に62cm掘り込まれ，火床部から急な傾斜で立ち上がっている。第2・3層は天井部の崩落層である。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------|--------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 4 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック少量 | 5 灰褐色 | 灰多量，焼土ブロック少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量，ロームブロック少量 | 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量 |

ピット 8か所。P1～P4は主柱穴で，深さは75～93cmである。P5は深さ50cmで，南壁際の中央部に位置することや，硬化面の広がりから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P8はP3とP4の中央部に位置していることから，支柱穴と考えられる。P6・P7の性格は不明である。

貯蔵穴 北西部コーナー部に位置している。長軸120cm，短軸73cmの隅丸長方形で，深さは45cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がり，人為堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 4 灰褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | | |
| 3 褐色 | ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子少量 | | |

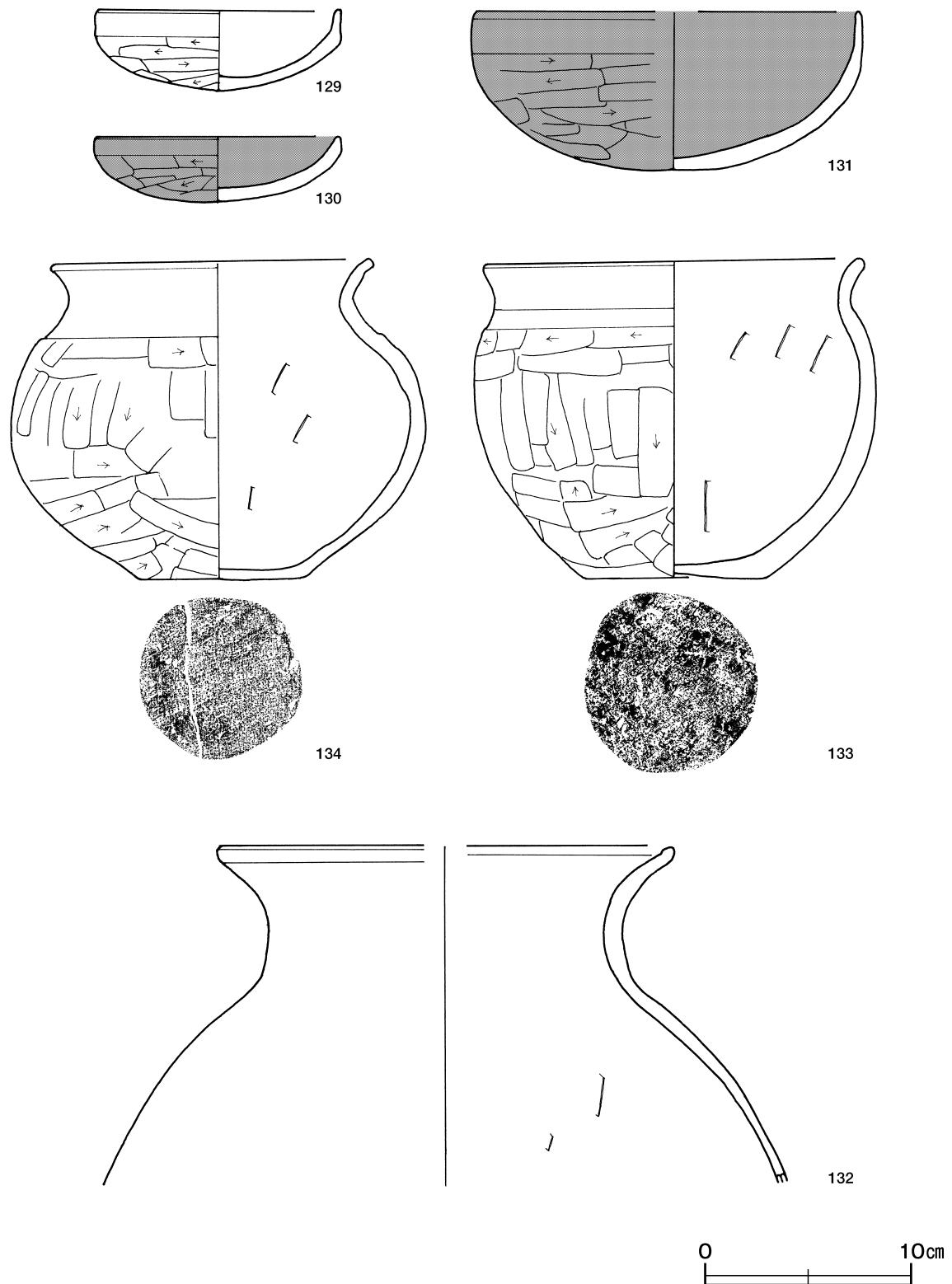
覆土 11層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

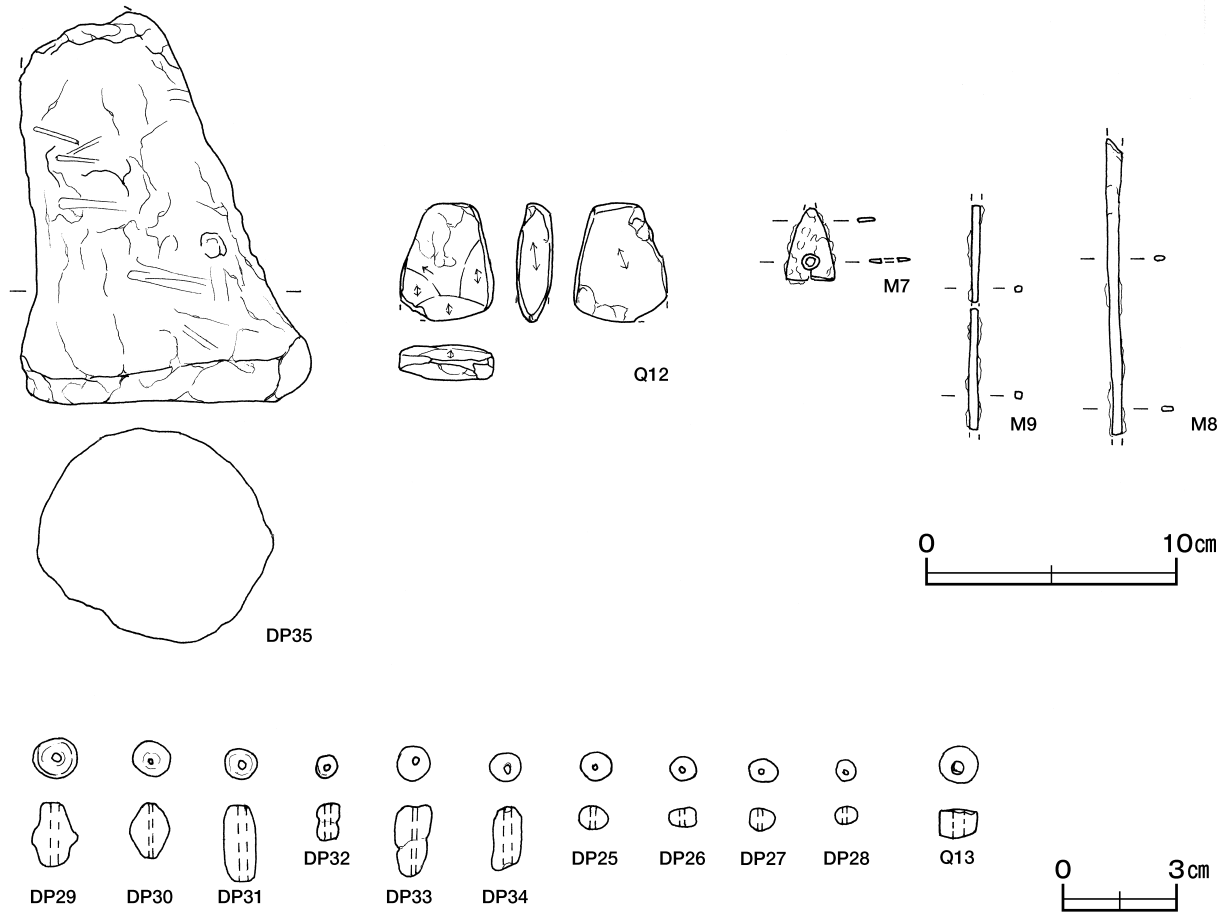
- | | | | |
|-------|------------------------------|--------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量，ロームブロック・焼土粒子少量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化物少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子少量 | 9 褐色 | ロームブロック中量，焼土ブロック少量 |
| 4 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量 | 10 黒褐色 | 炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 5 灰褐色 | 砂質粘土粒子多量，ローム粒子少量 | 11 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 6 褐色 | ローム粒子多量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | | |

遺物出土状況 土師器片5239点(坏1486，椀47，高坏29，甕類3674，手捏土器3)，須恵器片112点(坏36，蓋4，鉢7，壺8，甕類57)，土製品18点(勾玉2，管玉7，玉2，小玉6，支脚1)，石器・石製品4点(砥石1，白玉3)，鉄製品6点(刀子2，鏃2，釘2)が覆土の上層から中層を中心に出土し，竈周辺や北東コーナー部に集中している。遺物数は多量であるが，ほとんどが細片である。また，石2点(雲母片岩)，炉壁1点，椀状滓1点，鉄滓7点も出土しているが，出土層位は床面に堆積した焼土よりも上層であり，住居廃絶後に投棄されたものと考えられる。131は北東コーナー部の床面，133・134は竈左側の床面からそれぞれ出土しており，いずれも住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。129・130は133の内部から重なった状態で出土している。132は貯蔵穴の覆土下層から出土しており，貯蔵穴が埋没する過程で流れ込んだものと考えられる。20点の玉類が出土しているが，出土層位は，DP26・27・28・34が南部，DP29が北東コーナー部，DP30が中央部南寄り，DP31が西部，DP32が北東部，DP25・33が北西コーナー部のいずれも覆土上層であり，住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。DP35は竈の火床面，Q12は南西部の覆土，Q13は中央部南寄りの覆土中層，M7は中央部東寄りの覆土下層，M8・M9は北東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 13区の中で最も広い床面積を有し、集落の中心的な住居と考えられる。床面に焼土が堆積しており、覆土中にも焼土・炭化物が含まれていることから、焼失住居と考えられる。また、炉壁、椀状滓、鉄滓が出土していることから、本跡の周辺には鍛冶関連遺構の存在も想定される。時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第54図 第2024号住居跡出土遺物実測図(1)



第55図 第2024号住居跡出土遺物実測図(2)

第2024号住居跡出土遺物観察表 (第54・55図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
129	土師器	坏	11.5	3.9	-	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	100%
130	土師器	坏	11.6	3.2	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	90%
131	土師器	椀	[18.6]	7.6	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	70%
132	土師器	甕	[22.0]	[16.0]	-	長石・石英・赤色粒子・燻	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部内面へラナデ	貯蔵穴 覆土下層	10%
133	土師器	小形甕	18.1	15.4	9.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り後ナデ 内面へラナデ	床面	95% PL175
134	土師器	小形甕	15.1	15.5	8.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り後ナデ 内面へラナデ	覆土下層	90%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP25	小玉	0.8	0.7	0.1	0.4	土(石英)	ナデ 一方向の穿孔	覆土上層	PL190
DP26	小玉	0.8	0.5	0.1	0.3	土(石英)	ナデ 一方向の穿孔	覆土上層	PL190
DP27	小玉	0.8	0.6	0.1	0.4	土(長石・石英)	ナデ 一方向の穿孔	覆土上層	PL190
DP28	小玉	0.6	0.5	0.1	0.2	土(石英)	ナデ 一方向の穿孔	覆土上層	PL190
DP29	管玉	1.2	1.7	0.2	1.9	土(長石・石英)	棗状 ナデ 一方向の穿孔	覆土上層	PL189
DP30	管玉	1.0	1.5	0.2	1.2	土(長石・石英)	棗状 ナデ 一方向の穿孔	覆土上層	PL189
DP31	管玉	0.8	2.1	0.2	1.7	土(長石・石英)	ナデ 一方向の穿孔	覆土上層	PL189
DP32	管玉	0.6	1.0	0.2	0.4	土(石英)	ナデ 一方向の穿孔	覆土上層	PL189
DP33	管玉	0.9	1.9	0.1	1.5	土(長石・石英)	ナデ 一方向の穿孔	覆土上層	PL189
DP34	管玉	0.8	1.7	0.2	1.0	土(長石・石英)	ナデ 一方向の穿孔	覆土上層	PL189

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP35	支脚	(16.6)	11.5	8.6	(1131.6)	土(長石・石英)	ナデ	竈火床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q12	砥石	4.7	3.7	1.3	(27.4)	凝灰岩	砥面4面	覆土中層	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q13	白玉	1.1	0.8	0.3	1.4	滑石	ナデ 一方向の穿孔	覆土中層	PL194

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M7	鏃	(3.0)	1.9	0.1	(5.9)	鉄	茎部欠損 長三角形 透孔有り	覆土下層	
M8	鏃	(11.8)	0.5	0.2	(5.8)	鉄	鏃身部欠損 断面長方形	覆土下層	
M9	釘カ	[9.0]	0.3	0.3	(5.0)	鉄	頭部欠損 断面長方形の棒状	覆土下層	

第2025号住居跡 (第56・57図)

位置 調査区南西部のE9c5区、標高20mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2193号住居跡を掘り込み、第2014号住居、第2032・2742～2744号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 一辺4.75mの方形で、主軸方向はN-19°-Wである。壁高は17～25cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり、中央部が踏み固められている。西壁下、南西コーナー部を除いて、幅14～18cm、深さ6～8cmで、U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。また、東壁際の床面に10cmほどの厚みを有する焼土が堆積している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで96cm、袖部幅118cmである。袖部は砂質粘土を用いて構築されている。火床部は床面を15cm掘り込んだ後、床面よりやや低い高さまで埋め戻して使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。左袖内部から土師器甕片が出土しており、袖の補強材として使用していたと考えられる。煙道部は壁外に22cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

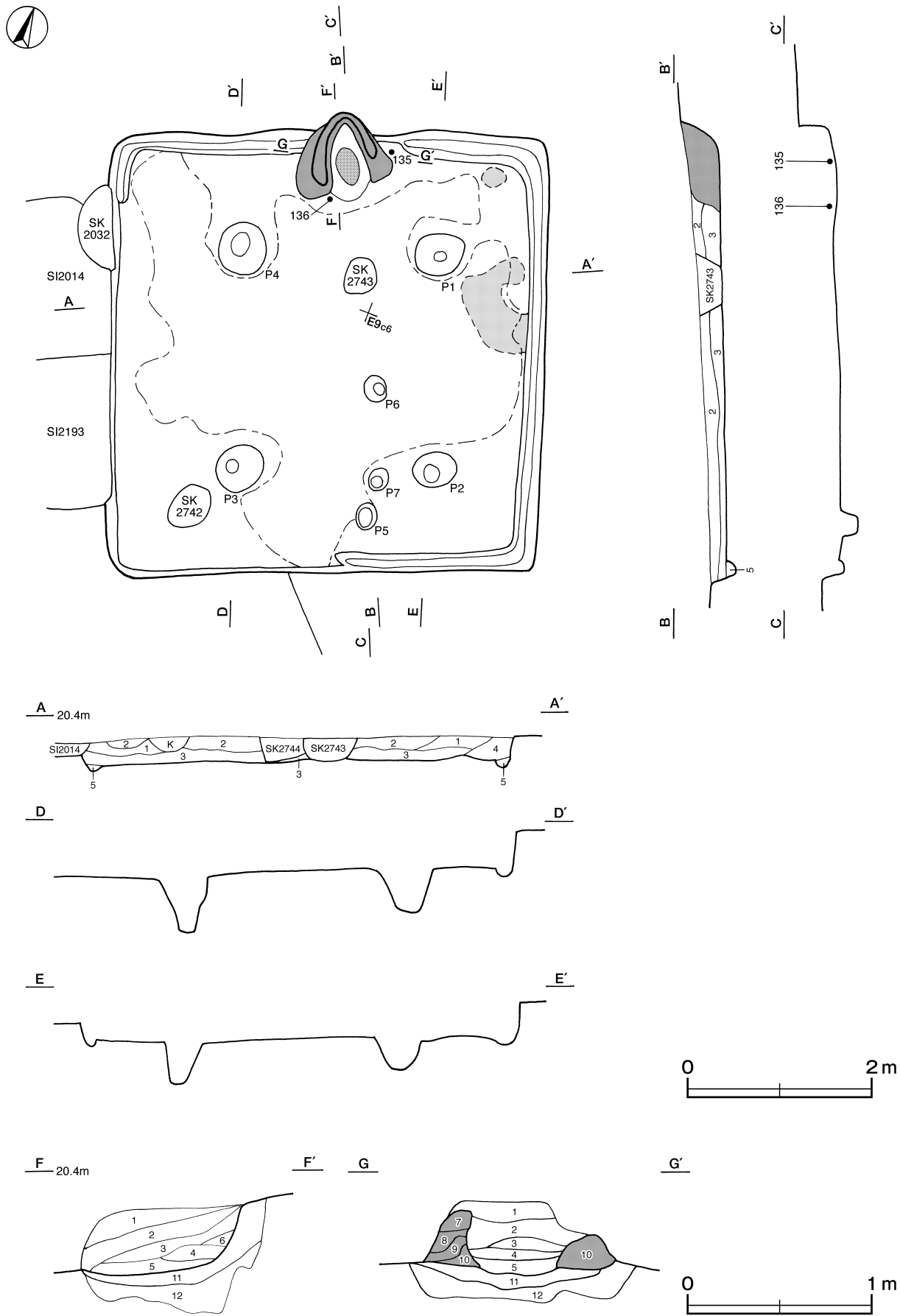
1 褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック少量	6 暗赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	7 灰褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量
3 灰褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	8 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・砂質粘土粒子少量
4 灰褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化物少量	9 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子・砂質粘土粒子少量
5 暗褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子少量	10 灰褐色	砂質粘土粒子多量、ロームブロック少量
		11 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子・砂質粘土粒子少量
		12 暗褐色	ロームブロック少量

ピット 7か所。P1～P4は主柱穴で、深さは33～57cmである。P5は深さ18cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから見て、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7の性格は不明である。

覆土 5層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

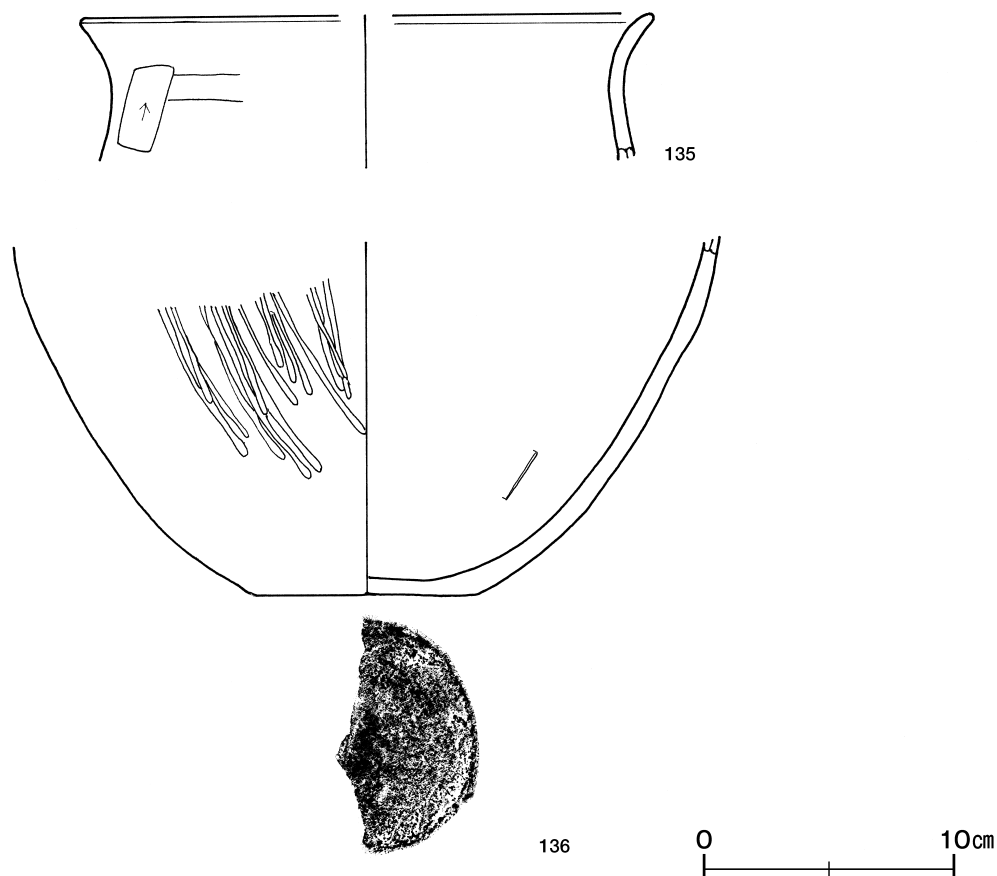
1 黒褐色	ロームブロック中量 焼土ブロック・炭化粒子少量	4 極暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量
2 黒褐色	炭化物・ローム粒子中量、焼土粒子少量	5 暗褐色	ロームブロック少量
3 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量		



第56图 第2025号住居跡実測图

遺物出土状況 土師器片491点（坏161，甕類330），須恵器片2点（坏，甕類），土製品2点（支脚），石器1点（砥石），石製品1点（白玉），種子1点（桃）が，覆土中層を中心に散在した状態で出土している。出土遺物数は多いが，ほとんどが小破片である。135は竈袖部右側，136は竈前部のいずれも覆土下層から出土してる。床面に焼土が堆積しており，多くの土器片は焼土面よりも高い位置から出土しており，焼失による住居廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見 東壁際の床面に焼土が堆積しており，土層中にも焼土，炭化物が含まれていることから，廃絶に伴う焼失住居と考えられる。時期は，出土土器および重複関係から7世紀前葉と考えられる。



第57図 第2025号住居跡出土遺物実測図

第2025号住居跡出土遺物観察表（第57図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
135	土師器	甕	[22.4](5.7)	-	-	石英・雲母・微礫	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ	覆土下層	5%
136	土師器	甕	-	(14.0)	9.1	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	覆土下層	10%

第2026号住居跡（第58・59図）

位置 調査区南西部のE9f6区，標高19.5mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2025号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.35m，短軸5.27mの方形で，主軸方向はN-32°-Wである。壁高は24～52cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、北西壁際と南東壁際を除いて踏み固められている。第2052号住居に掘り込まれている部分を除いて、幅20～26cm、深さ4～7cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。また、床面の中央部に20cmほどの厚みを有する焼土が堆積している。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで107cm、袖部幅101cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面にローム混じりの砂質粘土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に35cm掘り込まれ、火床部から急な傾斜で立ち上がっている。第2・3層は、天井部の崩落層である。

竈土層解説

1 褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量	9 灰褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2 灰褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	10 にぶい黄橙色	砂質粘土粒子多量, ローム粒子中量, 焼土粒子少量
3 暗赤褐色	焼土粒子多量, 炭化粒子中量, 砂質粘土粒子少量	11 明赤褐色	焼土粒子中量, ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化物微量
4 灰褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック少量	12 褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・砂質粘土粒子微量
5 暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量	13 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
6 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量		
7 灰褐色	ロームブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子少量		
8 暗赤褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量		

ピット 7か所。P1～P4は主柱穴で、深さは51cm～55cmである。P5は深さ20cmで、竈と対峙する南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ24cmであり、住居の中央部に位置していることから、支柱穴と考えられる。P7の性格は不明である。

貯蔵穴 北東部に位置している。長径95cm、短径73cmの楕円形で、深さは48cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土中に焼土を中量含む層があることから、住居焼失時に埋没したと考えられる。

貯蔵穴土層解説

1 褐色	ロームブロック少量	3 暗褐色	焼土粒子中量, ロームブロック・炭化物少量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	4 暗褐色	ロームブロック少量

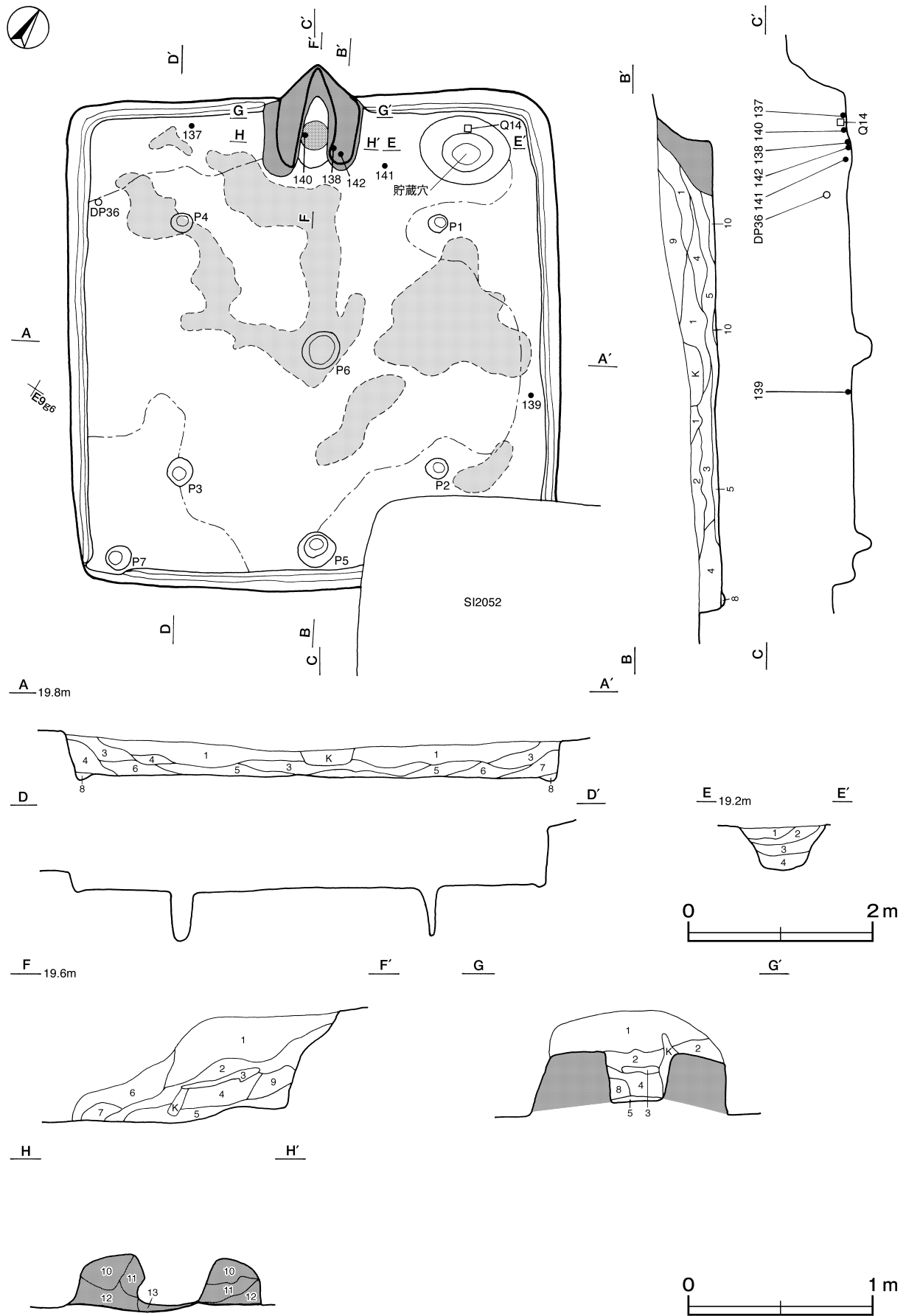
覆土 10層に分けられる。下層に焼土、炭化物が堆積し、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

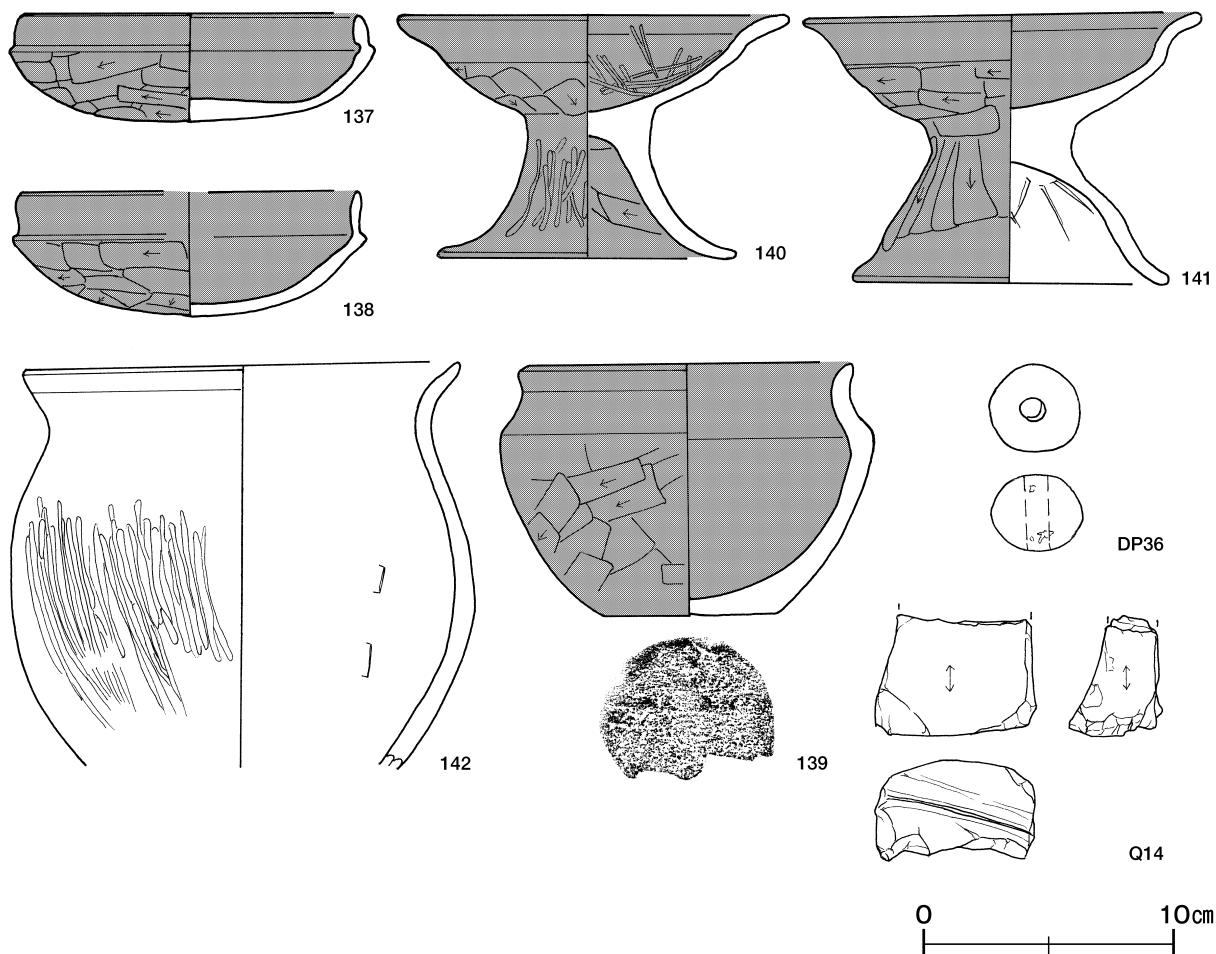
1 極暗赤褐色	炭化粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
2 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子・粘土粒子微量	8 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
4 黒褐色	ロームブロック中量, 炭化物・粘土粒子微量	9 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物中量, ロームブロック少量	10 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量, 粘土粒子微量

遺物出土状況 土師器片414点(坏79, 椀1, 高坏13, 甕321), 須恵器片2点(坏2), 土製品1点(球状土錘), 石器1点(砥石)が散在した状態で出土している。また、混入した縄文土器片3点も出土している。140は竈内から逆位で出土しており、支脚として使用されたものと考えられる。141は竈右側の床面から出土しており、住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。138・142は竈右袖部内から出土しており、袖の補強材として使用されていたと考えられる。137は北壁際、139は東壁際の床面からそれぞれ出土している。Q14は貯蔵穴の覆土上層、床面とほぼ同じ高さから出土しており、貯蔵穴の埋没後に投棄されたものと考えられる。また、DP36は西壁際の覆土下層から出土している。遺物のほとんどは床面の焼土よりも高い位置から出土しており、焼失による住居の廃絶後に投棄されたと考えられる。

所見 覆土下層に焼土や炭化物が堆積しており、埋め戻した痕跡が認められることから、廃絶に伴う焼失住居と考えられる。また、P1～P4の覆土には、焼土、炭化物が中量以上含まれており、焼け残った柱を抜き取った可能性が考えられる。時期は、出土土器および重複関係から6世紀後葉と考えられる。



第58图 第2026号住居跡実测图



第59図 第2026号住居跡出土遺物実測図

第2026号住居跡出土遺物観察表 (第59図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
137	土師器	坏	13.4	4.3	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデ	床面	60% PL153
138	土師器	坏	[13.4]	4.9	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	竈袖	90%
139	土師器	椀	13.0	9.9	7.0	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	45% PL169
140	土師器	高坏	15.3	9.7	11.7	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部外面横ナデ 内面へラ磨き 坏部外面へラ削り 内面へラ磨き 脚部外面へラ磨き 内面ナデ	竈内	95% PL173
141	土師器	高坏	15.4	10.8	12.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 坏部外面へラ削り 内面ナデ 脚部外面へラ削り 内面へラナデ 裾部内外面横ナデ	床面	90% PL173
142	土師器	甕	17.1	(16.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ磨き 内面へラナデ	竈袖	80%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP36	球状土錘	3.7	2.9	0.9	37.5	土(長石・石英)	へラナデ 一方向の穿孔	覆土下層	PL189

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q14	砥石	(4.8)	6.4	3.9	(135.4)	砂岩	砥面4面 うち1面は溝状の研磨痕有り 上部欠損	貯蔵穴 覆土上層	

第2027号住居跡 (第60・61図)

位置 調査区南西部のE 9 g 6区, 標高19.5mほどの南への緩斜面に位置している。

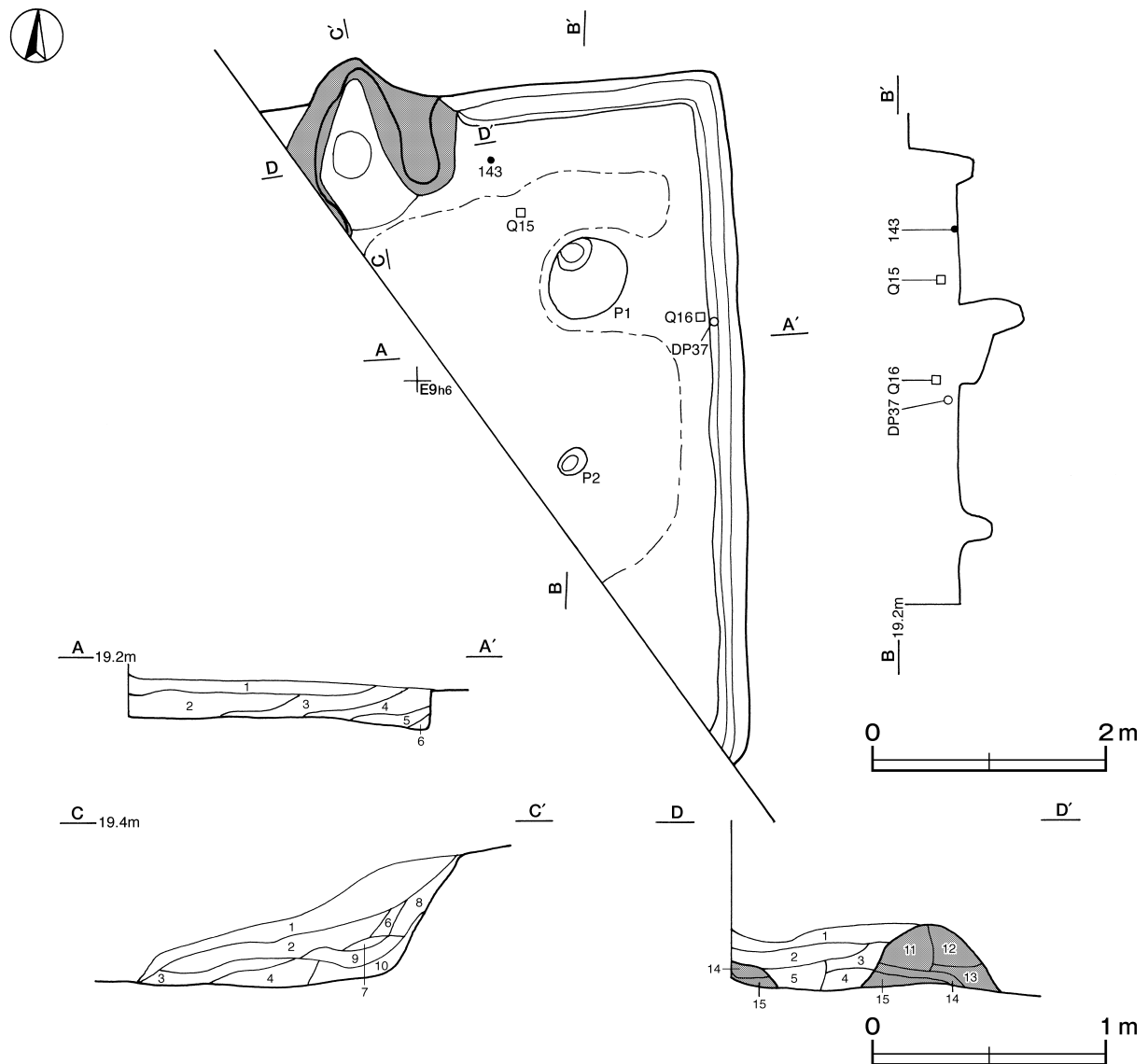
規模と形状 南西部は調査区域外であり, 南北軸5.88m, 東西軸は3.85mだけが確認された。主軸方向をN - 11° - Wとする方形または長方形であると考えられる。壁高は32~40cmで, ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦であり、中央部が踏み固められている。確認された部分の壁下には、幅13~22cm、深さ12cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。左袖部は調査区域外に延びており、確認された部分の規模は、焚口部から煙道部まで143cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており、火を受けてやや赤変している。また、15cmほどの厚みで灰が堆積している。煙道部は壁外に35cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|------------------------------------|--|
| 1 灰褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量 | 9 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子中量, ローム粒子少量 |
| 2 灰褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子中量, 炭化粒子少量 | 10 暗褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子中量 |
| 3 灰褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 11 灰褐色 砂質粘土粒子多量, ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 4 灰褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化ブロック少量 | 12 灰褐色 砂質粘土粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 5 にぶい橙色 灰多量, 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 13 灰褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子中量, ロームブロック・炭化物少量 |
| 6 暗赤褐色 ロームブロック・焼土粒子中量, 砂質粘土粒子少量 | 14 褐色 炭化物・ローム粒子中量, 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 7 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子中量 | 15 黄褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子中量 |
| 8 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | |



第60図 第2027号住居跡実測図

ピット 南西部は調査区域外であり、2か所だけが確認できた。P1は主柱穴で、深さは56cmである。P2の性格は不明である。

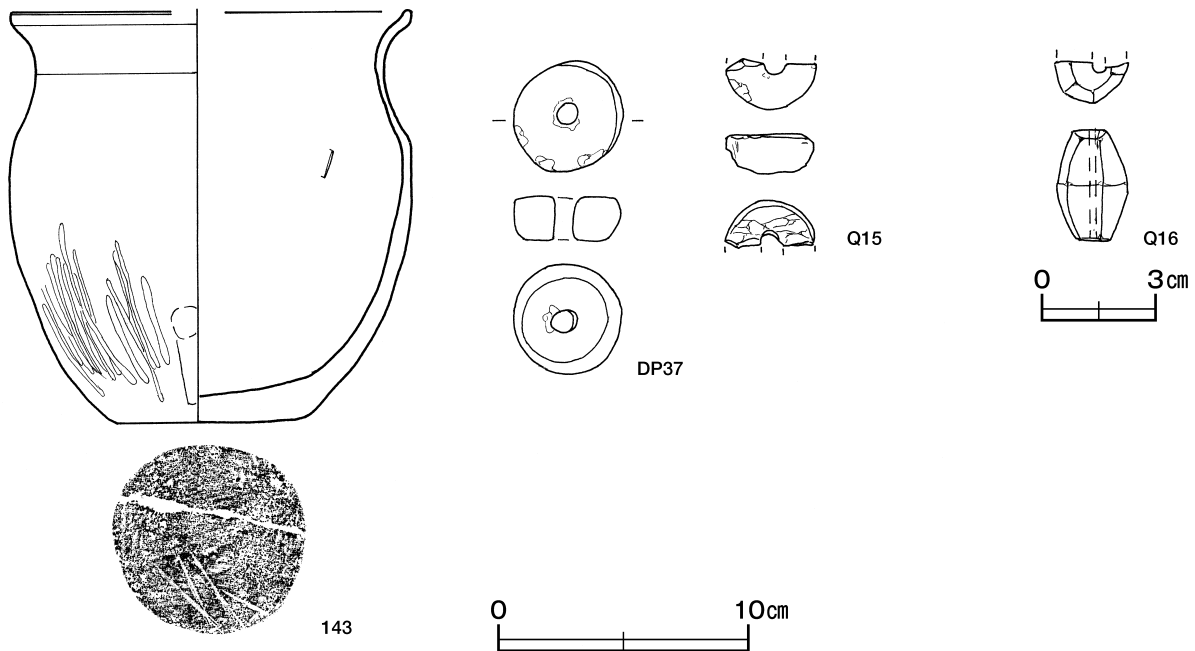
覆土 6層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化ブロック微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片268点(坏64, 高台付坏1, 甕類203), 須恵器片2点(坏, 甕), 土製品6点(支脚5, 紡錘車1), 石製品2点(紡錘車, 切子玉)が散在した状態で出土しており, 遺物のほとんどは細片である。また, 混入した縄文土器片1点も出土している。143は竈右側の床面からつぶれた状態で出土しており, 住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。DP37は東壁際の覆土下層, Q15は北東部, Q16は東壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第61図 第2027号住居跡出土遺物実測図

第2027号住居跡出土遺物観察表 (第61図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
143	土師器	甕	[15.8]	16.3	7.7	長石・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 指頭痕 内面ナデ 底部外面ヘラ削り	床面	55%
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
DP37	紡錘車	4.3	1.8	0.9	37.5	土(長石・石英・雲母)	ヘラナデ 円錐台形		覆土下層	PL193	
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q15	紡錘車	3.6	1.6	0.8	(13.0)	滑石	ナデ 円錐台形 軸欠損		覆土中層		
Q16	切子玉	2.9	1.9	0.2	(7.0)	水晶	一方向の穿孔 6面体		覆土中層	PL194	

第2028号住居跡（第62・63図）

位置 調査区南西部のD9 a9区，標高21mほどの南への緩斜面に位置している。

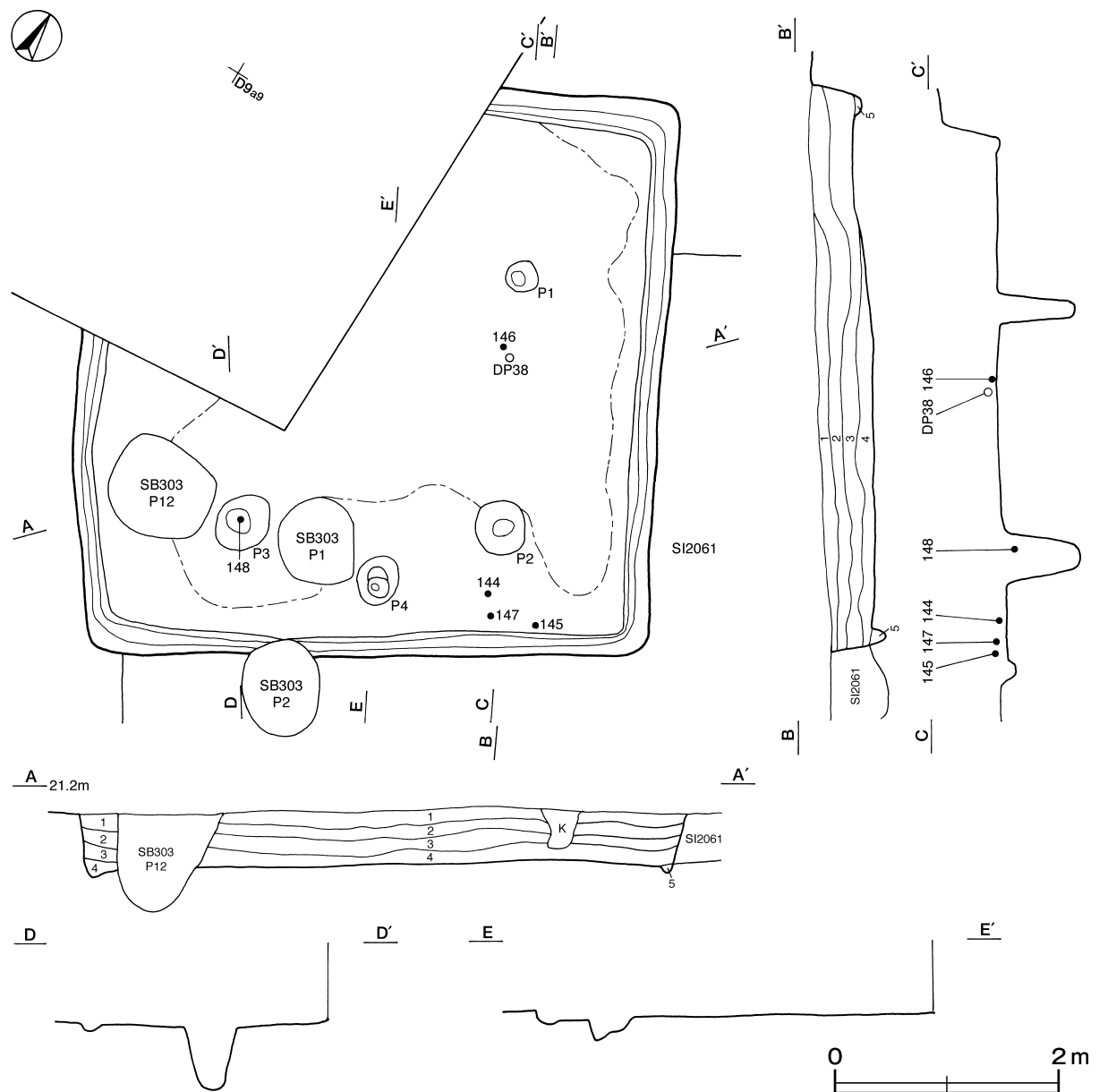
重複関係 第2061号住居跡を掘り込み，第303号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 北西部は，調査区域外へ延びている。長軸5.15m，短軸5.05mほどの方形で，主軸方向はN - 28° - Wである。壁高は39~50cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，中央部および東部が踏み固められている。幅14~18cm，深さ3~8cmで，U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

ピット 4か所。P1~P3は支柱穴で，深さは57~70cmである。P4は深さ18cmで，南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。



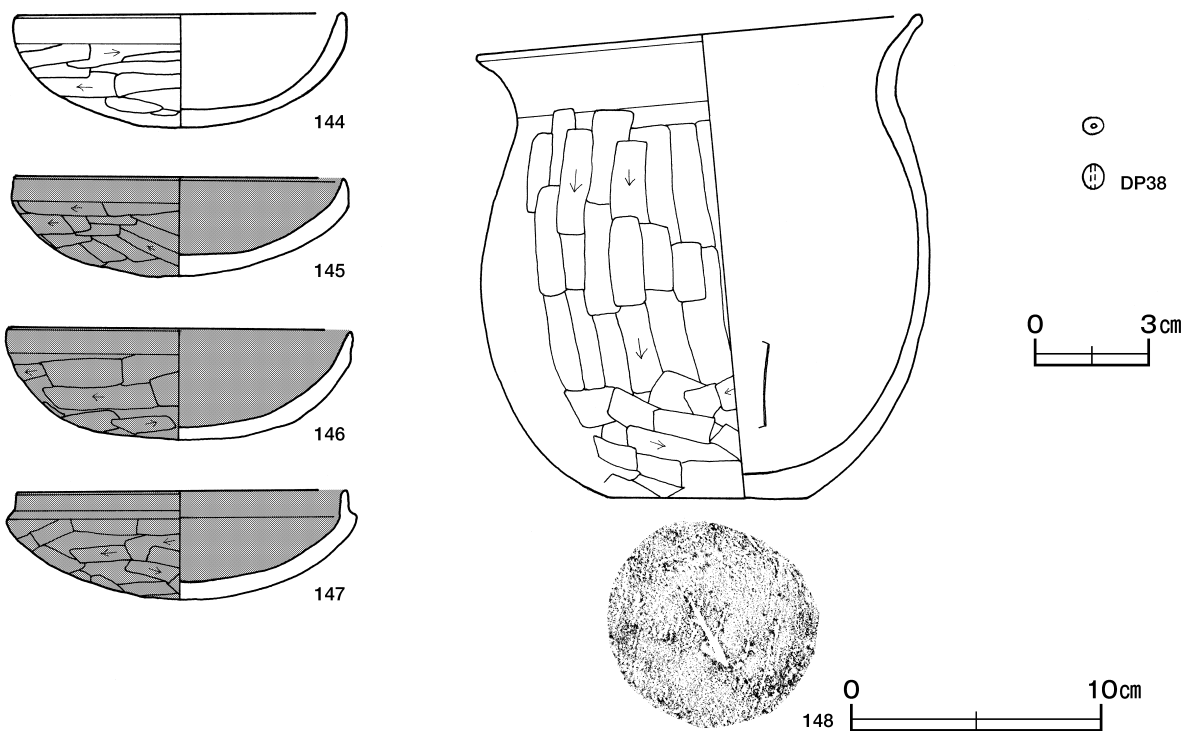
第62図 第2028号住居跡実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
 2 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
 3 褐色 ロームブロック多量
 4 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子微量
 5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片1115点(坏267, 高坏13, 甕類830, 甕2, 手捏土器3), 須恵器片24点(坏11, 甕類13), 土製品2点(小玉1, 支脚1), 石製品1点(臼玉)が散在した状態で出土している。また, 混入した縄文土器片1点も出土している。146は中央部の床面から出土しており, 住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。148はP3の覆土上層から出土しており, 柱抜き取り後に投棄されたものと考えられる。144・145・147はいずれも南壁際の覆土下層から出土している。また, DP38は中央部の覆土下層から出土している。

所見 時期は, 出土土器および重複関係から6世紀後葉と考えられる。



第63図 第2028号住居跡出土遺物実測図

第2028号住居跡出土遺物観察表(第63図)

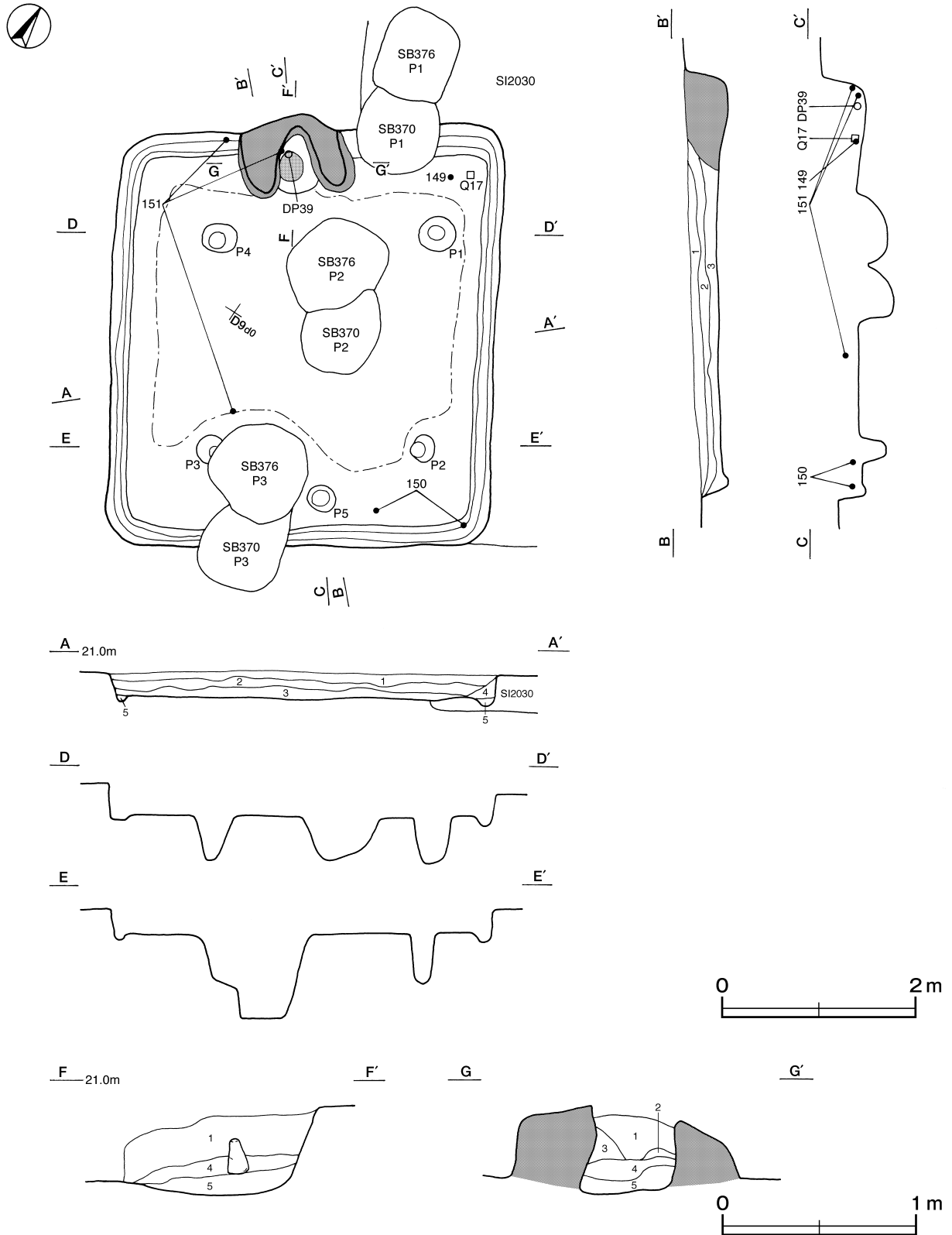
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
144	土師器	坏	12.9	4.6	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土下層	100% PL153
145	土師器	坏	13.0	3.9	-	長石・石英	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土下層	95% PL153
146	土師器	坏	13.5	4.4	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	95% PL153
147	土師器	坏	13.0	4.3	-	石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土下層	95% PL153
148	土師器	甕	17.6	18.7	8.0	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り後ナデ 内面へラナデ 底部外面へラ削り	P3覆土上層	95% PL175

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP38	小玉	0.6	0.7	0.1	0.3	土(長石・石英)	ナデ 一方向の穿孔	覆土下層	PL190

第2029号住居跡（第64～66図）

位置 調査区南西部のD 9 d0 区，標高20.5mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2030号住居跡を掘り込み，第370・376号掘立柱建物に掘り込まれている。



第64図 第2029号住居跡実測図

規模と形状 長軸4.27m，短軸3.97mの方形で，主軸方向はN - 35° - Wである。壁高は22～47cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅14～22cm，深さ7～9cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで82cm，袖部幅122cmであり，袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面を皿状に掘りくぼめて使用しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ19cm掘り込まれ，火床面から急な傾斜で立ち上がっている。第1・2層は，天井部の崩落層である。

竈土層解説

- | | | | |
|-----------|----------------------------|-----------|---------------------|
| 1 灰 褐 色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量 | 4 暗 赤 褐 色 | 焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量 |
| 2 明 赤 褐 色 | 焼土ブロック中量 | 5 灰 赤 褐 色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子・灰中量 |
| 3 灰 褐 色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量 | | |

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で，深さは31～57cmである。P5は深さ27cmで，南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

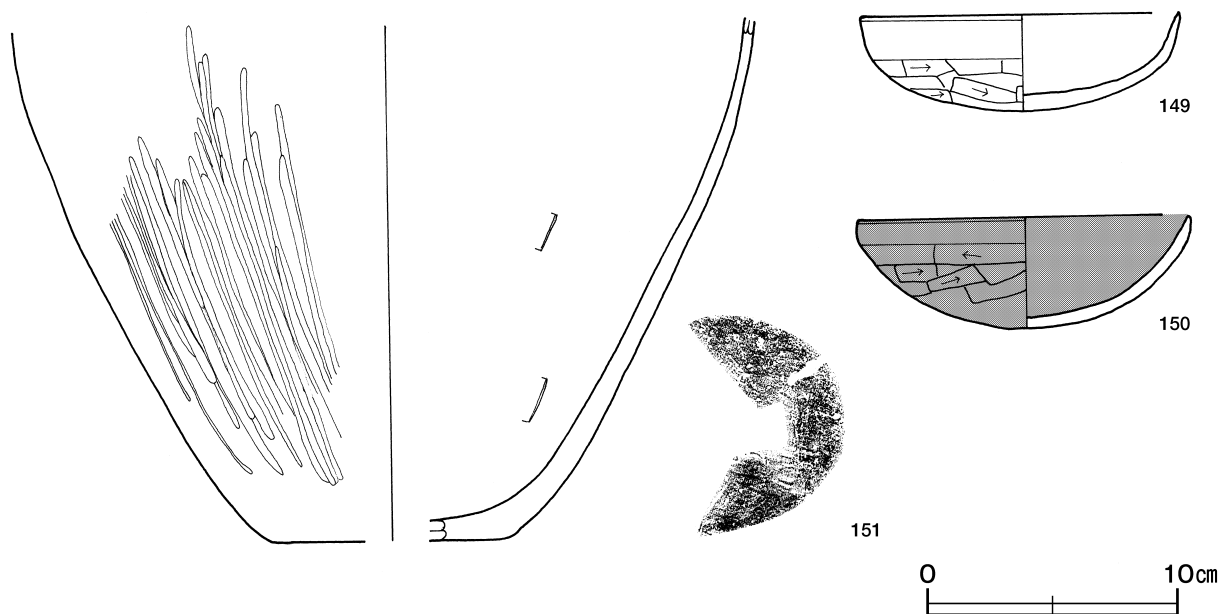
覆土 5層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

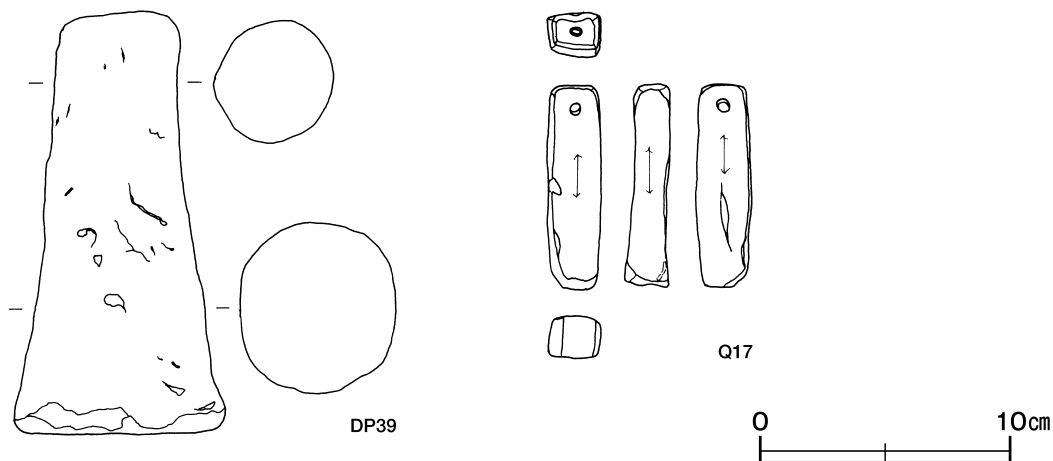
- | | | | |
|---------|-----------------------|---------|------------------|
| 1 褐 色 | ロームブロック中量 | 4 褐 色 | ロームブロック中量，焼土粒子少量 |
| 2 褐 色 | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 3 暗 褐 色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片305点（坏53，高坏3，甕249），土製品1点（支脚），石器1点（砥石），鉄製品7点（刀子1，鉄滓6）が散在した状態で出土している。また，混入した須恵器片32点も出土している。149は北東コーナー部の床面から出土しており，住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。150は南東コーナー部の覆土下層から出土した土器が接合したものであり，151は竈覆土および竈左側の覆土下層，南西部の覆土中層から出土した土器が接合したものである。いずれも住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器および重複関係から7世紀前葉と考えられる。



第65図 第2029号住居跡出土遺物実測図(1)



第66図 第2029号住居跡出土遺物実測図(2)

第2029号住居跡出土遺物観察表 (第65・66図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
149	土師器	坏	12.6	3.9	-	石英・雲母	灰黄褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	床面	85% PL154
150	土師器	坏	13.2	4.4	-	石英・雲母	にぶい褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ナデ	覆土下層	60% PL154
151	土師器	甕	-	(20.4)	[8.8]	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	竈覆土	35%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP39	支脚	16.8	8.4	7.2	827.4	土(長石)	ナデ にぶい橙色	竈火床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q17	砥石	8.2	2.3	1.8	42.3	凝灰岩	砥面4面 上部に穿孔有り	覆土下層	PL195

第2030号住居跡 (第67~71図)

位置 調査区南西部のD9c0区, 標高20.5mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2029・2041号住居, 第370・376・377号掘立柱建物, 第14号柵, 第2749号土坑に掘り込まれている。

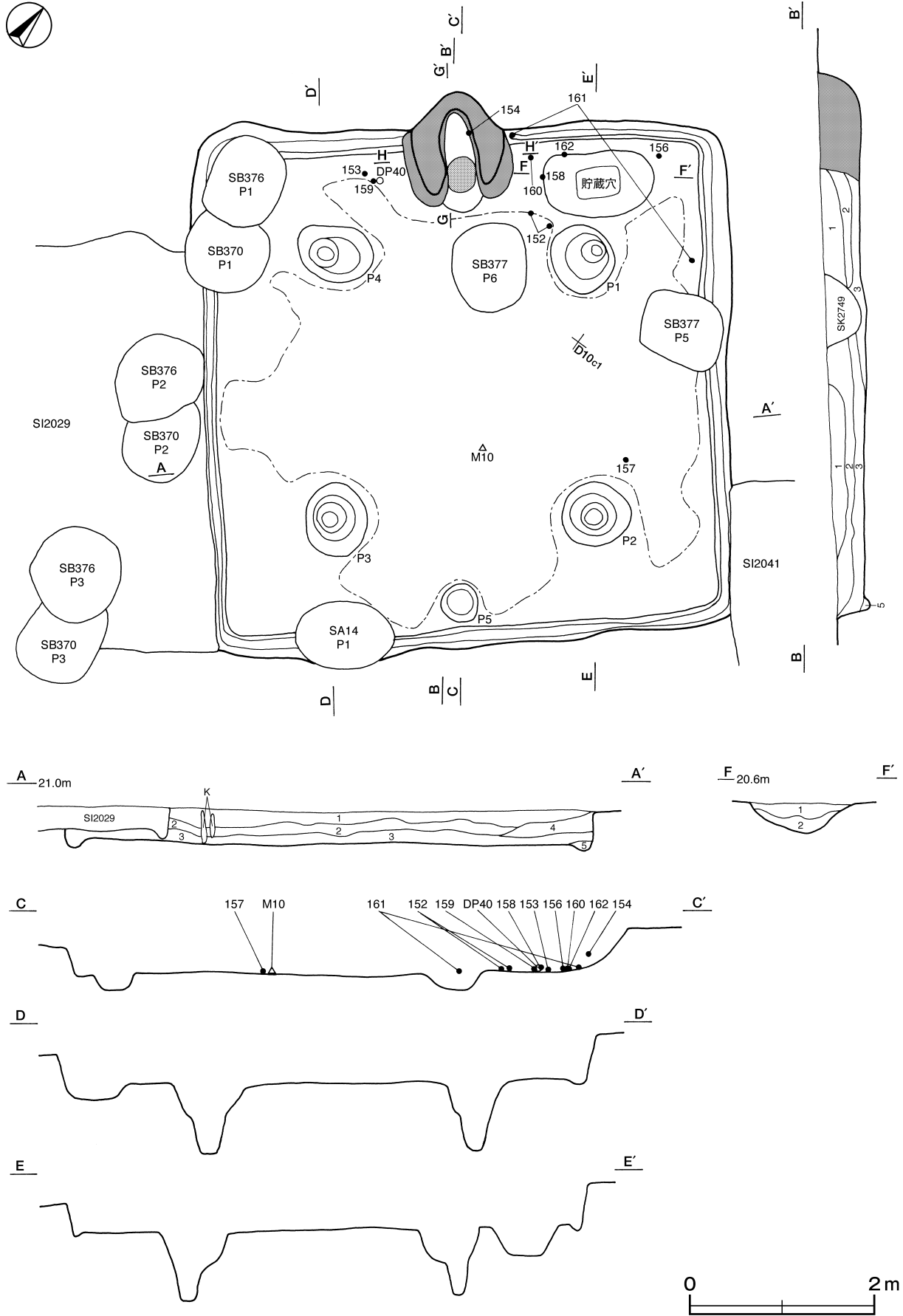
規模と形状 長軸5.67m, 短軸5.57mの方形で, 主軸方向はN-37°-Wである。壁高は25~45cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 各壁近くまで踏み固められている。壁下には, 幅9~16cm, 深さ4~7cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

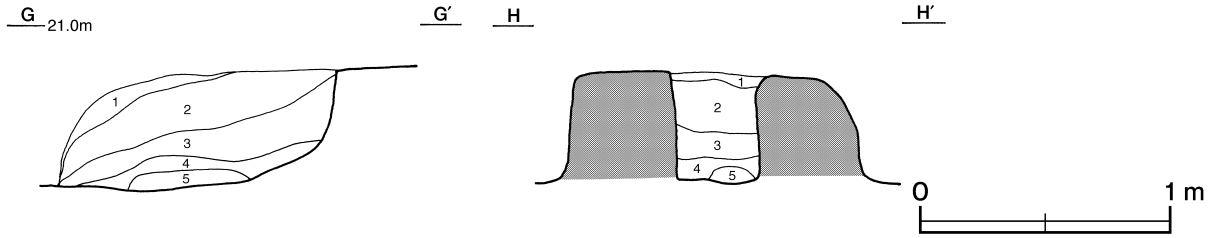
竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで129cm, 袖部幅112cmであり, 袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面に砂質粘土を用いて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さであり, 火床面は火を受けて赤変硬化している。また, 7cmの厚みで灰が堆積している。煙道部は壁外へ42cm掘り込まれ, 火床部から急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|--------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 3 灰褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量 |
| 2 灰褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量 焼土ブロック少量 | 4 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, ローム粒子・炭化粒子中量 |
| | | 5 灰白色 | 灰多量, 焼土ブロック少量 |



第67图 第2030号住居跡実测图(1)



第68図 第2030号住居跡実測図(2)

ピット 5か所。P1～P4は支柱穴で、深さは73～76cmである。P5は深さ21cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径119cm、短径73cmの楕円形で、深さは31cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、人為堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量，焼土粒子少量
- 2 褐色 焼土ブロック中量

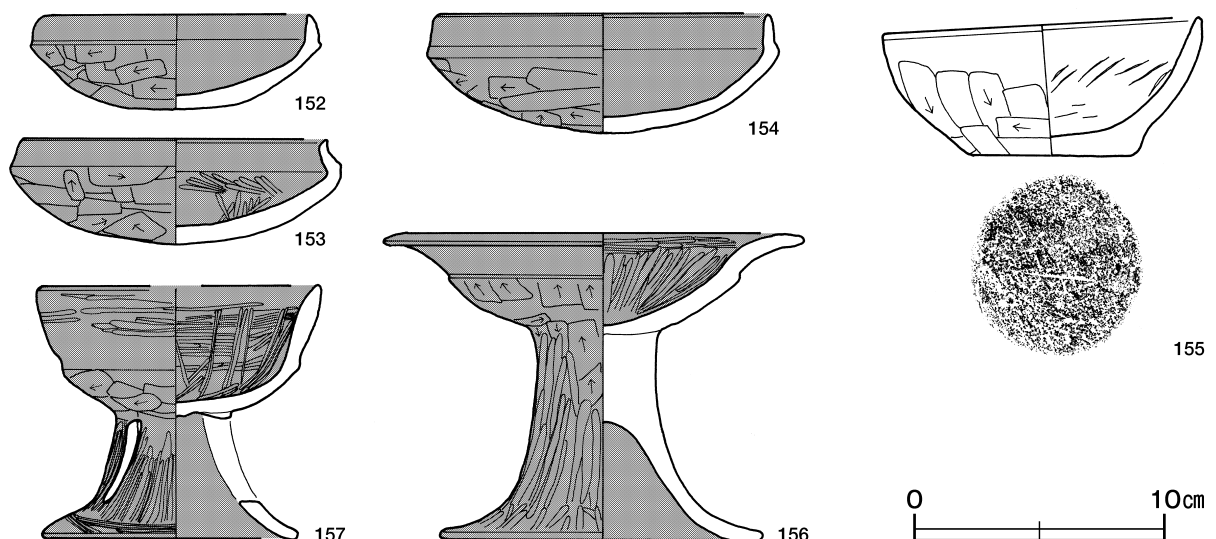
覆土 5層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

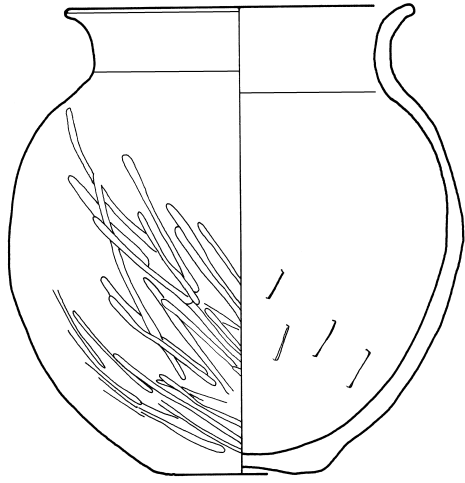
- 1 褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片365点（坏175，高坏5，壺1，甕類180，甑3，手捏土器1），土製品2（支脚），鉄製品1（刀子），鉄滓3が竈周辺の床面と中央部を中心に出土している。また，混入した須恵器片26点，陶器片1点も出土している。中央部の遺物の多くは細片であり出土層位も上層であることから，住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。153・159は竈の左側，152・158・160・162は竈の右側，156は北東コーナー部，157は東部やや南寄りの床面から出土しており，いずれも住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。155はP4の覆土から出土しており，柱の抜き取り後に流れ込んだものと考えられる。また，DP40は竈左側の床面，M10は中央部の床面からそれぞれ出土している。

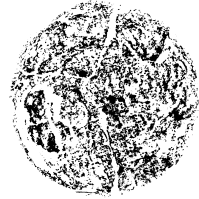
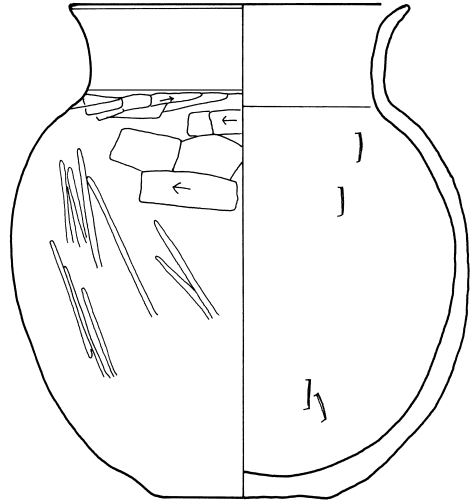
所見 時期は，出土土器および重複関係から6世紀後葉と考えられる。



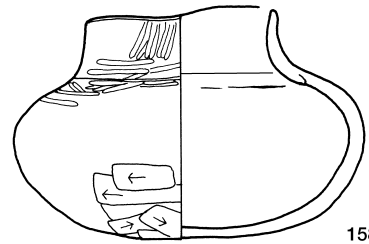
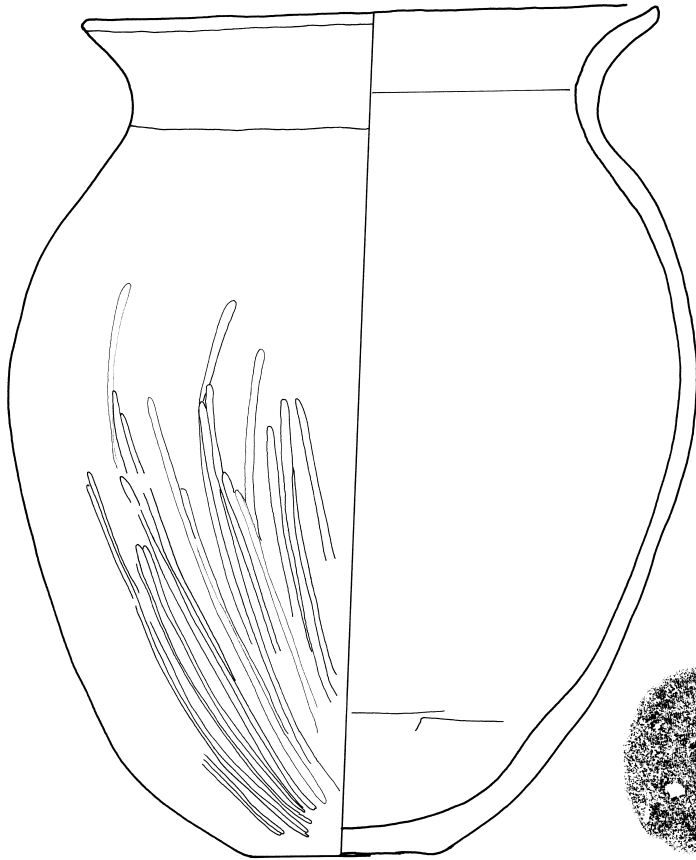
第69図 第2030号住居跡出土遺物実測図(1)



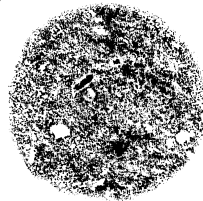
160



161



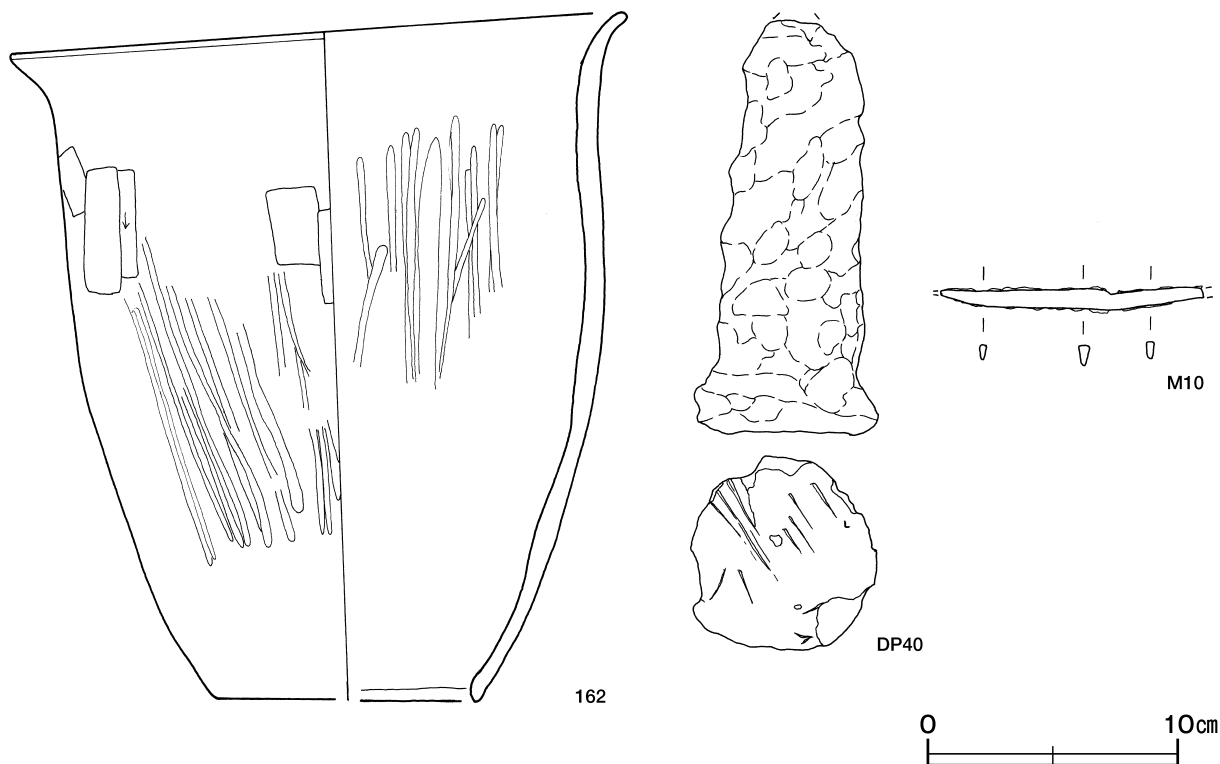
158



159



第70图 第2030号住居跡出土遺物実測図(2)



第71図 第2030号住居跡出土遺物実測図(3)

第2030号住居跡出土遺物観察表 (第69~71図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
152	土師器	坏	10.5	3.8	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	床面	90% PL154
153	土師器	坏	12.2	4.1	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面放射状の磨き	床面	90% PL154
154	土師器	坏	13.2	4.8	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	竈覆土下層	85% PL154
155	土師器	坏	12.6	5.7	6.6	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へらナデ	覆土	90%
156	土師器	高坏	15.5	12.2	12.8	長石・石英・赤色粒子・礫	橙	普通	口辺部外面横ナデ 内面へら磨き 坏部外面へら削り 内面放射状の磨き 脚部外面へら磨き	床面	90% PL173
157	土師器	高坏	[11.3]	10.0	10.1	長石・赤色粒子	明黄褐	普通	口辺部内外面へら磨き 坏部外面へら削り 内面放射状の磨き 脚部外面へら削り後へら磨き 内面ナデ 脚部スリット	床面	80% PL174
158	土師器	壺	7.5	9.1	-	長石・石英・赤色粒子・礫	橙	普通	口辺部外面へら磨き 内面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ 底部外面へら削り	床面	100% PL171
159	土師器	甕	22.8	33.8	7.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら磨き 内面へらナデ	床面	95% PL181
160	土師器	甕	13.7	18.6	5.5	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら磨き 内面へらナデ	床面	95% PL175
161	土師器	甕	13.6	19.7	7.0	長石・石英・小礫	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り後へら磨き 内面へらナデ	覆土下層	95% PL175
162	土師器	甕	24.1	27.5	10.2	長石・石英・雲母・礫	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り後へら磨き 内面へら磨き	床面	95% PL185

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP40	支脚	(16.5)	7.4	7.7	(632.2)	土(長石)	ナデ 指頭痕 にぶい橙色	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M10	刀子	(10.5)	1.2	0.5	(10.1)	鉄	茎部一部欠損	床面	PL198

第2032号住居跡 (第72・73図)

位置 調査区南西部のD 9 e0区, 標高20.5mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2031・2035号住居, 第304・305・370号掘立柱建物, 第2620・2757号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.61m，短軸4.5mの長方形で，主軸方向はN - 38° - Eである。壁高は8～26cmで，ほぼ直立している。

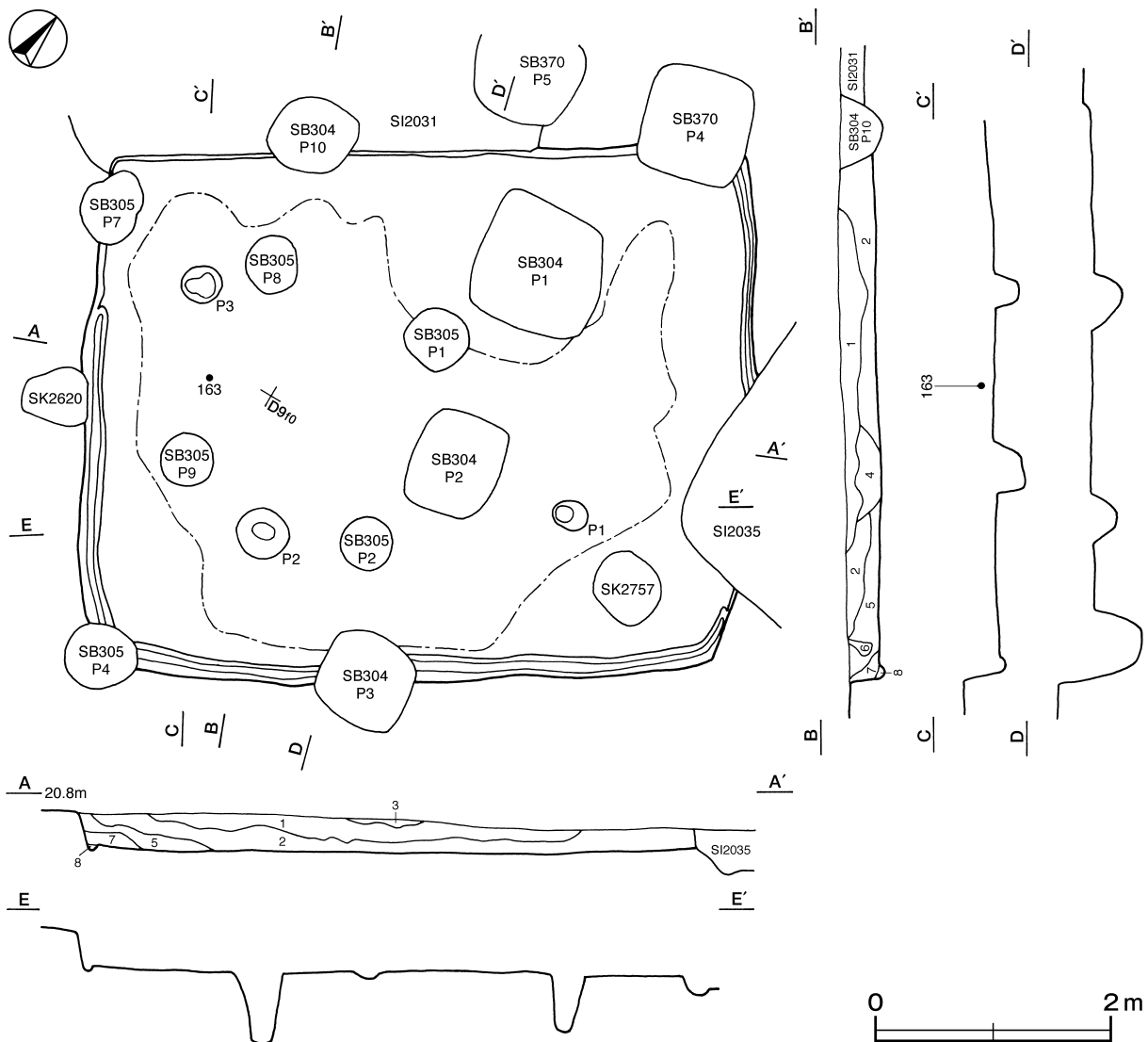
床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅12～17cm，深さ3～6cmで，U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

ピット 3か所。P1は深さ48cm，P2は深さ58cmで，ともに支柱穴である。P3の性格は不明である。北側の柱穴については，第305号掘立柱建物の柱掘り方と第304号掘立柱建物のP1によって掘り込まれているものと考えられる。

覆土 8層に分けられる。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

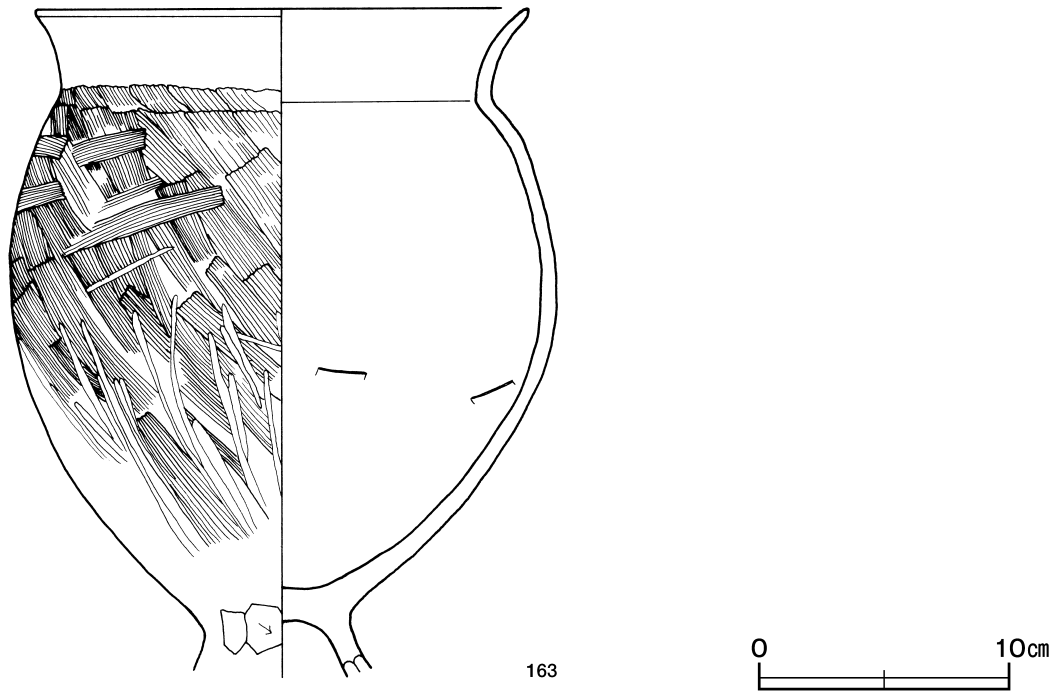
- | | | | |
|-------|---------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化物微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 炭化物・ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量 |



第72図 第2032号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片47点（埴2，高坏3，甕42）が出土している。また，混入した須恵器片1点も出土している。遺物のほとんどは細片であり，出土量も少ない。163は中央部西寄りの覆土中層から横位で出土しており，住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器および重複関係から5世紀前半と考えられる。



第73図 第2032号住居跡出土遺物実測図

第2032号住居跡出土遺物観察表（第73図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
163	土師器	台付甕	19.6	(26.6)	-	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ，内面ヘラナデ 体部外面ハケ目調整後ヘラ磨き	覆土中層	80% PL172

第2034A号住居跡（第74・75図）

位置 調査区南西部のD10f1区，標高20.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2034B・2035号住居跡を掘り込み，第372・375号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.48m，短軸4.29mの方形で，主軸方向はN - 9° - Wである。壁高は30～40cmで，ほぼ直線的に立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅10～14cm，深さ4～8cmで，U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。第2034B号住居跡の床面上にローム土を主体とする褐色土で構築した貼床である。

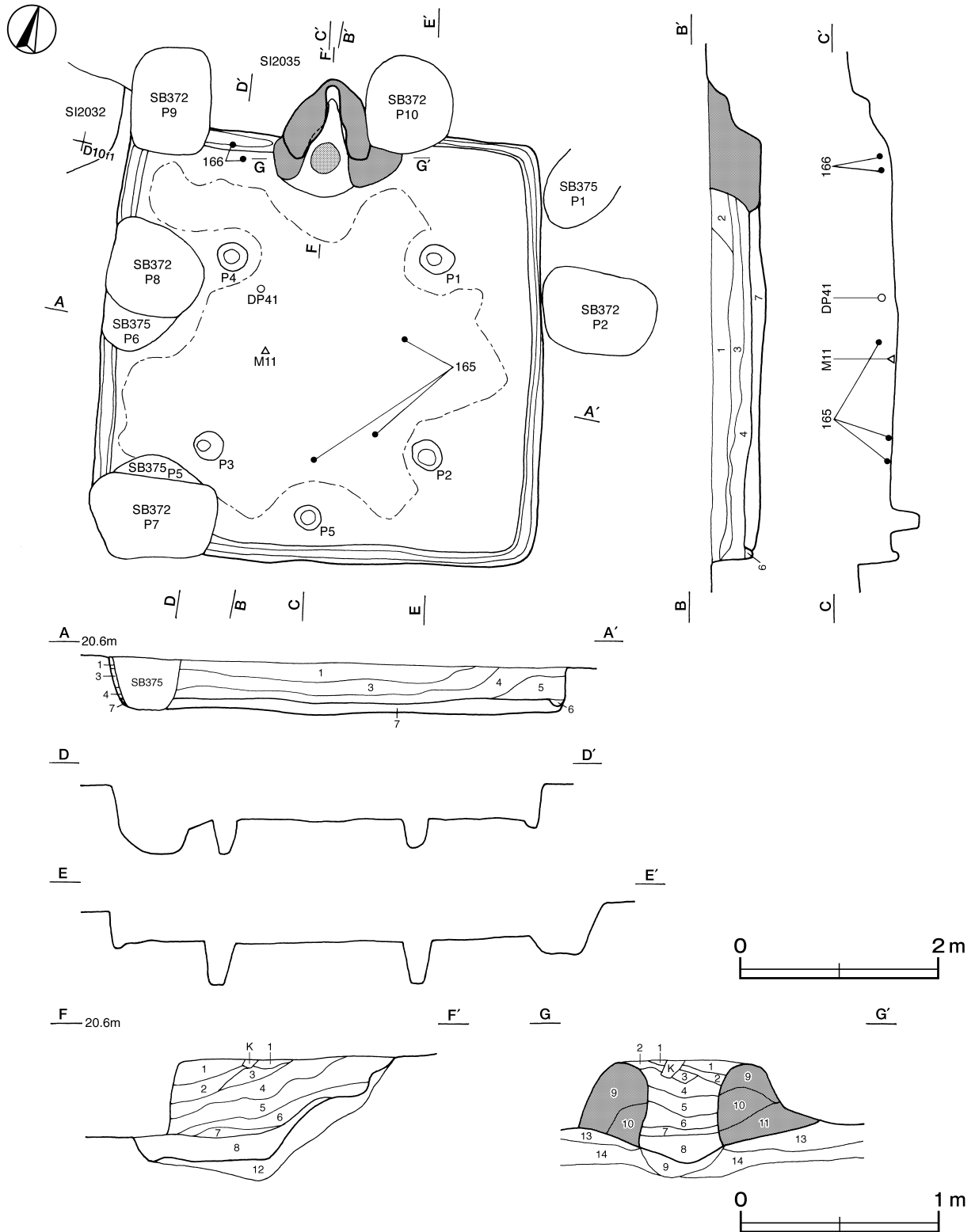
竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで118cm，袖部幅130cmである。袖部はローム土混じりの砂質粘土で構築されている。火床部は床面を26cm掘りくぼめており，火を受けて赤変硬化している。

煙道部は壁外に56cm掘り込まれ，階段状に立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	5 灰褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子中量，ロームブロック少量
2 灰褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量	6 暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量
3 褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック少量	7 灰褐色	砂質粘土粒子中量，ロームブロック・焼土粒子少量
4 褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・砂質粘土粒子少量		

- | | | | |
|--------|------------------------------|-------|---------------------------------|
| 8 褐色 | ロームブロック・焼土粒子中量, 炭化物少量 | 12 褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量, 焼土ブロック少量 |
| 9 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック少量 | 13 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量 |
| 10 赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 14 褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 11 灰褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量, ロームブロック・炭化物少量 | | |



第74図 第2034 A号住居跡実測図

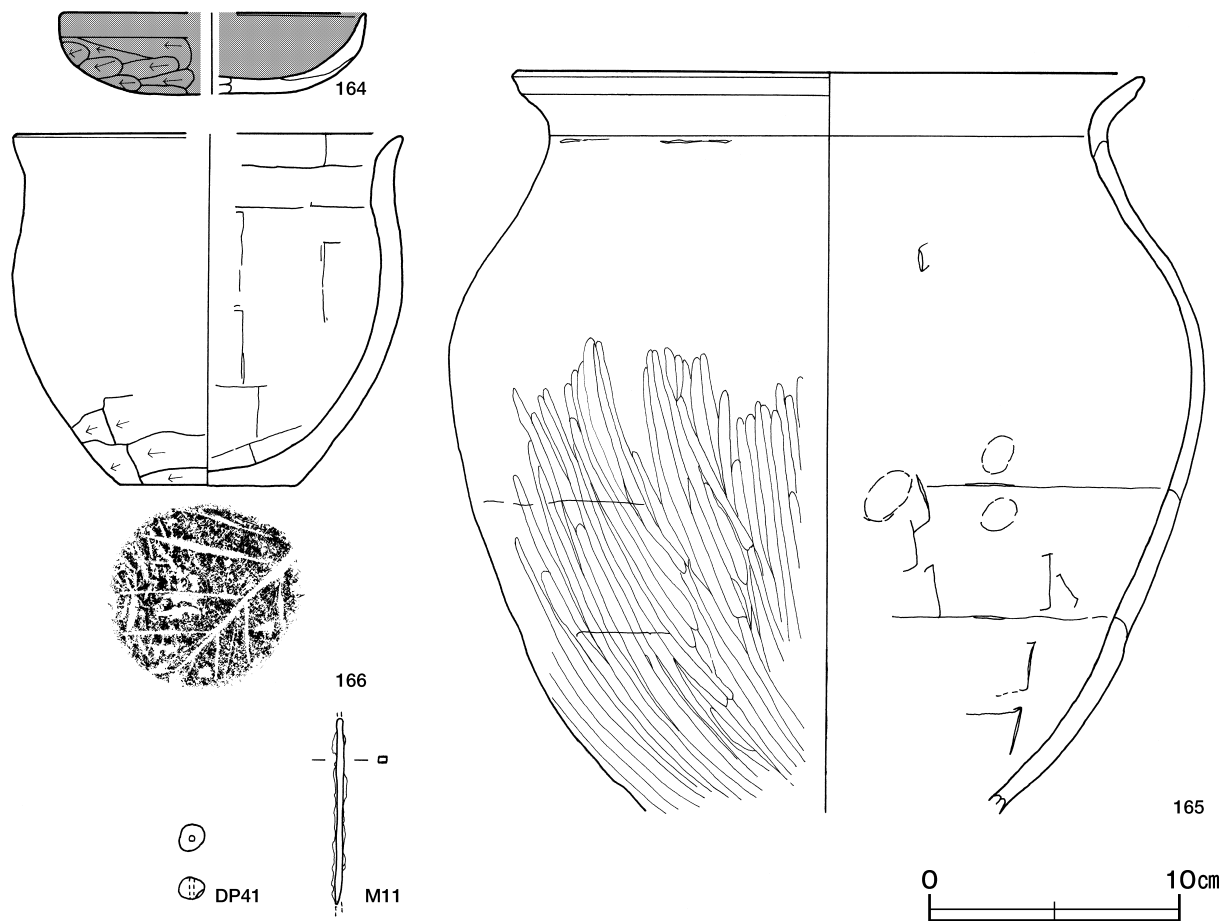
覆土 7層に分けられる。各層にロームブロックを多く含む人為堆積である。第7層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|------------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 7 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片757点(坏69, 甕類688), 須恵器片22点(坏19, 壺1, 甕類2), 土製品1点(土玉), 石製品1点(紡錘車), 不明鉄製品2点のほか, 混入した灰釉陶器1点, 陶器片3点も出土している。164は竈の覆土, 166は北壁際の覆土下層, 165は中央部の覆土下層から床面, DP41は中央部の覆土下層, M11は中央部の床面よりそれぞれ出土しており, いずれも住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 貼床の下に壁溝を検出しており, 住居の建て替えが行われている。時期は, 出土土器から7世紀中葉と考えられる。



第75図 第2034A号住居跡出土遺物実測図

第2034A号住居跡出土遺物観察表(第75図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
164	土師器	坏	[12.2]	3.1	-	長石・赤色粒子	灰褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	竈覆土	45%
165	土師器	甕	25.1 (29.5)	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へらナデ 下位へら磨き 内面輪積を残すへらナデ 指頭痕	覆土下層・床面	45%
166	土師器	甕	[15.0]	14.0	7.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ナデ 下位へら削り 内面へらナデ 底部木葉痕	覆土下層	60%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP41	小玉	1.0	0.9	0.2	0.8	土(長石)	ナデ 一方向の穿孔	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M11	鐵カ	(7.5)	0.4	0.3	(3.6)	鉄	茎部のみ残存 断面長方形	床面	

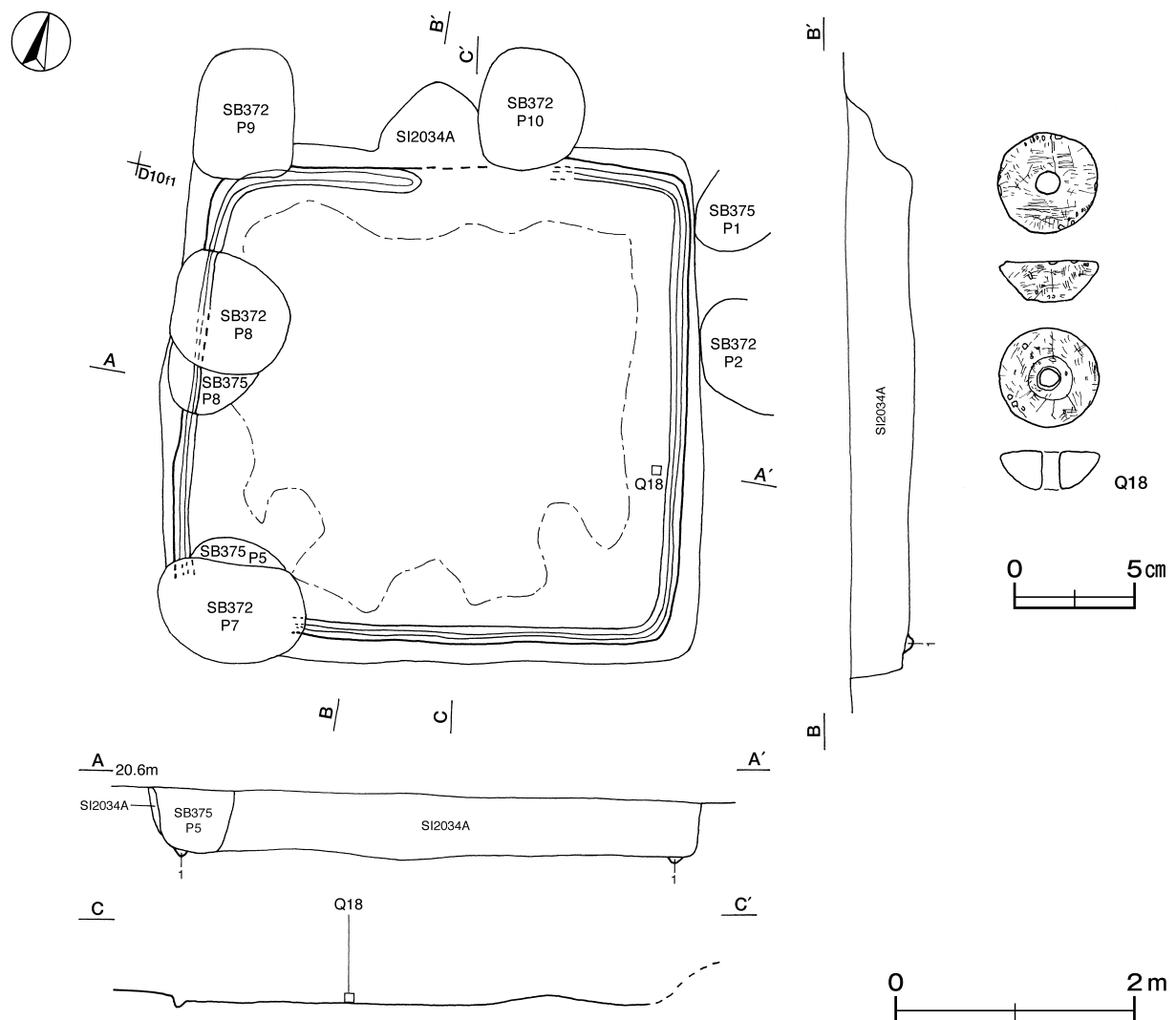
第2034B号住居跡(第76図)

位置 調査区南西部のD10f1区, 標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2034A号住居, 第372・375号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 第2034A号住居に掘り込まれているが, 長軸4.20m, 短軸4.00mの方形で, 主軸方向はN - 9° - Wと推定される。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。幅10~18cm, 深さ4~6cmで, U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。



第76図 第2034B号住居跡・出土遺物実測図

竈 北壁中央部に付設され、第2034A号の竈を構築する際に取り壊されたものと考えられる。

覆土 単一層で、壁溝の覆土のみが確認されている。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 石製品1点(紡錘車)だけが出土している。Q18は東壁際の床面から出土し、住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は、本住居を作り替えた第2034A号住居跡が7世紀中葉に比定されることから、それ以前と考えられる。

第2034B号住居跡出土遺物観察表(第76図)

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q18	紡錘車	4.2	1.7	0.9	(37.6)	滑石	断面台形 上面に一方の線状痕 両面穿孔	床面	

第2035号住居跡(第77・78図)

位置 調査区南西部のD10e1区、標高20.5mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2032号住居跡を掘り込み、第2034・2036号住居、第372・375号掘立柱建物、第7号柵に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.04m、短軸5.54mほどの長方形で、主軸方向はN-10°-Eである。壁高は23~35cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅20~25cm、深さ5~11cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。また、床面には焼土が堆積し、炭化材が確認されている。

ピット 10か所。P1~P4は主柱穴で、深さは68~89cmである。P5は深さ28cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P7・P9は支柱穴と考えられるが、その他の性格は不明である。

覆土 5層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量

4 暗褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子中量

2 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量

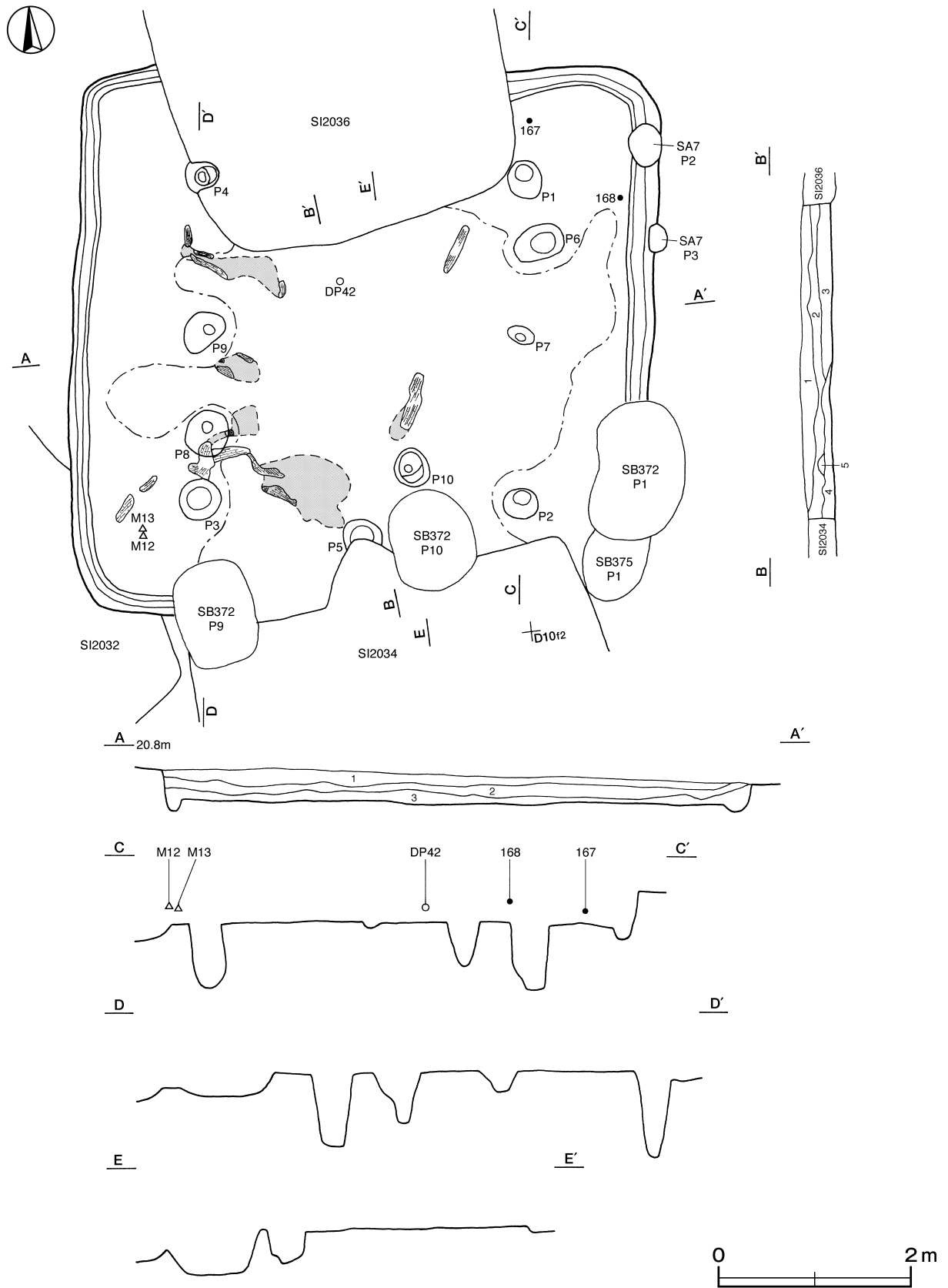
5 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量

3 褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物少量

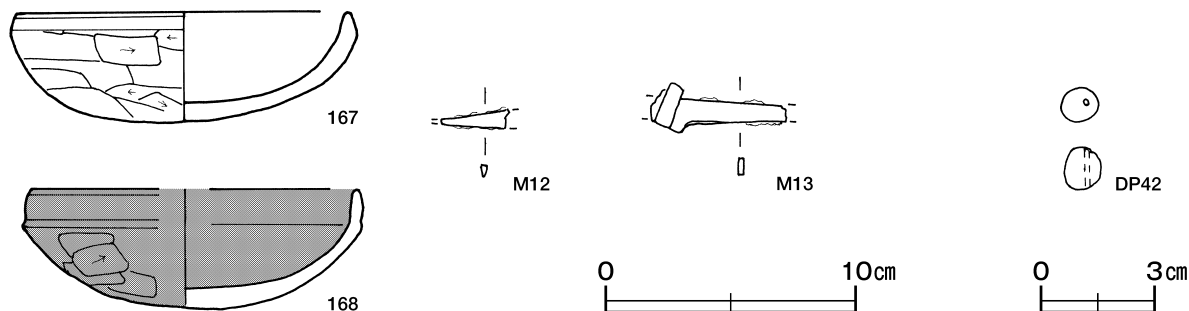
遺物出土状況 土師器片841点(坏222, 甕類619), 須恵器片12点(坏4, 甕類8), 土製品1点(小玉), 鉄製品2点(刀子)が散在した状態で出土している。また、遺物の多くは細片であり、出土位置は覆土上層である。

167・168は北東コーナー部の覆土中層から出土しており、住居廃絶後に廃棄されたものと考えられる。M12, M13は南西コーナー部の覆土中層から出土しているが、いずれも床に堆積した焼土よりも上層から出土していることから、焼失後、投棄されたものと考えられる。また、DP42は、中央部の覆土中層から出土している。

所見 床面に焼土が堆積し、炭化材も確認されていることから、焼失住居と考えられる。遺棄された遺物がほとんどないため廃絶に伴っての焼失と想定され、廃絶時期は、7世紀前葉以前と考えられる。



第77图 第2035号住居跡実測图



第78図 第2035号住居跡出土遺物実測図

第2035号住居跡出土遺物観察表（第78図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
167	土師器	坏	13.2	4.4	-	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土下層	50%
168	土師器	坏	[13.0]	4.7	-	長石・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデ	覆土下層	50%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP42	小玉	1.0	1.1	0.1	1.0	土(長石・石英・雲母)	ナデ 一方向の穿孔	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M12	刀子	(2.8)	(0.7)	(0.2)	(1.7)	鉄	刀先部の破片	覆土中層	
M13	刀子	(5.4)	1.5	0.2	(10.0)	鉄	刀部欠損 茎部・柄口金具一部欠損 金具幅1.6cm 片区 木質残存	覆土中層	PL198

第2037号住居跡（第79～81図）

位置 調査区南西部のD10h2区、標高20mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2619号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.15m、短軸4.83mの方形で、主軸方向はN - 16° - Wである。壁高は5～25cmで、外傾して立ち上がっている。

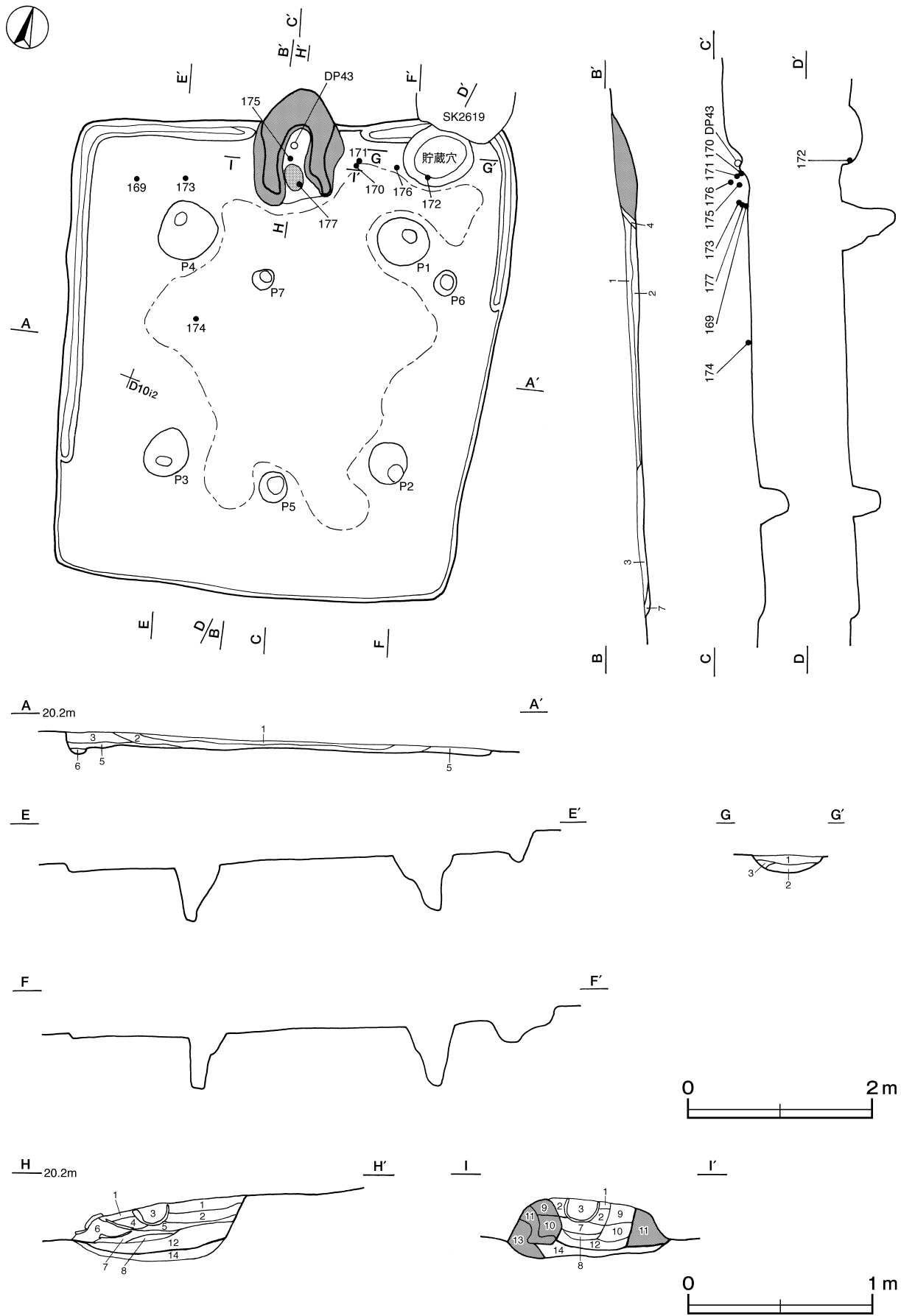
床 ほぼ平坦で中央部が踏み固められている。南東部および南壁下を除いて、幅16～20cm、深さ3～5cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで123cm、袖部幅95cmである。袖部は砂質粘土を用いて構築されている。火床部は地山面を5cm掘りくぼめた後、床面とほぼ同じ高さまで埋め戻して使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に35cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	10 暗褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量、ロームブロック少量
2 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量	11 灰褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック少量
3 暗褐色	炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	12 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量、砂質粘土粒子少量
4 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量	13 灰褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量
5 暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量	14 灰褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
6 暗赤褐色	焼土粒子中量、炭化粒子・砂質粘土粒子少量		
7 暗褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子少量		
8 暗赤褐色	焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量		
9 暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量		

ピット 7か所。P1～P4は主柱穴で、深さは53cm～60cmである。P5は深さ32cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7の性格は不明である。



第79图 第2037号住居跡実測图

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径78cm，短径63cmの楕円形で，深さは25cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がり，自然堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量 | 3 暗褐色 | 粘土粒子中量，ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量 | | |

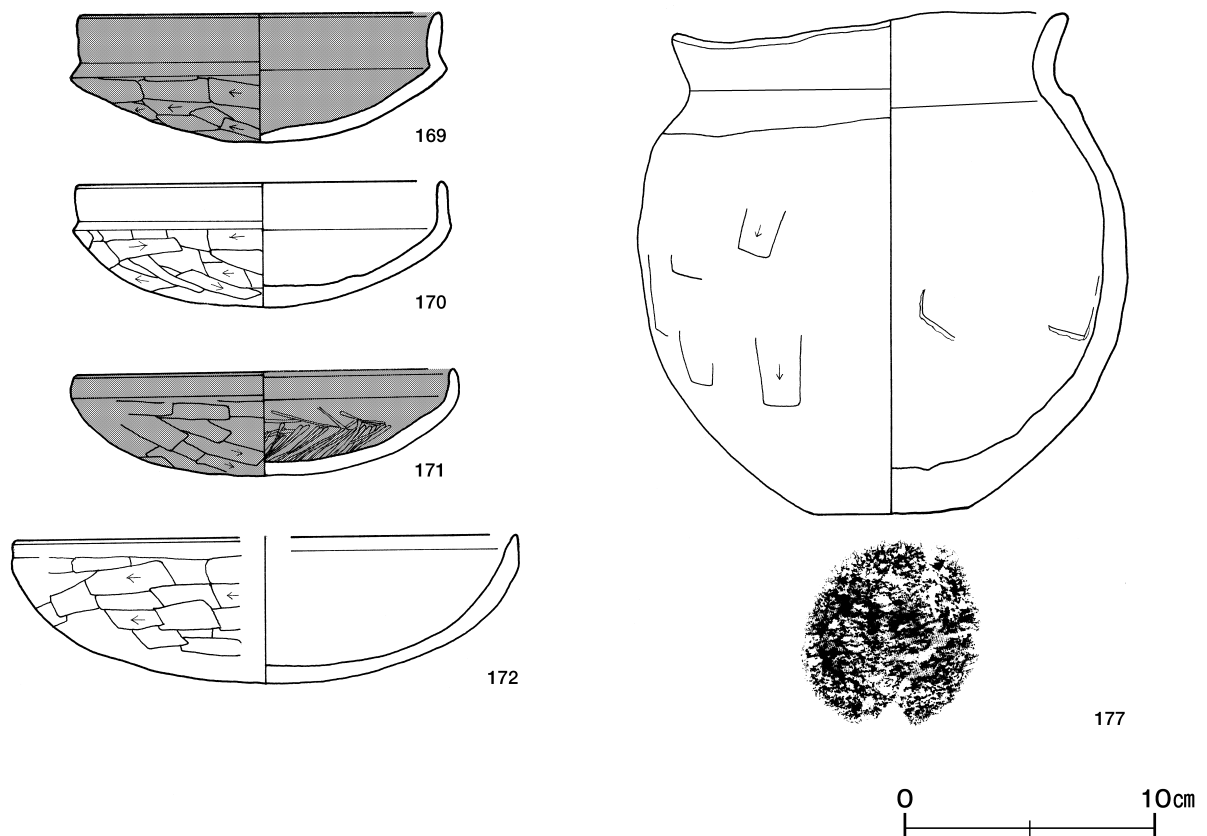
覆土 7層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

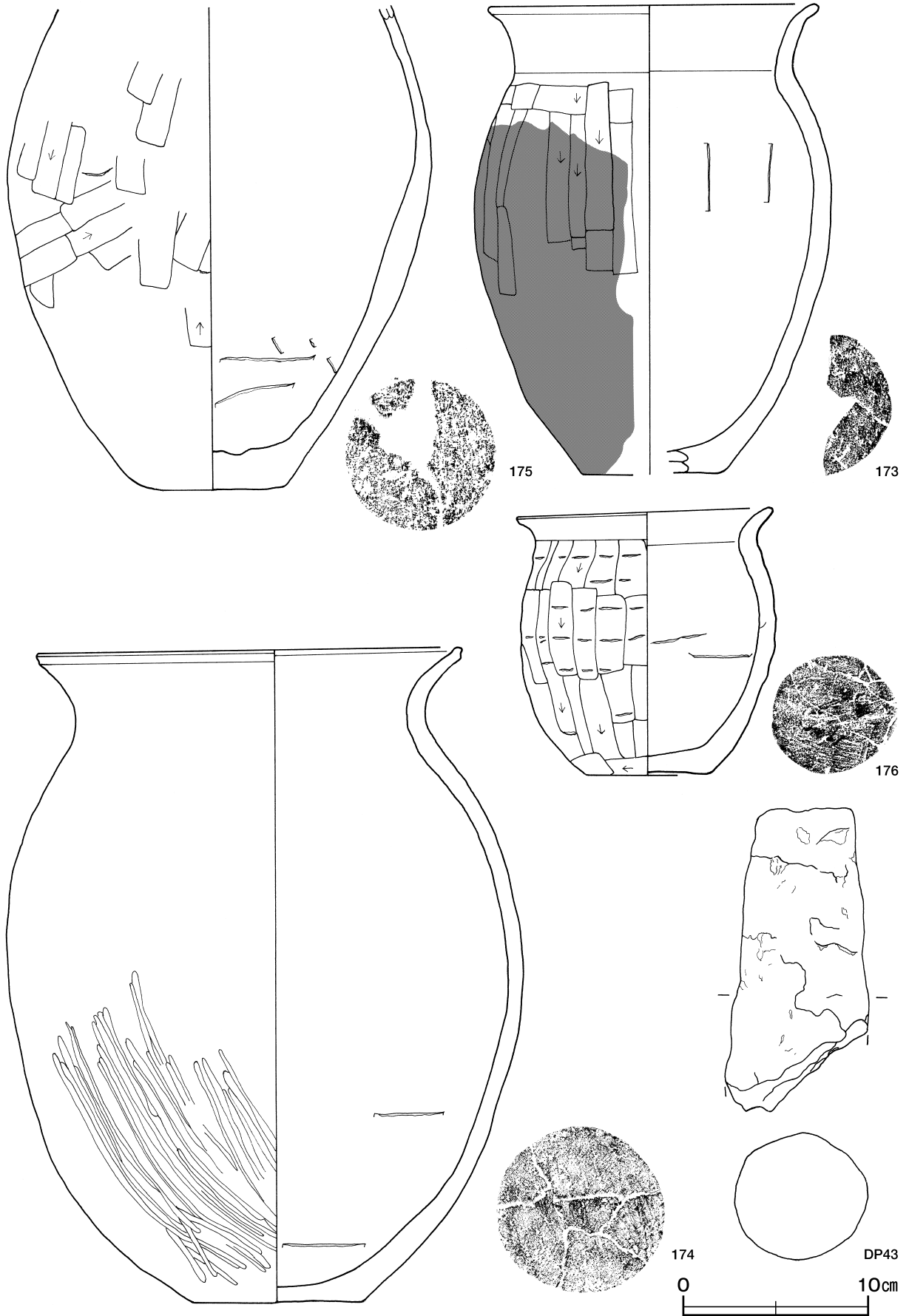
- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子・粘土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片598点(坏60，甕類537，手捏土器1)，須恵器片21点(坏4，甕類17)，土製品1点(支脚)が北部を中心に出土している。169は北西コーナー部の床面，174は中央部の床面，176は北東部の覆土上層からそれぞれ出土している。170・171は竈右側の床面から重なり合った状態で出土しており，いずれも住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。また，172は貯蔵穴の覆土下層から，173は竈左側の覆土中層から出土している。175は竈覆土上層，177は竈覆土中層から出土しており，ともに火を受けた跡が認められることから，竈内で使用されていたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第80図 第2037号住居跡出土遺物実測図(1)



第81图 第2037号住居跡出土遺物実測図(2)

第2037号住居跡出土遺物観察表（第80・81図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
169	土師器	坏	14.2	5.2	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	床面	95% PL154
170	土師器	坏	14.6	4.9	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	床面	80% PL154
171	土師器	坏	15.0	4.2	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へら磨き	床面	85% PL154
172	土師器	坏	[20.0]	5.9	-	長石・雲母	黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	貯蔵穴 覆土下層	45%
173	土師器	甕	17.6	25.3	[7.4]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へらナデ	覆土中層	75% 煤付着
174	土師器	甕	22.8	35.3	9.4	長石・石英・雲母	明黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら磨き 内面へらナデ	床面	80% PL181
175	土師器	甕	-	(26.1)	8.0	長石・石英・礫	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部内面へらナデ	竈覆土上層	50%
176	土師器	小形甕	13.6	14.4	6.7	長石・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 輪積痕 内面へらナデ 輪積痕	覆土上層	90% PL176
177	土師器	小形甕	15.5	20.0	7.0	長石・石英・雲母・赤色粒子・礫	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら磨き 内面へらナデ	竈覆土中層	85%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP43	支脚	(16.5)	7.2	6.8	(753.0)	土(長石・石英)	ナデ 指頭痕	竈火床面	

第2038号住居跡（第82図）

位置 調査区南西部のD9j0区，標高20mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2039号住居跡の覆土中に構築されている。

規模と形状 長軸3.95m，短軸2.65mほどの長方形で，主軸方向はN-25°-Wである。壁高は23～28cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，壁溝の近くまで踏み固められている。壁下には幅8～13cm，深さ7～9cmで，U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで81cm，袖部幅73cmであり，袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面にローム混じりの砂質粘土を用いて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さの地山面を使用している。火床面は若干赤変しているものの焼けしまりが少ないことから，竈の使用頻度は低かったと考えられる。煙道部は壁外へ13cmほど掘り込まれ，火床部から急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗褐色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量	7 灰褐色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
2 灰褐色	砂質粘土粒子多量，炭化粒子少量	8 暗褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
3 灰褐色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量	9 灰褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
4 灰褐色	焼土ブロック中量，炭化粒子・砂質粘土粒子少量		
5 灰褐色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・ローム粒子少量		
6 灰褐色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量		

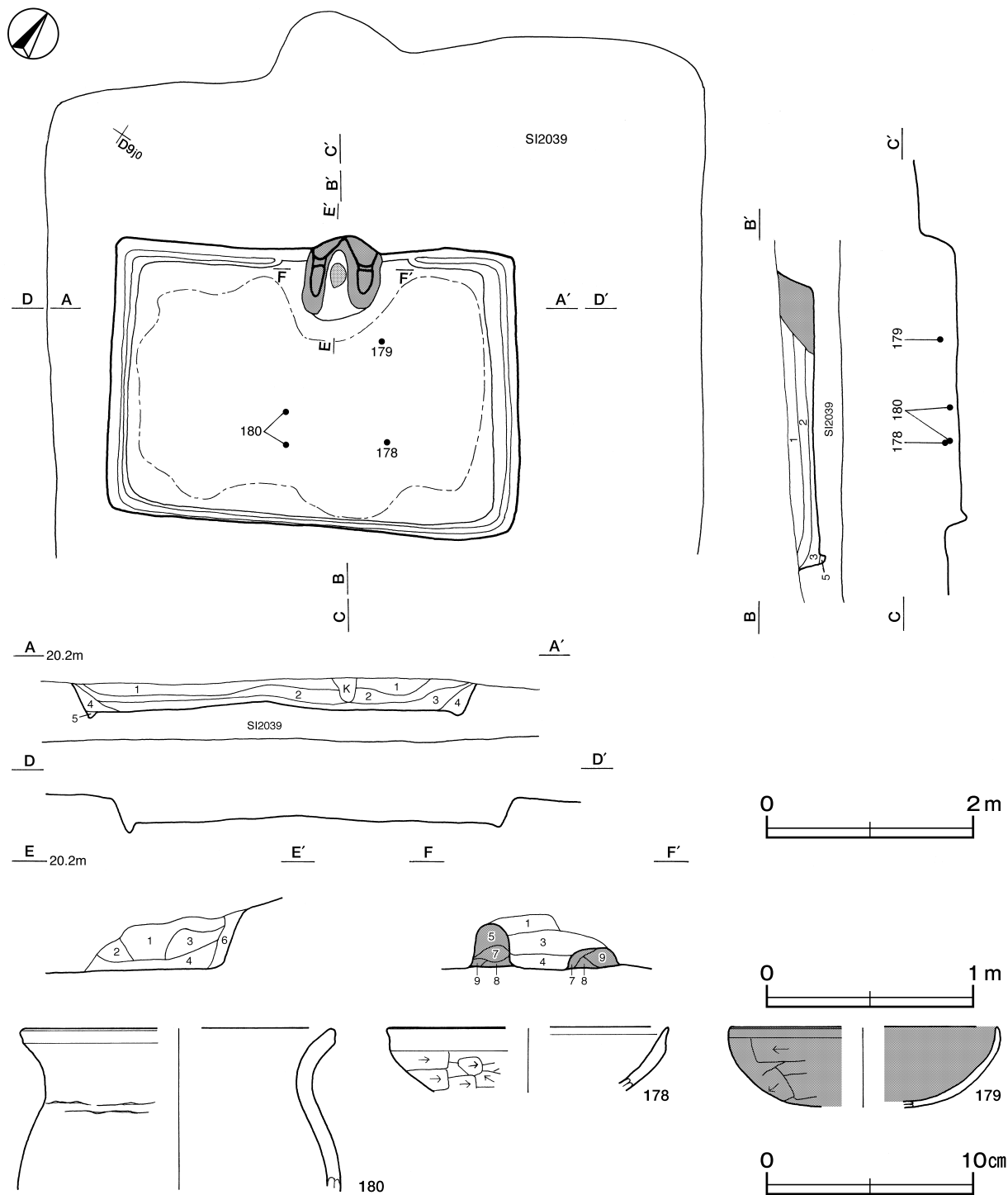
覆土 5層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	4 暗褐色	ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
2 褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	5 褐色	ローム粒子多量
3 褐色	砂質粘土粒子中量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量		

遺物出土状況 土師器片265点（坏110，甕類155），須恵器片8点（坏3，甕類5）が散在した状態で出土している。179は竈前部の覆土下層，178・180は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。遺物数は多いが，ほとんどが細片で出土層位も上層であることから，住居廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器および重複関係から7世紀後葉以前と考えられる。



第82図 第2038号住居跡・出土遺物実測図

第2038号住居跡出土遺物観察表（第82図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
178	土師器	坏	13.6	3.1	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土下層	5%
179	土師器	坏	[13.0]	(3.9)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土下層	5%
180	土師器	甕	[14.8]	(7.7)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面輪積痕	覆土下層	50%

第2039号住居跡（第83～85図）

位置 調査区南西部のD9j0区，標高19.0mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2038・2040号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.38m，短軸6.14mの方形で，主軸方向はN-31°-Wである。壁高は24～56cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，各壁近くまで踏み固められている。壁下には，幅11～17cm，深さ4～8cmで，U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。床面には焼土が堆積しており，焼土土層は西部では10cmほど，南部壁際で20cmほどの厚みを有している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで168cm，袖部幅172cmであり，袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面に砂質粘土を用いて構築されている。第10層上面および第13層上面で火床面が確認されている。13層上面には灰が堆積し，10層上面では支脚が出土していることから，使用過程で火床面が上昇したと考えられる。煙道部は壁外へ56cmほど掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。また，天井部が一部遺存している。

竈土層解説

1	にぶい赤褐色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	12	灰褐色	色 砂質粘土粒子多量，ローム粒子・灰中量，焼土ブロック少量
2	灰褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子中量，炭化物少量	13	にぶい褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子中量
3	暗褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	14	灰褐色	色 砂質粘土粒子多量，ロームブロック中量，焼土粒子少量
4	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量，ローム粒子・砂質粘土粒子少量	15	暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量
5	灰褐色	砂質粘土粒子中量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	16	にぶい赤褐色	焼土ブロック多量，砂質粘土粒子中量
6	暗赤褐色	焼土ブロック，ローム粒子・砂質粘土粒子少量	17	灰褐色	色 ロームブロック・砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量
7	にぶい赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量	18	褐色	色 ロームブロック・炭化物・砂質粘土粒子中量
8	灰褐色	粘土ブロック中量，焼土粒子少量	19	灰褐色	色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子中量，炭化物少量
9	にぶい褐色	粘土ブロック多量，焼土粒子少量	20	暗褐色	色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
10	赤褐色	焼土ブロック多量，砂質粘土粒子少量	21	赤褐色	焼土粒子多量
11	灰褐色	色 ロームブロック・砂質粘土粒子・灰中量，焼土粒子・炭化粒子少量	22	灰褐色	色 ローム粒子・砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量
			23	褐色	色 ローム粒子多量，焼土粒子少量

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で，深さは68～78cmである。P5は深さ20cmで，南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P1・P4はともに底部に2か所のあたりが確認できることから，柱を取り替えた可能性が考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径94cm，短径76cmほどの楕円形で，深さは41cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がり，覆土は人為堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

1	暗褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック少量	3	褐色	色 ローム粒子・砂中量，焼土粒子少量
2	暗褐色	色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	4	黒褐色	色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

覆土 16層に分けられる。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

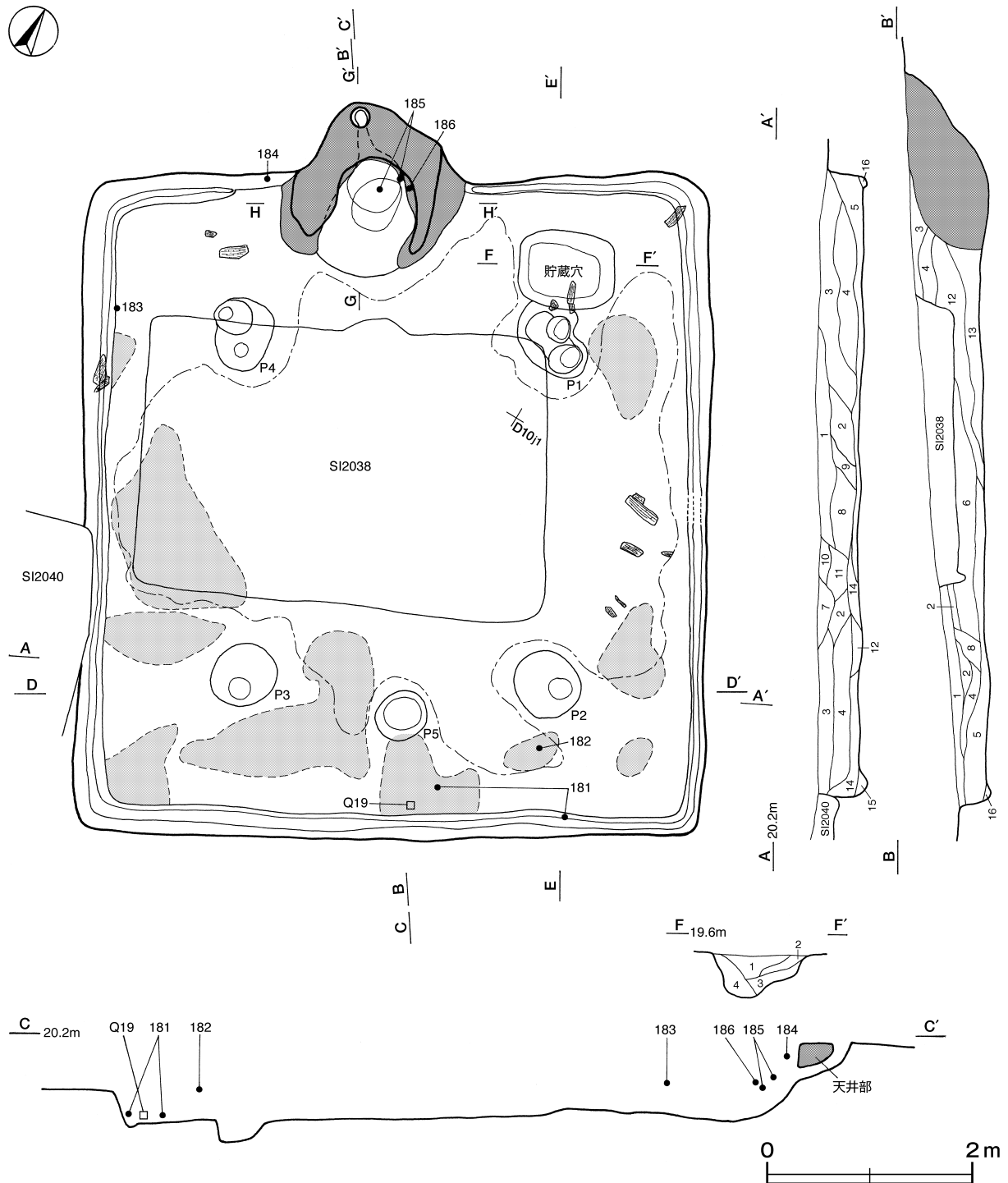
土層解説

1	黒褐色	炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子少量	9	暗褐色	色 ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
2	灰褐色	色 砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・ローム粒子少量	10	暗赤褐色	焼土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子少量
3	暗褐色	色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	11	暗褐色	色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4	暗褐色	色 焼土ブロック・ローム粒子少量	12	褐色	色 ロームブロック多量，炭化粒子少量
5	褐色	色 ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量	13	褐色	色 ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
6	暗褐色	色 ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化物少量	14	暗褐色	色 ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
7	褐色	色 ロームブロック中量	15	褐色	色 ロームブロック・焼土粒子少量
8	暗褐色	色 ロームブロック少量	16	黒褐色	色 ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量

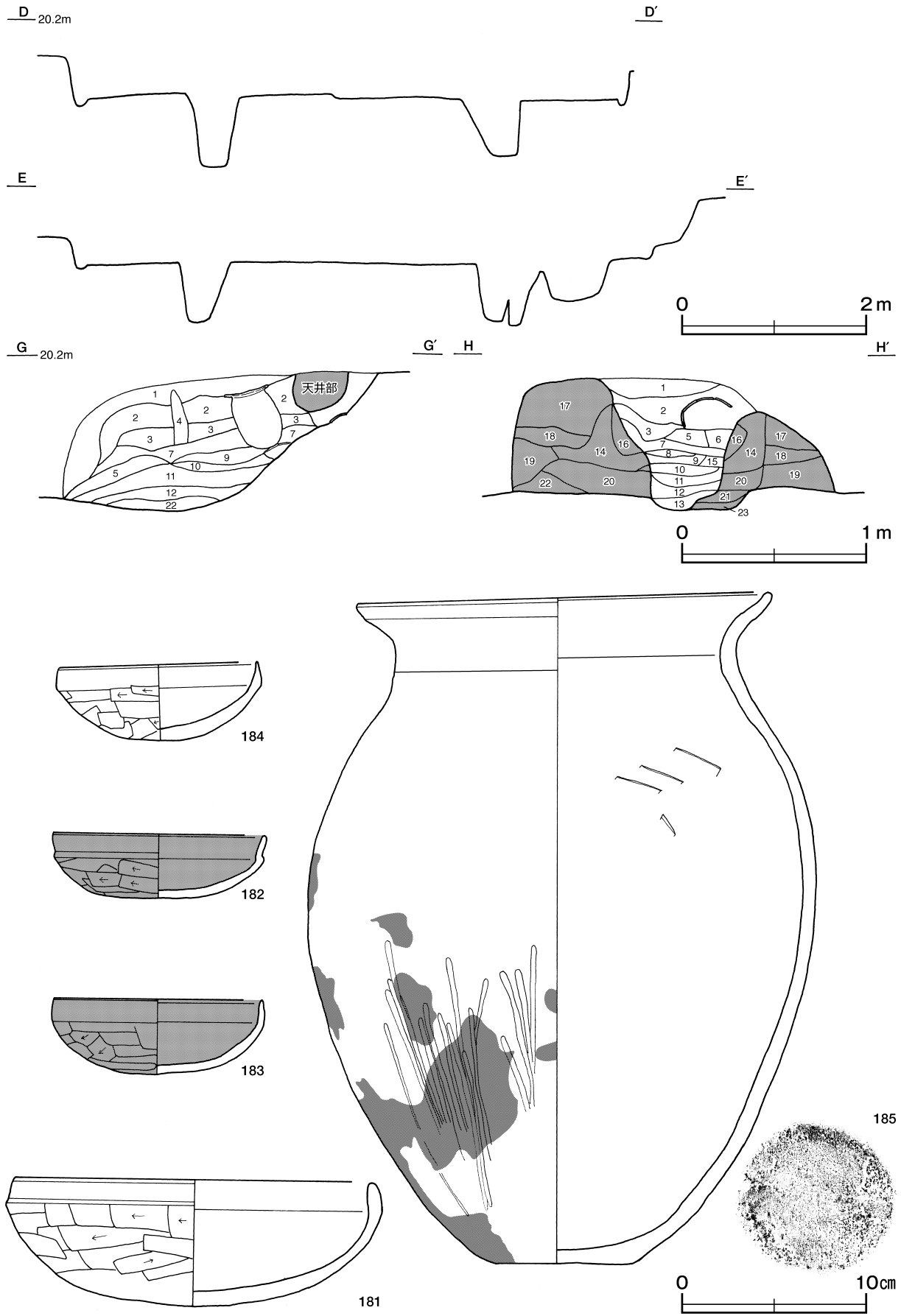
遺物出土状況 土師器片1914点(坏528，高坏3，鉢34，甕類1349)，須恵器片36点(坏11，高盤1，甕類24)，

土製品1点(土玉),石器1点(砥石)が北部を中心に出土している。また,混入した灰釉陶器片1点も出土している。185・186は竈内から出土し,185は支脚上から正位,186は竈内に落ち込むような状態で横位で出土しており,火を受けていることから,ともに竈で使用されていたものと考えられる。181・Q19は南壁際に堆積する焼土の下層から出土しており,住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。182は南部,183は西壁際,184は北壁際の覆土中層からいずれも出土しており,出土位置は焼土よりも上層であることから,住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。また,DP44は貯蔵穴の覆土から出土している。

所見 覆土中に炭化材が含まれ,床面に焼土が確認されていることから,廃絶に伴う焼失住居と考えられる。時期は,出土土器および重複関係から7世紀中葉と考えられる。



第83図 第2039号住居跡実測図



第84图 第2039号住居跡・出土遺物実測図



186



Q19

⑥
DP44

0 3cm

0 10cm

第85图 第2039号住居跡出土遺物実測図

第2039号住居跡出土遺物観察表（第84・85図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
181	土師器	坏	19.4	6.9	-	長石・雲母	黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土下層	60%
182	土師器	坏	11.4	3.5	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土中層	70% PL154
183	土師器	坏	11.2	4.1	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土中層	60% PL154
184	土師器	坏	10.7	4.2	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土中層	50%
185	土師器	甕	22.3	36.4	7.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ磨き 内面へラナデ	甕覆土	90% 煤付着 PL181
186	土師器	甕	25.7	34.3	8.9	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ磨き 内面へラナデ	甕覆土	80% PL 181

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP44	小玉	0.6	0.5	0.1	0.2	土(長石・石英・雲母)	ナデ 一方向の穿孔	貯蔵穴覆土	PL190

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q19	砥石	29.3	11.6	3.7	1033.9	凝灰岩	砥面5面 うち1面は溝状の研磨痕有り	覆土下層	PL195

第2040号住居跡（第86・87図）

位置 調査区南部のE 9 a9区、標高20mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2039号住居跡を掘り込み、第2634号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.02m、短軸4.00mの方形で、主軸方向はN - 13° - Wである。壁高は8～43cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅8～12cm、深さ4～8cmで、U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで100cm、袖部幅124cmである。袖部は砂質粘土とローム土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に30cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	9 暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量
2 灰褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	10 灰赤色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量、炭化粒子少量
3 暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	11 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
4 灰褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	12 褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子中量
5 暗赤褐色	焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	13 暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量
6 暗褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子少量	14 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子少量
7 暗赤褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	15 灰褐色	砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック少量
8 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	16 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子少量
		17 暗褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量

ピット 6か所。P1～P4は主柱穴で、深さは28～46cmである。P5は深さ28cmで、南壁際の中央部に位置していることや、硬化面の広がりから見て出入口施設に伴うピットと考えられる。P6はP5を掘り込んでいるが、性格は不明である。

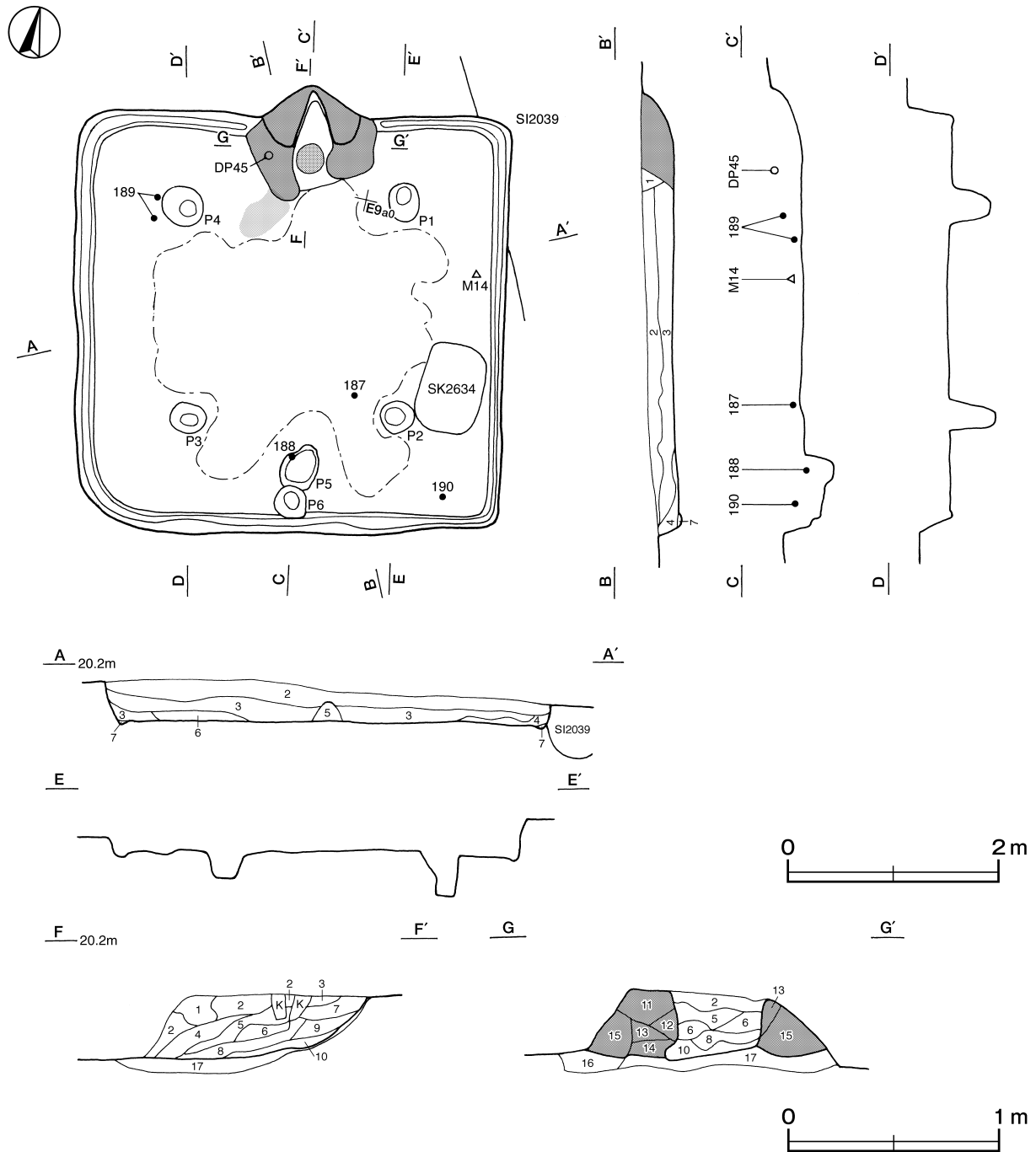
覆土 7層に分けられる。各層にロームブロックと砂質粘土ブロックを多く含み、不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

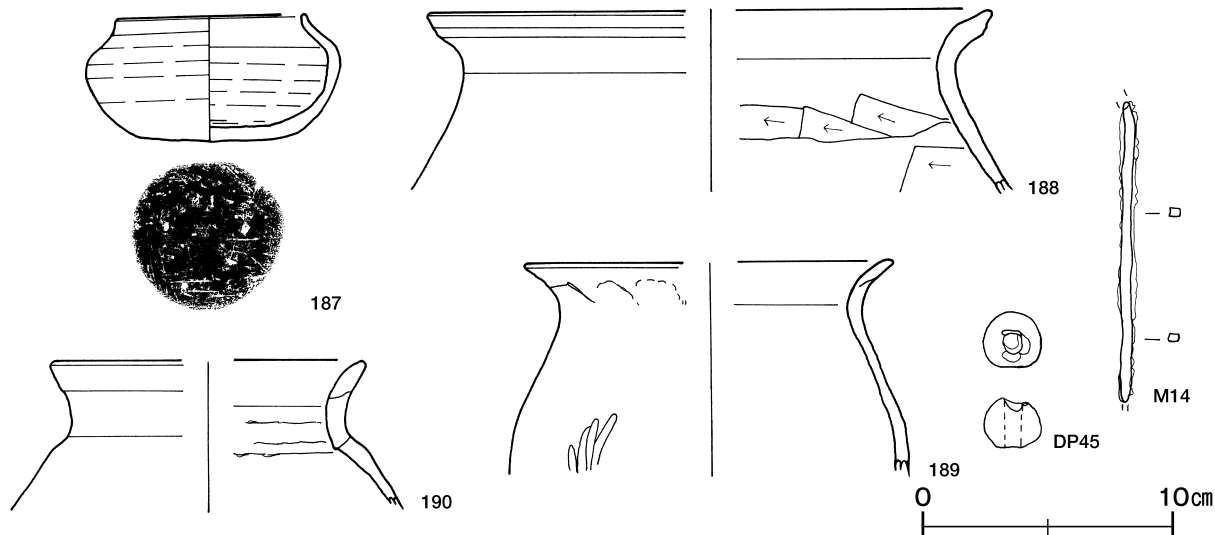
1 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	4 褐色	ロームブロック中量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	5 灰褐色	砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量	6 暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック少量
		7 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片276点(坏47, 甕類229), 須恵器片11点(坏5, 短頸壺2, 甕類4), 土製品1点(球状土錘), 鉄製品1点(鏃)が出土している。188はP5の覆土上層, 189は北西コーナー寄りの覆土中層と下層, 190は南壁際の覆土下層, 187は中央部の覆土下層からそれぞれ出土し, いずれも住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。また, M14は東壁際の覆土下層, DP45は竈の左袖上から出土している。

所見 時期は, 出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第86図 第2040号住居跡実測図



第87図 第2040号住居跡出土遺物実測図

第2040号住居跡出土遺物観察表（第87図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
187	須恵器	短頸壺	7.3	5.1	6.0	長石・石英	灰	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ナデ下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後多方向の手持ちヘラ削り	覆土下層	80% PL170
188	土師器	甕	[22.4]	(7.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ナデ内面ヘラナデ	P 5 覆土上層	5 %
189	土師器	甕	[14.8]	(8.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き内面ナデ 頸部外面工具痕・指頭痕	覆土中層・下層	5 %
190	土師器	甕	[12.4]	(5.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面輪轆を残すナデ	覆土下層	5 %

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP45	球状土錘	2.3	1.9	0.8	9.0	土(長石・石英)	ナデ 一方向の穿孔	覆土上層	PL189

番号	器種	長さ	厚さ	幅	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M14	鐵カ	(12.0)	0.4	0.4	(11.5)	鉄	茎のみ残存 断面長方形	覆土下層	

第2041号住居跡（第88～90図）

位置 調査区部のD10c2区，標高20.5mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2030・2049号住居跡を掘り込み，第2042号住居，第377号掘立柱建物，第14号柵，第2763号土坑に掘り込まれている。

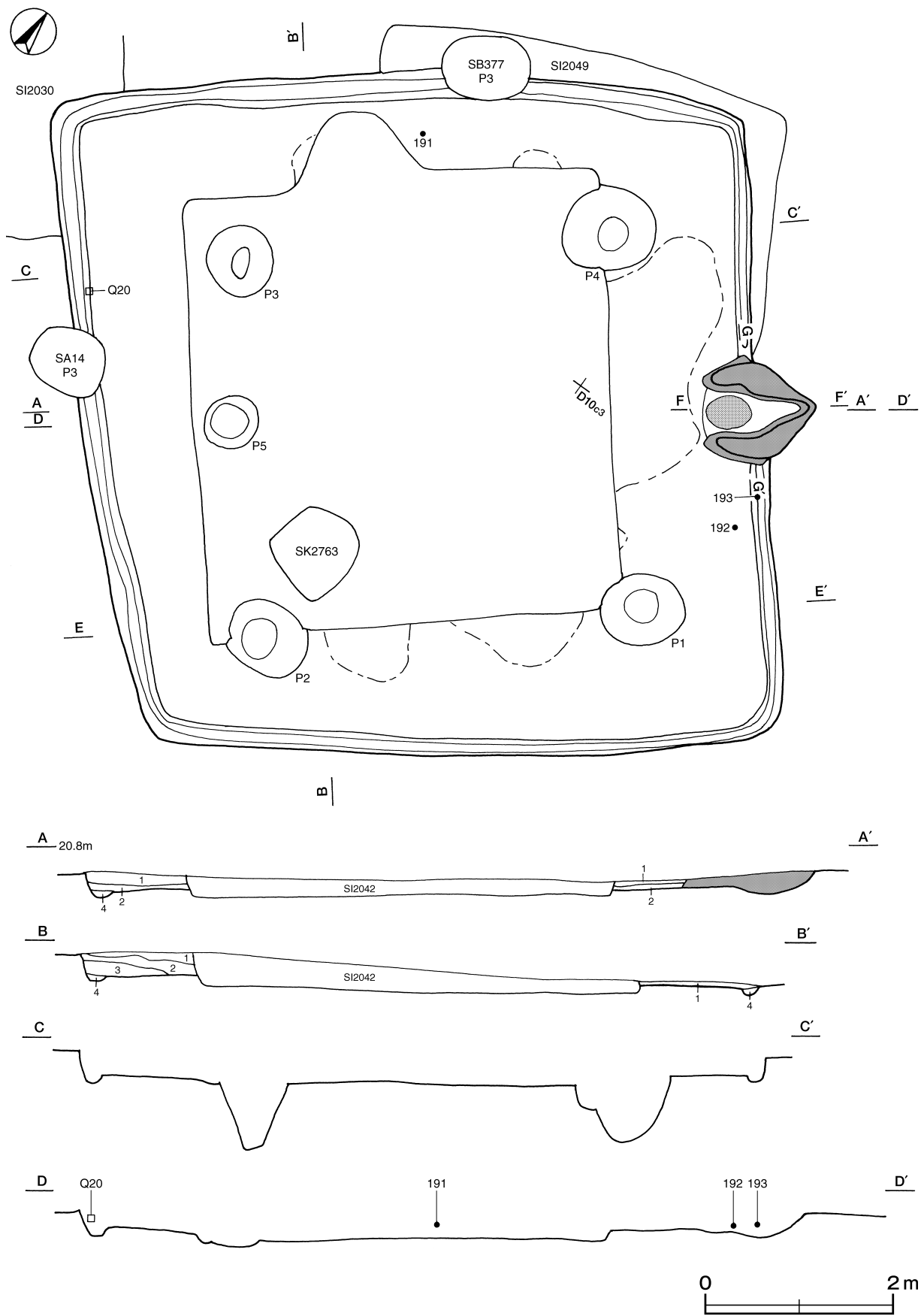
規模と形状 長軸7.75m，短軸7.15mの方形で，主軸方向はN - 55° - Eである。壁高は7～27cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅12～21cm，深さ6～10cmでU字状の断面形を呈する壁溝が巡っている。

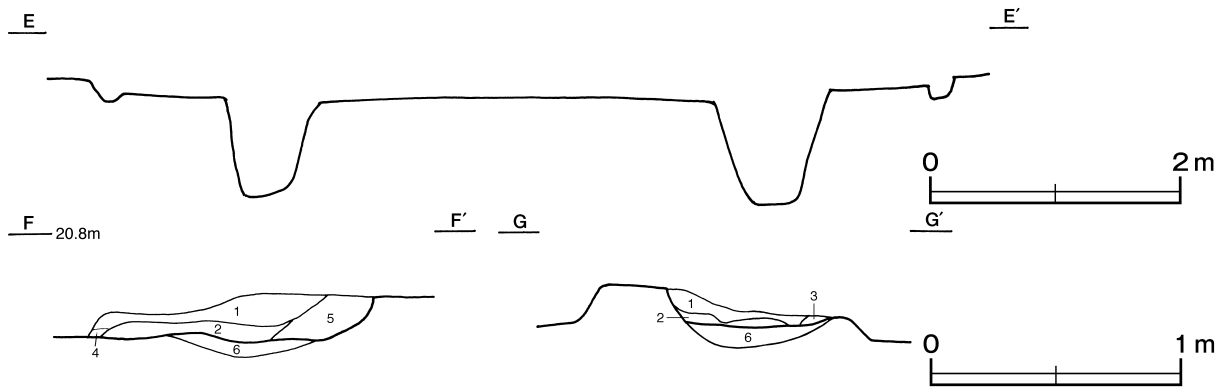
竈 東壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで135cm，袖部幅112cmである。火床部は床面を8cm皿状に掘りくぼめた部分を床面とほぼ同じ高さまで埋め戻して使用しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に55cmほど掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|--------------------------------------|------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 4 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック多量 | 5 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量 | 6 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 |



第88图 第2041号住居跡実測图(1)



第89図 第2041号住居跡実測図(2)

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で、深さは62～92cmである。P5は深さ16cmで、西壁際の中央部に位置することや硬化面の広がりから見て、出入口施設に伴うピットと考えられる。

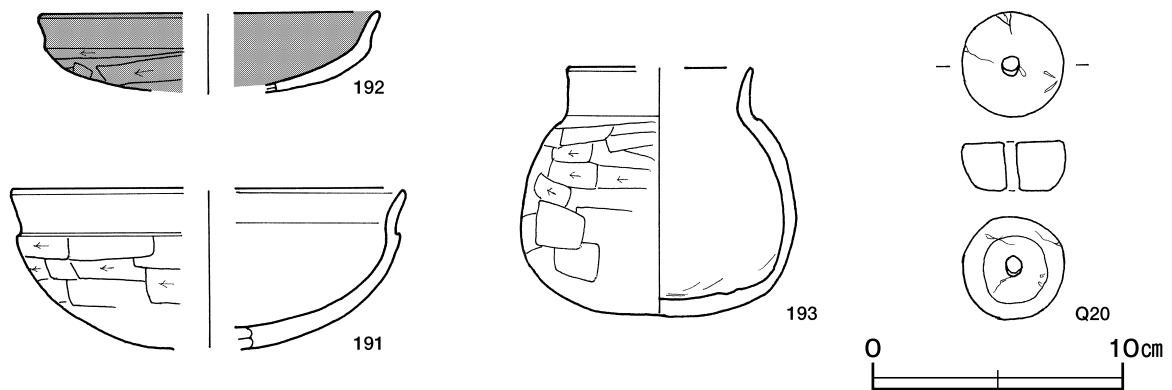
覆土 4層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 3 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物少量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片888点(坏204, 椀1, 甕類683), 石製品1点(紡錘車), 鉄滓1点が散在した状態で出土している。遺物量は多いがほとんどは細片であり、住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。191は北壁際, 192・193は東壁際の覆土下層からいずれも出土し, Q20は西壁際の覆土中層から出土している。

所見 本調査区におけるこの時期の住居は、北に竈をもつものが大半であり、東に竈をもつ例は少ない。北竈からの作り替えを想定したが、北壁際には竈の痕跡は認められない。時期は、出土土器および重複関係から7世紀前葉と考えられる。



第90図 第2041号住居跡出土遺物実測図

第2041号住居跡出土遺物観察表(第90図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
191	土師器	坏	[15.6]	(6.3)	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	覆土下層	20%
192	土師器	坏	[13.4]	(3.1)	-	長石・雲母	にぶい褐色	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	覆土下層	15%
193	土師器	壺	[7.2]	9.9	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り後ナデ 内面へらナデ	覆土下層	70% PL171

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q20	紡錘車	4.1	2.0	0.6	47.2	蛇紋岩	ナデ 円錐台形	覆土中層	

第2042号住居跡 (第91・92図)

位置 調査区南西部のD10c2区, 標高20.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2041・2049号住居跡を掘り込み, 第2763号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.80m, 短軸4.40mの長方形で, 主軸方向はN-41°-Wである。壁高は4~8cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。

竈 北壁の中央部にわずかに掘り方の痕跡が確認されている。

ピット 5か所。P1~P3は支柱穴で, 深さは40~50cmである。P4は南壁際の中央に位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。P5の性格は不明である。

覆土 単一層でロームブロックを多く含む人為堆積である。

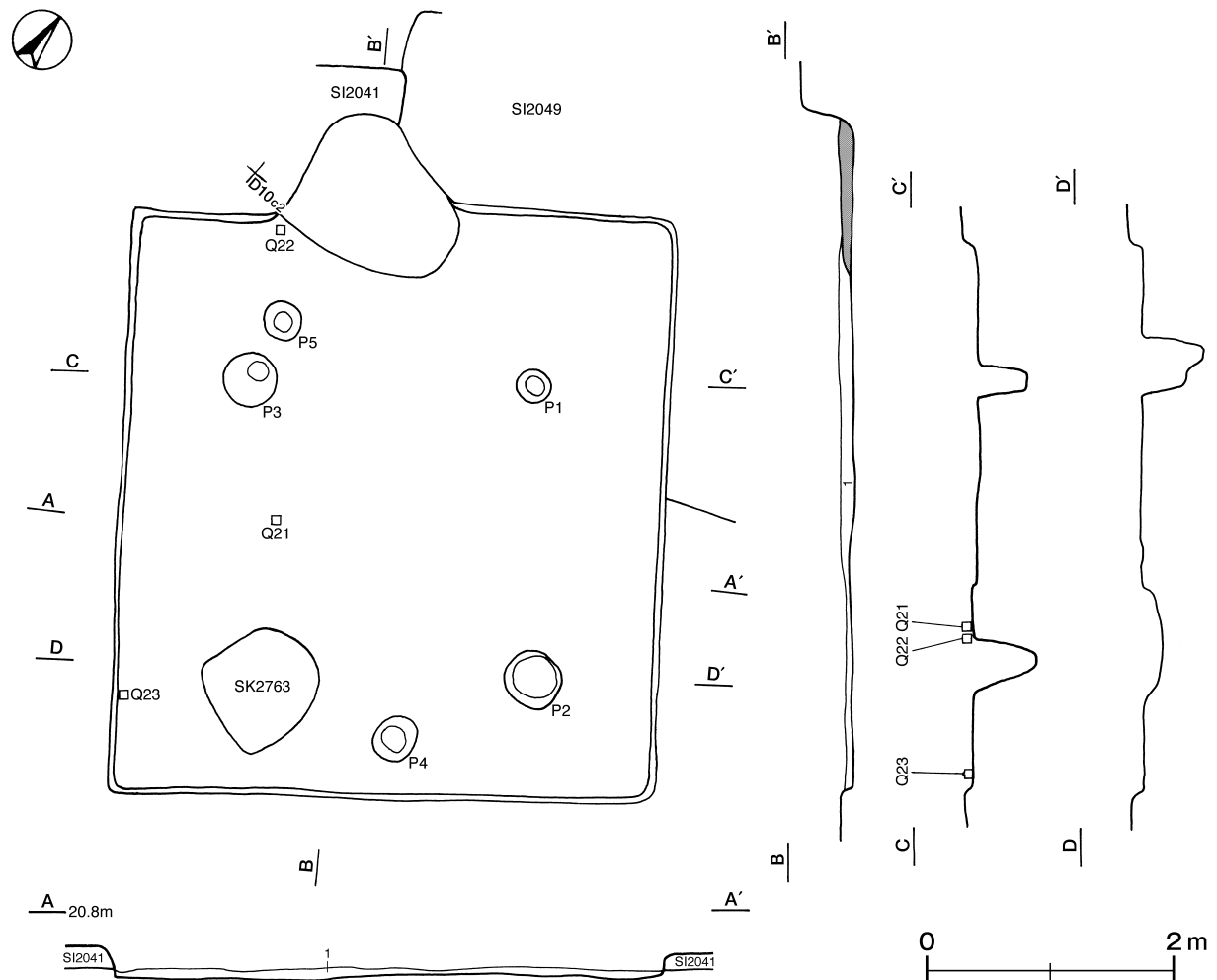
土層解説

1 褐色 ロームブロック中量

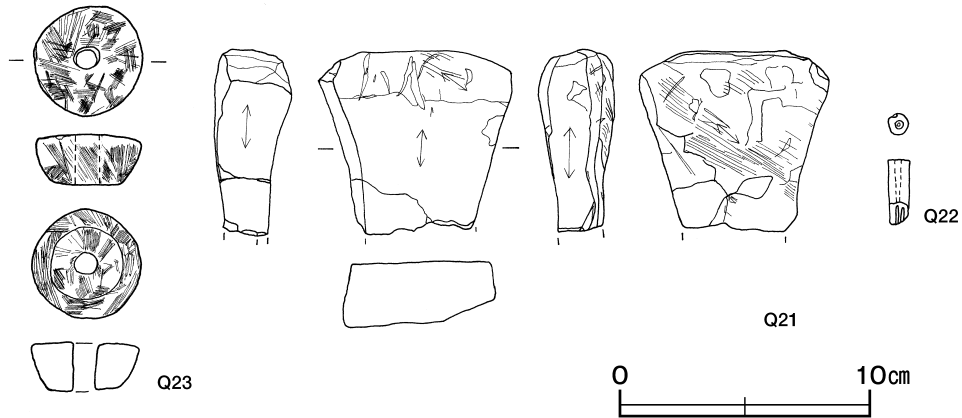
遺物出土状況 土師器片112点(坏37, 高坏1, 甕類74), 須恵器片8点(壺), 石器・石製品3点(砥石, 管玉, 紡錘車)のほか, 混入した土師器片1点, 須恵器片8点, 瓦質土器片1点, 鉄製品2点も出土している。

Q22は北壁際の床面, Q23は西壁際の床面, Q21は中央部の床面から出土し, いずれも住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 7世紀前葉に比定される第2041号住居跡を掘り込んでいることから, 時期は7世紀前葉以降と考えられる。



第91図 第2042号住居跡実測図



第92図 第2042号住居跡出土遺物実測図

第2042号住居跡出土遺物観察表（第92図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q21	砥石	(7.3)	(7.8)	(3.1)	(202.6)	凝灰岩	砥面5面 表面及び端部に条線状の研痕	床面	PL195

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q22	管玉	0.8	2.5	0.3	(2.9)	碧玉	二方向からの穿孔 一部欠損	床面	PL192
Q23	紡錘車	4.4	2.0	1.0	(54.0)	蛇紋岩	断面台形 全面に放射状の線刻 双方からの穿孔	床面	PL193

第2044号住居跡（第93～95図）

位置 調査区南西部のD10g3区、標高22mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2208・2209号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.57m、短軸5.07mほどの方形で、主軸方向はN-26°-Wである。壁高は30～42cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅14～16cm、深さ5～9cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

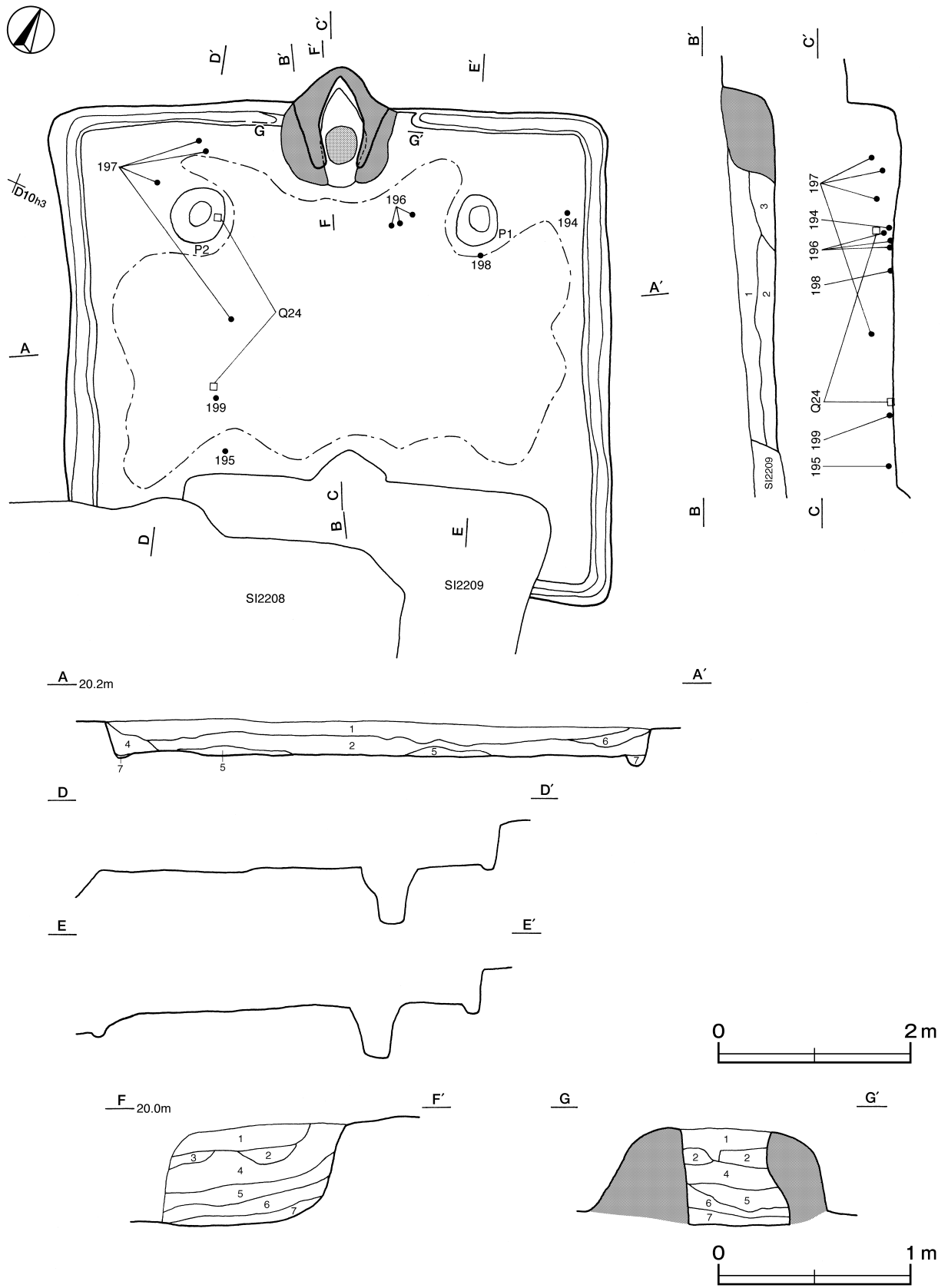
竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで126cm、袖部幅112cmであり、袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面に砂質粘土を用いて構築されている。また、袖部内から土師器甕片が多数出土しており、袖の補強材として使用されていたと考えられる。火床部は床面を5cm掘りくぼめて使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ39cmほど掘り込まれ、火床部から急な傾斜で立ち上がっている。

第2・3層は、天井部の崩落層である。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、砂質粘土粒子少量 |
| 2 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量、焼土ブロック少量 |
| 3 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 灰褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 | | |

ピット 2か所。P1は深さ47cm、P2は深さ56cmで、ともに支柱穴である。P1・P2と対応する支柱穴および出入口施設に伴うピットは、第2208・2209号住居によって壊されていると考えられる。



第93图 第2044号住居跡実測图

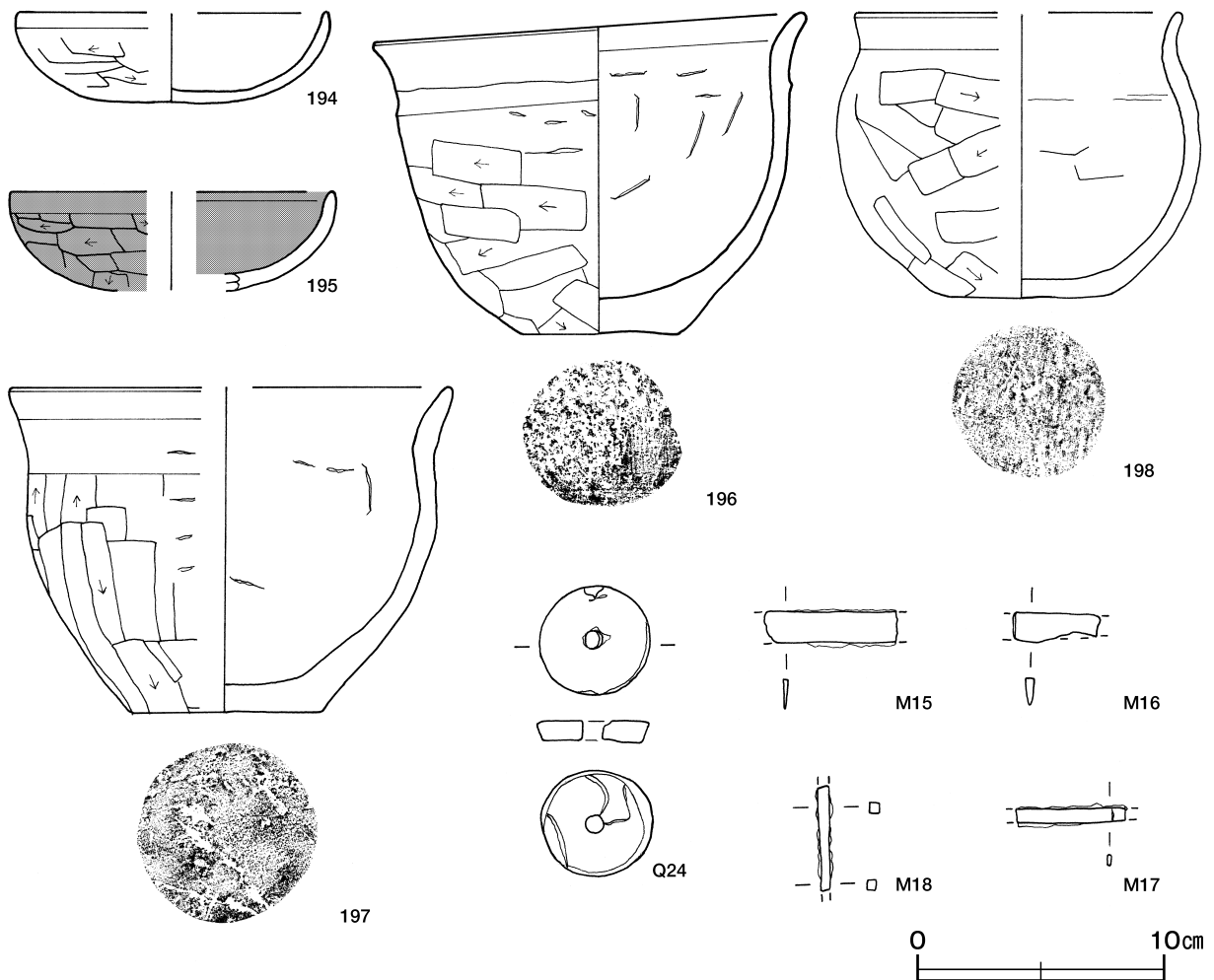
覆土 7層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

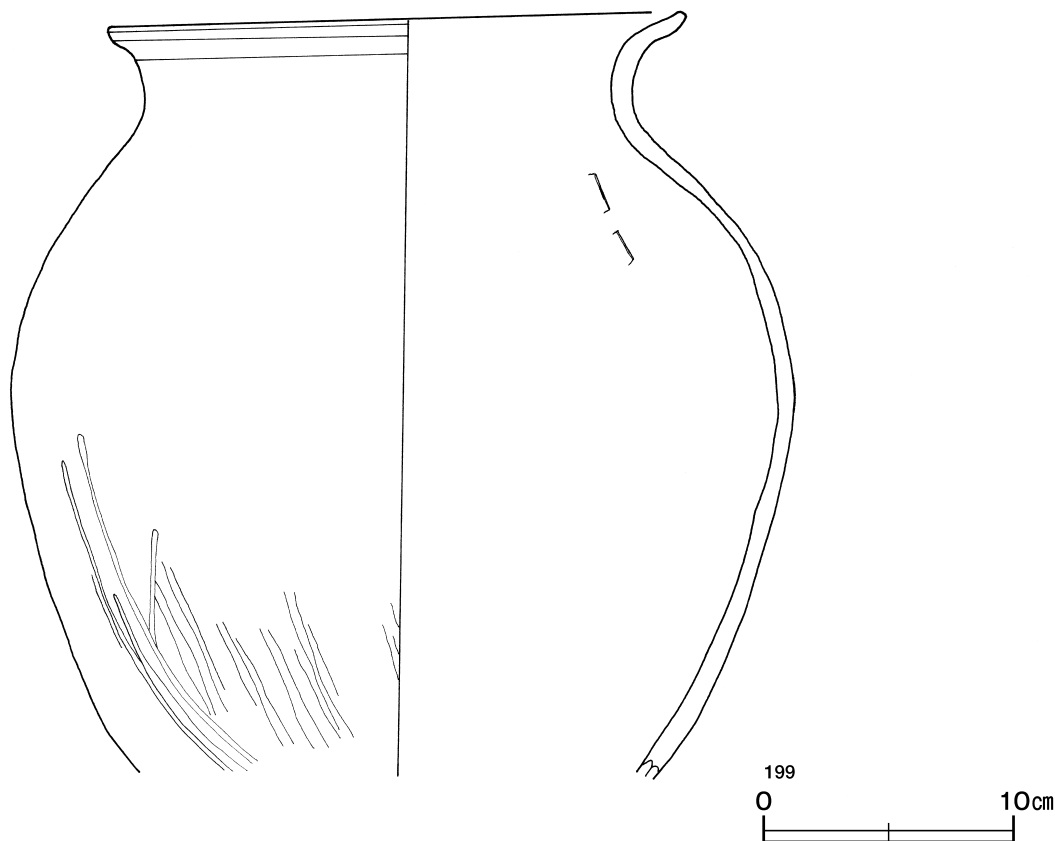
- | | | | |
|-------|----------------------------|-------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 5 褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量 焼土ブロック少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック少量 | 6 灰褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 土師器片1727点(坏245, 椀1, 高坏1, 鉢7, 甕類1469, 甌1, 手捏土器3), 土製品2点(支脚2), 石製品1点(紡錘車), 鉄製品4点(刀子3, 釘)が, 竈前面から中央部を中心に出土している。また, 混入した石鏃1点, 須恵器片73点, 青磁片1点が出土している。遺物量は多いがほとんどは細片であり, 住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。194は東壁際, 195は南西部の覆土下層から出土している。196・198は北東部の床面, 199は南西部の床面からそれぞれ出土しており, 住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。197は北西部の覆土中層から出土した破片を接合したものであり, 住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。Q24は西部の覆土下層, M15・16・17はいずれも北西部の覆土中層から出土している。

所見 時期は, 出土土器および重複関係から6世紀後葉と考えられる。



第94図 第2044号住居跡出土遺物実測図(1)



第95図 第2044号住居跡出土遺物実測図(2)

第2044号住居跡出土遺物観察表(第94・95図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
194	土師器	坏	[12.3]	3.7	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	覆土下層	30%
195	土師器	坏	[12.7](4.0)	-	-	長石・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り後ナデ 内面ナデ	覆土下層	20%
196	土師器	鉢	17.0	12.9	6.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へらナデ 底部外面へら削り	床面	90% PL169
197	土師器	鉢	[17.5]	13.1	7.5	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へらナデ 底部外面へら削り	覆土中層	40%
198	土師器	甕	[13.0]	11.5	6.0	長石・雲母・赤色粒子・礫	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へらナデ 底部外面へら削り	床面	60%
199	土師器	甕	22.6 (30.8)	-	-	長石・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら磨き 内面へらナデ	床面	30%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q24	紡錘車	4.5	1.0	0.8	29.2	粘板岩	ナデ 円錐台形 下部欠損	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M15	刀子	(5.4)	1.2	0.1	(5.6)	鉄	刀部の破片 茎部欠損	覆土中層	
M16	刀子	(3.5)	1.1	0.4	(3.7)	鉄	刀部の破片 茎部欠損	覆土中層	
M17	刀子	(4.5)	0.6	0.2	(3.3)	鉄	刀部欠損 茎部の破片	覆土中層	
M18	釘	(4.3)	0.5	0.4	(3.2)	鉄	頭部欠損 断面方形の棒状	覆土中層	

第2045号住居跡(第96図)

位置 調査区西部のC10h3区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2774号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.65m、短軸5.57mの方形で、主軸方向はN - 15° - Wである。壁高は2 ~ 9cmで、外傾し

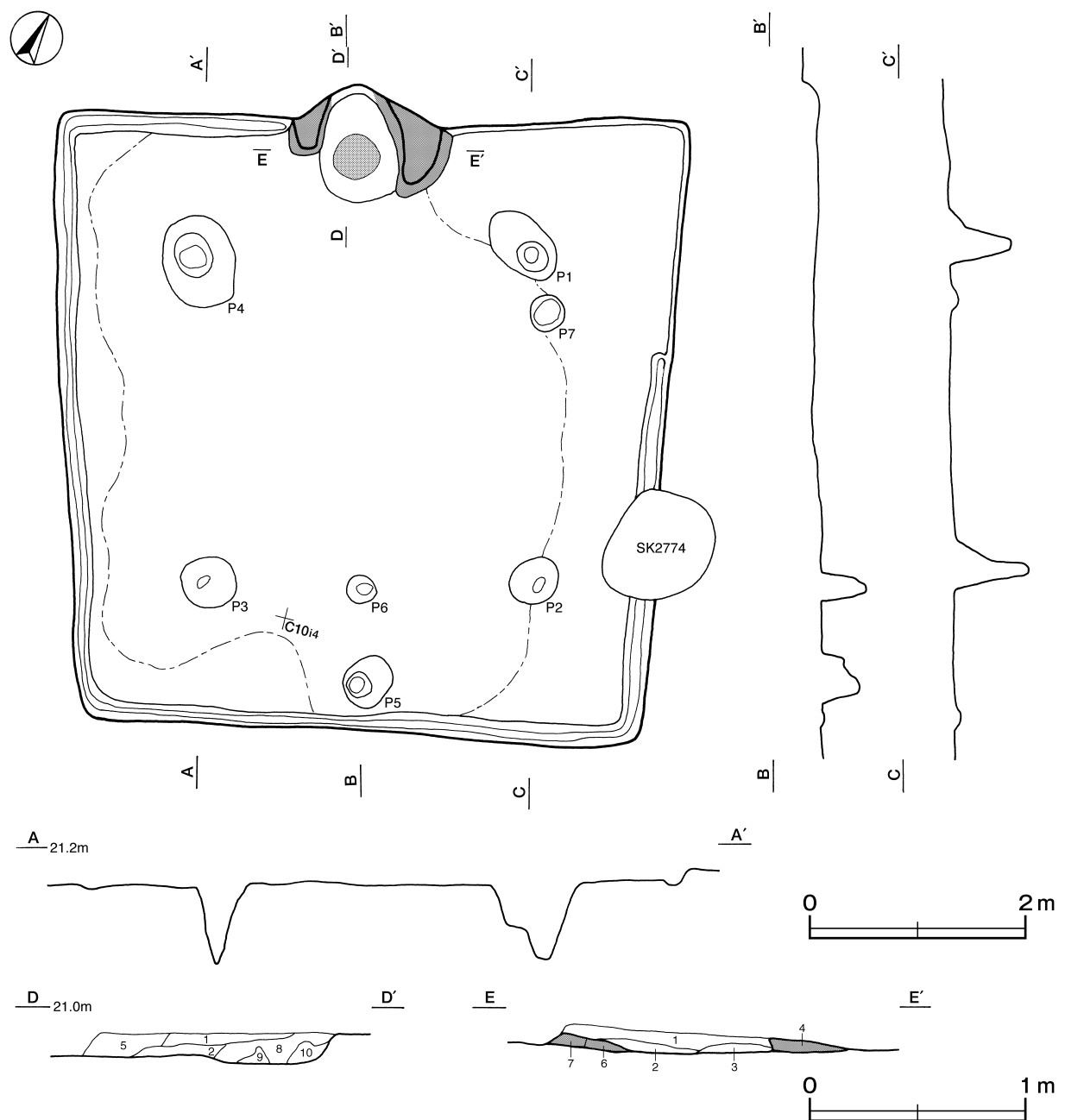
て立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり、中央部が踏み固められている。壁下には、幅13~18cm、深さ3~6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで108cm、袖部幅151cm、壁外への掘り込みは34cmである。袖部は、床面とほぼ同じ高さの地山面にローム混じりの砂質粘土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面をそのまま使用し、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------------|---------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量,ロームブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量,ロームブロック微量 | 7 にぶい褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量,ロームブロック・砂質粘土粒子少量 | 8 赤黒色 | ロームブロック少量,焼土ブロック微量 |
| 4 にぶい褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | 9 褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック中量,焼土ブロック・砂質粘土粒子微量 | 10 暗赤褐色 | ロームブロック中量・焼土ブロック中量・炭化物微量 |



第96図 第2045号住居跡実測図

ピット 7か所。P1～P4は主柱穴で、深さは59～71cmである。P5は深さ35cm、P6は深さ44cmで、竈と南壁を結ぶ直線上に位置していることから、ともに出入口施設に伴うピットと考えられる。P7の性格は不明である。

覆土 床面の一部が露出した状態で検出されており、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器片94点（坏1，甕93）、須恵器片52点（坏33，蓋1，甕18）が出土しているが、いずれも細片である。

所見 出土遺物が細片のため遺物による時期決定は困難であるが、時期は、住居の規模および周辺に位置する住居跡の主軸方向などから古墳時代後期と考えられる。

第2048号住居跡（第97・98図）

位置 調査区南部のD11a8区、標高19.5mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2153A住居、第45号井戸、第2496号土坑に掘り込まれている。

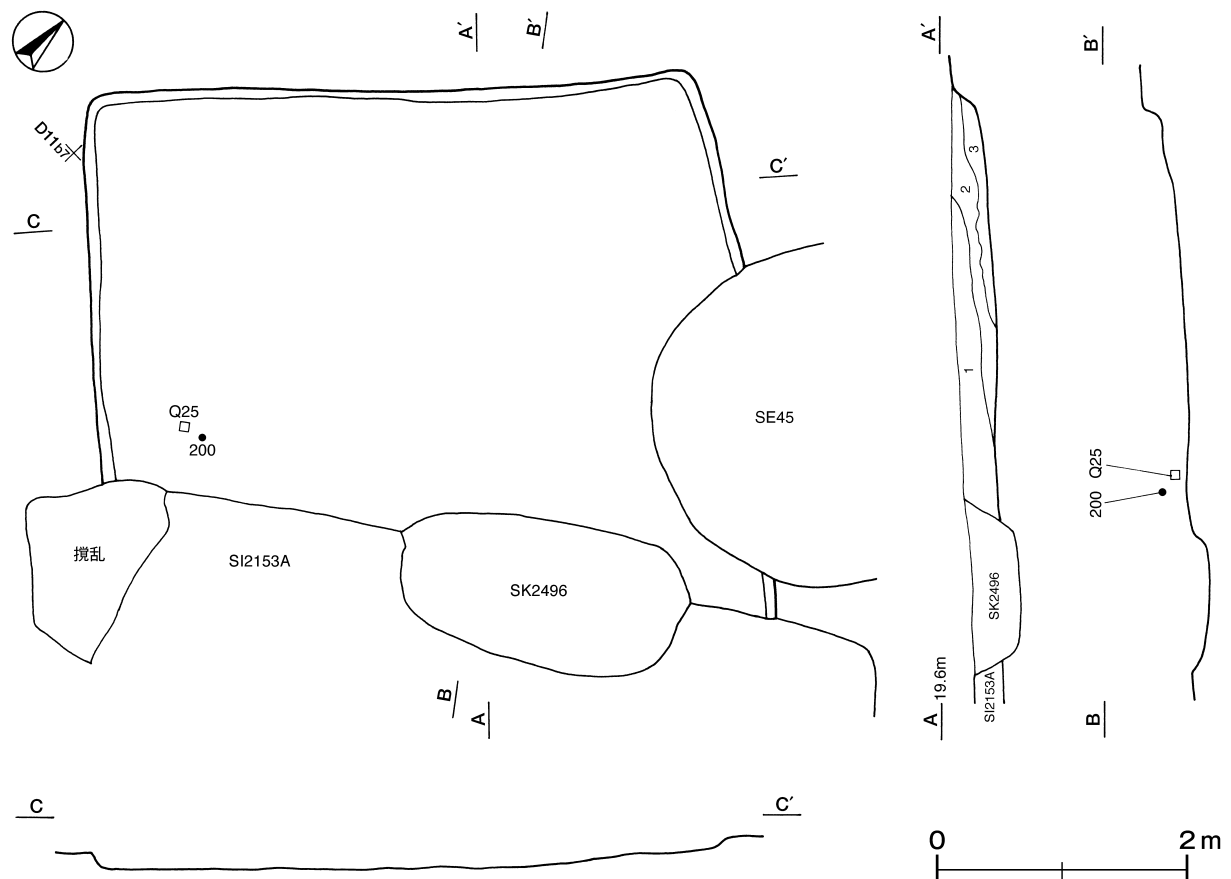
規模と形状 南北軸5.12m、東西軸3.44mだけが確認され、方形または長方形と推定される。主軸方向はN-43°-Eである。壁高は14～20cmで、外傾して立ちあがっている。

床 ほぼ平坦である。

覆土 3層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

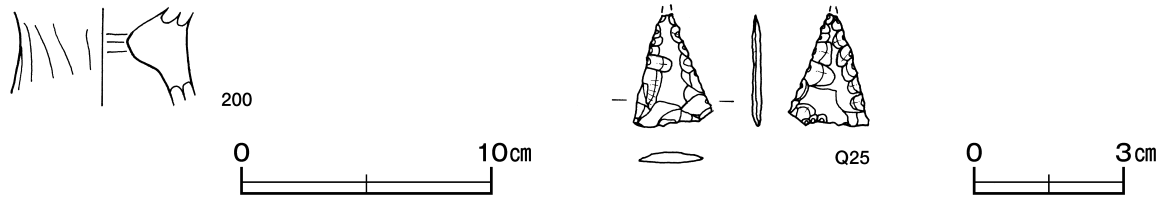
- | | | | |
|-------|-----------|-------|---------|
| 1 黒色 | ロームブロック少量 | 3 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | | |



第97図 第2048号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片 1 点（器台），石器 1 点（石鏃）が出土している。また，混入した須恵器片 1 点も出土している。200は南部の覆土上層，Q25は覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 遺物が少ないため時期の特定は難しいが，竈がない住居形態や重複関係から 5 世紀以前と考えられる。



第98図 第2048号住居跡出土遺物実測図

第2048号住居跡出土遺物観察表（第98図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
200	土師器	器台	-	(3.9)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	脚部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土上層	5%

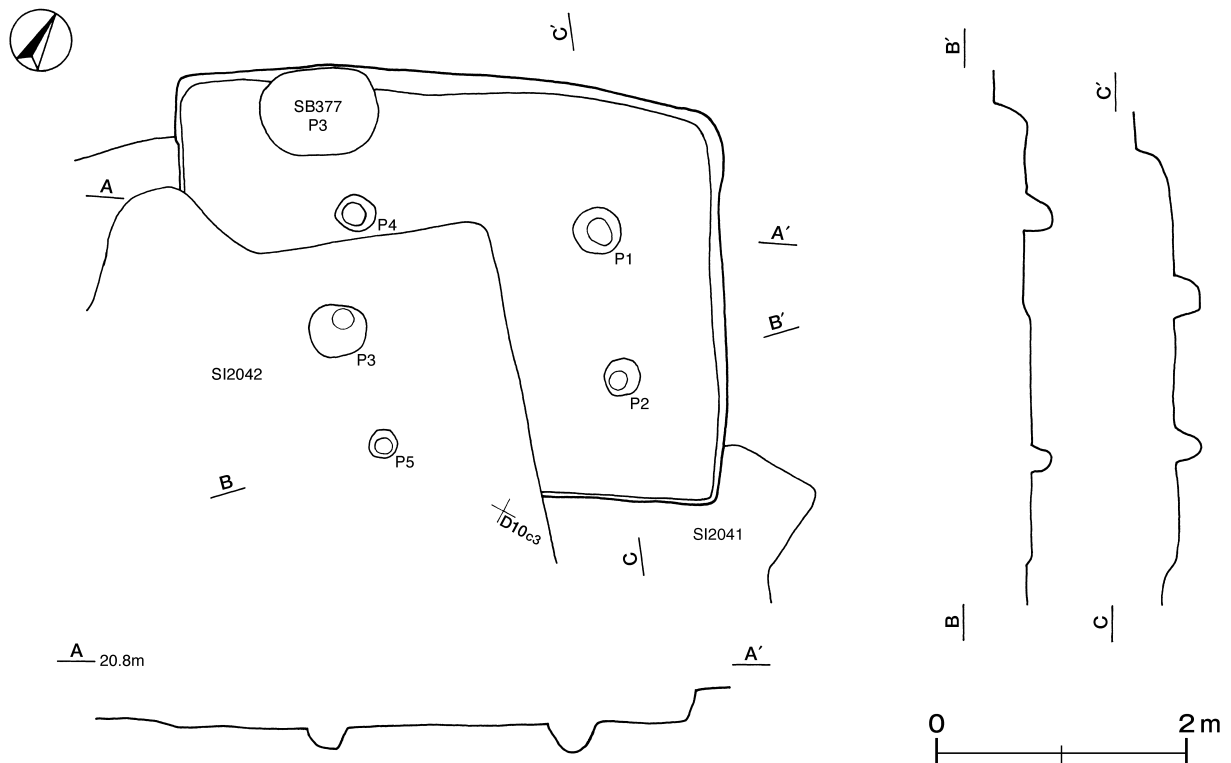
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q25	鏃	2.1	1.6	0.2	0.7	チャート	両面押圧剥離による加工 無茎	覆土下層	

第2049号住居跡（第99図）

位置 調査区西部のD10b2区，標高20.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2041・2042号住居，第377号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.30m，短軸3.25mの長方形で，主軸方向はN - 65° - Eである。壁高は25～30cmで，外傾して立ち上がっている。



第99図 第2049号住居跡実測図

床 ほぼ平坦である。

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で、深さ16～22cmである。P5は深さ14cmで、南壁際に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

遺物出土状況 土師器片19点(坏3, 甕類16)が出土している。土器はいずれも細片のため、図示できるものはない。

所見 時期は、7世紀前葉に比定される第2041号住居に掘り込まれていることから、7世紀前葉以前と考えられる。

第2051号住居跡(第100～102図)

位置 調査区北西部のD9h8区、標高22mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2023号住居, 第122号溝, 第2664～2670・2748号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸8.89m, 短軸8.85mの方形で、主軸方向はN-42°-Wである。壁高は23～55cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、各壁の近くまで踏み固められている。南壁中央部ではP5を囲むように馬蹄形の土手状の高まりが確認されており、この周囲が特に硬化している。壁下には、幅12～21cm, 深さ6～11cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。また、東西壁際には、長さ119～155cm, 幅29～39cm, 深さ7～12cmでU字状の断面を呈する間仕切り溝が6条検出されている。床面全体に焼土が堆積しており、炭化材も認められる。焼土層は、中央部P10付近では22cmの厚みを有している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで165cm, 袖部幅171cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さの地山面を使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ89cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第2・3・4層は、天井部の崩落層である。

竈土層解説

1 灰褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量	4 灰褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化物少量
2 灰褐色	砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	5 暗赤褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子・砂質粘土粒子少量
3 灰褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量	6 暗褐色	炭化粒子・砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量
		7 灰褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量

ピット 10か所。P1～P4は主柱穴で、深さは87～94cmである。P5は深さ35cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ24cmで、P1とP2のほぼ中間に位置している。また、P9は深さ8cmで、P3とP4のほぼ中間に位置していることから、ともに支柱穴と考えられる。P7・8・10の性格は不明である。

貯蔵穴 3か所。貯蔵穴1, 貯蔵穴2は、ともに北東コーナー部に位置している。貯蔵穴1は、長軸158cm, 短軸79cmの隅丸長方形で、深さは54cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴2は、長軸132cm, 短軸71cmの隅丸長方形で、深さは64cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴1の覆土上層はやや硬化しており、床として使用した痕跡が認められることから、貯蔵穴1を廃絶した後に貯蔵穴2を使用したと考えられる。貯蔵穴3は南中央部壁際に位置し、長径94cm, 短径80cmの不整楕円形で、深さは36cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は、いずれも人為堆積の状況を示している。

貯蔵穴2土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	3 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量	4 黒褐色	ロームブロック中量

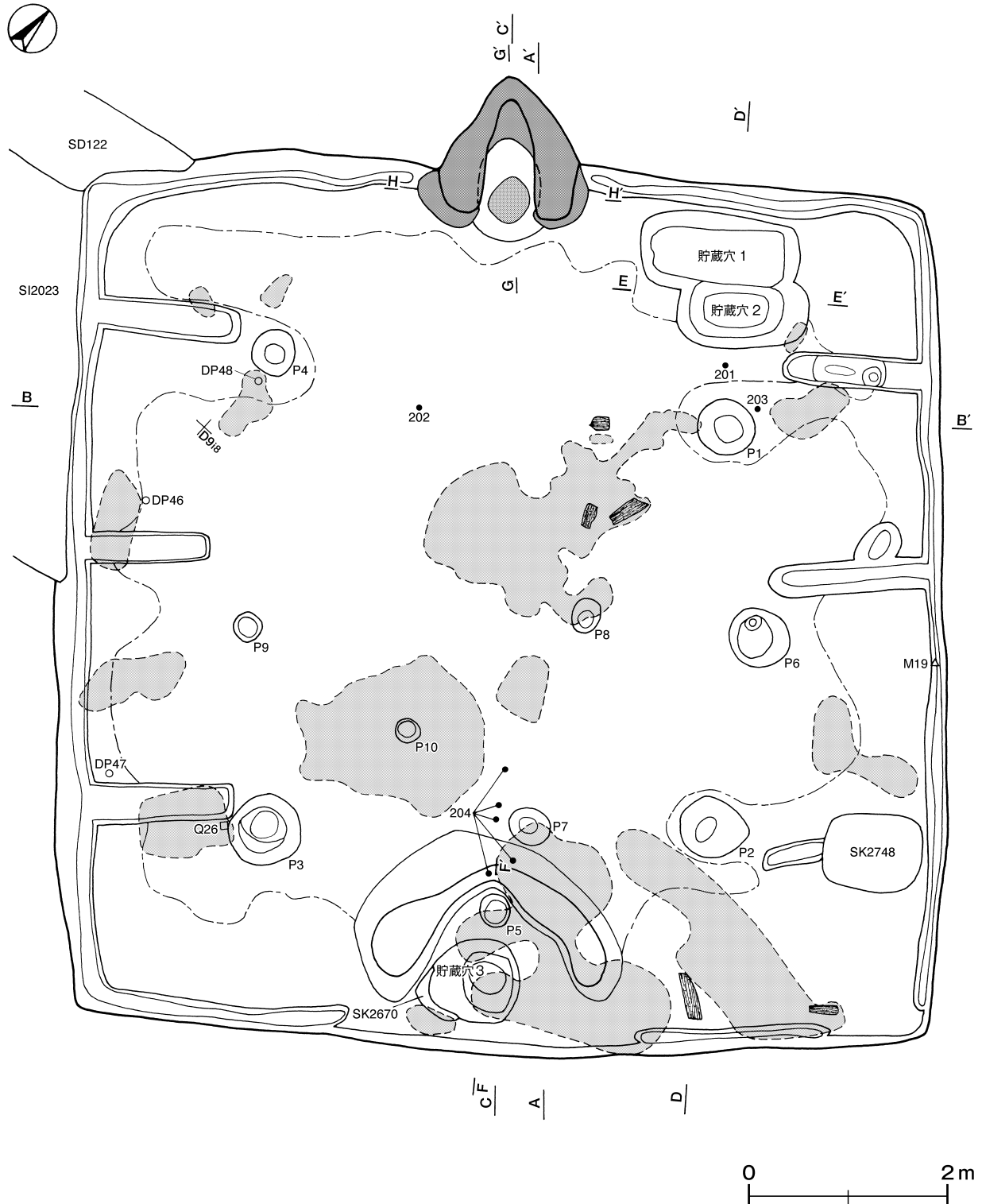
貯蔵穴3土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロ-ム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロ-ム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロ-ムブロック少量 | 5 黒褐色 | ロ-ムブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロ-ムブロック・焼土粒子微量 | | |

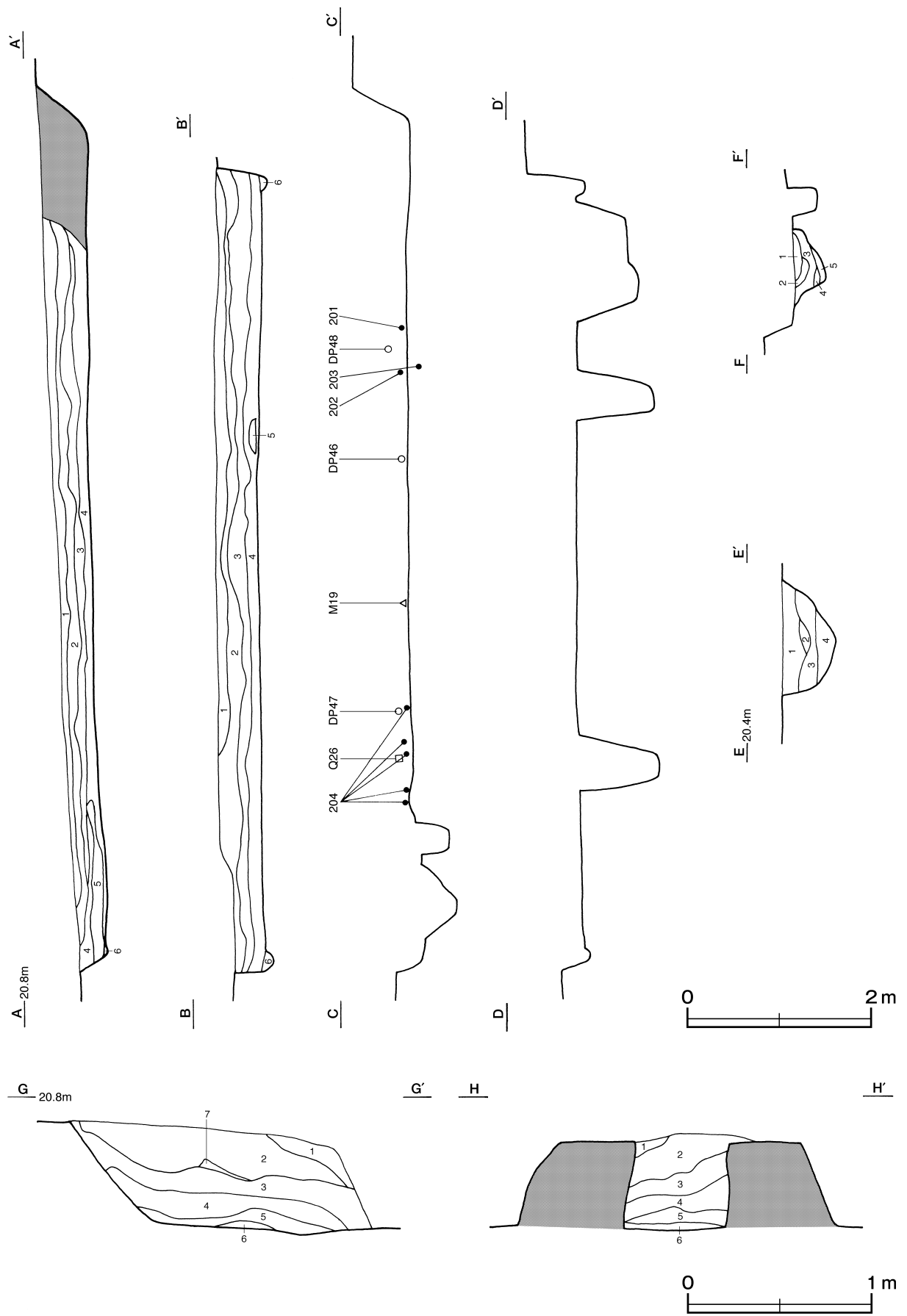
覆土 6層に分けられる。多量の焼土ブロックを含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|--------------------|
| 1 褐色 | ロ-ム粒子中量, 焼土ブロック少量 | 4 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ロ-ム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロ-ムブロック中量, 焼土ブロック少量 | 5 赤褐色 | 焼土ブロック多量 |
| 3 暗褐色 | ロ-ムブロック・焼土ブロック・炭化ブロック少量 | 6 暗褐色 | ロ-ムブロック少量 |



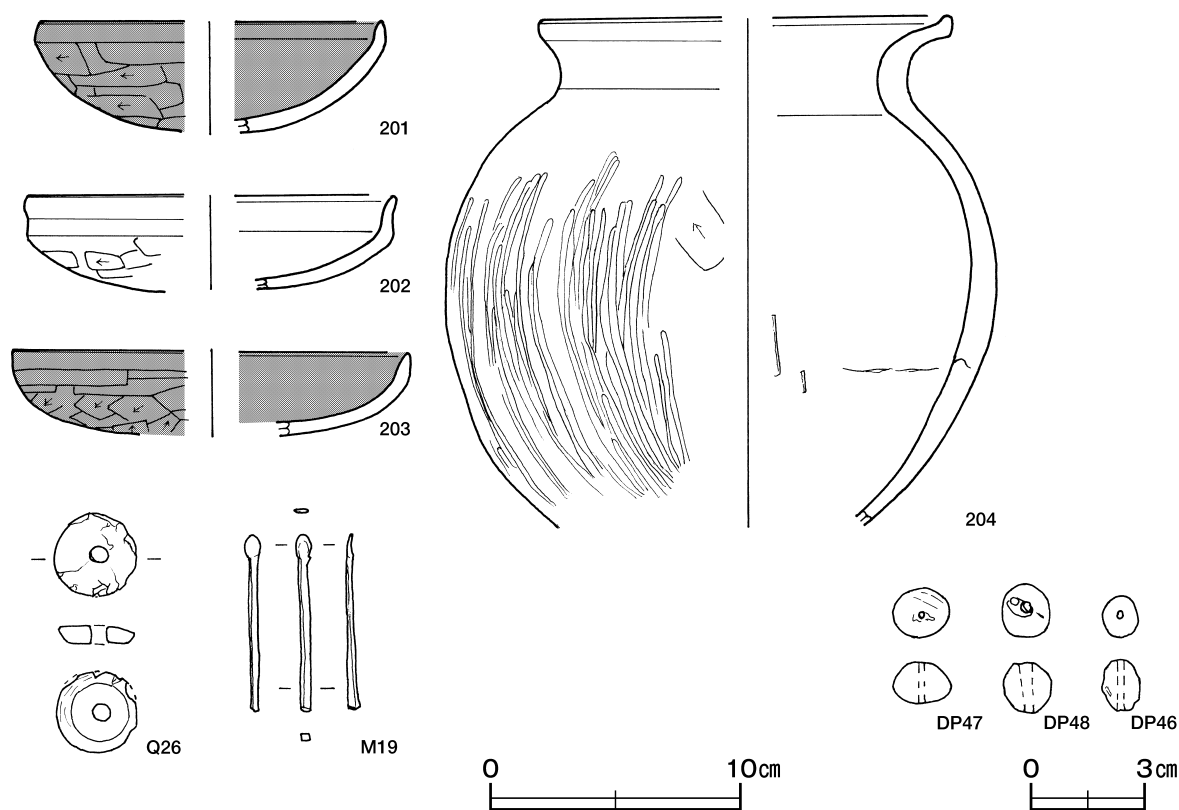
第100図 第2051号住居跡実測図(1)



第101图 第2051号住居跡実測図(2)

遺物出土状況 土師器片2829点（坏673，高坏10，壺32，甕類2109，ミニチュア土器2，手捏土器3），須恵器片37点（坏23，甕14），土製品9（支脚6，土玉2，玉1），石製品1点（紡錘車），銅製品1点（葉匙カ）が散在した状態で出土している。また，混入した縄文土器片2点も出土している。遺物量は多いがほとんどが細片であり，出土層位は床面に堆積した焼土よりも上層であることから，住居廃絶後に投棄されたものと考えられる。201は北東部，202は竈前部の床面から出土しており，住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。203はP1の覆土上層から出土しており，柱抜き取り後に投棄されたものと考えられる。204は南部の覆土下層から出土しているが，破片を接合したものであり，住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。また，DP47，DP46は西部壁際の覆土下層，DP48は北西部の覆土中層，Q26は南西コーナー部の覆土下層，M19は東部壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 床面に焼土が堆積し，炭化材も認められることから，焼失住居と考えられる。時期は，出土土器および重複関係から6世紀後葉と考えられる。



第102図 第2051号住居跡出土遺物実測図

第2051号住居跡出土遺物観察表（第102図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
201	土師器	坏	[13.6]	(4.4)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	床面	25%
202	土師器	坏	[14.6]	(3.7)	-	長石・石英	明灰褐色	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	床面	20%
203	土師器	坏	[15.6]	(3.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐色	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	P1覆土上層	35%
204	土師器	甕	[16.4]	(20.2)	-	長石・石英	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら磨き 内面へらナデ	覆土下層	60%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP46	玉	1.0	1.4	0.2	1.3	土(長石・雲母)	棗状 ナデ 一方向の穿孔	覆土下層	PL189

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP47	土玉	1.3	1.1	0.2	2.2	土(雲母)	ナデ 一方向の穿孔	覆土下層	PL189
DP48	土玉	1.5	1.4	0.4	2.0	土(雲母)	ナデ 一方向の穿孔 片面のみ一か所の穿孔	覆土中層	PL189

番号	器種	径	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q26	紡錘車	3.3	3.2	0.8	(12.7)	滑石	ヘラ磨き 円錐台形	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M19	不明銅製品	7.1	0.4	0.6	5.5	銅	葉さじ状 茎部断面長方形の棒状	覆土下層	PL198

第2052号住居跡(第103~105図)

位置 調査区南西部のE 9 g7区, 標高19mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2026・2197号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸6.10m, 短軸5.66mの方形で, 主軸方向はN-28°-Wである。壁高は28~35cmで, ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 各壁の近くまで踏み固められており, 竈から南壁にかけてが特に硬化している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで145cm, 袖部幅148cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されており, 内側は火を受けて赤変している。火床部は床面とほぼ同じ高さの地山面を使用しており, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に28cm掘り込まれ, 火床部から急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗褐色	砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	8 灰褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
2 灰褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化物少量	9 暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量
3 暗褐色	砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量	10 灰褐色	炭化粒子・砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量
4 灰褐色	砂質粘土粒子中量, ロームブロック・炭化物少量	11 暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量, 炭化粒子少量
5 灰褐色	砂質粘土粒子・焼土粒子中量, 炭化物少量	12 灰褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量
6 灰褐色	砂質粘土粒子・焼土粒子中量	13 灰褐色	砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子少量
7 灰褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子中量	14 黄褐色	粘土ブロック多量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

ピット 6か所。P1~P4は主柱穴で, 深さは55~65cmである。P5は深さは22cm, P6は深さは24cmであり, ともに竈と対峙する南壁際に位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。

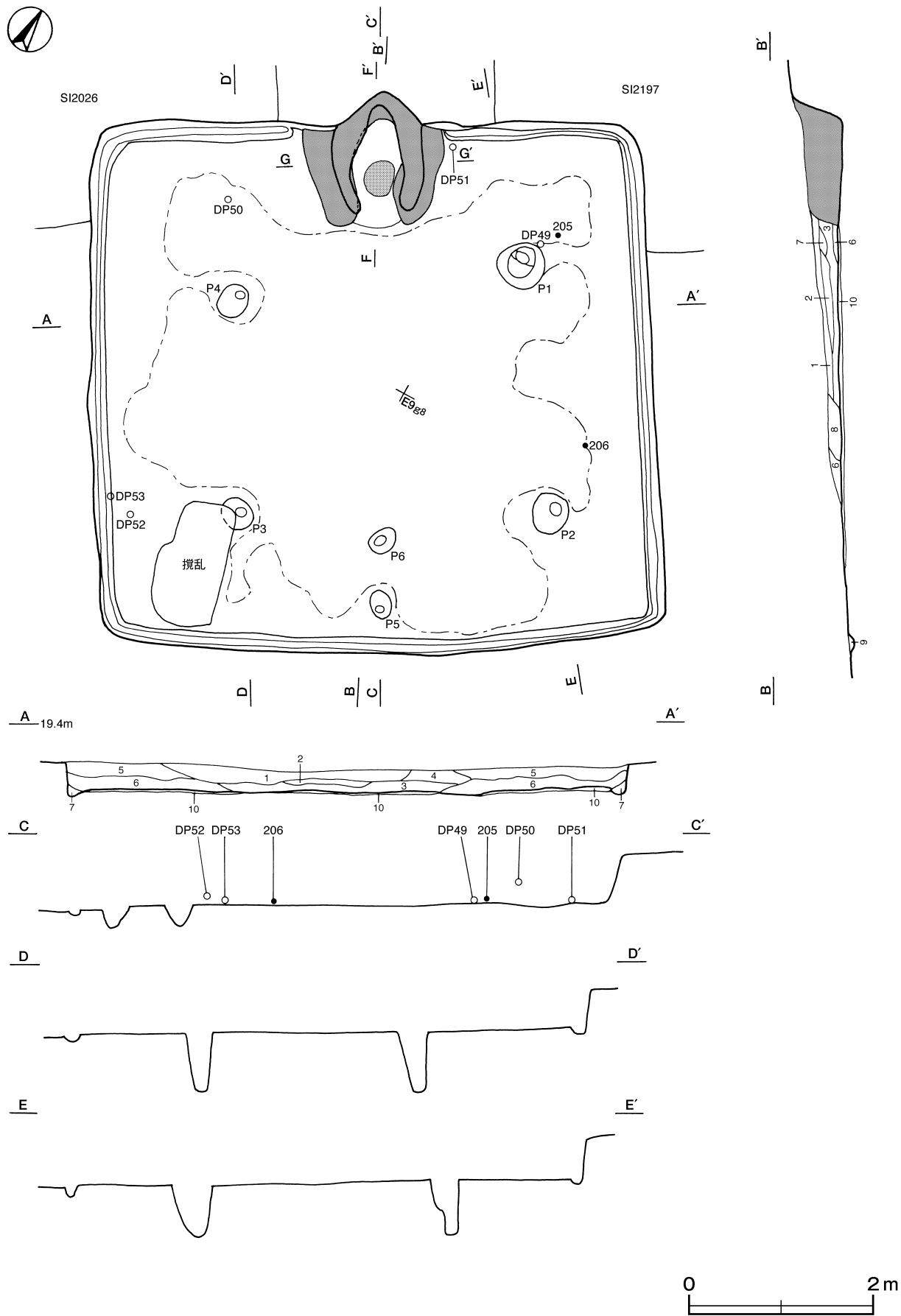
覆土 10層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。なお, 第10層は貼床の層である。

土層解説

1 褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量	6 暗褐色	焼土粒子中量, ロームブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量
2 暗褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量	7 褐色	ロームブロック中量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	8 灰褐色	粘土ブロック・ローム粒子中量
4 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	9 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	10 褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子少量

遺物出土状況 土師器片730点(坏162, 高坏13, 甕類555), 土製品5(勾玉3, 小玉2), 鉄製品2点(刀子), 種子1点(桃)が散在した状態で出土している。遺物はほとんどが細片であり, 住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。205は北東部, 206は東部の床面から出土しており, 住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。DP49は北東コーナー部の覆土下層, DP50は竈左側の覆土中層, DP51は竈右側の覆土下層, DP52, DP53は南西部壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器および重複関係から7世紀中葉と考えられる。



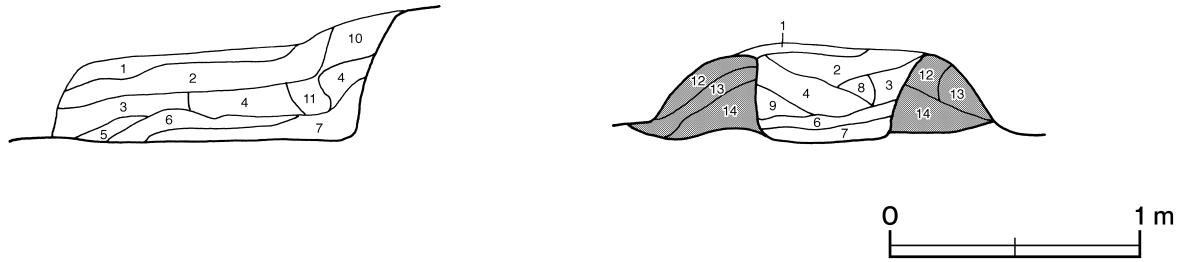
第103图 第2052号住居迹实测图(1)

F 19.4m

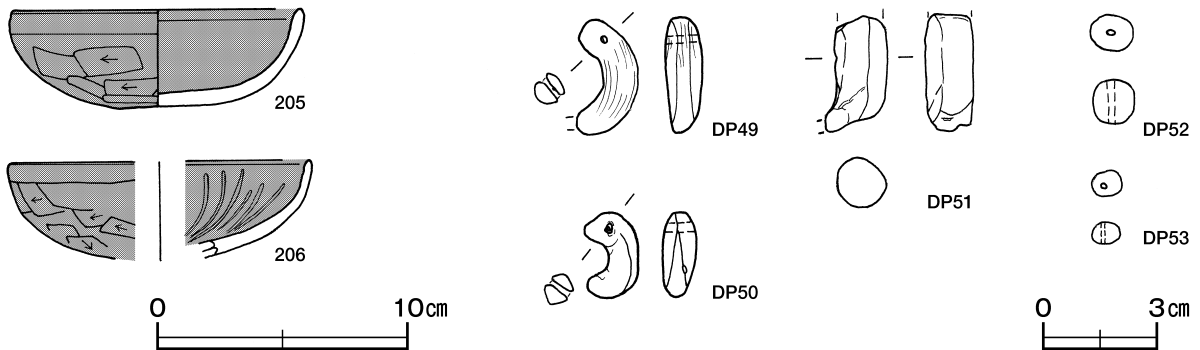
F'

G

G'



第104図 第2052号住居跡実測図(2)



第105図 第2052号住居跡出土遺物実測図

第2052号住居跡出土遺物観察表 (第105図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
205	土師器	坏	11.5	3.9	-	雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	床面	60%
206	土師器	坏	[12.0]	(3.9)	-	長石・石英	黒褐色	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面放射状の磨き	床面	35%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP49	勾玉	3.1	(1.7)	1.0	3.7	土(長石・石英)	孔径0.2cm ナデ 一方向の穿孔	覆土下層	PL190
DP50	勾玉	2.3	1.5	0.9	2.5	土(長石)	孔径0.2cm ナデ 一方向の穿孔	覆土中層	PL190
DP51	勾玉	(3.1)	(1.7)	(1.3)	7.1	土(長石)	荒いナデ	覆土下層	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP52	小玉	1.2	1.2	0.2	1.5	土(長石・石英)	ナデ 一方向の穿孔	覆土下層	PL190
DP53	小玉	0.8	0.6	0.1	0.3	土(長石)	ナデ 一方向の穿孔	覆土下層	PL190

第2053号住居跡 (第106～108図)

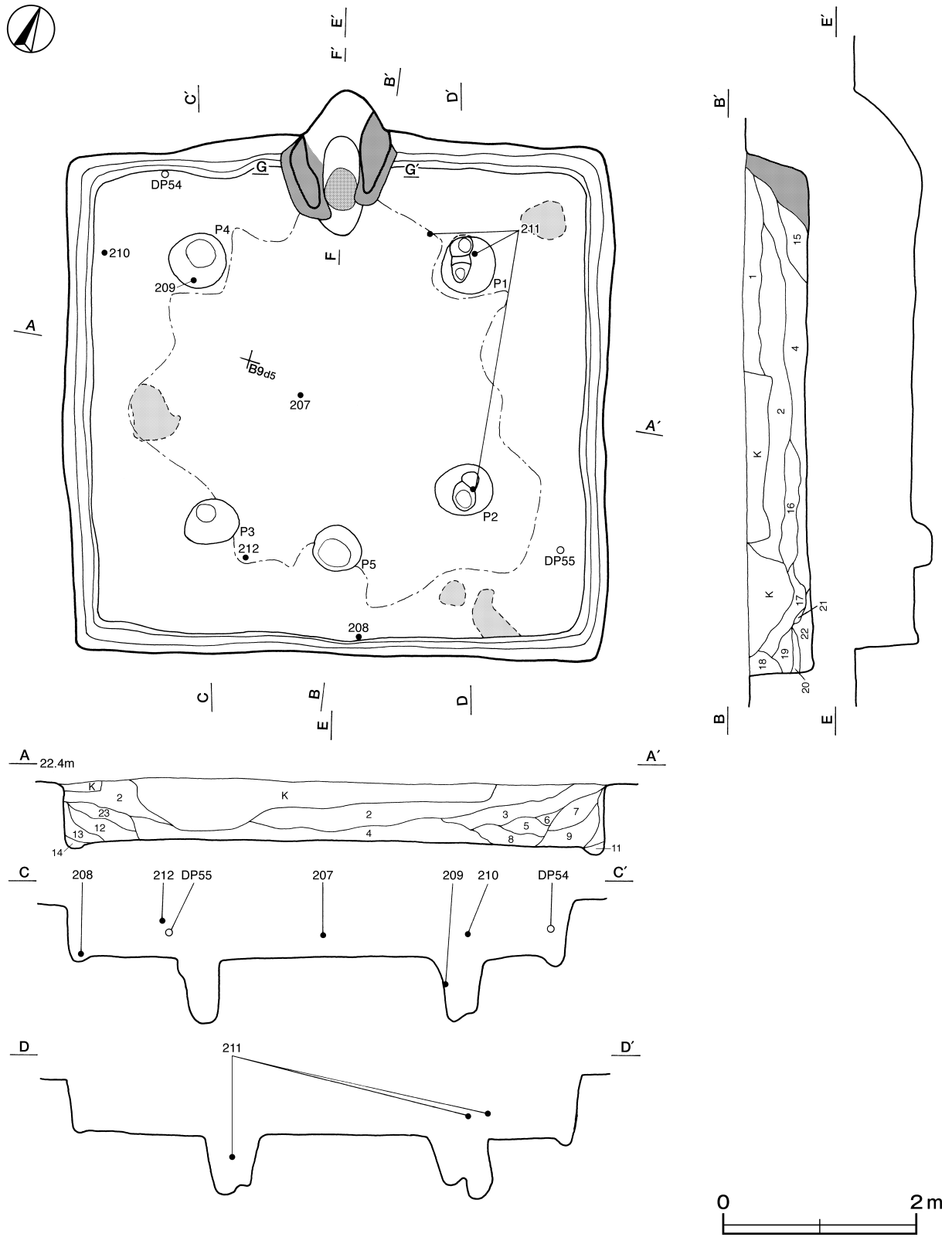
位置 調査区北西部のB 9 c5区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸5.65m、短軸5.32mの方形で、主軸方向はN - 16° - Wである。壁高は50～67cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅15～23cm、深さ5～12cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。また、床面に焼土が堆積しており、焼土層は南壁際で7cmほどの厚みを有している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで158cm、袖部幅121cmであり、袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は床面を皿状に掘りくぼめて使用しており、火を

受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に46cm掘り込まれ、火床部から緩やかな傾斜で立ち上がっている。



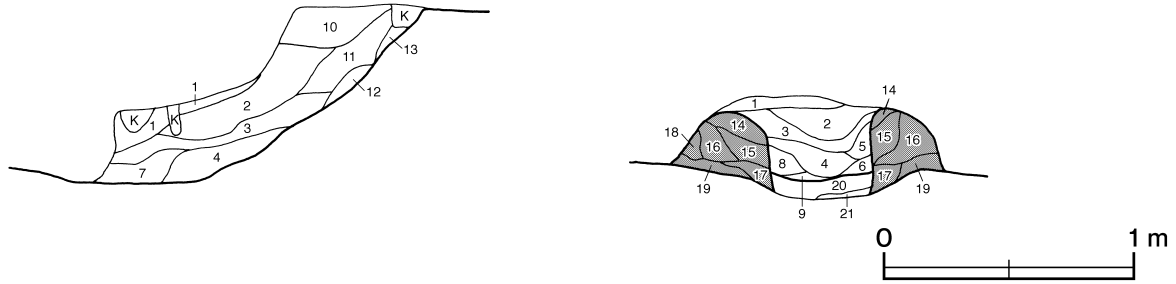
第106図 第2053号住居跡実測図(1)

F 22.4m

F'

G

G'



第107図 第2053号住居跡実測図(2)

土層解説

1 褐色	ローム粒子中量, 砂質粘土ブロック・焼土粒子少量	12 暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量
2 にぶい赤褐色	砂質粘土ブロック・焼土粒子中量	13 褐色	ローム粒子少量, 砂質粘土粒子微量
3 灰褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック少量	14 灰褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量
4 暗赤褐色	焼土粒子多量, 炭化粒子少量	15 赤褐色	焼土粒子中量, 粘土ブロック・炭化粒子微量
5 暗赤褐色	焼土ブロック中量, 砂質粘土ブロック少量	16 灰褐色	砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
6 極暗赤褐色	砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量	17 褐色	ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
7 極暗赤褐色	焼土粒子中量, 砂質粘土ブロック・炭化粒子少量	18 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
8 暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量	19 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
9 にぶい赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化物微量	20 にぶい赤褐色	焼土粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量
10 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	21 褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
11 暗褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量		

ピット 5か所。P1～P4は支柱穴で、深さは57～66cmである。P5は深さ20cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P1・P2の底部には、あたりが2か所確認できることから、柱の立て替えが想定される。

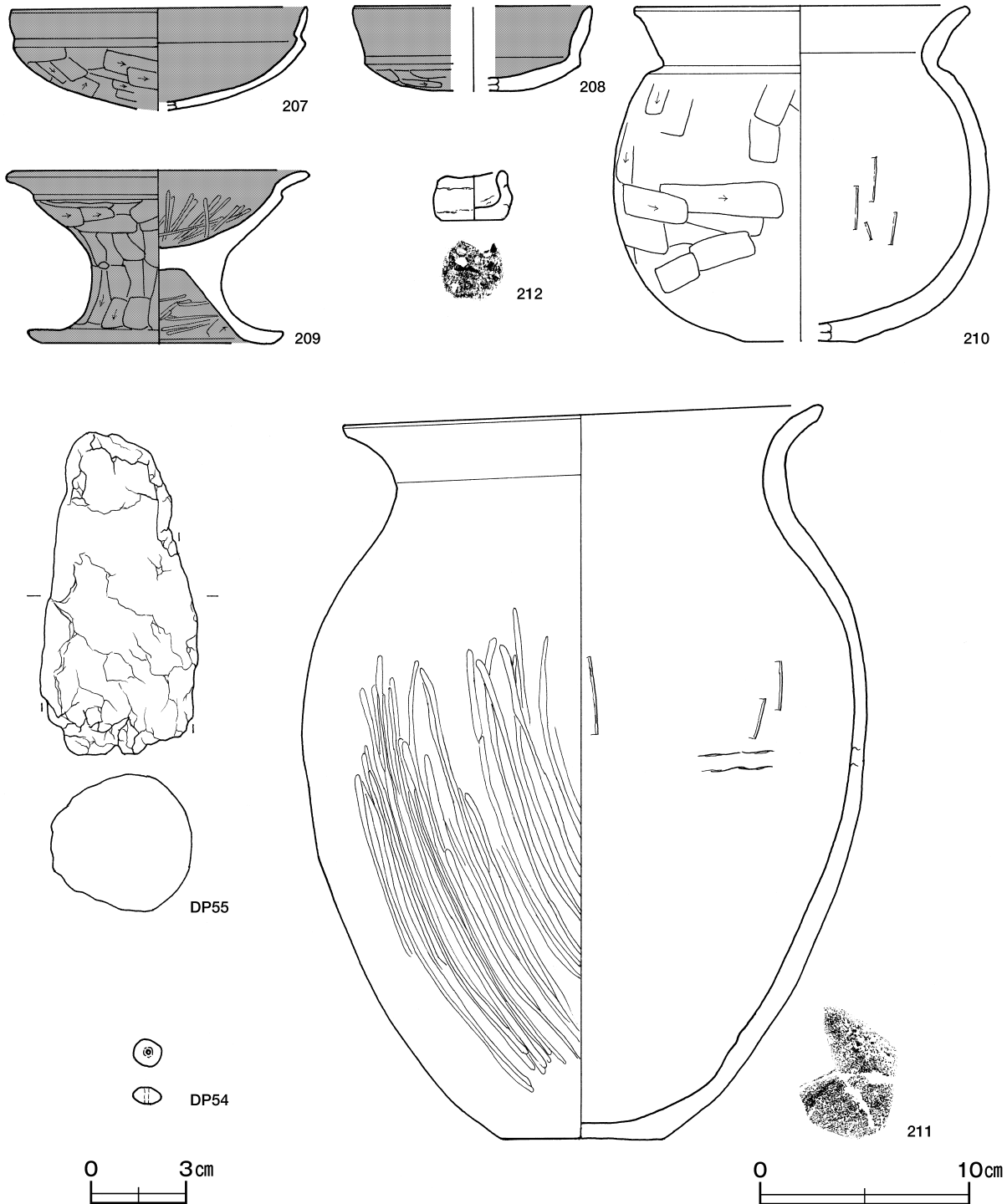
覆土 23層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	13 褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	14 褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	15 灰褐色	粘土ブロック・焼土粒子中量, 炭化材少量
4 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	16 暗褐色	ロームブロック少量
5 暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量	17 黒褐色	ロームブロック少量
6 暗褐色	炭化材・焼土粒子少量	18 褐色	ロームブロック多量, 炭化粒子微量
7 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量	19 暗褐色	ロームブロック, 焼土粒子少量, 粘土粒子微量
8 黒褐色	ロームブロック中量, 炭化材・焼土粒子少量	20 黒褐色	砂質粘土ブロック中量, 焼土粒子少量
9 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	21 黒褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
10 褐色	ローム粒子多量	22 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子少量
11 褐色	ローム粒子中量	23 暗褐色	炭化材中量, ロームブロック・炭化粒子少量
12 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片768点(坏122, 椀12, 高坏4, 甕類622, 甑7, ミニチュア土器1), 須恵器片38点(坏17, 甕類21), 土製品2点(支脚, 小玉)が散在した状態で出土している。また、混入した縄文土器片2点, 陶器片6点, 磁器片5点, 古瀬戸1点, 瓦1点も出土している。遺物量が多いがほとんどが細片であり, 出土層位も上層である。209はP4の覆土中層から, 211はP2の覆土中層から出土しており, 柱の抜き取り後に投棄されたものと考えられる。207は中央部の覆土下層, 208は南部壁際の覆土下層, 210は北西コーナー部の覆土下層, 212は南西部の覆土中層からそれぞれ出土しており, いずれも住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。また, DP54は北西コーナー部, DP55は南東部壁際の覆土中層から出土している。

所見 床面に焼土が堆積し, 覆土中に炭化材が確認できることから, 焼失住居と考えられる。時期は, 出土土器および重複関係から6世紀後葉以前と考えられる。



第108図 第2053号住居跡実測図

第2053号住居跡出土遺物観察表（第108図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
207	土師器	坏	14.0	4.8	-	長石・石英・赤色粒子	褐灰	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	覆土下層	35%
208	土師器	坏	[11.4]	4.0	-	長石・雲母	浅黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	覆土下層	25%
209	土師器	高坏	13.6	8.2	11.2	長石・石英・赤色粒子・雲母	黒褐色	普通	口辺部内外面横ナデ 坏部外面へら削り 内面磨き 脚部外面へら削り 内面磨き 裾部内外面横ナデ	P 4 覆土中層	90% PL174
210	土師器	甕	15.6	16.0	[5.2]	長石・雲母	浅黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へらナデ	覆土下層	80% PL176
211	土師器	甕	22.6	34.9	8.0	長石・石英	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら磨き 内面へらナデ	P 2 覆土中層	75%
212	土師器	ミニチュア土器	2.6	2.3	3.0	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内外面ナデ	覆土中層	100% PL168

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP54	小玉	0.9	0.6	0.1	0.3	土(雲母)	ナデ 一方向の穿孔	覆土中層	PL190

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP55	支脚	(15.3)	(7.5)	(6.5)	(582.9)	土(長石・石英)	ナデ	覆土中層	

第2056号住居跡(第109・110図)

位置 調査区西部のB 9 d9区, 標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第114・123号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.75m, 短軸4.35mの方形で, 主軸方向はN - 20° - Wである。壁高は30~38cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。壁下には, 幅9~17cm, 深さ4~7cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで95cm, 袖部幅108cmであり, 袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面にローム混じりの砂質粘土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さの地山面を使用しており, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に22cm掘り込まれ, 火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 灰 褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	12 褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量
2 灰 褐色	焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量	13 褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3 にぶい赤褐色	焼土ブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量	14 灰 褐色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4 赤 褐色	焼土ブロック中量, 砂質粘土粒子微量	15 灰 褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量
5 にぶい赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化物微量	16 灰 褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
6 灰 褐色	砂質粘土粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量	17 灰 褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
7 灰 褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	18 灰 褐色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
8 灰 褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量		
9 灰 褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量		
10 にぶい赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量, ロームブロック・炭化物少量		
11 灰 褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量		

ピット 9か所。P1~P4は主柱穴で, 深さは45~56cmである。P5は深さ35cmで, 南壁際の中央部に位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。P6~P9の性格は不明であるが, いずれもコーナー部に位置していることから, 支柱穴の可能性も考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置する。長径75cm, 短径64cmの楕円形で, 深さは33cmである。底面は皿状で, 壁は外傾して立ち上がり, 自然堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

1 暗 褐色	ロームブロック少量	3 褐色	ローム粒子中量
2 暗 褐色	ローム粒子少量		

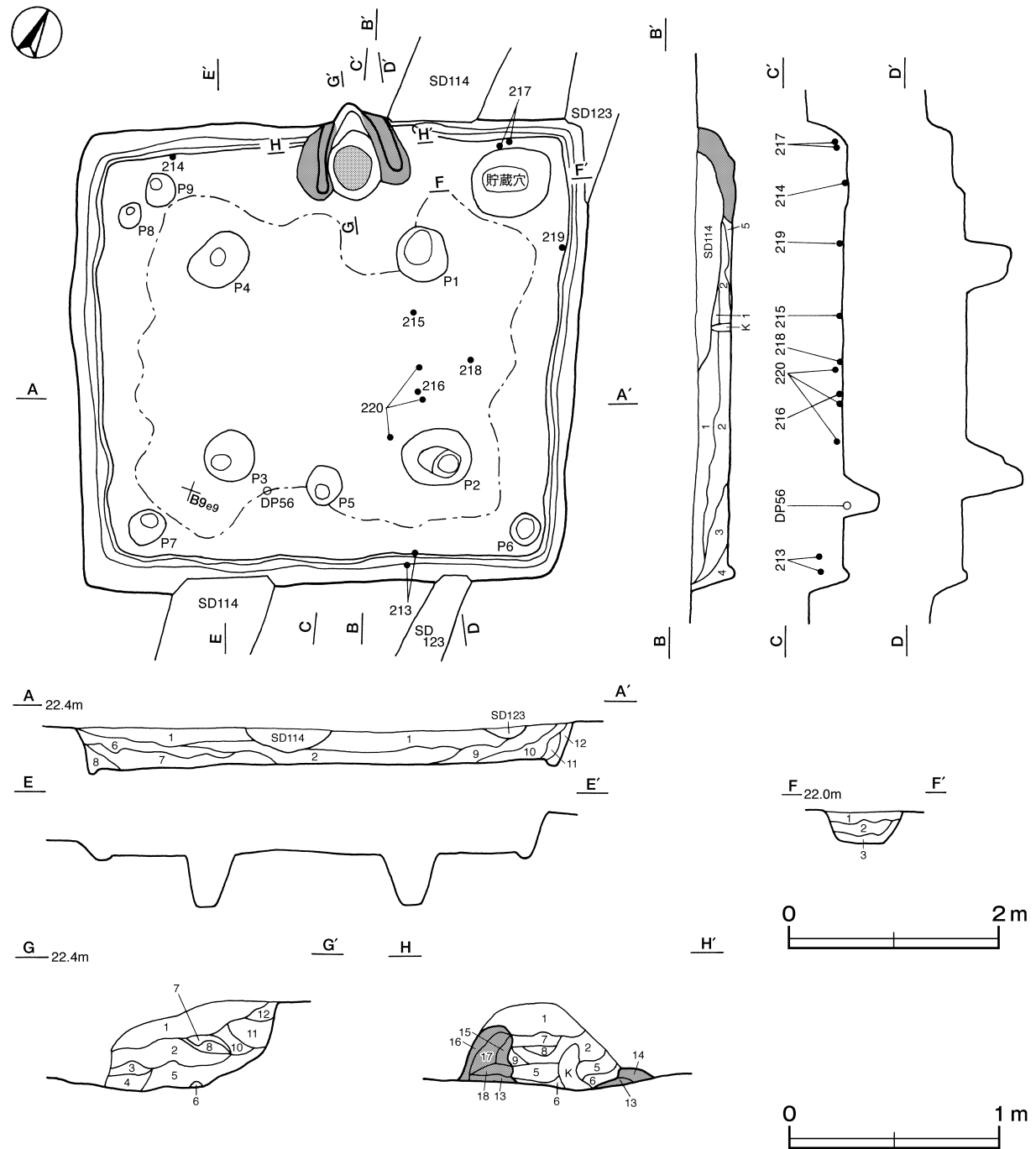
覆土 12層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

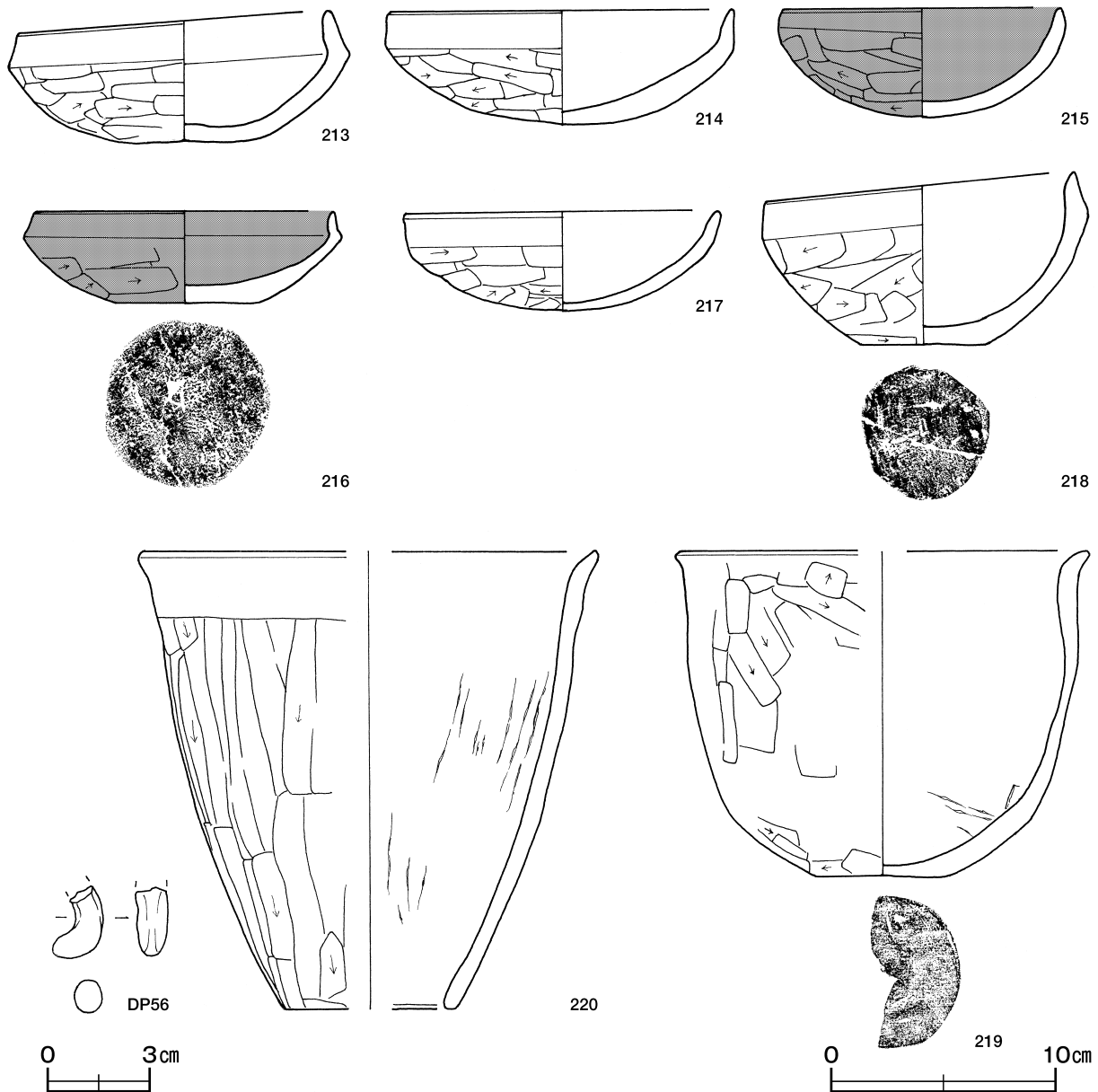
1 暗 褐色	ロームブロック少量	7 暗 褐色	ローム粒子少量
2 暗 褐色	ローム粒子中量	8 暗 褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
3 褐色	ローム粒子中量	9 暗 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
4 褐色	ロームブロック中量	10 褐色	ローム粒子中量・炭化粒子微量
5 暗 褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量	11 暗 褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
6 褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量	12 褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片488点(坏108, 甕類369, 甗11), 土製品3点(支脚2, 勾玉1), 鉄製品1点(刀子)が散在した状態で出土している。214は北西コーナー部の床面, 215・216・218は中央部やや東寄りの床面から出土しており, いずれも住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。217は北東コーナー部, 219は東壁際, 220は中央部の覆土下層, 213は南壁際の覆土中層からそれぞれ出土しており, 住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。また, DP56は南部の床面から出土している。

所見 時期は, 出土土器から6世紀中葉と考えられる。



第109図 第2056号住居跡実測図



第110図 第2056号住居跡出土遺物実測図

第2056号住居跡出土遺物観察表（第110図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
213	土師器	坏	13.7	5.7	-	長石・石英	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土中層	100% PL155
214	土師器	坏	15.3	5.1	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	床面	100% PL155
215	土師器	坏	12.3	4.8	-	長石・雲母	浅橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	床面	90% PL155
216	土師器	坏	13.2	4.1	6.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	床面	80%
217	土師器	坏	13.9	4.4	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	70%
218	土師器	坏	13.7	7.7	5.8	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	床面	80%
219	土師器	小形甕	[18.0]	14.5	6.2	石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	30%
220	土師器	甕	[20.0]	20.4	[7.8]	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土下層	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP56	勾玉	(2.1)	0.9	1.4	2.1	土（長石）	ナデ	床面	

第2057号住居跡（第111・112図）

位置 調査区北西部のB9f0区，標高22mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2021号土坑に掘り込まれている。

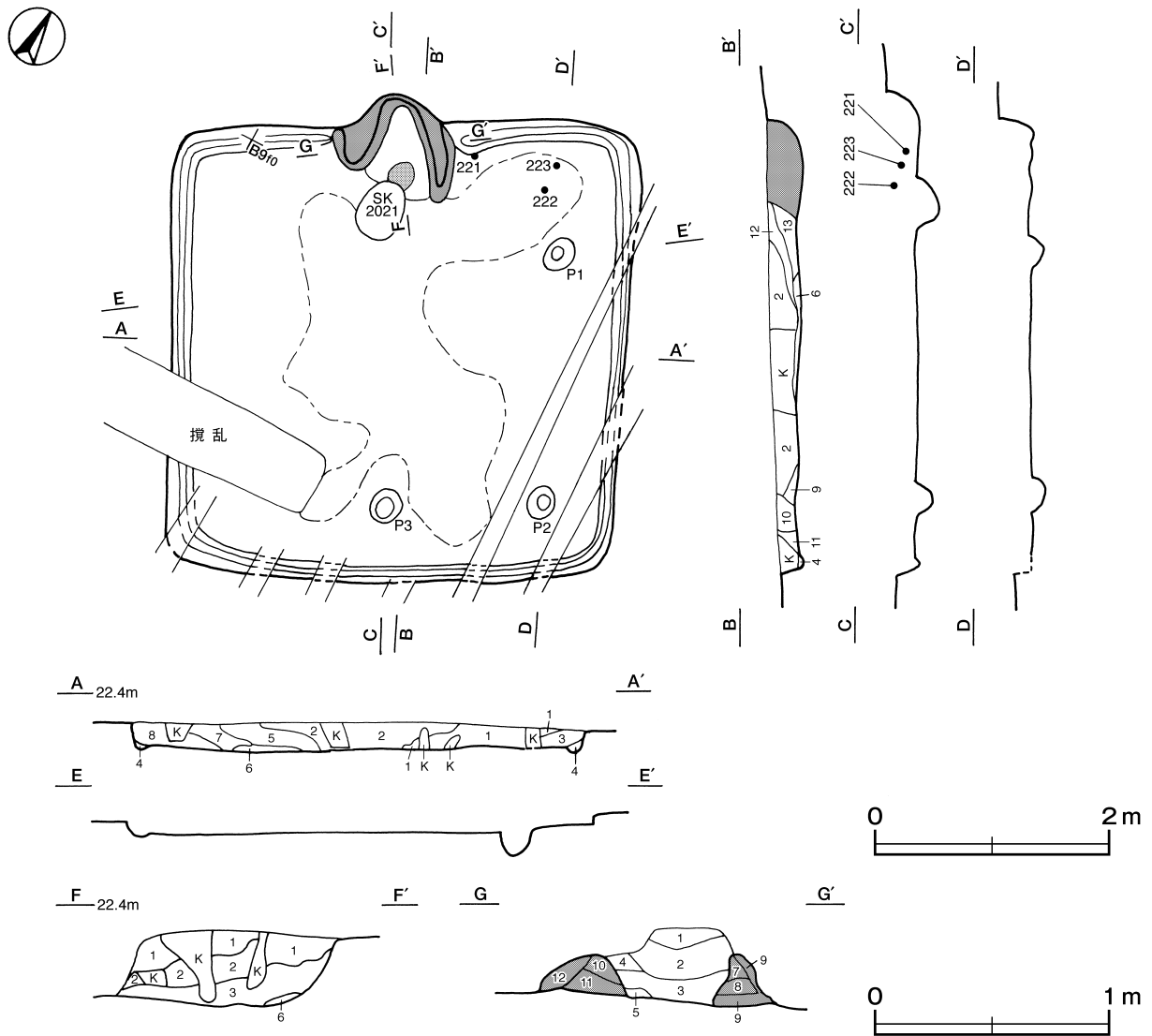
規模と形状 長軸3.92m，短軸3.87mの方形で，主軸方向はN - 23° - Wである。壁高は8～30cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅10～16cm，深さ5～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されており，火床部の一部を第2021号土坑に掘り込まれている。規模は，焚口部から煙道部まで89cm，袖部幅98cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面に砂質粘土を用いて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さの地山面を使用しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に27cm掘り込まれ，火床部から急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|---|-----------------------------------|
| 1 灰褐色 粘土粒子少量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 3 暗赤褐色 焼土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 2 灰褐色 焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック・粘土粒子微量 | 4 灰褐色 砂質粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| | 5 黒褐色 炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量 |



第111図 第2057号住居跡実測図

- | | | | |
|-------|-----------------------------|---------|--------------------------|
| 6 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 10 灰褐色 | 砂質粘土ブロック多量, ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 7 灰褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子少量 | 11 灰褐色 | 砂質粘土粒子多量, ロームブロック少量 |
| 8 灰褐色 | 砂質粘土粒子多量, ロームブロック・焼土粒子少量 | 12 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 9 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子中量, 炭化粒子少量 | | |

ピット 3か所。P1・P2は主柱穴で、深さは12~14cmである。P3は深さ20cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。床面を精査したが、P1に対応する柱穴は検出されていない。また、P2に対応する柱穴は攪乱によって壊されているものと考えられる。

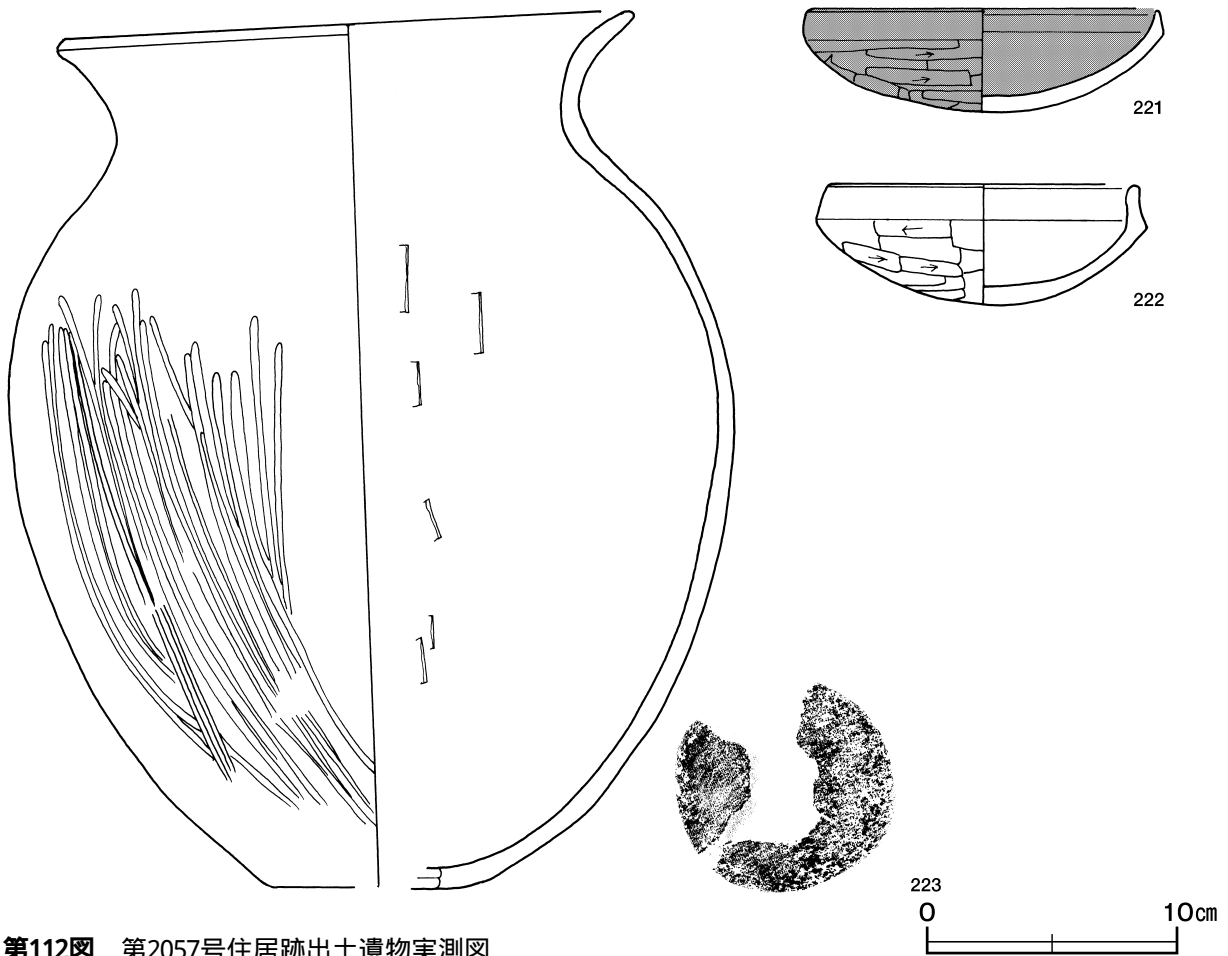
覆土 13層に分けられる。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|--------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量 | 10 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子中量 | 11 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量 | 12 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 6 褐色 | ローム粒子中量・炭化粒子微量 | 13 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック少量・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片140点(坏67, 高坏7, 甕類66), 須恵器片5点(坏類4, 甕類1)が竈周辺の覆土中層を中心に出土し、種子1点も出土している。221は竈右袖部外側の覆土下層, 222, 223は北東コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。竈両袖部の外側から多くの遺物が出土しているが、いずれも出土層位が上層であることから、住居の廃絶後にまとめて投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉以前と考えられる。



第112図 第2057号住居跡出土遺物実測図

第2057号住居跡出土遺物観察表（第112図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
221	土師器	坏	14.0	4.1	-	長石・石英	黒	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り後ナデ内面ナデ	覆土下層	100% PL153
222	土師器	坏	12.0	4.7	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	覆土中層	90% PL155
223	土師器	甕	22.6	34.2	[8.0]	長石・石英・赤色粒子	明黄褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へらナデ	覆土中層	90% PL181

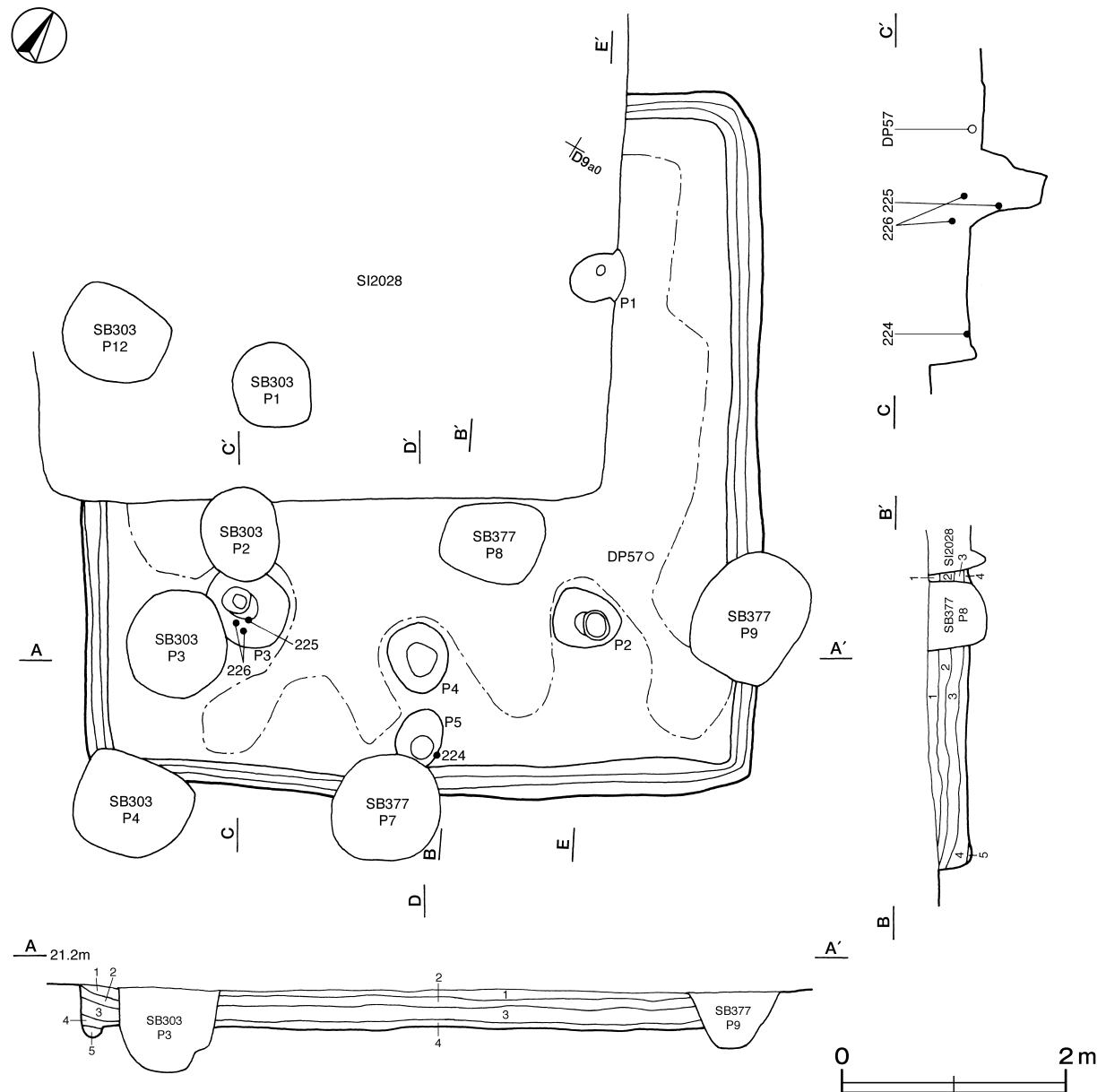
第2061号住居跡（第113～115図）

位置 調査区南西部のD 9 a0 区，標高21mほどの南への緩斜面に位置している。

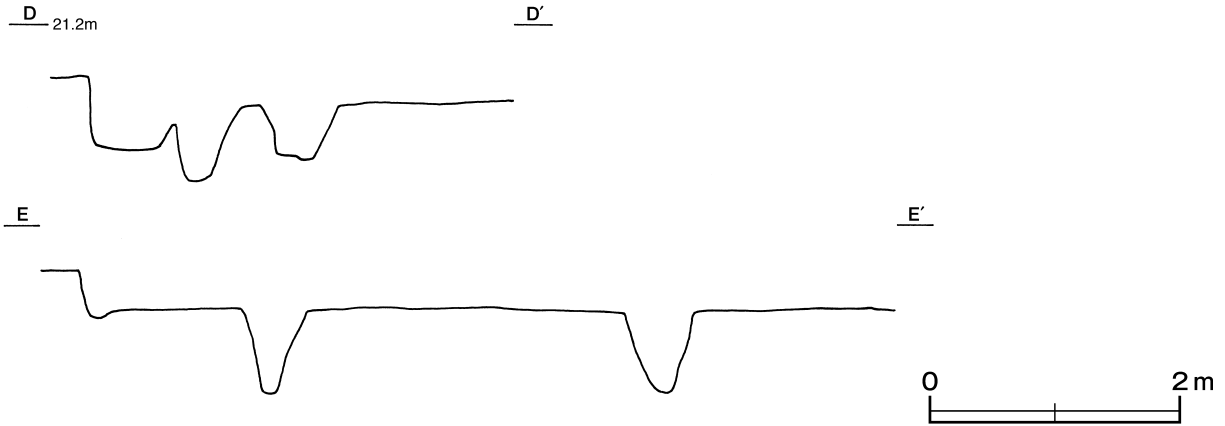
重複関係 第2028号住居，第303・377号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.23m，短軸6.03mの方形で，主軸方向はN - 29° - Wである。壁高は23～32cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，各壁近くまで踏み固められている。壁下には，幅13～16cm，深さ5～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。



第113図 第2061号住居跡実測図(1)



第114図 第2061号住居跡実測図(2)

ピット 5か所。P1～P3は主柱穴で、深さは52～58cmである。P4は深さ43cm、P5は深さ61cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、ともに出入口施設に伴うピットと考えられる。

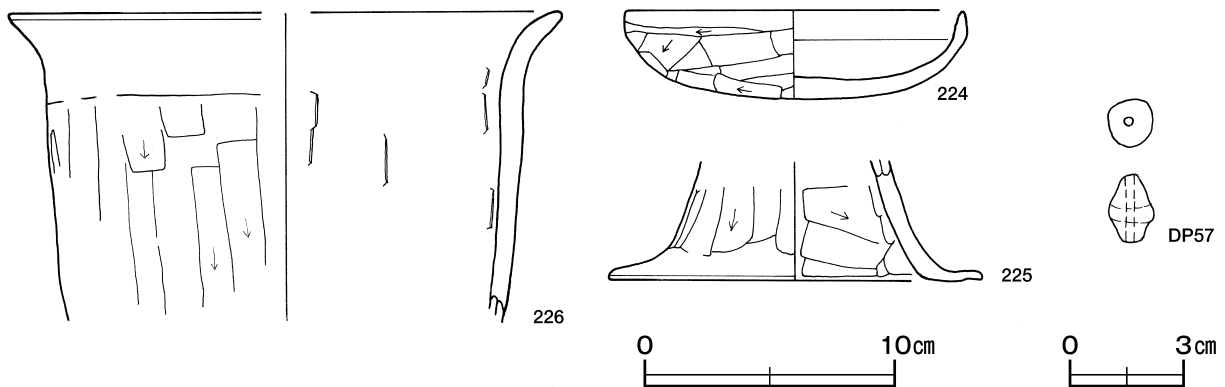
覆土 5層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 4 褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 土師器片36点（坏10，高坏1，甕類25），土製品1点（玉）が散在した状態で出土しており、ほとんどが細片である。224はP5の覆土上層，225・226はP3の覆土上層から出土しており，柱の抜き取り後に流れ込んだものと考えられる。また，DP57は南東部の床面から出土している。

所見 時期は，出土土器および重複関係から6世紀中葉以前と考えられる。



第115図 第2061号住居跡出土遺物実測図

第2061号住居跡出土遺物観察表（第115図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
224	土師器	坏	[13.5]	3.6	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	P5覆土上層	50%
225	土師器	高坏	-	(4.7)	14.8	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	脚部内外面ヘラ削り 裾部内外面横ナデ	P3覆土上層	20%
226	土師器	甕	[21.8]	(12.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	P3覆土上層	20%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP57	玉	1.3	1.9	0.2	1.8	土(雲母)	棗状 ナデ 一方向の穿孔	床面	PL189

第2062号住居跡(第116図)

位置 調査区南部のD12b8区, 標高19mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2089・2090号住居, 第393号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.00m, 短軸6.14mの長方形で, 主軸方向はN - 5° - Eである。壁高は36cmで, 確認された各壁ともに外傾して立ち上がっている。

床 大部分が第2090号住居に掘り込まれているが, 確認された範囲はほぼ平坦である。

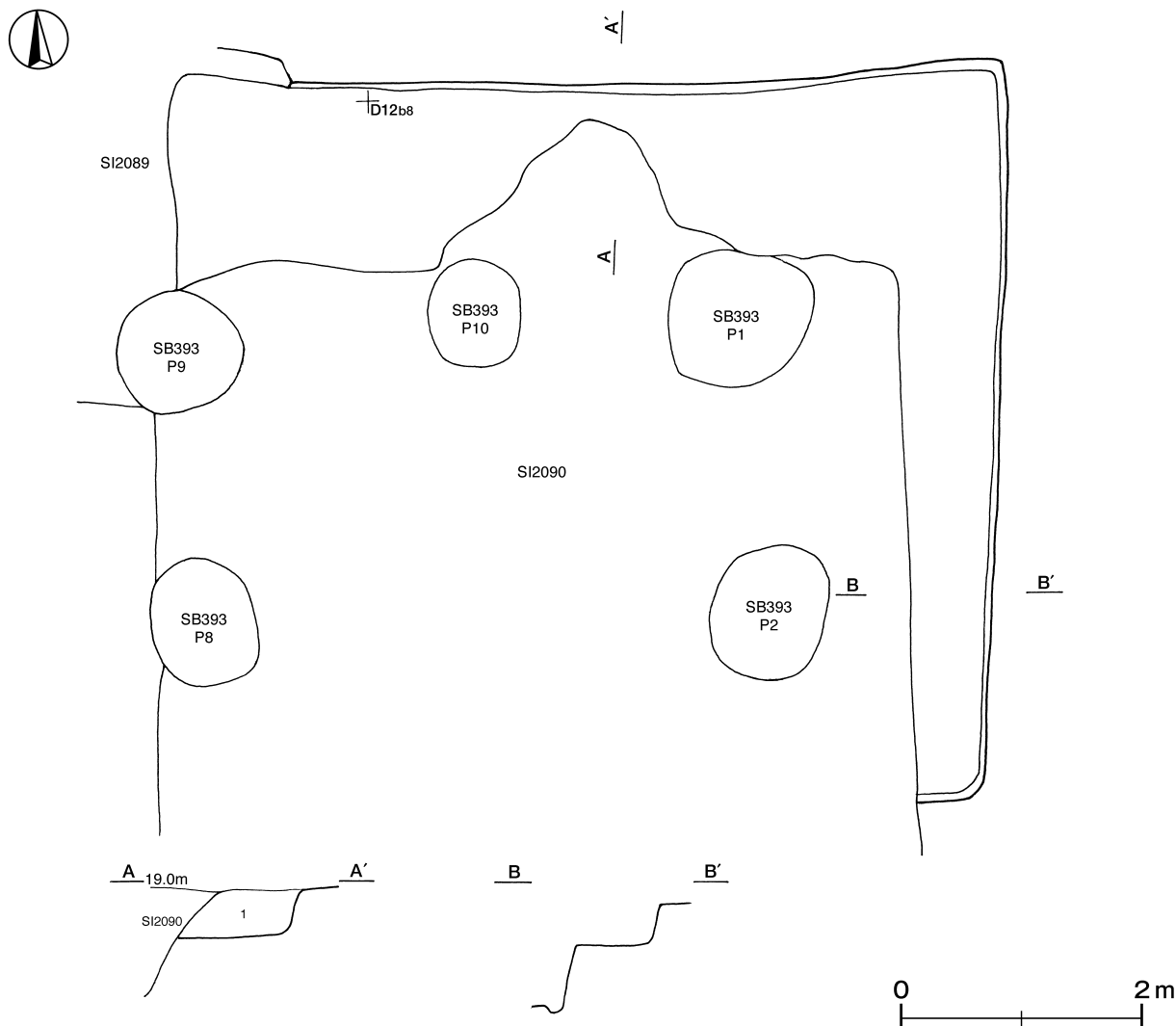
覆土 単一層であるが, 大部分が第2090号住居に掘り込まれているため堆積状況は不明である。

土層解説

1 褐色 ローム粒子少量, 砂質粘土ブロック微量

遺物出土状況 土師器片7点(甕)が出土している。土器はいずれも細片のため, 図示できるものはない。

所見 時期は, 9世紀前葉に比定される第2090号住居に掘り込まれていることや, 住居の規模, 出土遺物などから, 7世紀代と考えられる。

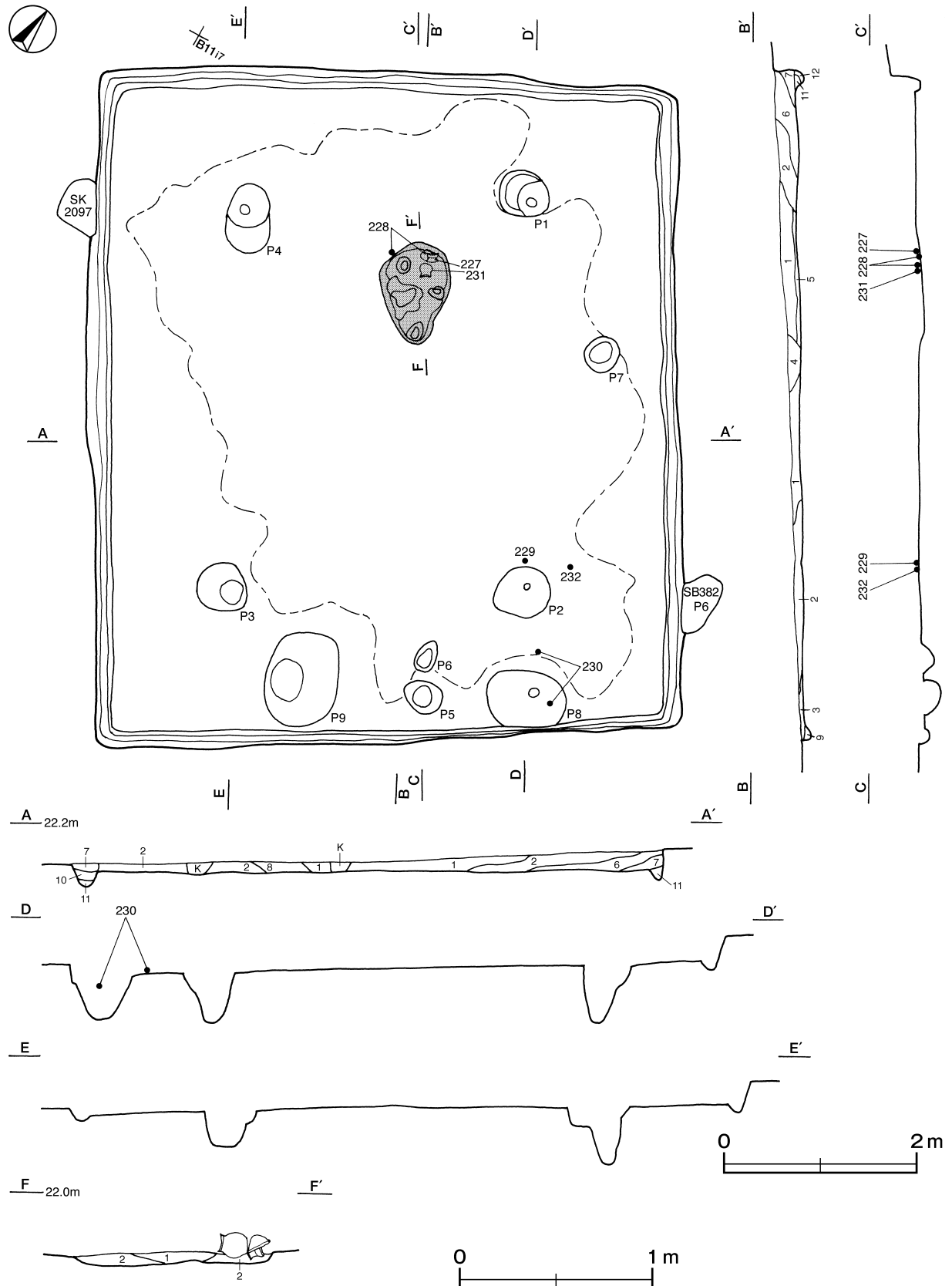


第116図 第2062号住居跡実測図

第2064号住居跡 (第117~119図)

位置 調査区中央部のB11i7区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第382号掘立柱建物、第2097号土坑に掘り込まれている。



第117図 第2064号住居跡実測図

規模と形状 長軸6.85m，短軸6.03mの長方形で，主軸方向はN - 28° - Wである。壁高は14～25cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅11～14cm，深さ5～9cmで，U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

炉 中央部北寄りに位置している。規模は，長径108cm，短径69cmの楕円形で，床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉である。

炉土層解説

- 1 極暗赤褐色 焼土ブロック中量，ローム粒子少量
- 2 極暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

ピット 9か所。P1～P4は主柱穴で，深さは39～61cmである。P5・P6は深さ15～18cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P7～P9の性格は不明であるが，P8・P9は貯蔵穴の可能性が考えられる。

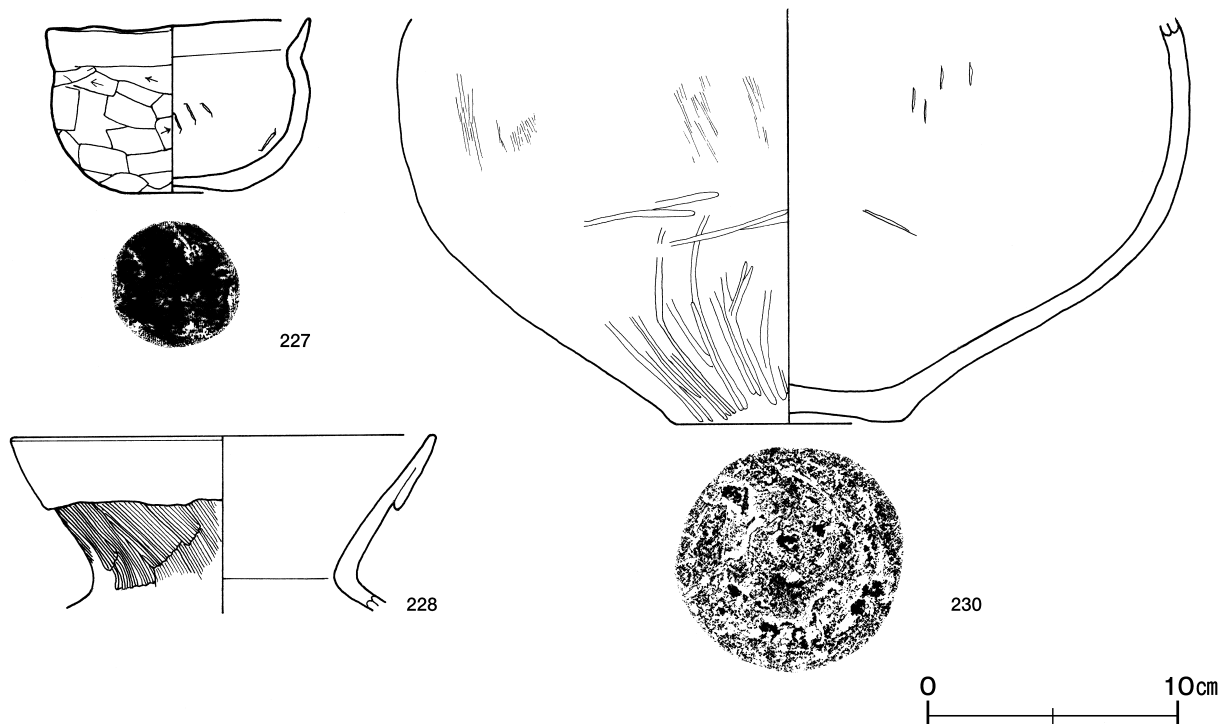
覆土 12層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

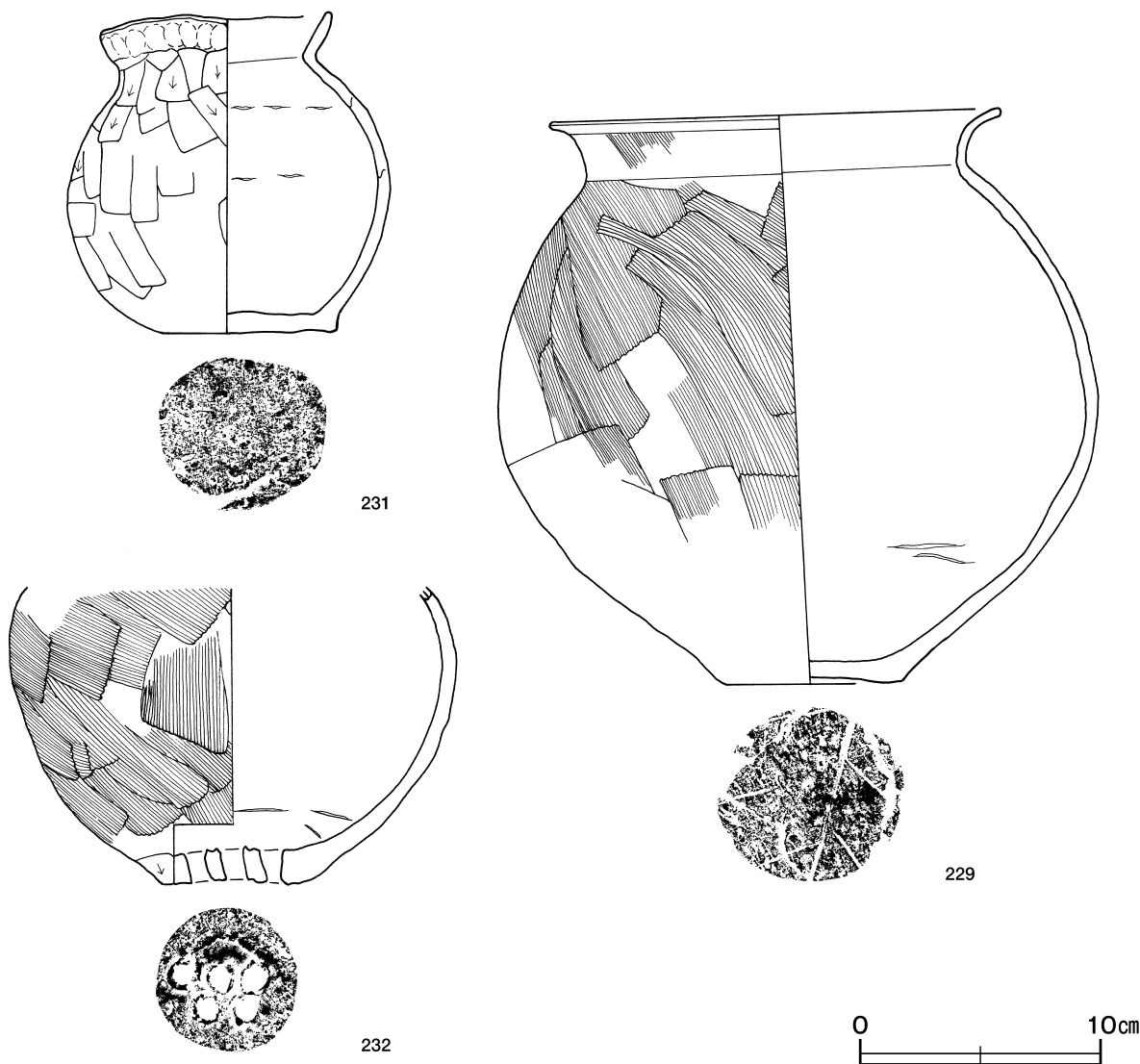
- | | | | |
|-------|---------------------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量 | 9 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | 焼土粒子少量，ロームブロック微量 | 11 褐色 | ローム粒子少量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片247点（坏18，椀4，壺12，甕類213）が炉周辺および北西部を中心に出土している。また，混入した須恵器片3点も出土している。227・228・231は炉内から重なった状態で，229・232は南東部の床面から出土しており，ともに住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。230は南東部の覆土下層とP8内から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は，出土土器から5世紀前半と考えられる。



第118図 第2064号住居跡出土遺物実測図(1)



第119図 第2064号住居跡出土遺物実測図(2)

第2064号住居跡出土遺物観察表 (第118・119図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
227	土師器	椀	10.4	6.9	5.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り後ナデ内面ナデ	炉床面	95% PL169
228	土師器	壺	16.6	(6.6)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	頸部外面ハケ目調整	炉床面	15%
229	土師器	甕	18.2	23.4	7.5	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面 体部外面ハケ目調整 内面へラナデ 底部木葉痕	床面	85% PL172
230	土師器	甕	-	(16.2)	9.2	長石・石英	浅黄橙	普通	体部外面ハケ目調整後へラ磨き 内面へラナデ	P 8 覆土	45% PL179
231	土師器	小形甕	9.3	13.2	6.8	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り後ナデ内面へラナデ	炉床面	100% PL174
232	土師器	甕	(12.2)	6.0	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部外面ハケ目調整 内面へラナデ	床面	95% PL172

第2066号住居跡 (第120・121図)

位置 調査区東部のC13g3区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2085号住居、第306・418・420号掘立柱建物、第2087・2094号土坑に掘り込まれている。

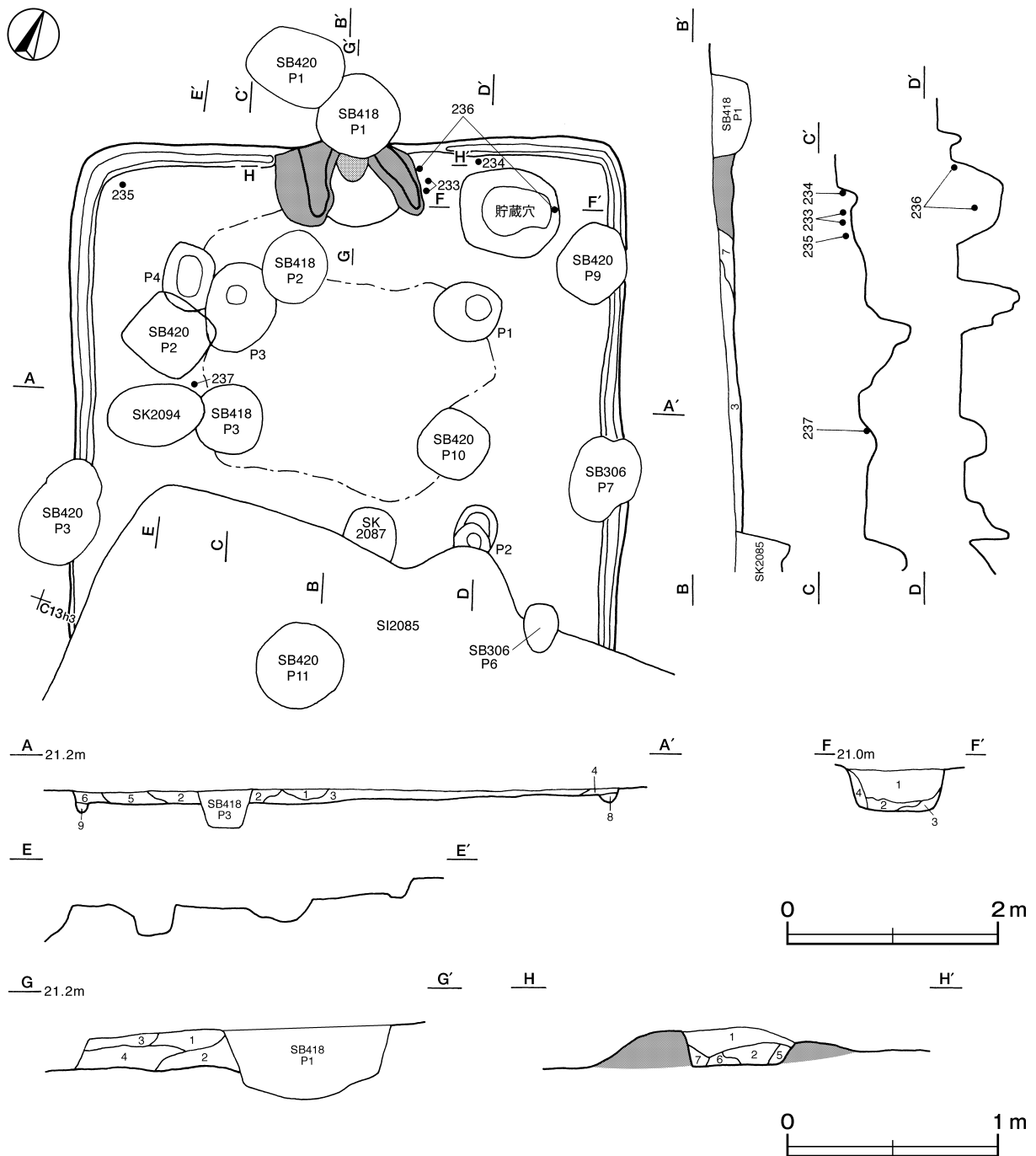
規模と形状 南部を第2085号住居に掘り込まれており、東西軸5.11m、南北軸は4.65mだけが確認された。主軸方向をN - 20° - Wとする方形または長方形と推定される。壁高は10~13cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅12~26cm、深さ7~9cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。煙道部は第418号掘立柱建物によって掘り込まれており、遺存する部分の規模は、袖部幅138cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用し、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------------|---------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 炭化粒子微量 |
| 2 極暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 炭化粒子微量 | 5 にぶい褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土ブロック微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、粘土粒子少量 |
| | | 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量 |



第120図 第2066号住居跡実測図

ピット 4か所。P1～P3は主柱穴で、深さは42～58cmである。P2に対応する柱穴は、第2085号住居に掘り込まれていると考えられる。P4の性格は不明である。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径93cm、短径81cmの楕円形で、深さは46cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、人為堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 灰褐色 | 焼土ブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 | 4 褐灰色 | ロームブロック中量 |

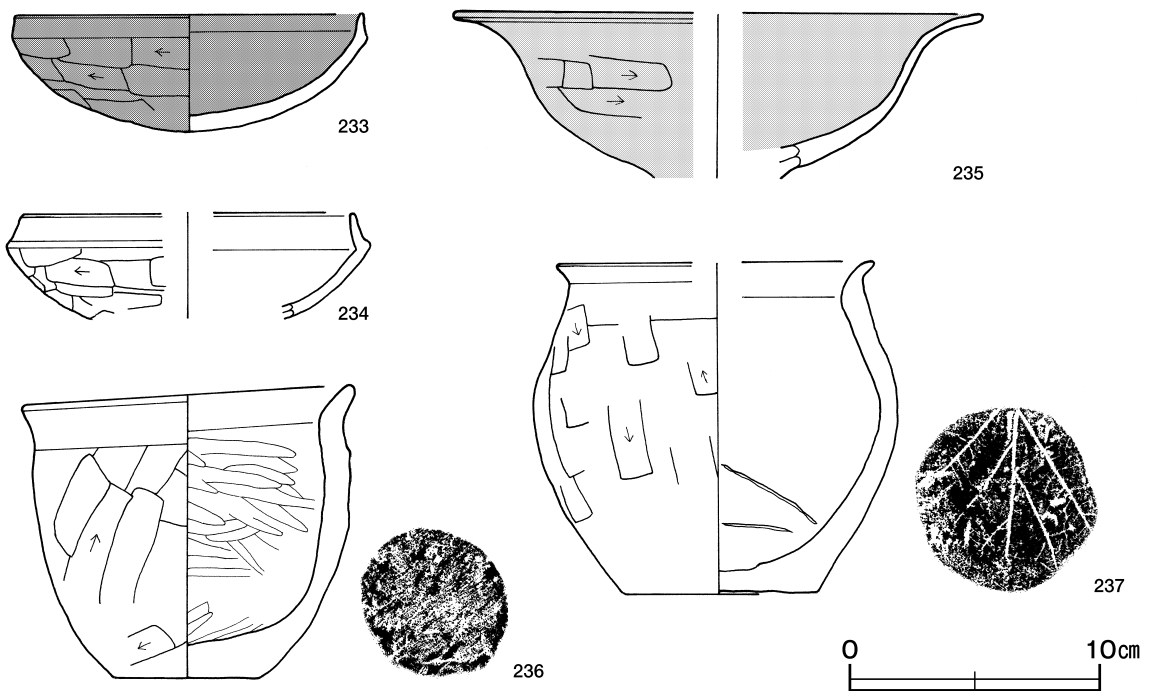
覆土 9層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化物微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 | 7 灰褐色 | ローム粒子中量，焼土ブロック・粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 極暗赤褐色 | ローム粒子少量 | 9 褐色 | ローム粒子微量 |
| 5 極暗赤褐色 | ローム粒子中量 | | |

遺物出土状況 土師器片190点（坏11，高坏2，甕類177），土製品1点（支脚）が中央部から北部を中心に出土している。また、混入した須恵器片2点も出土している。233・234は竈袖部右側の覆土下層，235は北西コーナー部の覆土下層，237は西部の床面からそれぞれ出土している。また，236は貯蔵穴の覆土中層と竈袖部右側から出土した破片が接合したものである。いずれの遺物も小破片を接合したものであり，住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器および重複関係から6世紀中葉以前と考えられる。



第121図 第2066号住居跡出土遺物実測図

第2066号住居跡出土遺物観察表（第121図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
233	土師器	坏	13.8	4.7	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ内面ナデ	覆土下層	60%
234	土師器	坏	[13.0]	(4.2)	-	石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	40%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
235	土師器	高坏	[21.0]	(6.6)	-	長石・石英・雲母・礫	赤	普通	口辺部内外面横ナデ 内面ナデ	坏部外面へラ削り後ナデ	覆土下層	30%
236	土師器	甕	12.9	11.7	5.8	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ	体部外面へラ削り 内面磨き	貯蔵穴 覆土中層	90% PL176
237	土師器	甕	[12.2]	13.2	7.7	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ	体部外面へラ削り 内面へラナデ	床面	60%

第2068号住居跡（第122・123図）

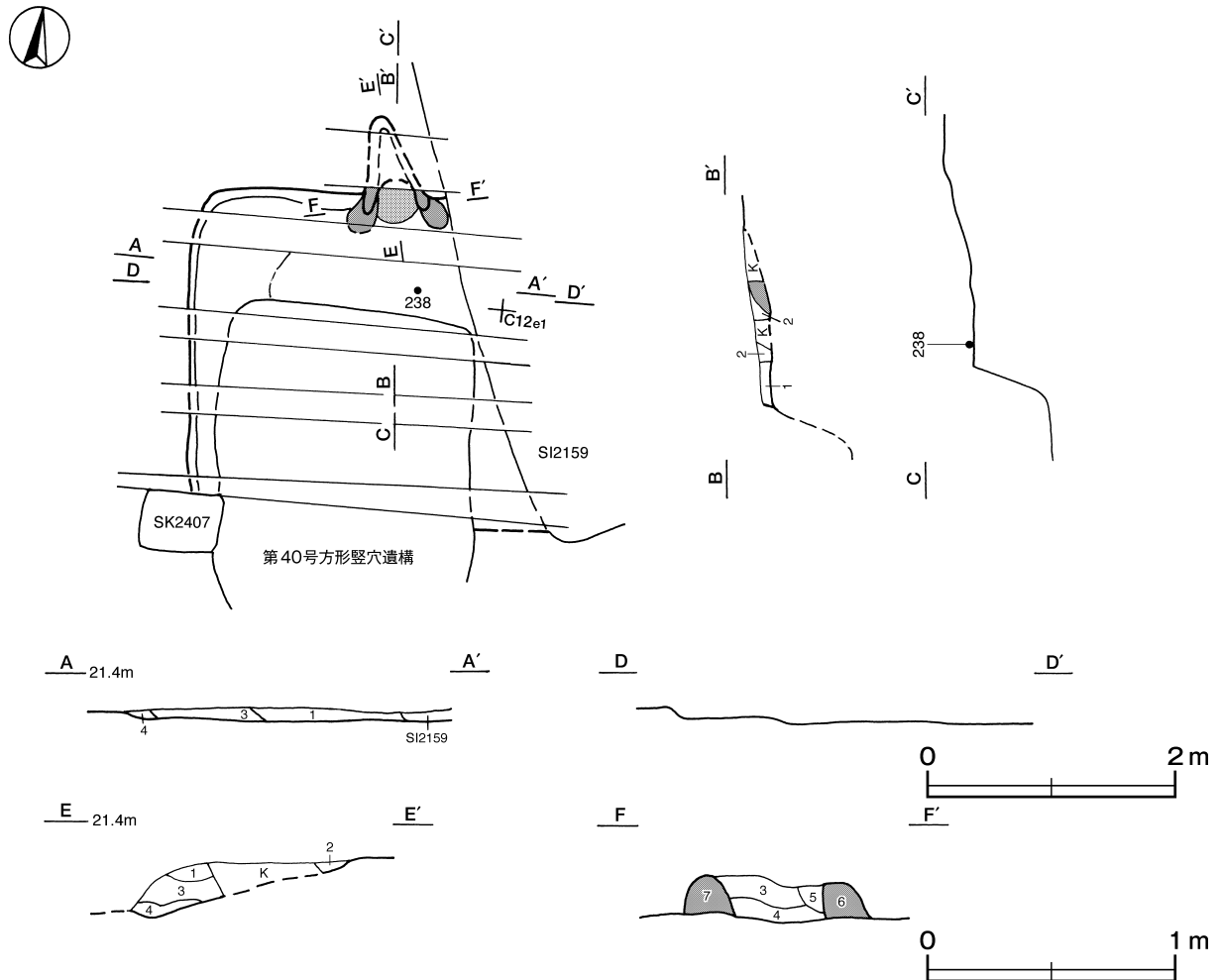
位置 調査区中央部のC11e0区，標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2159号住居，第40号方形竪穴遺構，第2407号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東部を第2159号住居，中央部から南部を第40号方形竪穴遺構に掘り込まれており，南北軸2.45m，東西軸2.18mだけが確認された。主軸方向はN - 12° - Wの方形と推定される。壁高は5～11cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，遺存する竈前面が踏み固められている。

竈 北壁に付設されている。耕作による攪乱のため焚口部および煙道部は遺存しない。遺存する部分の規模は，袖部幅69cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面にローム混じりの砂質粘土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さの地山面を使用しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。第1層は，天井部の崩落層である。



第122図 第2068号住居跡実測図

竈土層解説

- | | |
|------------------------------------|--------------------------------------|
| 1 灰 褐色 砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 | 4 赤 褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 にぶい赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | 5 にぶい赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 3 にぶい褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 6 にぶい褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量 |
| | 7 灰 褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子少量 |

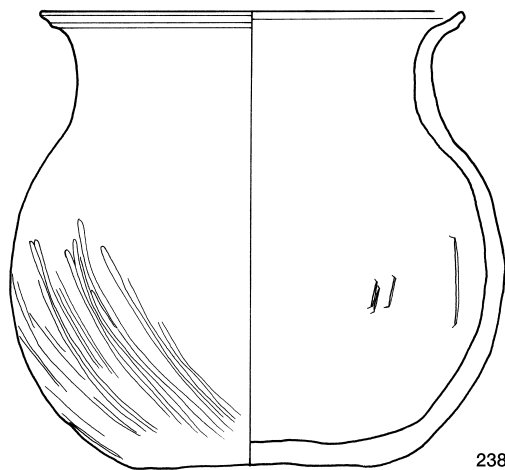
覆土 5層に分けられる。覆土が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

- | | |
|--------------------------|-----------------------------|
| 1 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 暗 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 4 褐 色 ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片19点(坏3, 甕類16)が散在した状態で出土している。また, 混入した須恵器片9点も出土している。238は竈前部の床面から出土しており, 住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器および重複関係から6世紀後半と考えられる。



第123図 第2068号住居跡出土遺物実測図

第2068号住居跡出土遺物観察表 (第123図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
238	土師器	甕	16.6	(18.1)	[9.7]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面へラナデ	床面	90% PL176

第2069号住居跡 (第124・125図)

位置 調査区中央部のC11b6区, 標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第34号地下式竈に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.22m, 短軸4.96mの方形で, 主軸方向はN - 5° - Wである。壁高は2~20cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 南東方向に緩やかに傾斜しており, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されている。袖部は確認されてない。火床部は床面とほぼ同じ高さで, 火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に16cm掘り込まれ, 外傾して立ち上がっている。

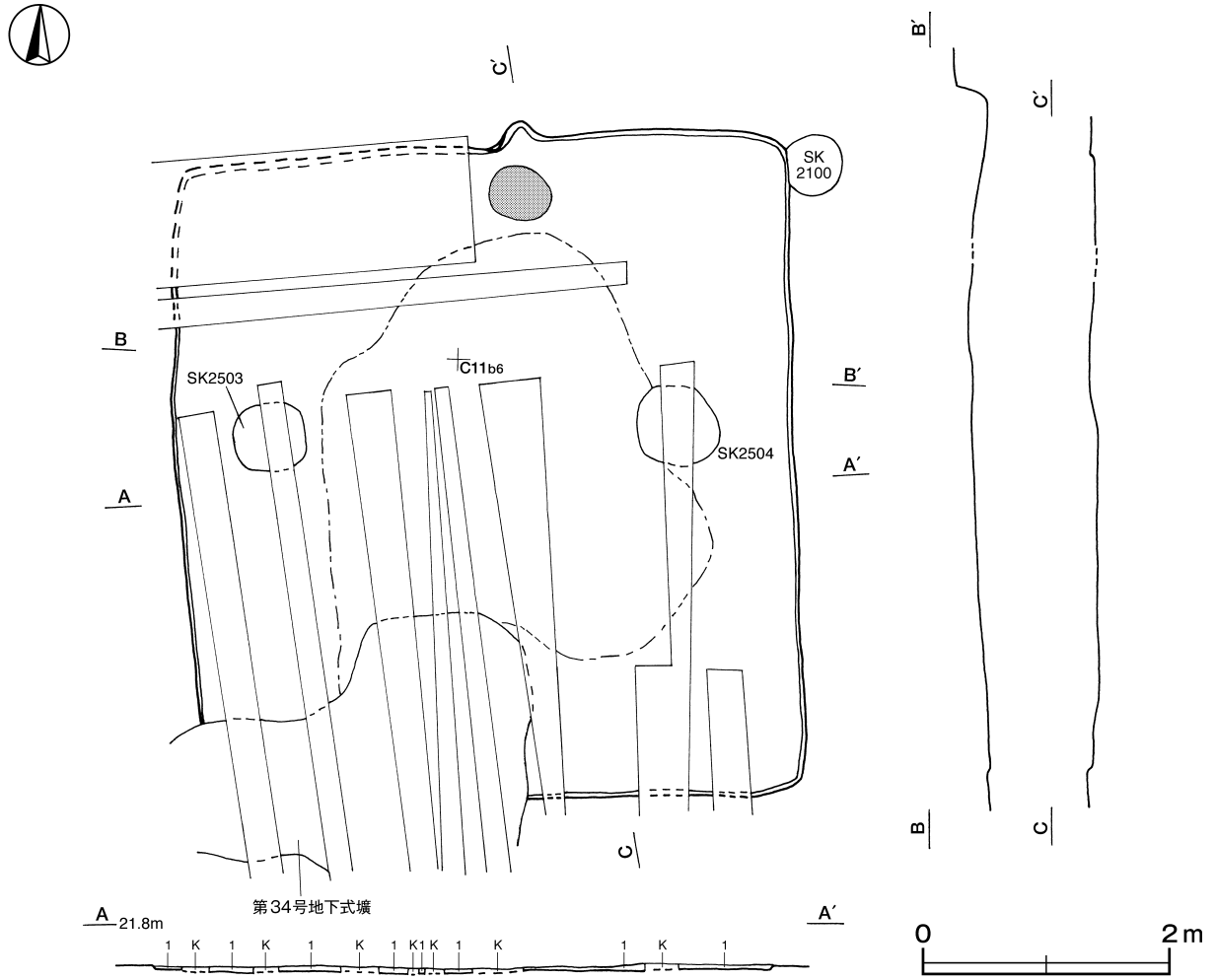
覆土 単一層で, 覆土が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

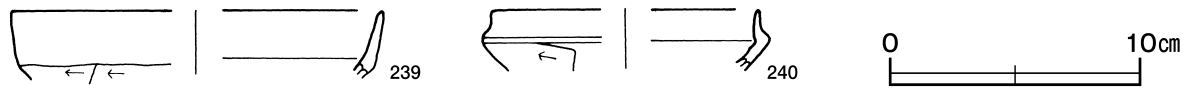
- 1 極暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片72点（坏17，甕類55），須恵器片2点（甕）が出土している。239は竈の覆土，240は覆土から出土している。

所見 時期は，出土土器から6世紀後葉～7世紀前葉と考えられる。



第124図 第2069号住居跡実測図



第125図 第2069号住居跡出土遺物実測図

第2069号住居跡出土遺物観察表（第125図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
239	土師器	坏	[14.6]	(2.6)	-	長石	浅黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	竈覆土	5%
240	土師器	坏	[10.4]	(2.3)	-	長石・雲母	黒	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土	5%

第2072号住居跡（第126・127図）

位置 調査区中央部のC11i2区、標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2159・2160号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.02m、短軸3.98mの方形で、主軸方向はN-10°-Wである。壁高は12~24cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。南西コーナー部壁下には、幅9~11cm、深さ4~6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。左袖部は第2159号土坑に掘り込まれ、右袖部外側を耕作による攪乱で壊されている。遺存する部分の規模は、焚口部から煙道部まで93cmで、袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は床面を皿状に掘りくぼめて使用しており、火床面は火を受けてやや赤変している。煙道部は壁外に19cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第4層は、天井部の崩落層である。

竈土層解説

1 暗褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	7 灰褐色	焼土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2 灰褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	8 灰褐色	焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 暗褐色	焼土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	9 灰褐色	焼土粒子中量、ローム粒子少量
4 灰褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック微量	10 にぶい赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量
5 灰褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量	11 灰褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
6 暗褐色	焼土ブロック・炭化材中量、砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量	12 褐色	ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量

ピット 5か所。P1~P4は主柱穴で、深さは57~66cmである。P5は深さ20cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径74cm、短径56cmの楕円形で、深さは31cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、覆土は自然堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	3 褐色	ローム粒子少量、粘土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	4 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量

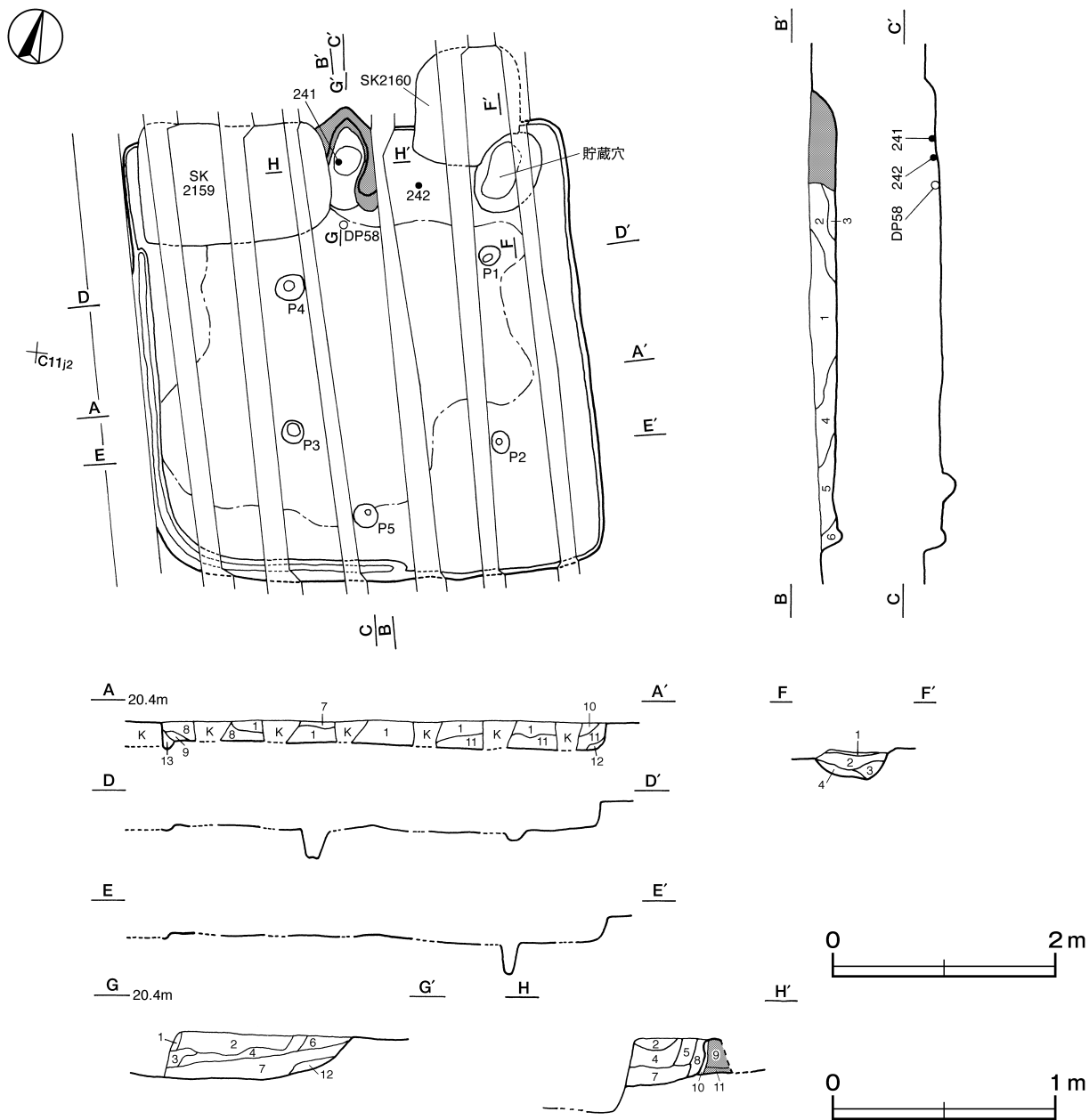
覆土 13層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

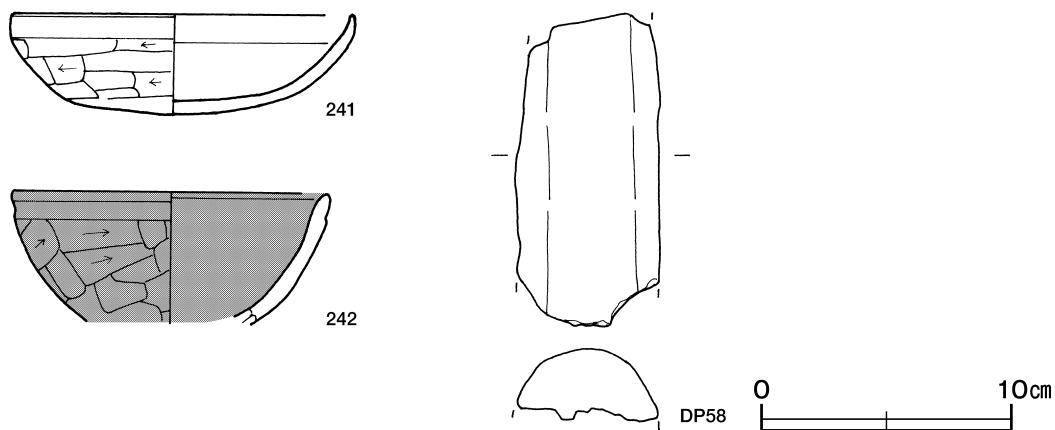
1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	8 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
3 暗褐色	粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	10 褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
5 暗褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量	11 暗褐色	焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量
6 褐色	ローム粒子少量	12 暗褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
		13 褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況 土師器片211点（坏53，椀1，甕類157）、須恵器片7点（坏3，甕類4）が竈覆土および竈周辺部を中心に出土している。241は竈の火床面から逆位で出土しており、住居の廃絶時に遺棄されたものである。242も竈右袖部右側の床面から出土しており、住居の廃絶時に遺棄されたと考えられる。また、DP58は竈前部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器および重複関係から6世紀後葉と考えられる。



第126图 第2072号住居跡実測図



第127图 第2072号住居跡出土遺物実測図

第2072号住居跡出土遺物観察表（第127図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
241	土師器	坏	13.4	4.0	-	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	竈火床面	70%
242	土師器	椀	12.4	(5.2)	-	石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	床面	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP58	支脚	(12.4)	(5.6)	(2.8)	(178.0)	土長石・石英・雲母	丁寧なナデ 橙色	竈覆土下層	

第2074号住居跡（第128・129図）

位置 調査区南部のD11b4区，標高19mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第355・358号掘立柱建物，第119号溝，第2162・2166号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南部を第207号溝に掘り込まれ，東部は床面が露出した状態で検出されている。竈の位置および硬化面の広がりから，東西軸は6mほどと推定される。また，南北軸は3.16mだけが確認された。主軸方向はN-6°-Wの方形または長方形と考えられる。壁高は西壁際で4cmであるが，覆土が薄く立ち上がりは不明である。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。西壁下には，幅12～16cm，深さ5cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。右袖部は第358号掘立柱建物に掘り込まれており，左袖部のみが遺存している。遺存する部分の規模は，焚口部から煙道部まで126cmである。火床部は床面を皿状に掘りくぼめて使用しているが，火床面の状態は耕作による攪乱のため確認できない。煙道部は壁外に16cm掘り込まれ，火床部から急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|--------------------------------|-------------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量，炭化粒子少量，灰微量 | 5 暗赤褐色 焼土ブロック中量 |
| 2 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量 | 6 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量，砂質粘土粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量 | 7 暗赤褐色 炭化粒子少量，焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 4 赤褐色 焼土ブロック多量，炭化粒子少量，砂質粘土粒子微量 | |

ピット 深さは41cmで，検出された位置から支柱穴と考えられる。また，対応する柱穴は第2162号土坑によって壊されていると考えられる。

貯蔵穴 北西コーナー部に位置している。長軸96cm，短軸61cmの隅丸長方形で，深さは39cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がり，覆土は人為堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|---------------------------|--------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | |

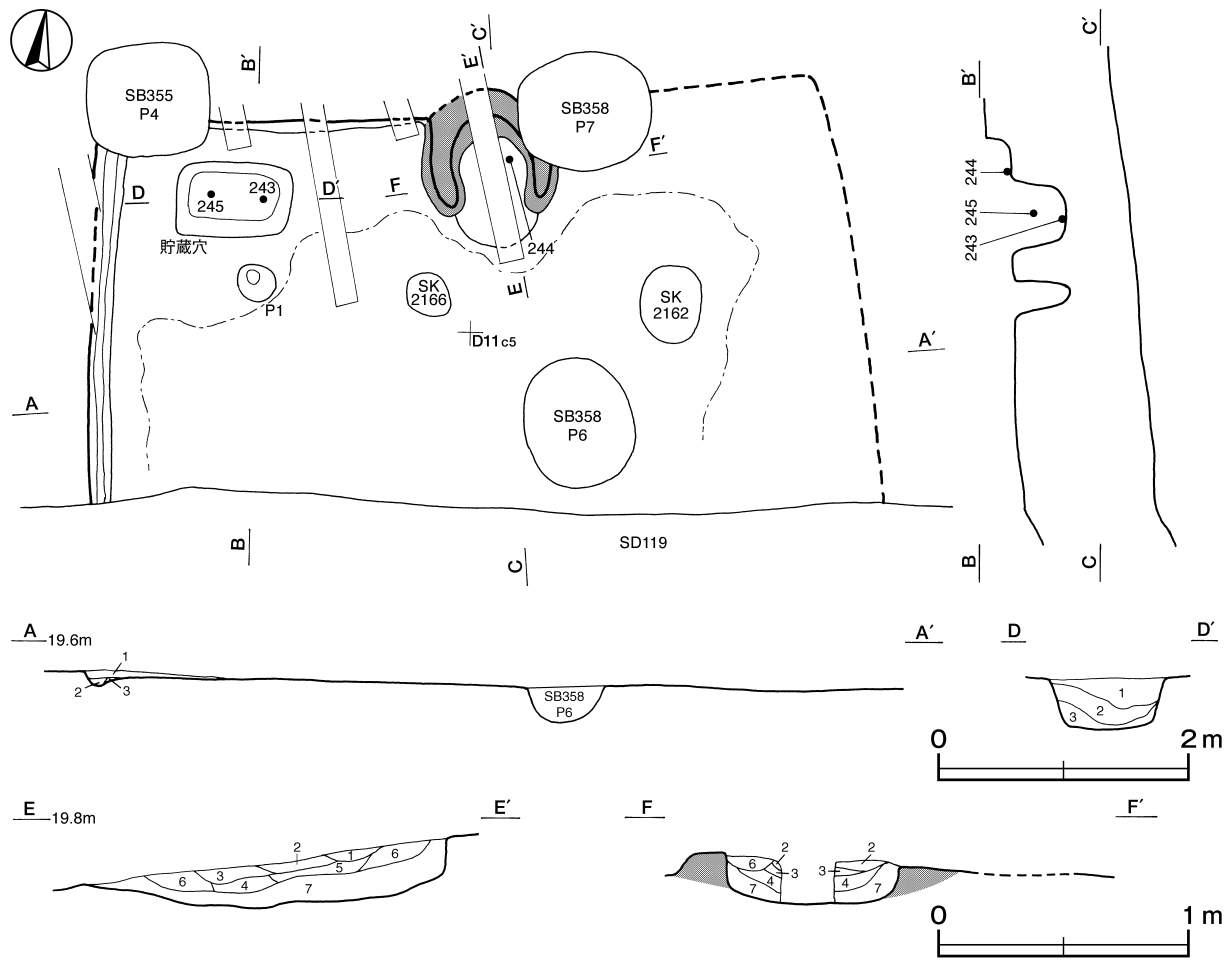
覆土 3層に分けられる。覆土が残っている部分は西壁際だけであり，堆積状況は不明である。

土層解説

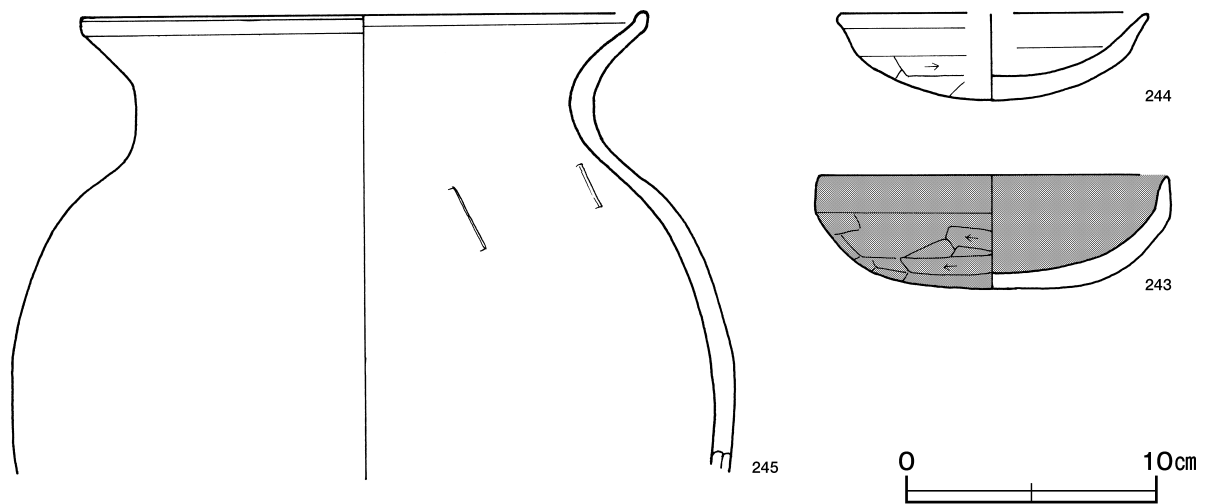
- | | |
|----------------------|---------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片197点（坏27，高坏4，甕類166）が北西部を中心に出土している。243は貯蔵穴の底部から逆位，245は貯蔵穴の覆土中層からそれぞれ出土しており，ともに貯蔵穴が埋没する過程で流れ込んだものと考えられる。また，244は竈の覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第128図 第2074号住居跡実測図



第129図 第2074号住居跡出土遺物実測図

第2074号住居跡出土遺物観察表（第129図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
243	土師器	坏	13.8	4.4	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り後ナデ内面ナデ	貯蔵穴底部	100% PL155
244	土師器	坏	[12.2]	3.4	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	竈覆土下層	40%
245	土師器	甕	22.6 (18.2)	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部内面へラナデ	貯蔵穴覆土中層	30%

第2075号住居跡（第130図）

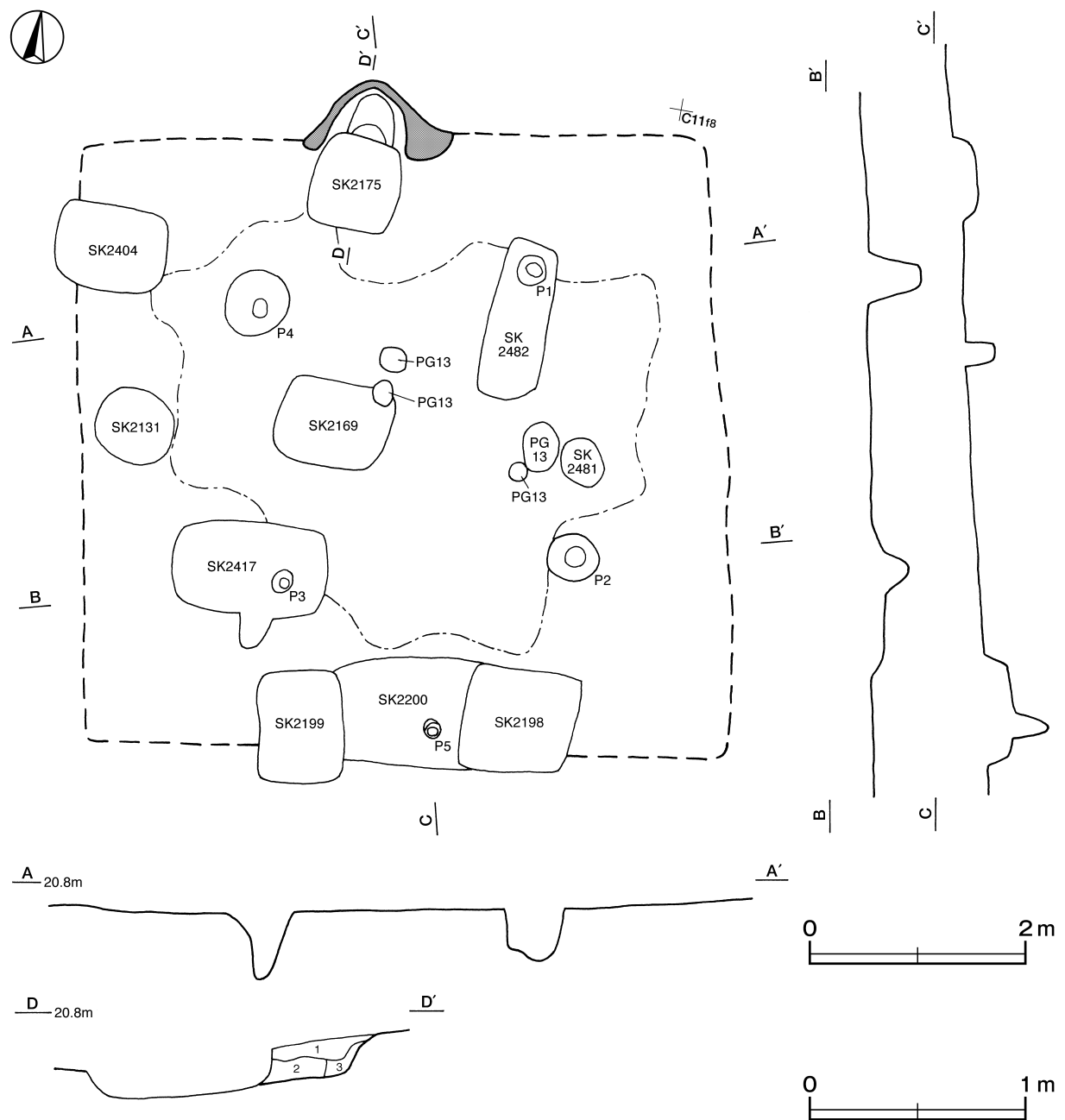
位置 調査区中央部のC11f7区，標高20.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第13号ピット群，第2131・2169・2175・2198～2200・2404・2417・2481・2482号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 床面が露出した状態で検出されている。硬化面の広がりおよび柱穴の位置から，主軸方向をN - 17° - Wとする長軸5.9m，短軸5.6mほどの方形と推定される。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。南部を第2175号土坑に掘り込まれ，火床部北側および煙道部だけが遺存している。火床部は地山面を15cmほど掘りくぼめた後に床面とほぼ同じ高さまで埋め戻して使用しており，火床面は火を受けてやや赤変している。第1～3層は竈掘り方の土層である。



第130図 第2075号住居跡実測図

竈土層解説

- 1 赤褐色 焼土ブロック中量,ローム粒子・砂質粘土粒子少量
- 2 灰褐色 ロームブロック中量 焼土粒子・砂質粘土粒子微量
- 3 灰褐色 ロームブロック中量

ピット 5か所。P1～P4は支柱穴で、深さは41～59cmである。P5は深さ62cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

遺物出土状況 土師器片30点（坏2，甕類28），須恵器片1点（坏），石製品1点（白玉）が散在した状態で出土しており、いずれも細片である。

所見 遺物がいずれも細片であるため時期判断は困難であるが、時期は、住居の規模および主軸方向から6世紀後半と考えられる。

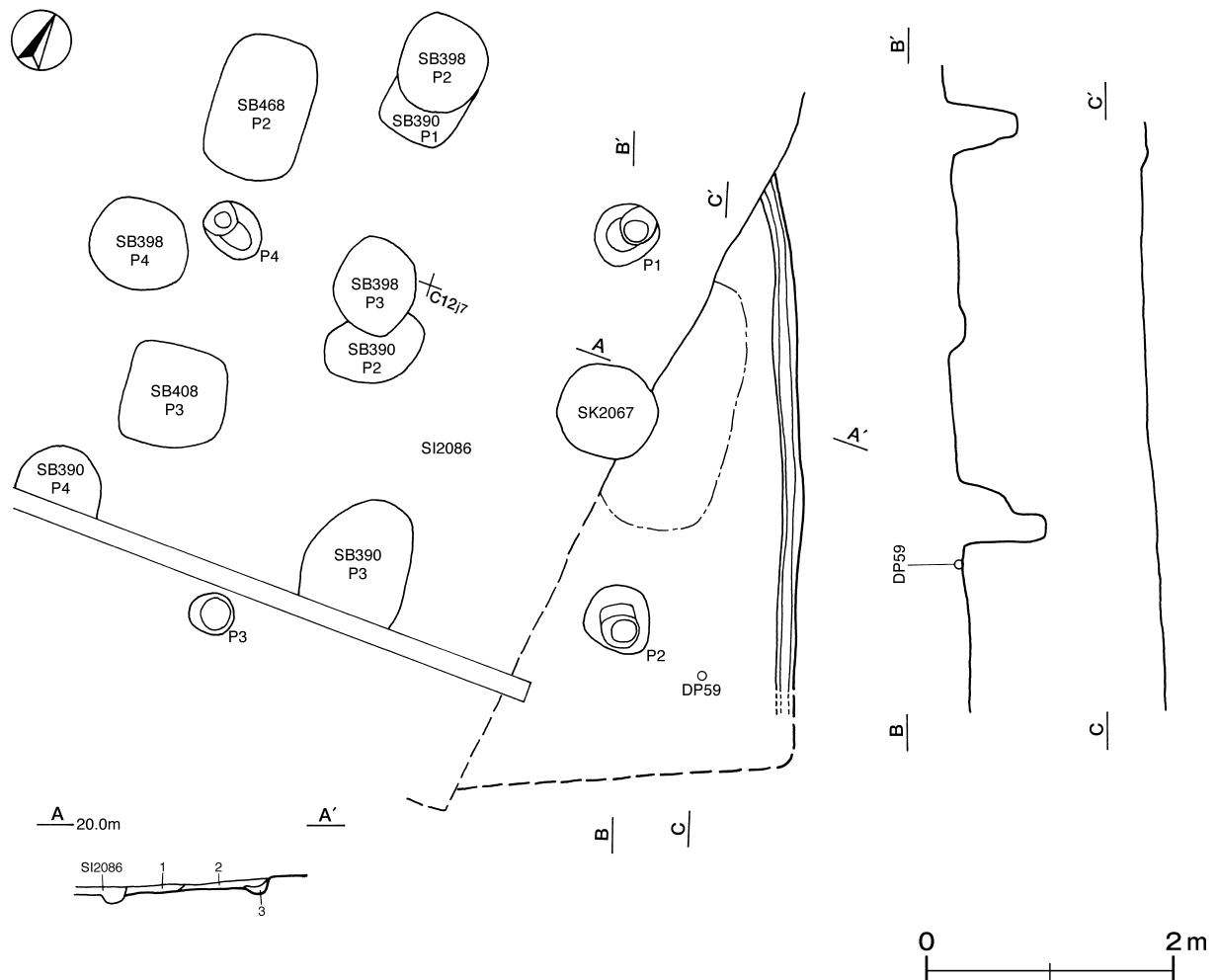
第2082号住居跡（第131・132図）

位置 調査南部のC12j7区，標高20mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2086号住居，第390・398・408・468号掘立柱建物，第2067号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 大部分を第2086号住居に掘り込まれており，東部だけが遺存している。また，南部は床面が露出した状態で検出されている。柱穴の位置から，主軸方向をN-25°-Wとする長軸4.9m，短軸4.3mほどの方形と推定される。壁高は10～13cmであるが，覆土が薄いため立ち上がりは不明である。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅11～16cm，深さ5～7cmで，U字状の断面を呈



第131図 第2082号住居跡実測図

する壁溝が巡っている。

ピット 4か所。P1～P4は支柱穴で、深さは39～70cmである。

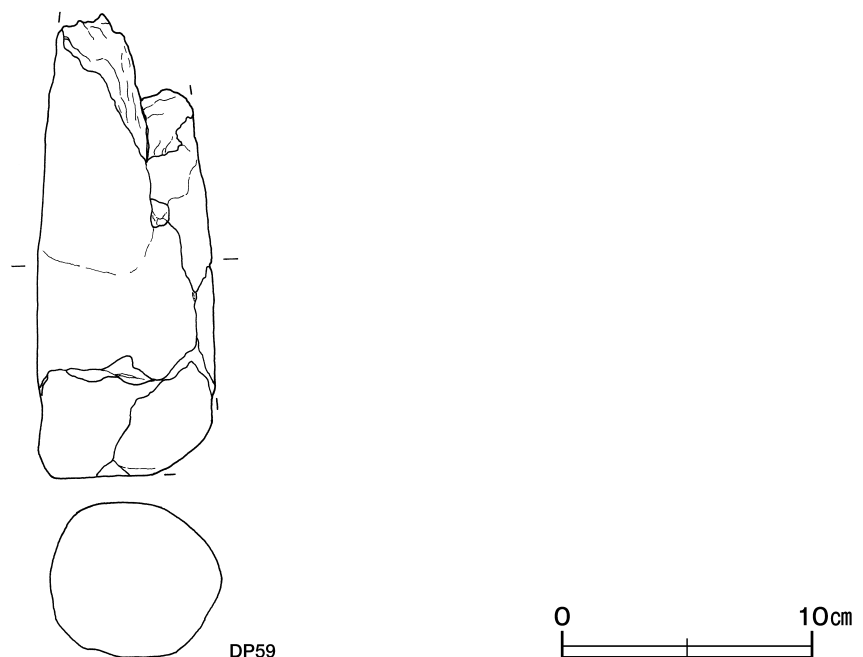
覆土 3層に分けられる。覆土が薄いため、堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片7点(甕類), 土製品1点(支脚)が散在した状態で出土しており, いずれも細片である。DP59は南東コーナー部の床面から出土している。

所見 出土土器が少なく, いずれも細片であるため土器による時期判断が困難であるが, 柱穴の位置および主軸方向が本調査区における同時期の住居と類似していることや, 7世紀前葉と考えられる第2086号住居によって掘り込まれていることから時期は, 6世紀後半と考えられる。



第132図 第2082号住居跡出土遺物実測図

第2082号住居跡出土遺物観察表 (第132図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP59	支脚	(18.4)	7.2	6.1	(711.0)	土師・石灰・赤磁子	丁寧なナデ にぶい橙色を呈する	床面	

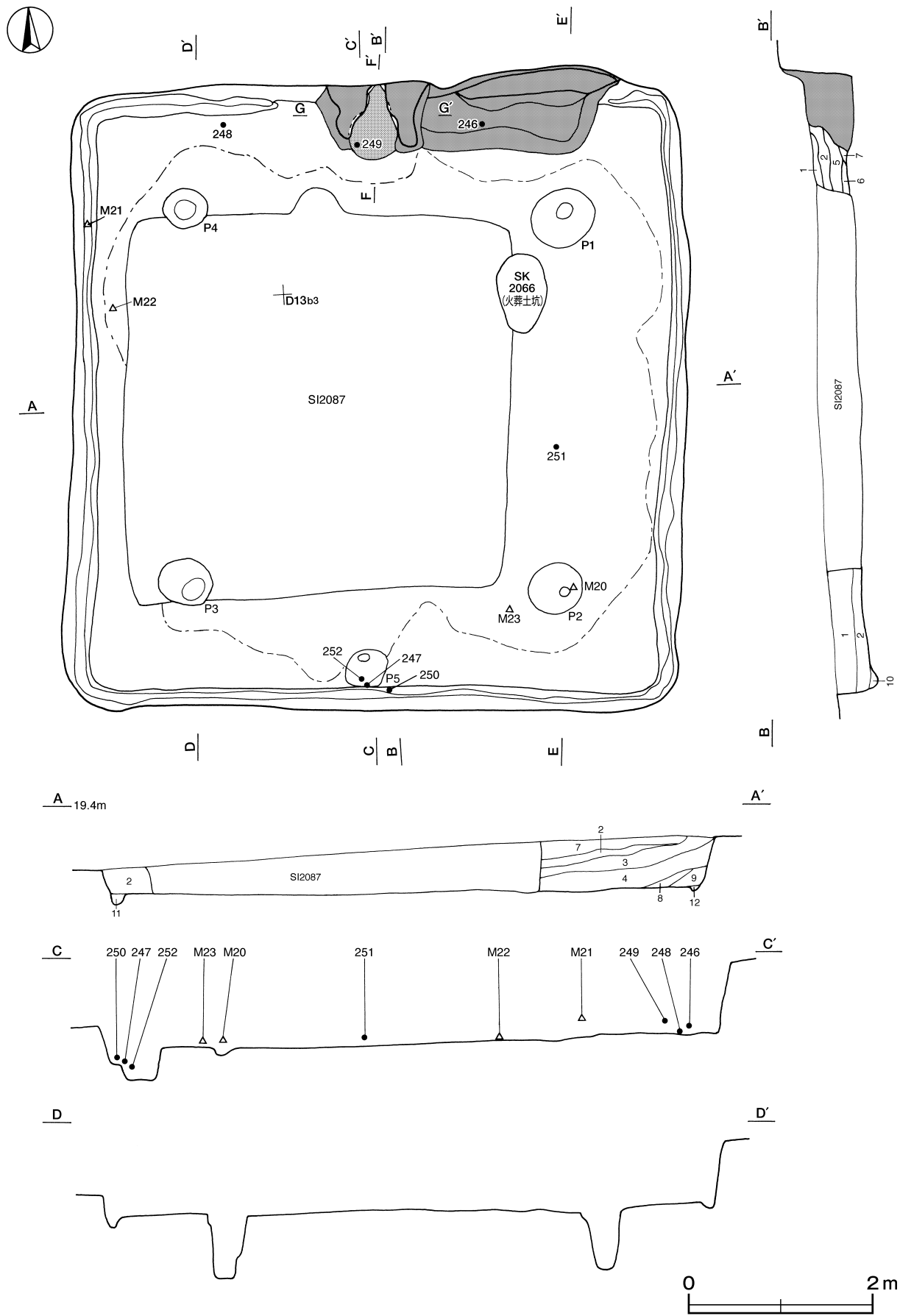
第2083号住居跡 (第133～135図)

位置 調査区南東部のD13b3区, 標高19.5mほどの南への緩斜面に位置している。

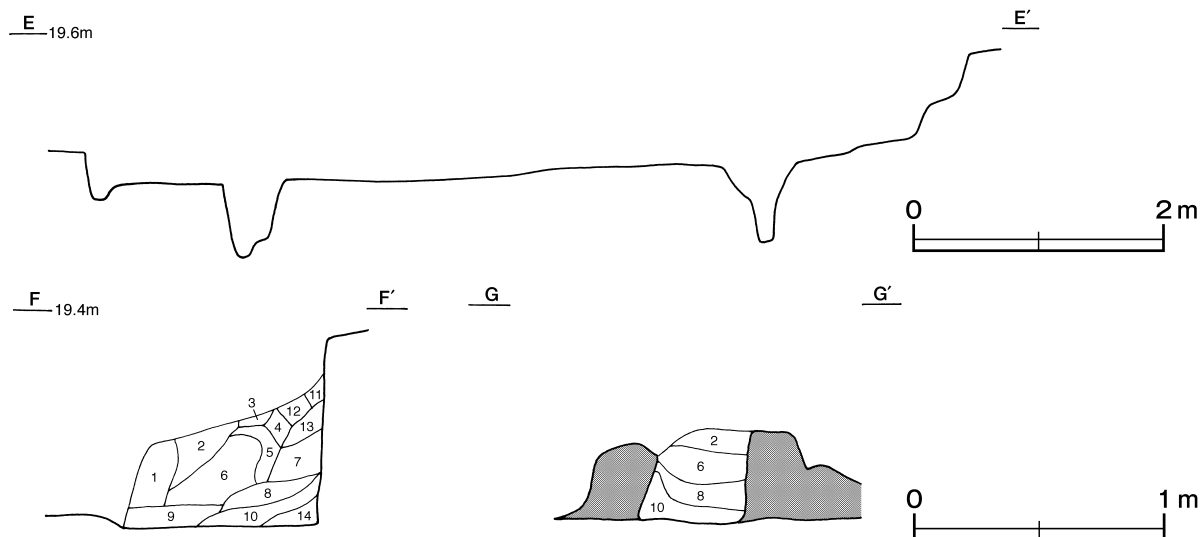
重複関係 第2087号住居, 第2066号土坑(火葬土坑)に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.85m, 短軸6.58mの方形で, 主軸方向はN - 6° - Eである。壁高は27～65cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 中央部を第2087号住居に掘り込まれているが, 確認された範囲では, 竈前がわずかに高まっているのを除いてほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。壁下には, 幅8～24cm, 深さ6～12cmで, U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。



第133图 第2083号住居跡実測图(1)



第134図 第2083号住居跡実測図(2)

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで82cm，袖部幅126cmである。袖部は砂質粘土とローム土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に掘り込まれることなく，垂直に立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|------------------------------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 砂質粘土ブロック少量，焼土粒子微量 | 8 黒褐色 砂質粘土粒子少量，焼土ブロック微量 |
| 2 灰褐色 砂質粘土ブロック・焼土粒子微量 | 9 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土ブロック微量 |
| 3 灰褐色 砂質粘土粒子少量，焼土ブロック微量 | 10 暗赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子微量 |
| 4 灰褐色 焼土粒子少量，砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 | 11 暗褐色 砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 5 灰褐色 砂質粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量 |
| 6 灰黄褐色 砂質粘土粒子中量，焼土粒子微量 | 13 暗赤褐色 砂質粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 7 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 14 灰褐色 砂質粘土ブロック少量，焼土粒子微量 |

棚状施設 竈の東側に付設されている。二段構成で，一段目の規模は奥行64cm，幅188cmの長方形で，床面から7cmの高さにあり，棚面はほぼ水平である。二段目は奥行28cm，幅178cmの紡錘形状で，床面から26cmの高さにあり，棚面は南側に向かって傾斜している。いずれも砂質粘土で構築されている。

ピット 5か所。P1～P4は支柱穴で，深さ59～71cmである。P5は深さ50cmで，南壁際の中央部に位置していることや，硬化面の広がりから見て出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 12層に分けられる。各層にロームブロックを含む人為堆積と考えられる。

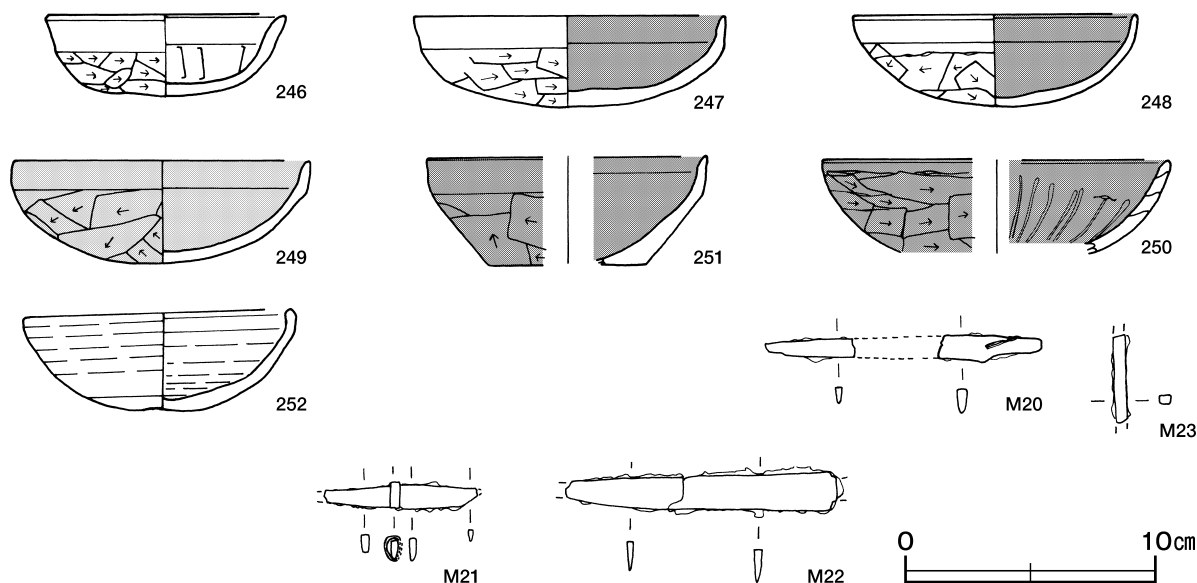
土層解説

- | | |
|-----------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物・礫微量 | 7 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック少量 | 8 黒褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック中量，砂質粘土ブロック少量 | 9 黒褐色 ロームブロック少量，砂質粘土ブロック微量 |
| 4 灰褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック中量 | 10 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 5 灰褐色 砂質粘土ブロック中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量 | 11 灰褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック少量 |
| 6 灰褐色 砂質粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土ブロック微量 | 12 灰褐色 砂質粘土ブロック中量，焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片545点（坏110，甕類435），須恵器片83点（坏53，高台付坏2，甕類27，甌1），鉄器・鉄製品3点（刀子，手鎌，釘）のほか，混入した土師器片2点（器台），須恵器1点（坏），灰釉陶器片2点（蓋，不明）も出土している。遺物はほぼ全面にわたって覆土中層から下層に集中して出土し，多くは廃絶後に廃棄されたものと考えられる。249は竈の覆土下層，248は北壁際の床面，246は北壁の棚状施設の棚面，252・247・250はP5の覆土中層から一括して出土し，時期判断の指標となる資料である。251・M20・M23は中央部の覆土下層，M21は西壁際，M22は西壁寄りの覆土下層から出土し，いずれも住居の廃絶後間もなく廃棄

されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から7世紀末葉から8世紀初頭と考えられる。



第135図 第2083号住居跡・出土遺物実測図

第2083号住居跡出土遺物観察表（第135図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
246	土師器	坏	9.5	3.2	-	長石	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面横方向のへらナデ	棚状施設底面	100% PL155
247	土師器	坏	12.4	3.6	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	P 5 覆土中層	80% PL155
248	土師器	坏	11.4	3.6	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	床面	60%
249	土師器	坏	11.8	4.1	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り	竈覆土下層	60%
250	土師器	坏	[13.8]	(3.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面へら削り 内面放射状のへら磨き	P 5 覆土中層	15%
251	土師器	坏	[10.9]	4.3	(6.3)	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ 底部手持ちへら削り	覆土下層	15%
252	須恵器	坏	10.6	3.9	-	長石	黄灰	普通	底部回転へら切り後ナデ	P 5 覆土中層	95% PL155

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M20	刀子	(11.1)	1.1	0.3	(6.1)	鉄	刃部・茎一部欠損 刃区有り 茎部の表面にカヤ状炭化物付着	覆土下層	
M21	刀子	(6.1)	1.1	0.3	(6.4)	鉄	切先・茎一部欠損 両区 長さ1.1cm幅0.7cmの縁金具残存	覆土下層	PL198
M22	刀子	(10.8)	1.5	0.3	(22.0)	鉄	切先・茎一部欠損 両区	覆土下層	
M23	釘	(3.6)	0.5	0.4	(2.7)	鉄	角釘 一部残存	覆土下層	

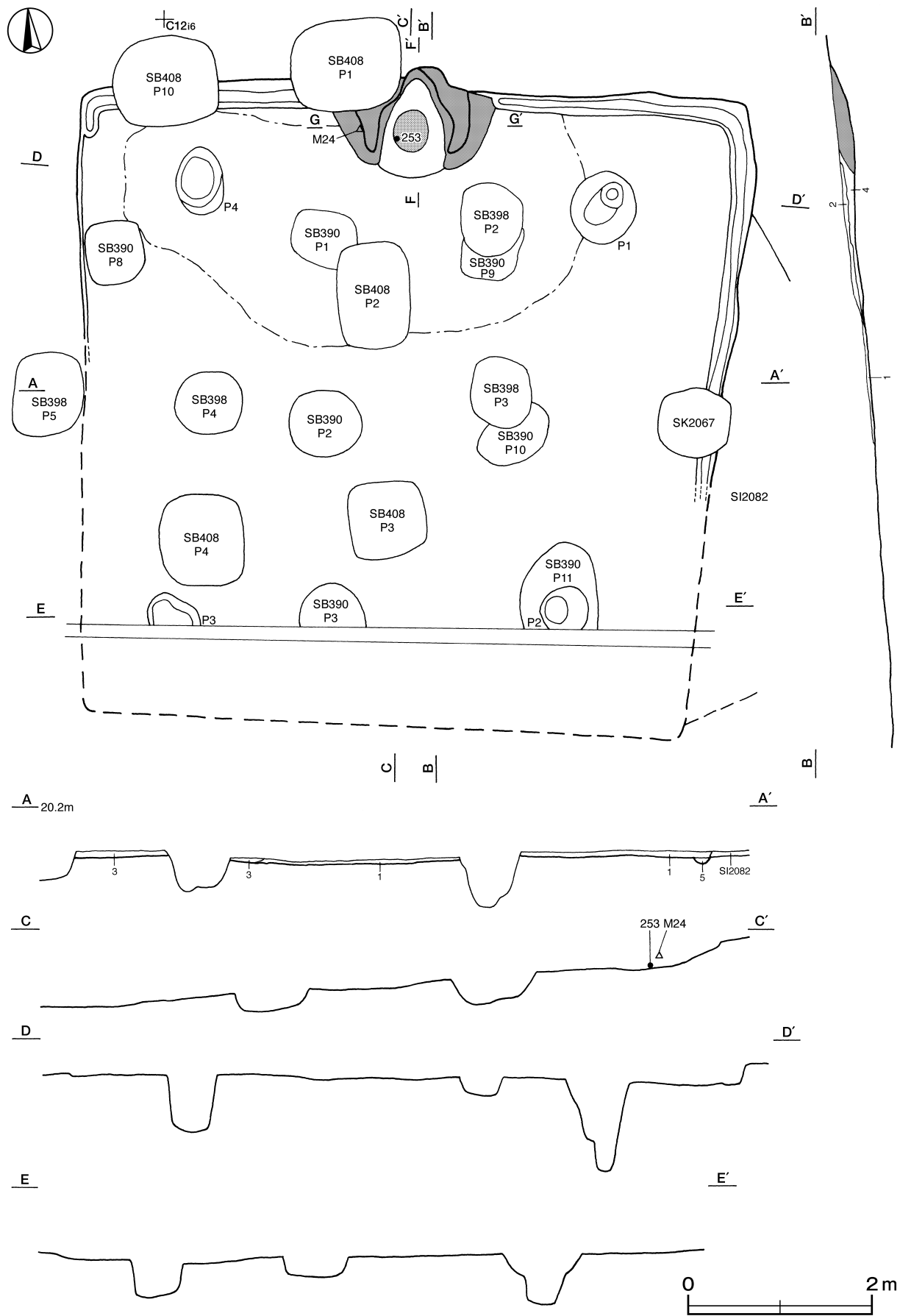
第2086号住居跡（第136～138図）

位置 調査区南部のC12i6区，標高20mほどの南への緩斜面に位置している。

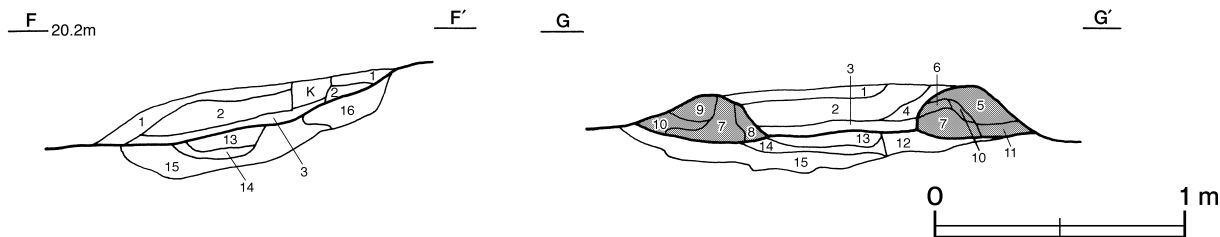
重複関係 第2082号住居跡を掘り込み，第390・398・408号掘立柱建物，第2067号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南部は床が露出した状態で検出されている。柱穴の位置から，主軸方向をN - 4° - Eとする長軸7.1m，短軸6.9mほどの方形と推定される。壁高は4～21cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，竈周辺および北西部が踏み固められている。北部および東部の壁下には，幅15～25cm，深さ3～5cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。



第136图 第2086号住居跡実測図(1)



第137図 第2086号住居跡実測図(2)

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで119cm、袖部幅175cmで、袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面を8cmほど皿状に掘りくぼめた後、床面とほぼ同じ高さまで埋め戻して使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に22cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第2・4層は天井部の崩落層である。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|-----------|-----------------------------|
| 1 褐灰色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量 | 10 灰褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 褐灰色 | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量 | 11 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、炭化物微量 | 12 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗赤灰色 | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量 | 13 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック少量 |
| 5 灰褐色 | 砂質粘土粒子少量、ロームブロック微量 | 14 黒褐色 | 炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 6 褐灰色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 15 にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 7 褐灰色 | 砂質粘土粒子多量 | 16 明褐灰色 | 砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土粒子炭化粒子微量 |
| 8 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量 | | |
| 9 灰褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | | |

ピット 4か所。P1～P4はいずれも主柱穴で、深さは39～98cmである。

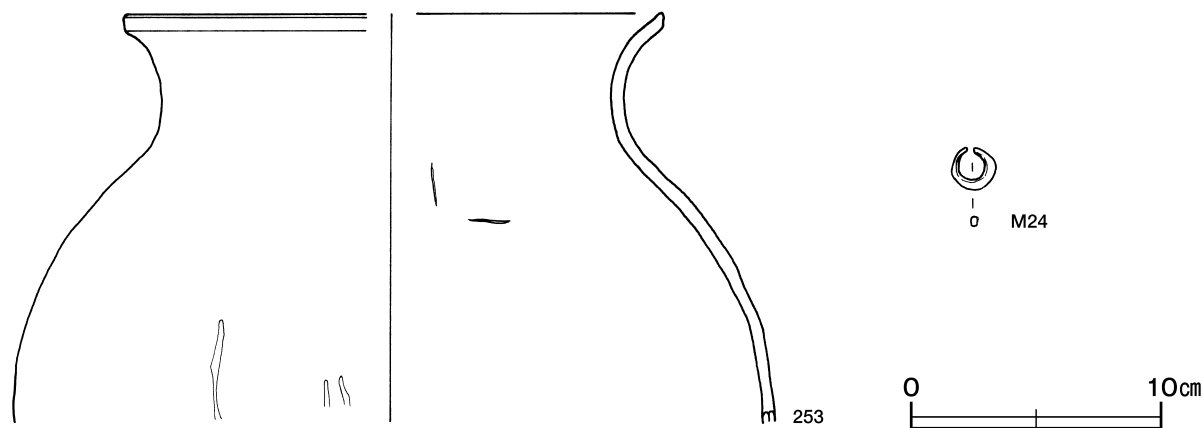
覆土 5層に分けられる。覆土が薄いため、堆積状況は不明である。

土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------------|-------|---------------------------|
| 1 灰褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量 | 4 褐灰色 | 粘土ブロック中量、ローム粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 2 にぶい褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量 | 5 褐灰色 | ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 3 灰褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | | |

遺物出土状況 土師器片94点（坏17，甕類77），須恵器片1点（坏），銅製品1点（耳環）が散在した状態で出土している。253は竈の覆土下層から出土しており、火を受けた跡が認められることから竈で使用されていたと考えられる。また、M24は竈左袖部上の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第138図 第2086号住居跡出土遺物実測図

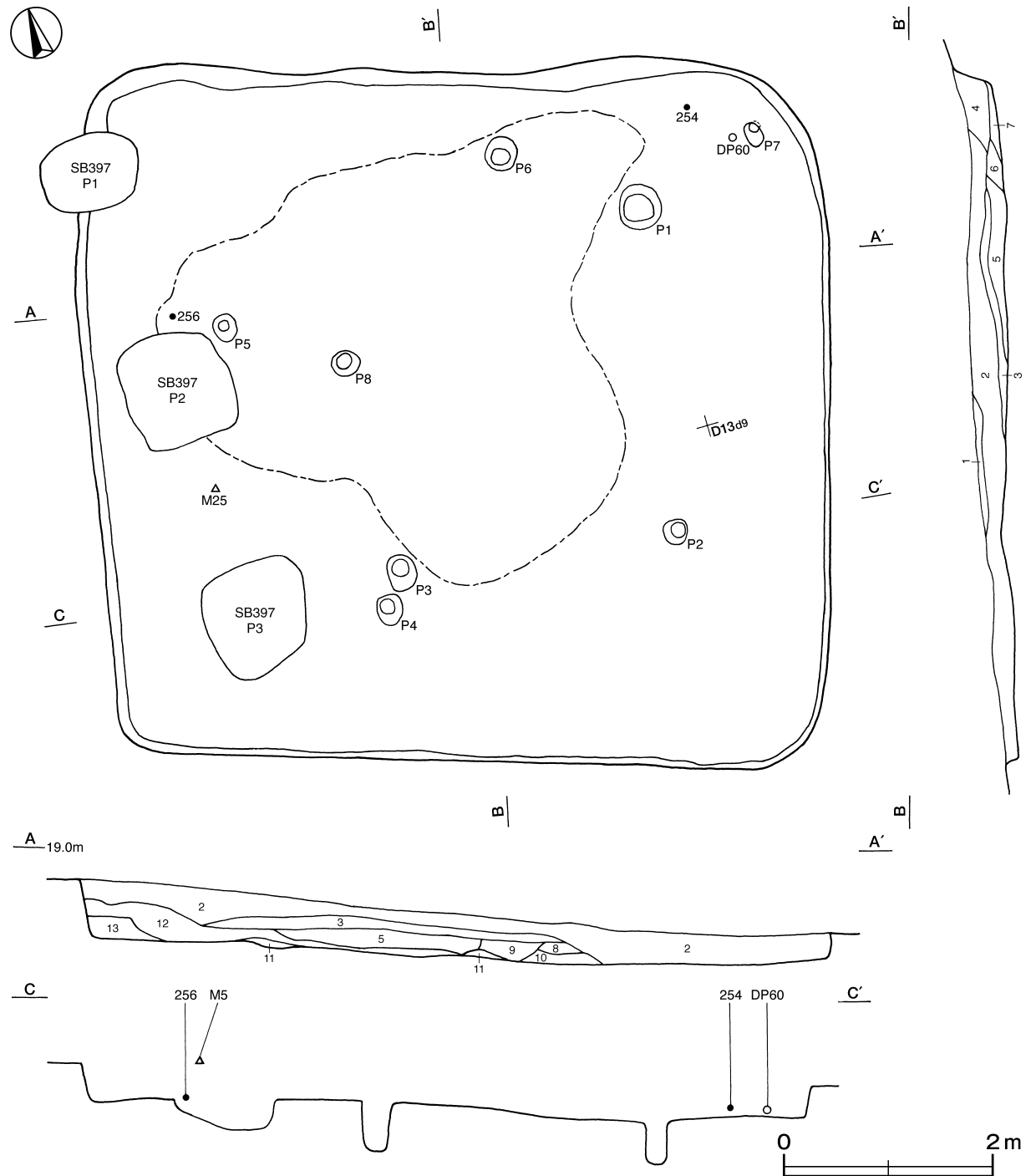
第2086号住居跡出土遺物観察表（第138図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
253	土師器	甕	[21.3]	(16.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ磨き 内面へラナデ	竈覆土下層	30%

番号	器種	長径	短径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M24	耳環	1.8	1.7	0.3	2.3	銅	鍍金	竈覆土上層	PL196

第2088号住居跡（第139・140図）

位置 調査区南東部のD13c8区，標高19mほどの南への緩斜面に位置している。



第139図 第2088号住居跡実測図

重複関係 第397号掘立柱建物に掘り込まれ、第2494、2495、2500号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸7.08m、短軸6.65mの方形で、主軸方向はN - 15° - Eである。壁高は30~38cmで、外傾して立ち上がっている。

床 中央部から東側に向かって緩やかに傾斜し、中央部が踏み固められている。

ピット 8か所。P1・P2は支柱穴で、深さ38~40cmである。P3~P8の性格は不明である。

覆土 13層に分けられる。第1~2層は流れ込みの状況を呈する自然堆積、第3~13層は不規則な堆積状況を呈する人為堆積である。

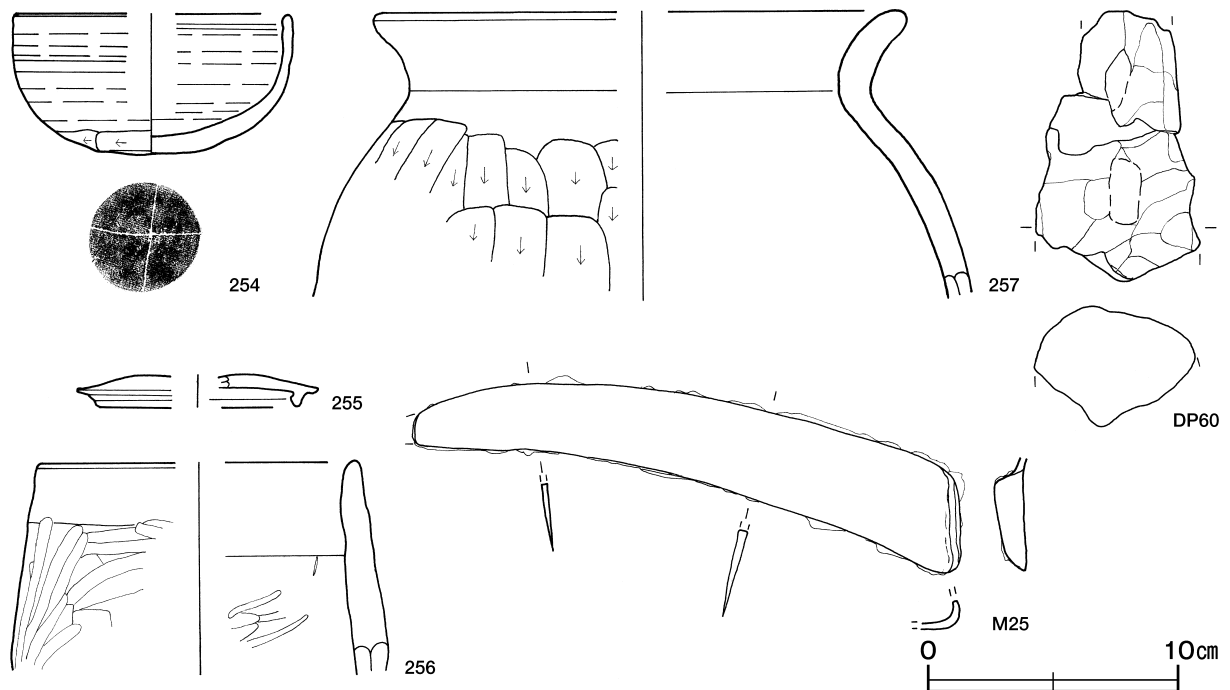
土層解説

1 黒褐色 砂質粘土ブロック中量，ロームブロック微量	8 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック微量
2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・礫微量	9 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック微量
3 灰褐色 砂質粘土ブロック中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量	10 黒褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック少量
4 黒褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子少量	11 灰褐色 砂質粘土ブロック中量，ロームブロック微量
5 褐灰色 砂質粘土ブロック中量，ロームブロック微量	12 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
6 暗褐色 ロームブロック少量，砂質粘土ブロック微量	13 黒褐色 ロームブロック微量
7 暗褐色 ロームブロック少量	

遺物出土状況 土師器片1720点(坏189，鉢1，甕類1530)，須恵器片535点(坏161，高台付坏4，盤5，蓋11，甕類352，甌2)のほか、混入した土師器片22点、須恵器片20点、陶器片5点、土製品1点も出土している。

遺物はほぼ全面の覆土上層から中層に集中しており、多くは細片で住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。254・DP60は北壁寄りの覆土下層、256は西壁寄りの床面から出土し、廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。また、255・257が覆土中、M25が西壁寄りの覆土上層から出土している。

所見 時期は、住居の規模や主軸方向、出土土器から7世紀中葉と考えられる。



第140図 第2088号住居跡出土遺物実測図

第2088号住居跡出土遺物観察表（第140図）

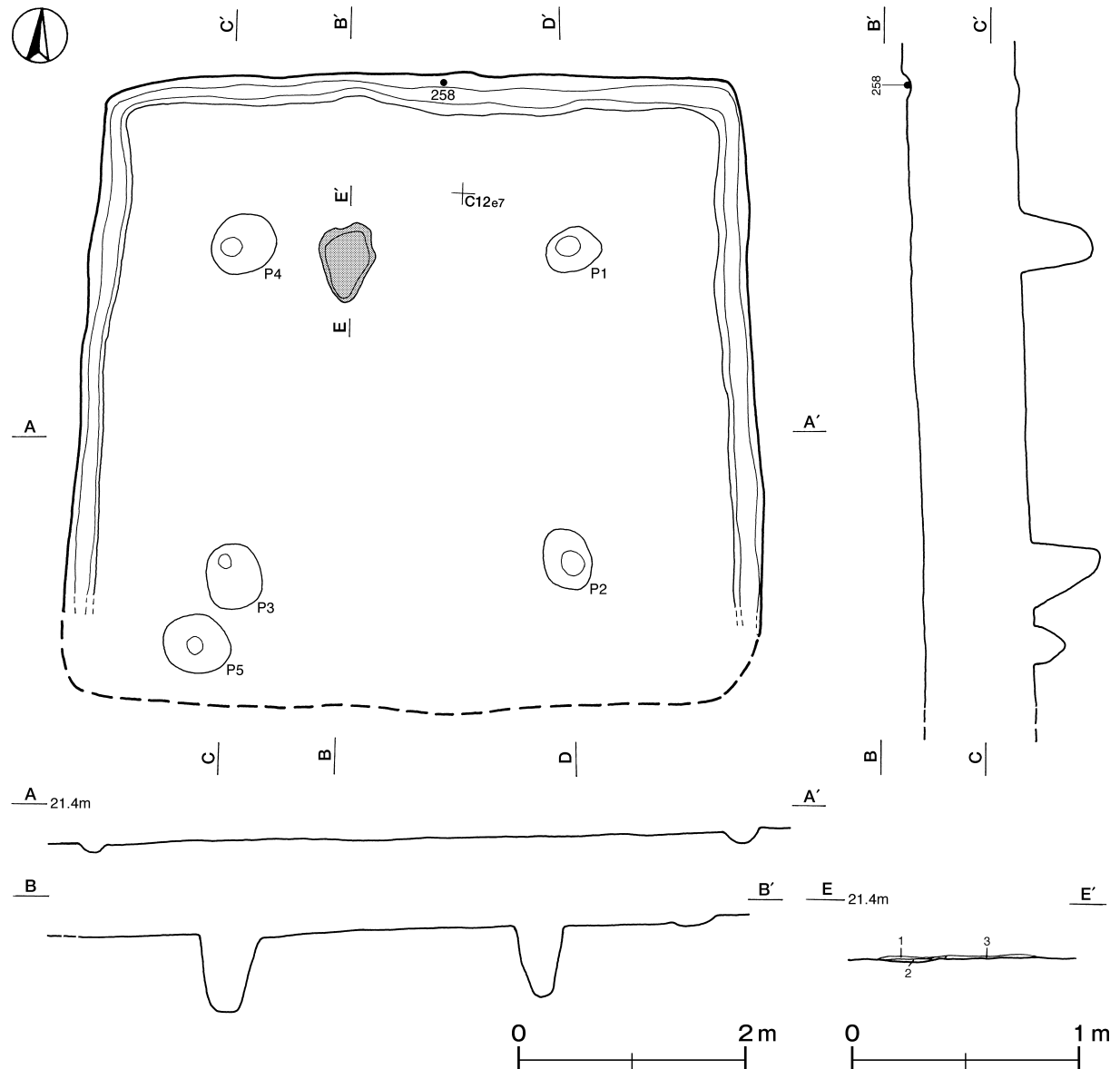
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
254	須恵器	坏	[11.0]	5.5	5.5	黒色粒子	灰黄	普通	口辺部内面沈線一条 体部外面下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	覆土下層	70% 底部ヘラ記号「+」
255	須恵器	蓋	[9.6]	1.3	-	長石・黒色粒子	黄灰	普通	内面に返り有り	覆土	30% 天井部に自然釉
256	土師器	甕	[12.6]	(8.5)	-	石英・長石	灰白	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラナデ 内面ナデ	床面	5 %
257	土師器	甕	[20.8]	(11.4)	-	長石・石英・微礫	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面縦方向のヘラ削り	覆土	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP60	支脚	(10.8)	(6.6)	(4.8)	(224.9)	土長石・石英・雲母	ナデ 指頭痕 一部残存	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M25	鎌	(21.6)	4.0	0.3	(156.0)	鉄	刃先欠損	覆土上層	PL196

第2092号住居跡（第141・142図）

位置 調査区中央部のC12e6区，標高20mほどの平坦な台地上に位置している。



第141図 第2092号住居跡実測図

規模と形状 南部は床面が露出した状態で検出されており，東西軸5.88m，南北軸は5.6mだけが確認された。壁溝と柱穴の配置から，主軸方向はN - 1° - Wの方形と推定される。壁高は最大で4cmである。

床 ほぼ平坦である。やや軟弱であり，明確な硬化面は確認できない。確認された部分の壁下には，幅22～28cm，深さ3～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

炉 中央部の北西寄りに位置している。長径71cm，短径47cmの楕円形で，床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉である。

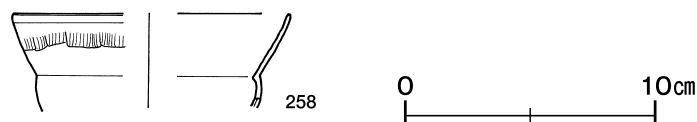
炉土層解説

- 1 赤褐色 焼土ブロック多量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック多量，ローム粒子少量
- 3 灰褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で，深さは63～70cmである。P5の性格は不明である。

遺物出土状況 土師器片52点（埴1，高坏10，甕類39，手捏土器2）が散在した状態で出土しており，いずれも細片である。また，混入した須恵器片1点も出土している。258は北壁際の壁溝覆土から出土しており，住居の廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から5世紀前半と考えられる。



第142図 第2092号住居跡出土遺物実測図

第2092号住居跡出土遺物観察表（第142図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
258	土師器	埴	[11.0]	(3.8)	-	長石・石英	黄橙	普通	口辺部外面ハケ目調整 内面ナデ	壁溝覆土	10%

第2093号住居跡（第143図）

位置 調査区中央部のC12c9区，標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2055号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.36m，短軸4.30mの方形で，主軸方向はN - 4° - Wである。壁高は4～6cmで，南壁を除く各壁ともに外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。硬化面は確認されなかった。

竈 北壁の中央部に付設されている。耕作による攪乱を受けている。規模は，焚口部から煙道部まで110cm，袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面を12cm掘りくぼめており，火を受けて赤変している。煙道部は壁外に42cm掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 砂質粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 灰褐色 砂質粘土粒子中量，ロームブロック少量，焼土ブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック・砂質粘土粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック微量
- 5 灰褐色 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量

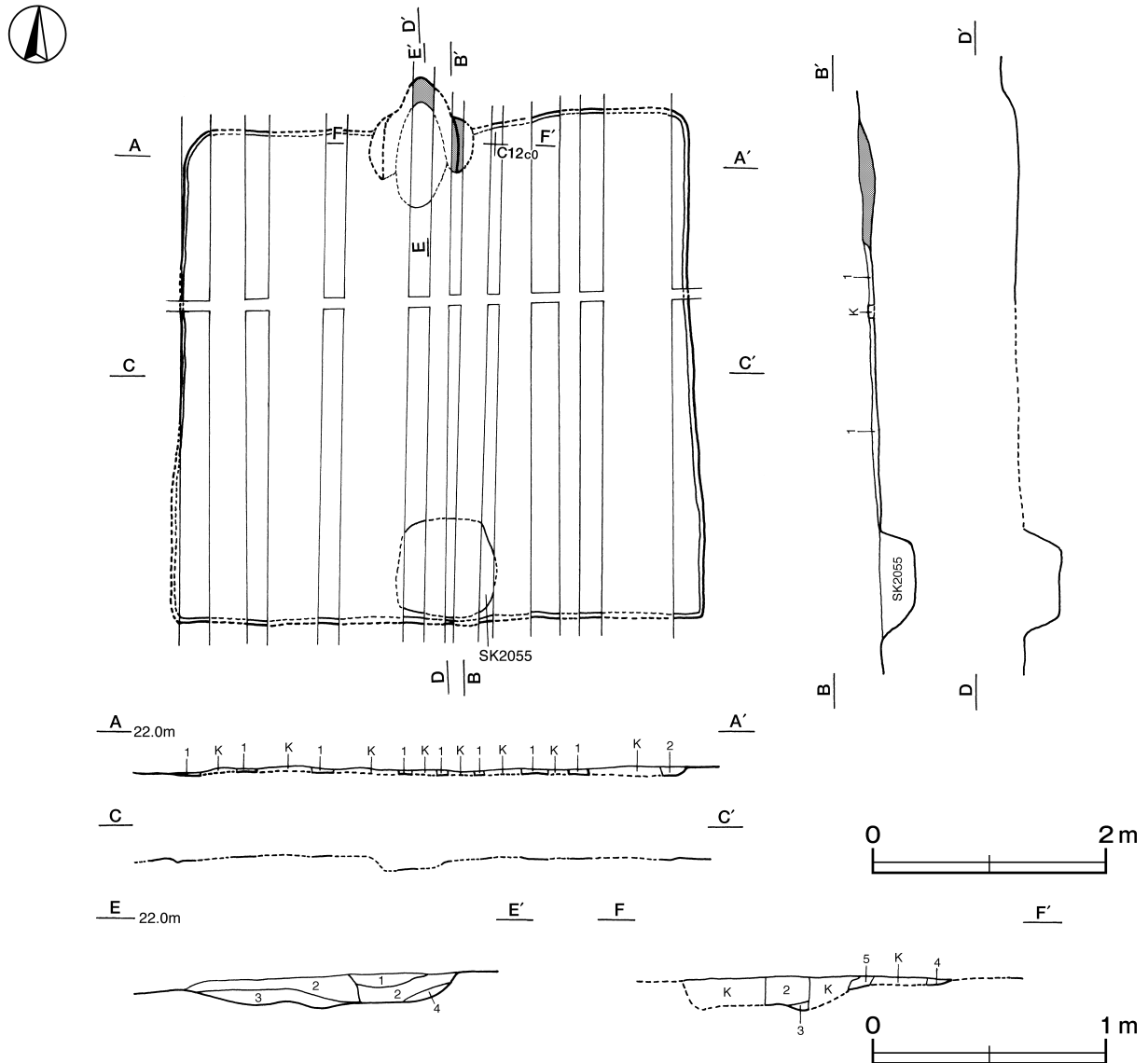
覆土 2層に分けられる。覆土が薄く堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片57点（坏11，甕類46），須恵器片14点（坏6，甕類8）が出土している。細片のため図示できるものはない。

所見 時期は，住居の規模や主軸方向及び出土土器から7世紀代と考えられる。



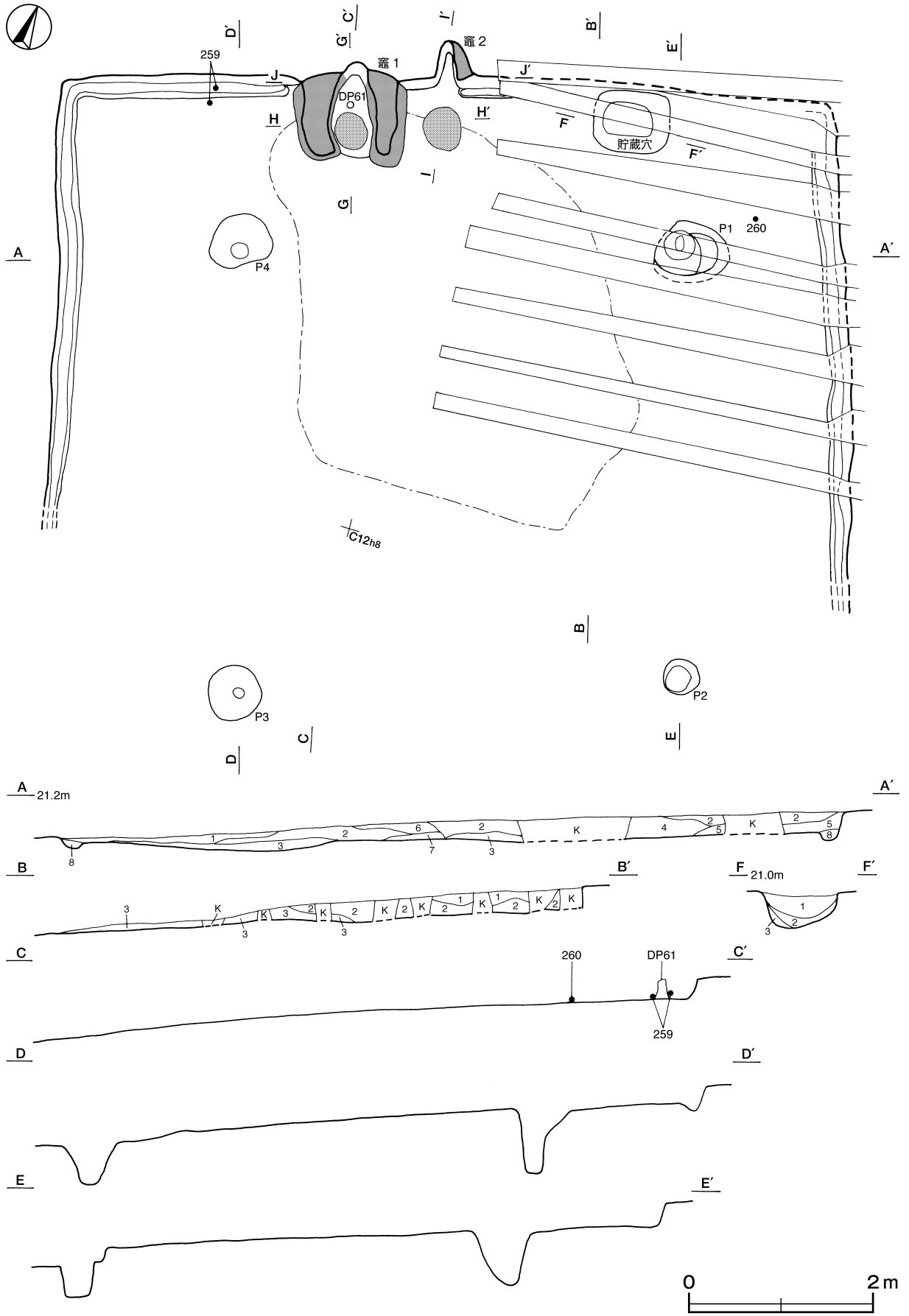
第143図 第2093号住居跡実測図

第2095号住居跡（第144～146図）

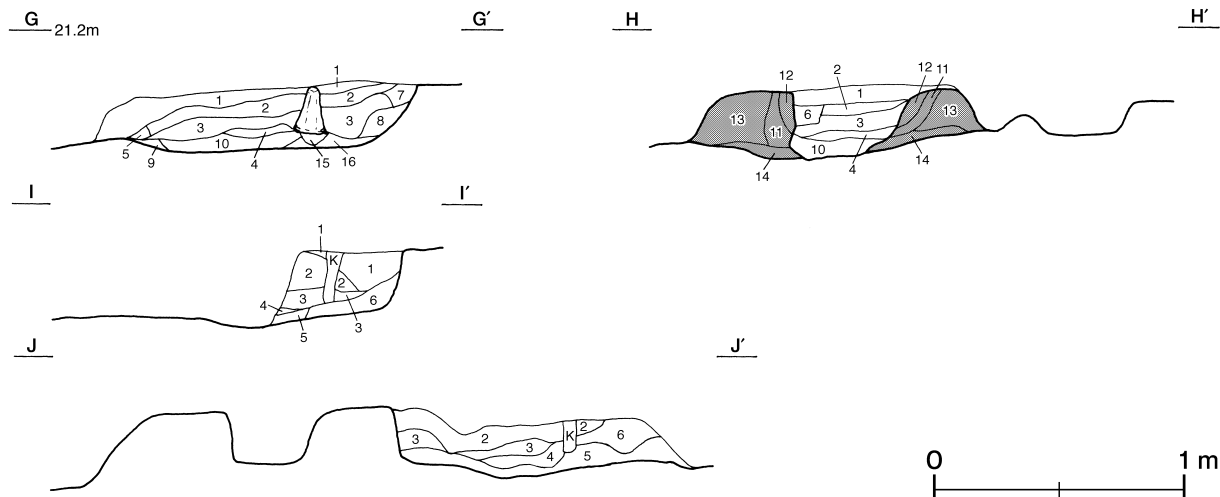
位置 調査区中央部のC12g7区，標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 南部は床面が露出した状態で検出され，東西軸8.58m，南北軸は5.36mだけが確認された。主軸方向をN - 15° - Wとする方形または長方形と考えられる。壁高は20～25cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。確認された部分の壁下には，幅16～19cm，深さ3～6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。



第144图 第2095号住居跡実測图(1)



第145図 第2095号住居跡実測図(2)

竈 2か所。竈1は北壁中央部のやや西寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで103cm，袖部幅124cmで，袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面を5cmほど掘りくぼめた後に床面とほぼ同じ高さまで埋め戻して使用しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に21cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。竈2は北壁中央部に付設されている。袖部は遺存しない。火床部は床面とほぼ同じ高さの地山面を使用しており，火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に39cm掘り込まれ，火床部から急な傾斜で立ち上がっている。竈2の袖部が遺存しないことや壁溝の範囲から，竈2の廃絶後，竈1へ作り替えたと考えられる。

竈1土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------------|-----------|---------------------------|
| 1 灰 褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量，焼土ブロック微量 | 7 黒 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量，砂質粘土粒子微量 |
| 2 褐 灰色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | 8 暗 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 3 灰 褐色 | 焼土ブロック中量，ロームブロック少量 | 9 褐 灰色 | 焼土粒子少量，ロームブロック微量 |
| 4 暗 赤 褐色 | 焼土ブロック中量，ロームブロック・砂質粘土粒子少量 | 10 赤 褐色 | 焼土ブロック中量 |
| 5 褐 灰色 | 砂質粘土粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量 | 11 暗 赤 褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量 |
| 6 赤 褐色 | 焼土ブロック多量，砂質粘土粒子少量，ロームブロック微量 | 12 にぶい赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| | | 13 灰 褐色 | 砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量 |
| | | 14 灰 褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子微量 |
| | | 15 褐 灰色 | 砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量 |
| | | 16 灰 褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 |

竈2土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------|----------|----------------------|
| 1 暗 褐色 | 焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 4 暗 褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 2 褐 色 | 砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 暗 赤 褐色 | 焼土粒子少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 褐 色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子・粘土粒子微量 | 6 暗 赤 褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量 |

ピット 4か所。P1～P4は支柱穴で，深さは44～71cmである。

貯蔵穴 北東部に位置している。長軸74cm，短軸66cmほどの隅丸長方形で，深さは43cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がり，覆土は自然堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗 褐色 | 粘土ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 暗 褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

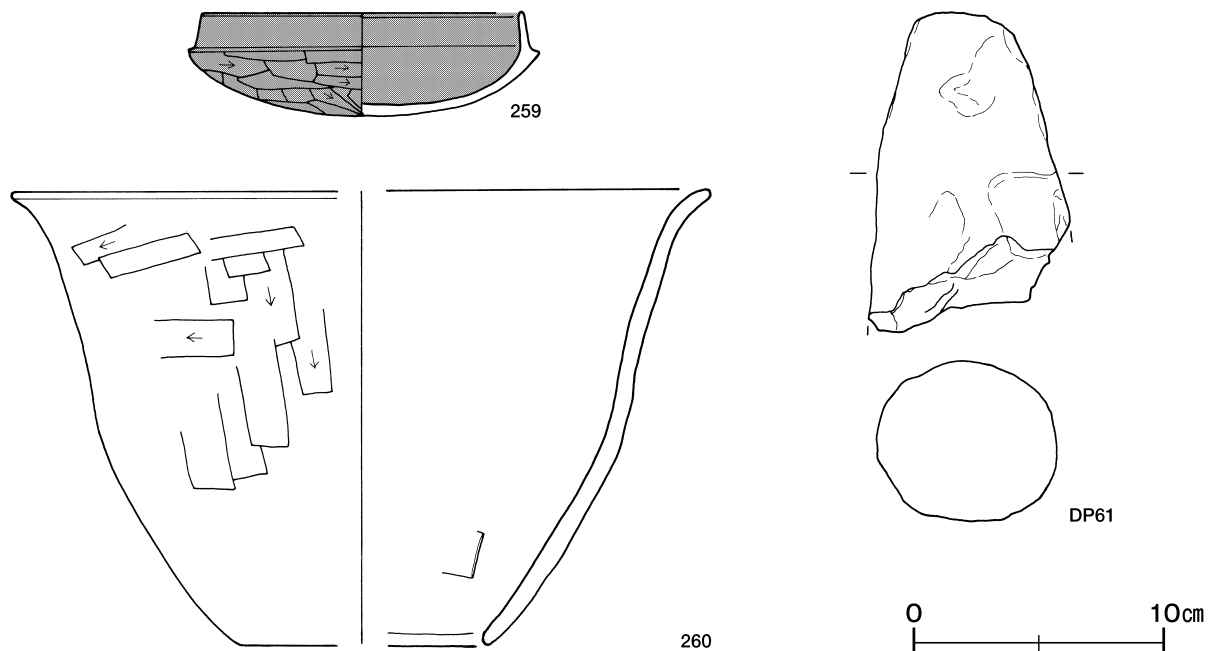
覆土 8層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|--------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 7 極暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 8 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片502点(坏33, 甕類460, 甑9), 須恵器片10点(坏2, 甕8), 土製品2点(支脚), 石製品1点(砥石)が散在した状態で出土している。また, 混入した黒曜石1点, 陶器片3点, 磁器片3点, 銅製品1点(煙管)も出土している。259は北西部壁際の床面から出土しており, 住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。260は北東部の床面から出土し, また, DP61は竈の火床面から出土している。

所見 北壁の中央部に2つの竈が確認されているが, 同時に使用されたものではなく, 袖部の遺存状態および壁溝の範囲から, 竈2の廃絶後に竈1に作り替えたと考えられる。時期は, 出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第146図 第2095号住居跡出土遺物実測図

第2095号住居跡出土遺物観察表(第146図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
259	土師器	坏	12.6	4.1	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	床面	95% PL155
260	土師器	甕	[27.6]	18.0	[9.6]	長石・石英・雲母・微礫	浅黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へらナデ	床面	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP61	支脚	(12.6)	7.2	6.4	(476.5)	土(長石・石英)	ナデ 指頭痕 にぶい橙色	竈火床面	100%

第2097号住居跡(第147・148図)

位置 調査区中央部のC13e1区, 標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第396号掘立柱建物, 第2052号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西側が攪乱を受けているが、長軸3.46m、短軸2.80mほどの長方形で、主軸方向はN - 10° - Wである。壁高は4 ~ 15cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈前が踏み固められている。東壁下には幅5 ~ 10cm、深さ4 ~ 6cmで、U字形の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北東コーナー部に付設されている。耕作により攪乱を受けているため袖部は確認されなかった。火床部は床面を9cm掘りくぼめており、火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に16cm掘り込まれ、緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| 1 褐灰色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 4 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | 5 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 焼土ブロック微量 | 6 暗褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ロームブロック微量 |

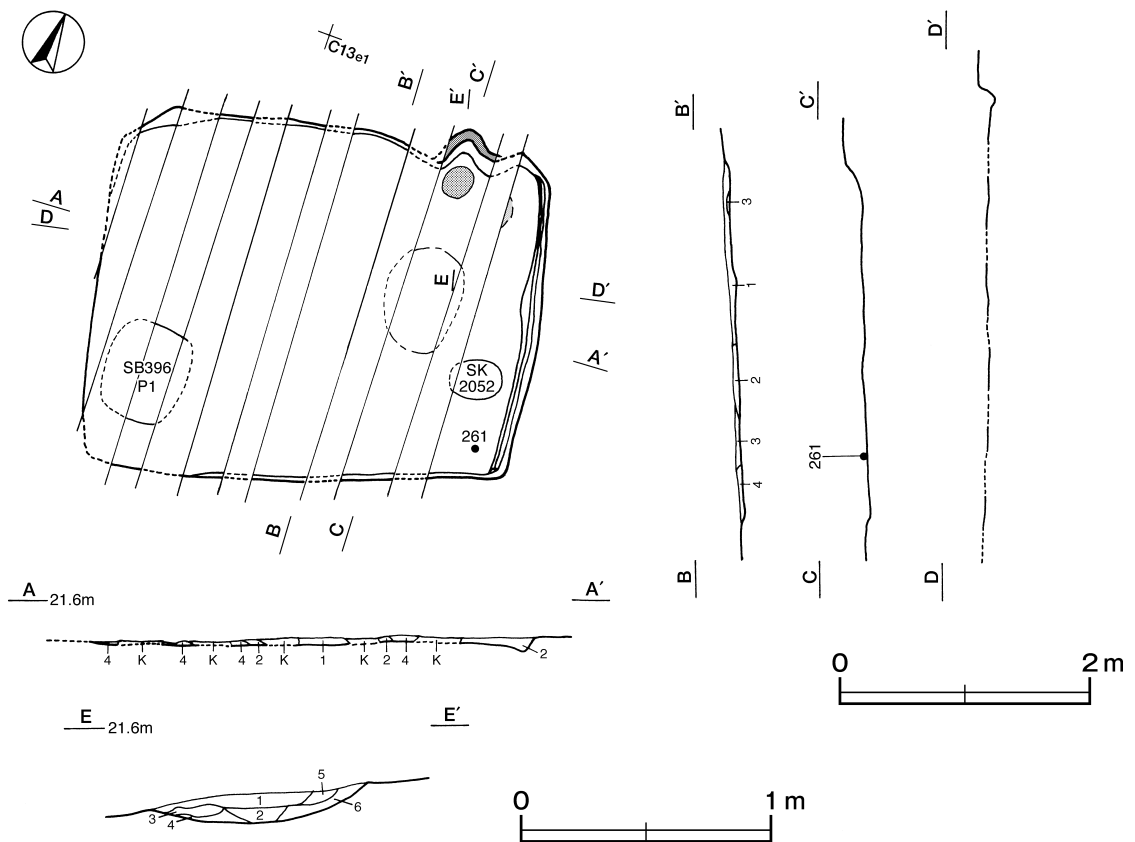
覆土 4層に分けられる。覆土が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

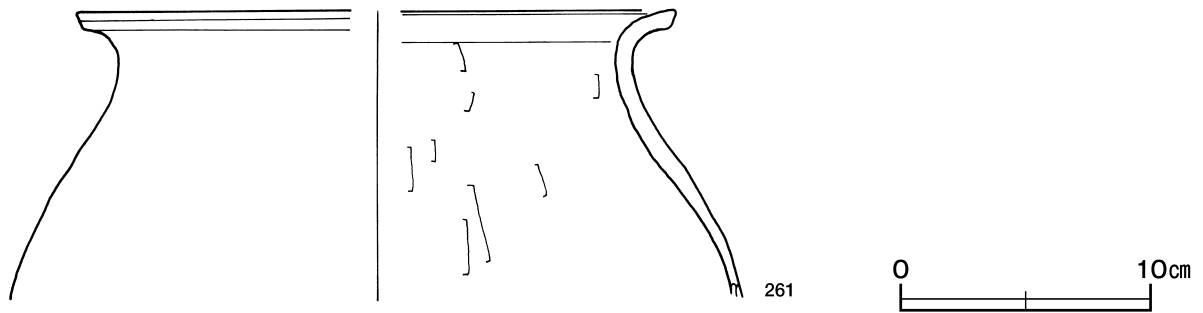
- | | |
|---------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 炭化材・ロームブロック・焼土粒子少量 | 3 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 極暗褐色 炭化物・ロームブロック・焼土粒子少量 | 4 褐色 ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片19点（甕類），須恵器片3点（坏2，甕1）のほか、混入した不明鉄製品1点が出土している。261は南東コーナーの床面から出土し、住居の廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から7世紀後葉と考えられる。



第147図 第2097号住居跡実測図



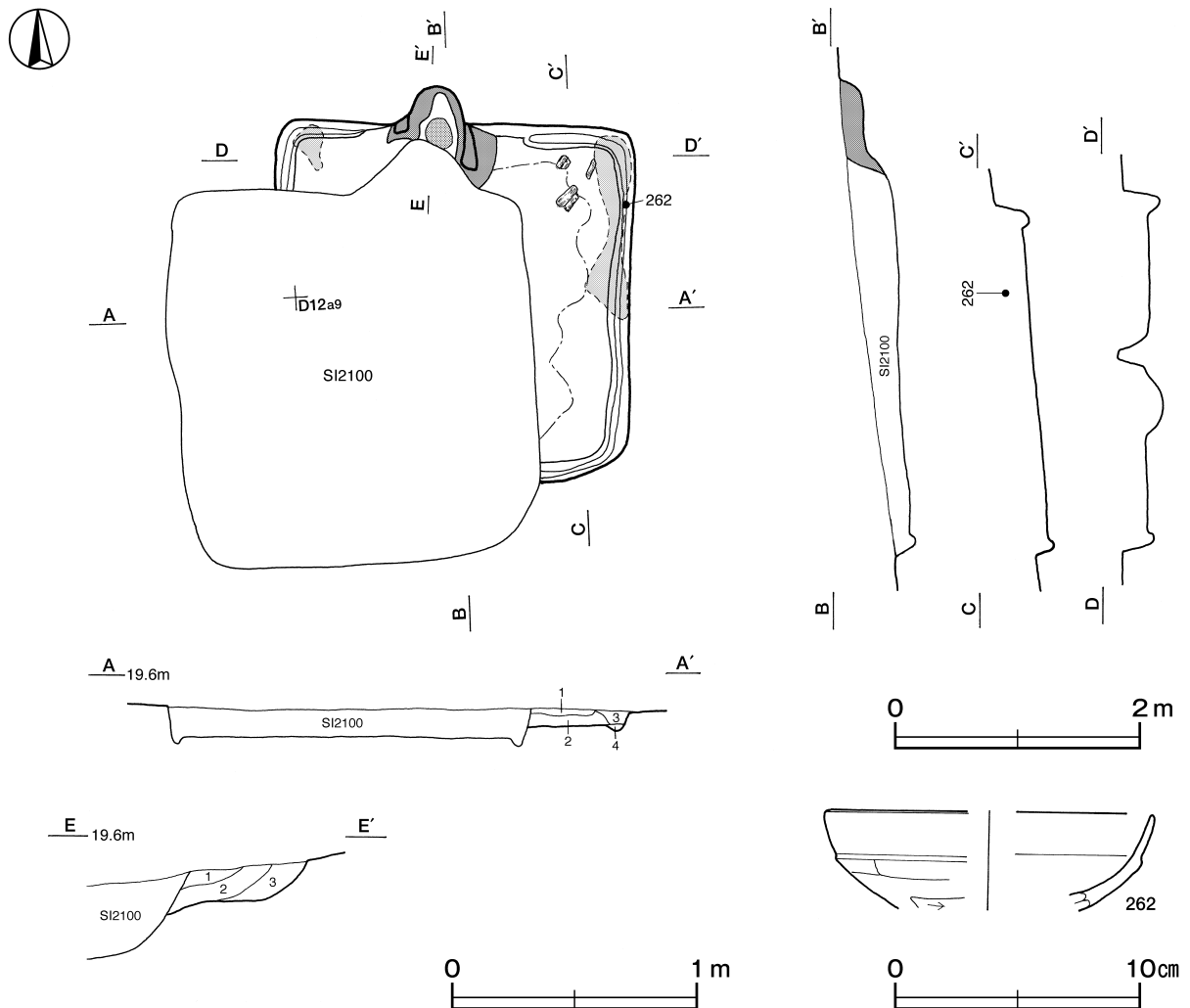
第148図 第2097号住居跡出土遺物実測図

第2097号住居跡出土遺物観察表（第148図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
261	土師器	甕	[23.6](11.4)	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	床面	10% 煤付着

第2099号住居跡（第149図）

位置 調査区東部のC12j9区，標高19.5mほどの平坦な台地上に位置している。



第149図 第2099号住居跡実測図

重複関係 第2100号住居に掘り込まれている。

規模と形状 中央部から南西部を第2100号住居に掘り込まれている。確認できた部分の規模は、長軸2.91m、短軸2.86mであり、主軸方向はN - 6° - Eの方形と推定される。壁高は20~23cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。確認された部分の壁下には、幅11~13cm、深さ6~9cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。また、床面に焼土が堆積し、炭化材も認められる。北西コーナー部では、暗褐色土の上に7cmほどの厚みで壁際から落ち込むように焼土が堆積している。

竈 北壁中央部に付設されている。左袖部および焚口部は、第2100号住居に掘り込まれており遺存しない。確認された部分の袖部幅は88cmである。火床部は地山を床面よりも高く掘り残して使用しており、火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に32cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第1層は、天井部の崩落層である。

竈土層解説

- | | |
|-----------------------------------|------------------------------|
| 1 灰褐色 砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 | 2 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| | 3 暗赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |

覆土 4層に分けられる。各層に焼土を含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-------------------------|---------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 暗褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 4 褐色 ローム粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片33点(坏13, 椀4, 甕類16), 須恵器片1点(坏), 鉄製品1点(釘)が散在した状態で出土している。遺物のほとんどは細片であり、出土層位は床面に堆積した焼土よりも上層である。262は東壁際の覆土中層から出土しており、住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見 床面に焼土が堆積し、炭化材が認められることから、焼失住居と考えられる。時期は、出土土器から7世紀前葉以前と考えられる。

第2099号住居跡出土遺物観察表(第149図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
262	土師器	坏	[13.4](4.0)	-	-	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	覆土中層	20%

第2114号住居跡(第150・151図)

位置 調査区東部のB14h4区, 標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第415号掘立柱建物に掘り込まれている。

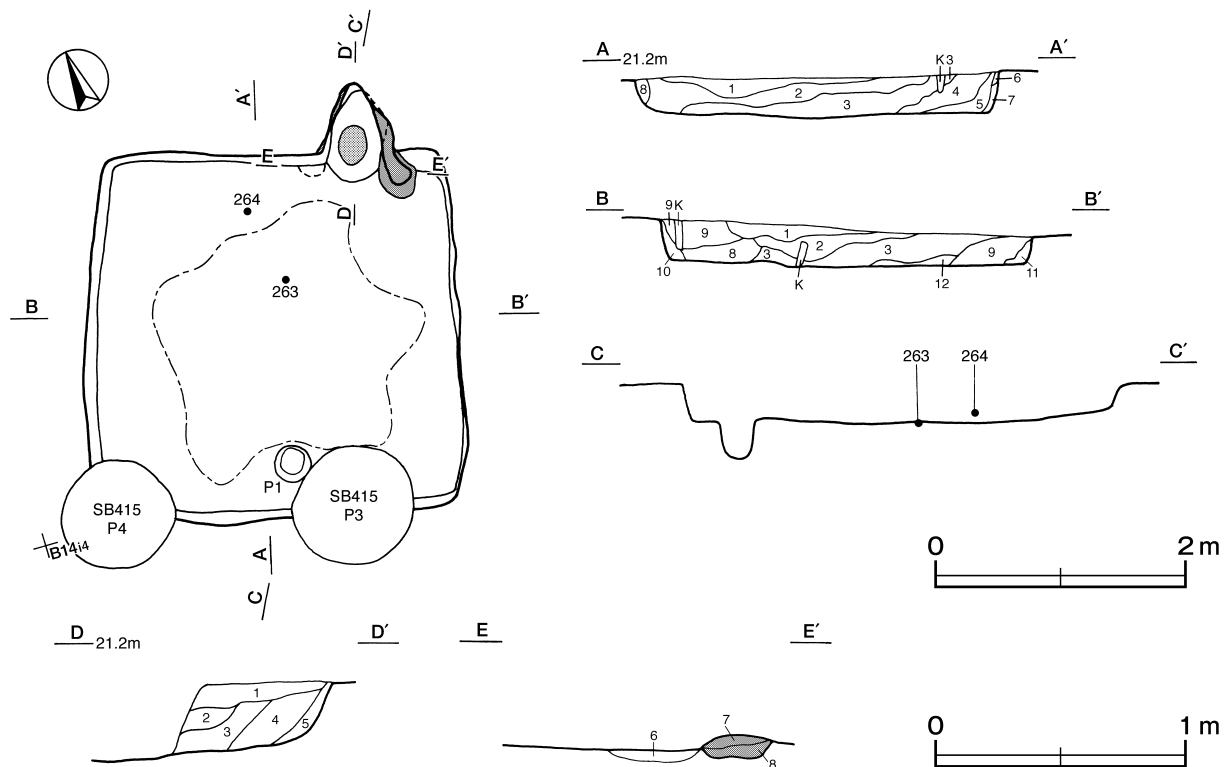
規模と形状 長軸2.97m, 短軸2.91mの方形で、主軸方向はN - 17° - Eである。壁高は21~28cmで、壁はほぼ直立している。

床 ほぼ平坦であり、壁際を除いて踏み固められている。

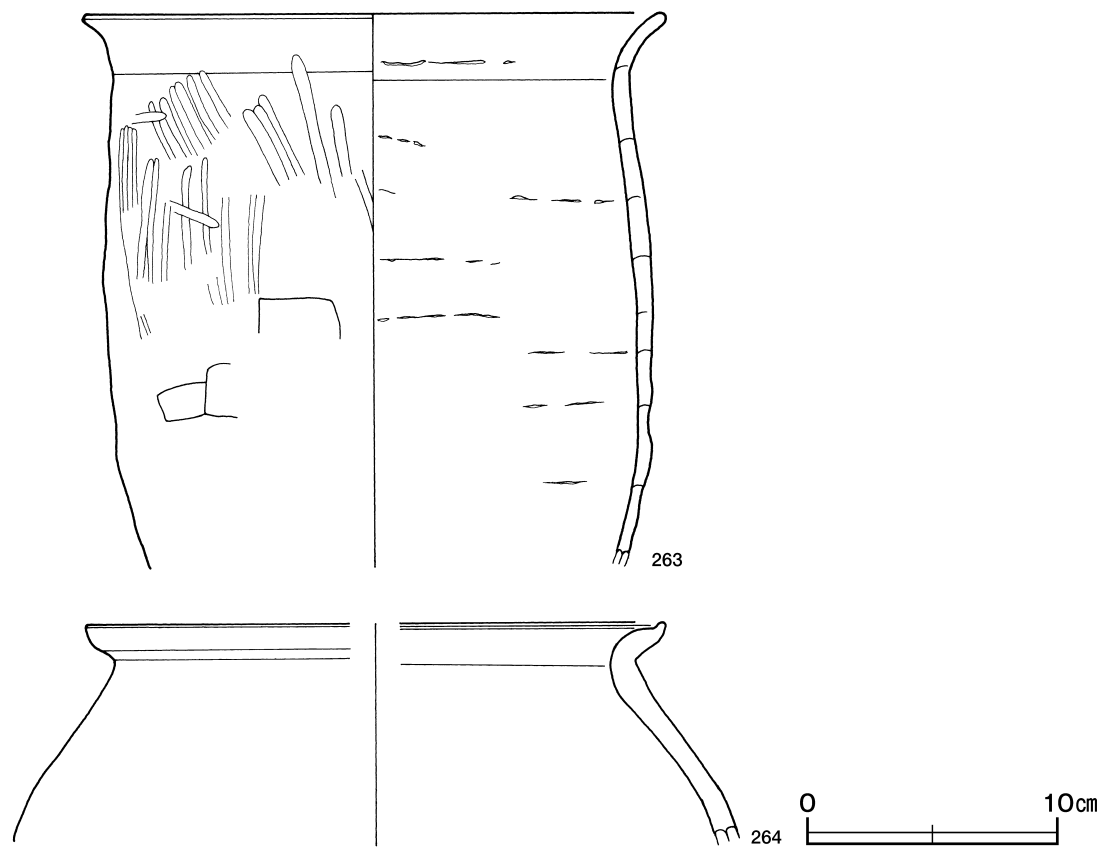
竈 北壁東寄りに付設されており、左袖部が削平されている。規模は、焚口部から煙道部まで80cmほどである。袖部は覆土の状況から砂質粘土で構築されていたと推定される。火床部は床面を浅く皿状に掘りくぼめており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に54cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子中量, 砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 極暗赤褐色 焼土粒子多量, 炭化粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 暗赤褐色 焼土ブロック中量 |
| 3 極暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子多量, 炭化粒子少量 | 7 褐灰色 砂質粘土粒子中量 |
| 4 黒褐色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 8 灰褐色 砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量 |



第150图 第2114号住居跡実測图



第150图 第2114号住居跡出土遺物実測图

ピット 深さ34cmで、竈に対峙する位置にあることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 12層に分けられる。各層にロームブロックを多く含む人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量	7 暗褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土ブロック少量	8 褐色	ローム粒子多量
3 極暗褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量	9 暗褐色	ロームブロック中量
4 黒褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量	10 暗褐色	ローム粒子中量
5 黒褐色	ローム粒子少量	11 褐色	ロームブロック中量
6 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	12 極暗褐色	ロームブロック・炭化物少量

遺物出土状況 土師器片95点(坏2, 甕類93), 須恵器片3点(坏2, 甕類1)が出土している。263は中央部床面, 264は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。北西部を中心に遺物が出土しているが、ほとんどが細片であり, 出土状況から住居廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 出土遺物の数が少ないため時期の特定が難しいが, 時期は, 出土土器と住居形態から7世紀代と考えられる。

第2114号住居跡出土遺物観察表(第151図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
263	土師器	甕	22.8	(22.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 削り 体部外面へラ磨き 内面へラナデ 輪積痕	床面	40%
264	土師器	甕	[22.8]	(8.8)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ	覆土下層	5%

第2119号住居跡(第152~154図)

位置 調査区東部のC14b2区, 標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 東壁と南・北壁の東側が削平されている。第2113号住居, 第410号掘立柱建物, 第14号ピット群, 第2263・2267・2271・2276・2277号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸9.34m, 短軸9.32mの方形と推定され, 主軸方向はN-5°-Eである。壁高は24cmで, 外傾して立ち上がっている。

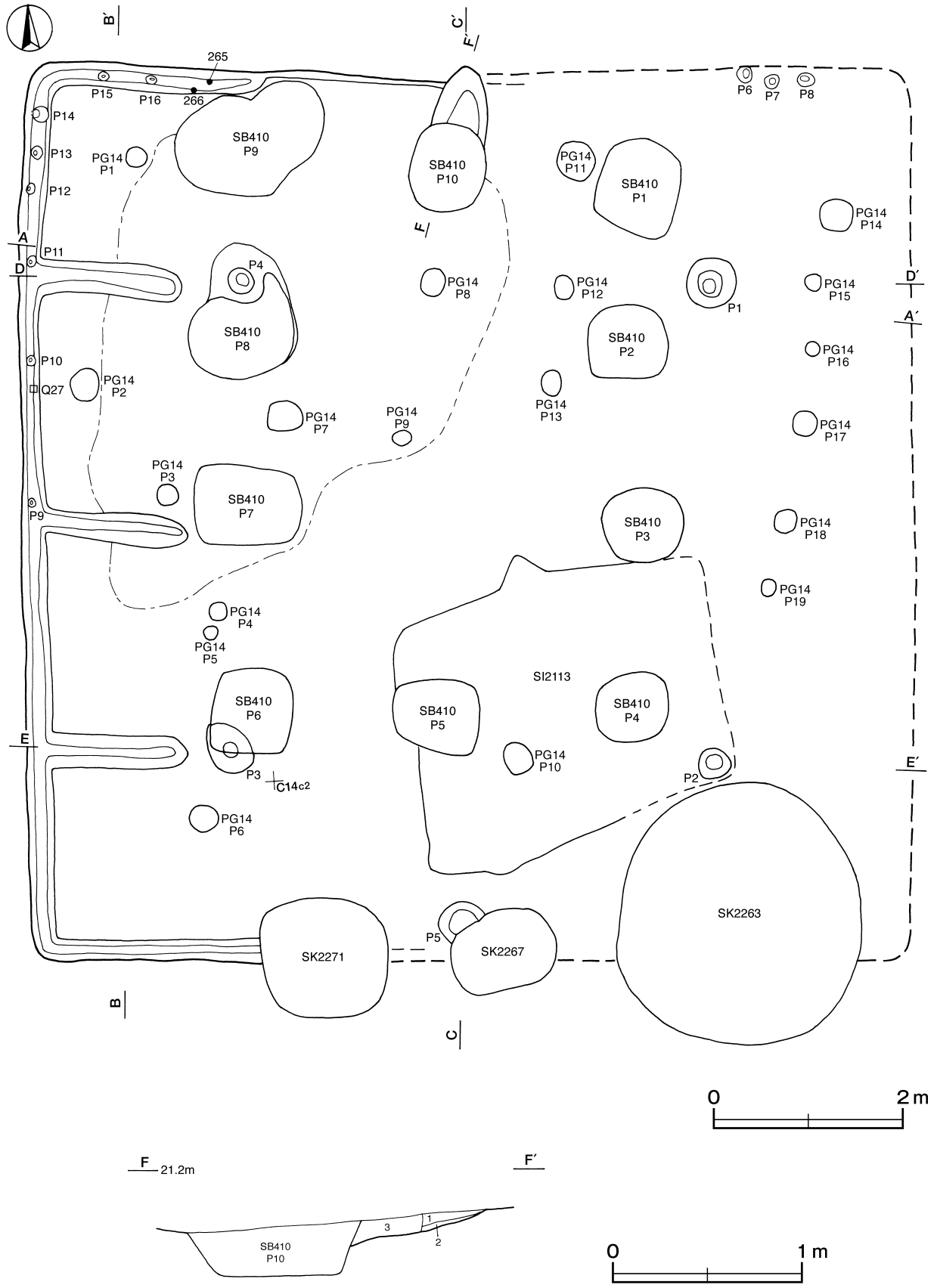
床 ほぼ平坦であり, 壁際を除いて北西部が踏み固められている。西壁と南・北壁の一部の壁下には, 幅12~22cm, 深さ4~9cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。幅29~36cm, 深さ11~14cmの間仕切り溝が西壁側で3条確認され, 断面形はU字状を呈している。

竈 北壁やや西寄りに付設されている。第410号掘立柱建物のP10によって掘り込まれているため, 全体の形状は不明であるが, 煙道部は壁外に16cm掘り込まれ, 外傾して緩やかに立ち上がっている。

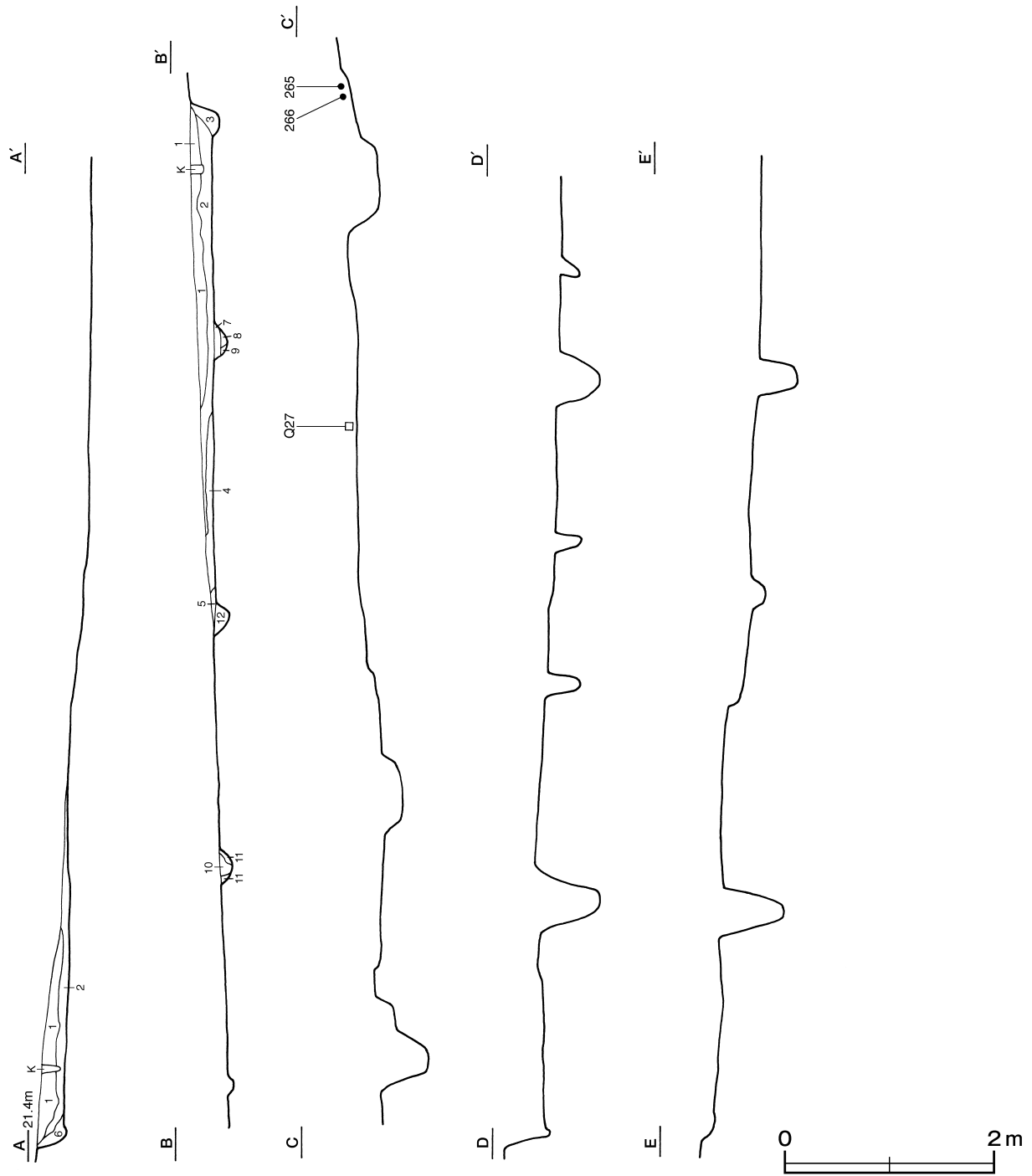
竈土層解説

1 にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量	3 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2 灰褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量		

ピット 16か所。P1~P4は支柱穴で, 深さ40~60cmである。P5は深さ17cmで, 竈に対峙する位置にあることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。北壁から西壁にかけて確認されているP6~P16は, 壁柱穴と考えられる。



第152图 第2119号住居跡実測図(1)



第153図 第2119号住居跡実測図(2)

覆土 12層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

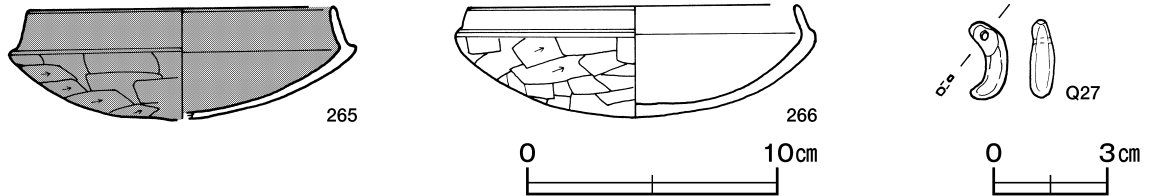
土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|----------|-----------------|
| 1 暗褐色 | ロ-ムブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 7 極暗褐色 | ロ-ムブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロ-ムブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 黒褐色 | ロ-ム粒子少量 |
| 3 褐色 | ロ-ム粒子中量 | 9 褐色 | ロ-ム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロ-ムブロック・焼土粒子少量 | 10 暗褐色 | ロ-ム粒子中量 |
| 5 暗褐色 | ロ-ムブロック少量 | 11 にぶい褐色 | ロ-ム粒子中量 |
| 6 褐色 | ロ-ムブロック中量 | 12 褐色 | ロ-ム粒子多量 |

遺物出土状況 土師器片89点(坏21, 高坏2, 甕類66), 須恵器片11点(坏), 土製品1点(支脚), 石製品1点(勾玉)が出土している。その他, 混入した磁器片1点も出土している。265・266はいずれも北西コーナー

部付近の壁溝覆土から出土し、Q27も西壁中央部の壁溝覆土から出土している。

所見 本住居は13区の中で最も広い床面積を有し、集落の中心的な住居と考えられる。時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第154図 第2119号住居跡出土遺物実測図

第2119号住居跡出土遺物観察表（第154図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
265	土師器	坏	12.0	4.3	-	長石・石英・赤褐色粒子	明赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	壁溝覆土	70%
266	土師器	坏	13.0	4.4	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	壁溝覆土	50%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q27	勾玉	2.1	1.1	0.6	1.4	滑石	孔径0.2cm 全面研磨 一方向からの穿孔 断面円形	壁溝覆土	

第2122号住居跡（第155・156図）

位置 調査区中央部のB12g6区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2123号住居に竈上部と北壁部分を掘り込まれている。

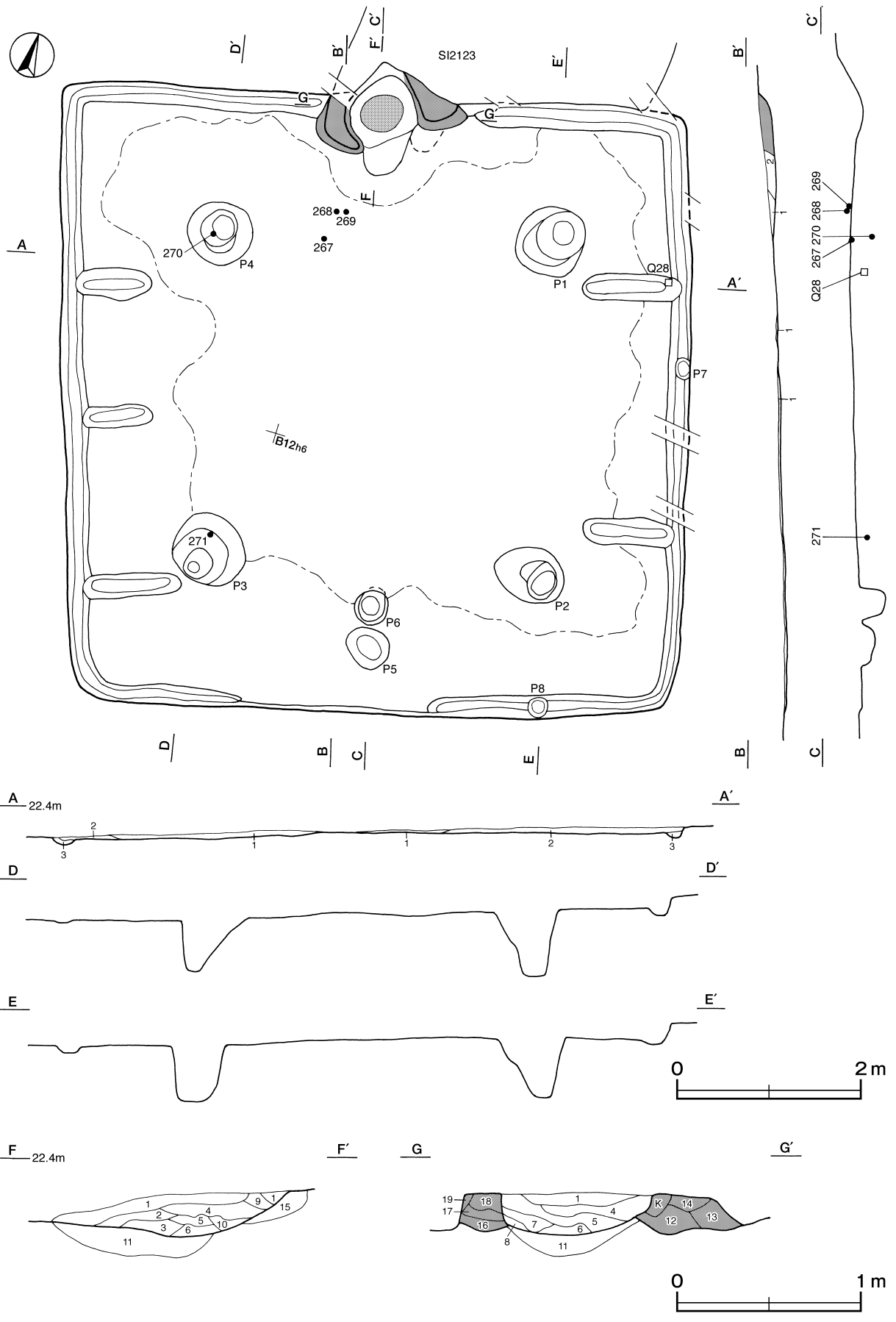
規模と形状 長軸6.81m、短軸6.73mの方形で、主軸方向はN - 15° - Wである。壁高は3～18cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり、壁際を除いて踏み固められている。南壁の一部以外の壁下には、幅20～24cm、深さ2～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。また、幅20～28cm、深さ9～20cmの間仕切り溝が西壁側で3条、東壁側で2条確認され、断面形はU字状を呈している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで124cm、袖部幅162cmである。袖部は、床面とほぼ同じ高さを基部とし、砂質粘土で構築されている。火床部は床面を10cmほど掘りくぼめており、火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に34cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	灰褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	12	灰褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	13	灰褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量
3	にぶい赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量、砂質粘土粒子微量	14	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量
4	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	15	灰褐色	砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子微量
5	暗赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量	16	灰褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量
6	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	17	灰褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量、焼土粒子炭化粒子微量
7	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	18	暗褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
8	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	19	にぶい赤褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
9	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子少量			
10	褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック微量			
11	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量			



第155图 第2122号住居跡実測図

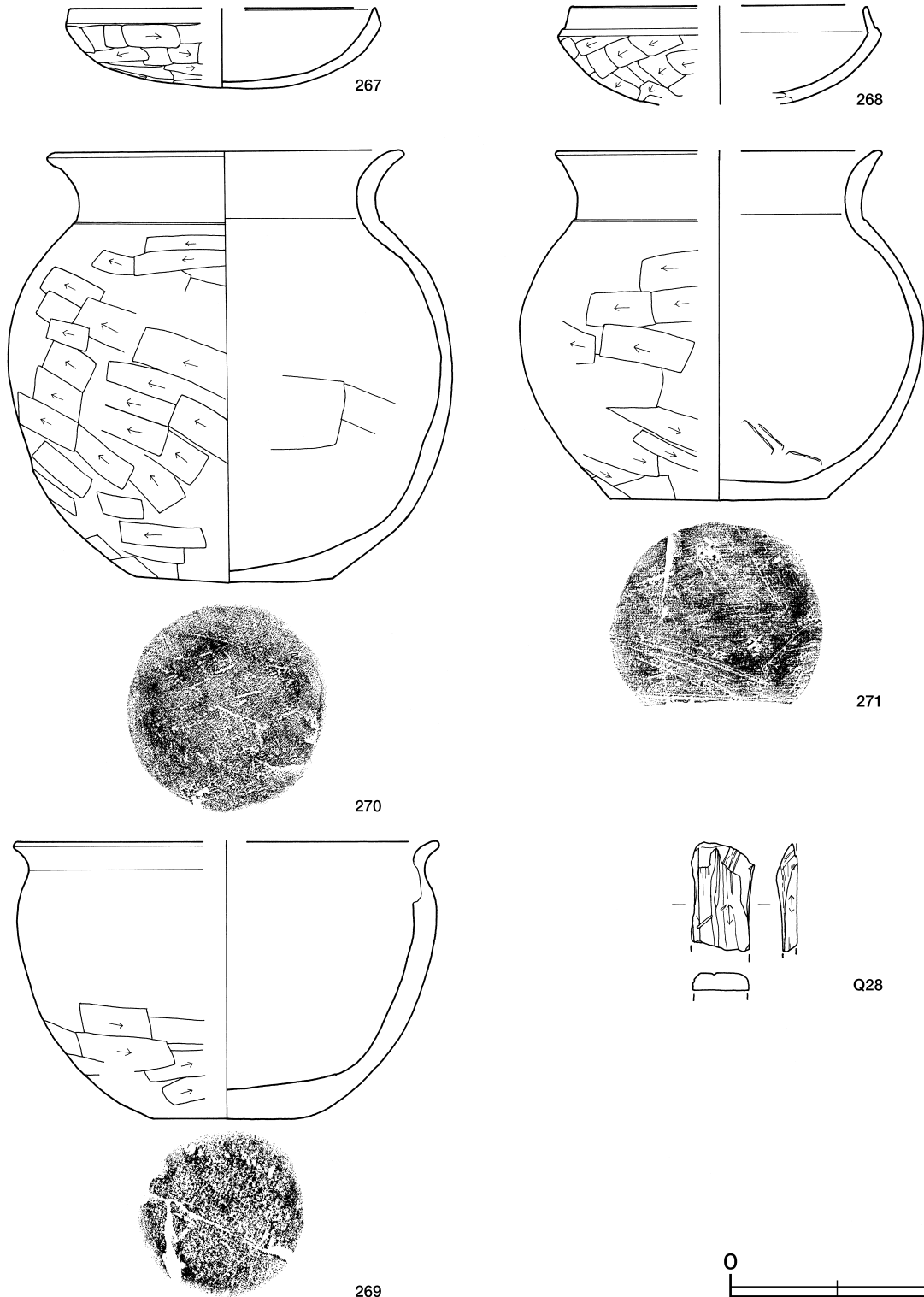
ピット 8か所。P1～P4は主柱穴で、深さは57～72cmである。P5は深さ22cm、P6は深さ30cmで、竈に
対峙する位置にあることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P7・P8の性格は
不明である。

覆土 3層に分けられる。覆土が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量

- 3 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量



第156図 第2122号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片309点(坏52, 鉢18, 甕類239), 須恵器片7点(坏2点, 甕類5点), 石器1点(砥石)が出土している。その他, 混入した陶器片2点も出土している。267・268・269は竈前面床面から出土しており, 出土状況から住居廃絶に伴って遺棄されたものと考えられる。270はP4の覆土, 271はP3の覆土から出土した破片が接合したもので, 投棄されたものと考えられる。Q28は間仕切り溝の覆土から出土している。

所見 時期は, 出土土器から6世紀後葉と考えられる。

第2122号住居跡出土遺物観察表(第156図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
267	土師器	坏	[14.0]	3.7	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	床面	55%
268	土師器	坏	[13.8](4.6)	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	床面	35%
269	土師器	鉢	[19.4]	12.8	7.0	長石・石英・赤色粒子・白磁子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へらナデ	床面	45%
270	土師器	甕	16.2	20.1	9.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へらナデ 底部へら削り	P4覆土	80%
271	土師器	甕	[14.6]	16.2	10.2	石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へらナデ 底部へら削り	P3覆土	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q28	砥石	(5.3)	2.9	1.0	(20.1)	凝灰岩	砥面2面 他は剥離面	間仕切り溝 覆土	PL195

第2124号住居跡(第157・158図)

位置 調査区東部のC13a1区, 標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 竈が第2275号土坑に掘り込まれ, さらに西壁を第2125号住居に掘り込まれている。そのほか, 第2311・2312・2342・2343・2381号土坑にも掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.02m, 短軸4.98mの方形で, 主軸方向はN-8°-Wである。壁高は7~18cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で壁際を除いて踏み固められている。北壁の西側以外の壁下には, 幅13~16cm, 深さ5~8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 右袖部の一部が確認されている。袖部は覆土の状況から床面とほぼ同じ高さを基部とし, 砂質粘土で構築されていたと推定される。

竈土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・砂質粘土粒子微量	4 灰褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
2 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 砂質粘土粒子微量	5 褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量, 砂質粘土粒子微量	6 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 5か所。P1~P4は支柱穴で, 深さは39~49cmである。P5は深さ29cmで, 竈に対峙する位置にあることや硬化面の広がりから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。

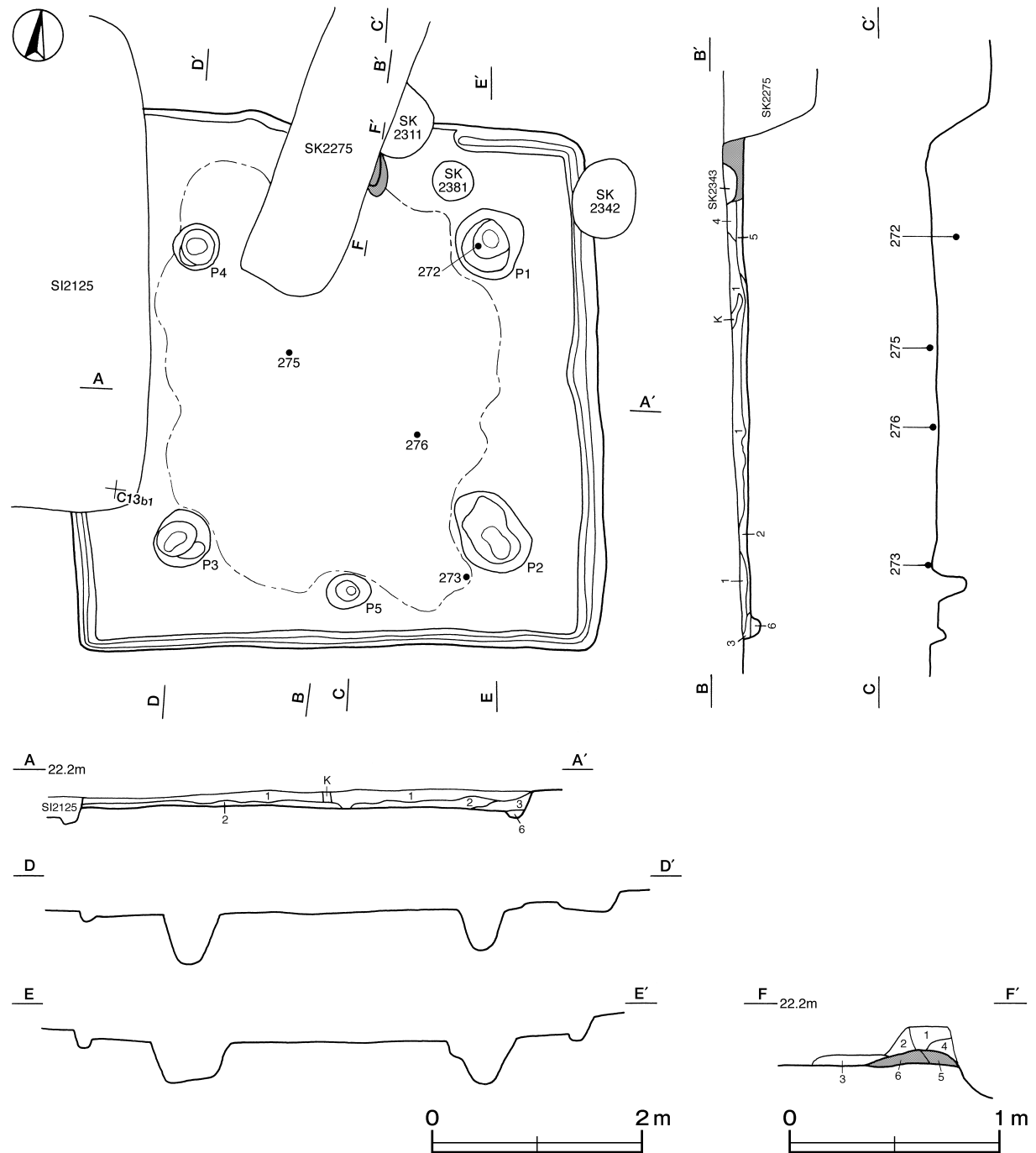
覆土 6層に分けられる。各層にロームブロックを多く含む人為堆積である。

土層解説

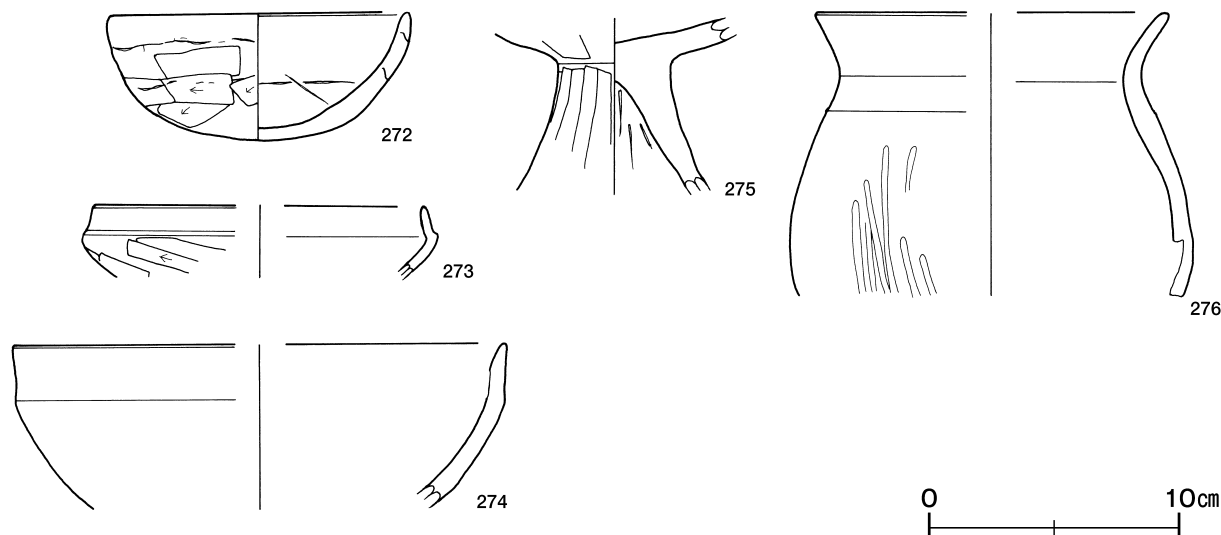
1 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量	4 褐色	ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
2 灰褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量	5 褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
3 褐色	ロームブロック中量	6 暗褐色	ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片154点(坏22, 椀1, 高坏1, 甕類130), 鉄滓1点が出土している。272はP1の覆土から出土し, 廃棄されたものと考えられる。273は南東部床面, 275・276は中央部床面からそれぞれ出土し, 住居廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第157図 第2124号住居跡実測図



第158図 第2124号住居跡出土遺物実測図

第2124号住居跡出土遺物観察表（第158図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
272	土師器	坏	11.8	5.1	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰白	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 輪稜痕 内面ナデ	P 1 覆土	98% PL155
273	土師器	坏	[12.8]	(2.8)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	10%
274	土師器	碗	[19.4]	(6.5)	-	石英・雲母・燐	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ	覆土上層	10%
275	土師器	高坏	-	(7.0)	-	長石・雲母	明赤彩	普通	脚部外面へラ削り 内面へラナデ	床面	30%
276	土師器	甕	[13.8]	(11.2)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ磨き 内面へラナデ	床面	20%

第2127号住居跡（第159・160図）

位置 調査区中央部のC12a9区，標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2125・2126号住居，第333号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.83m，短軸4.70mの方形で，主軸方向はN - 2° - Eである。壁高は12~25cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅8~12cm，深さ3~5cmで，U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで112cm，袖部幅130cmである。袖部はローム土と砂質粘土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火を受けて赤変している。煙道部は緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

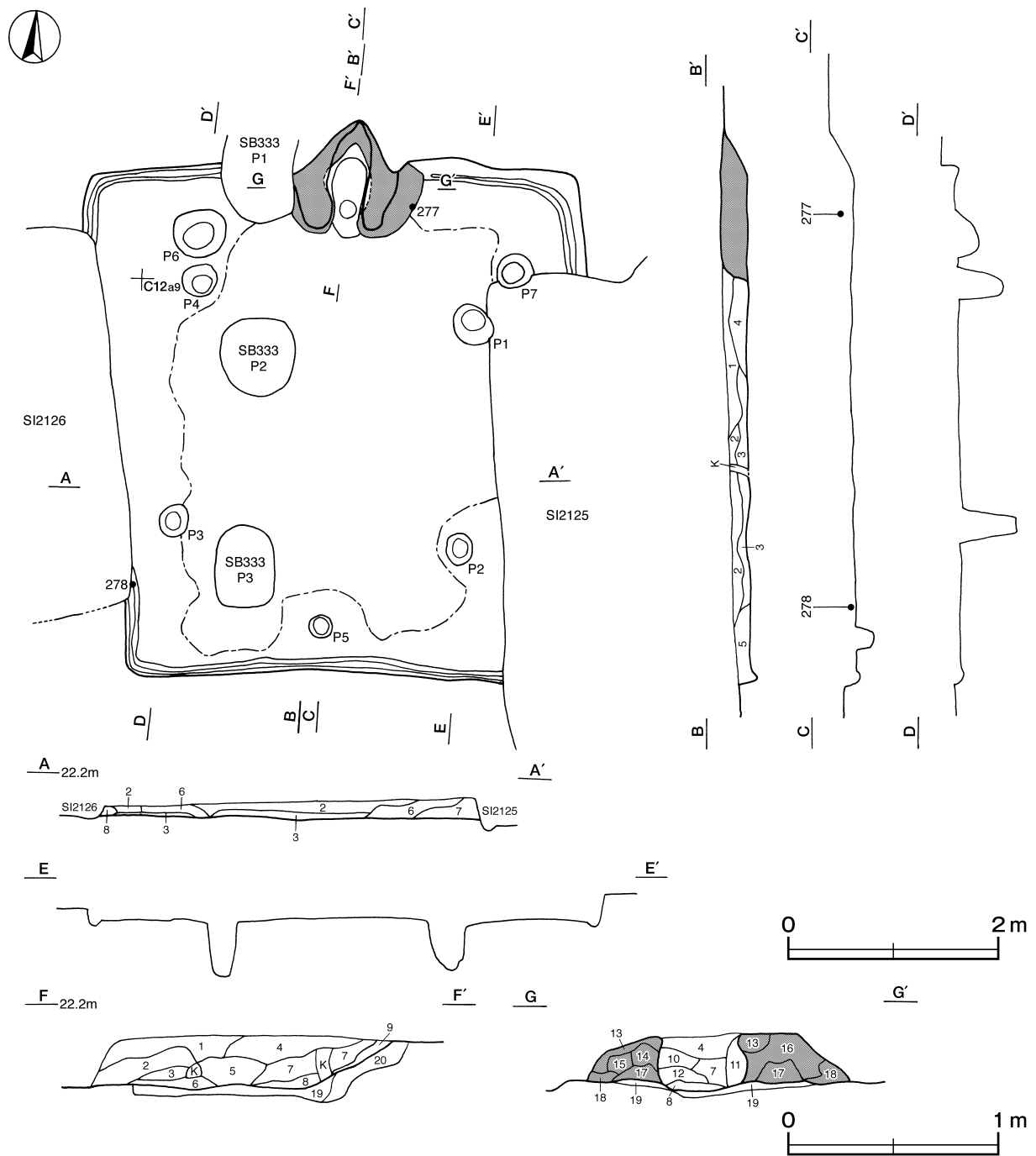
1 褐色	砂質粘土ブロック少量，焼土ブロック微量	11 褐色	焼土ブロック・炭化物・砂質粘土ブロック微量
2 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	12 暗褐色	砂質粘土ブロック少量，焼土粒子微量
3 にぶい黄褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック微量	13 灰黄褐色	砂質粘土ブロック・焼土粒子少量 炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子微量	14 灰黄褐色	砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量
5 暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，炭化物・ローム粒子微量	15 にぶい黄褐色	砂質粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
6 暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量	16 褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量
7 黒褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，炭化物微量	17 褐色	砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
8 黒褐色	炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	18 にぶい褐色	砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
9 褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	19 褐色	ローム粒子中量
10 暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子微量	20 褐色	ロームブロック微量

ピット 7か所。P1～P4は主柱穴で、深さは42～54cmである。P5は深さ17cmで、南壁際の中央部に位置していることや、硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7の性格は不明である。

覆土 8層に分けられる。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

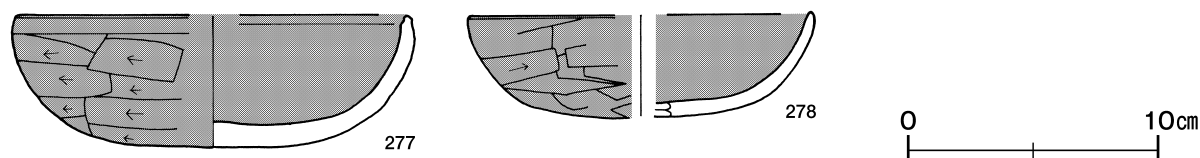
- | | | | |
|-------|---------------------------|-------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | 砂質粘土ブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 5 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 6 暗褐色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 7 灰褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 4 黒褐色 | 砂質粘土ブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |



第159図 第2127号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片270点（坏16，甕類254），須恵器片48点（坏26，蓋2，甕類20）のほか，混入した鉄製品2点も出土している。遺物は主に北東コーナー部の覆土上層に集中している。277は竈の右袖脇の覆土下層，278は西壁際の覆土下層から出土し，時期判断の指標となる遺物である。

所見 時期は，出土土器から7世紀中葉と考えられる。



第160図 第2127号住居跡出土遺物実測図

第2127号住居跡出土遺物観察表（第160図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
277	土師器	坏	[15.6]	5.2	-	長石・石英・雲母・微礫	にぶい褐	普通	体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土下層	60%
278	土師器	坏	[13.4]	4.0	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土下層	20%

第2130号住居跡（第161・162図）

位置 調査区北東部のB13e6区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

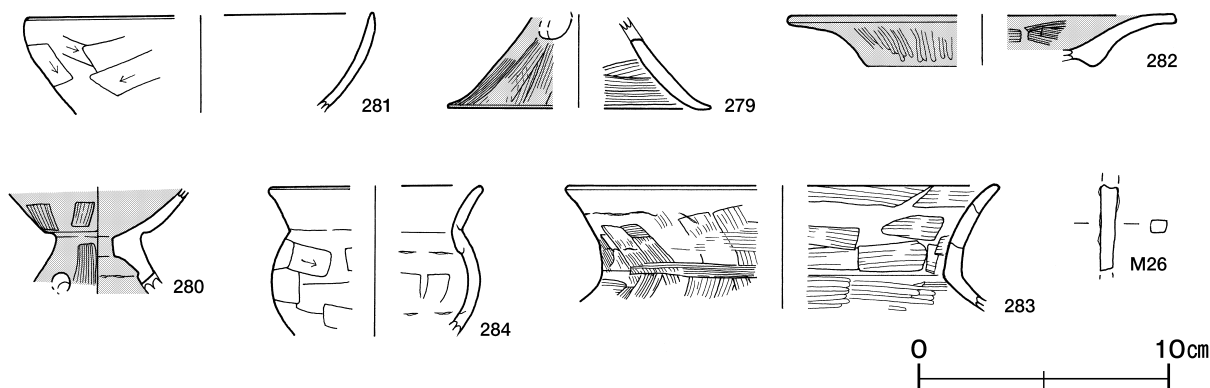
規模と形状 長軸7.25m，短軸6.67mの方形で，主軸方向はN - 4° - Wである。壁高は8～15cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり，中央部が踏み固められている。

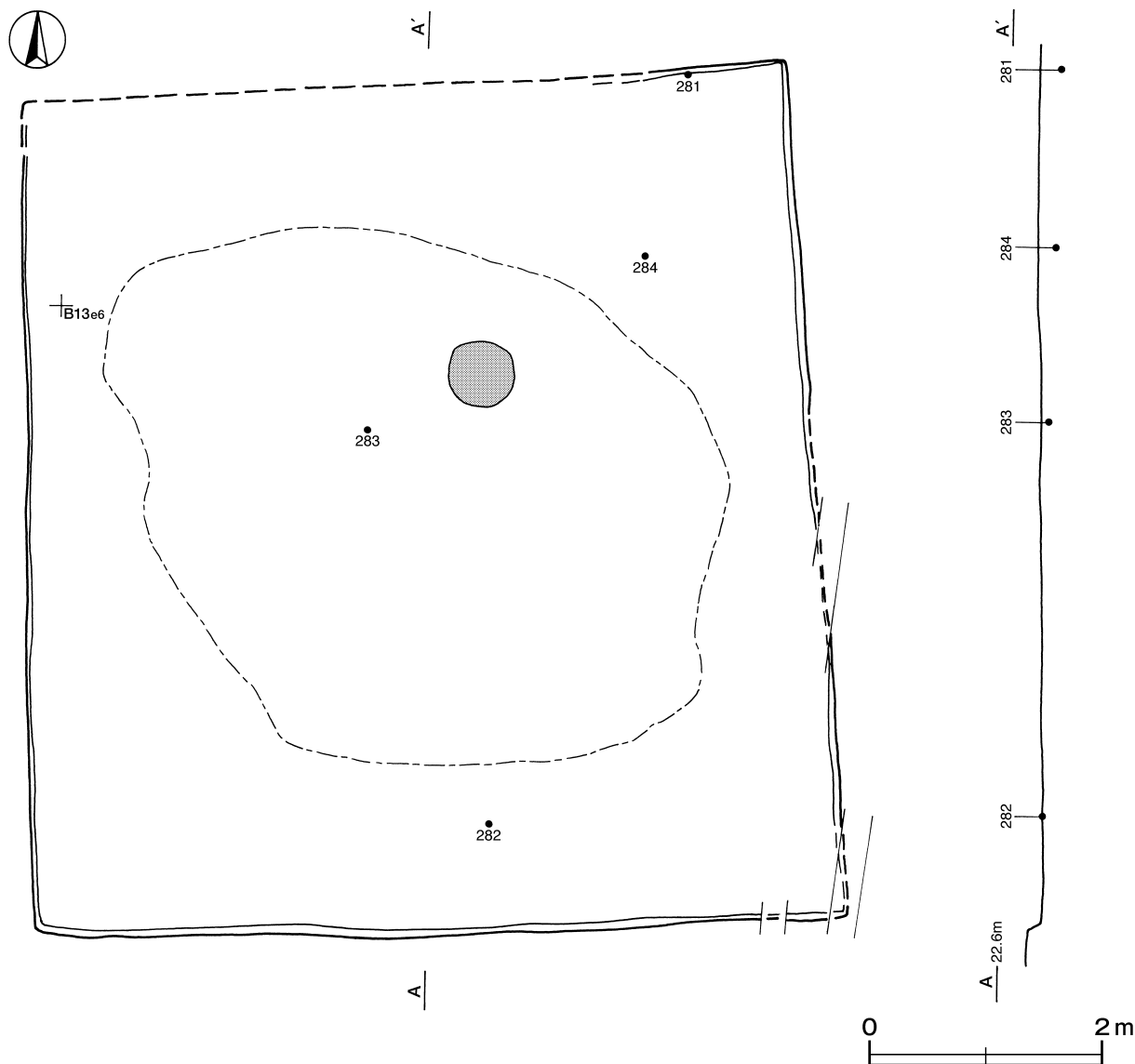
炉 中央部やや北寄りに位置し，長径58cm，短径56cmの円形である。炉床面は赤変している。

遺物出土状況 土師器片314点（坏30，埴8，器台4，高坏3，甕類269），粘土塊1点，石器1点（砥石），鉄製品1点（釘），鉄滓1点が出土している。その他，混入した須恵器片12点，陶器片8点，磁器片8点，鉄製品1点なども出土している。284は北東部床面，283は中央部床面，279は北西部覆土，280は覆土からそれぞれ出土しており，住居廃絶後廃棄されたものと考えられる。M26は覆土から出土している。

所見 堆積状況や柱穴について不明であるが，時期は，出土土器や炉の存在から4世紀後半と考えられる。



第161図 第2130号住居跡出土遺物実測図



第162図 第2130号住居跡実測図

第2130号住居跡出土遺物観察表（第161図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
279	土師器	器台	-	(3.7)	[10.4]	長石・石英・雲母	明赤褐 にぶい橙	普通	脚部外面ハケ目調整 内面ハケ目調整	覆土	5%
280	土師器	器台	-	(4.2)	-	長石・石英	浅黄橙	普通	器受部外面ハケ目調整 内面ナデ 中央部穿孔 脚部外面ハケ目調整 内面ナデ 3窓	覆土	30%
281	土師器	高坏カ	[13.6]	(3.9)	-	雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面 ナデ	床面	5%
282	土師器	高坏	[15.3]	(2.0)	-	長石・石英	赤	普通	坏部外面ヘラ磨き 内面ハケ目調整	床面	5%
283	土師器	甕	[16.9]	(4.9)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ ハケ目調整 内面ハケ目調 整 体部外面ハケ目調整 内面ヘラ磨き 輪積痕	床面	5%
284	土師器	小型甕	[8.4]	(6.0)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面 ヘラナデ 輪積痕	床面	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M26	釘	3.4	0.7	0.5	3.0	鉄	頭部欠損 先端部欠損 断面方形	覆土	

第2131号住居跡（第163図）

位置 調査区北東部のB13c3区，標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが，東西軸4.15m，南北軸3.69mが確認された。主軸方向はN - 10°

- Eである。壁高は16~38cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。耕作による攪乱を受けており、袖部幅100cmが確認された。火床部は床面とほぼ同じ高さで、残存した範囲の煙道部は外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

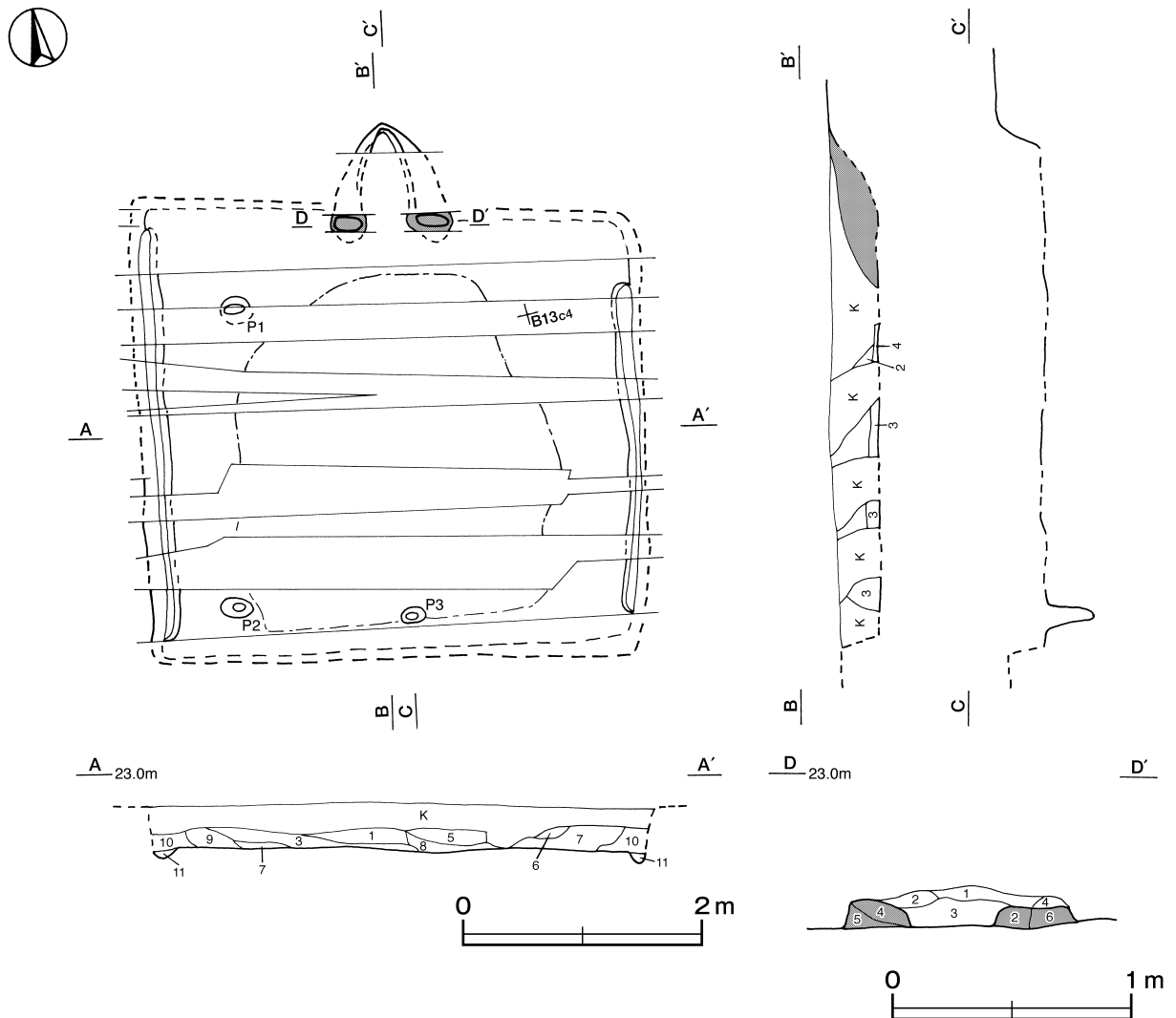
- | | | | |
|-------|-------------------------------|-------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・砂質粘土粒子微量 | 4 灰褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 2 褐灰色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 灰褐色 | 炭化粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 6 黒褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量, 砂量粘土粒子微量 |

ピット P1・P2は支柱穴で、深さは38~44cmである。P3は深さ41cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから見て出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 11層に分けられる。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|------------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 灰褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 8 暗褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 11 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | | |



第163図 第2131号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片161点(坏6, 甕類155), 須恵器片16点(坏6, 甕10)のほか, 混入した刀子1点も出土している。いずれも細片である。

所見 時期は, 出土土器から古墳時代後期と考えられる。

第2133号住居跡(第164図)

位置 調査区北東部のB13b5区, 標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 住居全体が東西方向の耕作による攪乱を受けており, 特に西部以外の攪乱が激しい。また, 第2142号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.84m, 短軸2.79mの方形と推定され, 主軸方向はN-4°-Eである。壁高は23cmで, 壁はほぼ直立している。

床 ほぼ平坦であり, 壁際を除いて踏み固められている。西壁の壁下の一部に壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。竈の大部分が攪乱を受けているため, 全体の形状は不明であり, 袖部幅82cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さを基部とし, 砂質粘土で構築されていたと推定される。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------|-----------|----------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 7 にぶい褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 8 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量 |
| 3 灰褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | 9 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 炭化粒子微量 | 10 にぶい赤褐色 | 焼土粒子少量, 炭化物・砂質粘土粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, 砂質粘土粒子微量 | 11 灰褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 6 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |

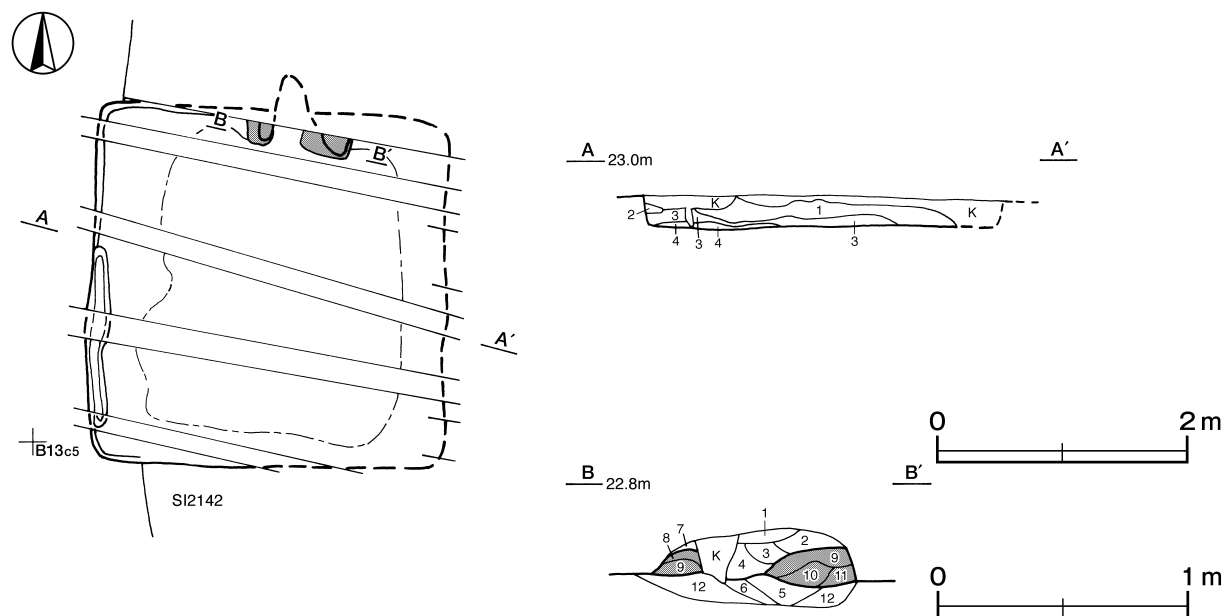
覆土 4層に分けられる。各層にロームブロックを多く含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|----------|-----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 にぶい黄褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック多量 | 4 褐色 | ローム粒子多量 |

遺物出土状況 土師器片152点(坏6, 高坏1, 甕類145), 須恵器片31点(坏6, 甕類25)のほか, 陶器片1点, 磁器片2点も出土している。出土遺物はすべて細片であり, 廃棄されたものと考えられる。

所見 時期の特定は難しいが, 重複関係と住居形態から7世紀前葉以降と考えられる。



第164図 第2133号住居跡実測図

第2140号住居跡（第165・166図）

位置 調査区北東部のB14b1区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 南側のほとんどが調査区域外にある。第2139号住居に掘り込まれている。

規模と形状 東西2.81m，南北0.87mだけが確認された。形状は，方形または長方形と考えられ，主軸方向はN-7°-Eである。壁高は50~56cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり，北部の壁下の一部には壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで90cmほどで，袖部幅は116cmである。袖部は覆土から砂質粘土で構築されていたと推定される。火床部は床面を浅く皿状に掘りくぼめており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に44cm掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。

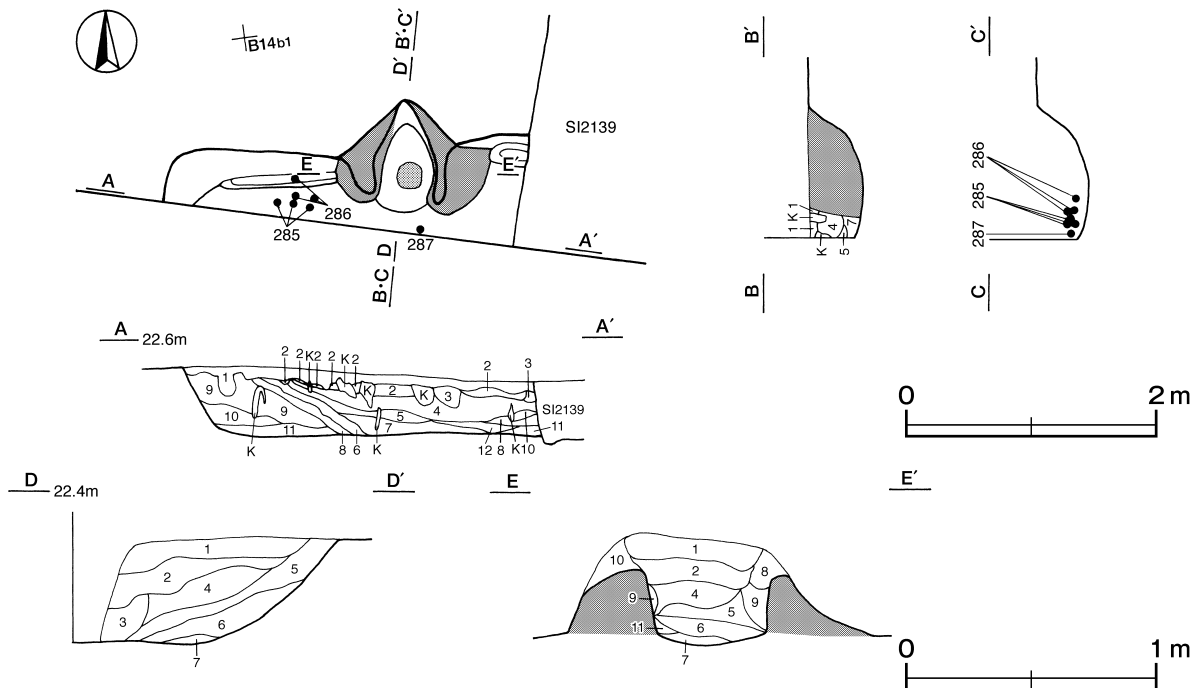
竈土層解説

- | | |
|---------------------------------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色 炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 7 にぶい赤褐色 焼土粒子中量，砂質粘土粒子少量，炭化物微量 |
| 2 灰褐色 砂質粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量 | 8 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック中量，砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量 | 9 暗赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 10 黒褐色 砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 焼土ブロック少量 | 11 暗赤褐色 焼土粒子少量，砂質粘土粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 焼土粒子中量，砂質粘土粒子少量 | |

覆土 12層に分けられる。各層にロームブロックを多く含む人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | 7 褐色 ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック微量 | 8 褐色 ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子微量 | 9 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 4 灰褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量 | 10 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 5 暗褐色 ローム粒子少量 | 11 褐色 ロームブロック中量 |
| 6 暗褐色 ローム粒子微量 | 12 黒褐色 ロームブロック少量 |

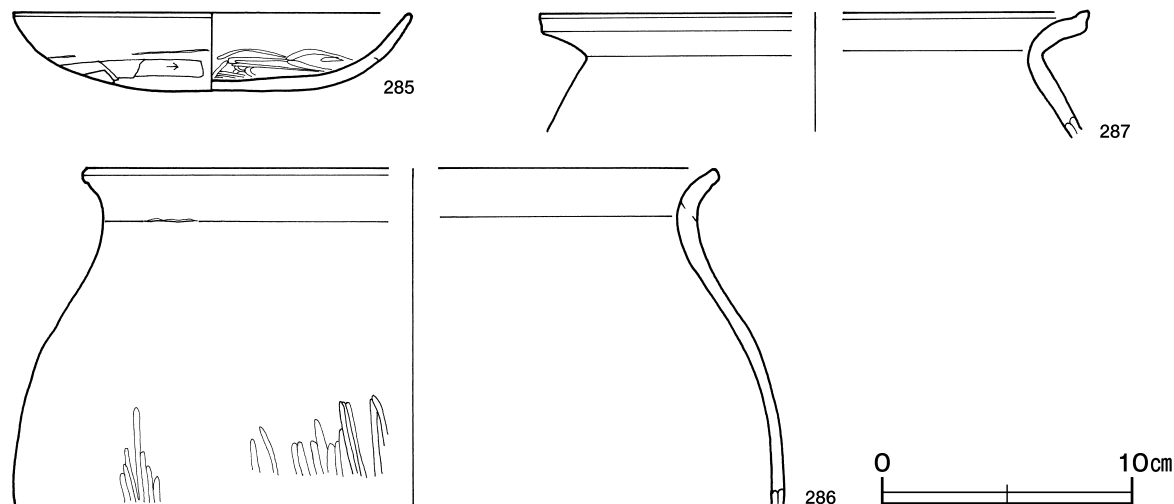


第165図 第2140号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片90点（坏8，甕類82），須恵器片6点（坏4，甕類2）が出土している。285は北壁際床面，287は竈付近床面からそれぞれ出土しており，遺棄されたものと考えられる。286は北部壁溝の覆土から

壁際床面にかけて出土した破片が接合したものである。

所見 住居の北側の一部が確認されただけで時期の特定は難しいが、出土土器と重複関係から7世紀代と考えられる。



第166図 第2140号住居跡出土遺物実測図

第2140号住居跡出土遺物観察表（第166図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
285	土師器	坏	15.8	3.1	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面へラ磨き	床面	60%
286	土師器	甕	[24.8]	(13.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ磨き 内面ナデ	壁溝覆土・床面	10%
287	土師器	甕	[21.8]	(4.9)	-	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ	床面	5%

第2142号住居跡（第167図）

位置 調査区北東部のB13b5区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 全体が東西方向の耕作による攪乱を受け、第2133号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.43m、短軸5.91mの方形で、主軸方向はN - 5° - Wである。壁高は10~13cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり、壁際を除いて踏み固められている。

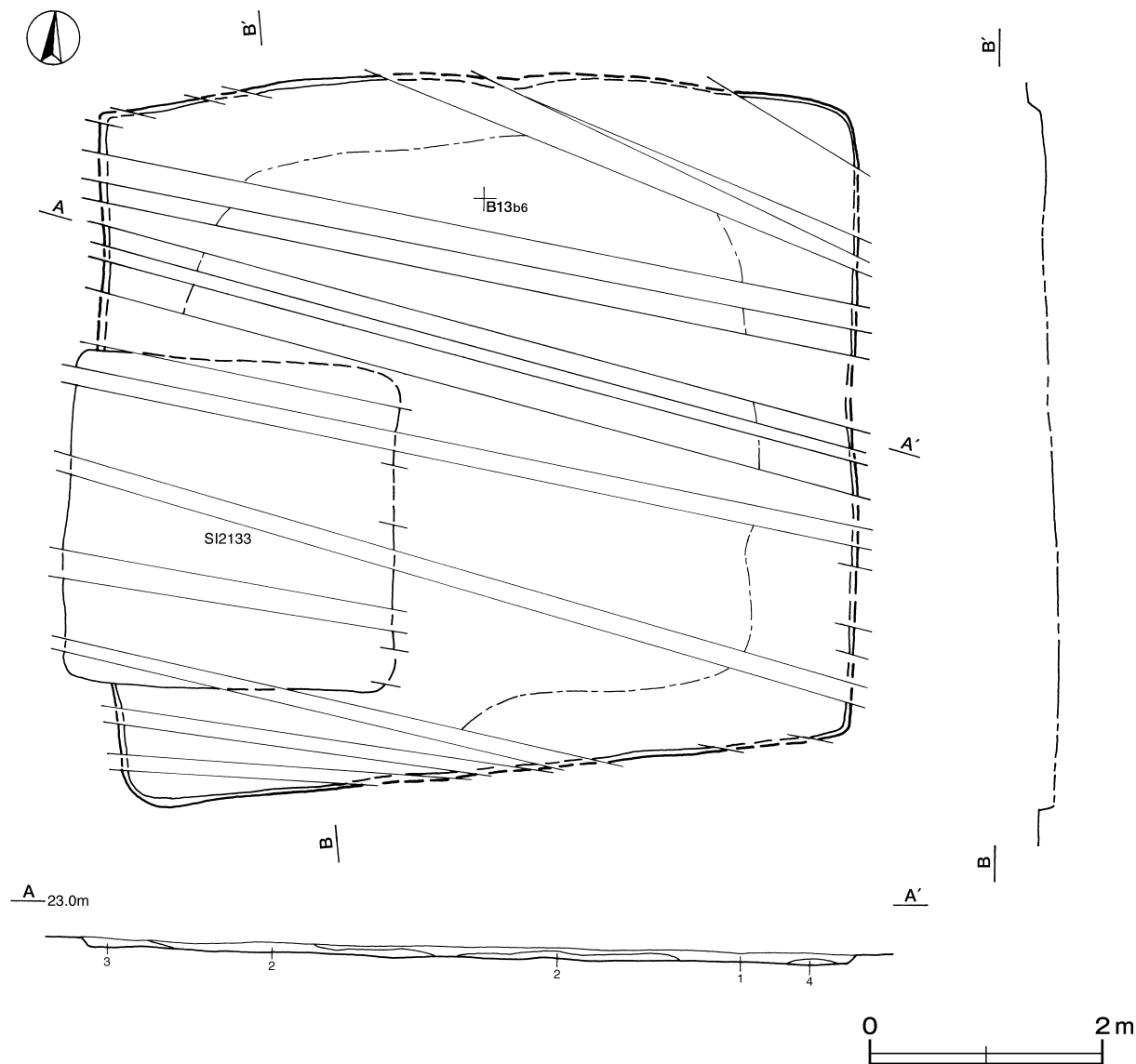
覆土 各層ともロームブロックを含んでいる。4層に分けられるが、覆土が薄く攪乱を受けているため堆積状況は不明である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片21点（甕類）が出土している。出土遺物はすべて細片であり、廃棄されたものと考えられる。

所見 時期の特定は難しいが、出土土器や住居形態から5世紀以前と考えられる。



第167図 第2142号住居跡実測図

第2143号住居跡（第168・169図）

位置 調査区北東部のB13j4区，標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2118・2120号住居，第419・421号掘立柱建物，第2280・2281・2362・2365・2367号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.47m，短軸5.42mの方形で，主軸方向はN - 3° - Wである。壁高は7cmほどで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり，壁際を除いて踏み固められている。壁下には，幅10～14cm，深さ5～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁やや東寄りに付設されているが，上部が削平されている。規模は，焚口部から煙道部まで92cm，袖部幅102cmである。袖部は覆土の状況から砂質粘土で構築されていたと推定される。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に25cmほど掘り込まれている。

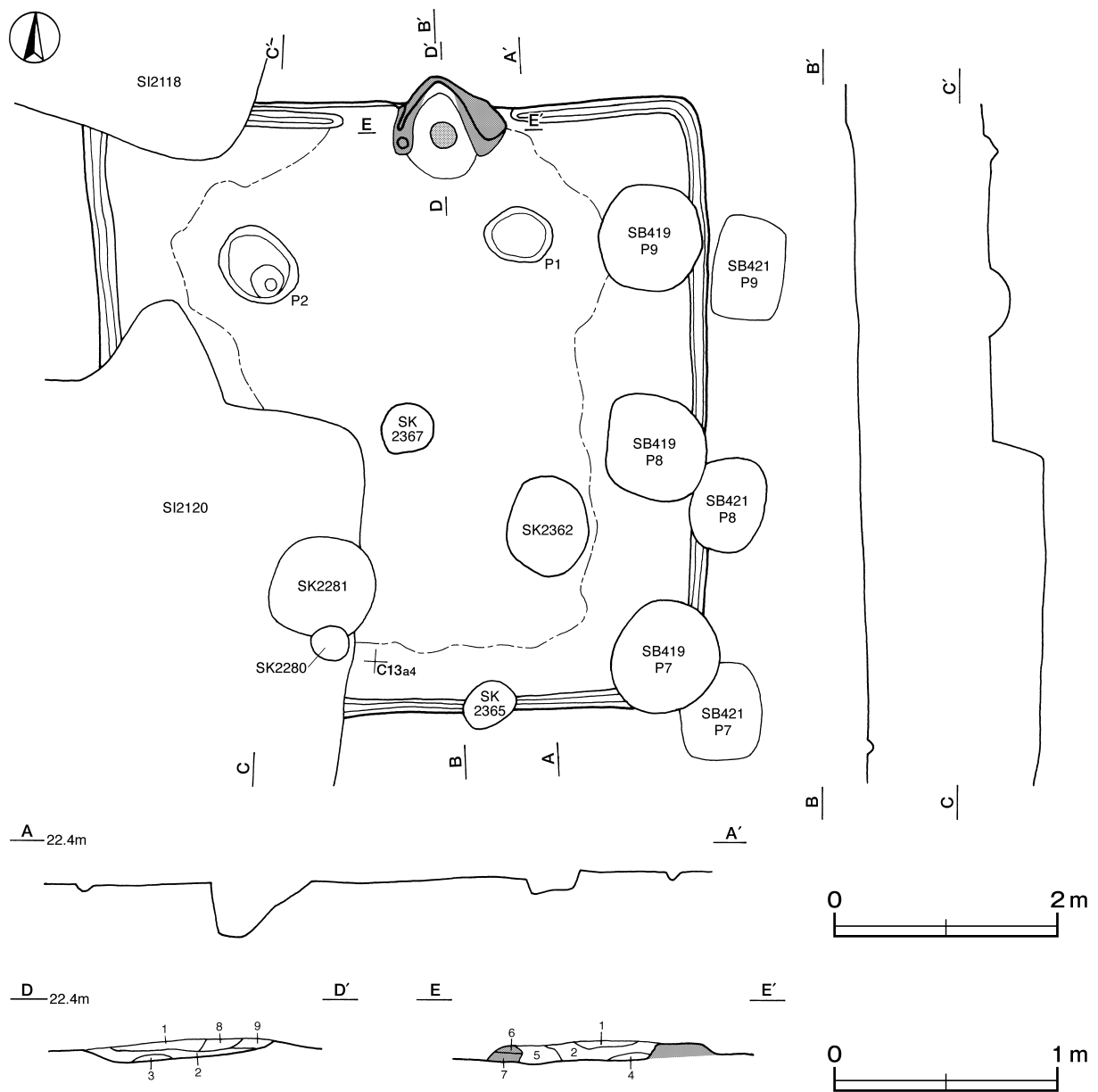
土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------------|----------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粒子微量 | 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 砂質粘土粒子少量, ロームブロック・炭化物微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 7 灰褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 灰褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化物微量 | 8 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量, 砂質粘土粒子微量 |
| | | 9 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |

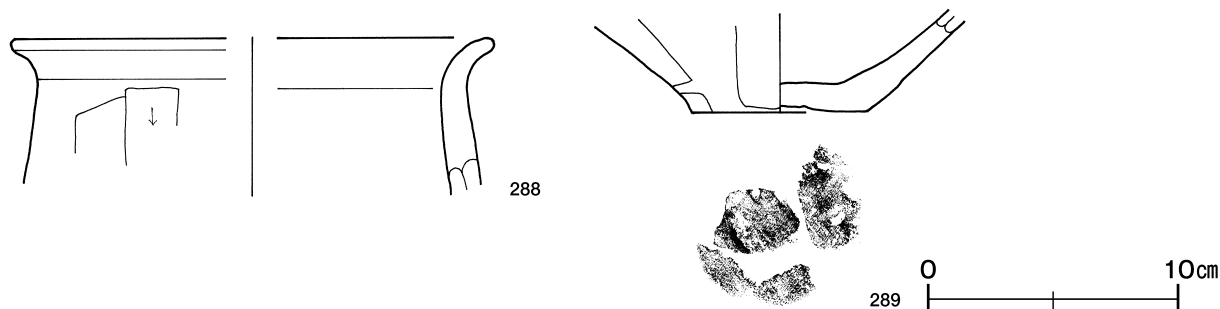
ピット 2か所。主柱穴で、深さは18~46cmである。

遺物出土状況 土師器片46点(甕類)が出土している。また、混入した陶器片1点も出土している。いずれも細片で、図示できたものは竈内から出土した288・289だけであり、遺棄されたものと考えられる。

所見 堆積状況が不明であり、時期の特定が難しいが、出土土器と住居形態から時期は6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第168図 第2143号住居跡実測図



第169図 第2143号住居跡出土遺物実測図

第2143号住居跡出土遺物観察表（第169図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
288	土師器	甕	[19.0]	(6.2)	-	石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	竈覆土	60%
289	土師器	甕	-	(3.9)	7.0	石英・雲母・礫	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ナデ	竈覆土	5%

第2145号住居跡（第170・171図）

位置 調査区北東部のB13a9区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 北部を東西方向に第120号溝に掘り込まれている。南東コーナー部は調査区域外である。また，南部は東西方向の耕作による攪乱を受けている。

規模と形状 長軸5.98m，短軸5.56mほどの方形で，主軸方向はN - 5° - Eである。壁高は20～30cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり，壁際を除いて踏み固められている。壁下には，幅16～18cm，深さ6～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。南部を中心に，床面には焼土ブロックが広がっている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで155cm，袖部幅105cmである。袖部は覆土の状況から砂質粘土で構築されていたと推定される。火床部は床面を15cmほど掘りくぼめており，火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

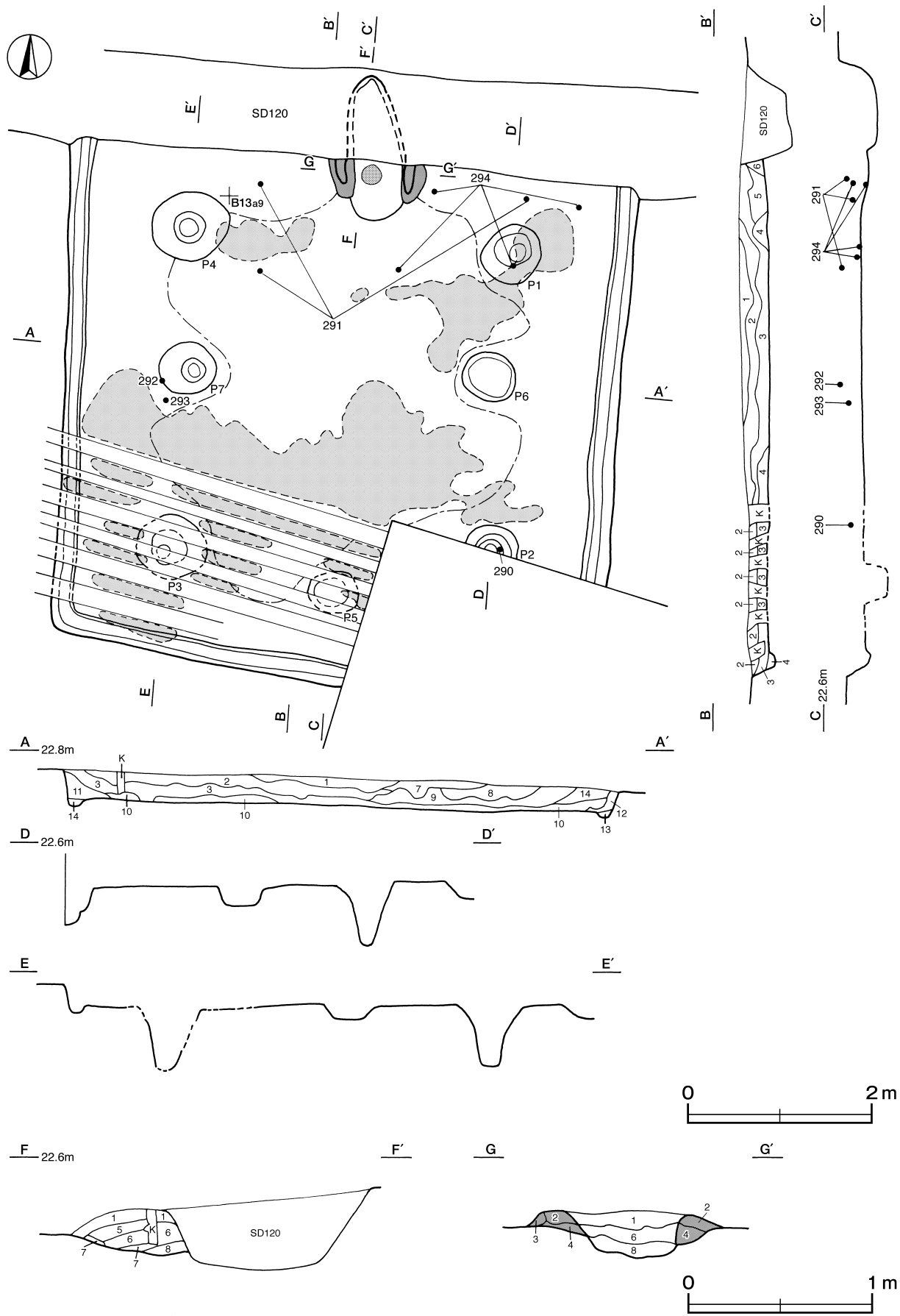
- | | | | |
|--------|------------------------------|--------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量，砂質粘土粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量 |

ピット 7か所。P1～P4は支柱穴で，深さは42～70cmである。P5は深さ30cmで，竈に対峙する位置にあることや硬化面の広がりから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ24cm，P7は深さ30cmであり，棟持柱と想定されるが明確ではない。

覆土 14層に分けられる。各層にロームブロックを多く含む人為堆積である。

土層解説

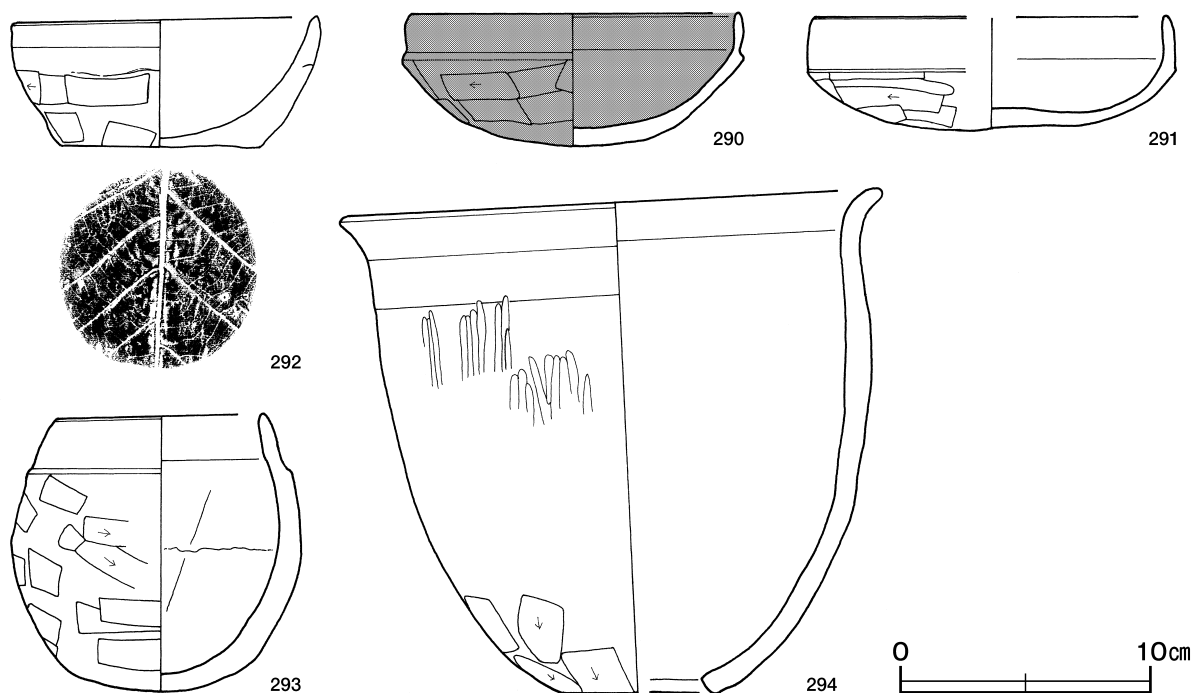
- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 | 8 灰褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック多量，ロームブロック少量 | 9 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土ブロック微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック少量，ローム粒子微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 12 褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |



第170图 第2145号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片288点（坏25，高坏1，鉢2，甕類239，甌21），須恵器片5点（坏2，鉢1，壺1，甕類1）が出土している。また，混入した磁器片1点も出土している。292は西部の覆土上層，290は南東部の覆土下層，291は竈付近の覆土上層からそれぞれ出土している。294は北東部の覆土下層から床面にかけて出土した遺物が接合したもので，住居の廃絶後間もなく投棄されたものと考えられる。

所見 床面に焼土ブロックが広がっており，住居廃絶に伴う焼失住居と考えられ，遺物はほとんどが細片で，食膳具類はあらかじめ持ち出した後に焼失したと考えられる。時期は，出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第171図 第2145号住居跡出土遺物実測図

第2145号住居跡出土遺物観察表（第171図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
290	土師器	坏	13.0	5.3	-	雲母・赤色粒子	黒	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	覆土下層	80%
291	土師器	坏	[13.8]	4.5	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	覆土上層	60%
292	土師器	鉢	12.0	5.2	7.8	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へらナデ 底部木葉痕有り	覆土上層	98% PL156
293	土師器	鉢	8.2	11.0	-	石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へらナデ 輪積痕	覆土下層	90% PL170
294	土師器	甌	20.9	20.0	6.0	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら磨き 下端へら削り 内面ナデ	覆土下層・床面	55%

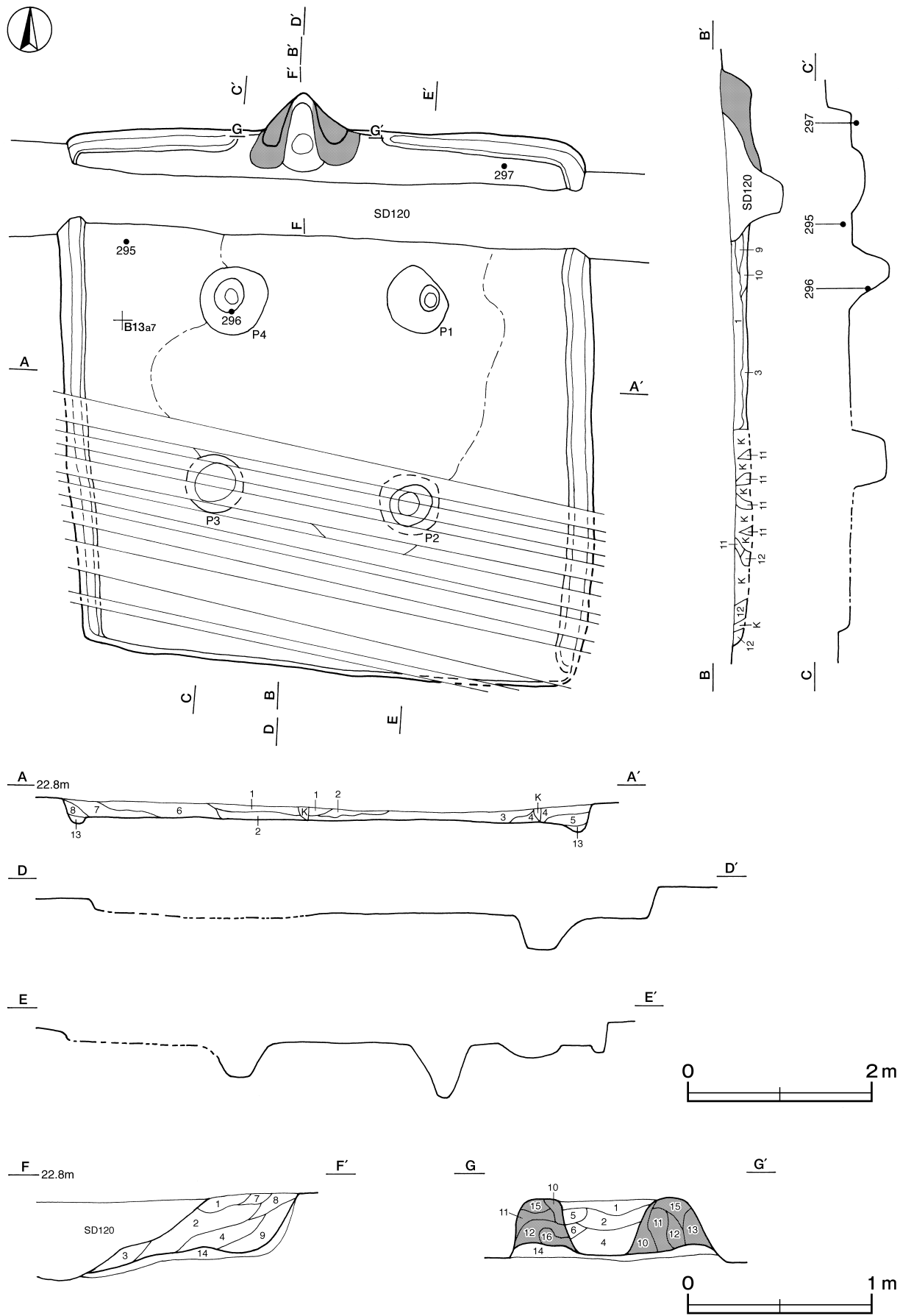
第2146号住居跡（第172・173図）

位置 調査区北東部のB13a7区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 北部を東西方向に第120号溝に掘り込まれており，南部は東西方向の耕作による攪乱を受けている。

規模と形状 長軸5.91m，短軸5.73mの方形で，主軸方向はN - 4° - Wである。壁高は8～30cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり，壁際を除いて踏み固められている。南壁を除いた壁下には，幅16～22cm，深さ8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。



第172图 第2146号住居跡実测图

竈 北壁やや西寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで86cm，袖部幅112cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さを基部とし，砂質粘土で構築されている。火床面は火を受けて赤変している。煙道部は壁外に50cmほど掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

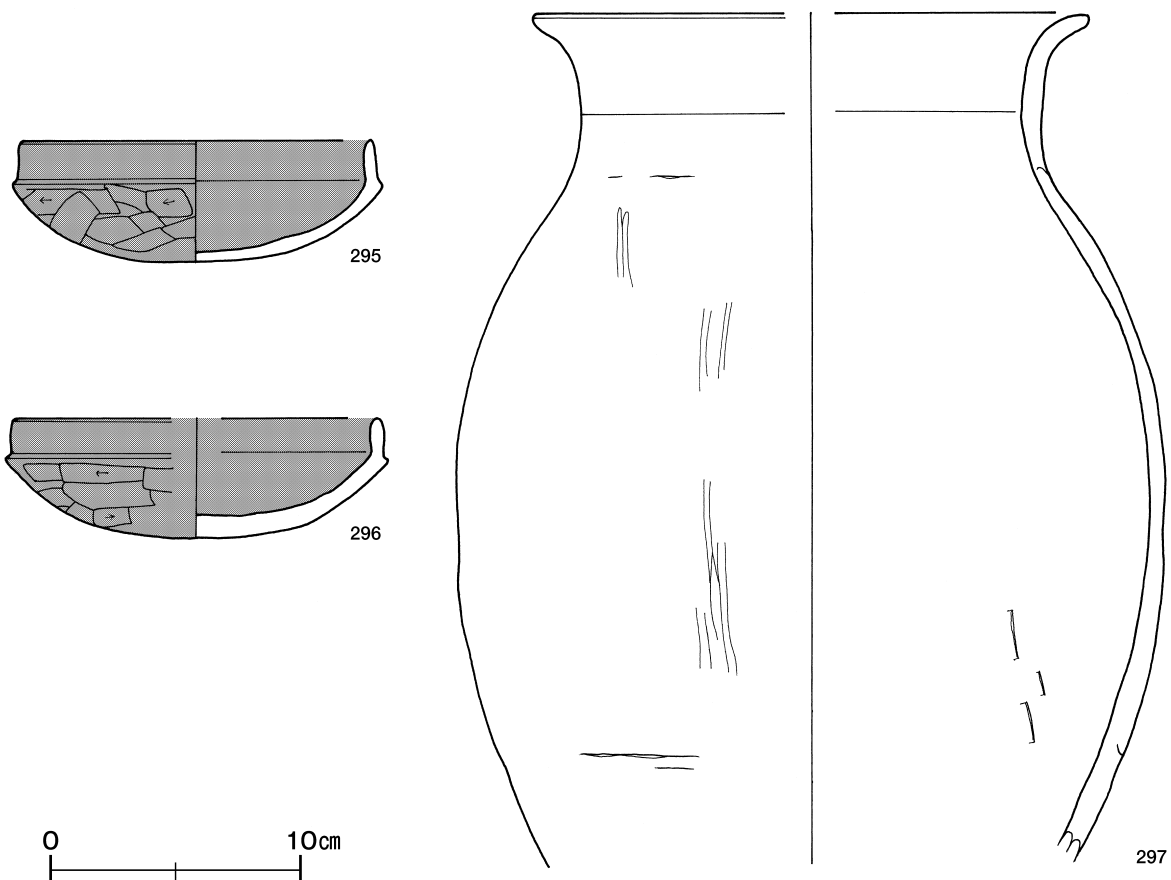
- | | |
|--------------------------------|------------------------------------|
| 1 暗褐色 砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量 | 9 黒褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 炭化粒子微量 | 10 にぶい赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子中量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 炭化粒子微量 | 11 灰褐色 砂質粘土粒子中量，ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 焼土ブロック少量，砂質粘土粒子・炭化粒子微量 | 12 灰褐色 砂質粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 5 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 にぶい褐色 砂質粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 6 黒褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量 | 14 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 7 暗褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量，ロームブロック微量 | 15 灰褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 8 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | 16 灰褐色 ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |

ピット 4か所。P1～P4は支柱穴で，深さは37～57cmである。

覆土 13層に分けられる。各層にロームブロックを多く含む人為堆積である。

土層解説

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 | 8 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 ロームブロック少量 | 9 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 10 褐色 ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 11 褐色 ロームブロック中量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック微量 | 12 明褐色 ロームブロック中量，炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 ロームブロック少量 | 13 褐色 ローム粒子中量 |
| 7 暗褐色 ローム粒子少量 | |



第173図 第2146号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片83点（坏12，器台1，高坏5，甕類65）が出土している。295は北西部床面，297は北壁際床面から出土しており，住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。296はP4の覆土から出土しており，廃棄されたものと考えられる。

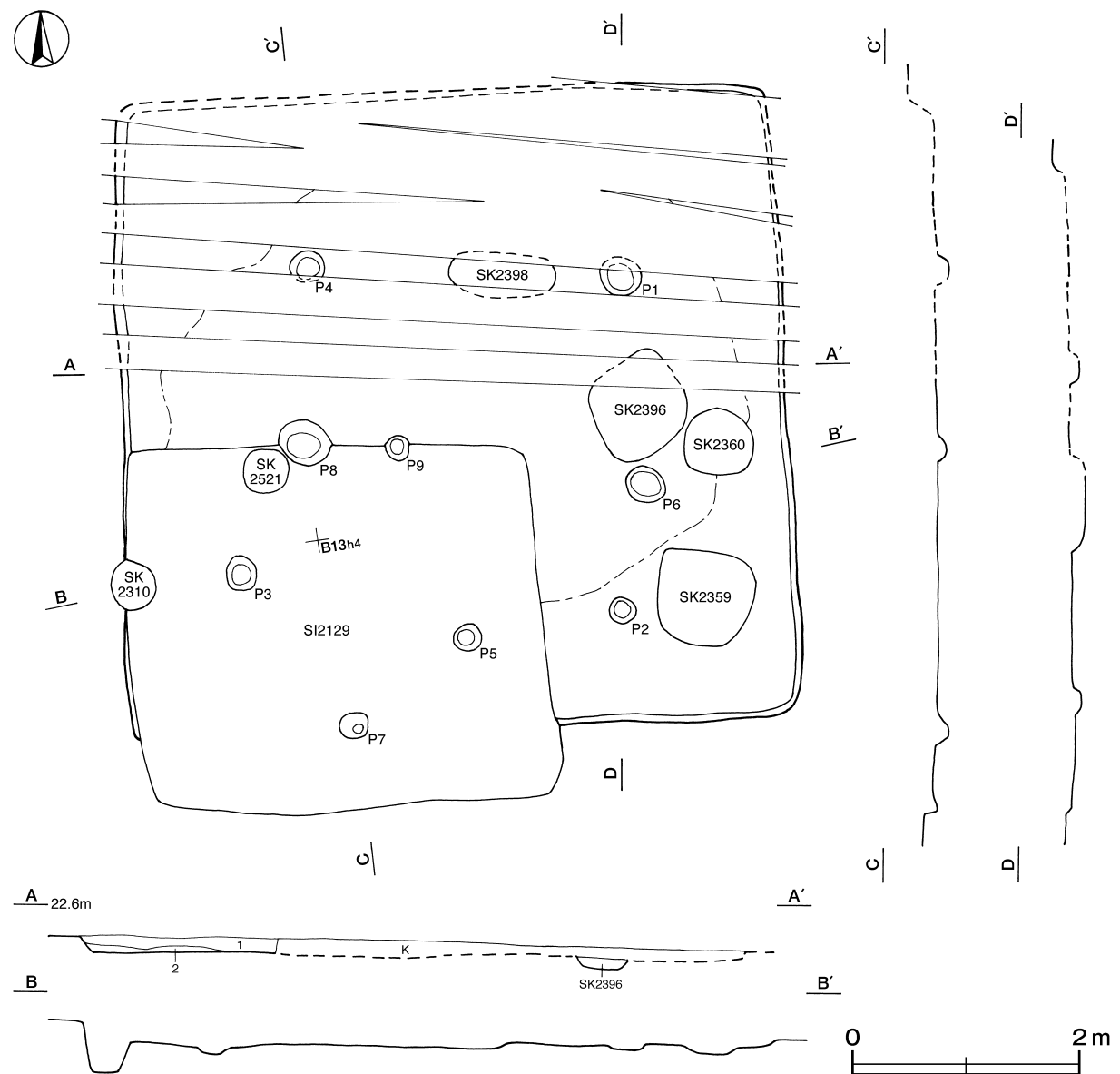
所見 時期は，出土土器から6世後葉と考えられる。

第2146号住居跡出土遺物観察表（第173図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
295	土師器	坏	13.8	4.7	-	石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	80%
296	土師器	坏	[14.4]	4.7	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	P4覆土	60%
297	土師器	甕	[13.0]	(33.7)	-	長石・石英・雲母・小礫	にぶい赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ磨き 輪稜 内面へラナデ	床面	10%

第2147号住居跡（第174図）

位置 調査区東部のB13g4区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。



第174図 第2147号住居跡実測図

重複関係 第2129号住居，第2310・2359・2360・2396・2398・2521号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.82m，短軸5.55mの方形で，主軸方向はN - 6° - Eである。壁高は5～14cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり，中央部が踏み固められている。

ピット 9か所。P1～P4は主柱穴と考えられ，深さは7～10cmである。P5は深さ8cmで，南壁際に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P6～P9の深さは6～16cmで，性格は不明である。

覆土 2層に分けられる。ロームブロックを含んでいるが，攪乱が激しいため堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック少量 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片72点（坏5，埴1，甕類66）が出土している。その他，混入した須恵器片5点，陶器片1点も出土している。出土した土器のほとんどが細片であり，廃棄されたものと考えられる。

所見 覆土が薄く，出土遺物の数も少ないため時期の特定は難しいが，重複関係と住居形態から5世紀以前と考えられる。

第2149号住居跡（第175図）

位置 調査区中央部のC11c0区，標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2047・2067・2150号住居に掘り込まれている。

規模と形状 西側を他の住居に掘り込まれているが，長軸5.20m，短軸4.60mの長方形と推定され，主軸方向はN - 4° - Wである。確認された範囲では，壁高は5～15cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで128cm，袖部幅130cmである。袖部はローム土混じりの砂質粘土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に64cm掘り込まれ，緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------|-------------------------------------|
| 1 黒褐色 砂質粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量 | 6 赤褐色 砂質粘土粒子中量 焼土粒子少量，ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 | 7 明褐色灰色 砂質粘土粒子多量，焼土ブロック少量，ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック微量 | 8 暗褐色 砂質粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 4 赤褐色 焼土粒子中量，ローム粒子少量，砂質粘土粒子微量 | 9 灰褐色 砂質粘土粒子中量 焼土粒子少量，ロームブロック微量 |
| 5 にぶい赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | |

ピット 4か所。P1～P4は主柱穴で，深さ62～72cmである。

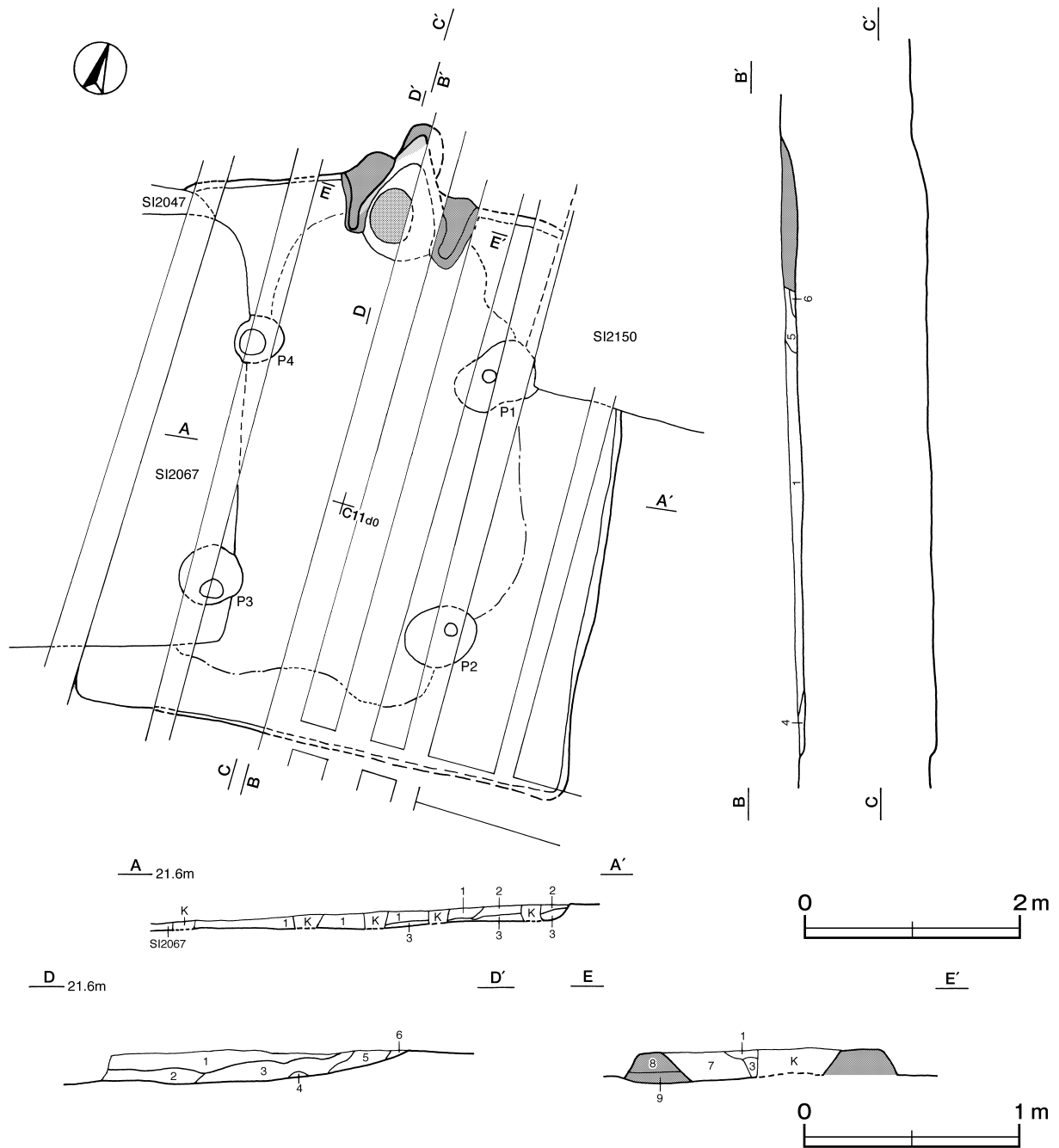
覆土 6層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量，焼土粒子微量 | 4 にぶい褐色 ロームブロック中量 |
| 2 褐色 ロームブロック少量 焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 5 灰褐色 ロームブロック中量，砂質粘土粒子微量 |
| 3 極暗褐色 ロームブロック中量 | 6 灰褐色 ロームブロック少量，焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片139点（坏24，甕類115），須恵器片5点（坏），鉄製品1点（不明）のほか，混入した陶器片3点も出土しているが，いずれも細片である。

所見 時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第175図 第2149号住居跡実測図

第2152号住居跡 (第176図)

位置 調査区中央部のC12c2区、標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2159・2161号住居跡を掘り込み、第2150・2160号住居に掘り込まれている。

規模と形状 西半分を他の住居に掘り込まれているため、東西軸2.92m、南北軸4.04mだけが確認された。主軸方向はN - 13° - Wである。確認された範囲では、壁高は8cmで、外傾して立ち上がっている。

床 確認された範囲では、ほぼ平坦である。北から東側にかけて4か所の焼土範囲が確認され、焼土の広がりから見て焼失住居と考えられる。

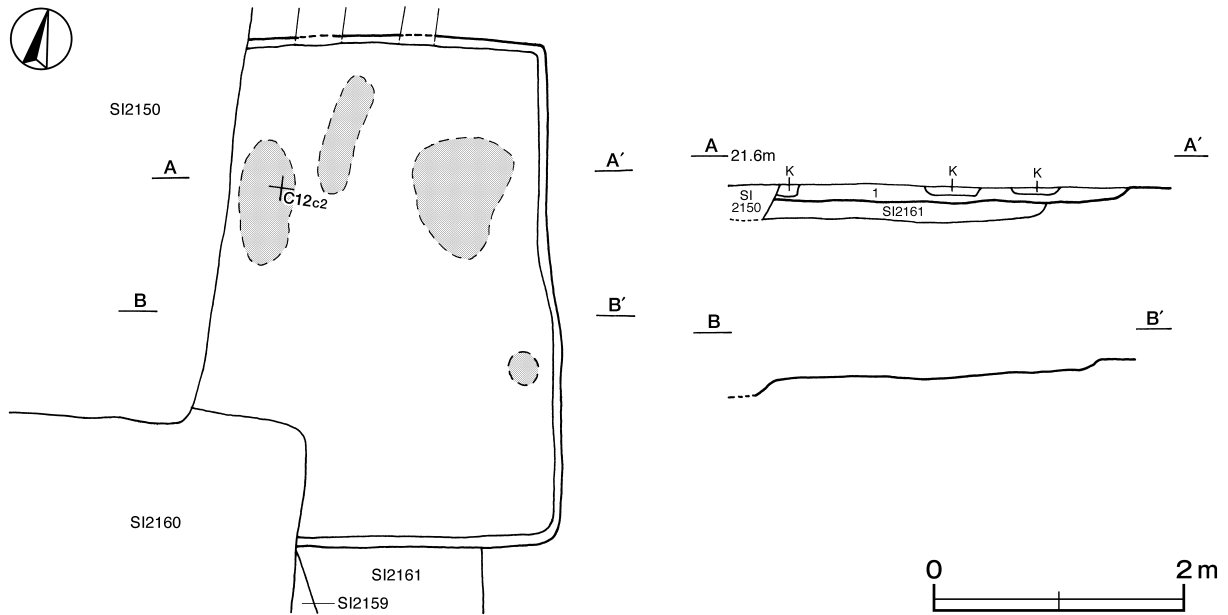
覆土 単一層で、火災に伴う堆積層である。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化材少量

遺物出土状況 土師器片488点(坏82, 甕類406), 須恵器片5点(坏3, 甕2)のほか, 混入した灰釉陶器片1点も出土している。

所見 床面から多量の焼土が確認されていることから焼失住居と考えられる。時期は, 出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第176図 第2152号住居跡実測図

第2153号住居跡(第177・178図)

位置 調査区南部のD11b9区, 標高19.5mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2048・2185号住居跡を掘り込み, 第2101・2496号土坑, 第119号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.18mで, 西側は攪乱を受けているが短軸6.08mの方形と推定され, 主軸方向はN-37°-Wである。確認された範囲の壁高は20~38cmで, 外傾して立ち上がっている。

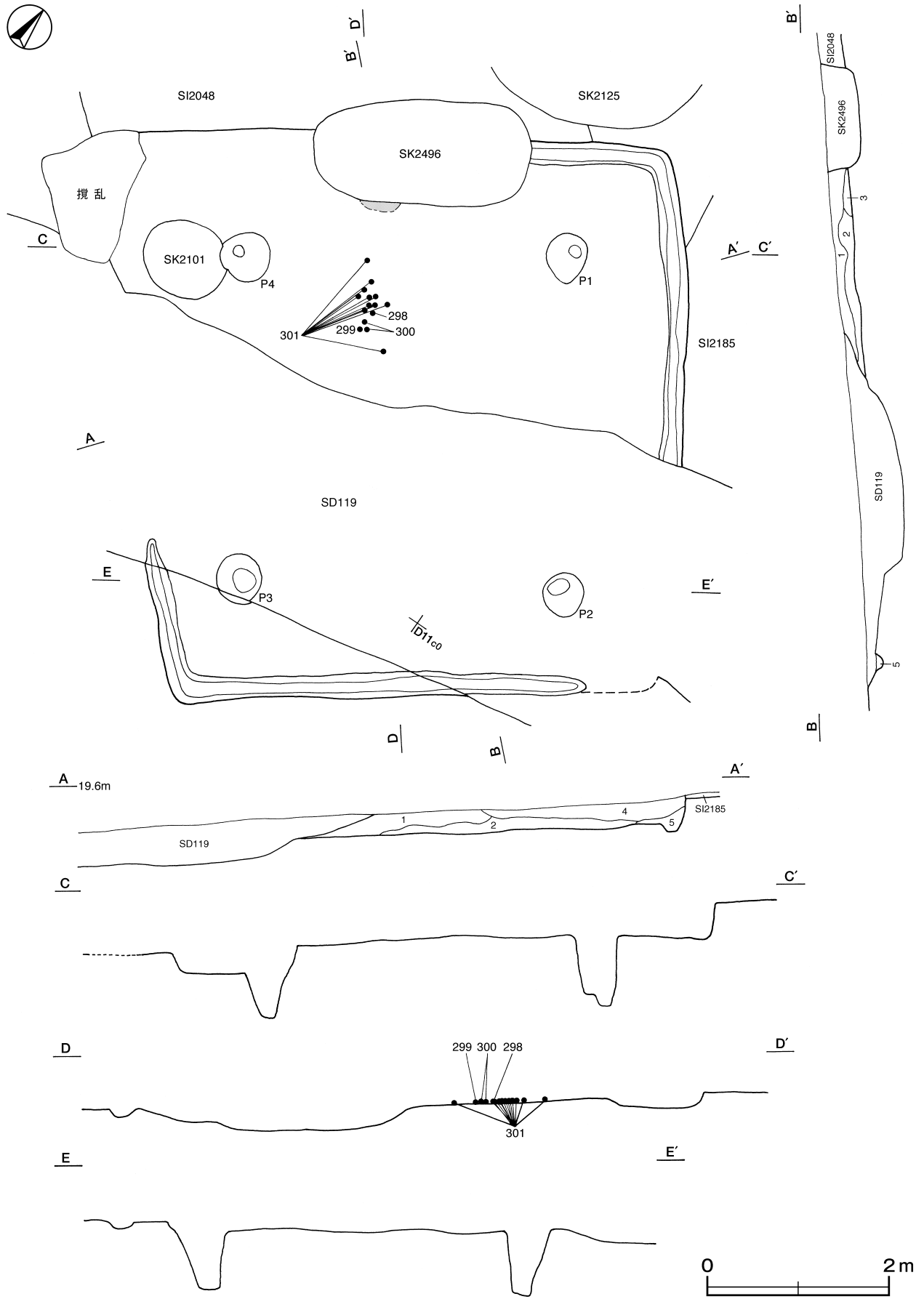
床 耕作によって南側が削平されているが, 確認された範囲ではほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。壁下には, 幅8~22cm, 深さ4~10cmで, U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。北壁寄りの床面からは焼土が確認され, 竈の火床部の痕跡と想定される。

ピット 4か所。P1~P4は支柱穴で, 深さは70~78cmである。

覆土 5層に分けられる。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

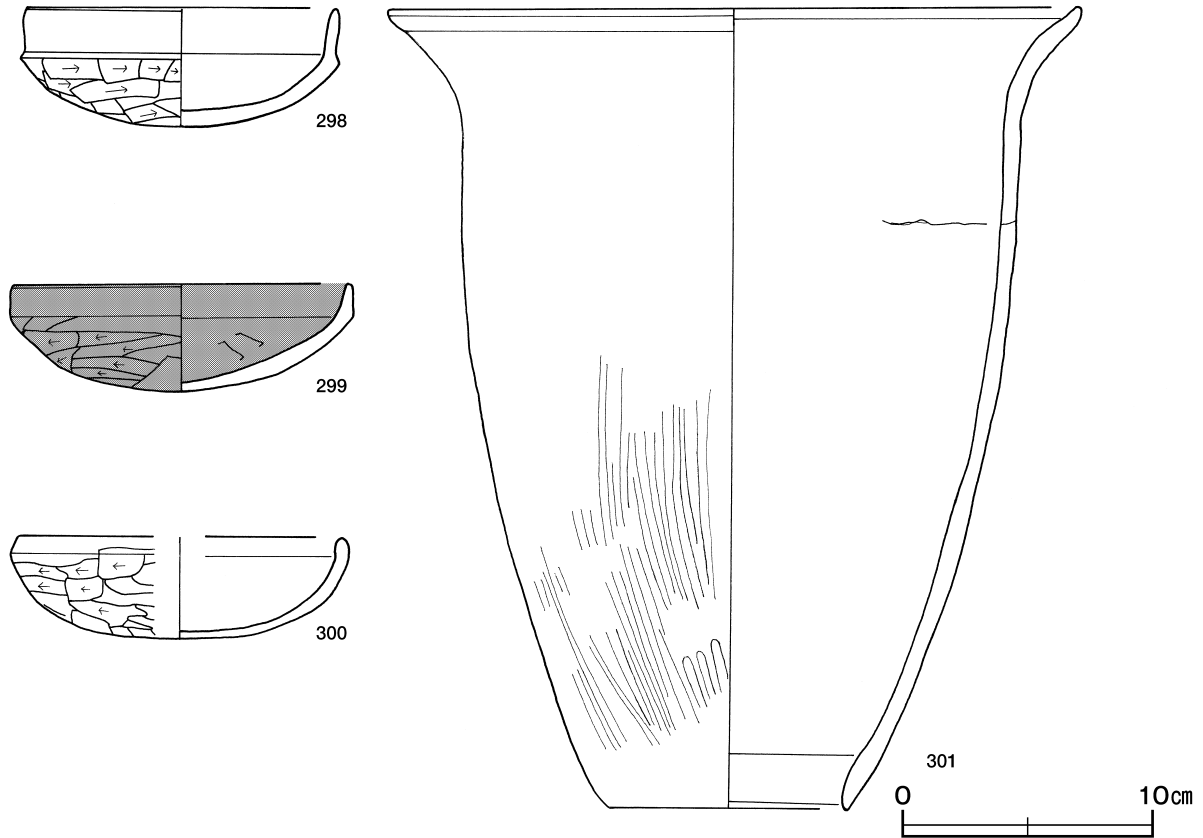
- | | | | |
|-------|---------------------------------|-------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 砂質粘土ブロック微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック, 砂質粘土ブロック微量 |
| 2 褐灰色 | 砂質粘土ブロック中量, ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 5 灰褐色 | ロームブロック少量, 砂質粘土ブロック・焼土ブロック微量 |
| 3 灰褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量 | | |



第177图 第2153号住居跡実測图

遺物出土状況 土師器片395点（坏54，高坏1，甕類292，甑48），須恵器片30点（坏1，高台付坏1，蓋1，甕類27），不明鉄製品1点のほか，混入した埴輪片1点も出土している。遺物の多くは中央部の覆土上層に集中しており，住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。298・299・300・301は中央部北側の床面からまともに出土し，住居の廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第178図 第2153号住居跡出土遺物実測図

第2153号住居跡出土遺物観察表（第178図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
298	土師器	坏	12.2	4.7	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	床面	100% PL156
299	土師器	坏	13.2	4.2	-	長石・赤色粒子	橙	普通	体部外面へら削り 内面へらナデ	床面	98% PL156
300	土師器	坏	[12.8]	4.0	-	長石・石英	灰褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	床面	70% PL156
301	土師器	甑	27.4	31.9	9.6	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面下端へら磨き 内面輪積痕を残すナデ	床面	90% PL185

第2154号住居跡（第179図）

位置 調査区中央部のC11e7区，標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2220号住居跡を掘り込み，第2168・2176・2184・2191・2192・2421～2425・2543号土坑，第15号柵列に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.32m，短軸6.11mの方形と推定される。主軸方向はN - 0°である。壁高は4cmほどで，外傾して立ち上がっている。

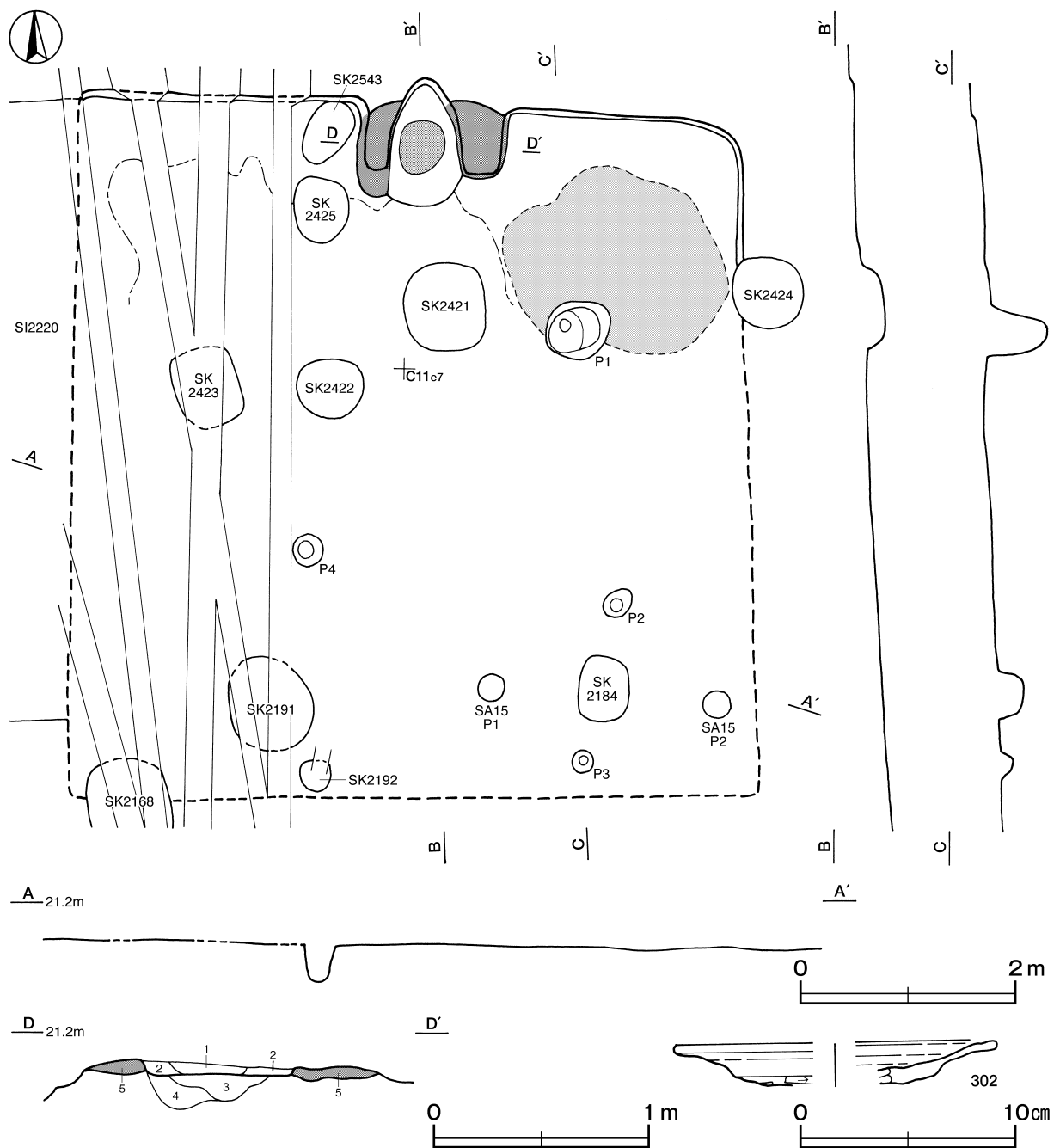
床 削平されており詳細は不明である。硬化面も一部しか確認されていない。北東コーナー部に焼土や炭化物が広がっており、電材などが廃棄されたのではないかと考えられる。

竈 北壁中央部に付設されているが、上部が削平されている。規模は、焚口部から煙道部まで118cmであり、袖部は砂質粘土で構築されていたと推定される。火床部は床面を12cm掘りくぼめており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に20cmほど掘り込まれている。

竈土層解説

- | | |
|------------------------------------|--------------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土粒子中量, ローム粒子少量 | 4 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗赤灰色 ロームブロック・焼土粒子少量 | 5 灰黄褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | |

ピット 4か所。P1は支柱穴で、深さは52cmである。P2～P4の深さは13～34cmで、性格は不明である。



第179図 第2154号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片84点（坏6，高坏2，甕類76），須恵器片8点（坏4，甕類4）が出土している。302は北東部の覆土から出土している。出土した土器のほとんどが細片であり，廃棄されたものと考えられる。

所見 床面が露出していたため覆土の堆積状況は不明である。出土遺物も少ないため時期の特定は難しいが，重複関係と住居形態から7世紀前半と考えられる

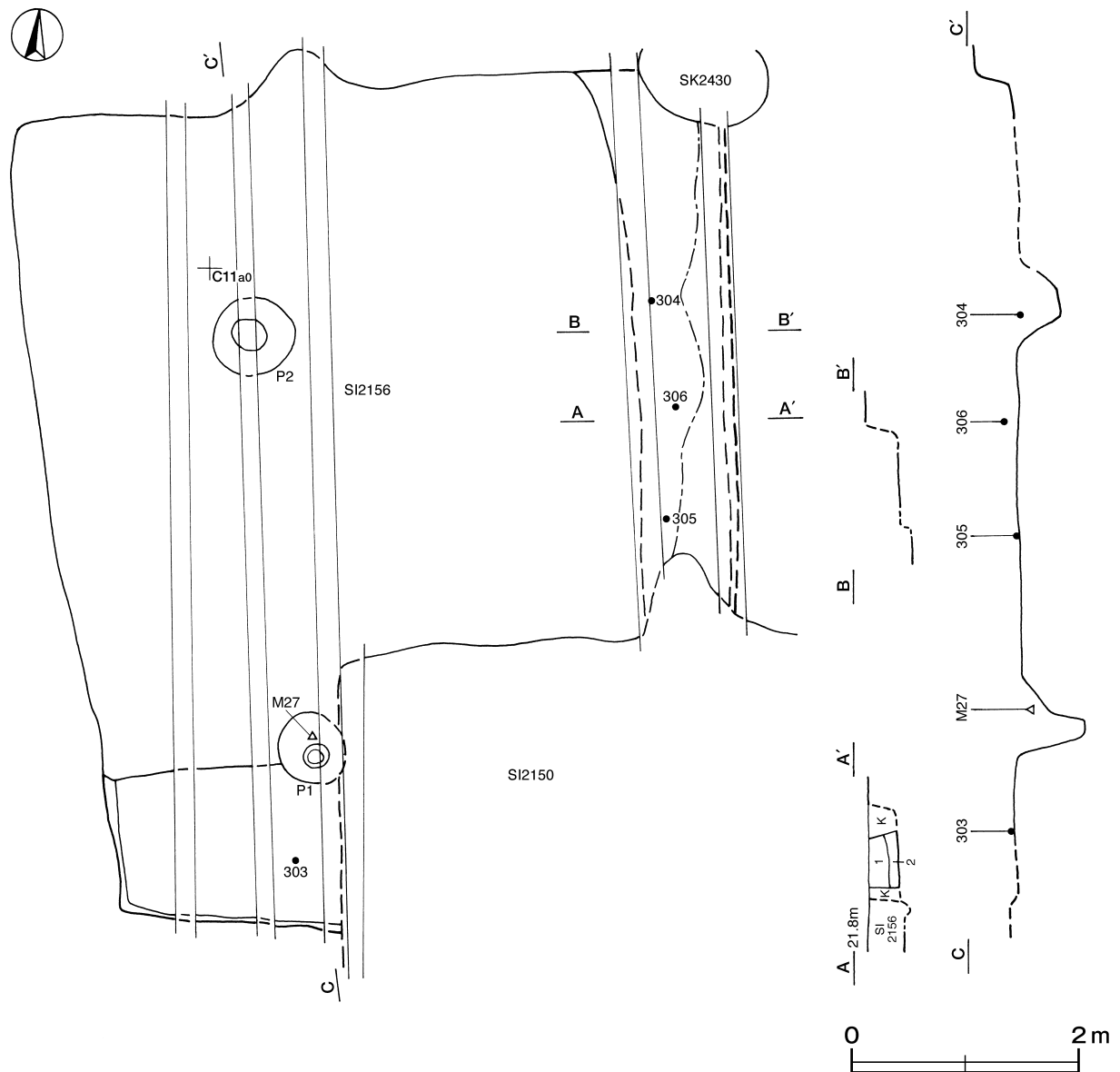
第2154号住居跡出土遺物観察表（第179図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
302	土師器	高坏	[14.8]	(1.9)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 坏部外面へら削り 内面ナデ	覆土	10%

第2157号住居跡（第180・181図）

位置 調査区中央部のC11a0区，標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2150・2156号住居，第2430号土坑に掘り込まれている。



第180図 第2157号住居跡実測図

規模と形状 長軸7.29m，短軸5.91mの方形と推定される。主軸方向はN - 5° - Wである。壁高は6～27cmで，外傾して立ち上がっている。

床 硬化面は一部しか確認できなかったため詳細は不明である。本跡の床面は，第2156号住居の床面より10cmほど高くなっている。

覆土 2層に分けられる。土層は一部分しか確認されていなかったため堆積状況は不明である。

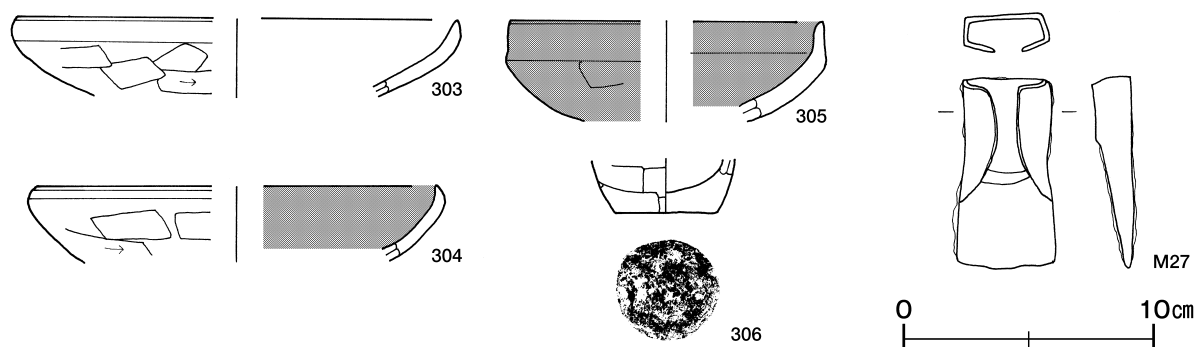
土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ローム粒子多量

ピット 2か所。深さは38cm・52cmで，性格は不明である。

遺物出土状況 土師器片24点（坏5，甕類19），須恵器片4点（甕類），鉄製品1点（手斧）が出土している。303は南西部の床面，304・305は東壁際の床面からそれぞれ出土しており，住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。M27はP1の覆土から出土している。

所見 時期は，出土土器と重複関係から7世紀前葉と考えられる。



第181図 第2157号住居跡出土遺物実測図

第2157号住居跡出土遺物観察表（第181図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
303	土師器	坏	[17.4]	(3.1)	-	石英	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	10%
304	土師器	坏	[15.8]	(3.2)	-	長石・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	10%
305	土師器	坏	[12.4]	(4.0)	-	石英・雲母	にぶい褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	10%
306	土師器	小形甕	-	(2.2)	4.1	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M27	手斧	7.6	4.0	1.6	93.1	鉄	横斧 袋状	P1覆土	PL197

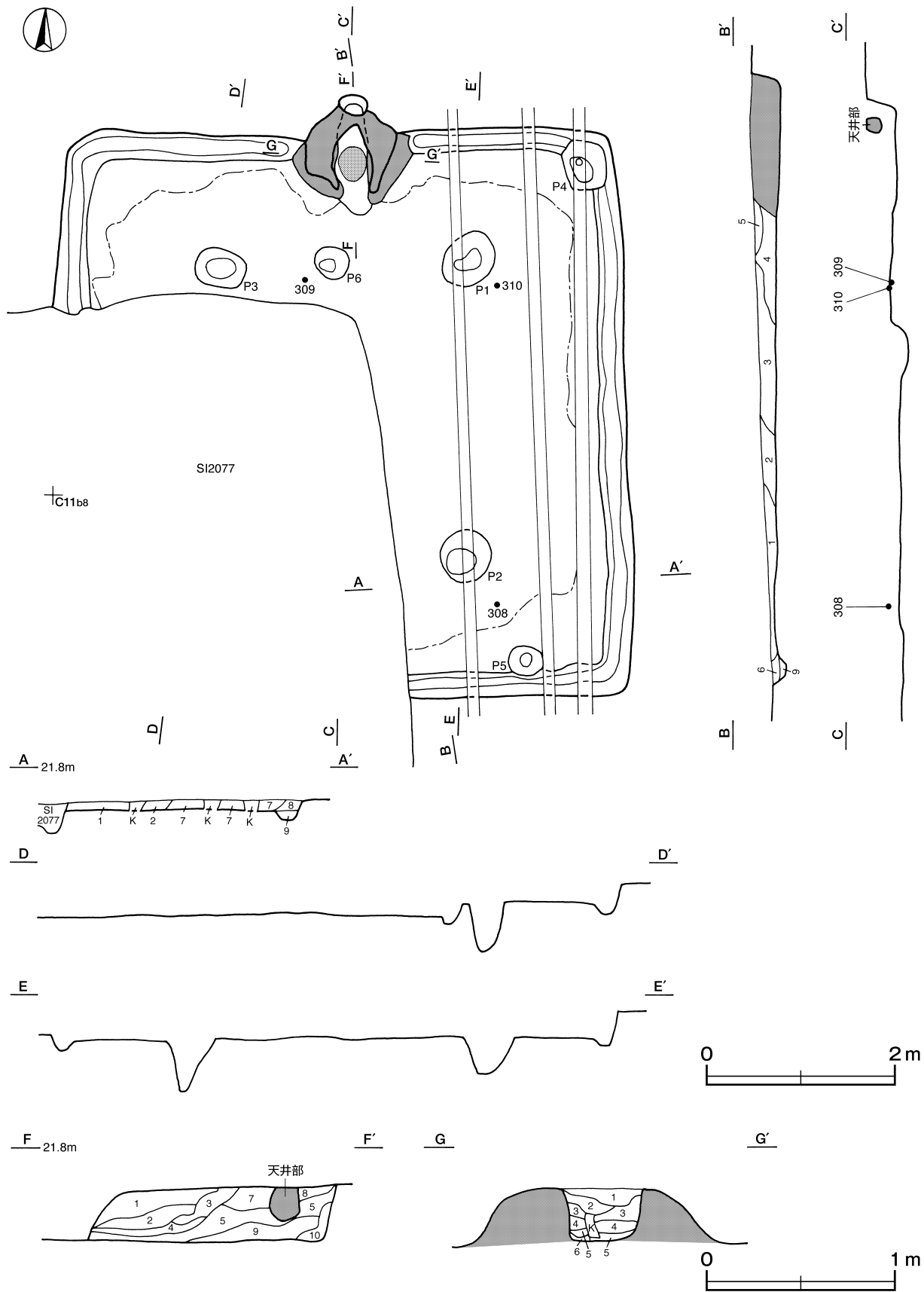
第2158号住居跡（第182・183図）

位置 調査区中央部のC11a8区，標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2077号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.02m，短軸5.98mの方形で，主軸方向はN - 3° - Wである。壁高は15～33cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり，壁際を除いて踏み固められている。第2077号住居に掘り込まれた部分を除いた壁下には，幅14～20cm，深さ7～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。



第182图 第2158号住居跡実測図

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで127cm、袖部幅112cmである。袖部は、覆土の状況から砂質粘土で構築されていたと推定される。火床面は火を受けて赤変している。煙道部は壁外に38cm掘り込まれ、直立ぎみに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------------|--------|----------------------|
| 1 褐色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 2 灰褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 灰褐色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子微量 | 8 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 炭化粒子少量, 砂質粘土粒子微量 | 9 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化物微量 |
| 5 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量, 砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 10 灰褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子微量 |

ピット 6か所。P1～P3は主柱穴で、深さは40～58cmである。P4～P6の深さは20～36cmで、性格は不明である。

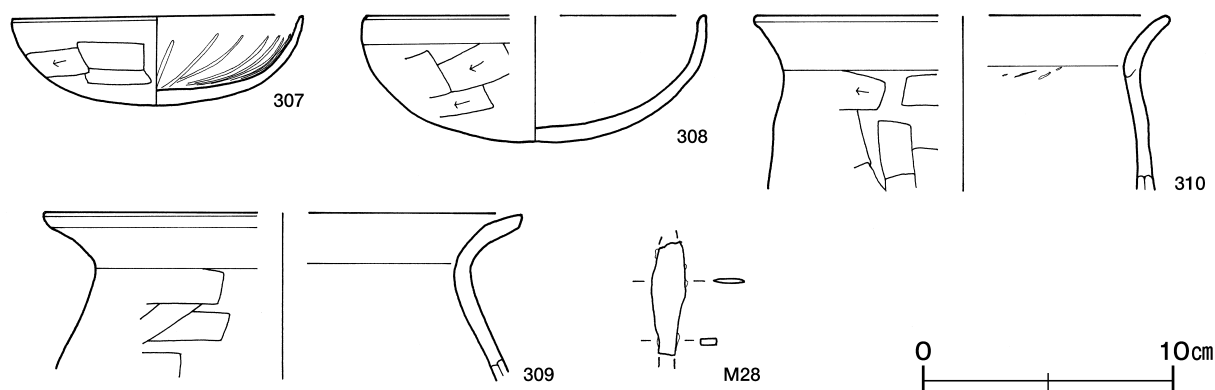
覆土 9層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 4 褐色 | 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化物微量 | 9 褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子微量 |
| 5 褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片259点(坏58, 甕類201), 須恵器片4点(坏3, 甕類1), 粘土塊1点, 鉄製品1点(刀子)が出土している。308は南東部床面, 309は北西部床面, 310は北東部床面からそれぞれ出土しており, 住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。307は北西部覆土から出土し, 住居廃絶後に廃棄されたものと考えられる。M28は南東部覆土から出土している。

所見 時期は, 出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第183図 第2158号住居跡出土遺物実測図

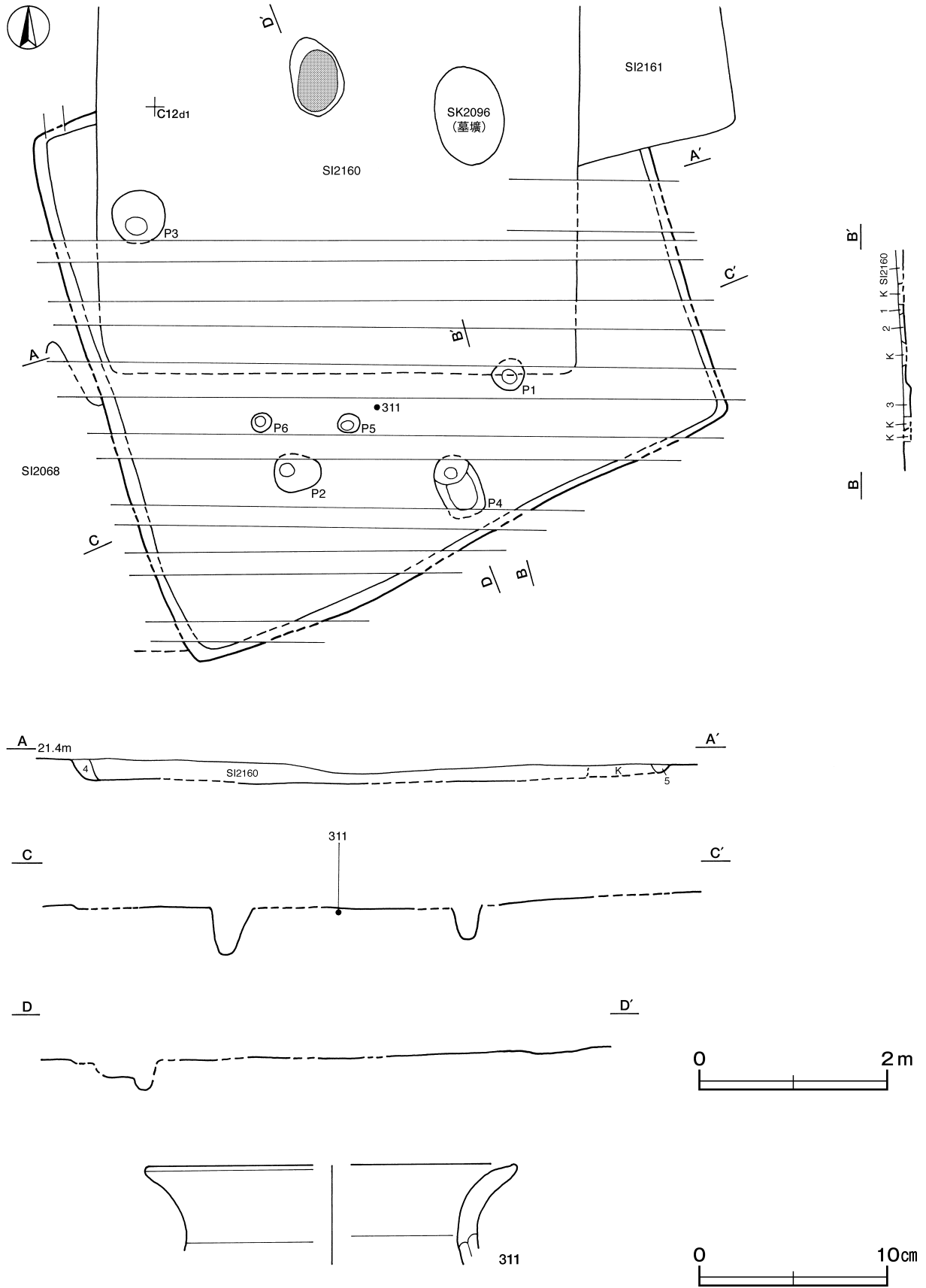
第2158号住居跡出土遺物観察表(第183図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
307	土師器	坏	11.5	3.6	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ放射状の暗文	体部外面へラ削り 内面	覆土 80%
308	土師器	坏	[13.6]	5.0	-	石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ	体部外面へラ削り 内面	床面 40%
309	土師器	甕	[19.0]	(6.5)	-	長石・石英・雲母・小礫	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ	体部外面へラ削り 内面	床面 5%
310	土師器	甕	[16.4]	(6.9)	-	石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ	体部外面へラ削り 内面	床面 5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M28	刀子	(4.5)	1.4	0.15~0.3	(6.0)	鉄	茎部の破片 断面長方形	覆土	

第2159号住居跡 (第184図)

位置 調査区北東部のC12d1区, 標高21mほどの平坦な台地上に位置している。



第184図 第2159号住居跡・出土遺物実測図

重複関係 第2068・2152号住居跡を掘り込み、第2160・2161号住居、第2096号土坑（墓墳）に掘り込まれている。南部は東西方向の耕作による攪乱を受けている。

規模と形状 長軸6.29m、短軸5.87mの方形と推定され、主軸方向はN - 25° - Wである。壁高は4～18cmで、外傾して立ちあがっている。

床 ほぼ平坦である。

竈 北壁中央部に付設されている。第2160号住居に掘り込まれており、火床部だけが確認されている。

ピット 6か所。P1～P3は主柱穴で、深さは29～47cmである。P4は深さ32cmで、竈に対峙する位置にあることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P5・P6の深さは17～19cmで、性格は不明である。

覆土 5層に分けられる。土層は一部分しか確認されていなかったため堆積状況は不明である。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|-------------------|---|-----|---------------------|
| 1 | 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 4 | 褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子微量 | 5 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | | | |

遺物出土状況 土師器片11点（甕類）が出土している。311は中央部の床面から出土しており、住居廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 覆土の堆積状況が不明であり、遺物も少ないため時期の特定は難しいが、出土土器と重複関係から7世紀後半と考えられる。

第2159号住居跡出土遺物観察表（第184図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
311	土師器	甕	[19.4]	(5.2)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	口辺部内外面横ナデ	床面	5%

第2161号住居跡（第185・186図）

位置 調査区中央部のC12c2区、標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2150・2152・2159・2160号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南東コーナー部を除いて他の住居に掘り込まれており、東西軸2.24m、南北軸5.24mが確認された。主軸方向はN - 10° - Wである。確認された範囲の壁高は8～16cmで、外傾して立ち上がっている。

床 確認された範囲は、ほぼ平坦である。

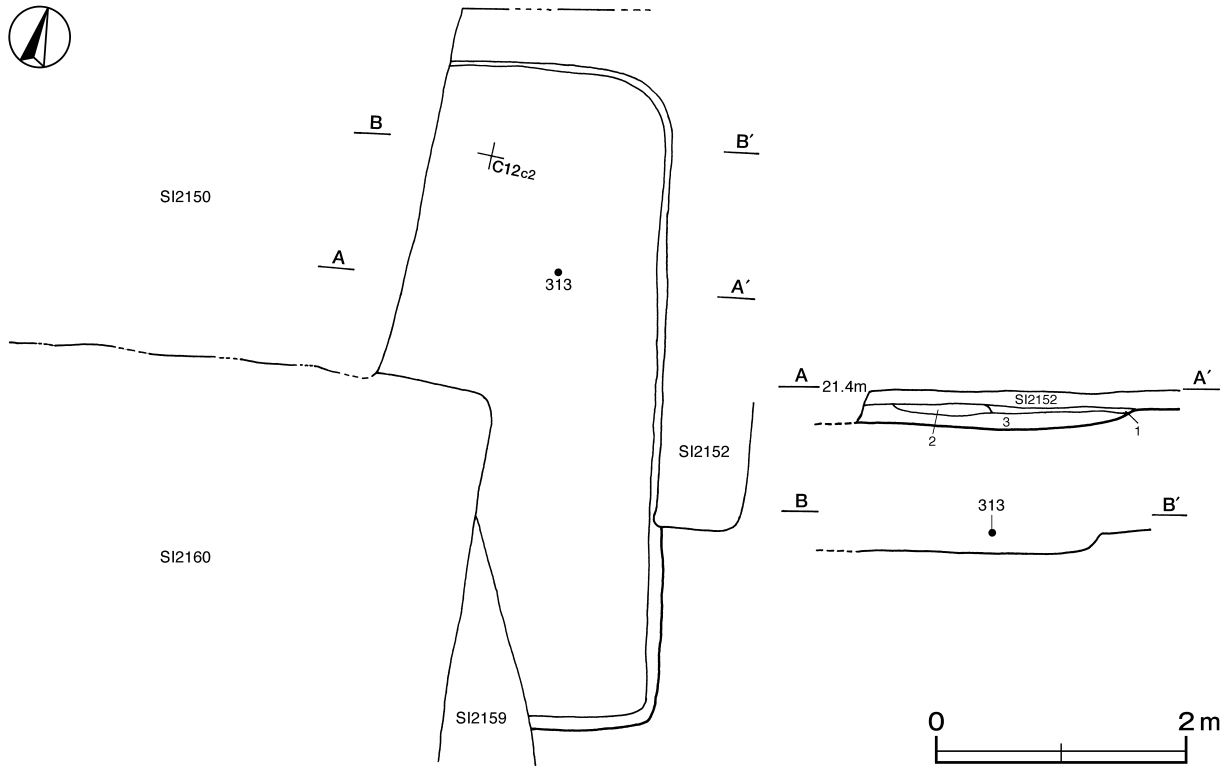
覆土 3層に分けられる。覆土が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

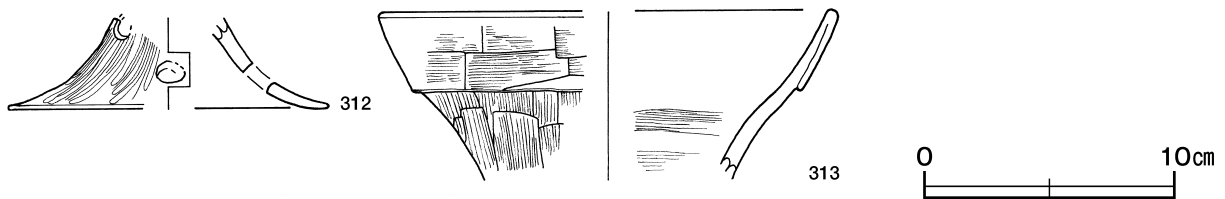
- | | | | | | |
|---|-----|------------------|---|----|-----------|
| 1 | 褐色 | ロームブロック中量 | 3 | 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 | 灰褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | | | |

遺物出土状況 土師器片10点（器台9、壺1）のほか、混入した土師器片84点（坏4、甕類80）、須恵器片14点（坏10、高台付坏1、甕類3）、陶器1点も出土している。313は東壁寄りの覆土上層、312は覆土から出土し、住居の廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から4世紀後半と考えられる。



第185図 第2161号住居跡実測図



第186図 第2161号住居跡出土遺物実測図

第2161号住居跡出土遺物観察表（第186図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
312	土師器	器台	-	(3.6)	[12.6]	長石・石英	黒	普通	脚部外面へラ磨き内面ナデ 透かし穴3つ	覆土	40%
313	土師器	壺	[17.9]	(6.6)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	折り返し口辺部外面ハケ目調整 内面ナデ 頸部外面ハケ目調整 内面ナデ・ハケ目調整	覆土上層	5%

第2163号住居跡（第187～191図）

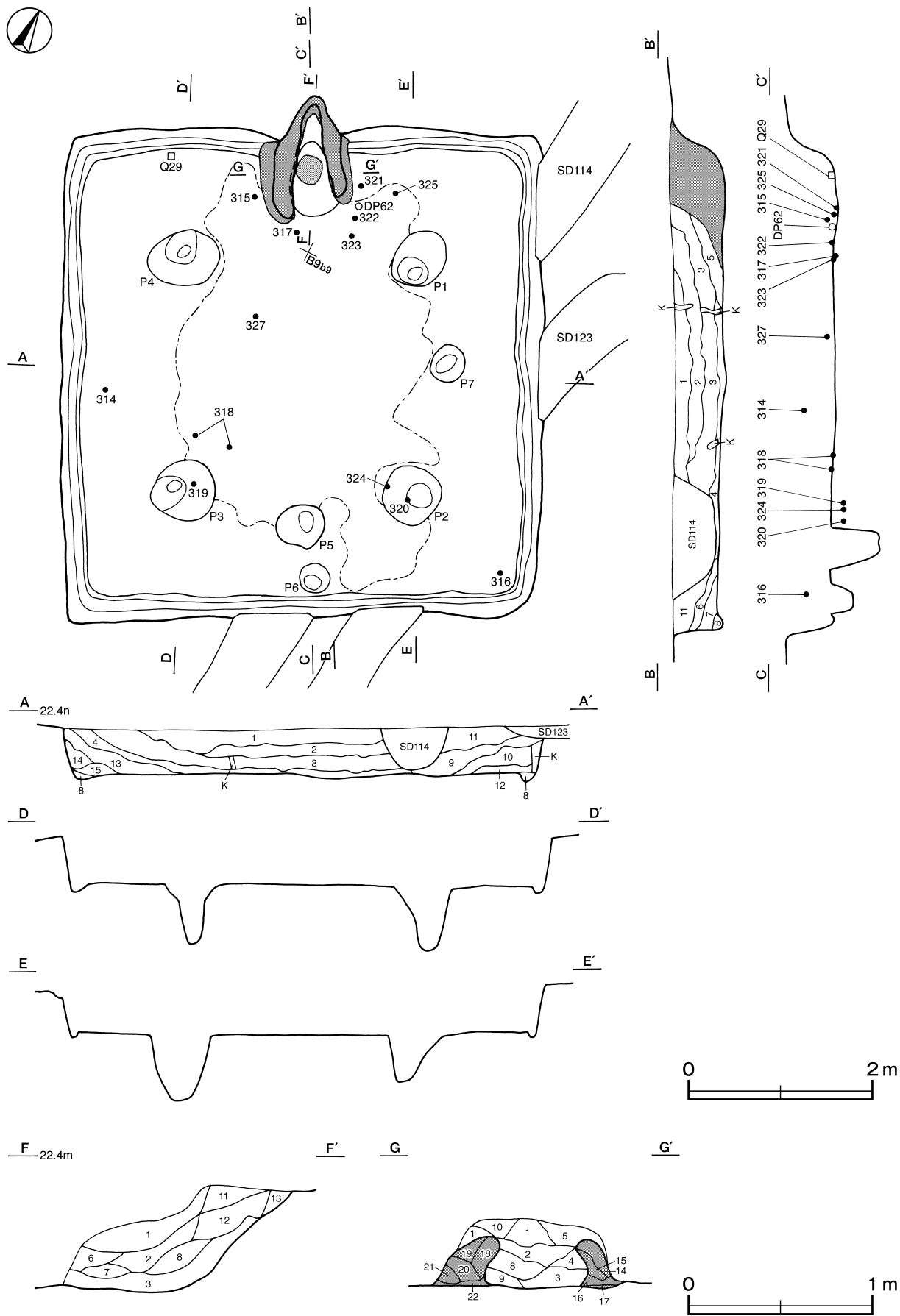
位置 調査区北西部のB 9 b9区，標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 東部分を南北方向に第114・123号溝が掘り込んでいます。

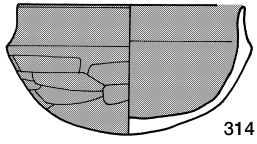
規模と形状 長軸5.22m，短軸5.19mの方形で，主軸方向はN - 25° - Wである。壁高は48～52cmで，外傾して直立ぎみに立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり，壁際を除いて踏み固められている。壁下には，幅8～18cm，深さ3～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

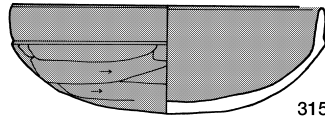
竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで129cm，袖部幅94cmである。袖部は，床面とほぼ同じ高さを基部とし，砂質粘土で構築されている。火床部は床面を浅く皿状に掘りくぼめており，火を



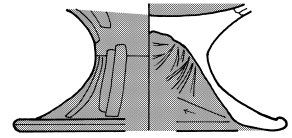
第187图 第2163号住居跡実测图



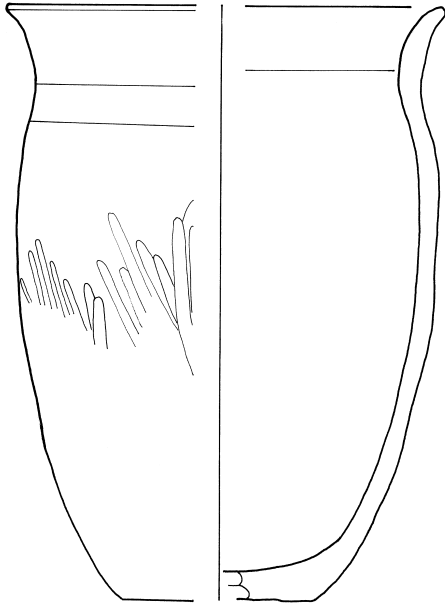
314



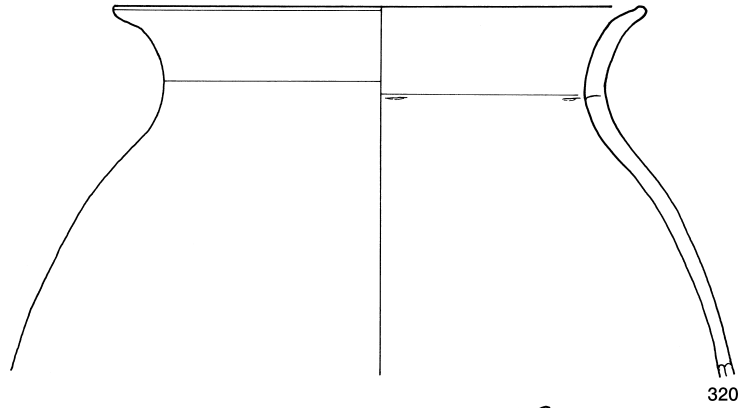
315



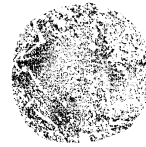
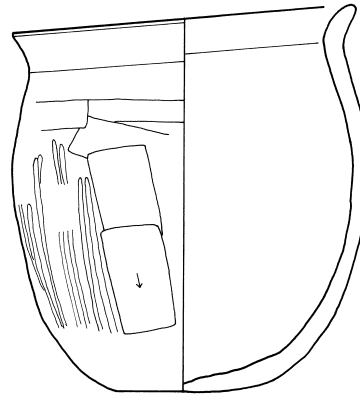
316



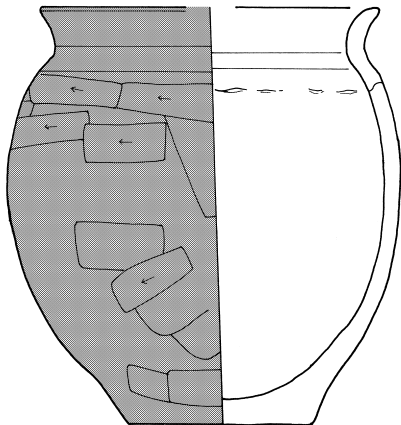
319



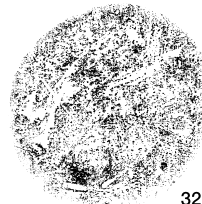
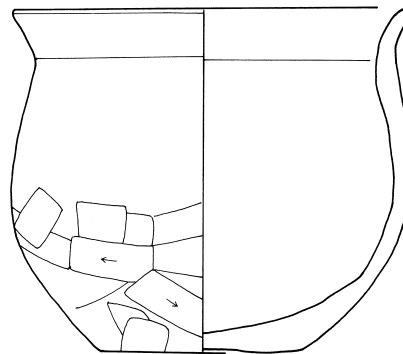
320



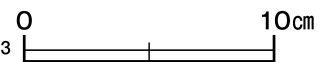
322



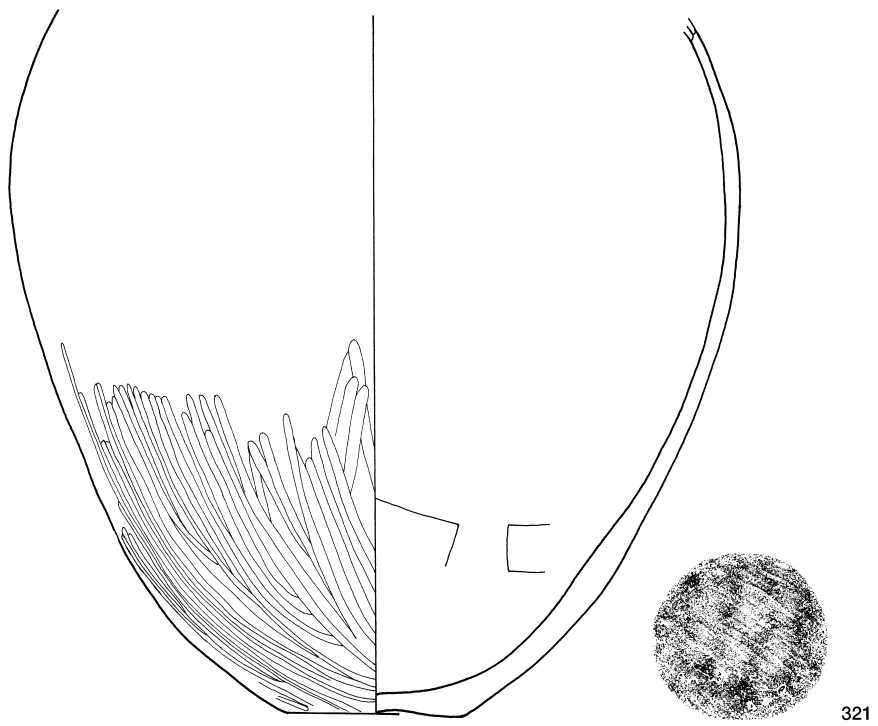
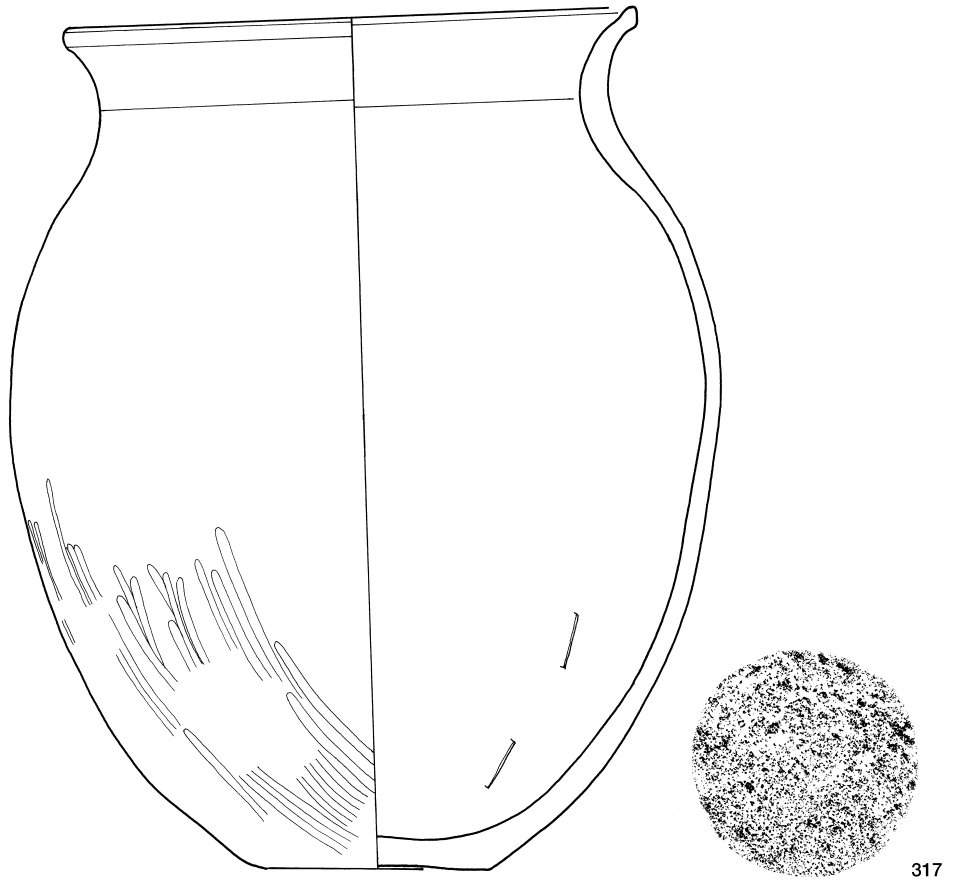
324



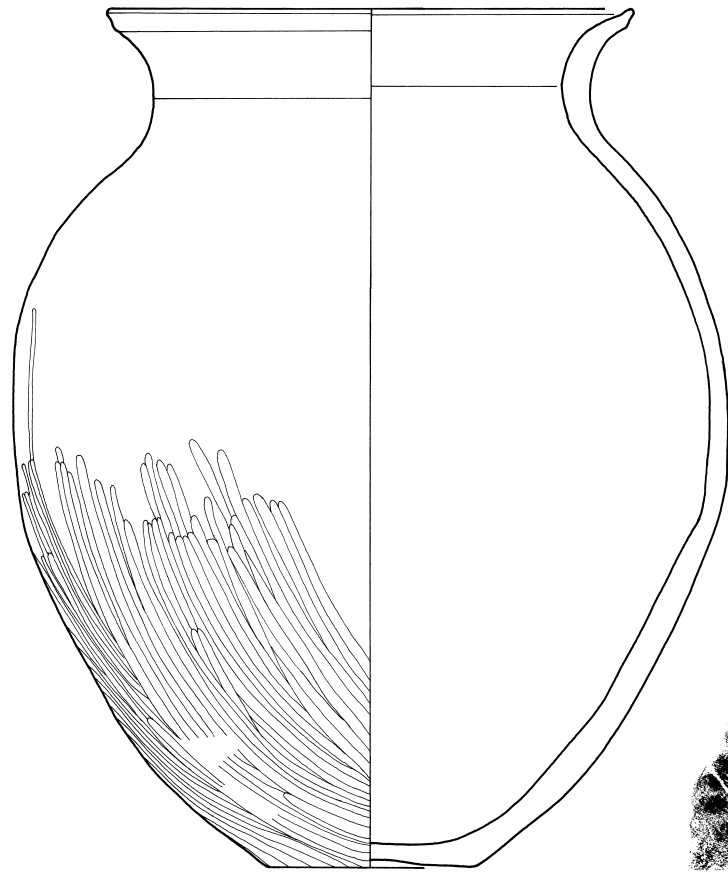
323



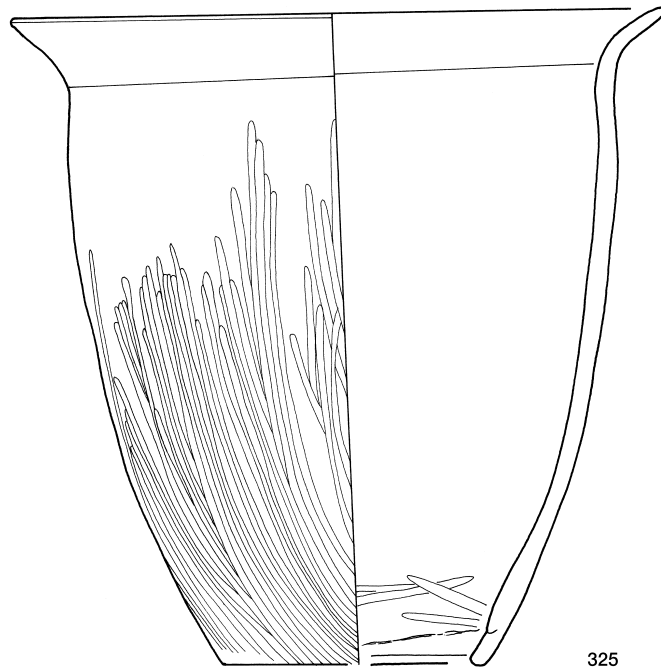
第188图 第2163号住居跡出土遺物実測図(1)



第189图 第2163号住居跡出土遺物実測図(2)



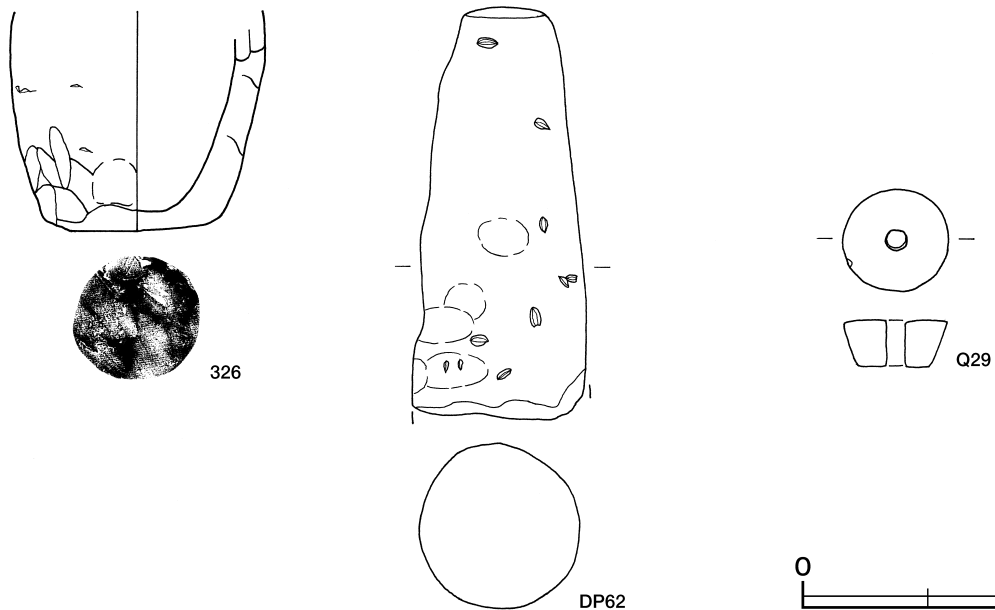
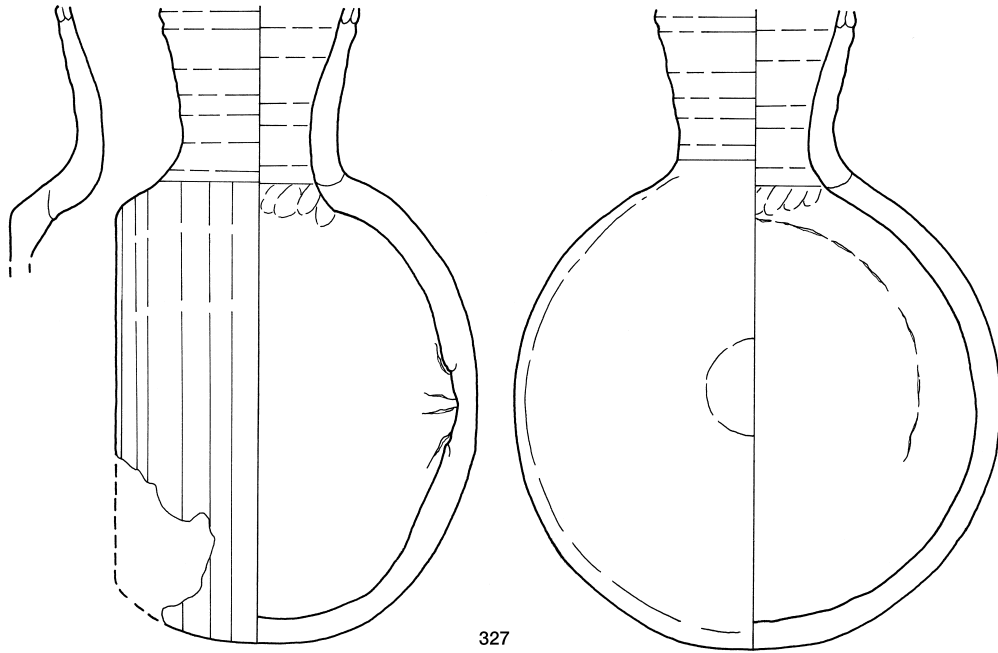
318



325



第190图 第2163号住居跡出土遺物実測図(3)



第191図 第2163号住居跡出土遺物実測図(4)

受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に42cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

甕土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------|-----------|--------------------------|
| 1 灰 褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量 | 12 褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量, 砂質粘土粒子少量 | 13 褐色 | ローム粒子中量, 砂質粘土粒子微量 |
| 3 暗 赤 褐色 | 焼土粒子多量, 炭化材少量 | 14 灰 褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック少量 |
| 4 暗 赤 褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子少量 | 15 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量 |
| 5 暗 赤 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | 16 褐 灰色 | 砂質粘土粒子多量 |
| 6 灰 褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量 | 17 褐色 | ローム粒子多量, 砂質粘土粒子少量 |
| 7 極暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 18 にぶい赤褐色 | 焼土粒子多量, 砂質粘土粒子中量 |
| 8 暗 赤 褐色 | 焼土粒子多量, 砂質粘土粒子中量 | 19 灰 褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック微量 |
| 9 極暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 | 20 褐 灰色 | 砂質粘土粒子中量 |
| 10 灰 褐色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック少量 | 21 褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 11 にぶい褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量 | 22 褐色 | ローム粒子中量, 砂質粘土粒子少量 |

ピット 7か所。P1～P4は主柱穴で、深さは51～69cmである。P5は深さ52cm、P6は深さ25cmで、竈に
対峙する位置にあることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P7の深さは18cmで、
性格は不明である。

覆土 15層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	9	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	10	褐色	ロームブロック少量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	11	暗褐色	ロームブロック微量
4	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	12	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5	灰褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	13	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
6	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	14	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
7	褐色	ロームブロック中量	15	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8	褐色	ローム粒子中量			

遺物出土状況 土師器片1203点(坏77,高坏5,甕類1104,甑16,手捏土器1),須恵器片14点(坏1,壺2,
提瓶5,甕類6),土製品1点(支脚),石製品1点(紡錘車),鉄滓1点が竈周辺や中央部を中心に出土して
いる。321・322・323・325は竈付近の床面からそれぞれ伏せた状態で並んで出土しており、遺棄されたものと
考えられる。315は竈左袖部付近の床面,317は竈前面の床面からまとめて出土しており,それぞれ住居廃絶
時に遺棄されたものと考えられる。DP62は竈付近の床面,Q29は北壁際の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は,出土土器から7世紀前葉と考えられる

第2163号住居跡出土遺物観察表(第188～191図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
314	土師器	坏	8.9	5.1	-	長石・石英・雲母	黒	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	覆土中層	95% PL156
315	土師器	坏	12.4	4.3	-	長石・雲母	黒褐色	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	床面	55%
316	土師器	高坏	-	(5.0)[10.6]	-	長石	黒	普通	脚部外面へら削り 内面へら削り後へら磨き 裾部内外面横ナデ	覆土中層	55%
317	土師器	甕	22.4	34.3	9.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら磨き 内面 へらナデ	床面	95% PL182
318	土師器	甕	20.8	34.1	8.4	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら磨き 内面 ナデ	床面	60% PL182
319	土師器	甕	[17.0]	23.6	[7.6]	長石・石英	黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら磨き 内面 ナデ	P3覆土	60%
320	土師器	甕	21.0	(14.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部内面輪積痕	P4覆土	30%
321	土師器	甕	-	(27.9)	6.9	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へら磨き 内面へらナデ 底部へら磨き	床面	50%
322	土師器	小形甕	13.4	15.4	5.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り後へら 磨き 内面ナデ	床面	100% PL176
323	土師器	小形甕	15.6	13.7	8.0	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面 ナデ	床面	98% PL177
324	土師器	小形甕	[13.2]	16.5	7.2	長石・石英	黒	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面 ナデ 輪積痕	P2覆土	60% PL177
325	土師器	甑	25.7	26.1	10.2	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら磨き 内面 へらナデ 下端へら磨き 輪積痕	床面	90% PL185
326	土師器	手捏土器	-	(8.8)	5.1	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面へら削り 輪積痕 内面ナデ 底部へ ら削り	覆土下層	50%
327	須恵器	提瓶	-	(25.3)	-	長石・石英	灰	普通	口頸部内外面口クロナデ 外面ナデ 内面指頭 痕 体部内外面口クロナデ 回転しぼり	覆土下層	60% PL171

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP62	支脚	(16.3)	(7.5)	6.5	(625.1)	土(長石・石英)	ナデ 指頭痕 にぶい橙色	床面	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q29	紡錘車	4.2	1.8	0.8	43.3	粘板岩	両面研磨 一方向からの穿孔	床面	

第2164号住居跡(第192・193図)

位置 調査区中央部のC11f4区,標高20.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2165号住居跡を掘り込み,南北方向の耕作による攪乱を受けている。

規模と形状 長軸4.64m，短軸4.17mの長方形で，主軸方向はN - 13° - Wである。壁高は4cmほどで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり，竈付近が踏み固められている。

竈 北壁東寄りに付設されている。攪乱を受けているため全体の形状は不明であるが，焚口部から煙道部まで95cmである。火床部は床面を浅く皿状に掘りくぼめており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に22cm掘り込まれ，外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------|-------|----------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 4 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 6 灰褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |

覆土 3層に分けられる。覆土が薄い，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

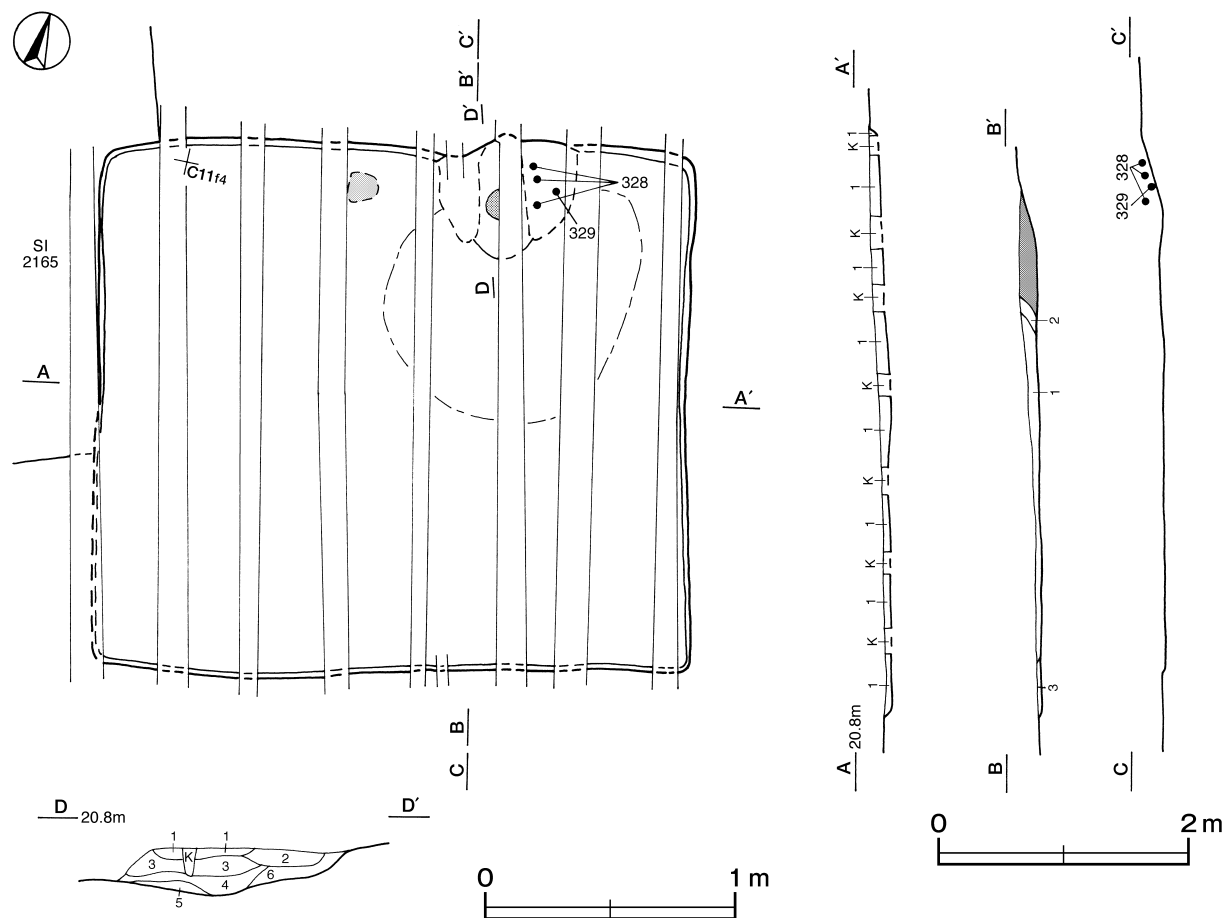
土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------|------|---------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | | |

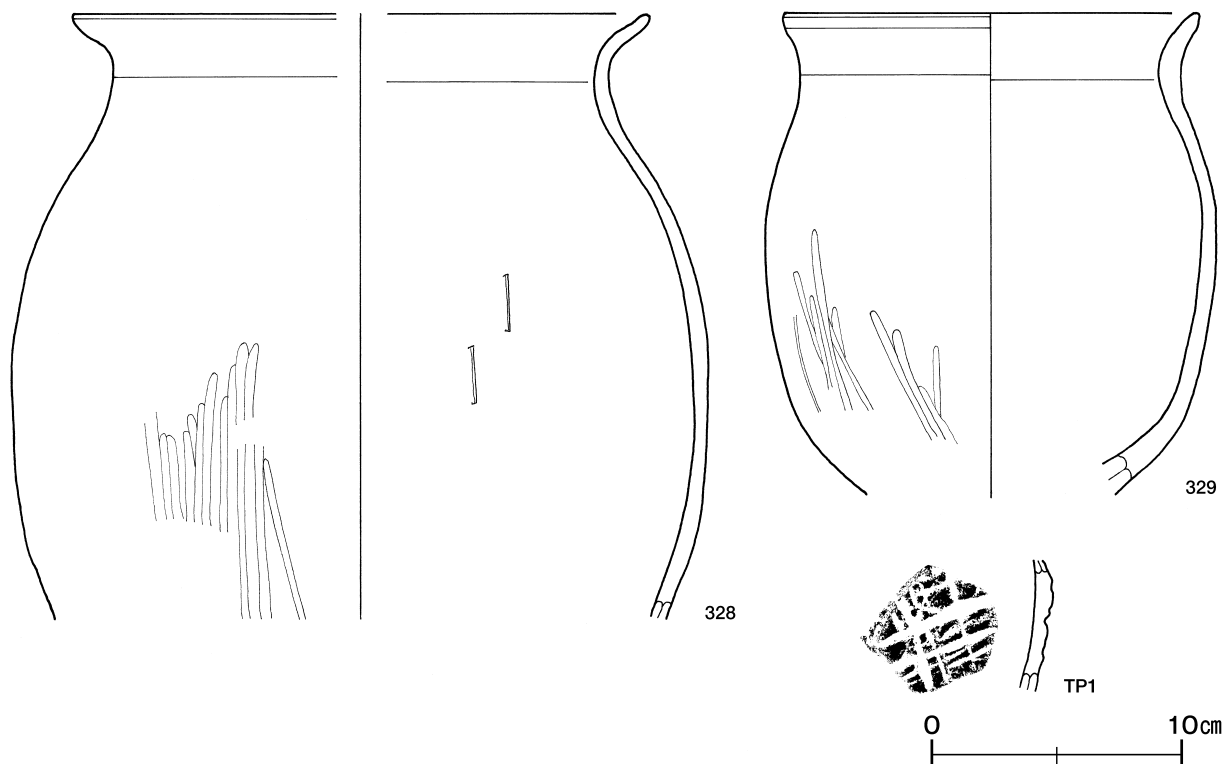
遺物出土状況 土師器片187点（坏44，甕類143），須恵器片4点（坏1，甕類3），鉄滓1点が出土している。

328・329は竈右袖部内からそれぞれ出土しており，竈の構築材と考えられる。TP1は北東部の覆土から出土しており，砥石に転用されたものと考えられる。

所見 出土した土器は，328・329のほかほとんどが細片であるが，時期は，出土土器と重複関係から7世紀代と考えられる。



第192図 第2164号住居跡実測図



第193図 第2164号住居跡出土遺物実測図

第2164号住居跡出土遺物観察表（第193図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
328	土師器	甕	[22.8](24.0)	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ磨き 内面へラナデ	竈袖部下層	30%
329	土師器	小形甕	16.4	(19.1)	-	長石・石英・雲母・礫	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ磨き 内面ナデ	竈袖部下層	40%
TP1	土師器	甕	-	(5.3)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面に条線状の研痕	覆土	5% 砥石転用

第2165号住居跡（第194・195図）

位置 調査区中央部のC11f3区，標高20.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2164号住居，第2428・2506・2507号土坑に掘り込まれ，南北方向の耕作による攪乱を受けている。

規模と形状 長軸4.11m，短軸3.98mの方形で，主軸方向はN-16°-Wである。壁高は4cmほどで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。

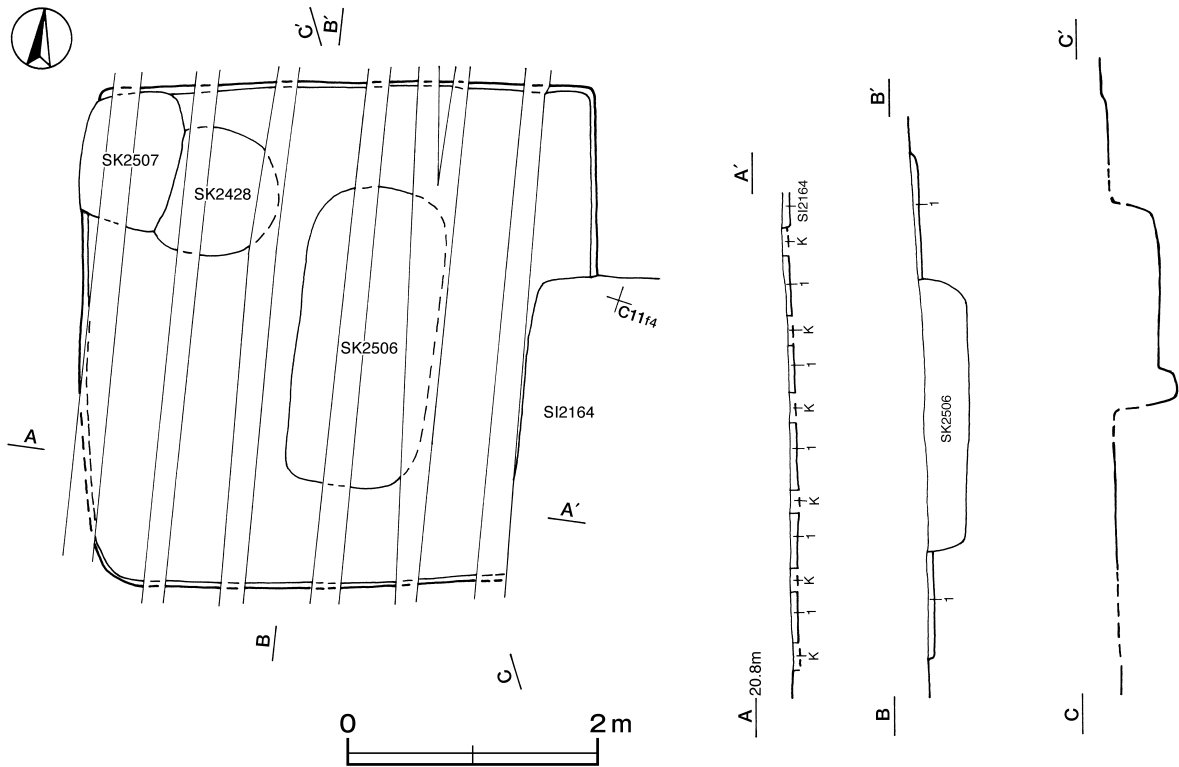
覆土 単一層である。攪乱を受けているため堆積状況は不明である。

土層解説

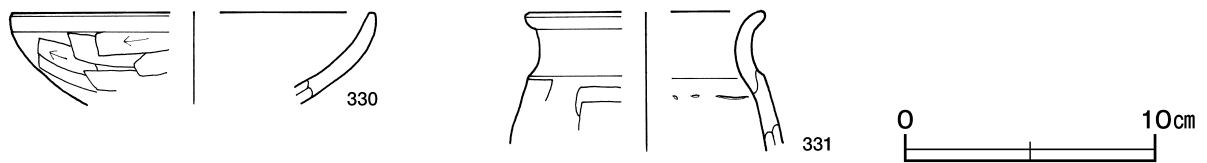
1 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片13点(坏2，高坏1，甕類10)が出土している。330・331は北東部の覆土から出土し，細片であることから住居廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見 覆土が薄く，出土遺物の数が少ないため時期の特定は難しいが，出土土器や重複関係から6世紀以前と考えられる。



第194図 第2165号住居跡実測図



第195図 第2165号住居跡出土遺物実測図

第2165号住居跡出土遺物観察表（第195図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
330	土師器	坏	[14.4]	3.6	-	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ ナデ 体部外面へラ削り 内面	覆土	5%
331	土師器	小形甕	[9.2]	(5.5)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ へラナデ 輪種痕 体部外面へラ削り 内面	覆土	5%

第2168号住居跡（第196・197図）

位置 調査区西部のC10a7区，標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第381号掘立柱建物，第2501・2502・2558号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.72m，短軸4.70mの方形で，主軸方向はN - 7° - Wである。壁高は5～15cmで，外傾して立ち上がっている。

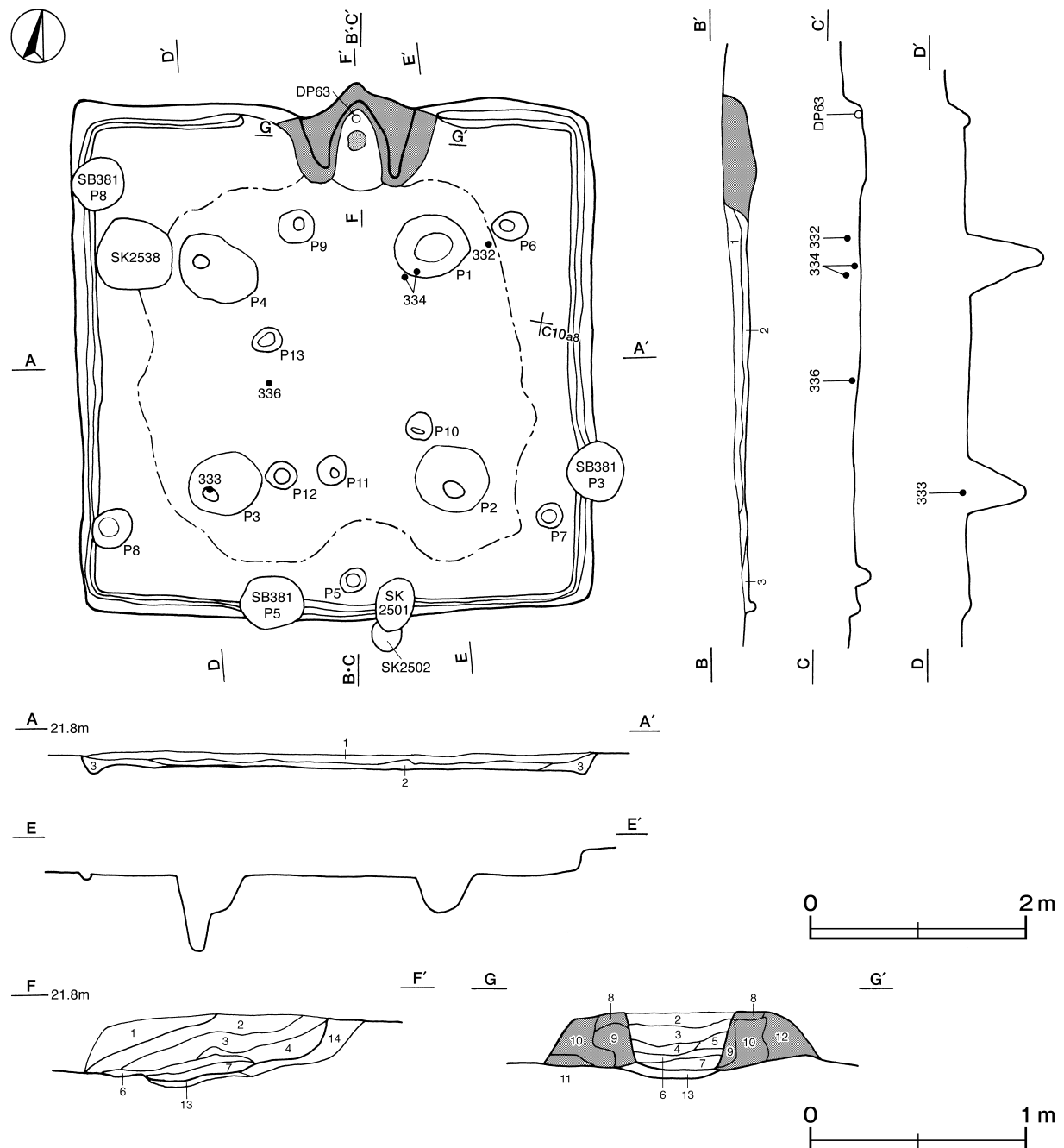
床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅9～16cmで，深さ2～5cm，U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで100cm，袖部幅146cmである。袖部はローム土混じりの砂質粘土で構築されている。火床部は床面を8cm掘りくぼめており，火を受けて赤変硬化している。煙道部は外傾して立ち上がっている。第13層は掘り方，第14層は煙道部の構築土である。

甍土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------------------|-----------|------------------------------------|
| 1 灰 褐色 | 灰中量, ローム粒子少量 | 9 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量, 砂質粘土ブロック少量, ローム粒子微量 |
| 2 暗 褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 10 褐色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | 11 にぶい赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 4 灰 褐色 | 砂質粘土粒子多量, ローム粒子・焼土粒子少量 | 12 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 5 灰 褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 13 暗 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 6 暗 赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・灰少量 | 14 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 7 にぶい赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 砂質粘土粒子微量 | | |
| 8 褐色 | 砂質粘土ブロック少量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | | |

ピット 13か所。P1～P4は主柱穴で、深さ41～74cmである。P5は深さ12cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから見て、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6～P13の性格は不明である。



第196図 第2168号住居跡実測図

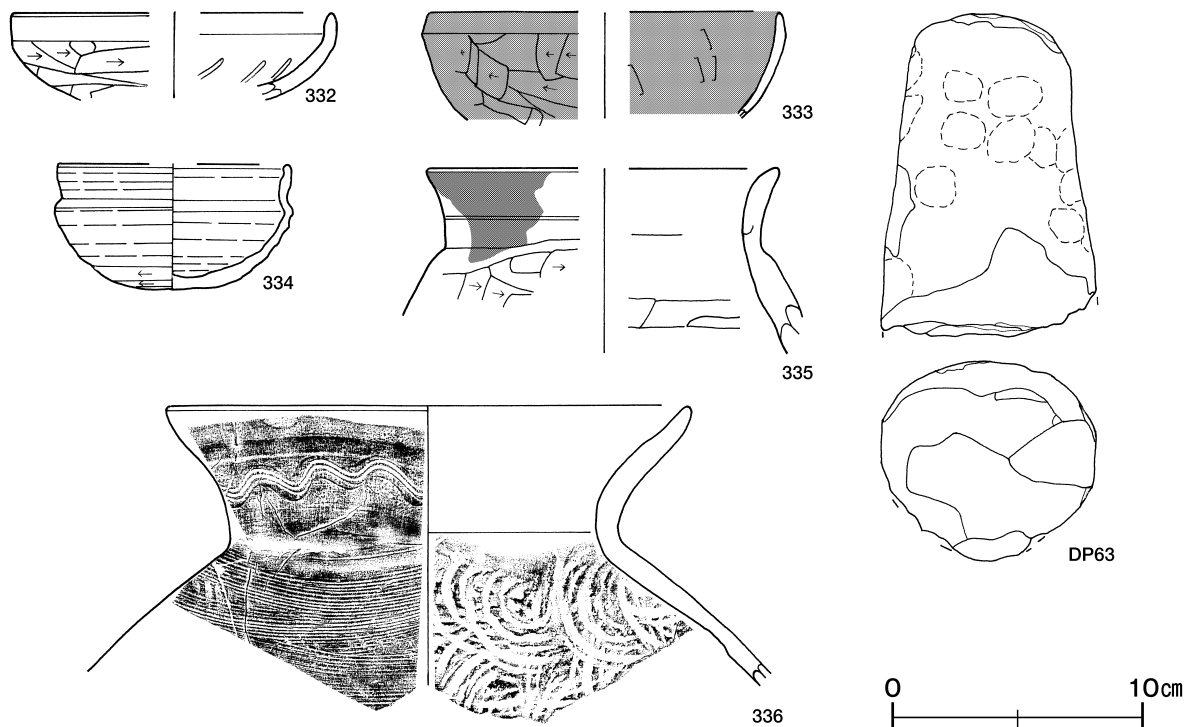
覆土 3層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量,炭化物・焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量,炭化材・焼土ブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック少量,炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片235点(坏27,甕類208),須恵器片17点(坏2,甕類15),土製品1点(支脚),鉄滓2点が中央部から出土している。333はP3の覆土上層,332・334・336は中央部の覆土中層と下層からそれぞれ出土し,いずれも廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。DP63は竈の煙道部の覆土下層から出土しており,住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。また,335は覆土から出土している。

所見 時期は,出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第197図 第2168号住居跡出土遺物実測図

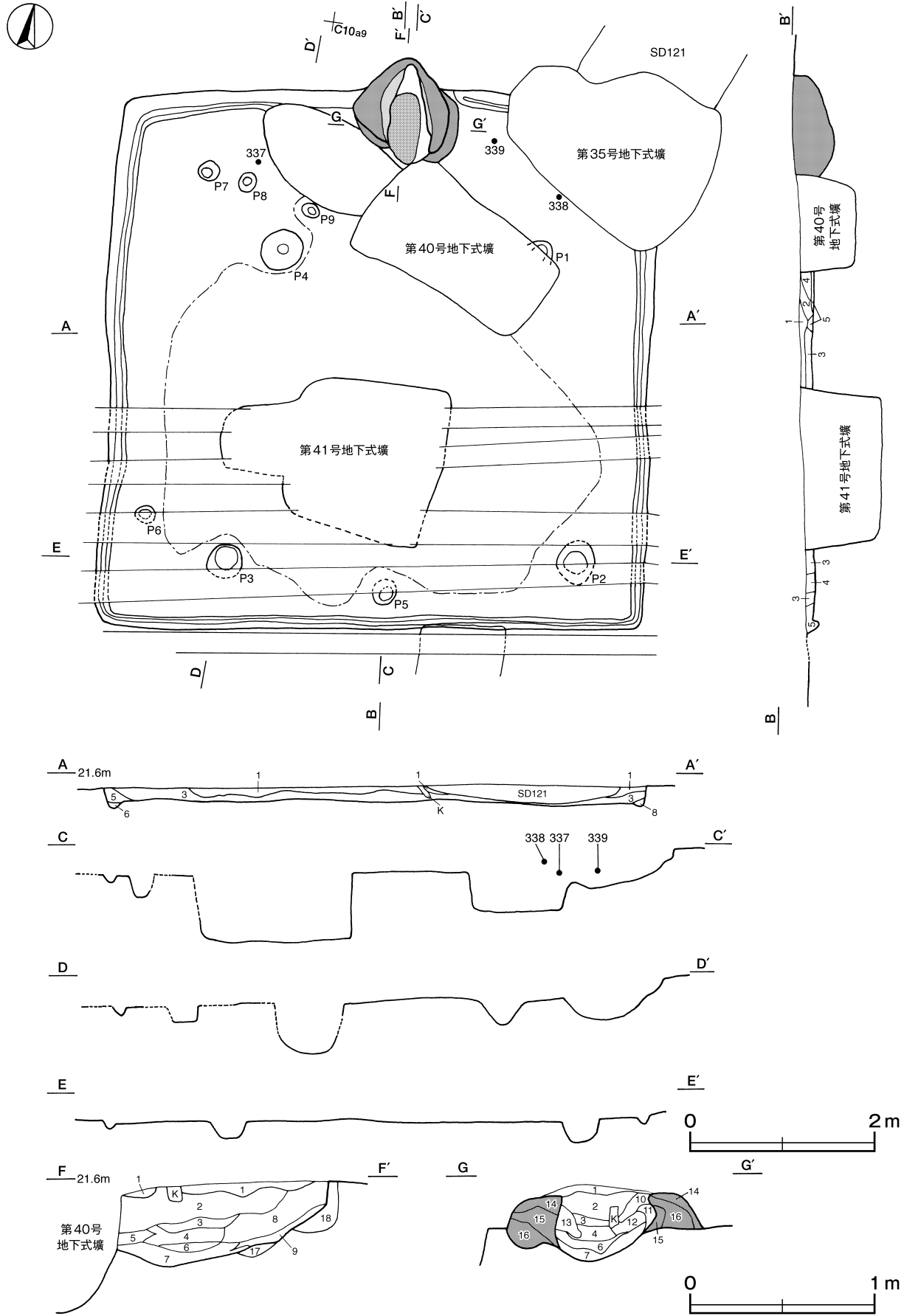
第2168号住居跡出土遺物観察表(第197図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
332	土師器	坏	[12.6](3.4)	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面放射状のヘラ磨き	覆土中層~下層	20%
333	土師器	坏	[13.8](4.2)	-	-	長石・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	P3覆土上層	5%
334	須恵器	坏	[9.0]	4.9	-	長石・石英	灰	良好	口ク口成形 底部回転ヘラ削り	覆土中層~下層	60% PL156
335	土師器	甕	[13.8](7.3)	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り 内面ヘラナデ 輪積痕	覆土	5% 口辺部煤付着
336	須恵器	甕	20.4	(11.0)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	口辺部外面3条の櫛描波状文 体部外面力キ目調整内面同心円状の当て具痕	覆土中層~下層	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP63	支脚	12.7	(8.6)	7.9	(659.6)	土(長石・石英)	ナデ・指頭痕 一部欠損	竈覆土下層	

第2171号住居跡(第198・199図)

位置 調査区西部のC10a9区,標高21.5mほどの南への緩斜面に位置している。



第198图 第2171号住居跡实测图

重複関係 第35・40・41号地下式墳，第121号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北東コーナー部を第35号地下式墳に掘り込まれ，耕作により南側も削平されているが，長軸5.85m，短軸5.77mの方形で，主軸方向はN - 5° - Wである。確認された壁高は8～10cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 確認された範囲は，ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅6～14cm，深さ4～8cmで，U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。竈前が第40号地下式墳に掘り込まれているが，焚口部から煙道部まで114cm，袖部幅128cmである。袖部は砂質粘土を主体に構築されている。火床部は床面を20cm掘りくぼめており，火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に34cm掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

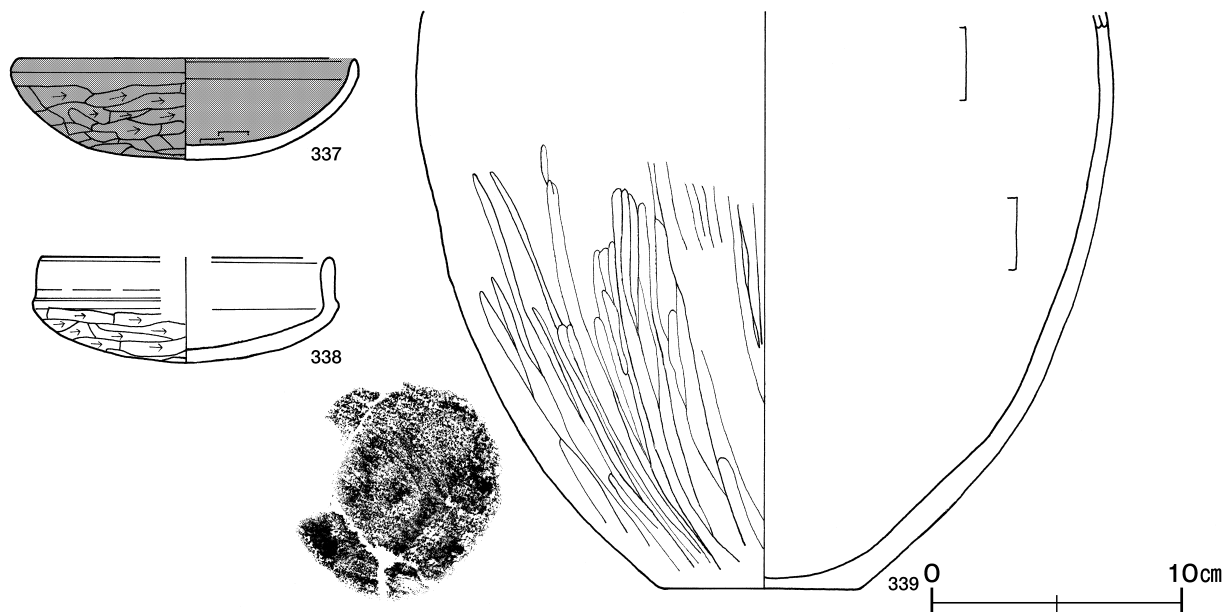
1	にぶい黄褐色	砂質粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	10	灰褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子微量
2	暗褐色	砂質粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	11	暗赤褐色	焼土ブロック中量，砂質粘土ブロック・ローム粒子微量
3	暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，炭化物・ローム粒子微量	12	にぶい赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
4	灰褐色	砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量	13	暗赤褐色	焼土ブロック少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量
5	暗褐色	砂質粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	14	灰褐色	砂質粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
6	暗赤褐色	焼土ブロック少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量	15	暗赤褐色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
7	灰黄褐色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量	16	灰黄褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量
8	暗赤褐色	焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量	17	暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量
9	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	18	灰黄褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 9か所。P1～P4は主柱穴で，深さ18～27cmである。P5は深さ29cmで，南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから見て，出入口施設に伴うピットと考えられる。P6～P9の性格は不明である。

覆土 6層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量	4	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	褐色	ロームブロック微量	5	灰褐色	砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
3	褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量	6	灰褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量



第199図 第2171号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片266点（坏58，甕類208），須恵器片11点（坏7，高台付坏1，甕類3），不明鉄製品1点のほか，混入した陶器片1点も出土している。主に北側の覆土上層に集中している。339は北壁際の覆土下層から出土し，住居の廃絶時に廃棄されたものと考えられる。337・338は北壁寄りの床面と覆土下層から出土し，廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

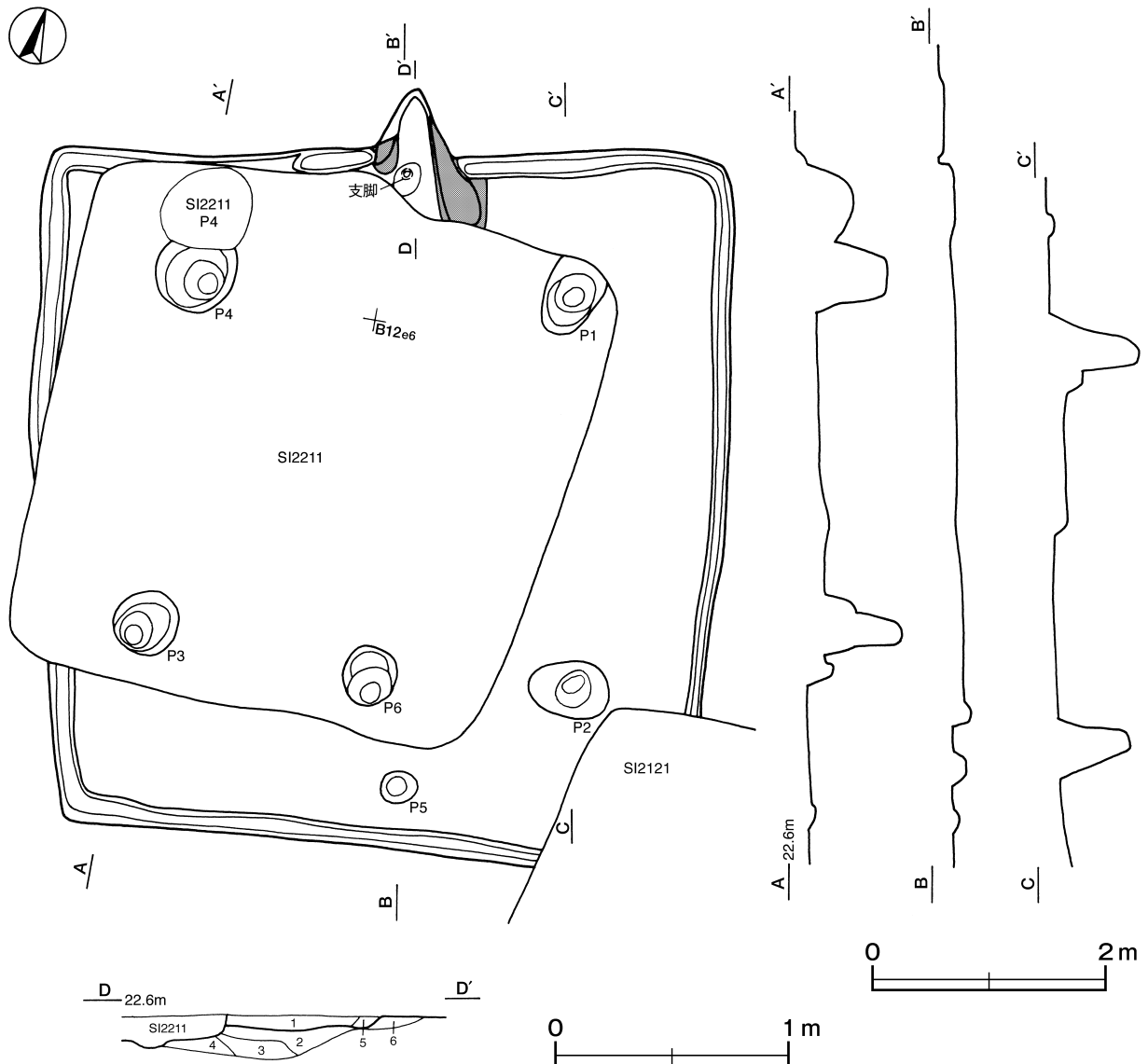
所見 時期は，出土土器から7世紀前葉と考えられる。

第2171号住居跡出土遺物観察表（第199図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
337	土師器	坏	13.4	4.0	-	石英	黒	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面 ヘラナデ	床面	95% PL156
338	土師器	坏	[11.2]	(4.2)	-	雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土下層	50%
339	土師器	甕	-	(22.9)	7.8	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面下半ヘラ磨き 内面ヘラナデ	覆土下層	70%

第2173号住居跡（第200図）

位置 調査区中央部のB12e5区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。



第200図 第2173号住居跡実測図

重複関係 第2121・2211号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.02m，短軸5.96mの方形で，主軸方向はN - 9° - Wである。壁高は4cmほどで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。壁下には，幅18～20cm，深さ5cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。第2211号住居に掘り込まれて，上部が削平されているため全体の形状は不明である。袖部は覆土の状況から砂質粘土で構築されていたと推定される。火床部は床面を浅く皿状に掘りくぼめており，火を受けて赤変している。煙道部は壁外に50cmほど掘り込まれ，外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1	にぶい赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量	4	褐色	ロームブロック中量
		炭化物微量	5	褐色	ローム粒子多量
2	にぶい赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量	6	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量，ロームブロック・砂質粘土粒子少量
3	暗赤褐色	ロームブロック・焼土粒子少量			

ピット 6か所。P1～P4は支柱穴で，深さは61～80cmである。P5は深さ15cmで，南壁際の竈に対峙する位置にあることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ63cmで，性格は不明である。

遺物出土状況 土師器片10点（坏1，甕類9），土製品1点（支脚）が出土している。

所見 覆土がほとんど残っていないため堆積状況が不明であり，出土遺物の数も少ないため時期の特定は難しいが，重複関係や住居形態から古墳時代後期と考えられる。

第2174号住居跡（第200・201図）

位置 調査区西部のC10d7区，標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第41号方形竈穴遺構，第2518～2520・2258・2803～2806・2829号土坑，第2566号土坑（墓墳）に掘り込まれている。また，南北方向の耕作による攪乱を受けている。

規模と形状 長軸7.44m，短軸6.68mの方形と推定され，主軸方向はN - 14° - Wである。壁高は8cmほどで，外傾して立ち上がっている。

床 削平されており詳細は不明である。硬化面も一部しか確認されていない。北・西の壁下には，幅10cm，深さ4cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。上部が削平されているため全体の形状は不明であるが，焚口部から煙道部まで93cm，袖部幅97cmである。袖部は，床面とほぼ同じ高さを基部とし砂質粘土で構築されている。煙道部は壁外に18cm掘り込まれている。

竈土層解説

1	暗褐色	焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量	7	褐色	ローム粒子中量
2	暗褐色	ローム粒子少量，焼土ブロック微量	8	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3	褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	9	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子微量
4	褐色	ローム粒子中量，焼土粒子微量	10	褐色	ローム粒子中量，砂質粘土粒子微量
5	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量			
6	灰黄褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子微量			

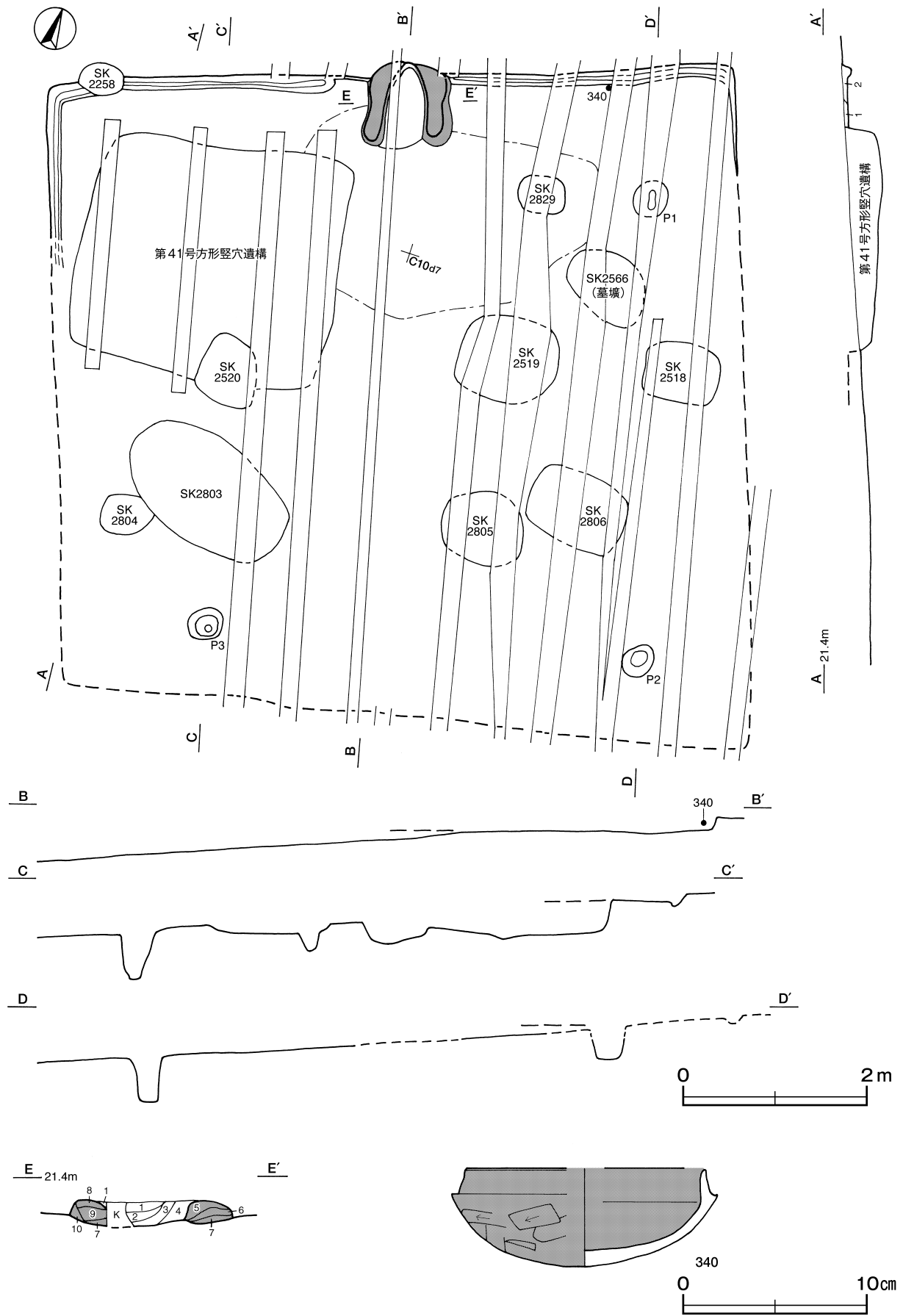
ピット 3か所。P1～P3は支柱穴で，深さは35～52cmである。

覆土 2層に分けられる。覆土が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量
2	褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片40点（坏9，壺1，甕類30），須恵器片2点（坏，甕類）が出土している。その他，混入した陶器片1点，磁器片1点も出土している。340は北壁際の覆土下層から出土しており，住居廃絶時に



第201图 第2174号住居跡・出土遺物実測図

遺棄されたものと考えられる。

所見 出土遺物の数が少ないため時期の特定は難しいが、出土土器と住居形態から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。

第2174号住居跡出土遺物観察表（第201図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
340	土師器	坏	[13.0]	5.3	-	石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	65%

第2176号住居跡（第202～204図）

位置 調査区中央部のB11g0区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2293号住居跡を掘り込み，第2167号住居，第125号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.87m，短軸5.72mの方形で，主軸方向はN-17°-Wである。壁高は14～39cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅10～15cm，深さ3～7cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。また，南壁際の床面には焼土が堆積している。

竈 北壁中央部に付設されている。右袖部および煙道部は耕作による攪乱で壊されている。袖部は，床面とほぼ同じ高さの地山面にローム混じりの砂質粘土を用いて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さの地山面を使用しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に38cm掘り込まれ，火床部から急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------|---------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量，焼土ブロック微量 | 3 極暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子微量 | 4 にぶい褐色 | ロームブロック中量，砂質粘土粒子少量 |

ピット 5か所。P1～P4は支柱穴で，深さは48～68cmである。P5は深さ41cmで，南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

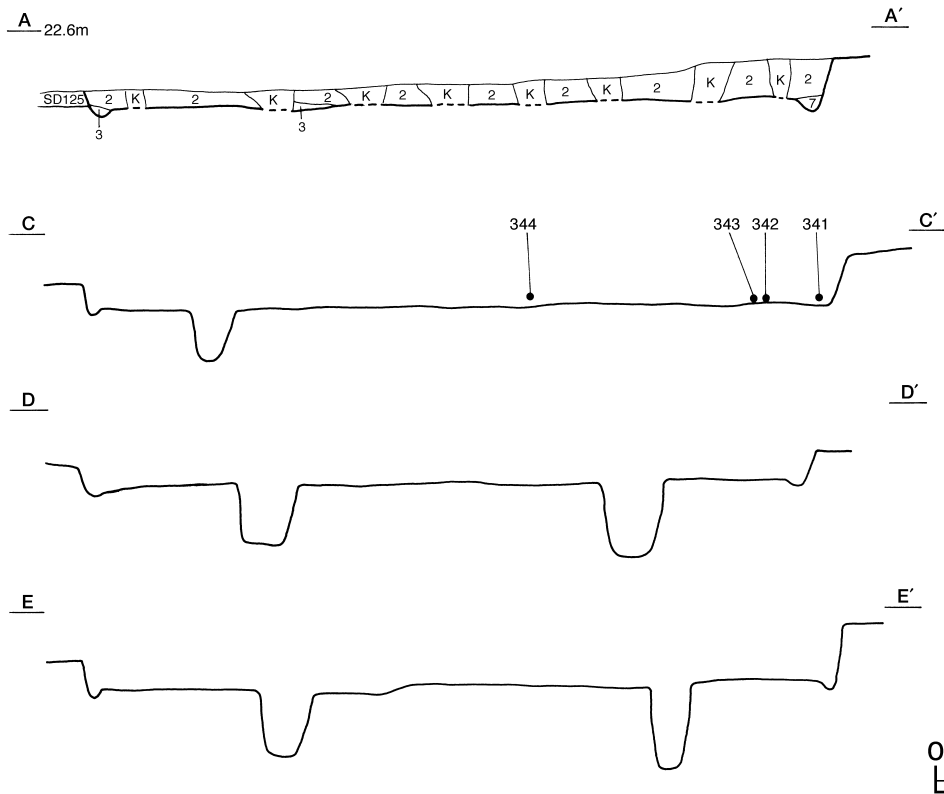
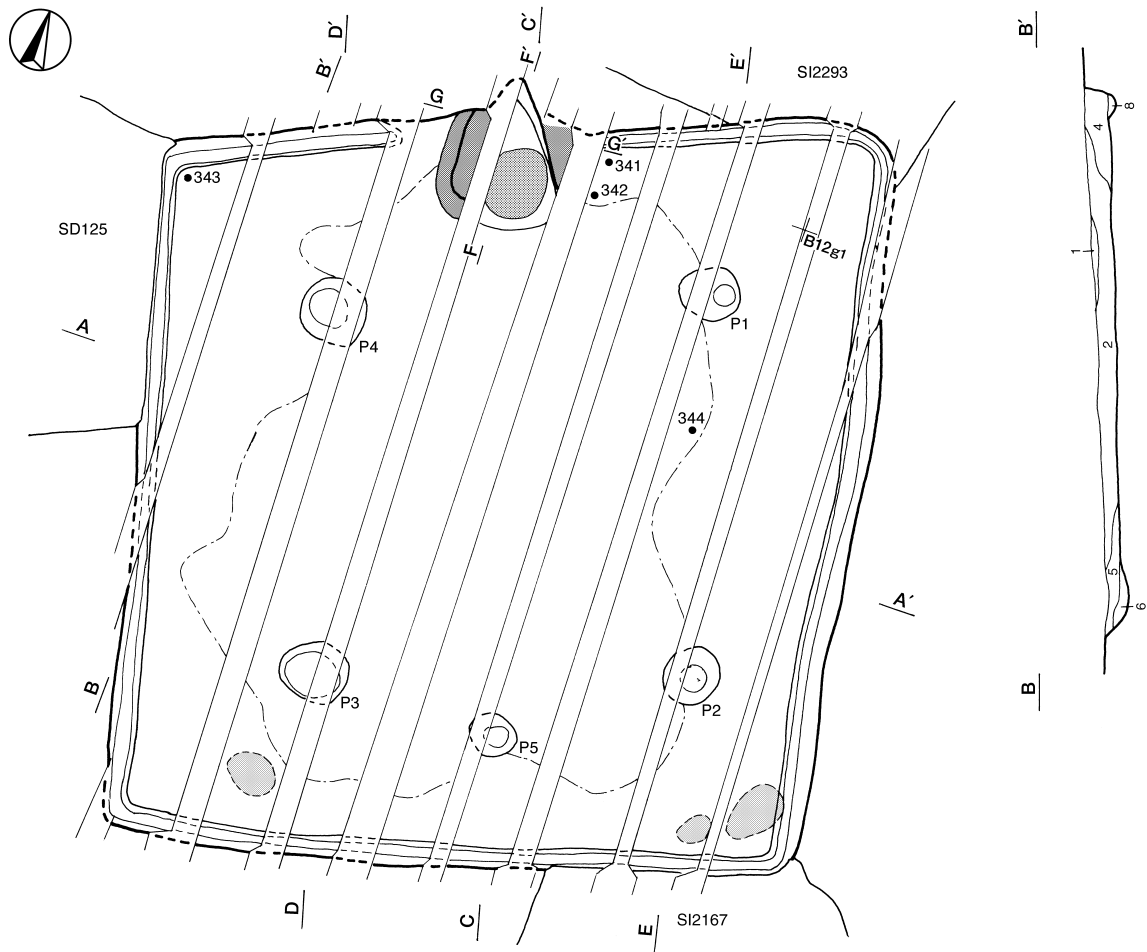
覆土 8層に分けられる。各層にロームブロックを含み，不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

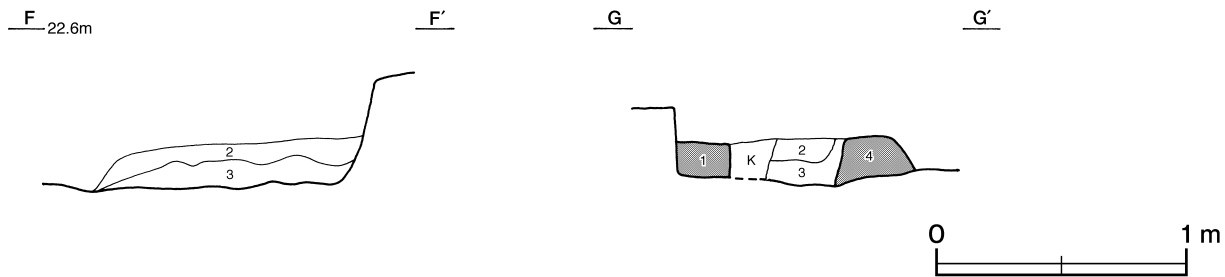
- | | | | |
|-------|------------------|-------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 6 褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土ブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片476点（坏87，高坏4，甕類385），鉄製品1点（刀子）が竈周辺および北東部を中心に出土している。また，須恵器片が52点出土しているが，耕作による攪乱で，重複している第2167号住居跡から混入したものと考えられる。341，342は竈右側の床面，343は北西コーナー部の床面から出土しているが，いずれも細片であり，住居の廃絶時に廃棄されたものと考えられる。344は中央部の覆土下層から出土しており，住居の廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

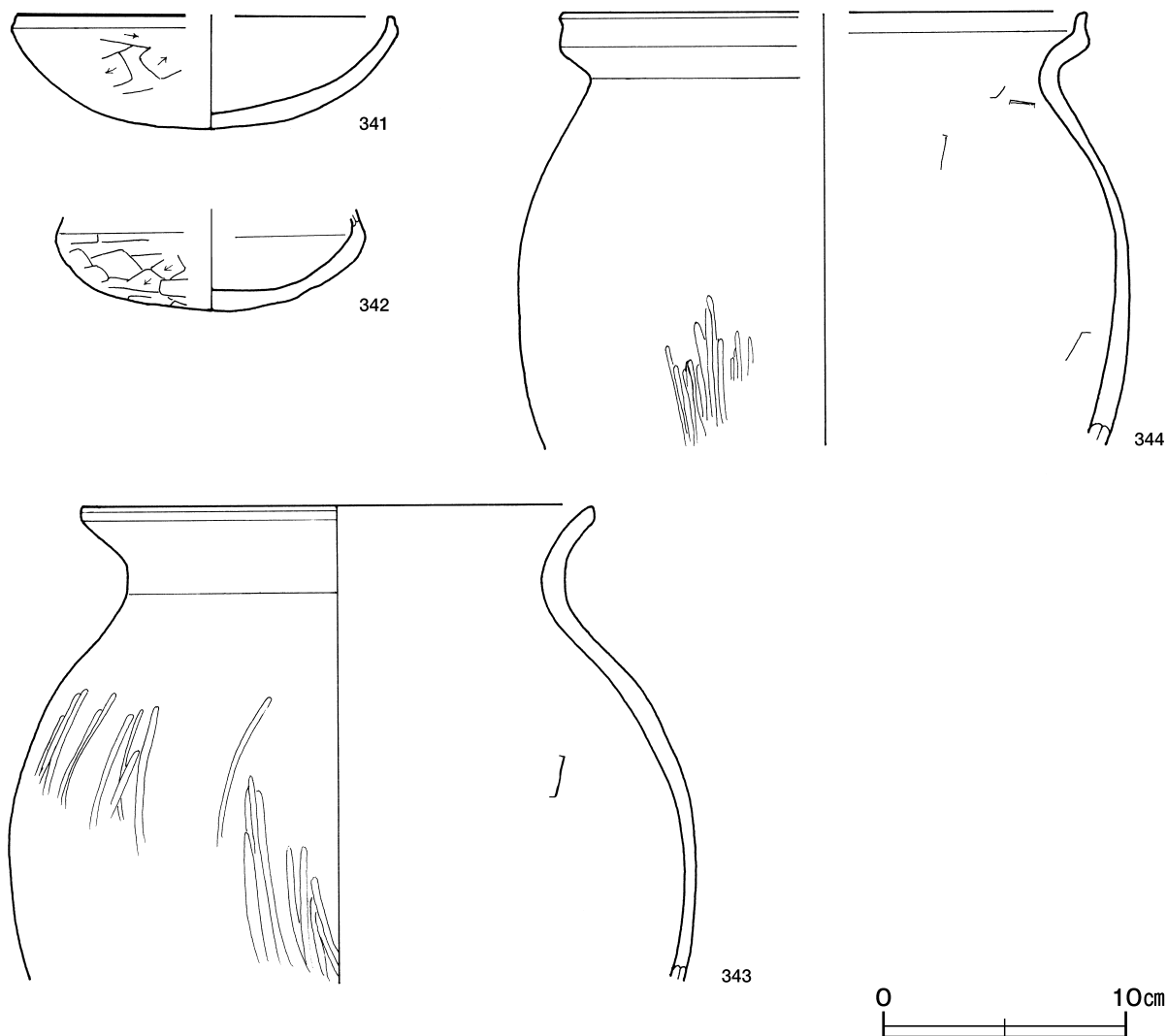
所見 南壁際の床面に焼土が堆積していることから，焼失住居と考えられる。時期は，出土土器および重複関係から6世紀後葉と考えられる。



第202图 第2176号住居跡実测图(1)



第203図 第2176号住居跡実測図(2)



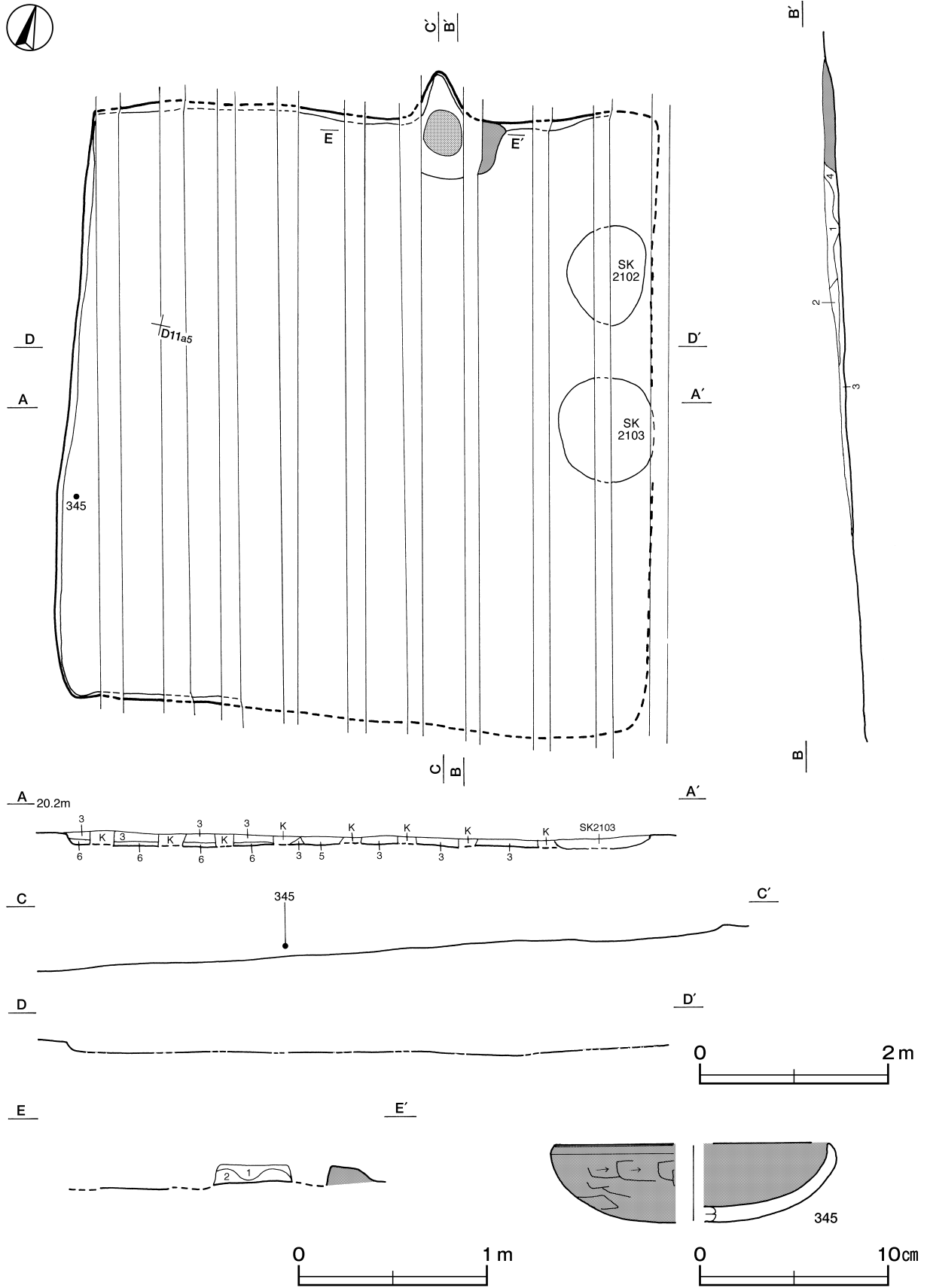
第204図 第2176号住居跡出土遺物実測図

第2176号住居跡出土遺物観察表 (第204図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
341	土師器	坏	[15.2]	4.6	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	50%
342	土師器	坏	-	(4.0)	-	長石・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	20%
343	土師器	甕	20.8	(19.5)	-	長石・石英・雲母	明灰褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ磨き 内面へラナデ	床面	20%
344	土師器	甕	[21.3]	(17.6)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ磨き 内面へラナデ	覆土下層	10%

第2177号住居跡（第205図）

位置 調査区中央部のC11j5区、標高20mほどの平坦な台地上に位置している。



第205図 第2177号住居跡・出土遺物実測図

重複関係 第2102・2103号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南東部は床面が削平された状態で検出されている。硬化面の範囲から、主軸方向はN - 14° - Wで、長軸6.27m、短軸は6.0mほどの方形と推定される。壁高は東壁際で10cmで、外傾して立ち上がっている。
床 ほぼ平坦で、全体が硬化している。

竈 北壁中央部の東寄りに付設されている。左袖部は耕作による攪乱で壊されており、遺存しない。右袖部は砂質粘土で構築されている。確認できた部分の規模は、焚口部から煙道部まで113cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さの地山面を使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に48cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 にぶい褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック微量 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・砂質粘土粒子少量

覆土 6層に分けられる。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・粘土ブロック少量 4 黒褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック少量
2 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土ブロック微量 5 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
3 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量 6 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片82点（坏19、甕類63）、須恵器片3点（坏1、甕類2）、土製品1点（玉）が散在した状態で出土しているが、いずれも細片である。345は、西壁際の覆土下層から出土しており、住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉以前と考えられる。

第2177号住居跡出土遺物観察表（第205図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
345	土師器	坏	[14.4]	4.2	-	長石・石英・雲母	橙・黒褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	40%

第2178号住居跡（第206図）

位置 調査区中央部のC11h5区、標高20.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2116・2118・2119・2138・2139号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作により削平を受け、東西軸4.80m、南北軸1.60mだけが確認された。主軸方向はN - 10° - Wである。確認された範囲での壁高は4cmで、外傾して立ち上がっている。

床 確認された範囲は、ほぼ平坦である。

竈 北壁中央部に付設されている。耕作により削平され、煙道部は壁外に54cm以上掘り込まれていることが確認された。

竈土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 3 灰褐色 ロームブロック中量
2 灰褐色 ロームブロック微量 4 にぶい赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量

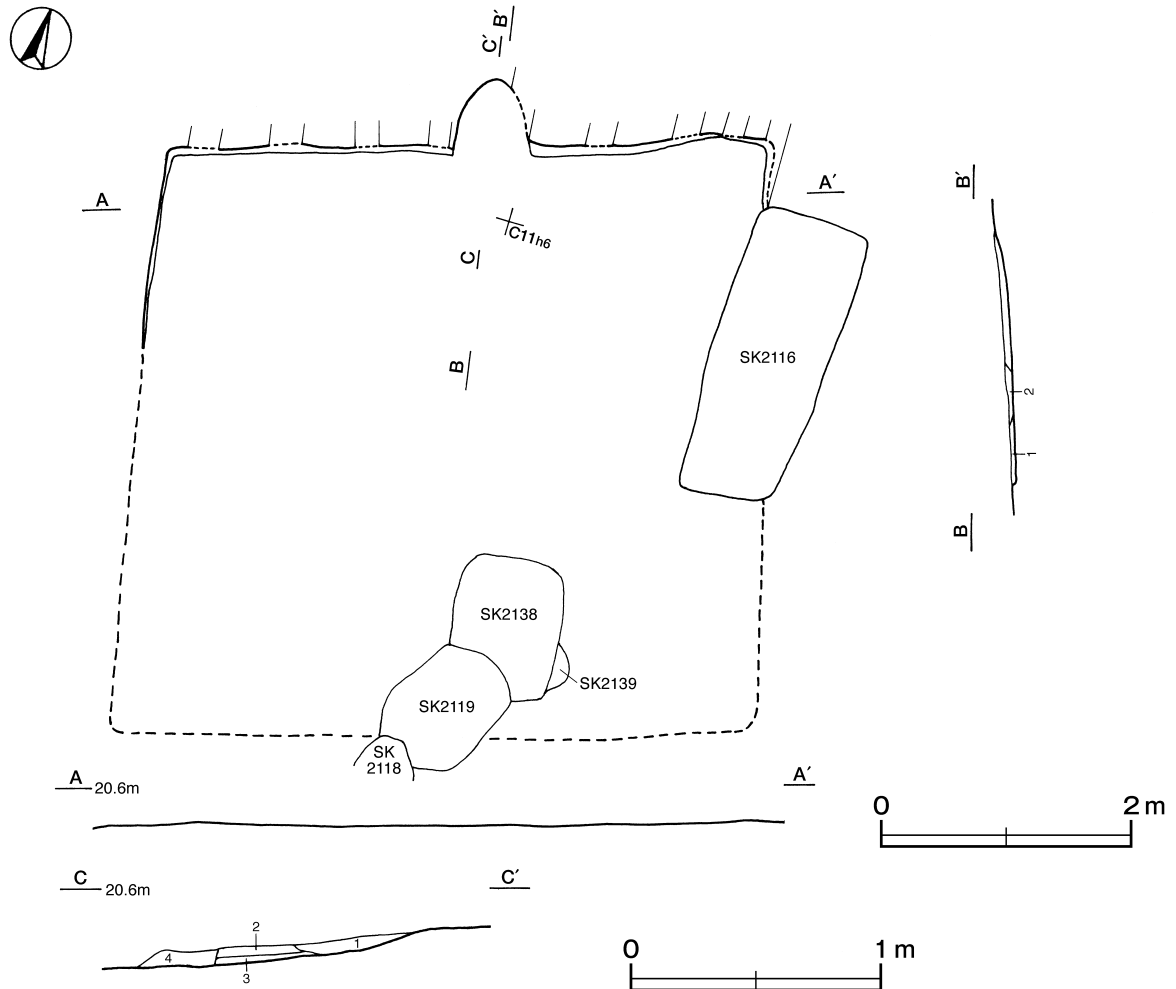
覆土 2層に分けられる。覆土が薄く堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック中量
2 褐灰色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片61点(坏7, 甕類54), 須恵器片29点(坏7, 蓋1, 壺1, 甕類18, 甑1, 瓶1)のほか, 混入した土師質土器片1点, 陶器片5点, 磁器片3点も出土している。いずれも細片である。

所見 時期は, 出土土器から古墳時代後期と考えられる。



第206図 第2178号住居跡実測図

第2184号住居跡 (第207図)

位置 調査区中央部のC12i2区, 標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第14号不明遺構に掘り込まれている。

規模と形状 南部を第14号不明遺構に掘り込まれ, さらに東部は農道となっているため, 東西軸は3.31m, 南北軸は2.98mだけが確認された。主軸方向N - 17° - Wの方形または長方形と推定される。また, 床面が露出した状態で検出されている。

床 特に硬化した部分は認められない。確認された部分の壁下には, 幅13~16cm, 深さ3~6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

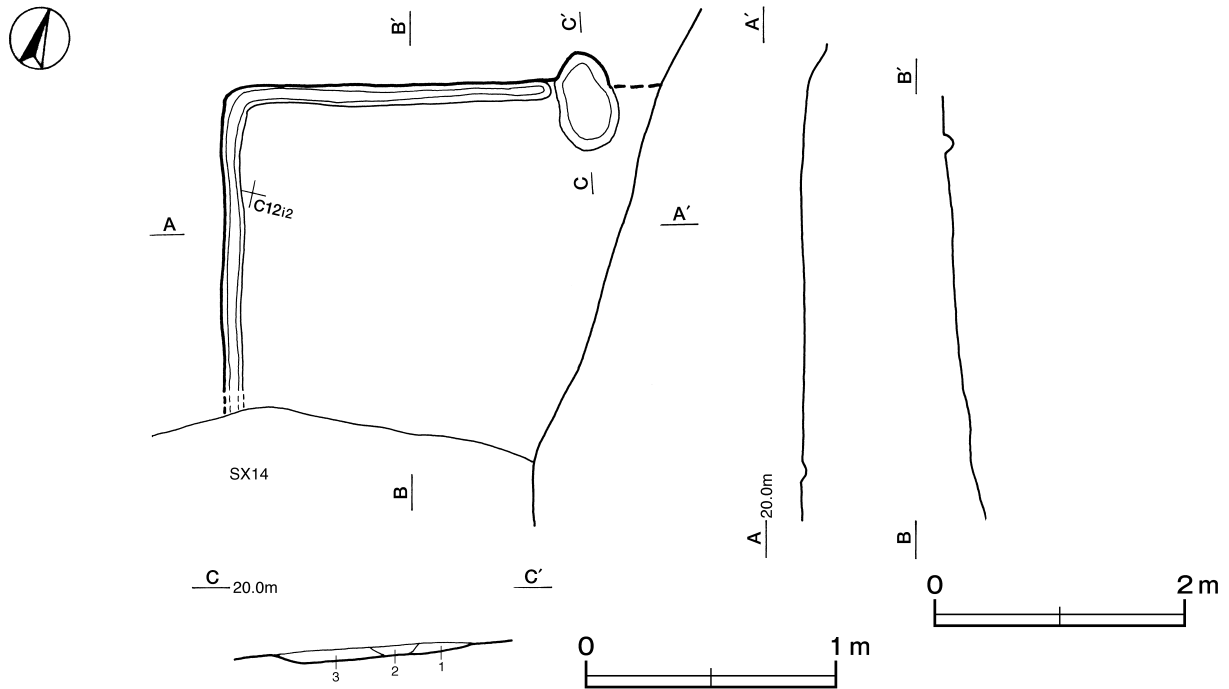
竈 北壁に付設されている。遺存状態が悪く, 火床部だけが確認された。火床部は床面を皿状に掘りくぼめて使用しており, 火床面は火を受けてやや赤変している。

竈土層解説

- 1 黒褐色 砂質粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
- 2 灰褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子少量

遺物出土状況 土師器片1点（甕類）が出土している。

所見 出土土器は1点の細片であるが，時期は，住居の主軸方向および規模から古墳時代後期と考えられる。



第207図 第2184号住居跡実測図

第2185号住居跡（第208図）

位置 調査区南部のD11a0区，標高19.5mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2153号住居，第336号掘立柱建物，第119号溝，第2419・2907・2908号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南西部を第2153号住居，南部を第119号溝に掘り込まれており，東西軸6.34m，南北軸は3.55mだけが確認された。主軸方向N - 8° - Eの方形または長方形と推定される。壁高は2～7cmであるが，覆土が薄いため立ち上がりは不明である。また，中央部から南部は床面が露出した状態で検出されている。

床 ほぼ平坦で，竈前部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。煙道部を第2907号土坑，左袖部を第2908号土坑に掘り込まれており，右袖部と火床部だけが遺存する。確認された部分の規模は，袖部幅112cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さであり，火を受けてわずかに赤変している。

竈土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量
- 2 にぶい赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量

ピット 2か所。P1は深さ29cm，P2は深さ50cmでともに支柱穴である。

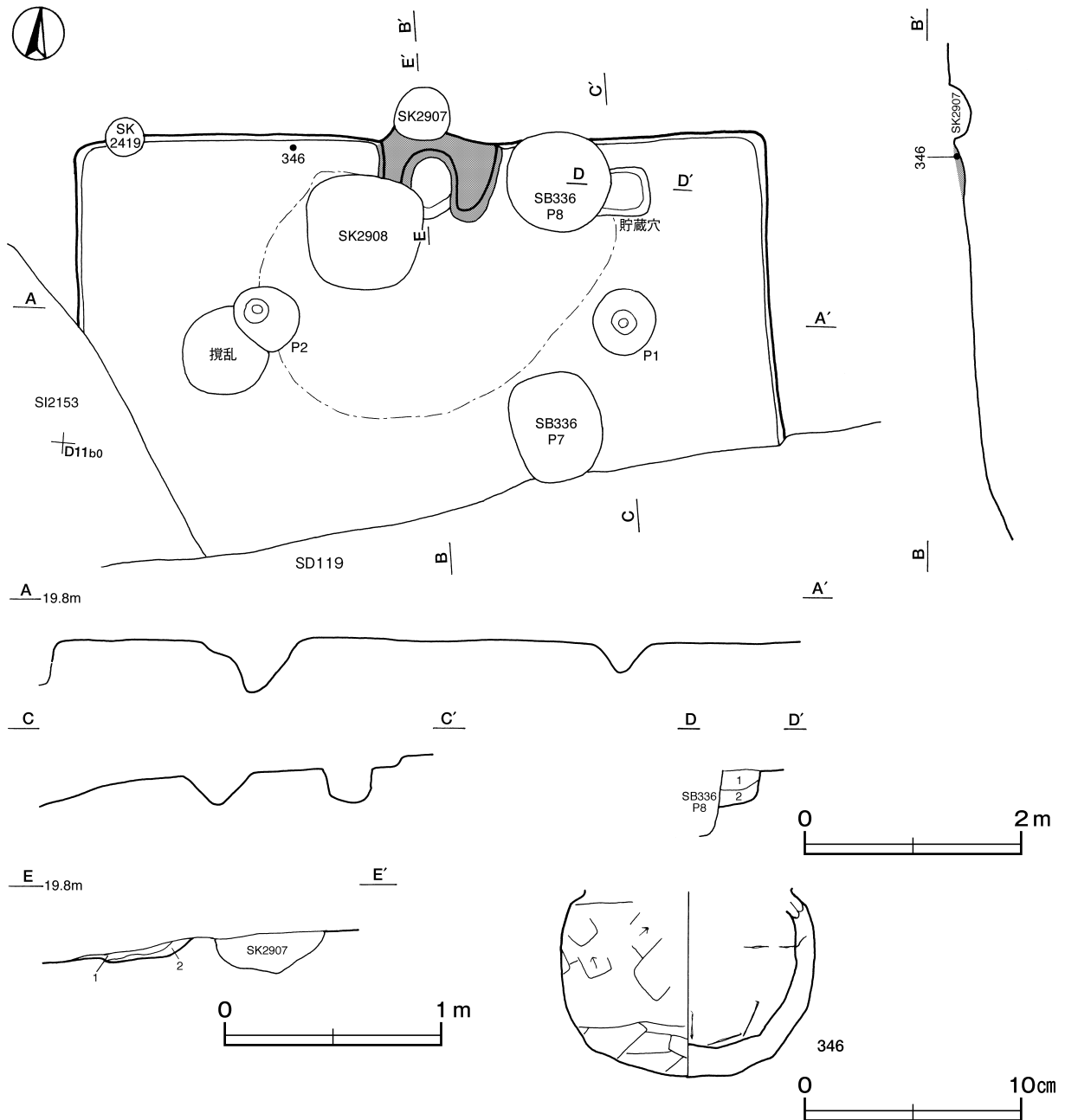
貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。西部を第336号掘立柱建物に掘り込まれており，長軸は44cm，短軸は39cmだけが確認された。確認された部分の形態から，隅丸長方形であると推定され，深さは34cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がり，覆土は自然堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量 粘土粒子少量 焼土ブロック微量 2 黒褐色 ロームブロック、粘土粒子少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片20点（坏1，甕類18，ミニチュア土器1）が散在した状態で出土しているが、いずれも細片である。また、混入した須恵器片4点も出土している。346は竈袖左側の床面から出土しており、住居の廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器および重複関係から6世紀後半と考えられる。



第208図 第2185号住居跡・出土遺物実測図

第2185号住居跡出土遺物観察表（第208図）

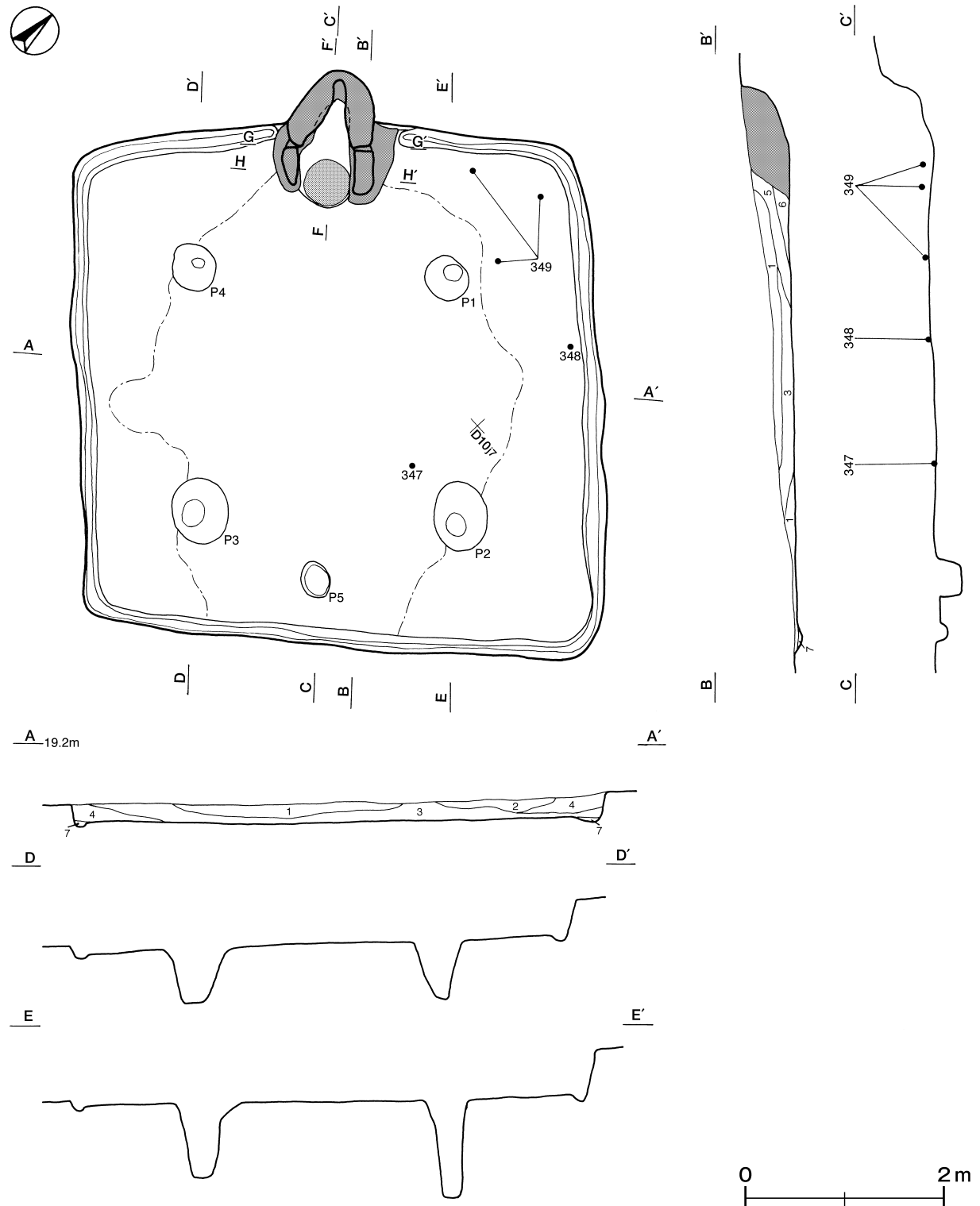
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
346	土師器	小形甕	-	(8.6)	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部外面ヘラ削り 輪稜痕 内面ヘラナデ 輪稜痕	床面	35%

第2187号住居跡 (第209～211図)

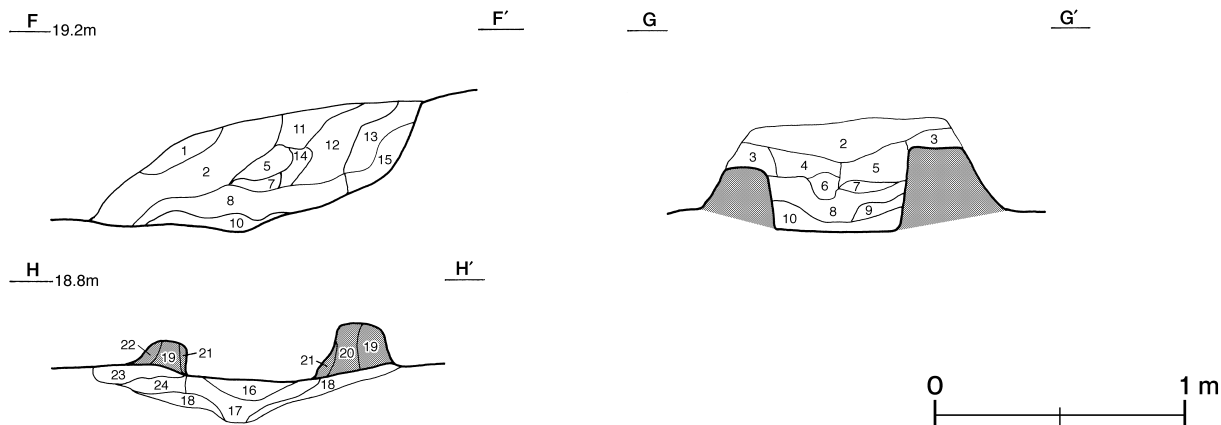
位置 調査区南西部のD10j6区、標高18.5mほどの南への緩斜面に位置している。

規模と形状 長軸5.26m、短軸5.19mの方形で、主軸方向はN-45°-Wである。壁高は4～44cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、竈前部から南壁際まで踏み固められている。壁下には、幅11～14cm、深さ3～6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。



第209図 第2187号住居跡実測図(1)



第210図 第2187号住居跡実測図(2)

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで134cm，袖部幅121cmであり，袖部は砂質粘土を用いて構築されている。火床部は床面を18cm皿状に掘りくぼめた後床面とほぼ同じ高さまで埋め戻して使用しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。焼け締まりが強いことから，長期にわたって竈が使用されていたと考えられる。煙道部は壁外に51cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。第2・5・7・11・12・14層は，天井部の崩落層である。

竈土層解説

1 褐 灰 色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土ブロック微量	11 灰 褐 色	砂質粘土粒子多量，焼土ブロック少量
2 灰 褐 色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量	12 灰 褐 色	砂質粘土粒子多量，ロームブロック・焼土ブロック少量
3 黒 色	砂質粘土粒子中量，ロームブロック微量	13 暗 褐 色	砂質粘土粒子中量，ロームブロック少量
4 灰 褐 色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量，炭化物微量	14 灰 褐 色	ロームブロック・砂質粘土粒子中量，焼土粒子炭化粒子少量
5 黒 褐 色	砂質粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量	15 暗 褐 色	砂質粘土粒子多量，ローム粒子少量
6 黒 褐 色	ロームブロック少量，焼土ブロック・砂質粘土粒子微量	16 にぶい赤褐色	焼土粒子多量
7 灰 褐 色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・ローム粒子少量	17 にぶい赤褐色	焼土粒子中量，砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量
8 暗 赤 褐色	焼土ブロック中量，砂質粘土粒子少量，ロームブロック・炭化物微量	18 灰 褐 色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量
9 暗 赤 褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量	19 灰 褐 色	砂質粘土粒子多量，焼土粒子少量
10 赤 褐 色	焼土粒子多量，ロームブロック微量	20 にぶい褐色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量
		21 黒 褐 色	砂質粘土粒子・焼土粒子中量
		22 褐 色	砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量
		23 暗 褐 色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量
		24 灰 褐 色	砂質粘土粒子少量，焼土ブロック微量

ピット 5か所。P1～P4は支柱穴で，深さは56～104cmである。P5は深さ27cmで，南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから見て，出入口施設に伴うピットと考えられる。

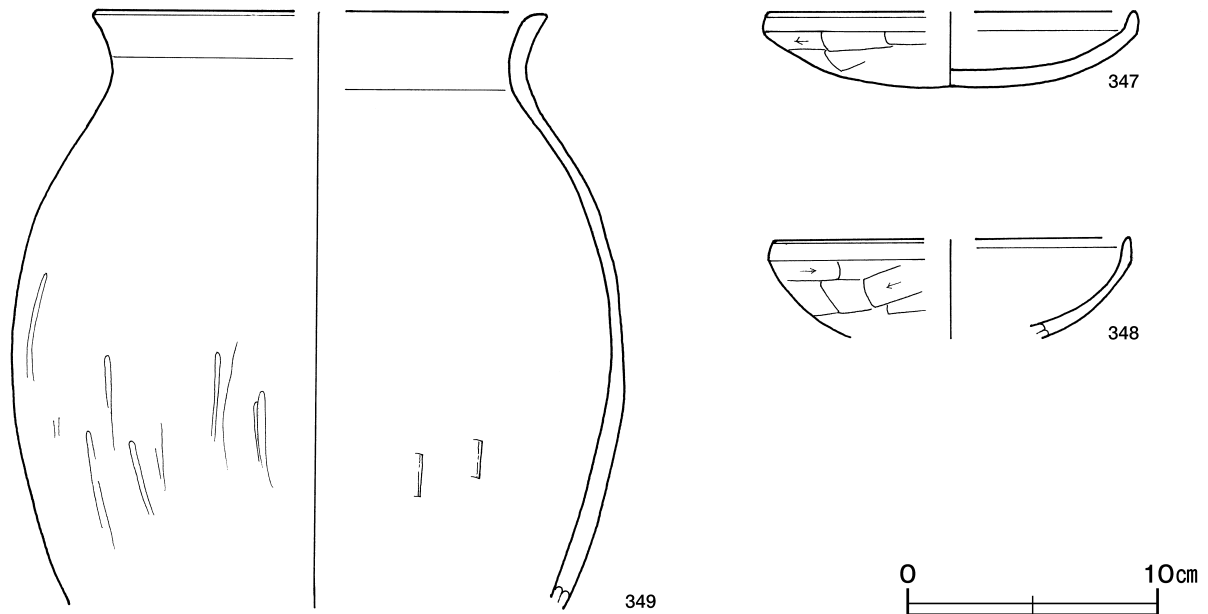
覆土 7層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 黒 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，粘土粒子微量	5 黒 褐 色	炭化粒子中量，焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子微量
2 黒 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	6 極暗褐色	焼土粒子中量，粘土ブロック・ローム粒子少量
3 黒 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量	7 暗 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量，粘土ブロック微量
4 暗 褐 色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土ブロック・粘土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片442点（坏96，甕類344，甌2），須恵器片7点（坏2，甕類5）が散在した状態で出土しているが，いずれも細片である。347は中央部南寄り，348は東壁際，349は北東コーナー部の床面から出土しており，いずれも住居の廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第211図 第2187号住居跡出土遺物実測図

第2187号住居跡出土遺物観察表（第211図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
347	土師器	坏	[14.6]	2.9	-	長石・石英	浅黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	床面	25%
348	土師器	坏	[14.2](3.9)	-	-	長石・雲母	浅黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	床面	25%
349	土師器	甕	[18.0]	23.6	-	長石・石英・雲母	黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら磨き 内面へらナデ	床面	35%

第2192号住居跡（第212・213図）

位置 調査区南西部のD10i4区，標高20mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2208～2210号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.14m，短軸4.39mの長方形で，主軸方向はN-26°-Wである。壁高は3～26cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，各壁近くまで踏み固められている。壁下には，幅10～12cm，深さ3～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部やや東寄りに付設されている。煙道部および左袖部上部は，第2209号住居によって掘り込まれている。遺存する部分の規模は，袖部幅98cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さであり，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 砂質粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 暗褐色 焼土粒子少量，ローム粒子微量 |
| 2 灰黄褐色 砂質粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 焼土ブロック少量，ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | |

ピット 5か所。P1～P4は支柱穴で，深さは50～55cmである。P5は深さ26cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 6層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

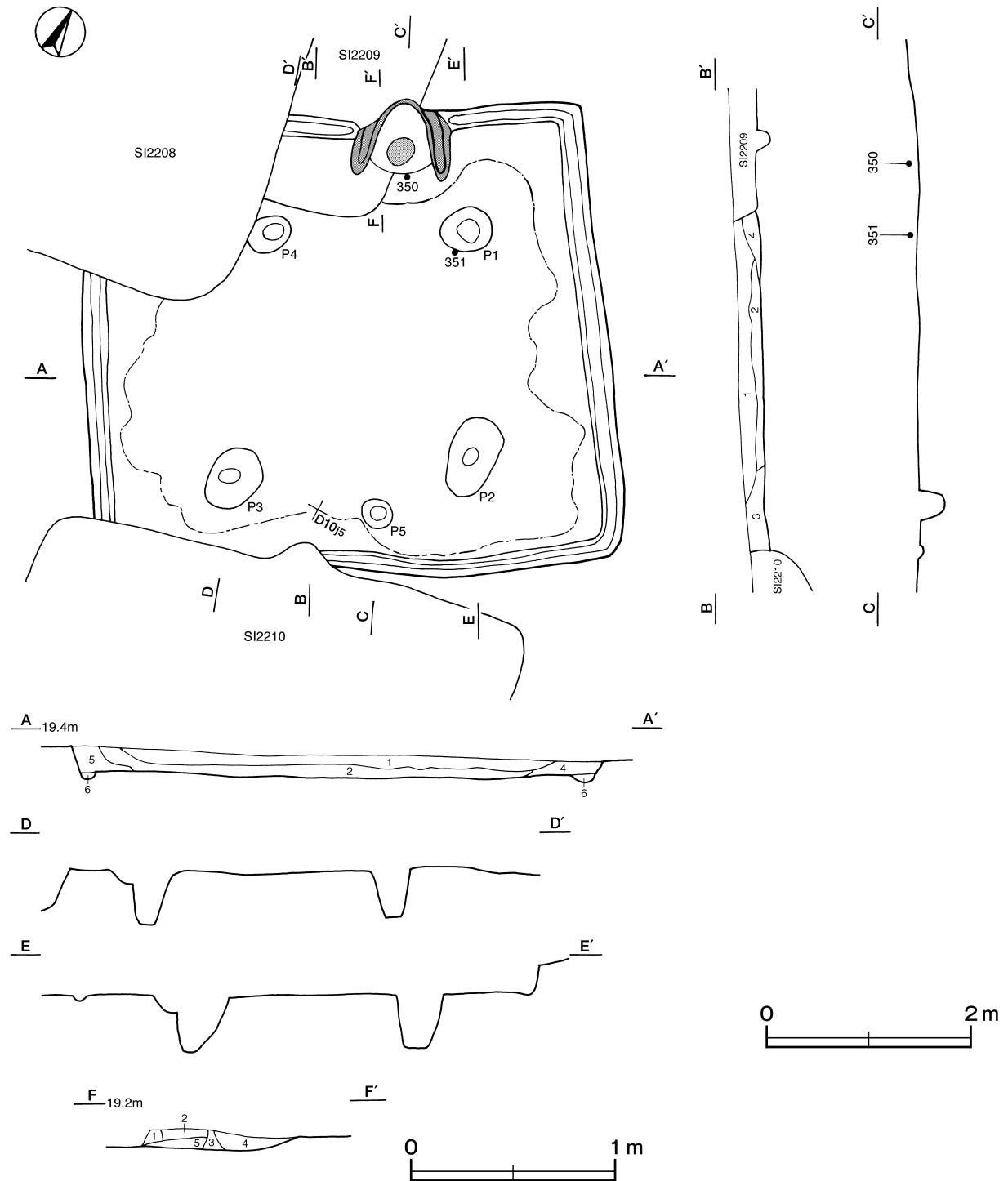
土層解説

- | | |
|------------------------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 2 褐色 ロームブロック中量，焼土ブロック少量 |
|------------------------------------|-------------------------|

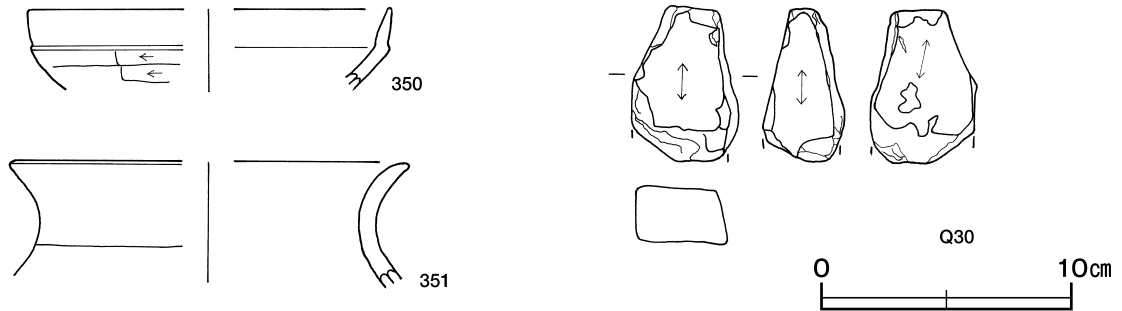
- | | |
|------------------------------------|---------------------------------------|
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 灰褐色 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子炭化粒子少量 | 6 暗褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片260点(坏85, 甕類175), 石器2点(砥石)が散在した状態で出土しているが, ほとんどが細片である。また, 混入した黒曜石1点, 須恵器片8点, 陶器片1点も出土している。350は竈前部, 351は北東部の覆土下層から出土しているが, いずれも細片であり, 住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。また, Q30は南西部の覆土から出土している。

所見 時期は, 出土土器および重複関係から7世紀前葉以前と考えられる。



第212図 第2192号住居跡実測図



第213図 第2192号住居跡出土遺物実測図

第2192号住居跡出土遺物観察表（第213図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
350	土師器	坏	[14.2]	(3.2)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	5%
351	土師器	甕	[15.4]	(4.9)	-	長石・石英	浅黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ	覆土下層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q30	砥石	(6.6)	4.5	3.6	(2.5)	凝灰岩	砥面4面	覆土	PL195

第2193号住居跡（第214～216図）

位置 調査区南西部のE 9 d5区，標高20mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2194号住居跡を掘り込み，第2014・2025号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.15m，短軸6.91mの方形で，主軸方向はN - 42° - Wである。壁高は24～45cmで，外傾して立ち上がっている。

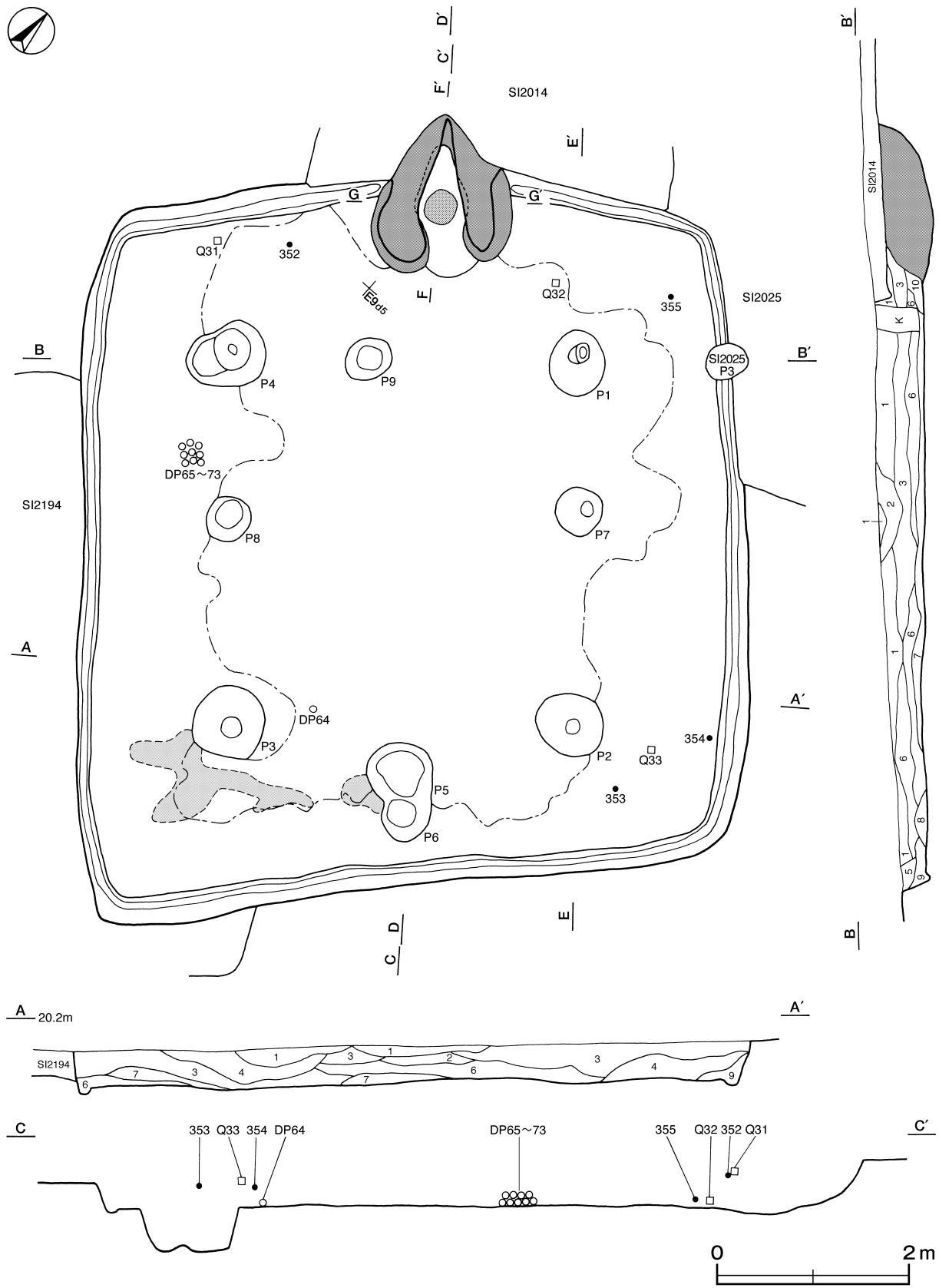
床 ほぼ平坦で，中央部および竈の左側が踏み固められている。各壁下には，幅9～13cm，深さ4～7cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。また，南西部の床面には焼土が堆積しており，焼土層は，南壁際で15cmほどの厚みを有している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで169cm，袖部幅147cmである。火床部は床面を皿状に掘りくぼめて使用しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。また，8cmほどの厚みで灰が堆積している。煙道部は壁外に63cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。第2層は，天井部の崩落層である。

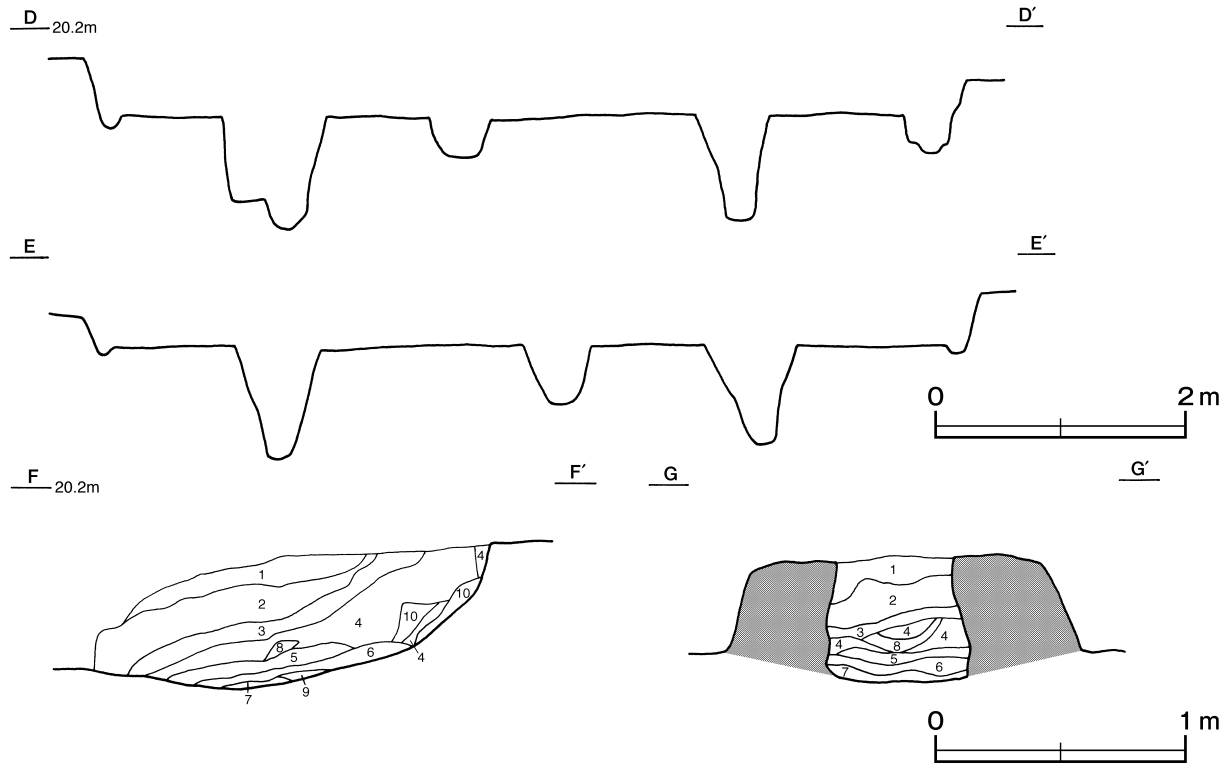
竈土層解説

1 灰褐色	砂質粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	7 暗赤褐色	焼土ブロック中量，ロームブロック少量
2 黄褐色	砂質粘土粒子多量，焼土ブロック・炭化粒子少量	8 にぶい赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
3 暗褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量	9 褐灰色	灰多量，ローム粒子・焼土粒子少量
4 黄褐色	砂質粘土粒子多量，焼土粒子少量	10 にぶい赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量，炭化物・ローム粒子少量
5 黄灰色	灰多量，砂質粘土粒子少量		
6 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子・灰中量，焼土ブロック少量		

ピット 9か所。P1～P4は支柱穴で，深さは85～94cmである。P5は深さ47cm，P6は深さ45cmで，ともに竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。また，土層断面から，P6からP5への柱の立て替えが想定される。P7は深さ45cmでP1とP2の中間，P8は深さ44cmでP3とP4の中間に，それぞれ位置している。また，P9は深さ30cmでP1とP4の中間で，竈の焚口を避けるように位置していることから，いずれも支柱穴と考えられる。



第214图 第2193号住居跡実測图(1)



第215図 第2193号住居跡実測図(2)

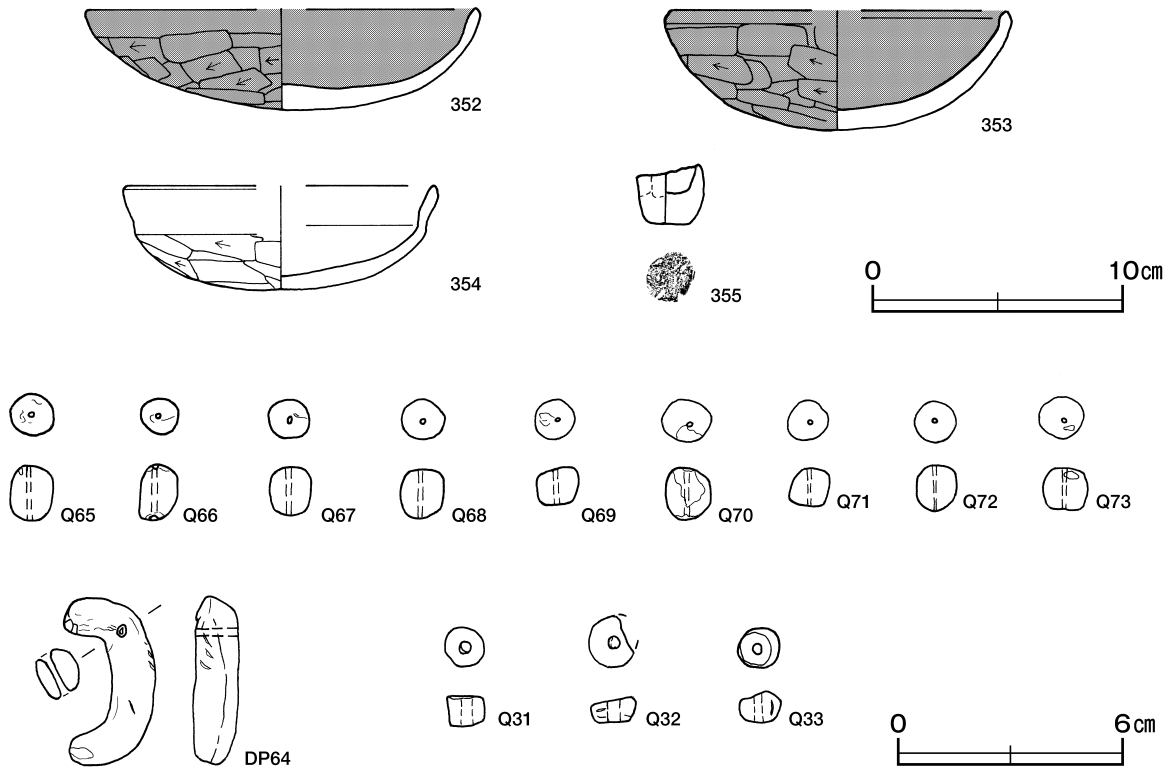
覆土 10層に分けられる。焼土ブロック，炭化物を含み，ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------|---------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子少量 | 7 極暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 炭化物・ローム粒子中量，焼土粒子少量 | 8 極暗赤褐色 | 焼土粒子多量，炭化粒子中量，ローム粒子少量 |
| 3 極暗褐色 | 炭化粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック少量 | 9 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量 | 10 暗褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量，焼土粒子少量 | | |
| 6 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量，粘土ブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片1492点（坏402，高坏5，甕類1083，ミニチュア土器1，手捏土器1），須恵器片6点（坏1，甕類5），土製品14点（土玉10，勾玉1，支脚3），石製品4点（白玉），種子1点が散在した状態で出土している。遺物量は多いがほとんどが細片であり，出土層位は床面に堆積した焼土よりも上層である。352は北西部，353・354は南東コーナー部のいずれも覆土中層から出土しており，住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。DP65～DP73は西部の床面からまとまった状態で出土しており，住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。また，DP64は南西部の床面，Q31は北西コーナー部の覆土上層，Q32は北東部の床面，Q33は南東コーナー部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 床面に焼土が堆積し，覆土中に焼土が含まれることから，焼失住居と考えられる。時期は，出土土器および重複関係から6世紀後葉以前と考えられる。



第216図 第2193号住居跡出土遺物実測図

第2193号住居跡出土遺物観察表（第216図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
352	土師器	坏	[15.4]	4.1	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	覆土中層	60%
353	土師器	坏	[13.4]	4.7	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	覆土中層	50%
354	土師器	坏	[12.2]	4.1	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	覆土中層	30%
355	土師器	ミニチュア土器	2.5	2.4	1.7	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部内外面ナデ	覆土下層	100% PL168

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP64	勾玉	4.5	2.4	1.2	9.5	土(長石・石英)	孔径0.2cm ナデ 一方向の穿孔	床面	PL190

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP65	小玉	1.2	1.5	0.1	2.4	土(長石)	ナデ 一方向の穿孔	床面	PL190
DP66	小玉	1.0	1.5	0.1	1.5	土(長石・石英)	ナデ 一方向の穿孔	床面	PL190
DP67	小玉	1.1	1.3	0.1	1.6	土(長石・石英)	ナデ 一方向の穿孔	床面	PL190
DP68	小玉	1.2	1.3	0.2	1.8	土(石英)	ナデ 一方向の穿孔	床面	PL190
DP69	小玉	1.1	1.1	0.1	1.3	土(長石・石英)	ナデ 一方向の穿孔	床面	PL190
DP70	小玉	1.3	1.4	0.1	(1.9)	土(長石・石英)	ナデ 一方向の穿孔	床面	PL190
DP71	小玉	1.1	1.0	0.1	1.4	土(長石・石英)	ナデ 一方向の穿孔	床面	PL190
DP72	小玉	1.1	1.2	0.1	1.6	土(石英)	ナデ 一方向の穿孔	床面	PL190
DP73	小玉	1.2	1.1	0.1	1.6	土(長石・石英)	ナデ 一方向の穿孔	床面	PL190

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q31	白玉	1.0	0.8	0.3	1.3	滑石	円筒状 一方向の穿孔	覆土上層	
Q32	白玉	(1.2)	0.7	0.3	(1.2)	滑石	円筒状 一方向の穿孔	床面	
Q33	白玉	1.1	0.8	0.2	1.5	蛇紋岩	円筒状 一方向の穿孔	覆土上層	PL194

第2194号住居跡（第217・218図）

位置 調査区南西部のE 9 e4区，標高20mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2193号住居に掘り込まれている。

規模と形状 中央部から東部を第2193号住居に掘り込まれ，北西コーナー部は調査区域外である。長軸6.13m，短軸3.71mの長方形で，主軸方向はN - 35° - Wである。壁高は17~30cmで，外傾して立ち上がっている。

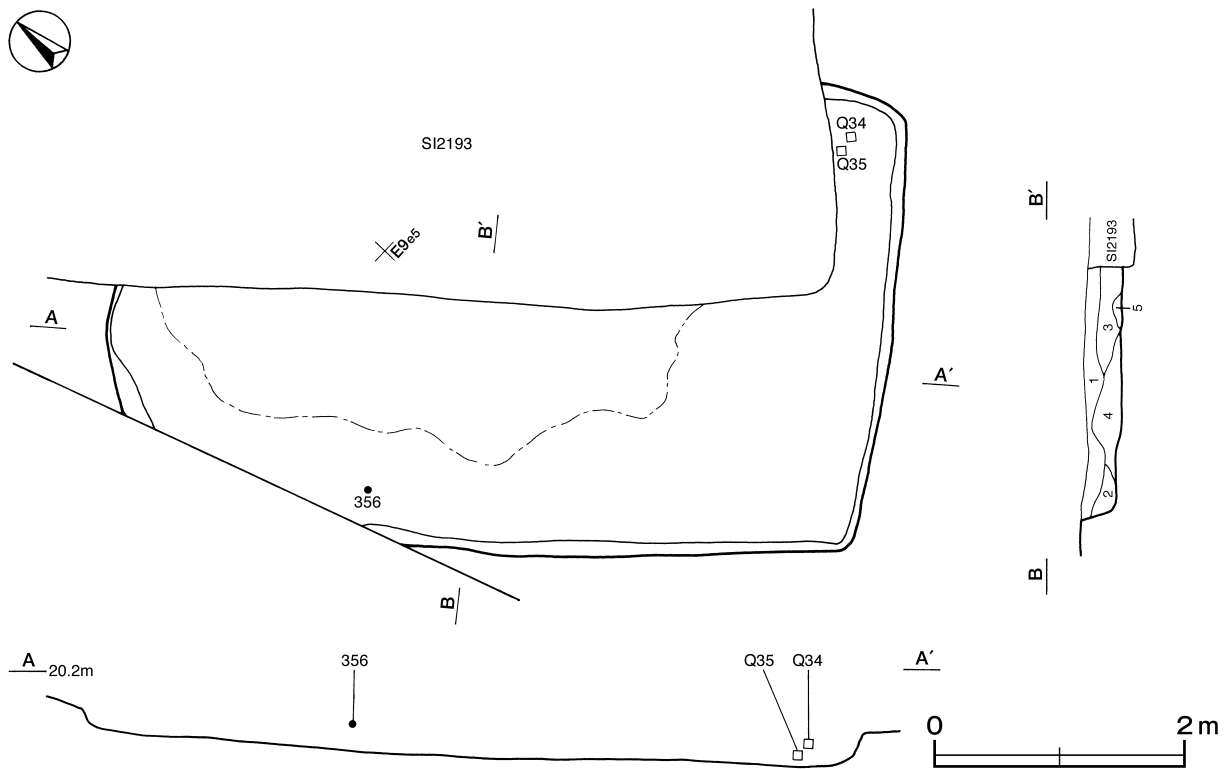
床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

覆土 5層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

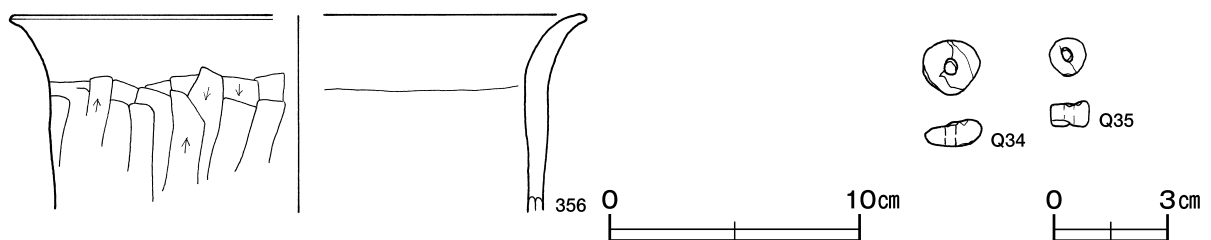
土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 炭化物中量，ロームブロック少量 | 5 灰褐色 | 粘土粒子多量，ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片62点（坏2，高坏1，甕類57，甑2），石製品2点（白玉）が散在した状態で出土しており，いずれも細片である。また，混入した縄文土器片1点も出土している。356は西部壁際の覆土中層から出土しており，住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。また，Q34は南東コーナー部の覆土中層，Q35は南東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。



第217図 第2194号住居跡実測図



第218図 第2194号住居跡出土遺物実測図

所見 長軸が短軸の1.65倍となる長方形を呈しているが、拡張した痕跡は認められない。また、壁溝および柱穴が認められないなど、古墳時代の住居としては特異な形態を示している。時期は、出土土器および重複関係から6世紀中葉以前と考えられる。

第2194号住居跡出土遺物観察表（第218図）

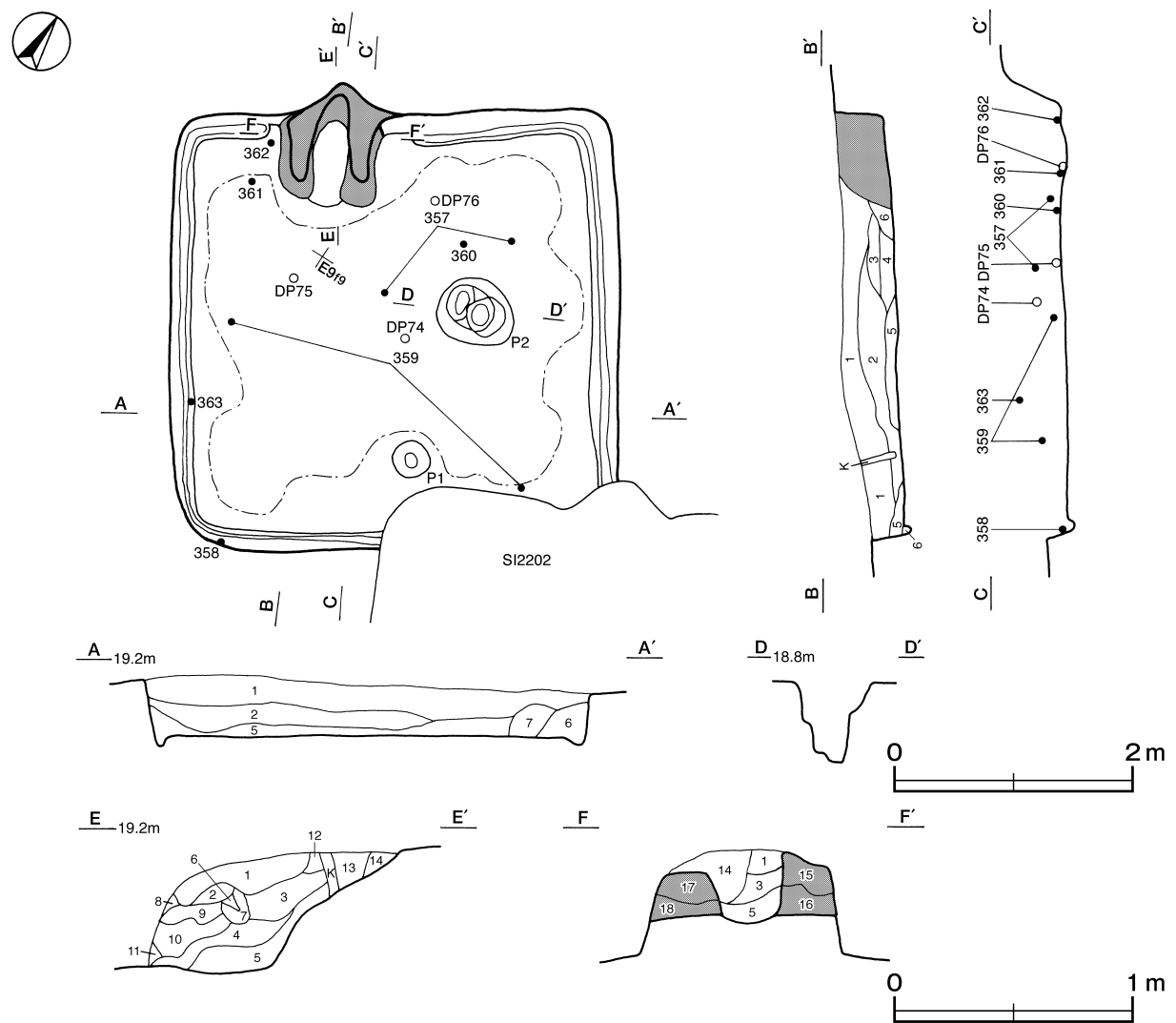
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
356	土師器	甑	[22.6]	(7.8)	-	長石・石英・赤色粒子	褐灰	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土中層	15%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q34	白玉	1.5	0.3	0.7	(2.2)	滑石	円筒状 一方向の穿孔	覆土下層	PL194
Q35	白玉	1.0	0.3	0.7	(1.0)	滑石	円筒状 一方向の穿孔	覆土中層	PL194

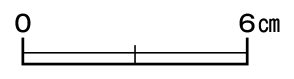
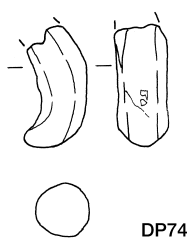
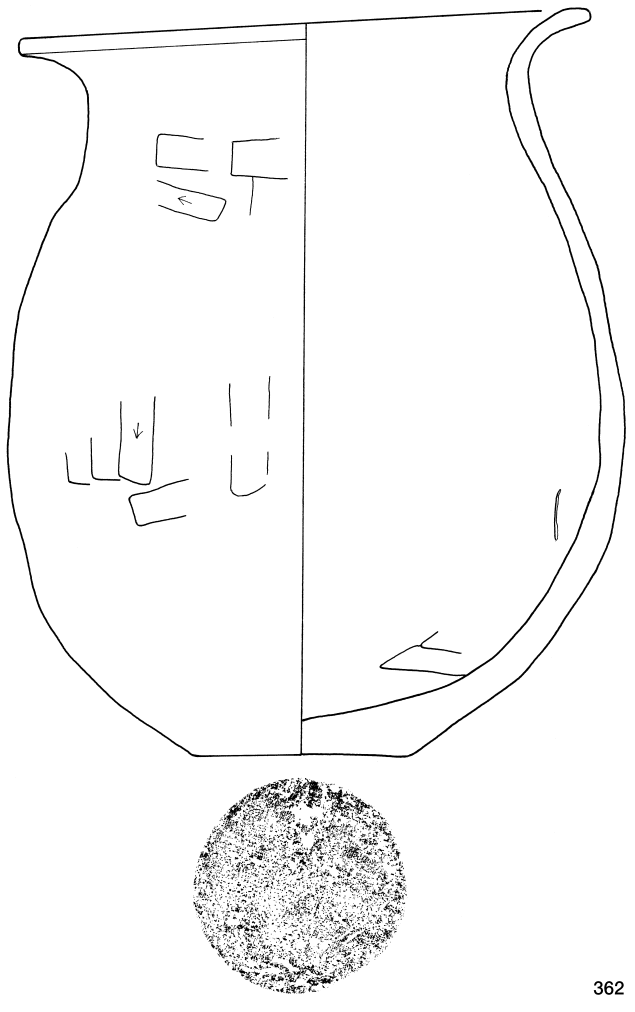
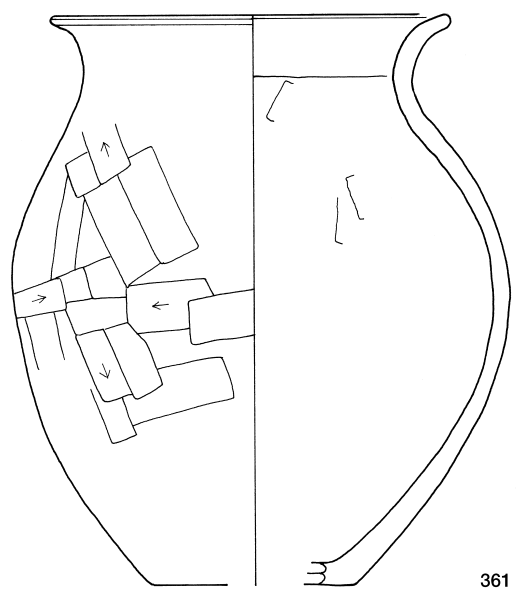
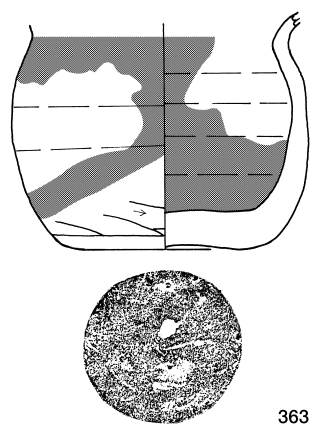
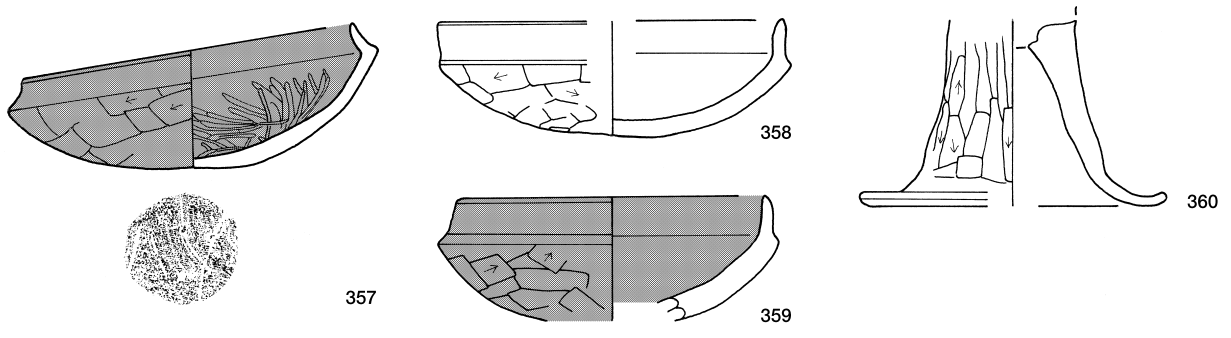
第2196号住居跡（第219・220図）

位置 調査区南西部のE 9 e9区、標高19mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2202号住居に掘り込まれている。



第219図 第2196号住居跡実測図



第220图 第2196号住居跡出土遺物実測図

規模と形状 長軸3.82m，短軸3.61mの方形で，主軸方向はN - 34° - Wである。壁高は24～48cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，各壁近くまで踏み固められている。壁下には，幅9～13cm，深さ5～7cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁の西寄りに付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで119cm，袖部幅83cmであり，袖部はローム混じりの暗褐色土を用いて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さであり，火床面は火を受けてやや赤変している。煙道部は壁外に24cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量	10	暗褐色	焼土ブロック少量，ロームブロック微量
2	暗褐色	ローム粒子微量	11	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	12	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
4	暗褐色	焼土粒子微量	13	にぶい黄褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5	暗褐色	焼土粒子少量，炭化物微量	14	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
6	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	15	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7	黒褐色	ローム粒子微量	16	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	17	褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量
9	褐色	ロームブロック少量	18	暗褐色	ローム粒子少量，焼土ブロック微量

ピット 2か所。P1は深さ24cmで，南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P2は深さ70cmであるが，性格は不明である。

覆土 7層に分けられる。ロームブロックを含み，不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	5	褐色	ロームブロック中量，炭化物少量
2	褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量	6	褐色	ロームブロック中量
3	暗褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子少量	7	褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
4	褐色	ローム粒子中量			

遺物出土状況 土師器片1419点（坏類244，高坏7，甕類1164，甑4），須恵器片26点（坏10，甕16），土製品12点（勾玉1，土玉2，支脚9），鉄滓1点，種子1点が散在した状態で出土している。358は南西コーナー部壁際の壁溝覆土，360は北東部の床面，361・362は竈左側の床面から出土しており，いずれも住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。357は中央部の覆土中層と東部の覆土下層，359は南東部の覆土中層と西部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。363は南西部壁際の覆土上層から出土している。いずれも住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。また，DP74は中央部の覆土中層，DP75は中央部西寄りの床面，DP76は竈袖部右側の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器および重複関係から6世紀後葉と考えられる。

第2196号住居跡出土遺物観察表（第220図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
357	土師器	坏	13.1	4.6	4.3	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面放射状の磨き	覆土下層	95% PL156
358	土師器	坏	[13.6]	4.6	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	壁溝覆土	70%
359	土師器	坏	12.0	(5.1)	-	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	覆土下層	60%
360	土師器	高坏	-	(7.4)	[11.6]	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	脚部外面へら削り 内面ナデ 裾部内外面横ナデ	床面	40%
361	土師器	甕	15.8	(22.6)	[8.2]	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へらナデ	床面	80%
362	土師器	甕	22.5	29.6	8.5	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へらナデ	床面	95% PL181
363	須恵器	甕	-	(9.4)	6.0	長石	黄灰	普通	体部下端回転へら削り	覆土上層	75% PL179

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP74	勾玉	(3.2)	1.7	1.4	(7.4)	土(長石・石英)	ナデ	覆土中層	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP75	小玉	1.2	0.9	0.3	1.2	土(長石)	ナデ 一方向の穿孔	覆土下層	PL190
DP76	小玉	1.2	0.8	0.3	0.7	土(長石・石英)	ナデ 一方向の穿孔	床面	

第2197号住居跡 (第221図)

位置 調査区南西部の E 9 e8 区, 標高19.5mほどの南東への緩斜面に位置している。

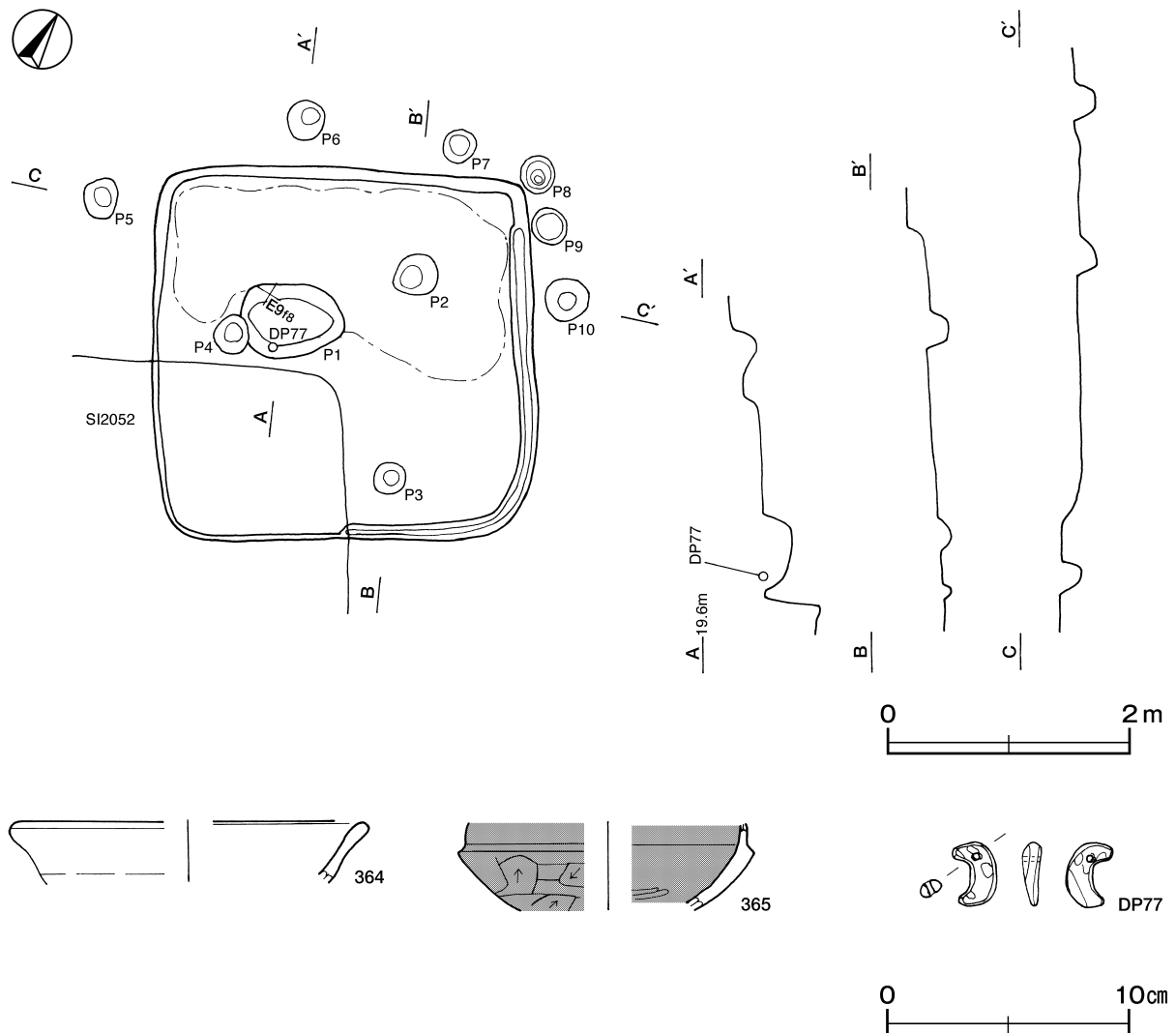
重複関係 第2052号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.11m, 短軸2.94mの方形で, 主軸方向はN - 32° - Wである。壁は遺存していない。

床 東へ緩やかに傾斜しており, 北部が踏み固められている。北コーナー部から南部中央にかけて, 幅10~17cm, 深さ4~6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

ピット 10か所。主柱穴は明確でなく, 屋内に確認されたP1~P4の深さは11~25cm, 屋外に確認されたP5~P10の深さは17~18cmであるが, いずれも性格は不明である。

遺物出土状況 土師器片29点(坏6, 高坏1, 甕類22), 土製品1点(勾玉)が出土している。364はP9の覆土中, 365はP6の覆土, DP77はP1の覆土上層から出土しており, いずれも混入と考えられる。



第221図 第2197号住居跡・出土遺物実測図

所見 本住居に伴う遺物がないため、時期を特定するのは困難であるが、第2052号住居に掘り込まれていることから、6世紀後葉以前と考えられる。

第2197号住居跡出土遺物観察表（第221図）

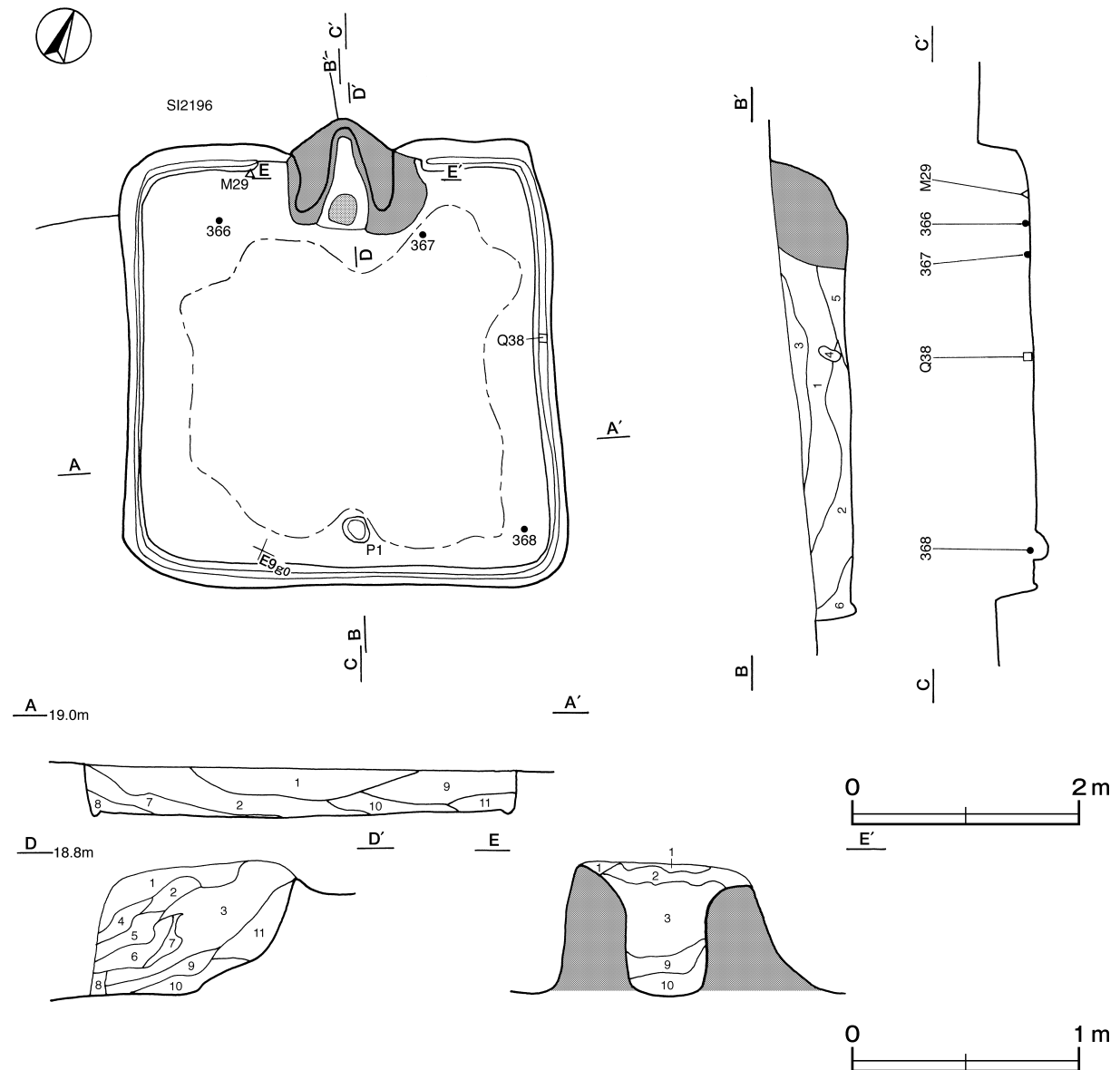
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
364	土師器	坏	[14.0]	(2.5)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ	P 9 覆土	5%
365	土師器	坏	-	(3.7)	-	長石・雲母	黒褐	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	P 6 覆土	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP77	勾玉	2.6	1.0	0.8	3.0	土(長石・雲母)	孔径0.3cm 頭部指圧後ナデ 一方向からの穿孔	P 1 覆土	PL190

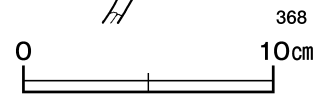
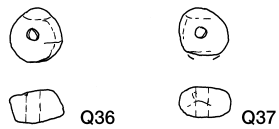
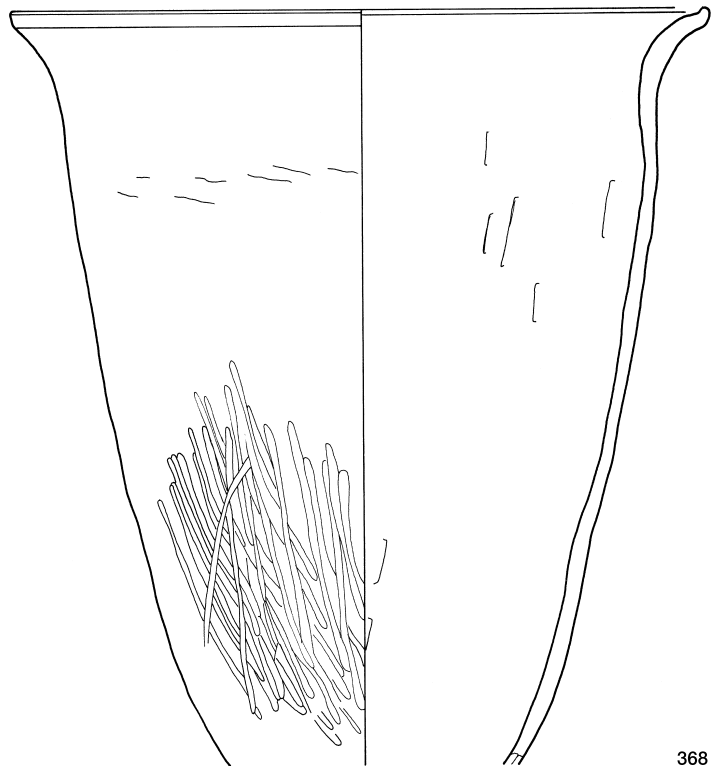
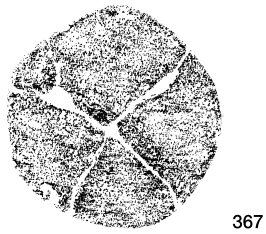
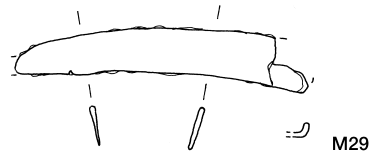
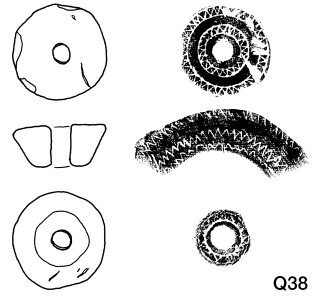
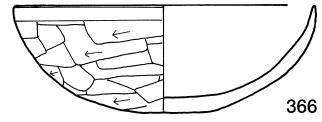
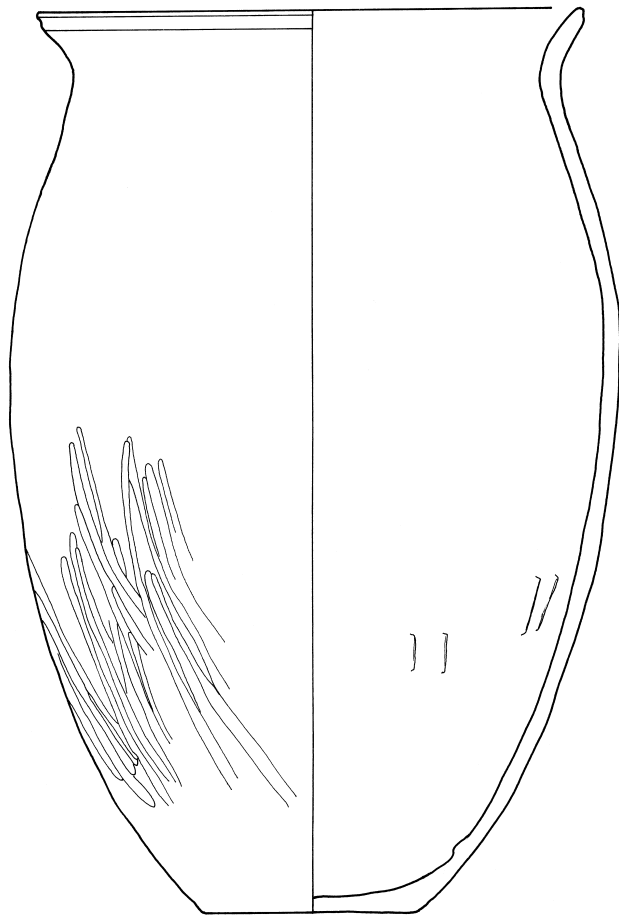
第2202号住居跡（第222・223図）

位置 調査区南西部のE 9 f 9区、標高18.5mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2196号住居を掘り込んでいる。



第222図 第2202号住居跡実測図



第223图 第2202号住居跡出土遺物実測図

規模と形状 長軸3.91m，短軸3.85mの方形で，主軸方向はN - 25° - Wである。壁高は32～51cmで，ほぼ直立して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。各壁下には，幅8～11cm，深さ3～4cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで98cm，袖部幅118cmで，袖部は砂質粘土を用いて構築されており，内側は火を受けて赤変硬化している。火床部は床面とほぼ同じ高さであり，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に32cm掘り込まれ，火床部から急な傾斜で立ち上がっている。第3・5・6・7層は，天井部の崩落層である。

竈土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・砂質粘土粒子微量	8	暗褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量
2	暗褐色	砂質粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量	9	暗赤褐色	焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子少量，砂質粘土粒子微量
3	にぶい黄褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子微量	10	暗赤褐色	焼土ブロック中量，ローム粒子少量，砂質粘土粒子微量
4	暗褐色	砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量	11	暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，ロームブロック微量
5	灰黄褐色	砂質粘土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子微量			
6	暗褐色	砂質粘土粒子少量，ロームブロック微量			
7	にぶい黄褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量			

ピット 深さ12cmで，南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 11層に分けられる。各層にロームブロックを含み，不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・粘土ブロック微量	6	黒褐色	ローム粒子少量，焼土ブロック微量
2	黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量，炭化物微量	7	極暗褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子少量
3	黒褐色	ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量	8	極暗褐色	ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック少量
4	灰褐色	粘土ブロック中量，ロームブロック少量，焼土ブロック微量	9	黒褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
5	灰褐色	粘土ブロック中量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量	10	黒褐色	ロームブロック・炭化物・粘土ブロック少量
			11	暗褐色	ロームブロック中量，炭化物・粘土ブロック少量

遺物出土状況 土師器片628点（坏類133，高坏2，甕類484，甌9），須恵器片22点（坏5，甕類17），石製品3点（紡錘車1，白玉2），鉄製品1（鎌）が出土している。366は北西部，367は竈右側，368は南東コーナ部の床面から出土しており，いずれも住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。また，Q36・37は南西部の覆土，Q38は東壁際の壁溝覆土，M29は竈左側の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器および重複関係から7世紀前半と考えられる。

第2202号住居跡出土遺物観察表（第223図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
366	土師器	坏	11.9	4.2	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	95% PL156
367	土師器	甕	21.4	36.0	8.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ磨き 内面へラナデ	床面	90% PL182
368	土師器	甌	27.8	(30.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ磨き 内面へラナデ	床面	90%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q36	白玉	1.5	0.9	0.4	2.6	滑石	円筒状 一方向の穿孔	覆土	PL194
Q37	白玉	1.3	0.8	0.3	[2.0]	滑石	円筒状 一方向の穿孔	覆土	PL194
Q38	紡錘車	4.1	1.8	0.8	32.5	粘板岩	円錐台形 上・下・側面に鋸歯状の線刻文 一方向の穿孔	覆土	PL193

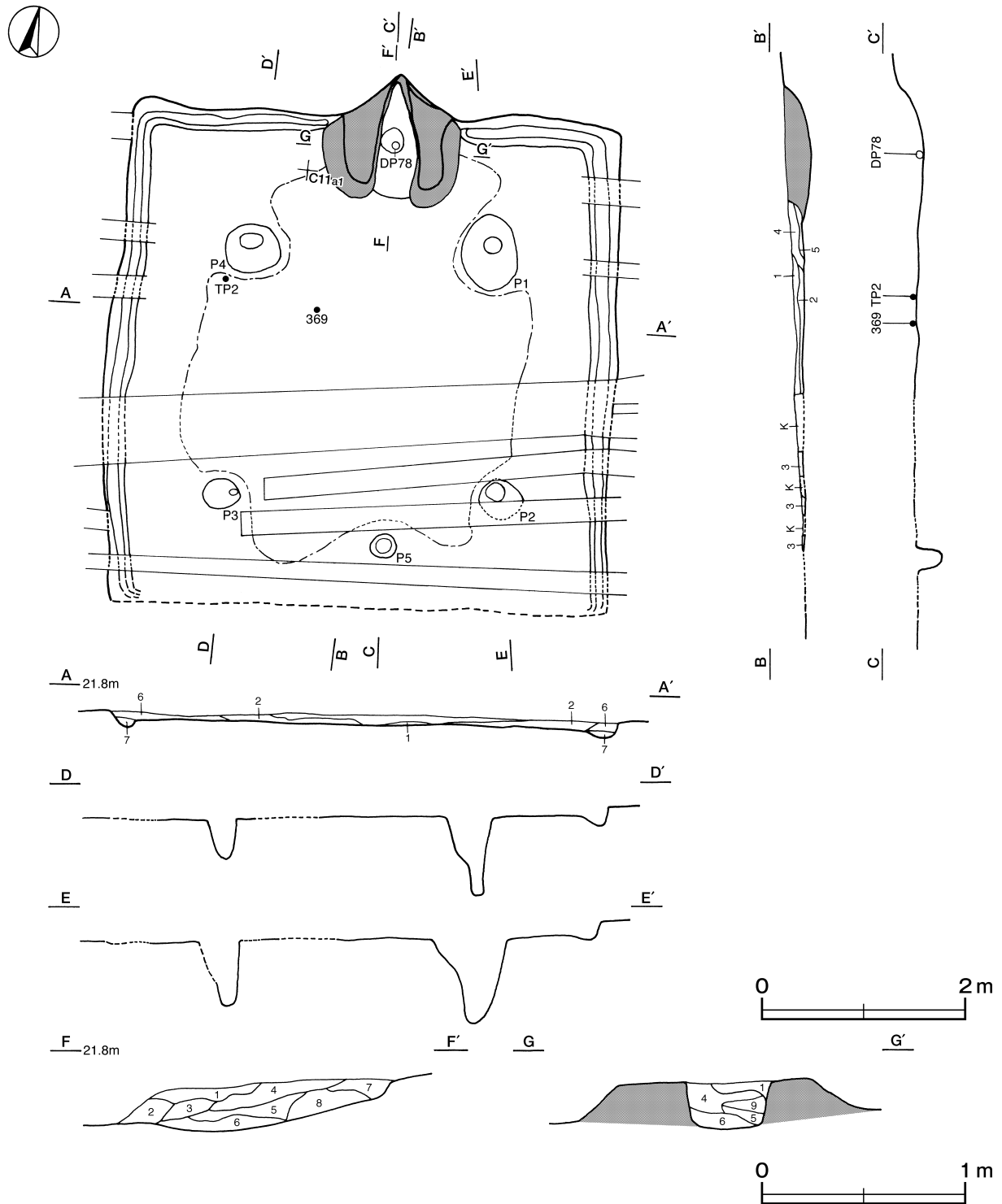
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M29	鎌	(11.6)	2.4	0.3	[24.3]	鉄	刀部やや彎曲 基部を折り返す 断面三角形	床面	PL196

第2204号住居跡 (第224・225図)

位置 調査区中央部のC11a1区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 南壁は耕作によって削平されているが、長軸4.98m、短軸4.84mの方形と推定され、主軸方向はN-4°-Wである。壁高は5~15cmで、確認された各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。



第224図 第2204号住居跡実測図

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで120cm、袖部幅134cmである。袖部はローム土混じりの砂質粘土で構築されている。火床部は床面を6cm掘りくぼめており、火を受けて赤変している。煙道部は壁外に40cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------------|
| 1 灰褐色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック微量 | 6 暗赤褐色 炭化粒子少量, 焼土ブロック・砂質粘土粒子微量 |
| 2 灰褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 灰褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 暗赤褐色 焼土ブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 4 灰褐色 砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗赤褐色 焼土粒子多量 |
| 5 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | |

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で、深さは40～80cmである。P5は深さ24cmで、南壁際の中央部に位置していることや、硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

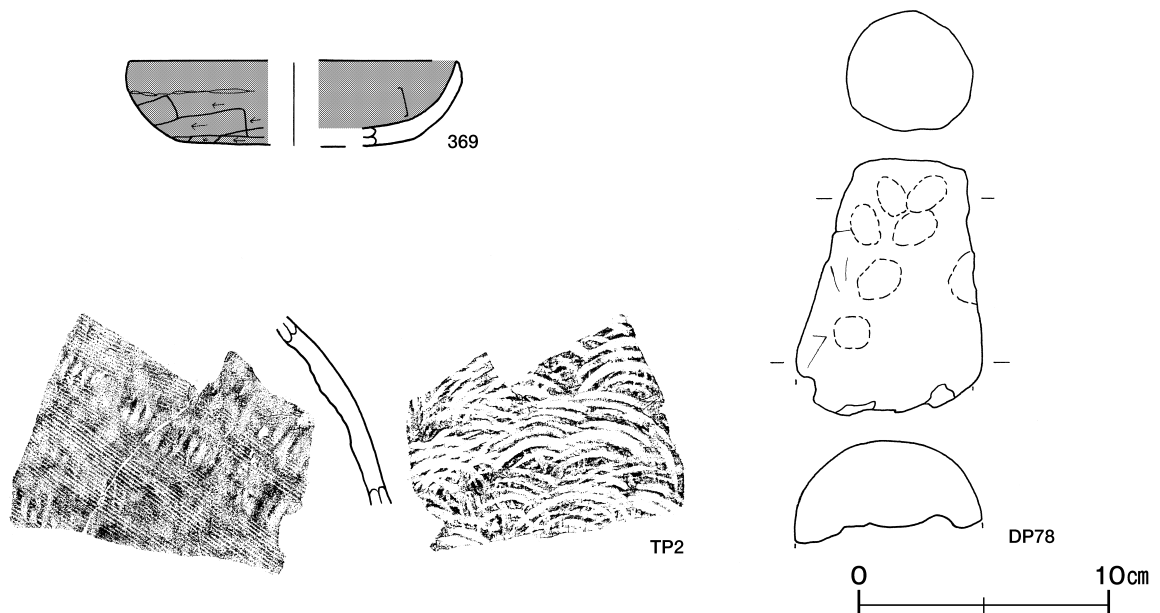
覆土 7層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | |
|---------------------------------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 5 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 ロームブロック少量 | 6 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 3 灰褐色 ロームブロック中量, 砂質粘土粒子少量 | 7 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片134点(坏19, 甕類115), 須恵器片6点(坏1, 甕類5), 土製品1点(支脚)のほか、混入した陶器片1点も出土しているが、ほとんどが細片であり、中央部に集中している。DP78は支脚で竈の火床部に遺棄されてたものであり、369は中央部の床面, TP2は西壁寄りの床面から出土し、住居の廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第225図 第2204号住居跡出土遺物実測図

第2204号住居跡出土遺物観察表(第225図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
369	土師器	坏	[13.0]	(3.3)	-	長石・石英	褐灰	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り	床面	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP2	須恵器	横瓶	-	(7.5)	-	長石・礫	灰白	普通	体部外面力キ目 内面同心円状の当て具痕	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP78	支脚	(10.1)	7.4	4.8	(304.4)	土(長石・石英)	ナデ・指頭痕 下部欠損	竈火床面	

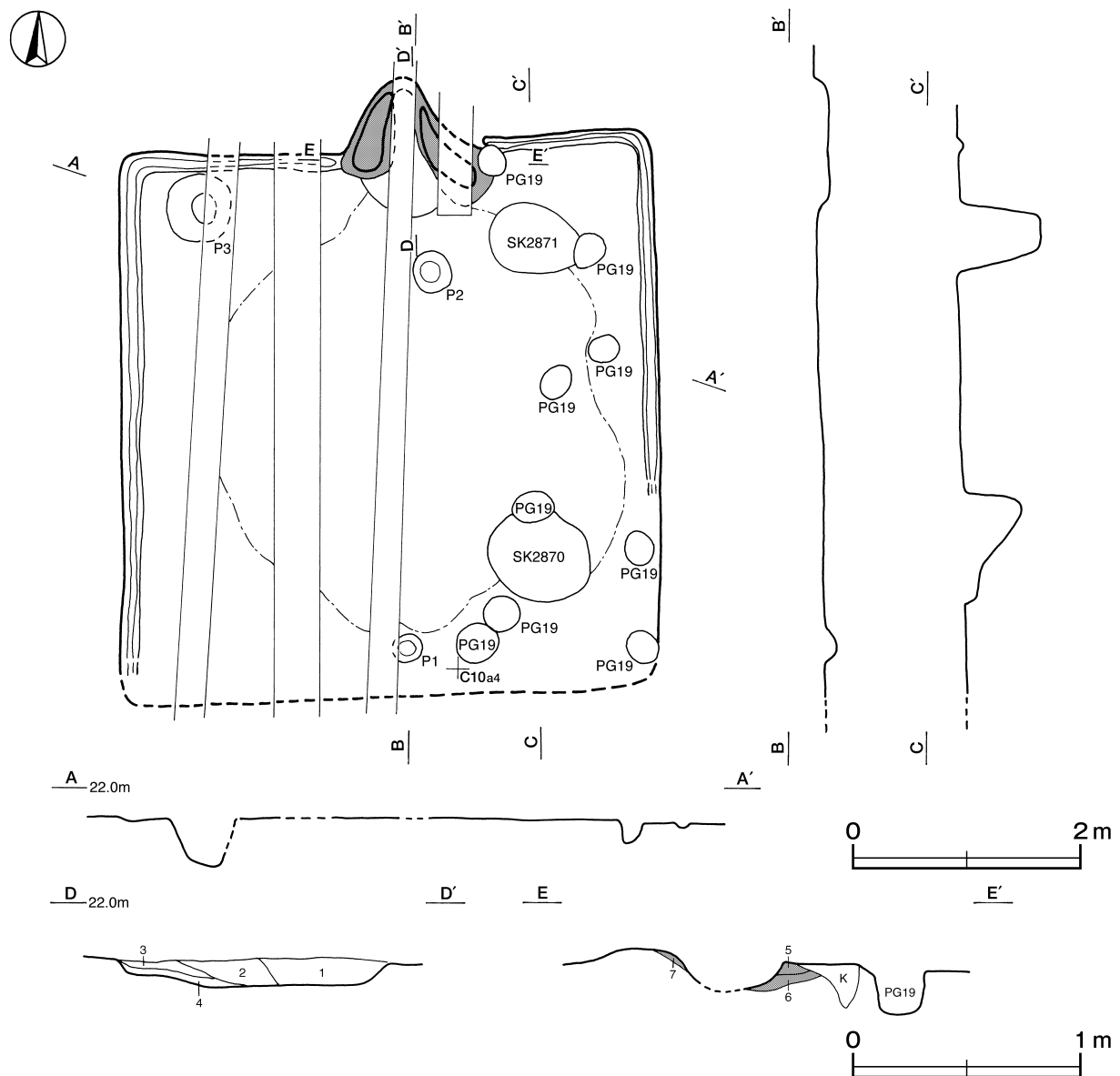
第2205号住居跡 (第226図)

位置 調査区西部のB10j3区、標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第19号ピット群、第2870・2871号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 床面が露出した状態で検出されている。長軸4.75m、短軸4.66mの方形で、主軸方向はN - 2° - Wである。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。南壁および南東コーナー部を除く壁下には、幅6~24cm、深さ3~11cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。



第226図 第2205号住居跡実測図

竈 北壁中央部に付設されている。火床部中央および右袖部を耕作による攪乱で壊されており、左袖部の一部だけが遺存している。袖部は砂質粘土を用いて構築されている。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------------|--------------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック少量 | 5 暗赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量,炭化物・ローム粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量,炭化粒子微量 | 6 暗赤褐色 砂質粘土粒子中量,焼土粒子少量,炭化粒子微量 |
| 3 にぶい赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量,ローム粒子微量 | 7 暗赤褐色 砂質粘土粒子中量,焼土粒子少量,ロームブロック・炭化物微量 |
| 4 暗赤褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量,焼土ブロック・炭化粒子微量 | |

ピット 3か所。P1は深さ12cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから見て、出入口施設に伴うピットと考えられる。P2・P3の性格は不明であるが、P3は深さ43cmで北西コーナー部に位置していることから、貯蔵穴の可能性も考えられる。

遺物出土状況 土師器片35点(坏2,高坏1,甕類32),土製品2点(支脚)が北東コーナー部を中心に出土しているが、いずれも細片である。また、混入した須恵器片2点,陶器片2点も出土している。

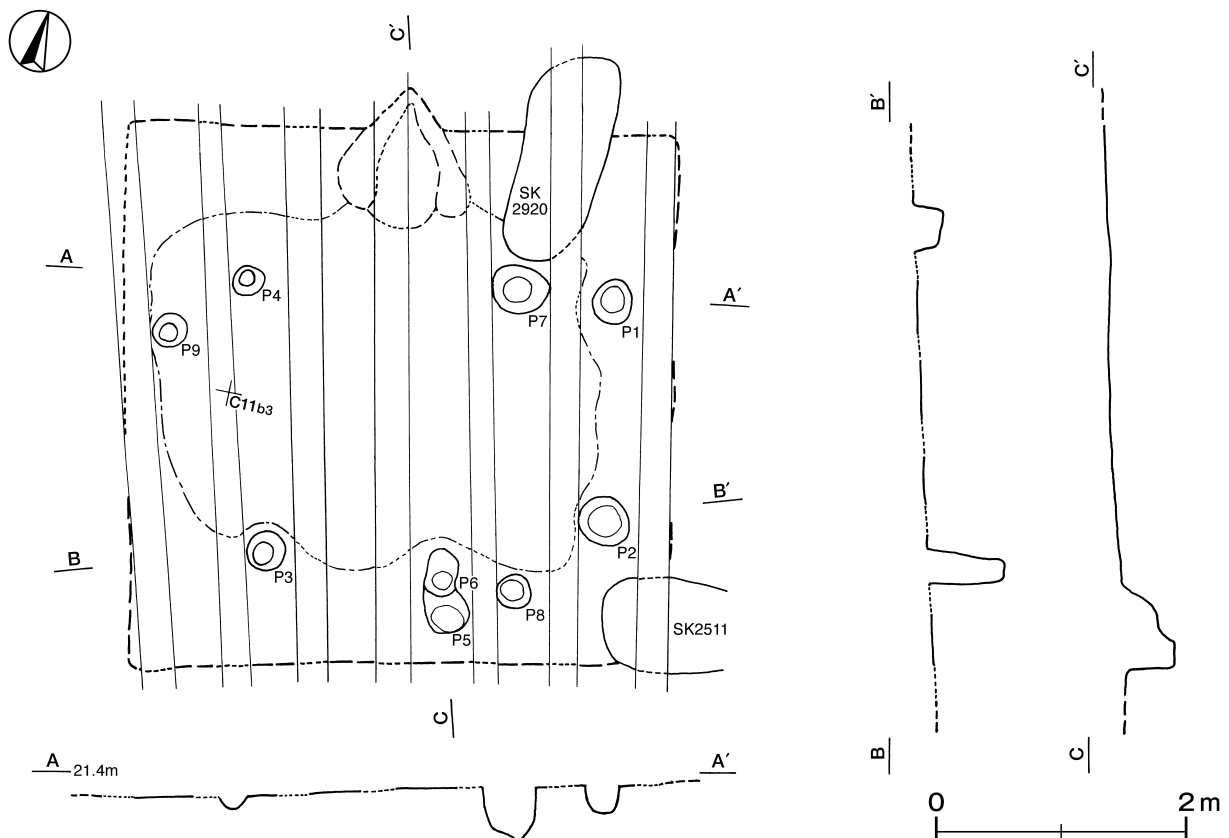
所見 出土土器はいずれも細片であるが、時期は、土器の傾向や住居の規模、主軸方向から、6世紀後半から7世紀前半と考えられる。

第2207号住居跡(第227図)

位置 調査区中央部のC11b3区,標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2511・2920号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作により床面が露出した状況で確認され,中央部の硬化面の広がりや,ピットの配列から見て,長軸4.38m,短軸4.34mの方形で,主軸方向はN-13°-Wと推定される。



第227図 第2207号住居跡実測図

床 南側に向かって緩やかに傾斜しており，中央部の硬化面のみが確認された。

竈 硬化面の広がりや，残存する砂質粘土から見て，北壁の中央部に付設されていたと推定される。

ピット 9か所。P1～P4は主柱穴で，深さは10～66cmである。P5・P6は深さ24～45cmで，南壁際の中央部に位置していることや，硬化面の広がりから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P7・P8は深さ38～40cmで，配置からそれぞれ近接するP1・P4の補助柱穴とも想定されるが，明確でない。P9の性格は不明である。

覆土 耕作による削平のため不明である。

遺物出土状況 土師器片1点（甕）がP6の覆土から出土している。

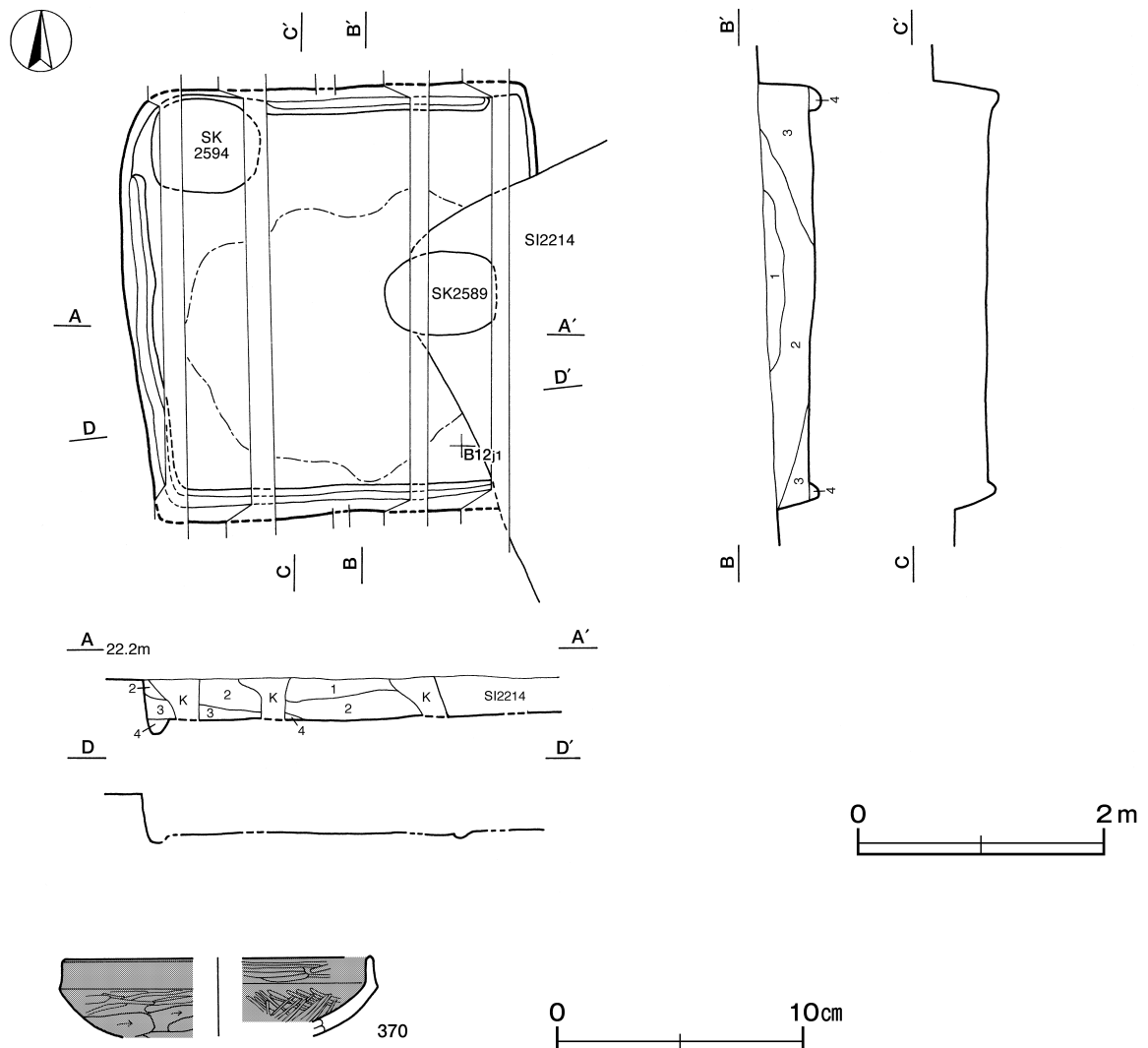
所見 時期は，規模や主軸方向，出土土器から古墳時代後期と考えられる。

第2213号住居跡（第228図）

位置 調査区南西部のB11i0区，標高22mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2214号住居，第2589・2594号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.42m，短軸3.32mの方形で，主軸方向はN-88°-Eである。壁高は23～44cmで，外傾して立ち上がっている。



第228図 第2213号住居跡・出土遺物実測図

床 平坦で、中央部が踏み固められている。北西部と東部を除いた壁下には、幅13～19cm、深さ5～10cmで、U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

覆土 4層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 3 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量 | 4 明褐色 | ローム粒子多量 |

遺物出土状況 土師器片325点(坏35, 甕類290), 須恵器片38点(坏5, 蓋2, 甕類31), 土製品1点(支脚)のほか、混入した瓦質土器5点, 陶器片10点, 磁器片6点も出土している。遺物の大半は覆土上層から出土しているため、廃絶されてある程度埋没した時期に廃棄されたものと考えられる。図化した370は覆土下層から出土している。

所見 出土土器から時期を特定するのは困難であるが、第2214号住居に掘り込まれていることから6世紀後葉以前と考えられる。

第2213号住居跡出土遺物観察表(第228図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
370	土師器	坏	[12.2]	(3.2)	-	石英	褐	普通	口辺部外面ナデ 内面磨き	内面磨き 体部外面ヘラ削り	覆土下層	5%

第2214号住居跡(第229・230図)

位置 調査区南西部のB12i1区、標高22mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2213号住居跡を掘り込み、第2589～2593・2595・2904～2906号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.82m、短軸4.80mの方形で、主軸方向はN-63°-Eである。壁高は26～46cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。東部と西部の一部を除いた壁下には、幅11～13cm、深さ3～4cmで、U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 東壁の南寄りに付設されており、袖部と火床部の中央部が攪乱により壊されている。規模は、焚口部から煙道部まで84cmである。煙道部は壁外へ16cm掘り込まれ、一部遺存している火床面から外傾した後に直立している。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------|----------|---------------------------|
| 1 赤褐色 | 焼土粒子中量,ロームブロック・砂質粘土粒子少量 | 3 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量,ロームブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 2 灰褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 4 にぶい褐色 | 焼土ブロック中量 |
| | | 5 極暗赤褐色 | 焼土粒子中量,ローム粒子少量 |

ピット P1～P4は支柱穴で、深さは35～44cmである。

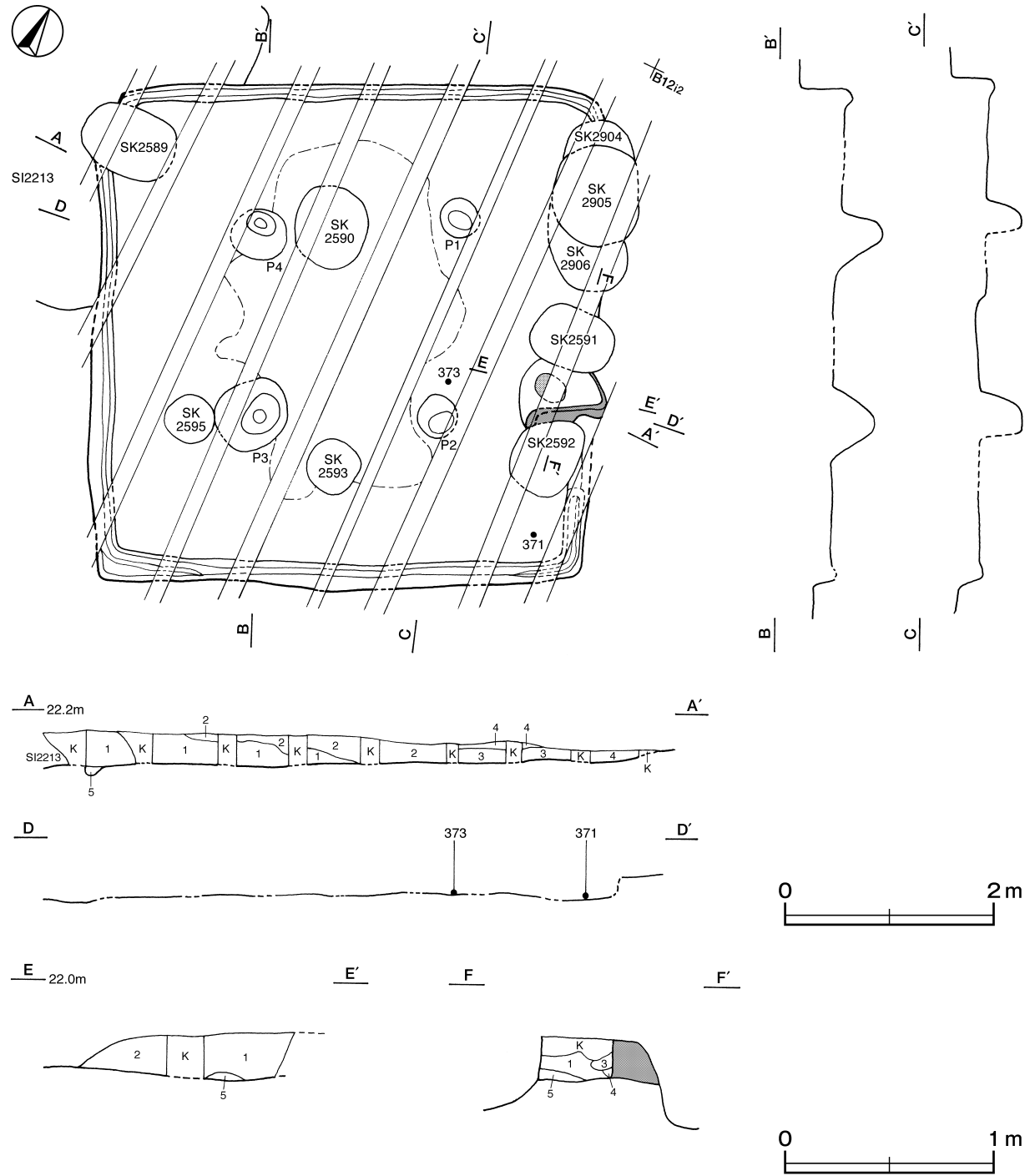
覆土 5層に分けられる。ロームブロック・粒子を含む土で西側から埋め戻され状況を示していることから、人為堆積である。

土層解説

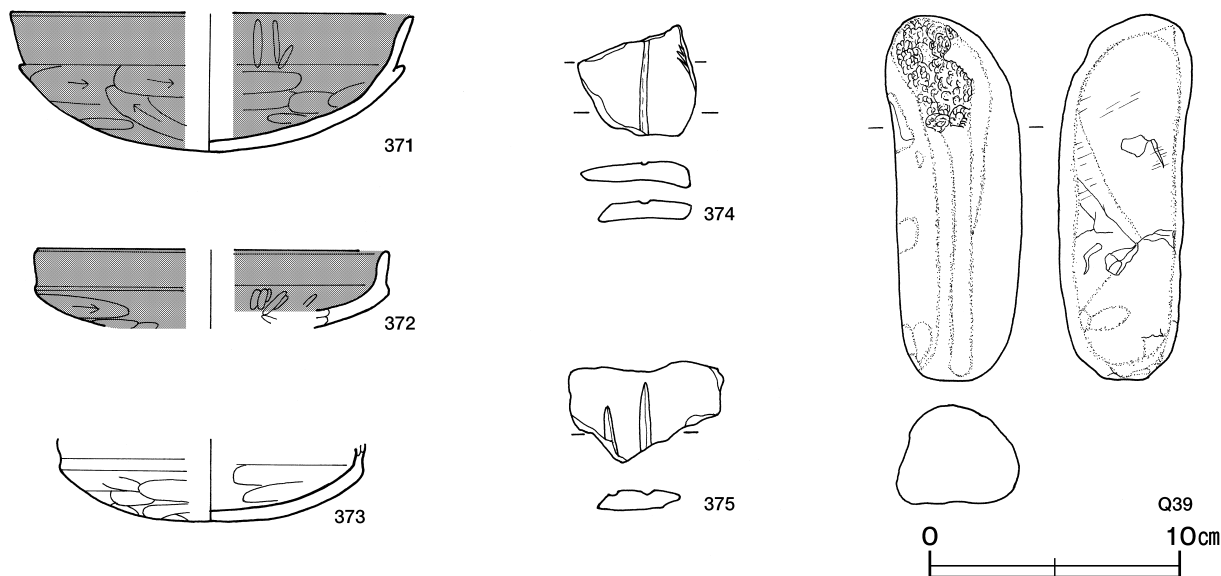
- | | | | |
|-------|------------------|------|------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量 | 4 褐色 | ロームブロック中量,炭化粒子微量 |
| 2 明褐色 | ローム粒子多量,砂質粘土粒子少量 | 5 褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量 | | |

遺物出土状況 土師器片232点(坏55, 甕類175, 転用砥石 2), 須恵器片25点(坏18, 甕類 7), 土製品 2点(支脚), 石器 1点(敲石) のほか, 混入した瓦質土器 3点, 陶器片 3点, 磁器片 1点も出土している。371は南東部, 373は中央部からのそれぞれ床面から破損した状態で出土している。374・375は覆土下層から出土し, 砥石として転用されている。Q39は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 7世紀前葉と考えられる。



第229図 第2214号住居跡実測図



第230図 第2214号住居跡出土遺物実測図

第2214号住居跡出土遺物観察表 (第230図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
371	土師器	坏	[15.8]	5.5	-	石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内面磨き 体部外面へら削り 内面へらナデ	床面	40%
372	土師器	坏	[13.7]	(3.1)	-	長石・石英	黒褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へら磨き	覆土	5%
373	土師器	坏	-	(3.2)	-	石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面へら削り後ナデ 内面ナデ	床面	10%

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	材質	特徴	出土位置	備考
374	土師器	坏	(4.3)	(4.8)	(0.7)	長石・赤色粒子	外面へら削り 内面ナデ 使用痕一か所	下層	10% 転用砥石
375	土師器	甕	(3.9)	(6.1)	(0.7)	長石・赤色粒子	外面へら磨き 内面ナデ 使用痕二か所	下層	5% 転用砥石

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q39	敲石	14.5	5.4	3.9	419.5	流紋岩	端部に敲打痕	覆土	

第2215号住居跡 (第231・232図)

位置 調査区中央部のB12e3区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第364号掘立柱建物，第2531号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.24m，短軸3.69mの長方形で，主軸方向はN - 18° - Wである。壁高は19~25cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，竈前部が踏み固められている。壁下には，幅14~18cm，深さ3~5cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されており，右袖部の外側は攪乱で壊されている。規模は焚口部から煙道部まで102cmであり，袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面に砂質粘土を用いて構築されている。火床部は床面を皿状に掘りくぼめて使用しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に48cm掘り込まれ，火床部から急な傾斜で立ち上がっている。第1・2・5層は天井部の崩落層である。

竈土層解説

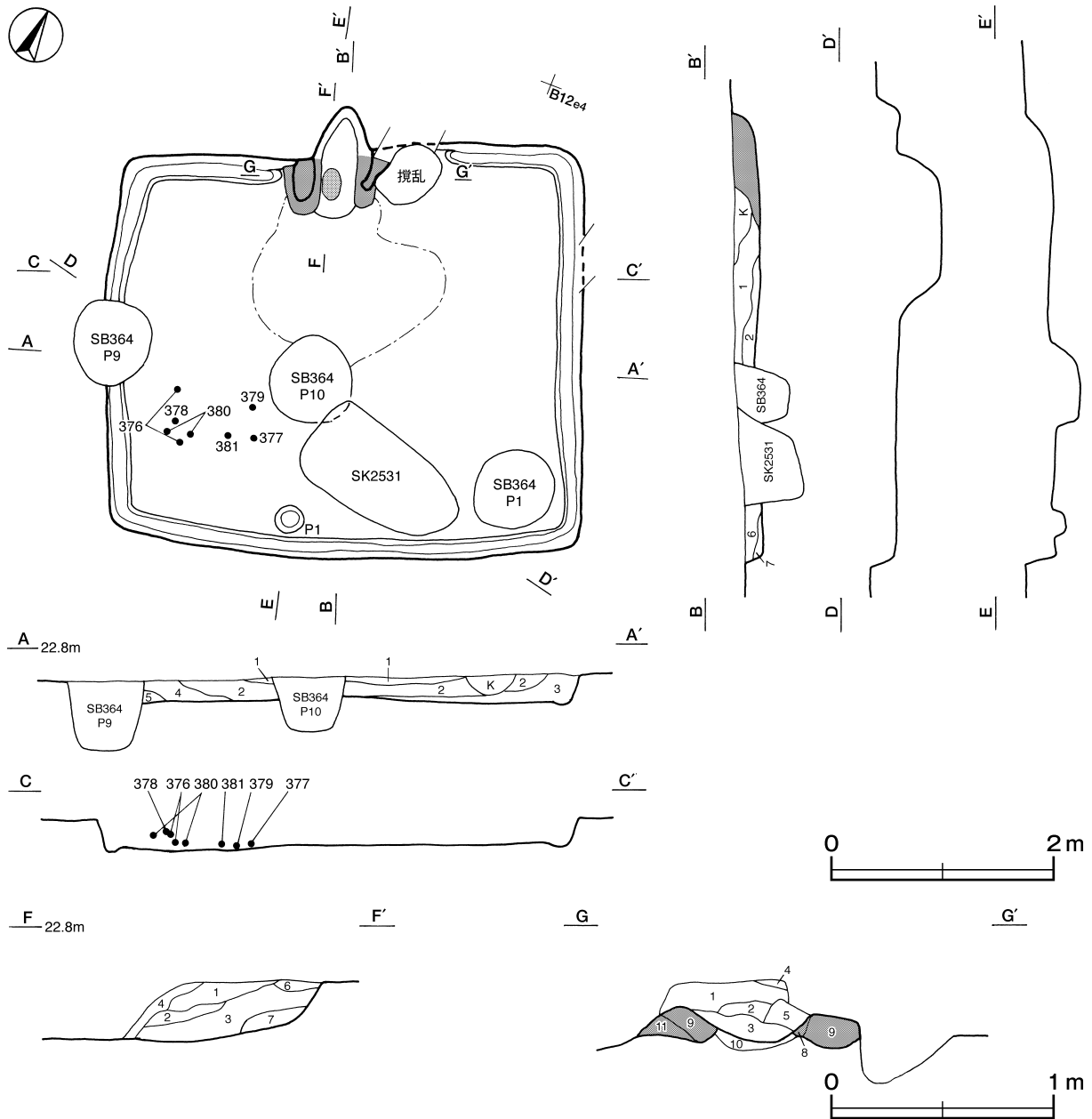
- | | | | |
|----------|---------------------------|----------|-----------------------------|
| 1 にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 7 にぶい赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量, 砂質粘土粒子微量 |
| 2 灰褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 8 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 砂質粘土粒子微量 | 9 灰褐色 | 砂質粘土粒子多量, ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 4 にぶい褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック微量 | 10 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 5 にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量 | 11 褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 灰褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | | |

ピット 深さ12cmで、竈と対峙する南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 7層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

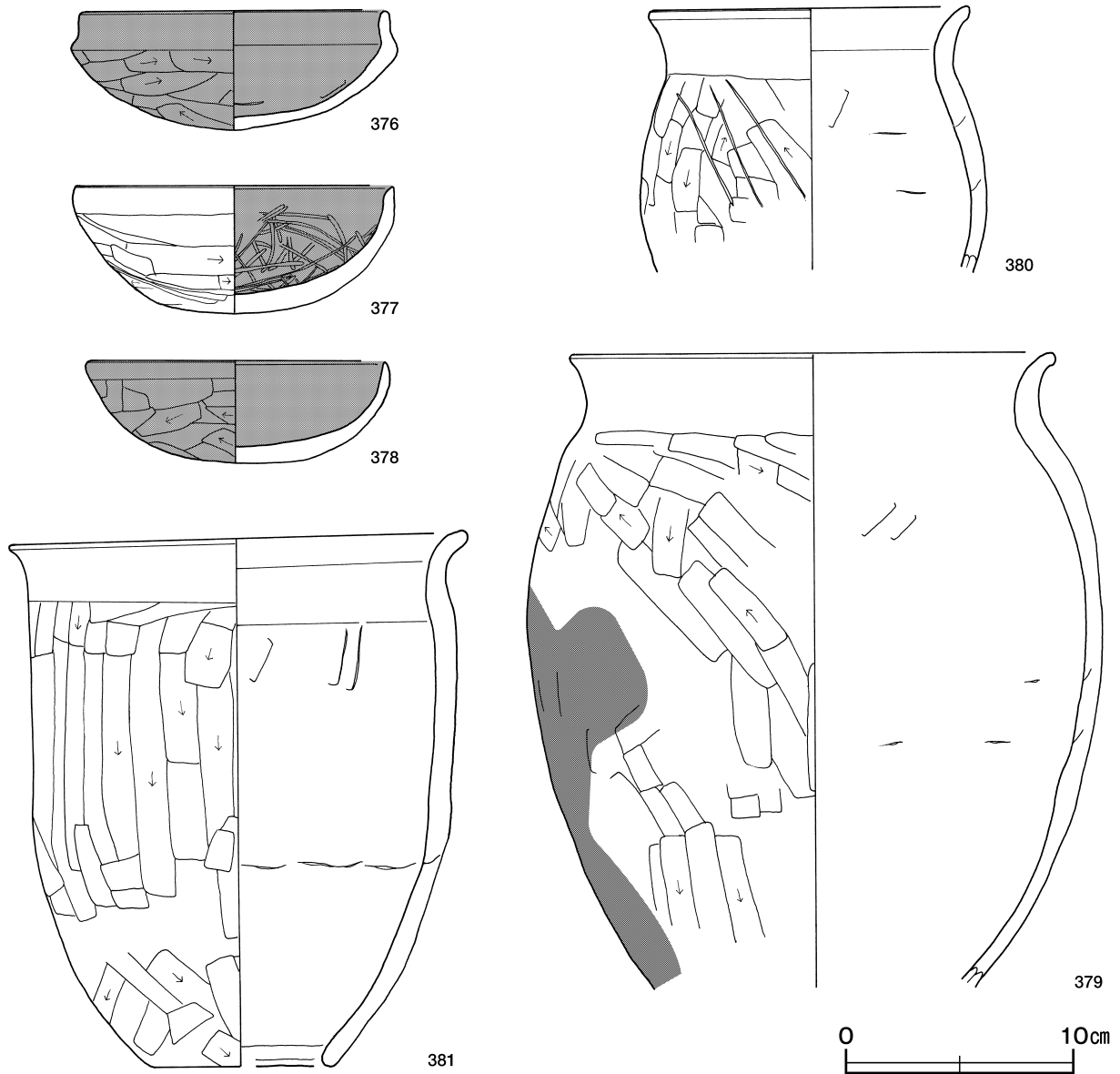
- | | | | |
|---------|---------------------|-------|------------------|
| 1 極暗赤褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 5 褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化物微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 褐色 | ローム粒子多量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量 | | |



第231図 第2215号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片133点（坏30，椀18，甕類80，甌5）が南西部を中心に出土している。また，混入した石鏃1点，須恵器片10点も出土している。376～378・380は南西部の覆土下層，379・381は南西部の床面から出土している。いずれの遺物も南西部に集中しており，住居廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第232図 第2215号住居跡出土遺物実測図

第2215号住居跡出土遺物観察表（第232図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
376	土師器	坏	13.2	5.2	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	90% PL157
377	土師器	坏	13.8	5.5	-	長石・石英	にぶい黄	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面磨き	覆土下層	90% PL157
378	土師器	坏	12.8	4.5	-	長石・石英	灰褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	90% PL157
379	土師器	甕	20.8	(27.7)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 輪積痕	床面	80% 煤付着
380	土師器	小形甕	13.8	(11.4)	-	長石・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ 輪積痕 線刻有り 内面ヘラナデ	覆土下層	50%
381	土師器	甌	19.7	23.2	8.2	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 輪積痕	床面	95% PL186

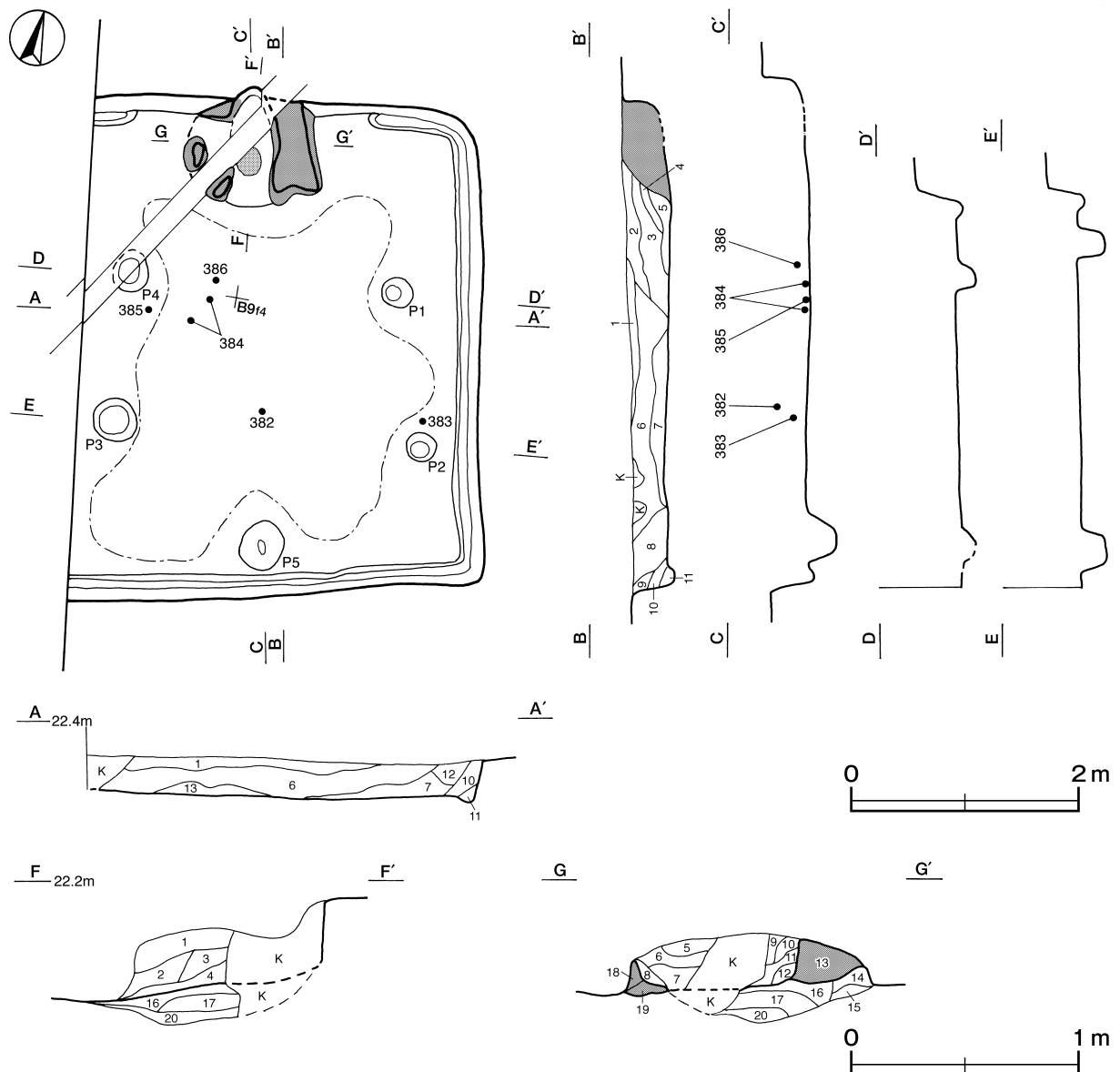
第2216号住居跡（第233・234図）

位置 調査区北西部のB9f4区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 西部は調査区域外に延びており、南北軸4.34m、東西軸は3.45mだけが確認された。竈および柱穴の位置から、主軸方向N-11°-Wの方形または長方形と推定される。壁高は27~35cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅12~16cm、深さ3~5cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。左袖部および火床部、煙道部の一部は耕作による攪乱で壊されている。確認できた部分の規模は袖部幅112cmであり、袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面を25cmほど掘りくぼめた後に床面とほぼ同じ高さまで埋め戻して使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。右袖部下の第16層は焼土を中量含み、第17層には8cmの厚みで灰が堆積していることから、第20層上面を火床部とする竈を使用した後に、袖部を作り替えたと考えられる。第1・10・12層は天井部の崩落層である。



第233図 第2216号住居跡実測図

覆土層解説

- | | | | |
|-----------|------------------------|------------|-----------------------------|
| 1 褐 灰 色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 灰 褐 色 | 砂質粘土粒子多量, ローム粒子微量 |
| 2 灰 黄 褐 色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 炭化粒子微量 | 13 褐 灰 色 | 砂質粘土粒子中量 焼土粒子少量 炭化粒子微量 |
| 3 灰 黄 褐 色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 14 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量, 砂質粘土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量 砂質粘土粒子少量 炭化粒子微量 | 15 灰 褐 色 | 砂質粘土粒子少量 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 16 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 6 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 17 明 褐 灰 色 | 灰多量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 7 暗 褐 色 | ロームブロック微量 | 18 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 8 暗 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 19 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 9 暗 赤 褐 色 | 焼土粒子中量 | 20 暗 赤 褐 色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック・砂質粘土粒子微量 |
| 10 灰 褐 色 | 砂質粘土粒子多量 | | |
| 11 極暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 砂質粘土粒子少量 | | |

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で、深さは16～26cmである。P5は深さ28cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

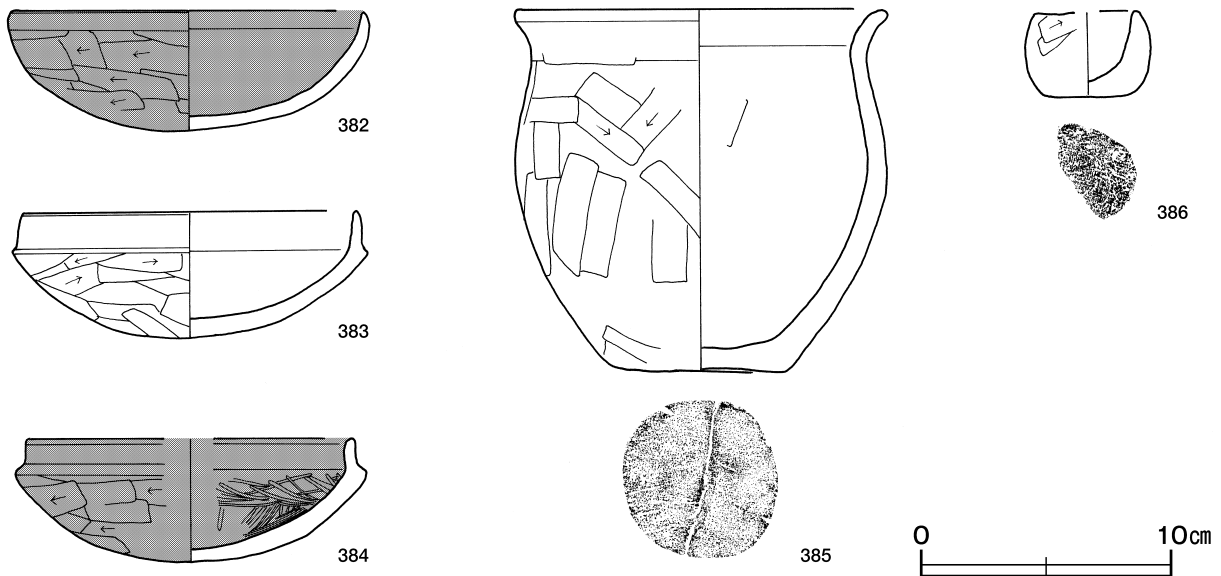
覆土 13層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------------|----------|-------------------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 7 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 8 褐 色 | ロームブロック・炭化物微量 |
| 3 黒 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 9 褐 色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 褐 色 | ローム粒子少量 |
| 5 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 11 褐 色 | ローム粒子少量, 炭化物微量 |
| 6 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 暗 褐 色 | ローム粒子少量 |
| | | 13 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片108点（坏36，甕類71，ミニチュア土器1）が散在した状態で出土している。また、混入した須恵器片8点も出土している。385は中央部西寄りの床面から出土しており、住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。382は中央部南寄りの覆土上層，383は東部の覆土中層，386は中央部の覆土下層から出土しており、いずれも住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。また、384は中央部の覆土下層と竈内から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第234図 第2216号住居跡出土遺物実測図

第2216号住居跡出土遺物観察表（第234図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
382	土師器	坏	14.0	4.8	-	長石・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土上層	90% PL156

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
383	土師器	坏	13.2	5.0	-	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	覆土中層	70%
384	土師器	坏	[12.6]	4.9	-	長石・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面磨き	覆土下層	45%
385	土師器	小形甕	14.6	14.4	6.6	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へらナデ 底部木葉痕	床面	60% PL177
386	土師器	ミニチュア土器	[4.0]	3.4	3.0	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へら削り後ナデ 内面ナデ	覆土下層	45% PL168

第2217号住居跡（第235・236図）

位置 調査区中央部のB12g3区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第364号掘立柱建物に掘り込まれている。

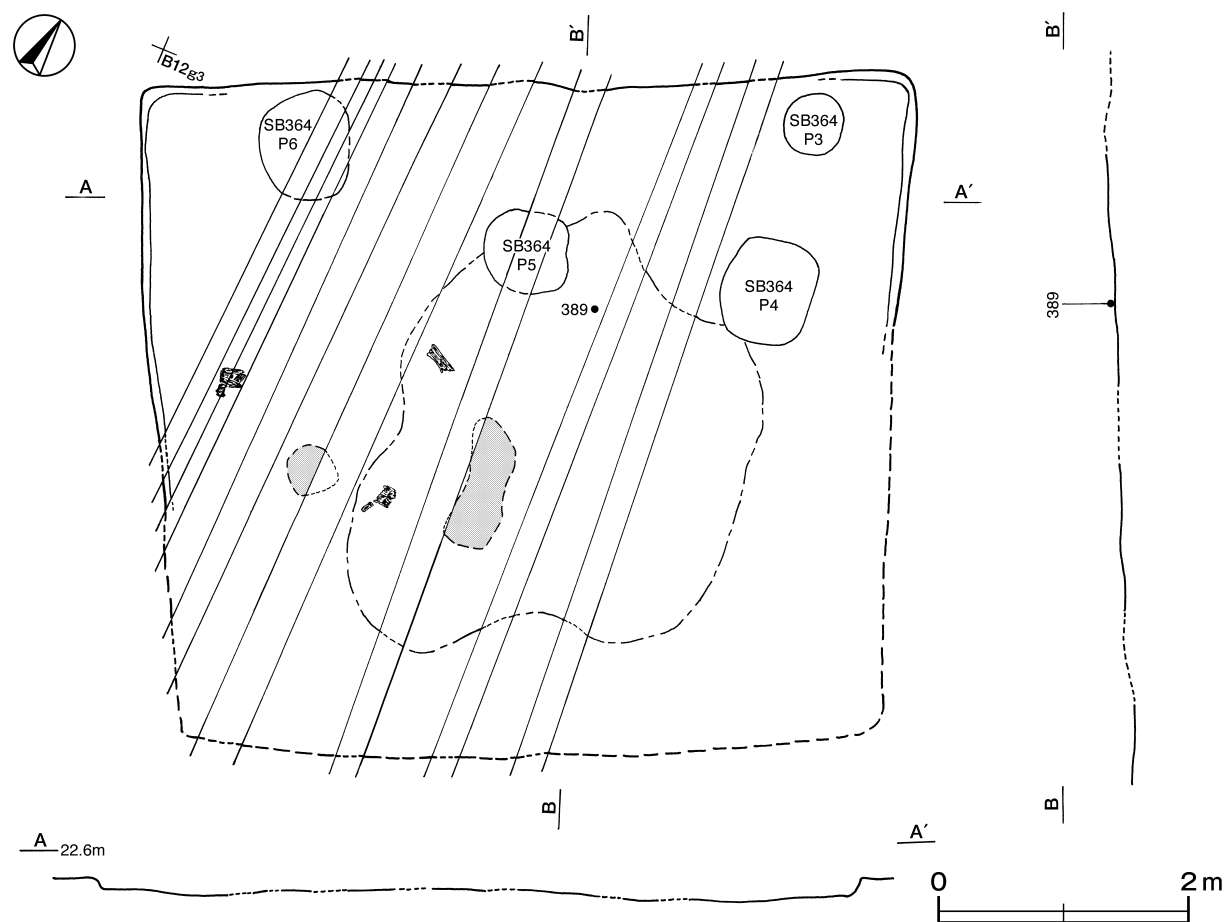
規模と形状 南半分を耕作によって削平されているが，硬化面の広がりから見て，長軸6.12m，短軸5.26mの長方形と推定される。主軸方向はN - 26° - Wである。確認された壁高は10～12cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。床面から焼土と炭化材が確認されている。

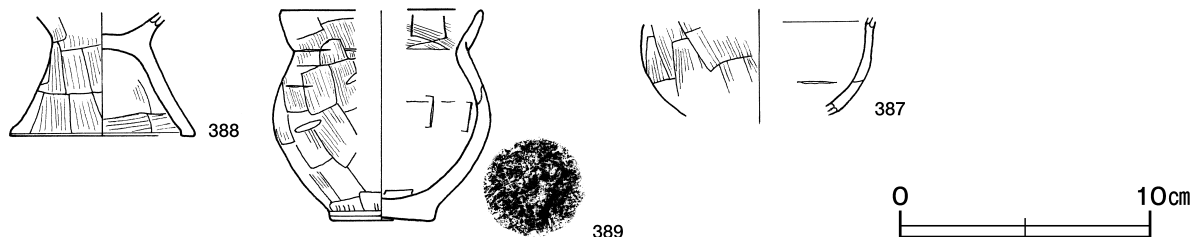
覆土 耕作による削平のため不明である。

遺物出土状況 土師器片105点（台付甕5，甕類100）のほか，流れ込んだ剥片1点，混入した土師器片7点，須恵器片12点，陶器片9点も出土している。389は中央部の床面，388・387は覆土から出土し，廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 床面から焼土と炭化材が確認されていることから，焼失住居の可能性がある。時期は，出土土器から4世紀中葉と考えられる。



第235図 第2217号住居跡実測図



第236図 第2217号住居跡出土遺物実測図

第2217号住居跡出土遺物観察表（第236図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
387	土師器	埴	-	(4.2)	-	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面八ケ目調整 内面ナデ 体部外面八ケ目調整 輪積痕	覆土	15%
388	土師器	台付甕	-	(4.9)	-	長石	黄橙	普通	脚部外面八ケ目調整 内面下端八ケ目調整	覆土	15%
389	土師器	小型甕 [7.8]	8.3	4.0	4.0	長石・石英	灰褐	普通	口辺部内外面八ケ目調整 体部外面八ケ目調整 内面ヘラナデ	床面	50%

第2218号住居跡（第237～239図）

位置 調査区中央部のB11g5区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第335号掘立柱建物、第125号溝に掘り込まれている。

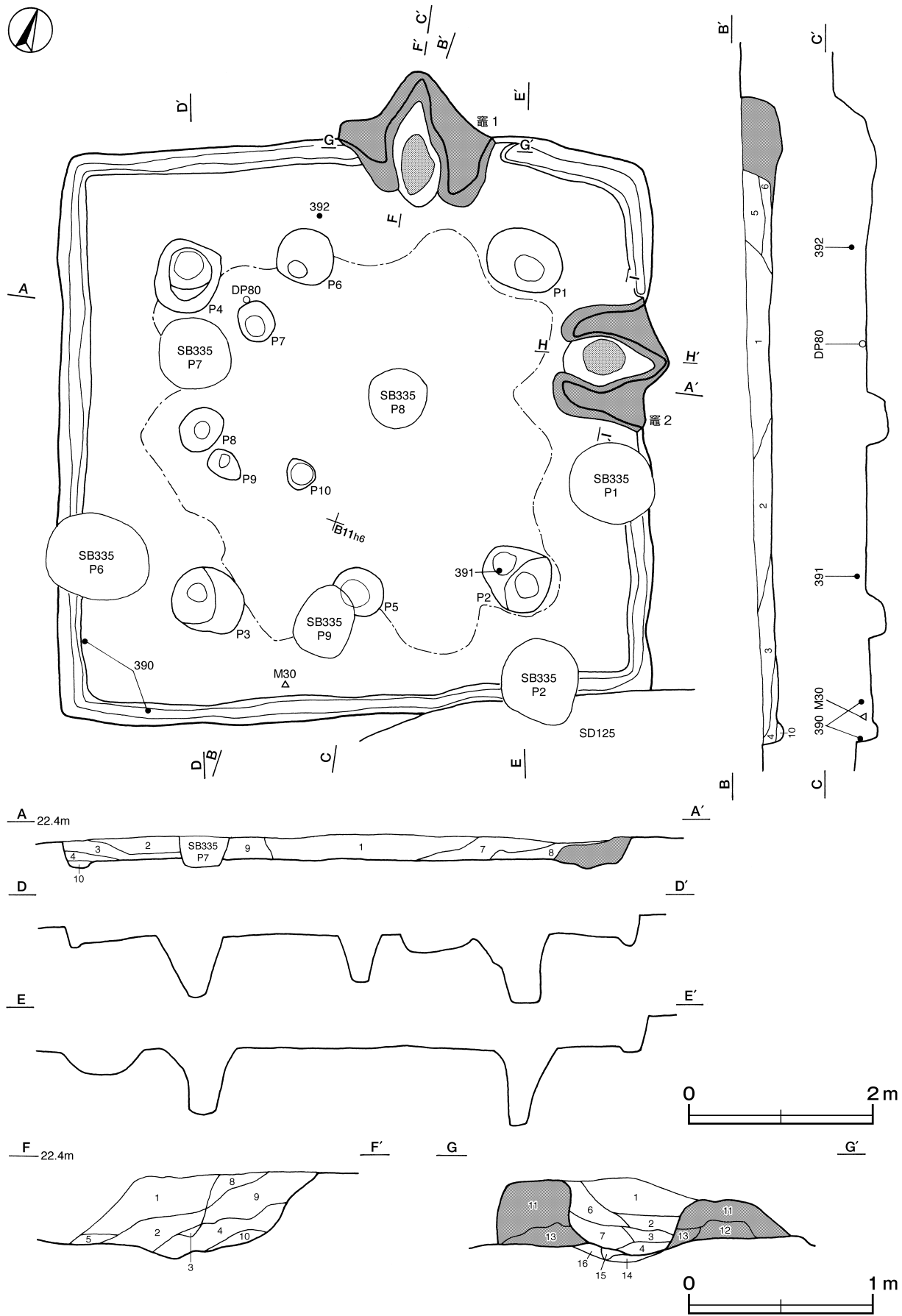
規模と形状 長軸6.35m、短軸6.25mの方形で、主軸方向はN - 22° - Wである。壁高は16～25cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅14～23cm、深さ6～9cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

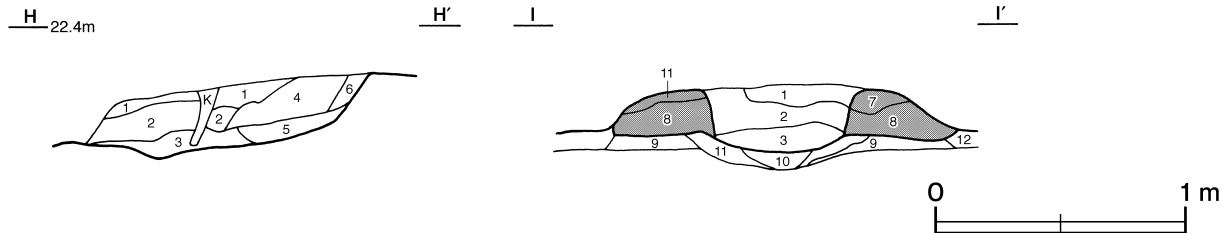
竈 2か所。竈1は、北壁のやや東寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで145cm、袖部幅141cmで、袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面にローム混じりの砂質粘土を用いて構築されている。火床部は床面を皿状に掘りくぼめて使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に73cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第2・6・9層は、天井部の崩落層である。竈2は、東壁のやや北寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで114cm、袖部幅123cmであり、袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面に砂質粘土を用いて構築されている。火床部は床面を皿状に掘りくぼめて使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に28cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第2・4・6層は、天井部の崩落層である。竈1、竈2ともに袖部、焚き口部、火床面が遺存していることから、同時期に使用されていたと考えられる。

竈1土層解説

1	灰 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量	8	灰 褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック微量
2	灰 褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化材少量	9	褐 灰色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック微量
3	暗 赤 褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・砂質粘土粒子少量	10	暗 赤 褐色	焼土粒子中量、ロームブロック微量
4	暗 赤 褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ロームブロック微量	11	褐 灰色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
5	褐 灰色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土ブロック微量	12	褐色	ローム粒子中量
6	灰 褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量	13	黒 褐色	ローム粒子中量、砂質粘土粒子少量
7	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、砂質粘土粒子少量	14	極暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量
			15	褐 灰色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量
			16	暗 褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量



第237图 第2218号住居跡実測図(1)



第238図 第2218号住居跡実測図(2)

竈2土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------------|-----------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 砂質粘土粒子微量 | 6 にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 7 褐灰色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子中量, 焼土ブロック少量, ロームブロック微量 | 8 褐灰色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・ロームブロック少量 |
| 4 褐灰色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ロームブロック微量 | 9 褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子炭化粒子微量 | 10 赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子中量 |
| | | 11 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量, ロームブロック少量 |
| | | 12 暗褐色 | ロームブロック中量 |

覆土 10層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

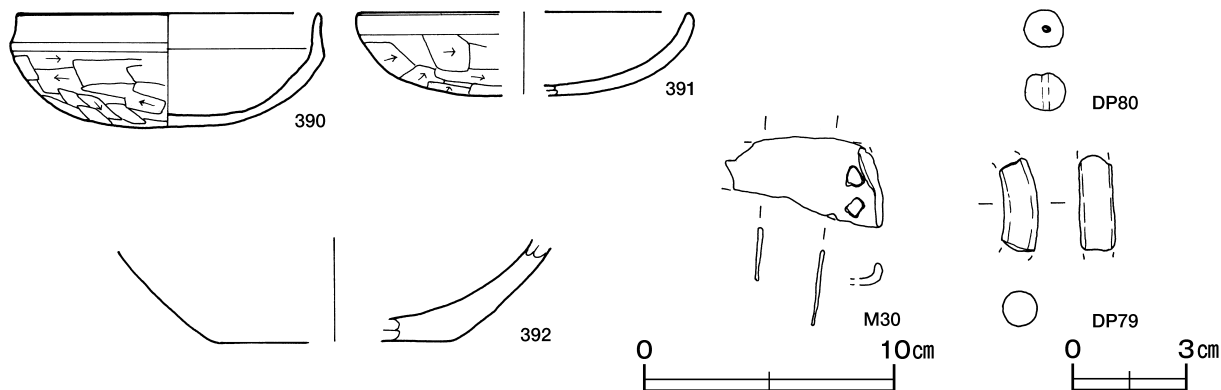
土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------------|--------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・砂質粘土粒子微量 | 7 灰褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック微量 | 8 褐灰色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子中量 | 9 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 4 にぶい褐色 | ロームブロック中量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 5 褐灰色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 | | |
| 6 灰褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | | |

ピット 10か所。P1～P4は支柱穴で、深さは65～85cmである。P5は深さ21cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ50cmで、P1とP4の間に位置しており、竈の焚口部を避けていることから、支柱穴と考えられる。また、P8は深さ52cmで、P3とP4の間に位置していることから支柱穴と考えられるが、竈2と対峙する西側に位置していることから出入口施設に伴うピットの可能性も考えられる。P7・P9・P10の性格は不明である。

遺物出土状況 土師器片1117点(坏類206, 高坏5, 甕類893, 甑11, 手捏土器2), 須恵器片14点(坏9, 甕5)土製品5点(玉類2, 支脚3), 鉄製品1点(鎌), 鉄滓1点が散在した状態で出土しており, 出土層位は覆土上層から中層である。また, 混入した磁器片2点も出土している。390は南西コーナ一部, 391は南東部, 392は竈左側の覆土下層からそれぞれ出土しており, いずれも住居廃絶後に投棄されたものと考えられる。また, DP80は中央部西寄りの床面, DP79は北東部の覆土, M30は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡は2つの竈の同時使用が認められる住居跡である。時期は, 出土土器から7世紀前葉以前と考えられる。



第239図 第2218号住居跡出土遺物実測図

第2218号住居跡出土遺物観察表（第239図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
390	土師器	坏	11.8	4.6	2.9	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土下層	60%
391	土師器	坏	[13.0]	3.3	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土下層	30%
392	土師器	甕	-	(4.0)	[9.5]	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内面ナデ	覆土下層	10%

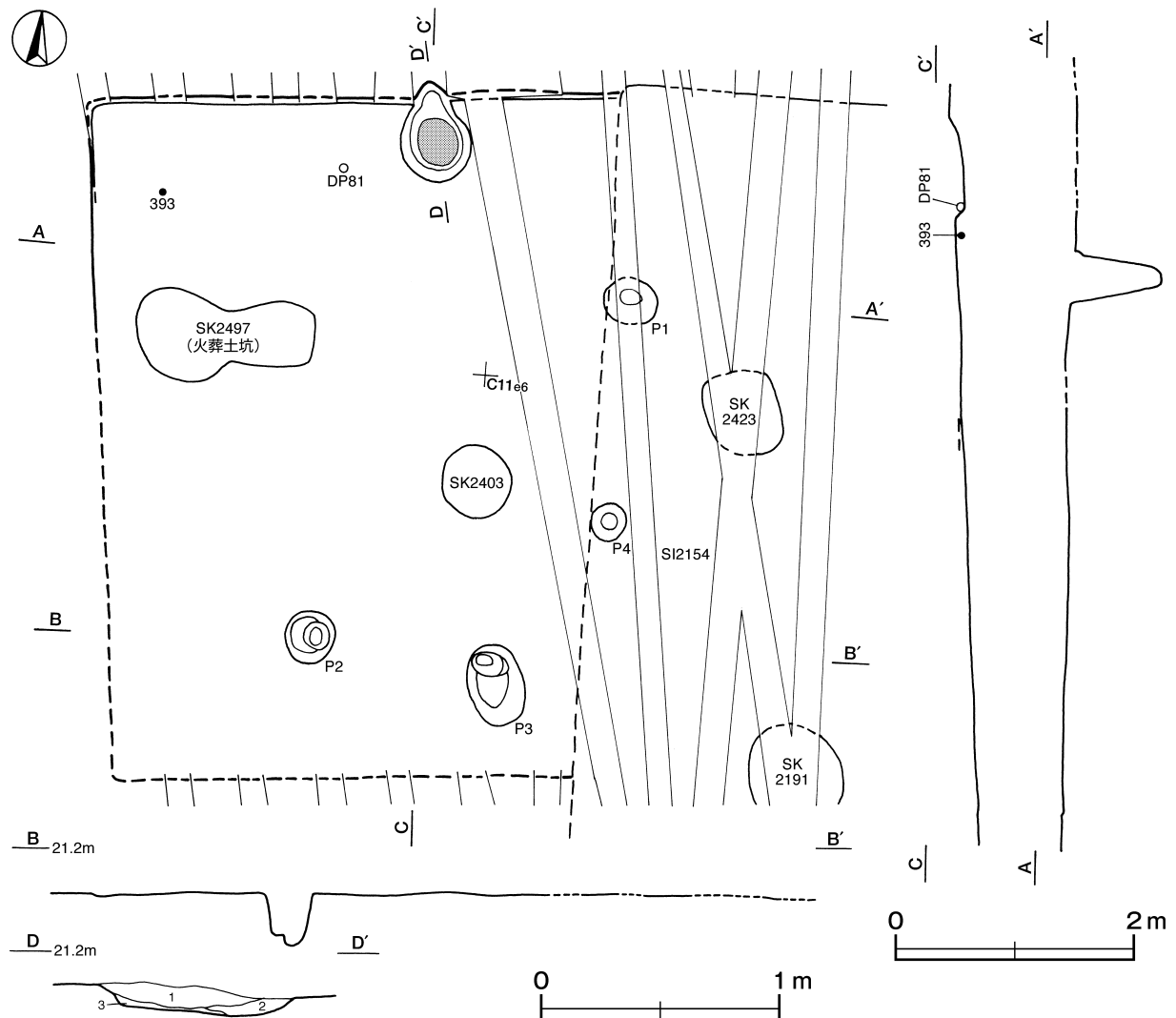
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP79	勾玉	(2.5)	0.9	0.9	(2.9)	土(長石)	ナデ	覆土中層	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP80	小玉	1.1	1.0	0.2	1.1	土(石英)	ナデ 一方向の穿孔	床面	PL190

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M30	鎌	(6.8)	4.0	0.3	(22.7)	鉄	刀先端部欠損 基部を折り返す 断面三角形	覆土下層	

第2220号住居跡（第240・241図）

位置 調査区中央部のC11e6区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。



第240図 第2220号住居跡実測図

重複関係 第2154号住居，第2191・2403・2423土坑，第2497号土坑（火葬土坑）に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.82m，短軸5.62mの方形と推定され，主軸方向はN - 8° - Wである。壁高は2cmほどと浅く，外傾して立ち上がっている。

床 削平されており詳細は不明である。

竈 北壁のほぼ中央部に付設されている。上部が削平されているため全体の形状は不明であるが，焚口部から煙道部まで84cmである。火床部は床面を浅く皿状に掘りくぼめており，火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に14cm掘り込まれている。

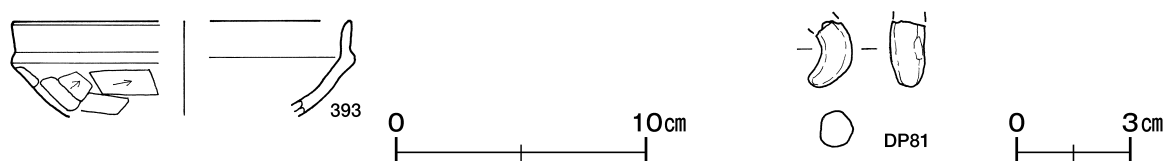
竈土層解説

- 1 灰 褐色 焼土ブロック中量，ロームブロック・砂質粘土 3 灰 褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・砂質粘土粒子微量
粒子少量
- 2 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量，ロームブロック少量，砂質粘土粒子微量

ピット 4か所。P1・P2は主柱穴で，深さは42・75cmである。P3は深さ30cmで，竈に対峙する位置にあることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P4は深さ60cmで，性格は不明である。

遺物出土状況 土師器片53点（坏5，甕類48），須恵器片3点（甕類），土製品2点（勾玉，支脚）が出土している。393は北西コーナー付近の床面から出土しており，住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。DP81は竈付近の床面から出土している。

所見 床が露出した状態で検出されたため，覆土の堆積状況は不明であり，出土遺物の数も少ないため時期の特定が難しいが，出土土器と重複関係から6世紀後半と考えられる。



第241図 第2220号住居跡出土遺物実測図

第2220号住居跡出土遺物観察表（第241図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
393	土師器	坏	[13.4]	(3.7)	-	雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へらナデ	床面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP81	勾玉	(1.7)	(1.2)	0.9	(1.6)	土(長石・石英)	ナデ 頭部欠損	床面	

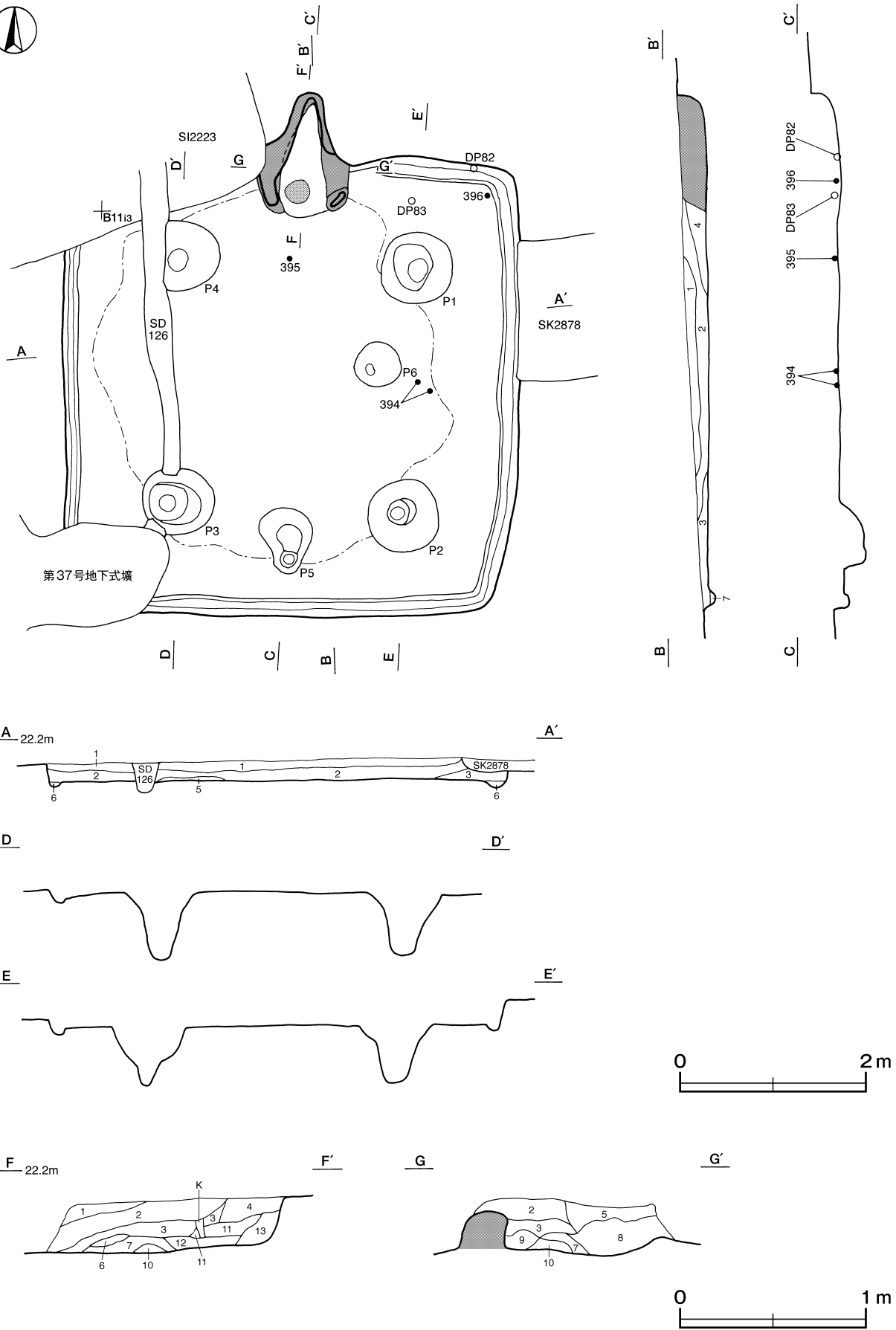
第2221号住居跡（第242～244図）

位置 調査区中央部のB11i3区，標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2223号住居，第126号溝，第37号地下式墳，第2878号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.93m，短軸4.83mの方形で，主軸方向はN - 4° - Eである。壁高は9～24cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅13～16cm，深さ4～6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。



第242图 第2221号住居跡実測图

竈 北壁中央部に付設されている。左袖部の一部を第2223号住居に掘り込まれ、右袖中央部を攪乱によって壊されている。確認できた部分の規模は、焚口部から煙道部まで131cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さであり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に78cm掘り込まれ、火床部から急な傾斜で立ち上がっている。また、火床部には5cmほどの厚みで灰が堆積している。第3・6層は、天井部の崩落層である。

竈土層解説

1 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化物微量	8 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土ブロック・砂質粘土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量	9 赤褐色	焼土ブロック中量, ロームブロック・砂質粘土粒子少量
3 灰褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量	10 にぶい赤褐色	灰中量, ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
4 灰褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子微量	11 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量, 砂質粘土粒子少量, 炭化物ローム粒子微量
5 褐色	ローム粒子中量, 焼土ブロック・砂質粘土粒子微量	12 暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量
6 赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量, ローム粒子微量	13 極暗赤褐色	焼土粒子中量, ローム粒子・砂質粘土粒子少量
7 極暗赤褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量		

ピット 6か所。P1～P4は主柱穴で、深さは60～71cmである。P5は深さ30cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ26cmで、P1とP2のほぼ中央に位置していることから、支柱穴と考えられる。

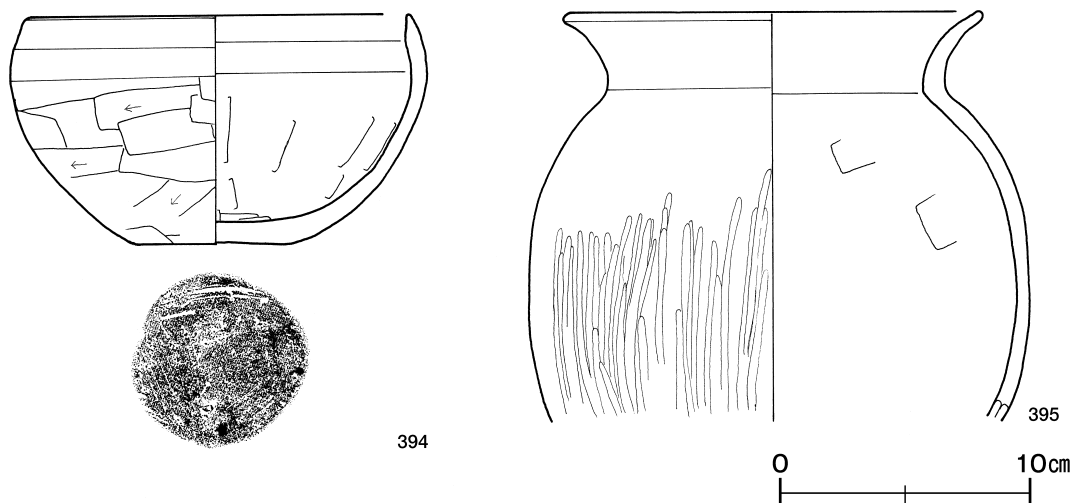
覆土 7層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

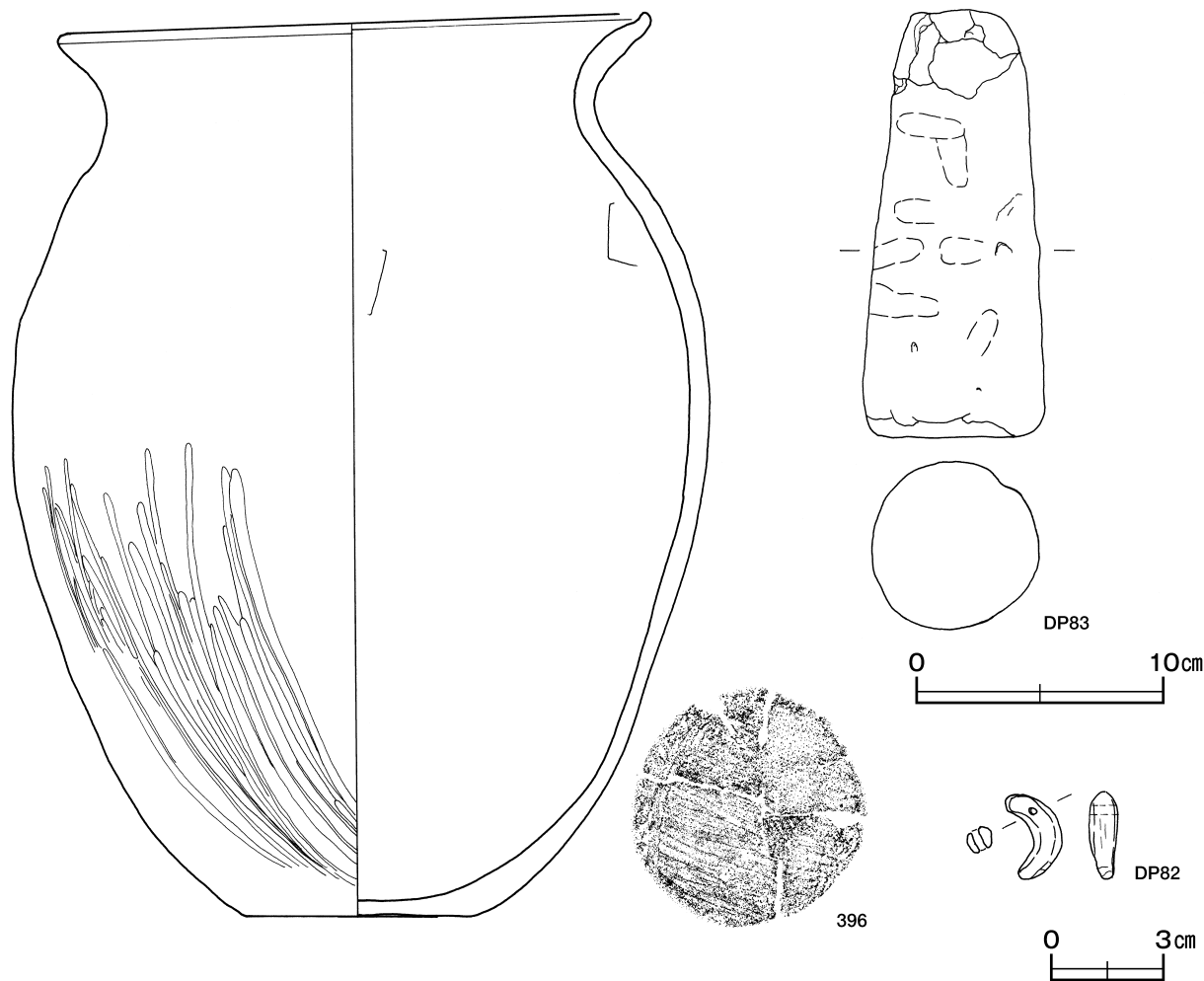
1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	5 褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
2 暗褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	6 褐色	ローム粒子中量
3 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子少量
4 黒褐色	炭化物・砂質粘土粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片668点(坏86, 椀13, 高坏3, 壺3, 甕類559, 甌4), 土製品5点(勾玉1, 小玉1, 支脚2)が散在した状態で出土している。また、混入した須恵器片16点, 陶器片1点, 磁器片1点も出土している。394は中央部東寄り, 395は竈前部, 396は北東コーナー部のいずれも床面から出土しており、住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。また、DP82は北東コーナー部の壁溝覆土, DP83は北東部の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器および重複関係から7世紀前葉と考えられる。



第243図 第2221号住居跡出土遺物実測図(1)



第244図 第2221号住居跡出土遺物実測図(2)

第2221号住居跡出土遺物観察表(第243・244図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
394	土師器	椀	15.1	9.2	6.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	床面	95% PL170
395	土師器	甕	16.8	(16.3)	-	長石・石英・雲母	明灰褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	床面	40%
396	土師器	甕	23.4	36.5	9.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐色	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	床面	85% PL182

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP82	勾玉	2.3	1.5	0.8	1.8	土(長石)	孔径0.3cm ナデ 一方向の穿孔	壁溝覆土	PL190
DP83	支脚	18.6	7.9	7.3	1107.5	土(長石)	丁寧なナデ 指頭痕 にぶい橙色を呈する	床面	PL189

第2222号住居跡(第245・246図)

位置 調査区中央部のB10h0区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2225号住居跡を掘り込み、第2223号住居、第121号溝、第12号道路、第32号地下式墳に掘り込まれている。

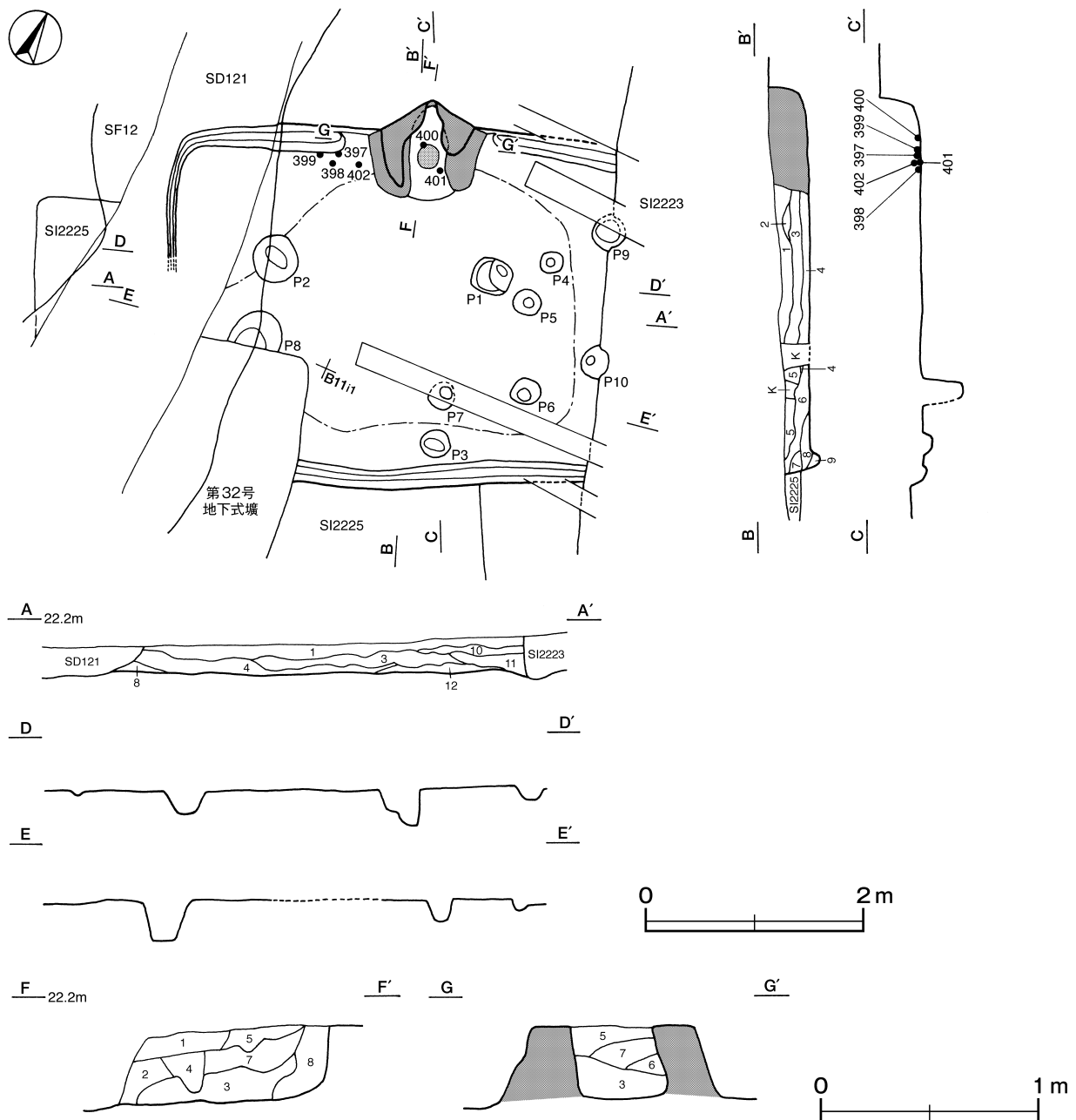
規模と形状 長軸4.01m、短軸3.27mの長方形で、主軸方向はN-19°-Wである。壁高は南壁際で20cmほどであり、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅15~19cm、深さ4~7cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで94cm、袖部幅97cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さであり、火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に28cm掘り込まれ、火床部から急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------|--------|----------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 8 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | | |
| 5 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | | |



第245図 第2222号住居跡実測図

ピット 10か所。P1・P2は主柱穴で、深さは22~38cmである。P3は深さ9cmで、竈と対峙する南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P4~P10の性格は不明である。

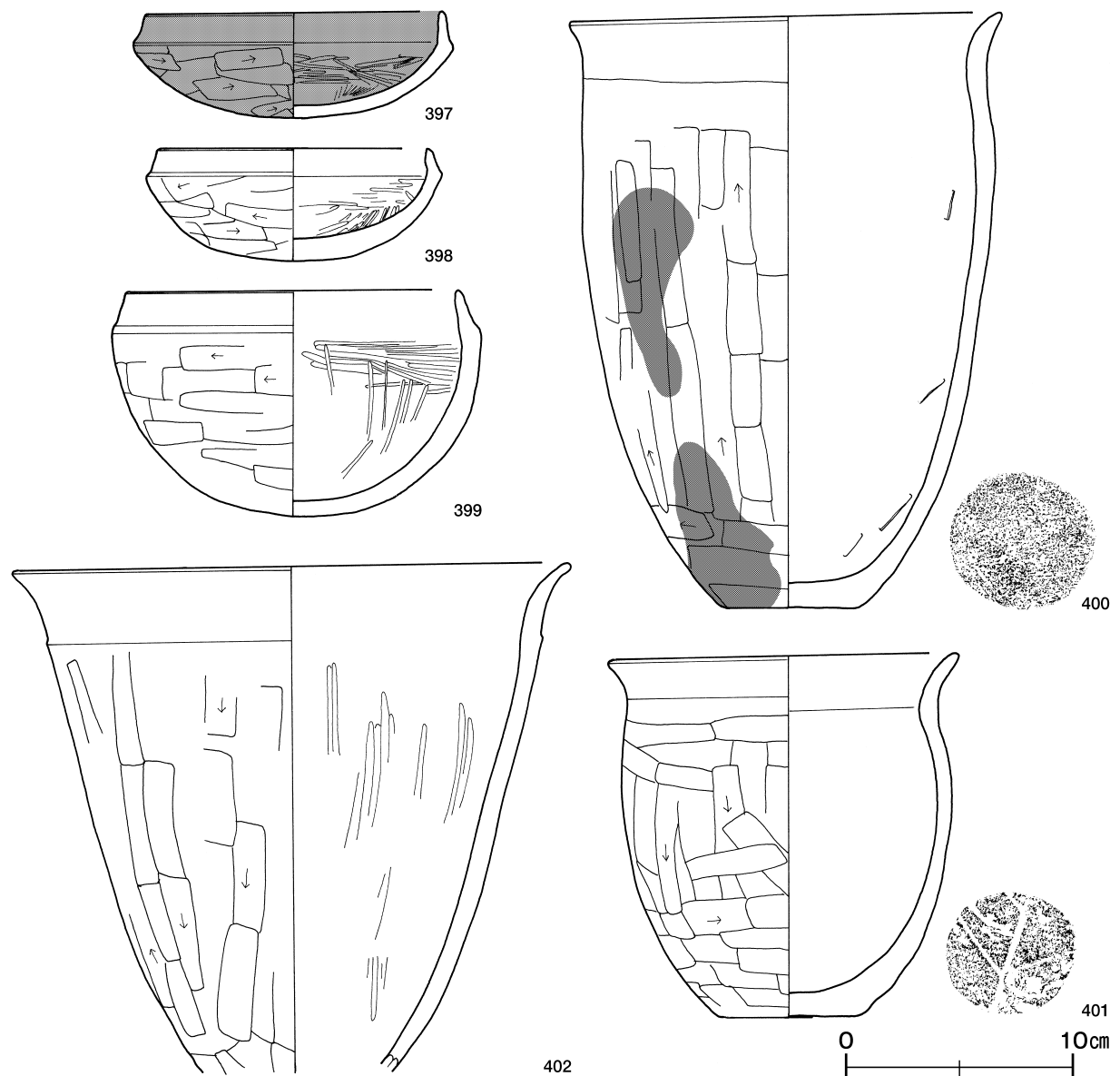
覆土 12層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|--------|------------------------|
| 1 灰褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 9 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | 10 褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 褐色 | ローム粒子中量 | 11 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 12 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片410点(坏類89, 高坏5, 壺11, 甕類264, 甑41), 須恵器片23点(坏4, 甕類19), 鉄製品1点(不明), 鉄滓1点が散在した状態で出土している。また, 混入した土師器片1点(器台), 陶器片1点も出土している。397~399・402は竈左側の床面から出土し, 397・398は重なった状態で出土している。また, 400, 401はともに竈の火床部から出土している。いずれも住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器および重複関係から6世紀後葉と考えられる。



第246図 第2222号住居跡出土遺物実測図

第2222号住居跡出土遺物観察表（第246図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
397	土師器	坏	13.0	4.6	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面磨き	床面	95% PL157
398	土師器	坏	11.9	4.8	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面磨き	床面	95% PL157
399	土師器	椀	14.5	9.9	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面磨き	床面	95% PL170
400	土師器	甕	18.8	26.0	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へらナデ	床面	100% 煤付着 PL182
401	土師器	甕	15.3	15.9	6.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	明黄褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	床面	100% PL177
402	土師器	甗	24.3	(22.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へら磨き 底部木葉痕	床面	95% PL186

第2223号住居跡（第247～249図）

位置 調査区中央部のB11g2区，標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2221・2222号住居跡を掘り込み，第126・127号溝，第2885号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.85m，短軸7.75mの方形で，主軸方向はN - 18° - Wである。壁高は18～37cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，竈周辺から南壁際まで踏み固められている。壁下には，幅14～21cm，深さ7～12cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。また，西部の床面には焼土が堆積している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで121cm，袖部幅149cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さであり，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に19cm掘り込まれ，火床部から急な傾斜で立ち上がっている。第3・6層は，天井部の崩落層である。

竈土層解説

1 暗 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	4 暗 赤 褐 色	焼土粒子中量，炭化粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量
2 暗 褐 色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量，炭化物微量	5 暗 赤 褐 色	焼土ブロック・炭化粒子少量，砂質粘土粒子微量
3 灰 黄 褐 色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量	6 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量，ローム粒子炭化粒子微量

ピット 18か所。P1～P4は支柱穴で，深さは55～73cmである。P5は深さ44cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P6～P18は配置が不規則であり，性格は不明である。

覆土 10層に分けられる。焼土ブロック・炭化物を含み，不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

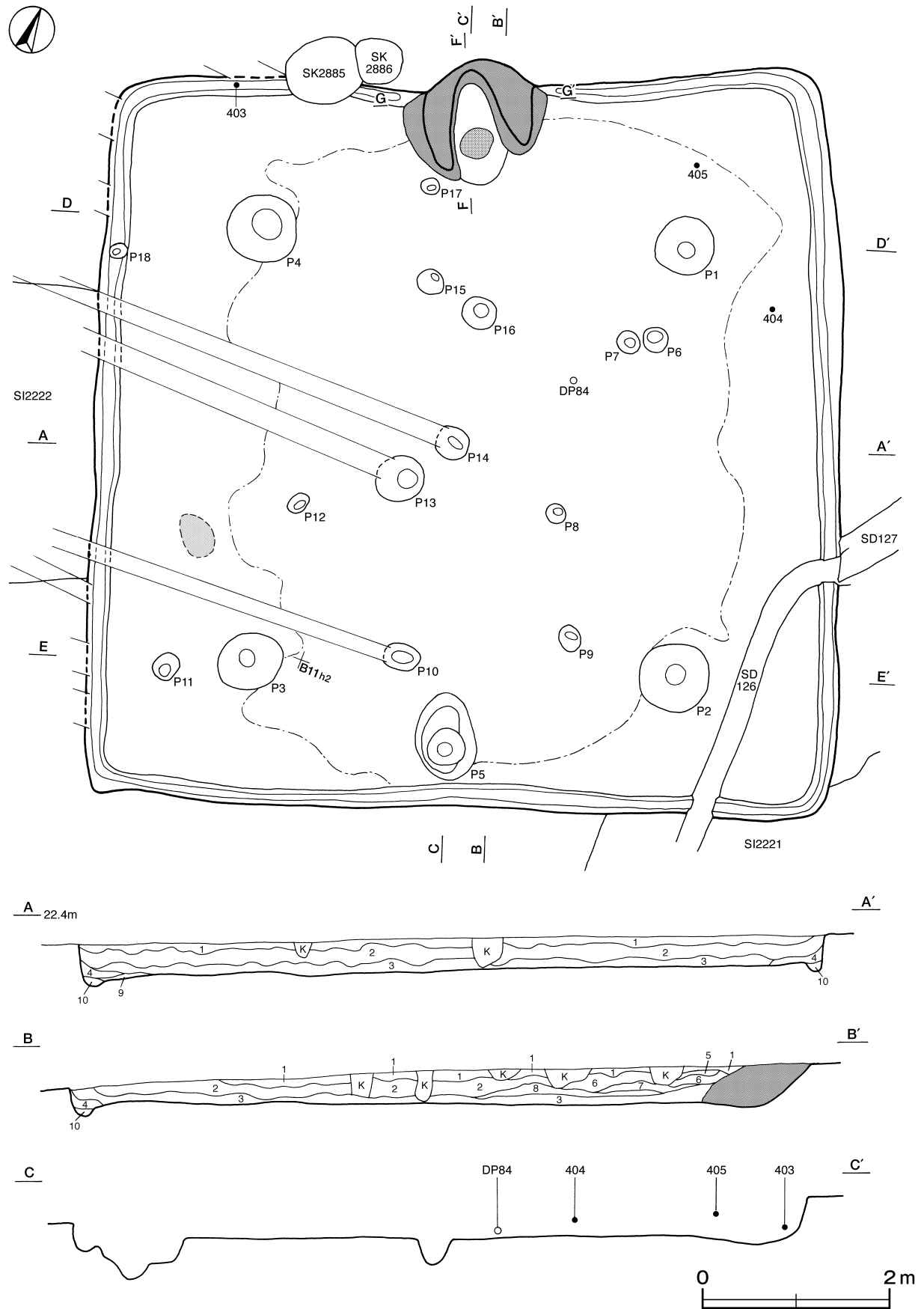
土層解説

1 黒 褐 色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量	6 にぶい黄褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子・白色粒子微量
2 暗 褐 色	焼土ブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量	7 にぶい黄褐色	焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック少量，白色粒子微量
3 暗 褐 色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・白色粒子微量	8 黒 褐 色	焼土ブロック・粘土ブロック少量，ロームブロック・炭化物微量
4 暗 褐 色	ローム粒子中量，焼土粒子微量	9 褐 色	ローム粒子中量，炭化粒子微量
5 暗 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子粘土粒子・白色粒子微量	10 褐 色	ロームブロック中量，炭化物微量

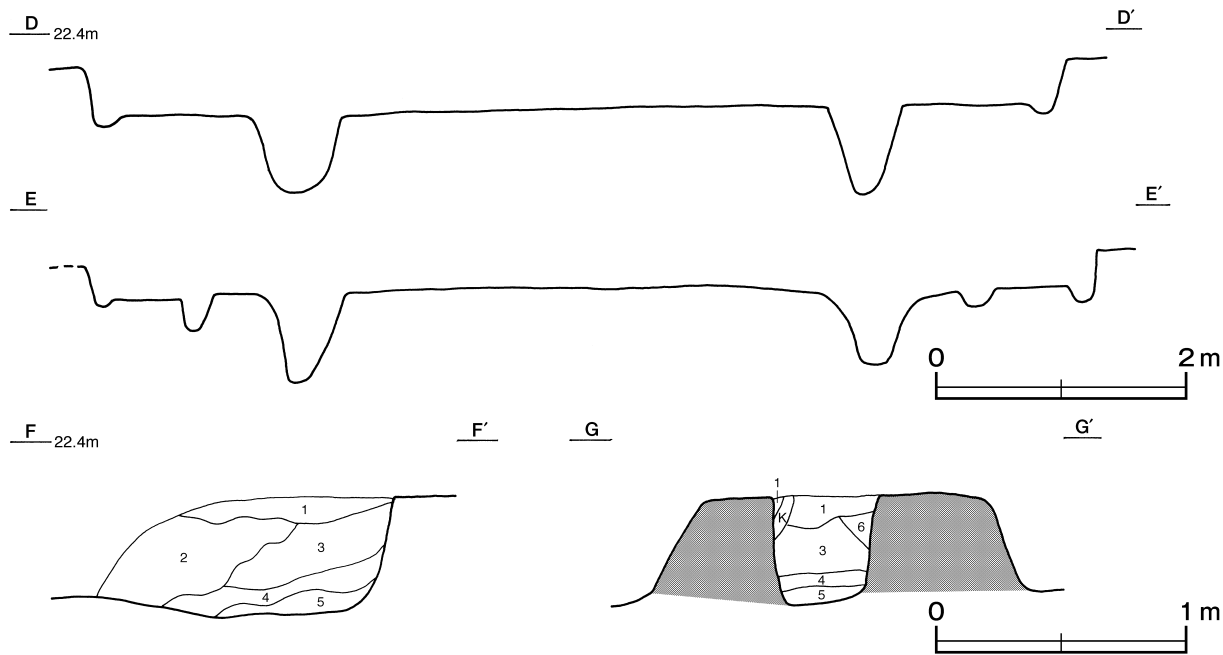
遺物出土状況 土師器片998点（坏277，高坏4，甕類709，甗8），須恵器片43点（坏12，蓋2，甕類29），土製品1点（小玉），石器2点（砥石），鉄製品4点（刀子3，釘1）が散在した状態で出土している。また，混入した土師器片1点（埴），陶器片6点，泥面子1点も出土している。遺物量は多いがほとんどが細片であり，出土層位も上層である。403は北西部壁際の覆土下層から出土している。404は東部北寄り，405は北東コーナー部のいずれも覆土中層から出土しており，住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。また，DP84は中央部の覆土下層，M31は南西部の覆土からそれぞれ出土している。

所見 覆土中に焼土・炭化物が含まれ，床面に焼土が確認されていることから，焼失住居と考えられる。時期

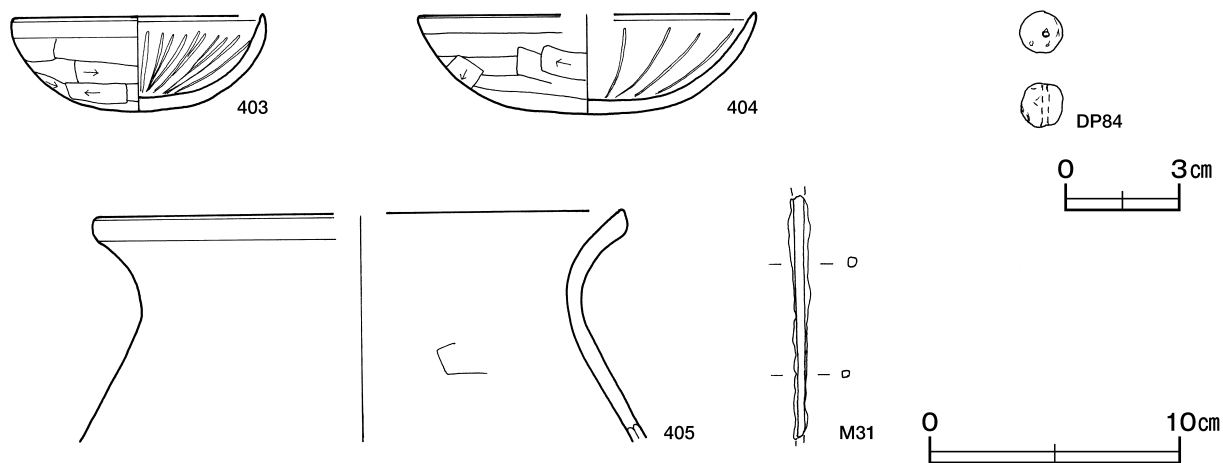
は，出土土器および重複関係から7世紀中葉と考えられる。



第247図 第2223号住居跡実測図(1)



第248図 第2223号住居跡実測図(2)



第249図 第2223号住居跡出土遺物実測図

第2223号住居跡出土遺物観察表 (第249図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
403	土師器	坏	9.8	3.7	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 内部放射状の磨き 体部外面へラ削り後ナデ	覆土下層	100% PL157
404	土師器	坏	[13.4]	4.0	-	石英・雲母	明赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 内部放射状の磨き 体部外面へラ削り後ナデ	覆土中層	30%
405	土師器	甕	[20.9]	(9.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部内面へラナデ	覆土中層	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP84	小玉	1.1	1.2	0.2	1.3	土(長石・雲母)	ナデ 一方向の穿孔	覆土下層	PL190

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M31	釘	(9.7)	0.4	0.4	(11.5)	鉄	頭部欠損 断面方形の棒状	覆土	

第2225号住居跡（第250・251図）

位置 調査区中央部のB10i0区，標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2222号住居，第121号溝，第12号道路，第32号地下式塙に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.89m，短軸4.28mの長方形で，主軸方向はN - 22° - Wである。壁高は南西部で5cmほどであるが，覆土が薄いため立ち上がりは不明である。

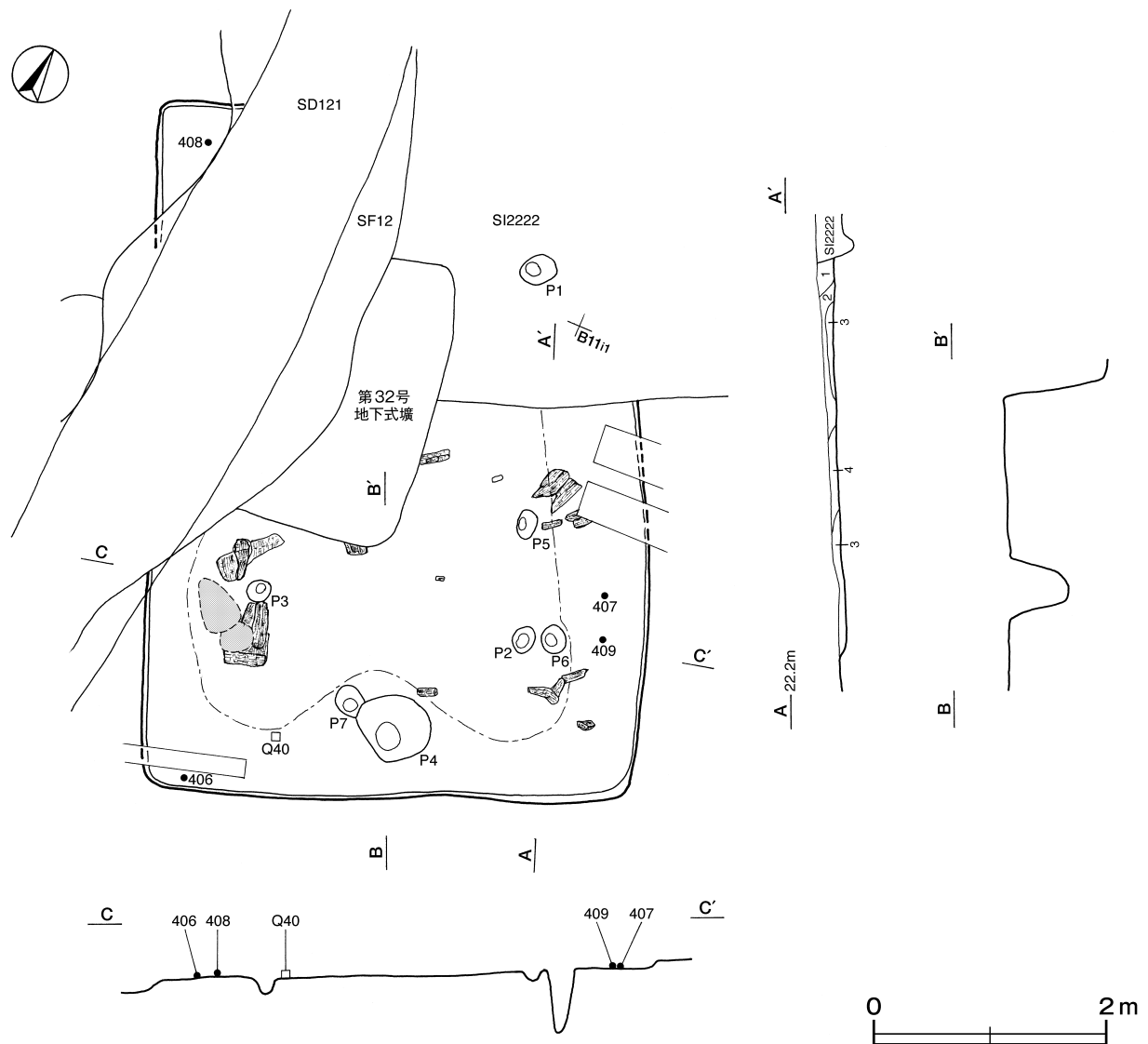
床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。また，床面に焼土が堆積し，炭化材が確認されている。

ピット 7か所。P1～P3は主柱穴で，深さは9～14cmである。P4は深さ49cmで，南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P5は深さ52cmで，P1とP2の間に位置していることから，支柱穴と考えられる。P6，P7の性格は不明である。

覆土 4層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

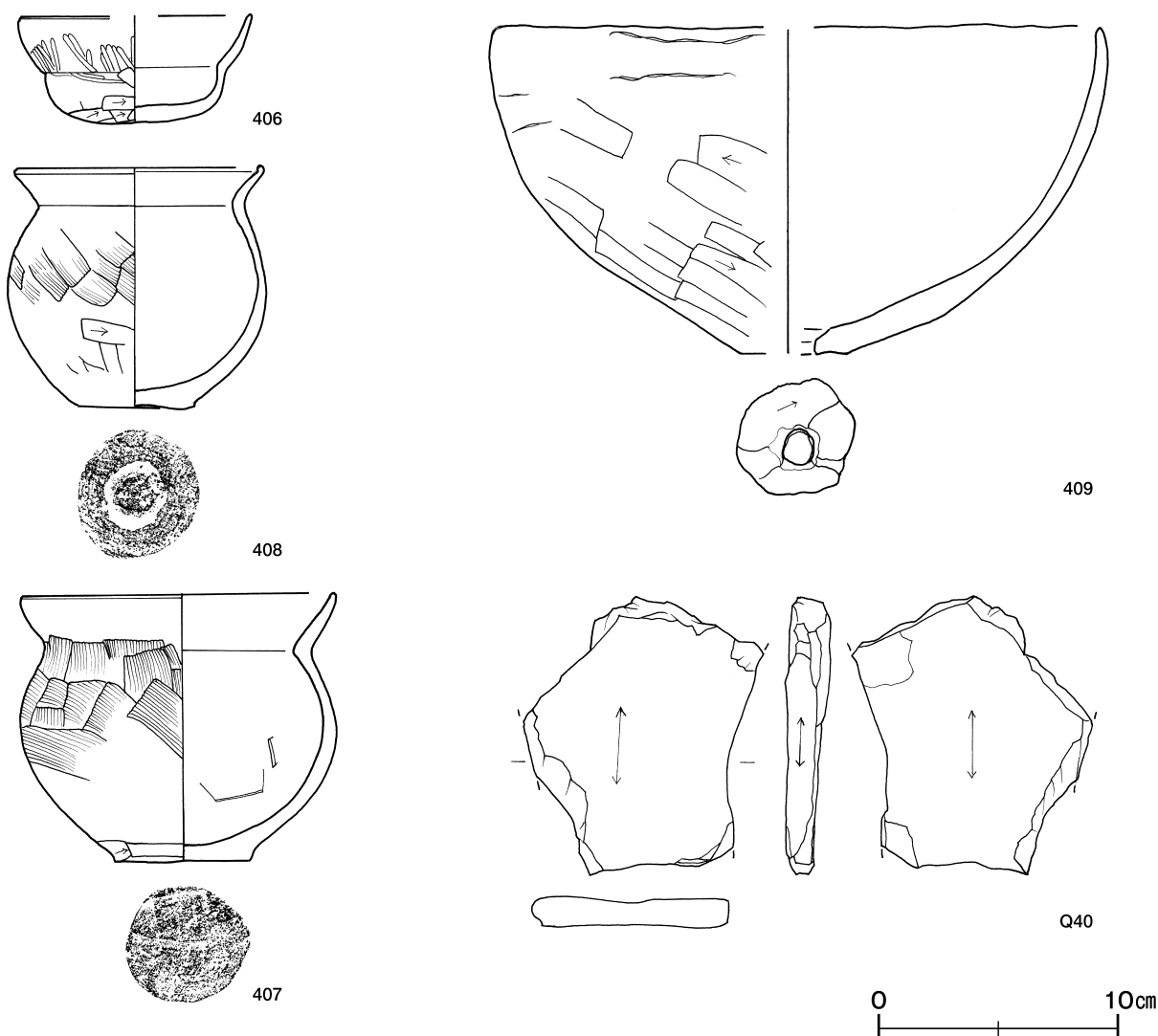
- | | | | |
|-------|---------------------|-------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量，炭化材・焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子少量，炭化材・焼土粒子微量 |



第250図 第2225号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片291点(坏3, 埴1, 甕類280, ミニチュア土器2, 手捏土器5), 石器1点(砥石)が散在した状態で出土している。また, 混入した須恵器片6点も出土している。406は南西コーナー部, 408は北西コーナー部, 407・409は東部南寄りの床面から出土しており, いずれも住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。また, Q40は南西部の床面から出土している。

所見 覆土中に炭化材が含まれ, 床面に焼土・炭化材が確認されていることから, 焼失住居と考えられる。時期は, 出土土器および重複関係から5世紀前半と考えられる。



第251図 第2225号住居跡出土遺物実測図

第2225号住居跡出土遺物観察表(第251図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
406	土師器	埴	[9.6]	4.5	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 外面ヘラ削り後ナデ 内面ナデ	頸部外面ヘラ磨き 体部 内面ナデ	床面	60%
407	土師器	小形甕	12.9	11.1	5.4	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 内面ヘラナデ	体部外面ハケ目調整後ナデ	床面	95% PL174
408	土師器	小形甕	10.1	10.0	4.8	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 内面ヘラナデ	体部外面ハケ目調整後ナデ	床面	95% PL174
409	土師器	甕	25.3	13.6	4.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラ削り	輪積痕 内面ナデ 底部外面ヘラ削り	床面	40%

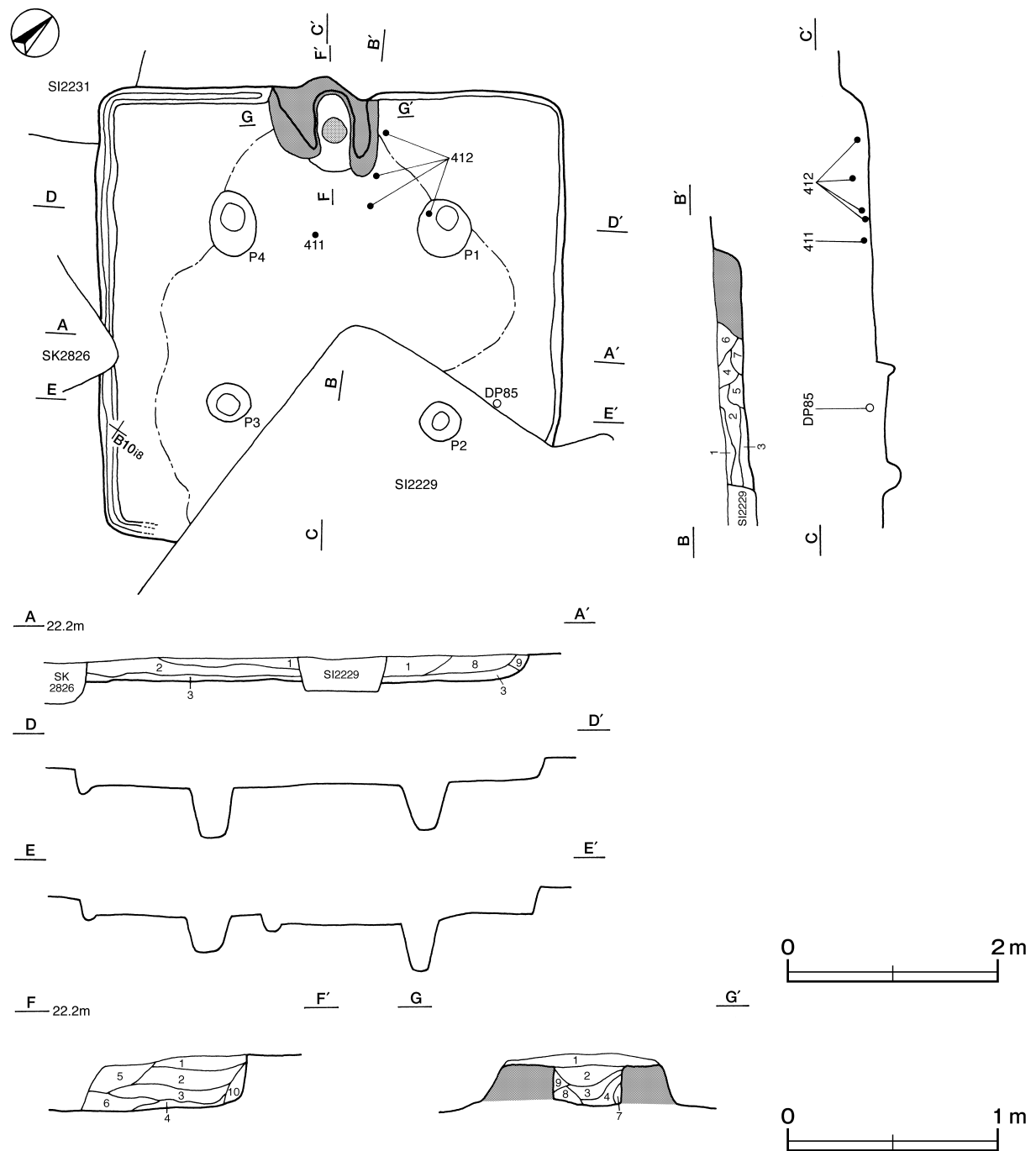
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q40	砥石	(12.4)	(10.7)	1.4	(273.7)	粘板岩	砥面4面 他は破断面	床面	

第2226号住居跡（第252・253図）

位置 調査区西部のB10h8区，標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2231号住居跡を掘り込み，第2229号住居，第2826号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.38m，短軸4.25mの方形で，主軸方向はN - 40° - Wである。壁高は15～18cmで，ほぼ直立している。



第252図 第2226号住居跡実測図

床 ほぼ平坦で、竈周辺から南壁際まで踏み固められている。西側の壁下には、幅13～16cm、深さ4～7cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで102cm、袖部幅102cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さであり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に13cm掘り込まれ、火床部から急な傾斜で立ち上がっている。第1・2・5層は、天井部の崩落層である。

竈土層解説

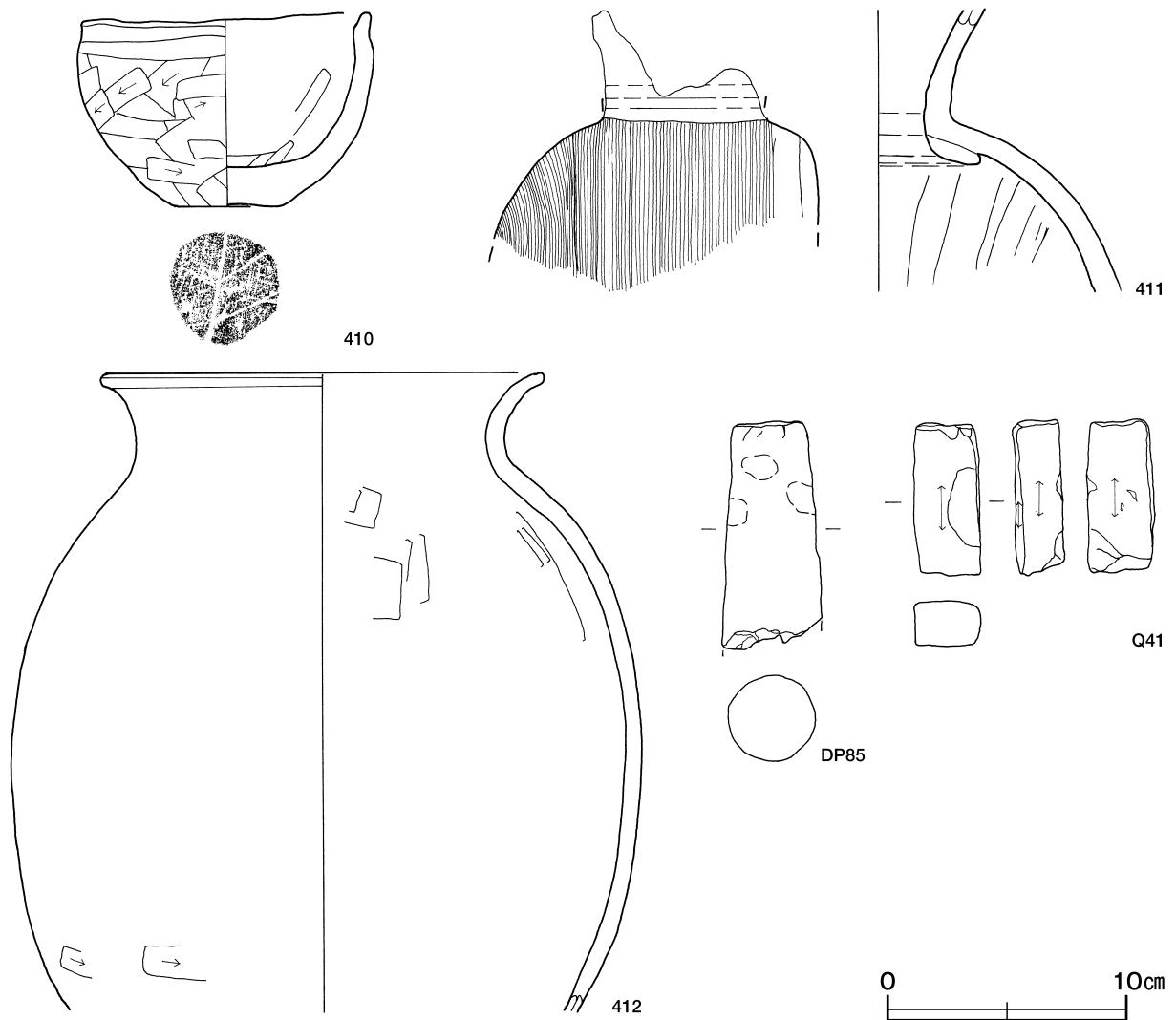
- | | |
|--|---------------------------------------|
| 1 灰褐色 砂質粘土粒子多量, ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 暗赤褐色 焼土粒子多量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子中量, 炭化粒子少量 | 8 褐色 ロームブロック中量, 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量 | 9 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 4 極暗赤褐色 焼土粒子多量, 炭化粒子少量 | 10 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 5 灰褐色 砂質粘土粒子多量, ロームブロック・焼土粒子少量 | |
| 6 暗赤褐色 焼土粒子多量, ローム粒子・炭化粒子少量 | |

ピット 4か所。P1～P4は主柱穴で、深さは32～57cmである。

覆土 9層に分けられる。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 3 褐色 ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | 4 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |



第253図 第2226号住居跡出土遺物実測図

- 5 灰 褐 色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量
- 6 灰 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 黒 褐 色 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 8 灰 褐 色 ローム粒子中量
- 9 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片261点(坏10, 椀4, 高坏1, 甕類246), 須恵器片3点(坏2, 提瓶1), 土製品1点(支脚), 石器1点(砥石)が竈前部から中央部を中心に出土している。また, 混入した陶器片2点も出土している。411は竈前面, 412は北東部の覆土下層からそれぞれ出土しており, 住居の廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。また, 410は, 南東部と南西部の覆土から出土した破片が接合したものであり, DP85は南東部の覆土下層, Q41は南東部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器および重複関係から6世紀後葉と考えられる。

第2226号住居跡出土遺物観察表(第253図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
410	土師器	椀	11.8	8.1	4.5	長石・石英	明黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ 底部木葉痕	覆土	70% PL170
411	須恵器	提瓶	-	(11.8)	-	長石	黄灰	普通	口辺部内外面口クロナデ 体部外面カキ目調整 内面ナデ	覆土下層	20%
412	土師器	甕	18.4	26.6	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り後ナデ 内面へラナデ	覆土下層	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP85	支脚	(9.5)	4.3	3.6	(172.4)	土(長石・石英・雲母・燧石)	ナデ 指頭痕 にぶい橙色	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q41	砥石	6.4	2.8	1.9	65.6	凝灰岩	砥面4面 上部・下部欠損	覆土下層	

第2229号住居跡(第254図)

位置 調査区西部のB10h8区, 標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2226号住居跡を掘り込み, 第44号方形竪穴遺構, 第2896・2897・2899号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.87m, 短軸4.05mの長方形で, 主軸方向はN-3°-Eである。壁高は10~28cmで外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 竈前面から中央部が踏み固められている。壁下には, 幅11~26cm, 深さ5~6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。第2896号土坑に掘り込まれており, 左袖部および火床部の一部だけが遺存している。火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- 1 黒 褐 色 ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 赤 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子少量
- 3 にぶい赤褐色 焼土粒子多量, 灰中量, 炭化粒子少量
- 4 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量
- 5 灰 褐 色 砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック少量
- 6 暗 赤 褐 色 焼土粒子中量, 砂質粘土粒子少量
- 7 極暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量, ロームブロック少量

ピット 10か所。P1~P3は支柱穴で, 深さは13~15cmである。P4は深さ14cmで, 南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。P5~P10の性格は不明であるが, P10はP1とP3の中央部に位置していることから, 支柱穴の可能性も考えられる。

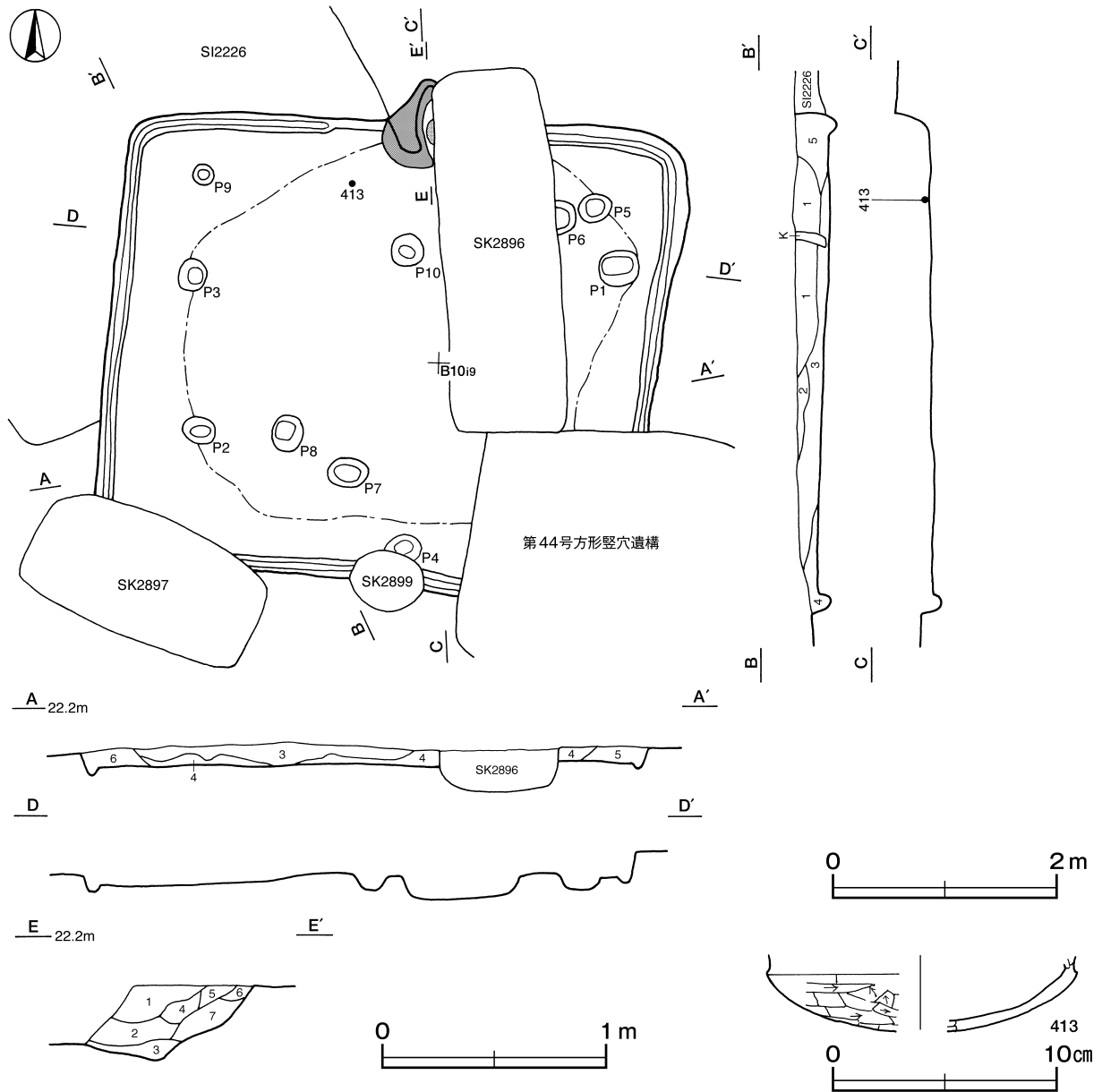
覆土 6層に分けられる。各層にロームブロックを含み, 不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 4 褐 色 ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 5 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片54点（坏9，甕類44，手捏土器1）が散在した状態で出土している。また，混入した須恵器片2点も出土している。413は竈左側の覆土下層から出土しており，住居の廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器および重複関係から7世紀前葉と考えられる。



第254図 第2229号住居跡・出土遺物実測図

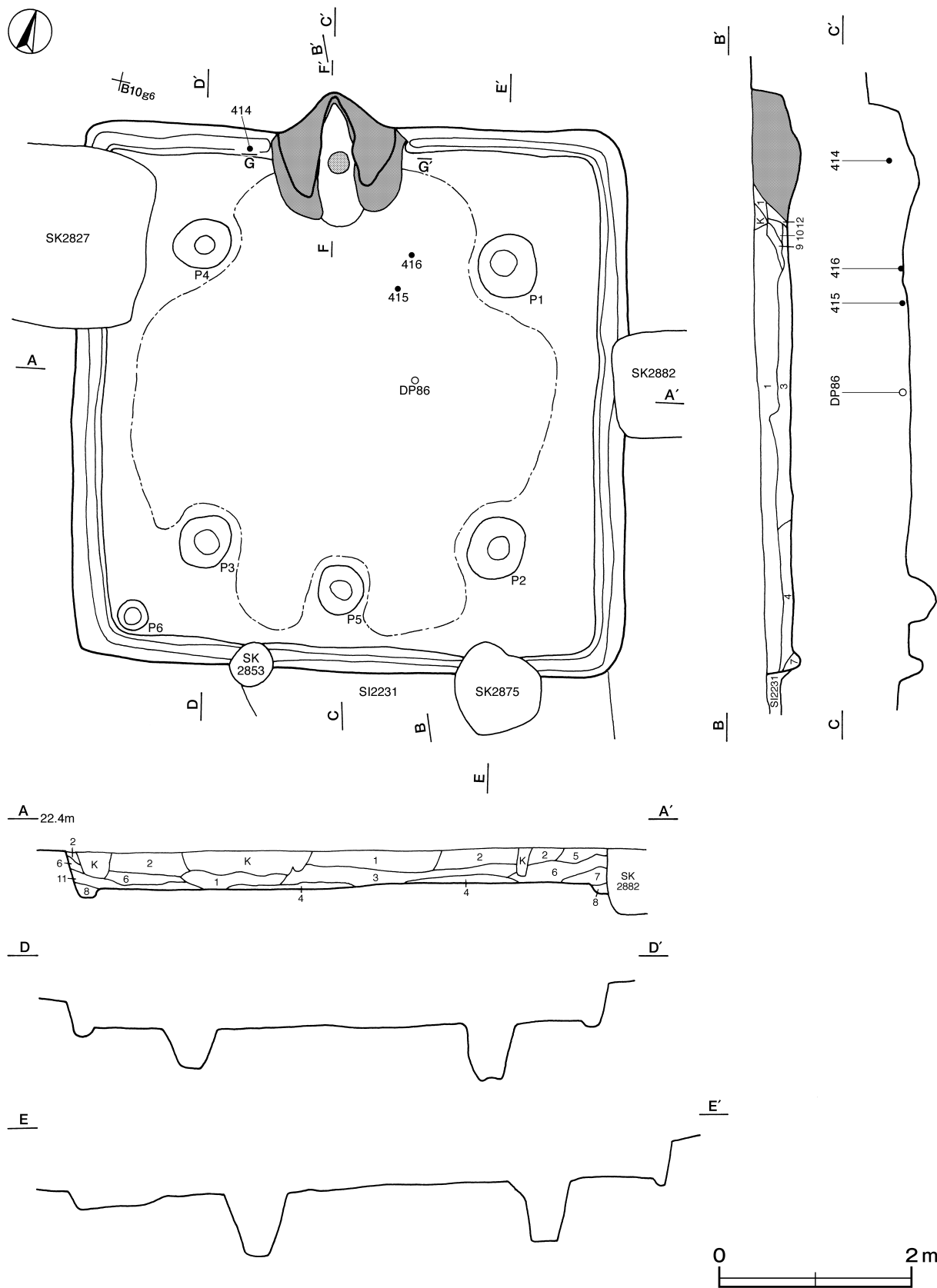
第2229号住居跡出土遺物観察表（第254図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
413	土師器	坏	-	(3.4)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土下層	15%

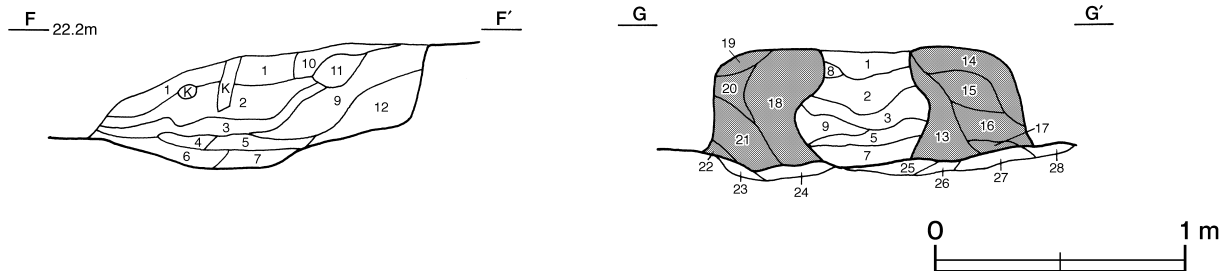
第2230号住居跡（第255～258図）

位置 調査区西部のB10g6区，標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2231号住居跡を掘り込み，第2827・2853・2875・2882号土坑に掘り込まれている。



第255图 第2230号住居跡実測図(1)



第256図 第2230号住居跡実測図(2)

規模と形状 長軸5.73m，短軸5.54mの方形で，主軸方向はN - 15° - Wである。壁高は33～43cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，竈前面から南壁際近くまで踏み固められている。壁下には，幅18～22cm，深さ6～15cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで138cm，袖部幅132cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面に砂質粘土を用いて構築されている。火床部は床面を皿状に掘りくぼめて使用しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に37cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。第1・2・3層は，天井部の崩落層である。

竈土層解説

1	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量	13	灰褐色	砂質粘土ブロック多量，焼土粒子少量
2	灰黄褐色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量，ロームブロック微量	14	褐色	ローム粒子中量
3	にぶい赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量	15	灰褐色	砂質粘土ブロック中量，ロームブロック少量
4	灰褐色	炭化物中量，焼土ブロック・砂質粘土粒子少量	16	褐色	砂質粘土ブロック中量，ローム粒子少量
5	暗赤褐色	灰中量，焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量	17	灰褐色	砂質粘土ブロック中量，ローム粒子少量
6	暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	18	灰褐色	砂質粘土ブロック多量，焼土粒子中量
7	褐色	ローム粒子中量，焼土ブロック微量	19	褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子中量
8	暗褐色	砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	20	褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量
9	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量	21	褐色	ロームブロック中量，砂質粘土ブロック少量
10	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，炭化物・砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量	22	褐色	ローム粒子中量，粘土粒子微量
11	暗赤褐色	焼土粒子中量，炭化物・砂質粘土粒子少量	23	褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量
12	暗赤褐色	焼土粒子中量，砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量	24	灰褐色	砂質粘土ブロック・焼土粒子中量
			25	暗赤褐色	焼土ブロック中量，炭化物少量
			26	暗赤褐色	焼土粒子中量
			27	褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量
			28	褐色	ローム粒子多量

ピット 6か所。P1～P4は主柱穴で，深さは42～67cmである。P5は深さ29cmで，南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P6の性格は不明である。

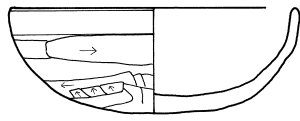
覆土 12層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子中量，焼土粒子少量	8	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
2	黒褐色	ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子少量	9	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量	10	暗赤褐色	焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子白色粘土粒子少量
4	暗褐色	ローム粒子中量，炭化物・焼土粒子少量	11	暗赤褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
5	暗褐色	ロームブロック・炭化物中量，焼土粒子少量	12	褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
6	黒褐色	ロームブロック・炭化物中量，焼土粒子少量			
7	極暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量			

遺物出土状況 土師器片855点（坏85，甕類736，甗34），須恵器片21点（坏8，甕13），土製品1点（小玉）が竈の前面を中心に出土している。また，混入した陶器片1点，磁器片1点も出土している。414は北壁の覆土中層，415・416は竈前面の覆土下層から出土しており，いずれも住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。417はP2の覆土下層から出土しており，柱が抜き取られた段階で流れ込んだものと考えられる。また，DP86は中央部の覆土下層から出土している。

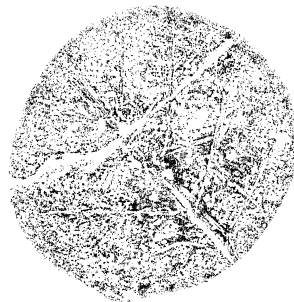
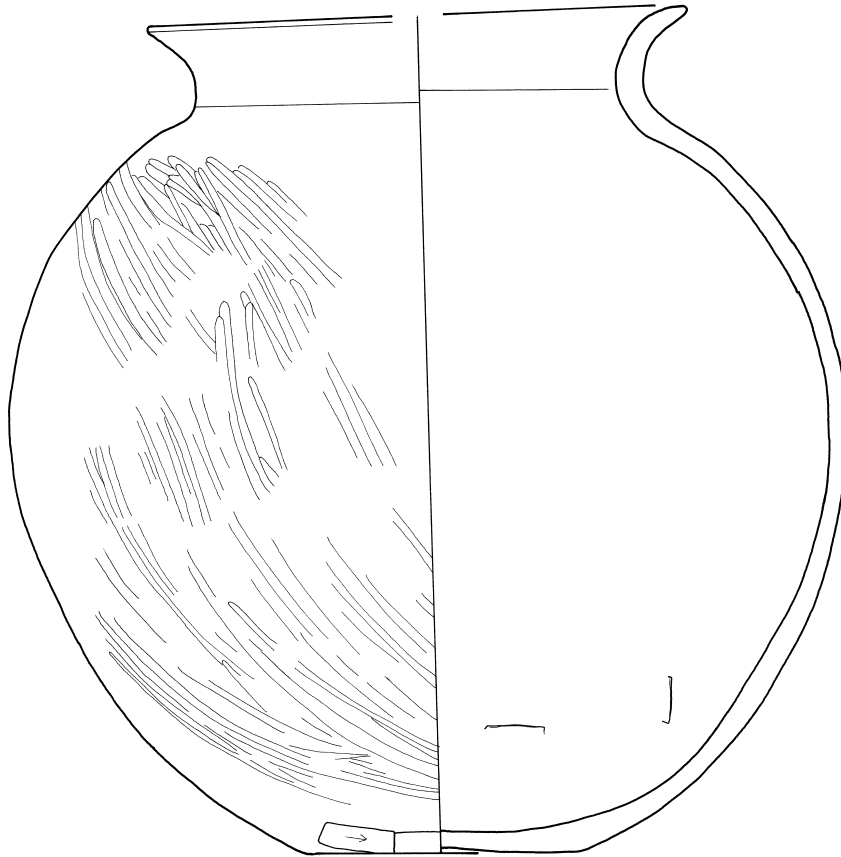
所見 時期は，出土土器および重複関係から7世紀前半と考えられる。



414



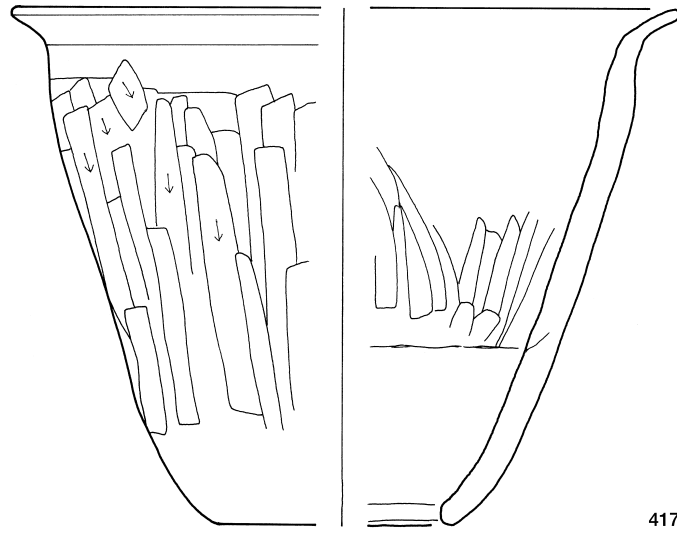
DP86



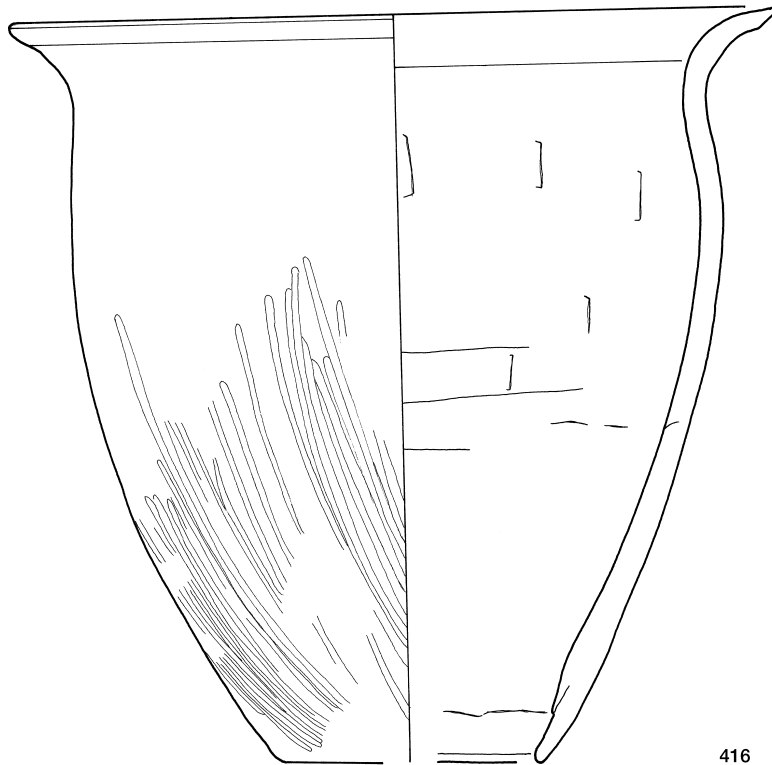
415



第257图 第2230号住居跡出土遺物実測図(1)



417



416



第258图 第2230号住居跡出土遺物実測図(2)

第2230号住居跡出土遺物観察表（第257・258図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
414	土師器	坏	11.4	4.2	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	覆土中層	100% PL157
415	土師器	甕	[21.4]	33.7	10.8	長石・石英・雲母・礫	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら磨き 内面へらナデ	覆土下層	80% PL182
416	土師器	甌	30.0	30.1	[10.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら磨き 内面へらナデ 輪積痕	覆土下層	85% PL186
417	土師器	甌	[26.3]	20.6	[9.5]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら磨き 内面へらナデ 輪積痕	P 2 覆土下層	70%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP86	土玉	1.9	1.1	0.2	2.6	土(長石・石英)	ナデ 一方向の穿孔	覆土下層	PL189

第2231号住居跡（第259・260図）

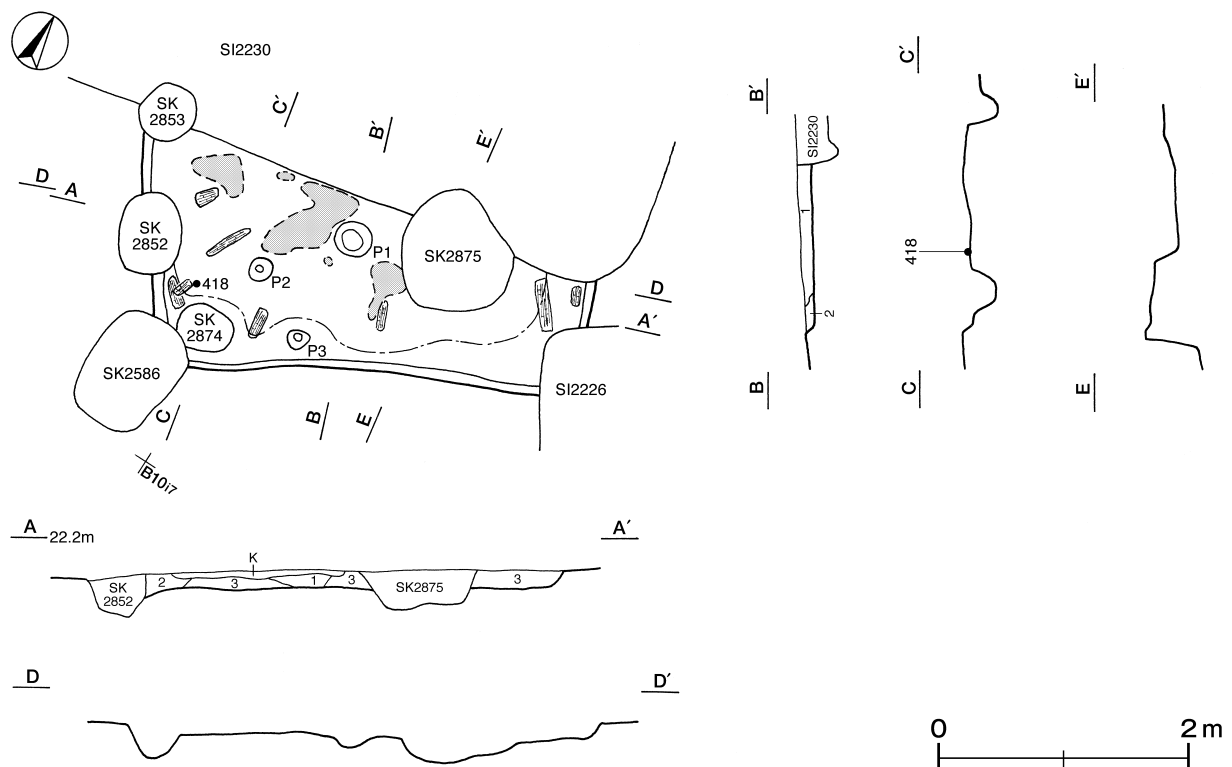
位置 調査区西部のB10h6区，標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2226・2230号住居，第2586・2852・2853・2874・2875号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部から中央部を第2230号住居に掘り込まれており，南部だけが遺存している。東西軸3.38m，南北軸は1.76mだけが確認された。主軸方向N - 27° - Wの方形または長方形と推定される。壁高は東壁で12cmで，外傾して立ち上がっている。

床 確認された部分はほぼ平坦で，各壁近くまで踏み固められている。また，床面全体に焼土が堆積しており，炭化材も確認されている。

ピット 3か所。P1は深さ11cmで南部の中央に位置していることから，出入口施設に伴うピットの可能性も考えられる。P2・P3の性格は不明である



第259図 第2231号住居跡実測図

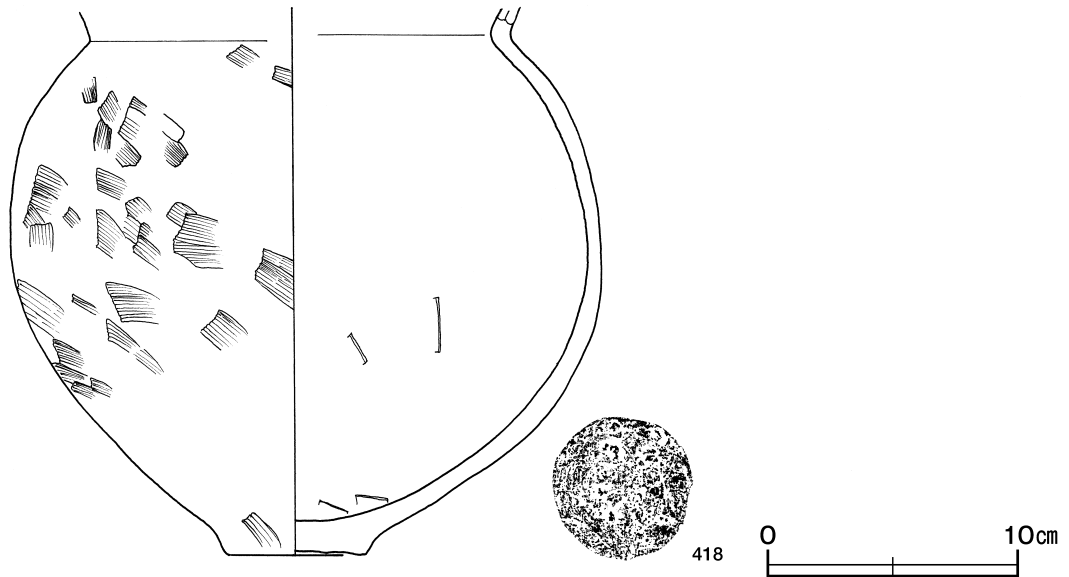
覆土 3層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量,炭化物・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量
- 3 黒褐色 炭化物・焼土粒子中量,ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片8点(坏1,甕類7)が散在した状態で出土している。418は南西コーナー部の床面から出土しており,住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 床面から焼土・炭化材が確認されており,覆土中にも焼土・炭化物が含まれていることから,焼失住居と考えられる。時期は,出土土器および重複関係から5世紀前半と考えられる。



第260図 第2231号住居跡出土遺物実測図

第2231号住居跡出土遺物観察表(第260図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
418	土師器	甕	-	(21.6)	5.0	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ハケ目調整後ナデ 輪積痕 内面ヘラナデ	床面	70%

第2237号住居跡(第261図)

位置 調査区西部のC10d0区,標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第45号地下式墳に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.50m,短軸3.42mの方形で,主軸方向はN-5°-Wである。壁高は4~20cmで,外傾して立ち上がっている。

床 確認された範囲では,ほぼ平坦である。

竈 北壁の中央部に付設されている。大部分が第46号地下式墳に掘り込まれており,火床部から煙道部が確認された。火床部は火を受けて赤変している。煙道部は壁外に86cm掘り込まれ,緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック微量
- 2 極暗赤褐色 焼土ブロック少量,ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 4 暗赤褐色 ロームブロック少量,焼土ブロック・炭化粒子微量

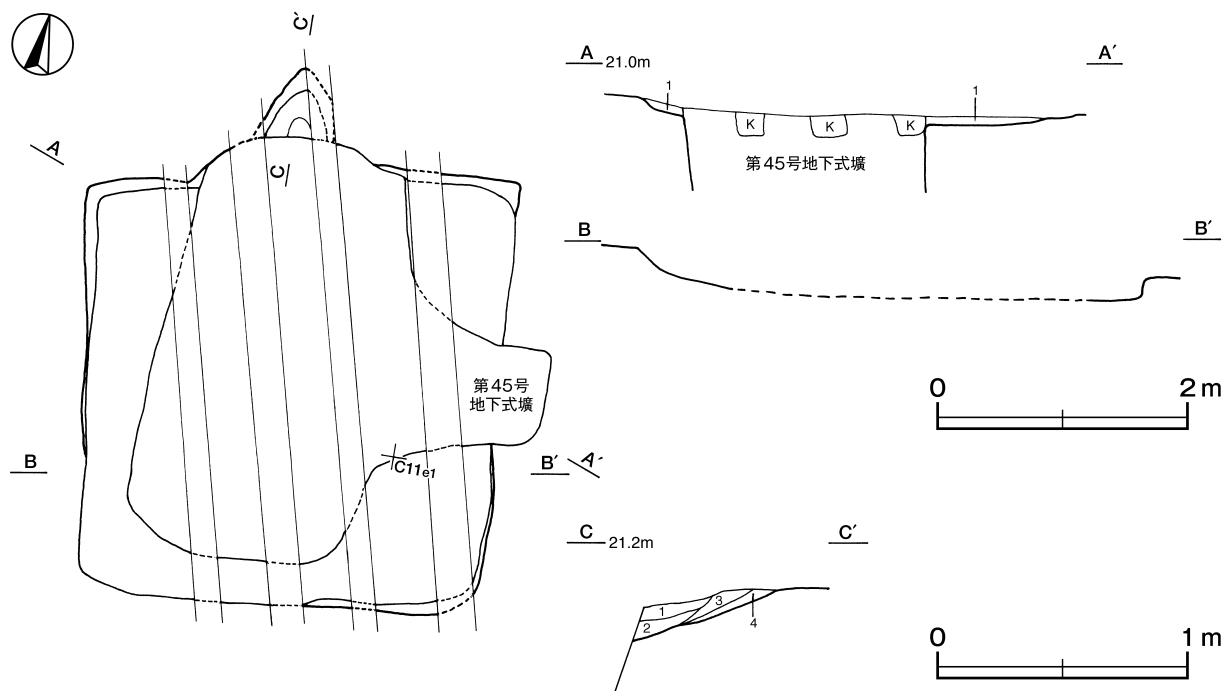
覆土 単層で、覆土が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片2点(甕), 須恵器片1点(坏)のみが出土している。いずれも細片である。

所見 時期は、出土土器から6世紀後半以降と考えられる。



第261図 第2237号住居跡実測図

第2238号住居跡 (第262・263図)

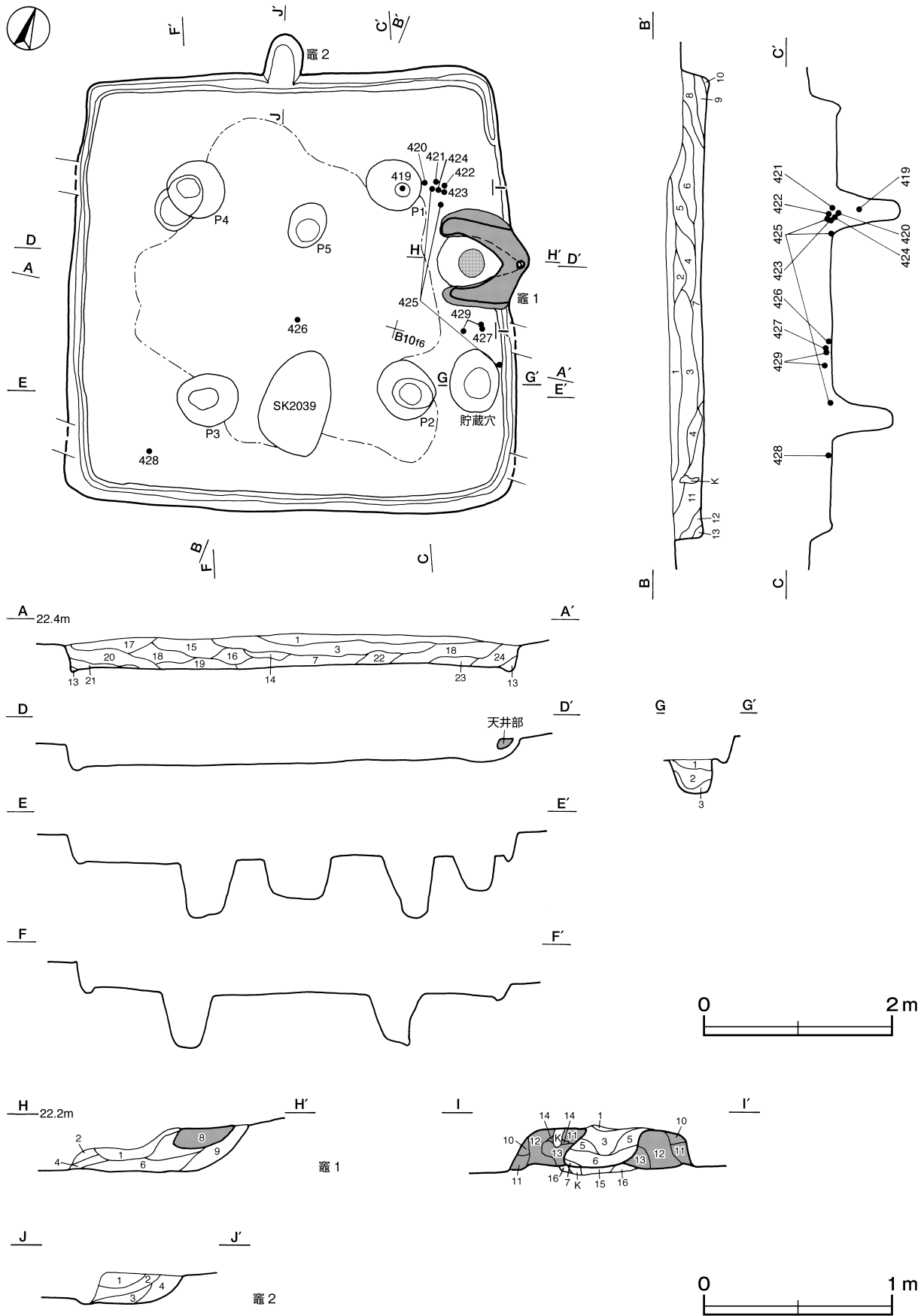
位置 調査区北西部のB10e5区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2039号土坑に掘り込まれている。

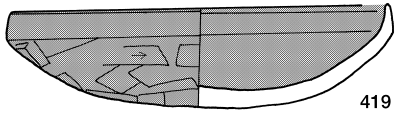
規模と形状 長軸4.65m、短軸4.59mの方形で、主軸方向はN - 75° - Eである。壁高は12~32cmで外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅9~13cm、深さ3~5cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

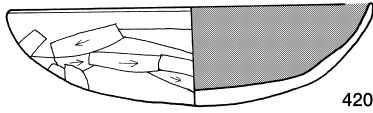
竈 2か所。竈1は東壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで96cm、袖部幅103cmであり、袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面に砂質粘土を用いて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さの地山面を使用しており、火床部は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に21cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。また、第8層は遺存する天井部である。竈2は北壁中央部に付設されており、両袖部および火床部は遺存しない。煙道部は壁外に41cm掘り込まれている。竈2の袖部が遺存しないことや、北壁際に壁溝が検出されていることから、竈2から竈1に作り替えられたものである。



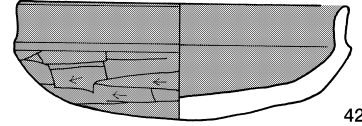
第262图 第2238号住居跡实测图



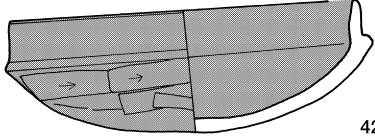
419



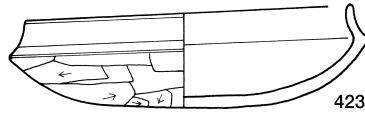
420



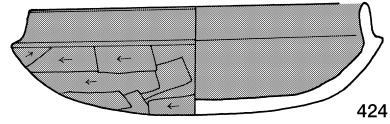
421



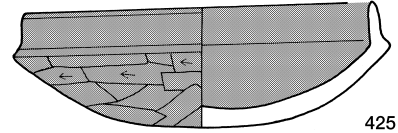
422



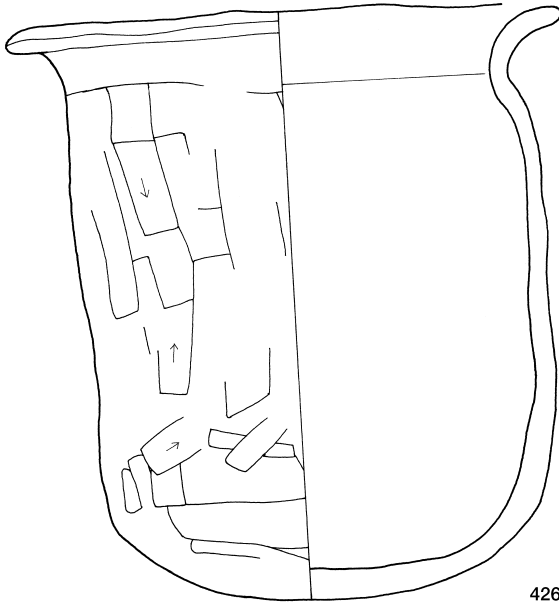
423



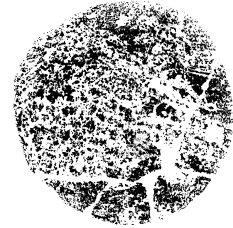
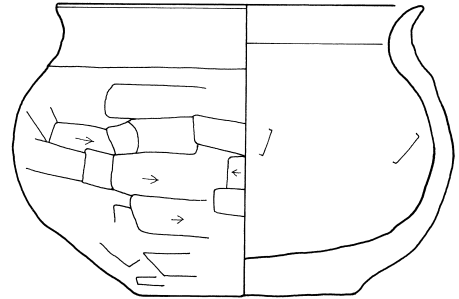
424



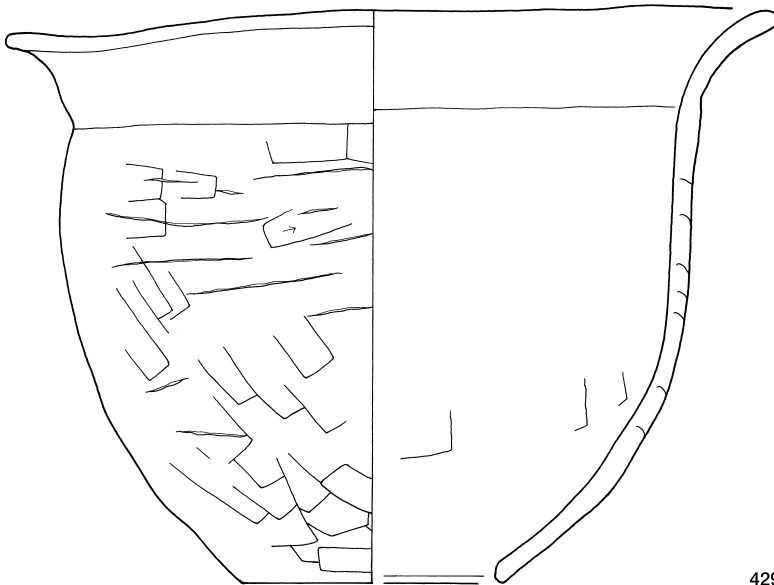
425



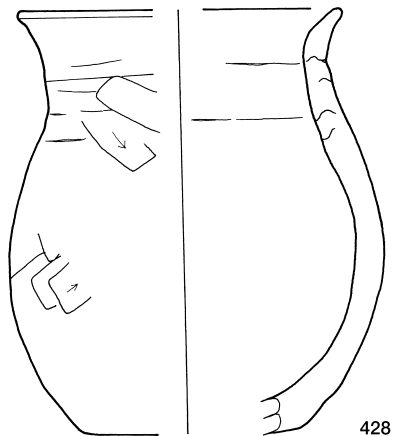
426



427



429



428



第263图 第2238号住居跡出土遺物実測図

竈 1 土層解説

1	灰 褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子炭化粒子微量	10	褐色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2	灰 褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量	11	褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
3	灰 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	12	灰 褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4	にぶい赤褐色	焼土粒子中量, 炭化材・砂質粘土粒子微量	13	赤 褐色	焼土粒子中量 砂質粘土粒子少量 炭化粒子微量
5	灰 褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	14	灰 褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量
6	暗 赤 褐色	焼土ブロック・炭化物少量, 砂質粘土粒子微量	15	褐色	焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
7	灰 褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	16	褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, 砂質粘土粒子微量
8	灰 褐色	砂質粘土粒子多量, ローム粒子少量			
9	極 暗 褐色	ローム粒子, 焼土粒子, 炭化粒子少量			

竈 2 土層解説

1	灰 褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量	3	極暗赤褐色	焼土ブロック中量
2	暗 赤 褐色	焼土粒子中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子少量	4	褐色	ローム粒子中量, 砂質粘土粒子少量

ピット 5か所。P1～P4は支柱穴で、深さは56～68cmである。P5は深さ31cmで、P1とP4の中央部に位置していることから支柱穴と考えられる。

貯蔵穴 南東コーナー部に位置している。長径64cm, 短径51cmの楕円形で、深さは41cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、覆土は人為堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

1	褐色	ローム粒子中量	3	暗 褐色	ロームブロック少量
2	褐色	ロームブロック中量, 炭化材少量			

覆土 24層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1	黒 褐色	炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量	13	褐色	ロームブロック微量
2	暗 褐色	炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量	14	暗 褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
3	暗 褐色	焼土粒子少量, ロームブロック・炭化物微量	15	暗 褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
4	暗 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	16	暗 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
5	暗 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	17	黒 褐色	炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子・砂粒微量
6	暗 褐色	粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	18	暗 褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
7	暗 褐色	ローム粒子少量, 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	19	暗 褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量
8	暗 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	20	暗 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
9	褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	21	暗 褐色	ロームブロック少量
10	褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	22	褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量
11	褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	23	暗 褐色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
12	褐色	ローム粒子少量	24	暗 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片258点(坏28, 高坏5, 甕類177, 甑48)が竈1周辺の床面を中心に出土している。また、混入した須恵器片3点, 陶器片2点も出土している。419はP1の覆土中層から出土しており、柱が抜き取られた後に流れ込んだものと考えられる。420～424は竈袖左側の床面から出土し、421～424は重なり合った状態で出土している。426は中央部の床面、427と429は竈袖部右側の床面、428は南西コーナー部の床面からそれぞれ出土しており、いずれも住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。

第2238号住居跡出土遺物観察表(第263図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
419	土師器	坏	14.8	4.2	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	P1覆土中層	95% PL158
420	土師器	坏	14.2	4.0	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	95% PL158
421	土師器	坏	12.9	4.7	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	95% PL158
422	土師器	坏	13.8	5.3	-	長石・石英・雲母	明褐灰	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	90% PL157
423	土師器	坏	13.0	4.1	-	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	90% PL157
424	土師器	坏	13.5	4.5	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	85% PL158
425	土師器	坏	13.8	5.0	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	75% PL157

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
426	土師器	甕	21.8	24.0	-	長石・石英・白色粒子・小礫	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ ヘラナデ	体部外面ヘラ削り 内面	床面	75%
427	土師器	甕	14.5	11.6	8.6	長石・石英・小石	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 内面ヘラナデ	体部外面ヘラ削り 輪積痕	床面	80%
428	土師器	甕	[12.8]	16.8	[8.7]	長石	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 内面ヘラナデ	体部外面ヘラ削り 輪積み痕	床面	70% PL177
429	土師器	甕	29.7	22.8	10.3	長石・石英・小礫	黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 輪積痕	体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ヘラナデ	床面	70% PL186

第2239号住居跡（第264・265図）

位置 調査区北西部のB10e2区，標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸5.11m，短軸4.91mの方形で，主軸方向はN - 30° - Wである。壁高は23～32cmで，ほぼ直立している。

床 耕作による南北方向の攪乱が激しい。遺存する床はほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅8～13cm，深さ4～6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。耕作による攪乱のため，右袖部の一部および火床部，焚口部だけが遺存しており，袖部はローム混じりの砂質粘土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さであり，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に掘り込まれているが，耕作による攪乱のため立ち上がりは不明である。第1層は天井部の崩落層である。

竈土層解説

1	褐色	ローム粒子多量，焼土粒子・砂質粘土粒子中量	6	暗赤褐色	焼土粒子中量，ロームブロック少量
2	赤褐色	焼土粒子中量	7	にぶい赤褐色	焼土粒子多量，ロームブロック・砂質粘土粒子少量
3	にぶい赤褐色	焼土粒子多量	8	褐色	ローム粒子多量，焼土粒子・砂質粘土粒子少量
4	褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・砂質粘土粒子少量	9	明褐色	ローム粒子多量，焼土粒子・砂質粘土粒子少量
5	暗赤褐色	焼土粒子多量，砂質粘土粒子少量	10	褐色	ローム粒子多量，焼土粒子中量

ピット 6か所。P1～P4は支柱穴で，深さは51～66cmである。P5は深さ30cmで，南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P6の性格は不明である。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径74cm，短径51cmの楕円形で，深さは33cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がり，覆土は自然堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

1	褐色	ロームブロック中量	3	暗褐色	ロームブロック中量
2	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	4	褐色	ローム粒子中量

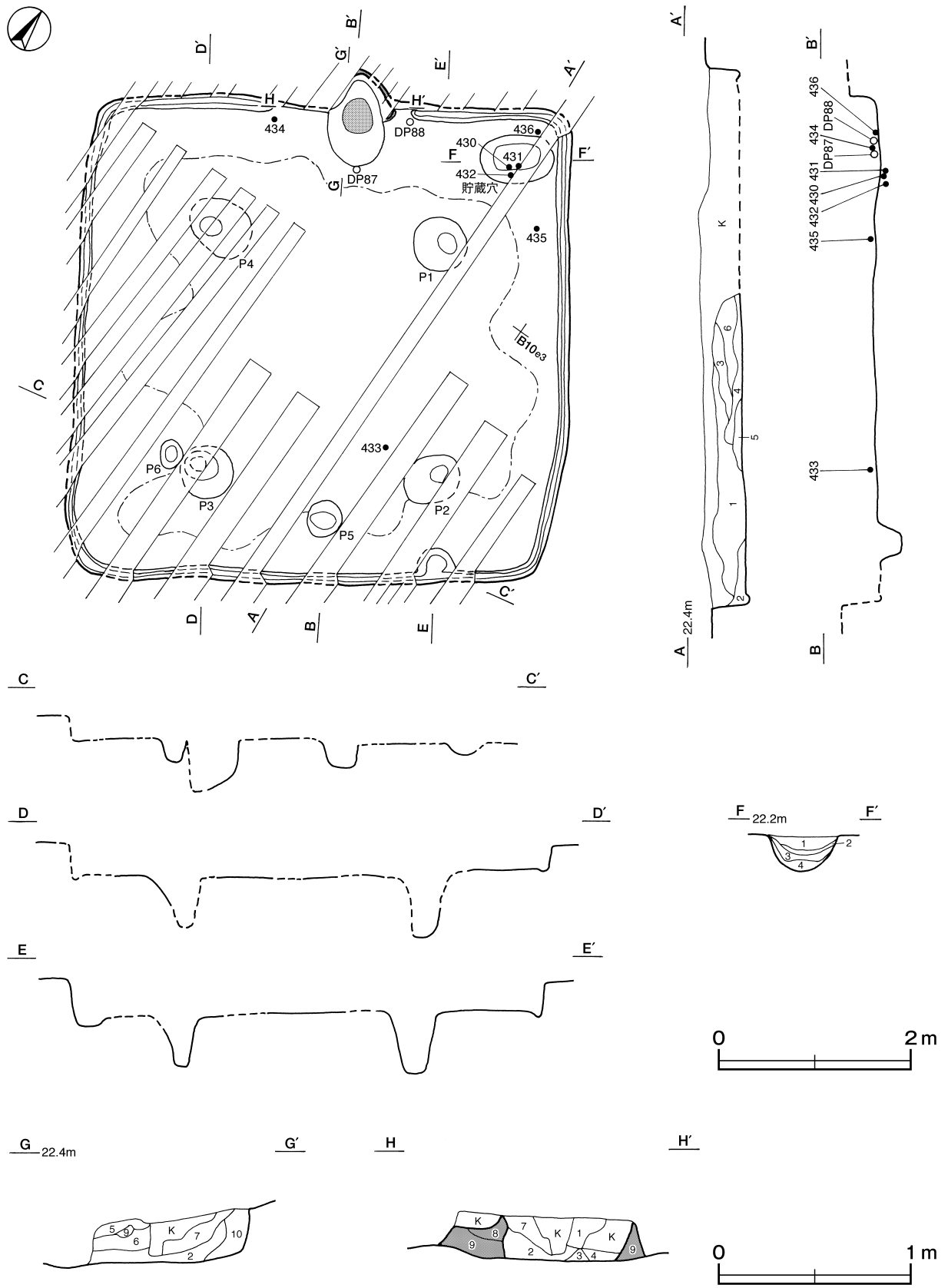
覆土 6層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

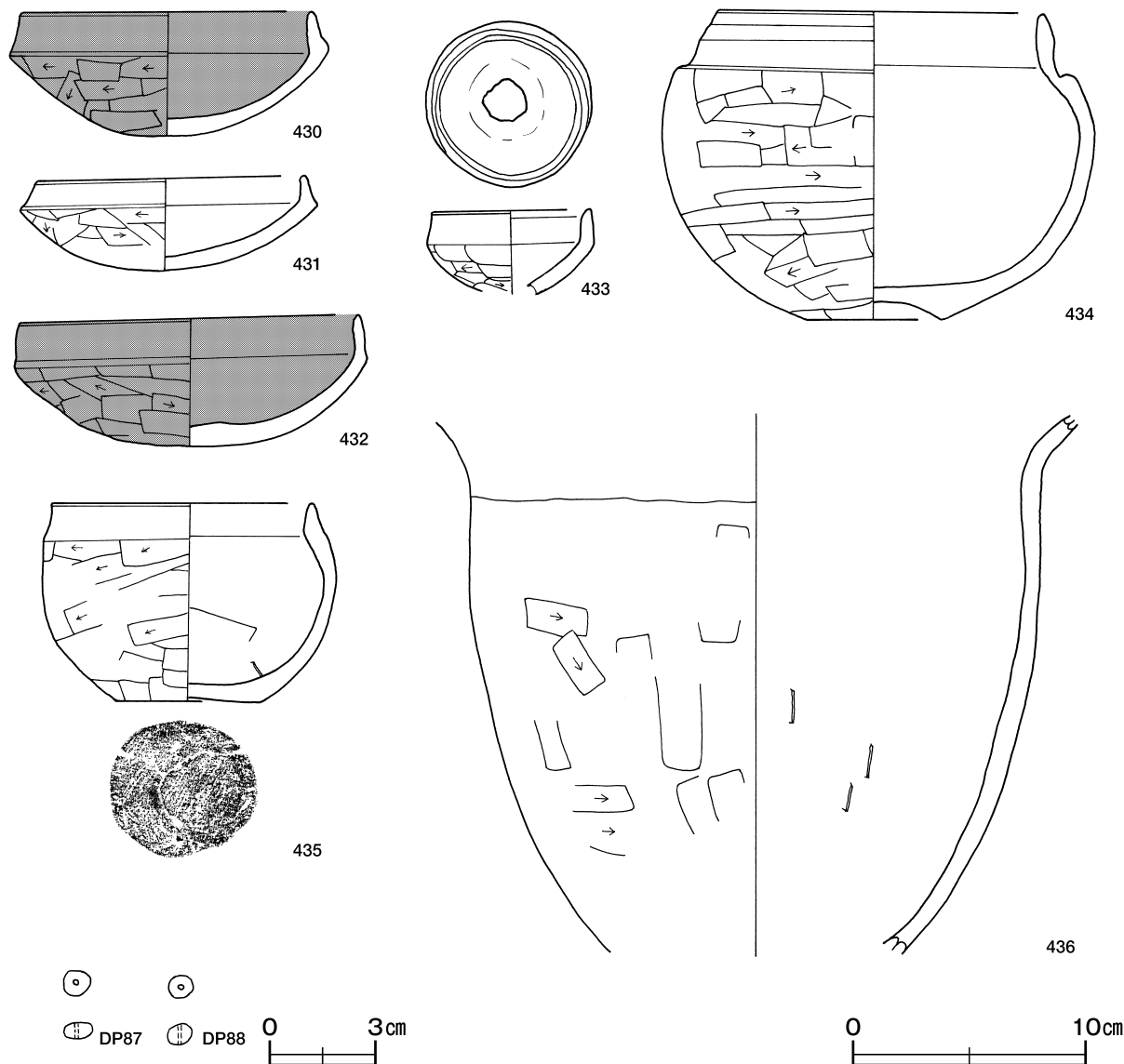
1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	4	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	5	褐色	ロームブロック少量
3	暗褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量	6	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片561点（坏176，椀21，鉢1，甕類338，甌21，ミニチュア土器4），須恵器片40点（坏1，甕類39），土製品2点（小玉），不明鉄製品1点が，竈周辺および貯蔵穴を中心に出土している。また，混入した陶器片3点も出土している。430～432は貯蔵穴の覆土下層，433は中央部南寄りの床面，434は竈左側の床面，435は北東部の床面，436は北東コーナー部の床面からそれぞれ出土しており，いずれも住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。433は底部に焼成後の穿孔が認められる。また，DP87は竈前部の床面，DP88は竈右側の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第264图 第2239号住居跡実測图



第265図 第2239号住居跡出土遺物実測図

第2239号住居跡出土遺物観察表（第265図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
430	土師器	坏	12.3	5.3	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	貯蔵穴覆土下層	95% PL158
431	土師器	坏	11.4	4.2	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	貯蔵穴覆土下層	95% PL158
432	土師器	坏	14.4	5.6	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	貯蔵穴覆土下層	90% PL158
433	土師器	坏	6.6	3.4	-	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ 底部焼成後の穿孔	床面	80% PL158
434	土師器	椀	13.9	13.2	5.6	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り後ナデ 内面へらナデ	床面	85% PL170
435	土師器	鉢	11.0	8.5	6.2	長石・石英	灰褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へらナデ	床面	75% PL170
436	土師器	甌	-	(23.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り後ナデ 内面へらナデ	床面	60%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP87	小玉	0.8	0.5	0.1	0.4	土(長石)	ナデ 一方向の穿孔	床面	PL190
DP88	小玉	0.7	0.6	0.1	0.3	土(長石・石英)	ナデ 一方向の穿孔	床面	PL190

第2240号住居跡（第266・267図）

位置 調査区北西部のB10c6区，標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸5.42m，短軸5.31mの方形で，主軸方向はN - 2° - Wである。壁高は43～48cmで，ほぼ直立している。

床 耕作による東西方向の攪乱が激しい。遺存する床はほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅8～16cm，深さ4～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 2か所。竈1は東壁中央部のやや北寄りに付設されている。耕作による攪乱で両袖部が壊されており，遺存する部分の規模は，焚口部から煙道部まで97cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さであり，火床面は火を受けてやや赤変している。また，5cmほどの厚みで灰が堆積している。煙道部は壁外に24cm掘り込まれ，火床部から急な傾斜で立ち上がっている。第5・6・7層は天井部の崩落層である。竈2は北壁中央部に付設されており，両袖部は遺存しない。また，壁外への掘り込みが一部確認できるが，煙道部は耕作による攪乱で壊されており，立ち上がりは不明である。火床部は床面を皿状に掘りくぼめて使用しており，火床面は火を受けてやや赤変している。竈2の袖部が遺存しないことから，竈2から竈1へ作り替えたと考えられる。

竈1土層解説

- | | |
|-------------------------------|-------------------------|
| 1 にごい赤褐色 焼土粒子中量，炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 5 灰褐色 砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量，炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 6 褐灰色 砂質粘土粒子多量 |
| 3 極暗赤褐色 焼土粒子多量，炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 7 暗赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量 |
| 4 にごい赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | 8 極暗赤褐色 灰多量，炭化物・焼土粒子中量 |

竈2土層解説

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子多量 | 4 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 2 極暗赤褐色 焼土粒子中量，炭化粒子少量 | 5 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | |

ピット 6か所。P1～P4は主柱穴で，深さは65～77cmである。P5は深さ58cm，P6は深さ43cmで，ともに南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

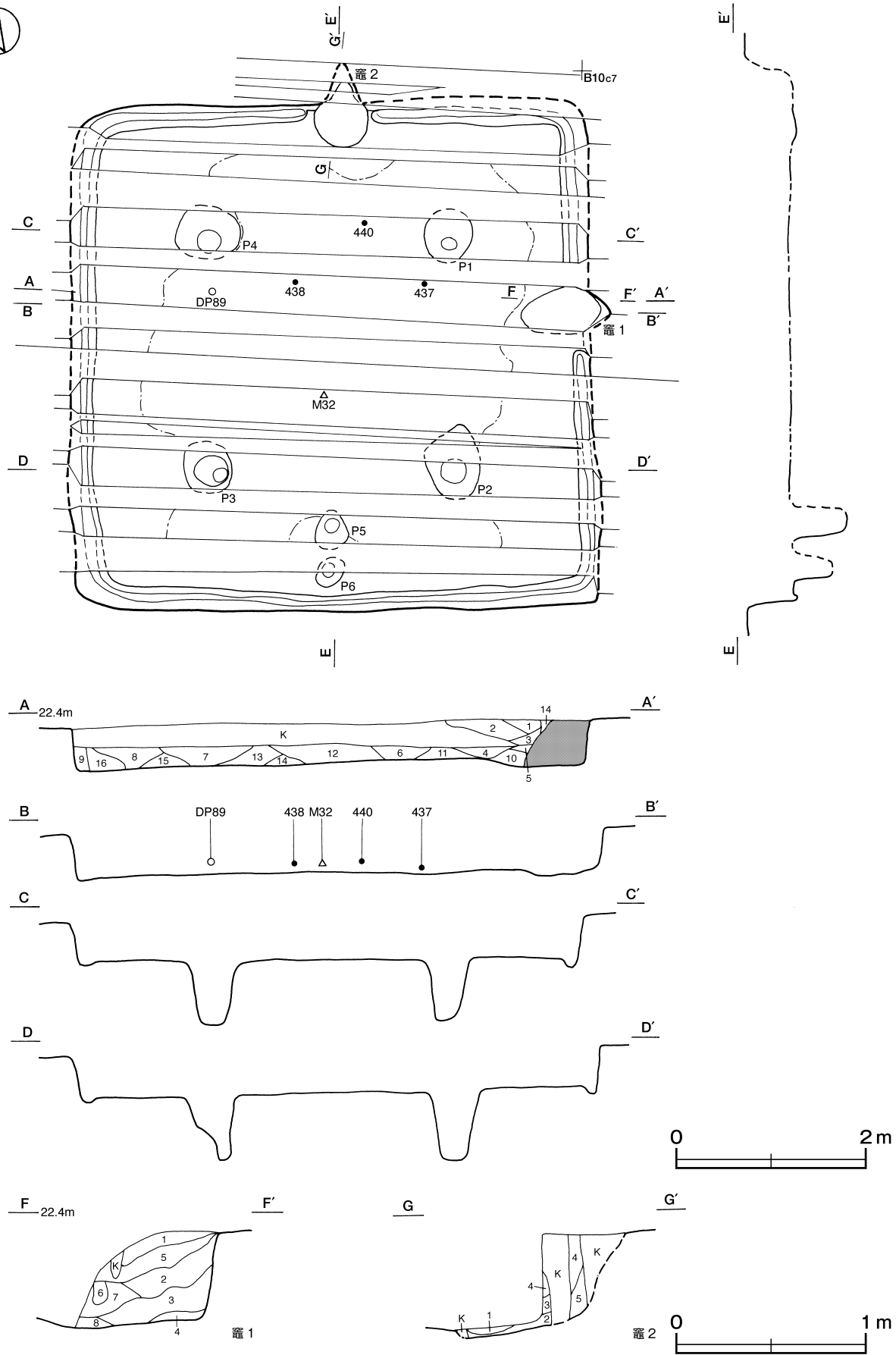
覆土 16層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

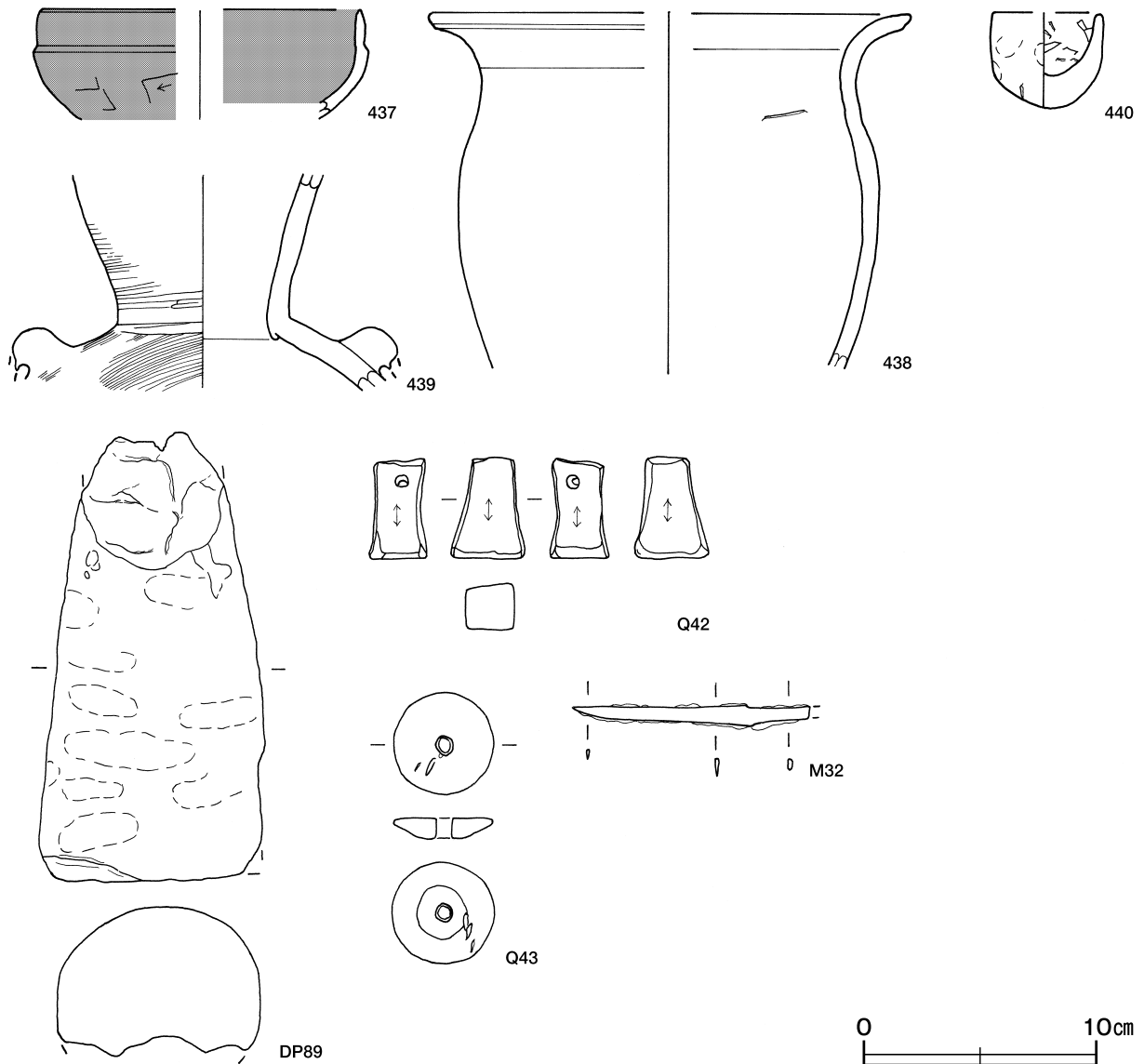
- | | |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 9 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 2 褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量 | 10 褐色 焼土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 灰褐色 粘土粒子中量，ローム粒子少量 | 11 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 4 褐色 粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量 | 12 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子少量 |
| 5 褐色 ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子少量 | 13 灰褐色 粘土粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量 | 14 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 7 暗褐色 ロームブロック中量，焼土粒子少量 | 15 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子微量 |
| 8 暗褐色 ロームブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 16 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片1719点（坏類174，高坏8，甕類1536，手捏土器1点），須恵器片6点（提瓶），土製品1点（支脚），石器3点（砥石），石製品1点（紡錘車），鉄製品3点（刀子1，釘2）が中央部を中心に出土している。また，混入した石器1点（剥片），須恵器片92点，陶器片12点，銅製品1点（煙管），鉄滓2点も出土している。遺物量は多いがほとんどが細片であり，出土層位はおもに覆土上層から中層である。437は中央部やや東寄りの覆土下層，438は中央部やや西寄りの覆土下層，439は南部の覆土，440は中央部北寄りの覆土下層から出土しており，いずれも住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。また，DP89は西部の覆土下層，Q42・Q43は南西部の覆土，M32は中央部やや南寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 北側から東側へ竈が作り替えられた住居である。時期は，出土土器から7世紀前葉以前と考えられる。



第266图 第2240号住居迹实测图



第267図 第2240号住居跡出土遺物実測図

第2240号住居跡出土遺物観察表（第267図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
437	土師器	坏	[13.6]	(4.6)	-	長石・石英・赤色粒子	赤黒	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土下層	10%
438	土師器	甗	[20.4]	(15.2)	-	長石・石英・雲母・微石粒	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部内面へラナデ	覆土下層	5%
439	須恵器	提瓶	-	(9.1)	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄	普通	口辺部外面カキ目調整 内面ロクロナデ 体部外面カキ目調整 内面ロクロナデ	覆土	15%
440	土師器	手捏土器	[4.5]	4.1	-	長石・雲母	橙	普通	体部内外面ナデ 指頭痕	覆土下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP89	支脚	(19.2)	9.7	(6.4)	(854.0)	土長石・赤色粒子	ナデ 指頭痕 にぶい橙色	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q42	砥石	4.4	3.2	1.9	43.8	凝灰岩	砥面四面 上部に二方向からの穿孔 上部折損後提げ砥石に転用か	覆土	PL195

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q43	紡錘車	4.3	0.9	0.8	22.7	蛇紋岩	円錐台形 側面縦方向の磨き	覆土	PL193

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M32	刀子	(10.2)	0.9	0.3	(6.8)	鉄	茎部欠損 両区	覆土下層	PL198

第2241号住居跡 (第268・269図)

位置 調査区北西部のB10c3区, 標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸4.85m, 短軸4.63mの方形で, 主軸方向はN-35°-Wである。壁高は36~52cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 耕作による南北方向の攪乱が激しい。遺存する部分の床はほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。壁下には, 幅8~16cm, 深さ3~8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。また, 北東コーナー部の床面には炭化材が確認されている。

竈 北壁中央部に付設されている。耕作による攪乱で左袖部が壊されており, 遺存する部分の規模は, 焚口部から煙道部まで120cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さであり, 火床面は火を受けて赤変硬化している。また, 7cmの厚みで灰が堆積している。煙道部は壁外に18cm掘り込まれ, 火床部から急な傾斜で立ち上がっている。第5層は天井部の崩落層である。

竈土層解説

1	にぶい赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量	6	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
2	暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 炭化粒子微量	7	褐色	ローム粒子中量, 砂質粘土ブロック・焼土粒子少量
3	明褐色	灰多量, 焼土粒子・炭化粒子少量	8	褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量
4	にぶい赤褐色	焼土粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量	9	暗赤褐色	ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量
5	灰褐色	砂質粘土ブロック多量, ローム粒子・炭化粒子少量	10	褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子少量

ピット 7か所。P1~P4は主柱穴で, 深さは48~66cmである。P5は深さ11cmで, 南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。また, P6・P7の性格は不明である。

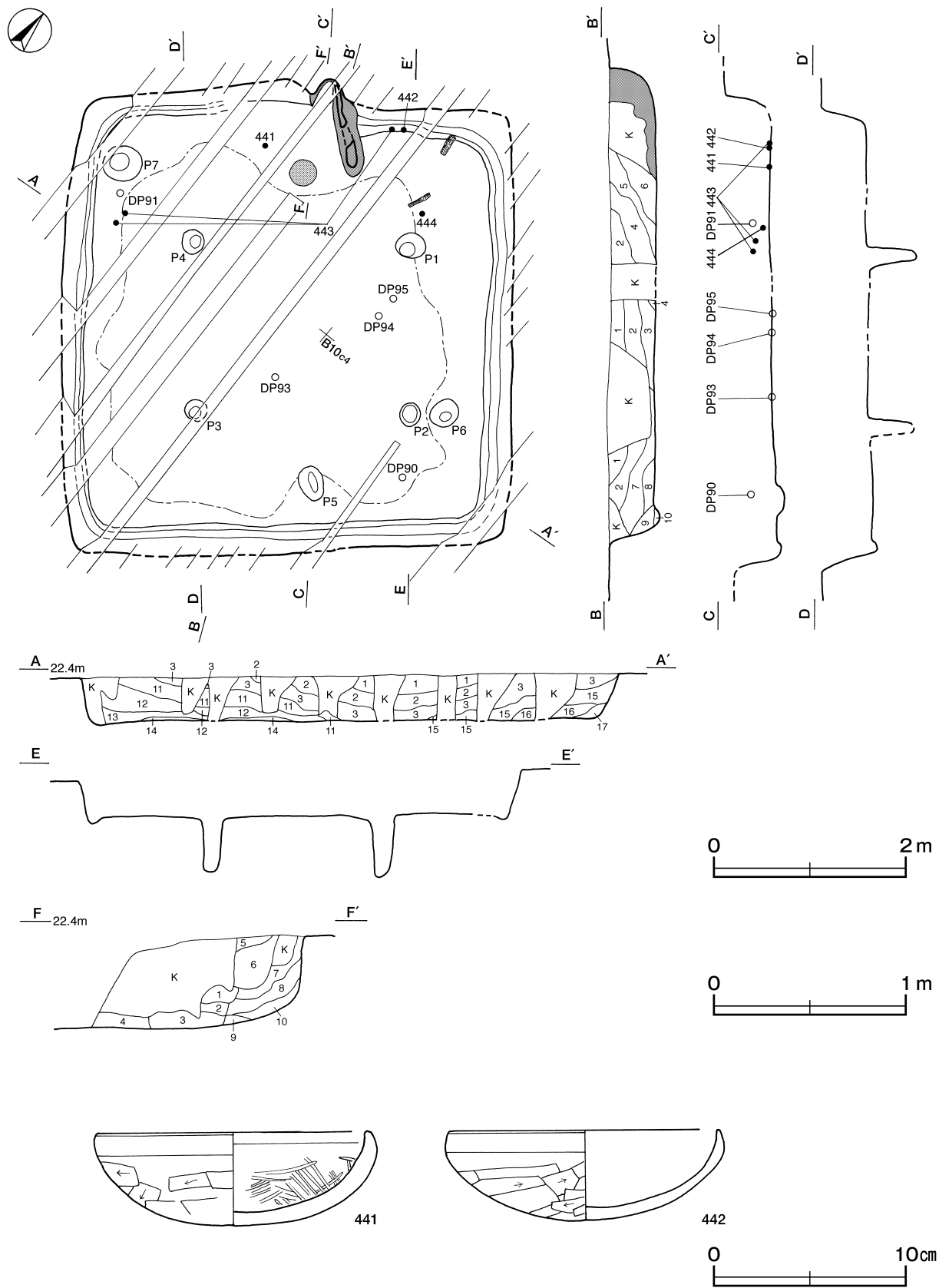
覆土 17層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

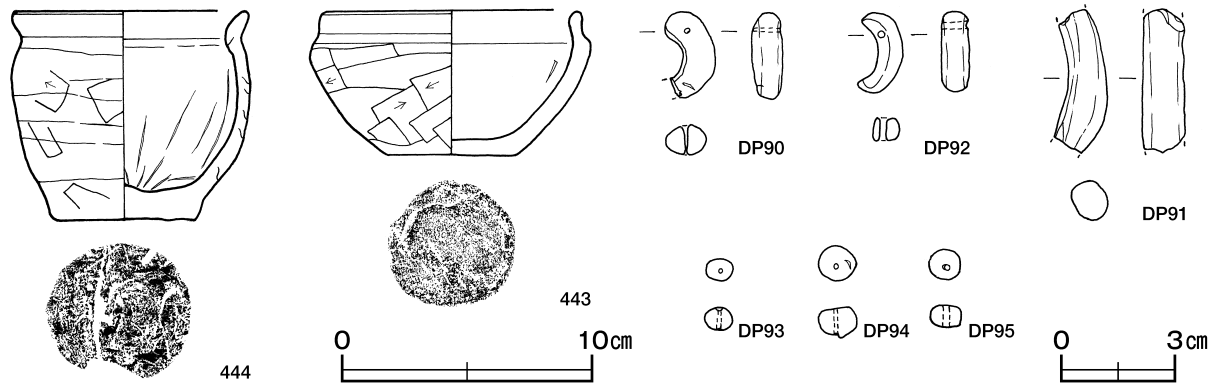
1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9	褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	10	褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	11	暗褐色	ロームブロック微量
4	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量	12	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子・粘土粒子微量	13	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
6	灰褐色	粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	14	灰褐色	粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量
7	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	15	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量
8	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	16	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
			17	褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片554点(坏119, 椀3, 高坏3, 甕類421, 甗3, ミニチュア土器1, 手捏土器4), 須恵器片27点(坏10, 甕17), 土製品8点(勾玉4, 小玉3, 支脚1)が竈の周辺を中心に出土している。また, 混入した陶器片6点も出土している。441は竈左側の床面, 442は竈右側の床面から出土しており, 住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。444は北東部の覆土下層から出土しており, 住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。443は竈右側の床面と北西部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。また, DP90は南東コーナー部の覆土中層, DP91は北西コーナー部, DP92は北東部の覆土下層, DP93は中央部, DP94-95は中央部東寄りの床面からそれぞれ出土している。

所見 北東コーナー部および竈前部の床面に炭化材が認められ, 覆土中にも焼土, 炭化物が含まれることから, 焼失住居と考えられる。時期は, 出土土器および重複関係から6世紀後葉と考えられる。



第268图 第2241号住居跡・出土遺物実測図



第269図 第2241号住居跡出土遺物実測図

第2241号住居跡出土遺物観察表 (第268・269図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
441	土師器	坏	14.0	4.7	-	長石	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面磨き	床面	95% PL158
442	土師器	坏	14.0	4.5	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り後ナデ 内面ナデ	床面	85%
443	土師器	椀	10.0	5.7	5.0	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	床面	70% PL170
444	土師器	小形甕	9.2	8.4	5.5	長石・石英・白色粒子・小礫	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 輪積痕 内面へらナデ 輪積痕	覆土下層	65% PL177

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP90	勾玉	(2.3)	1.3	0.8	2.4	土(長石・石英)	孔径0.1cm ナデ 一方向の穿孔	覆土中層	PL190
DP91	勾玉	(3.8)	1.4	1.1	6.1	土(長石・石英)	孔径0.2cm ナデ 一方向の穿孔	覆土下層	
DP92	勾玉	2.1	0.6	0.2	1.7	土(石英・雲母)	ナデ 一方向の穿孔	覆土下層	PL190

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP93	小玉	0.7	0.6	0.1	0.4	土(長石・石英)	ナデ 一方向の穿孔	床面	PL190
DP94	小玉	1.0	0.8	0.1	0.8	土(長石)	ナデ 一方向の穿孔	床面	PL190
DP95	小玉	0.9	0.6	0.2	0.5	土(長石)	ナデ 一方向の穿孔	床面	PL190

第2245号住居跡 (第270図)

位置 調査区西部のC 9 c9 区, 標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

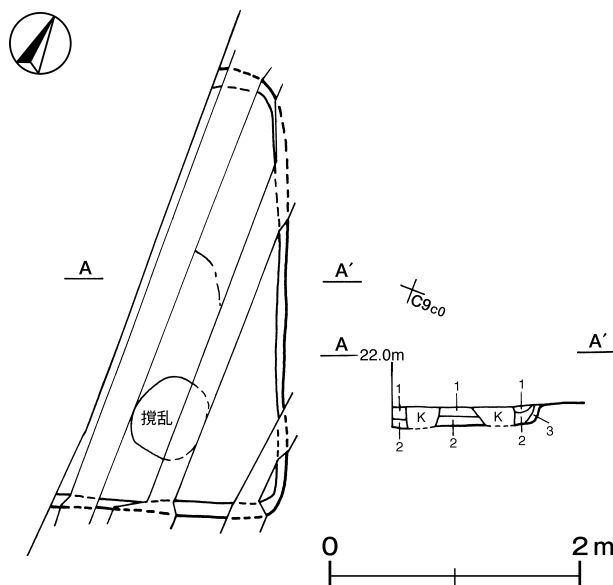
規模と形状 北側から南側にかけての大部分が調査区域外に伸びており, 東西軸1.88m, 南北軸3.46mだけが確認された。確認された壁高は14cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 確認された範囲では, ほぼ平坦であり, 中央部がよく踏み固められている。

覆土 3層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量



第270図 第2245号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片21点（坏1，甕類20），須恵器片3点（壺1，甕類2）のほか，混入した陶器片1点のみが出土し，いずれも細片である。

所見 時期は，出土土器から古墳時代後期と考えられる。

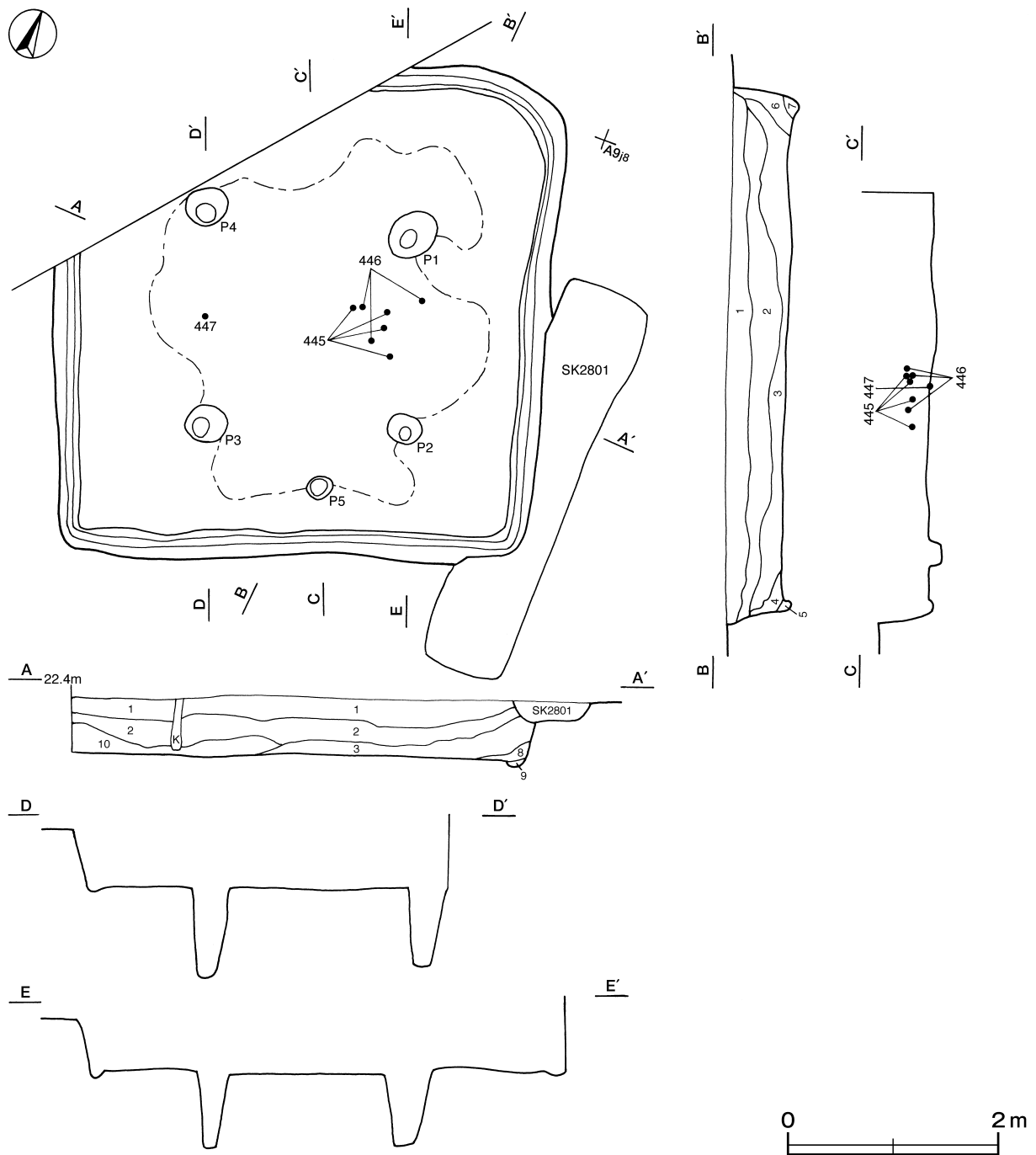
第2247号住居跡（第271～273図）

位置 調査区北西部のA9j7区，標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2801号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北西部は調査区域外である。長軸4.72m，短軸4.67mの方形で，主軸方向はN - 23° - Wである。

壁高は48～53cmで，外傾して立ち上がっている。



第271図 第2247号住居跡実測図

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅8～10cm、深さ3～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北西部が調査区域外であるため確認されていないが、北壁際中央部の床面に竈材と考えられる粘土が堆積していることから、北壁中央部に付設されていたと考えられる。

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で、深さは70～85cmである。P5は深さ15cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

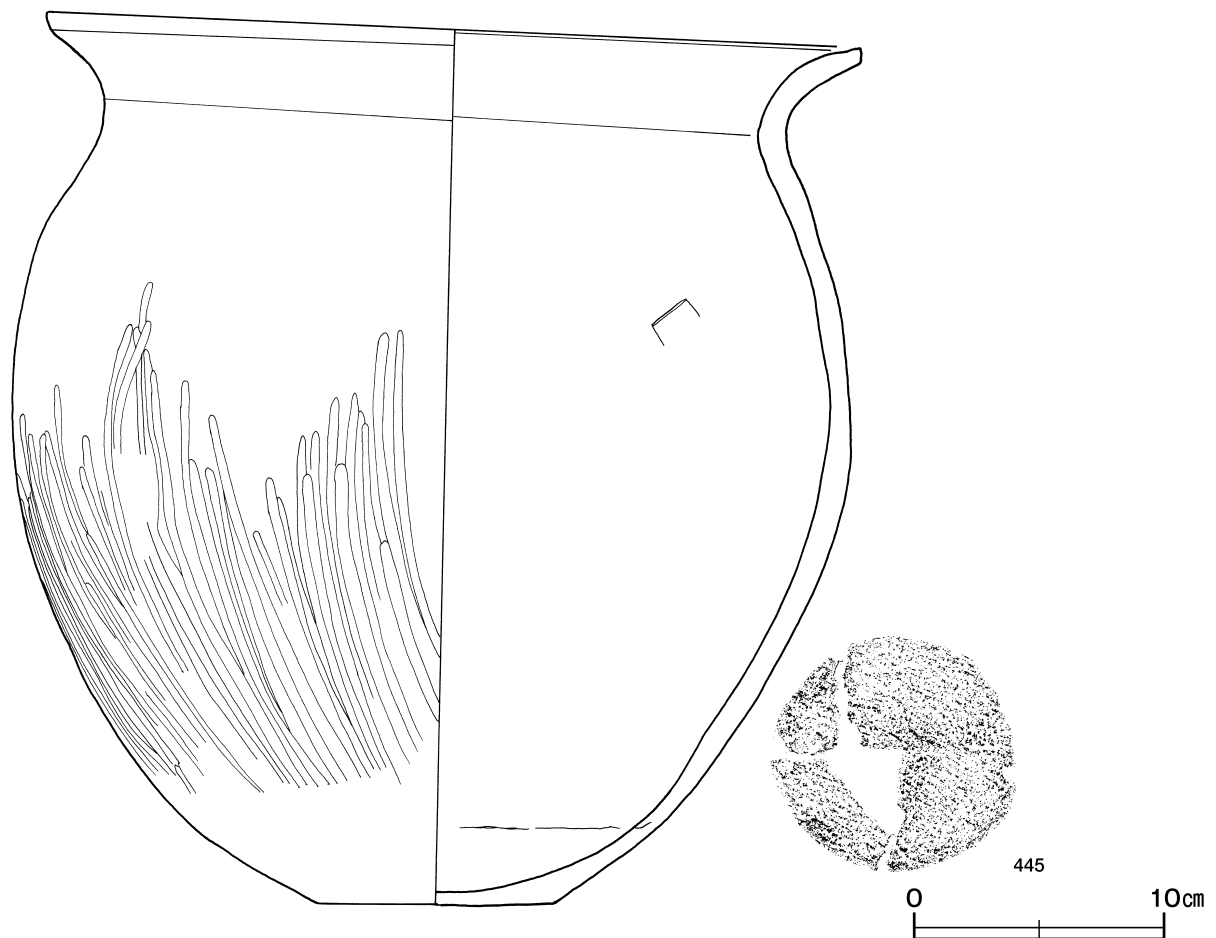
覆土 10層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

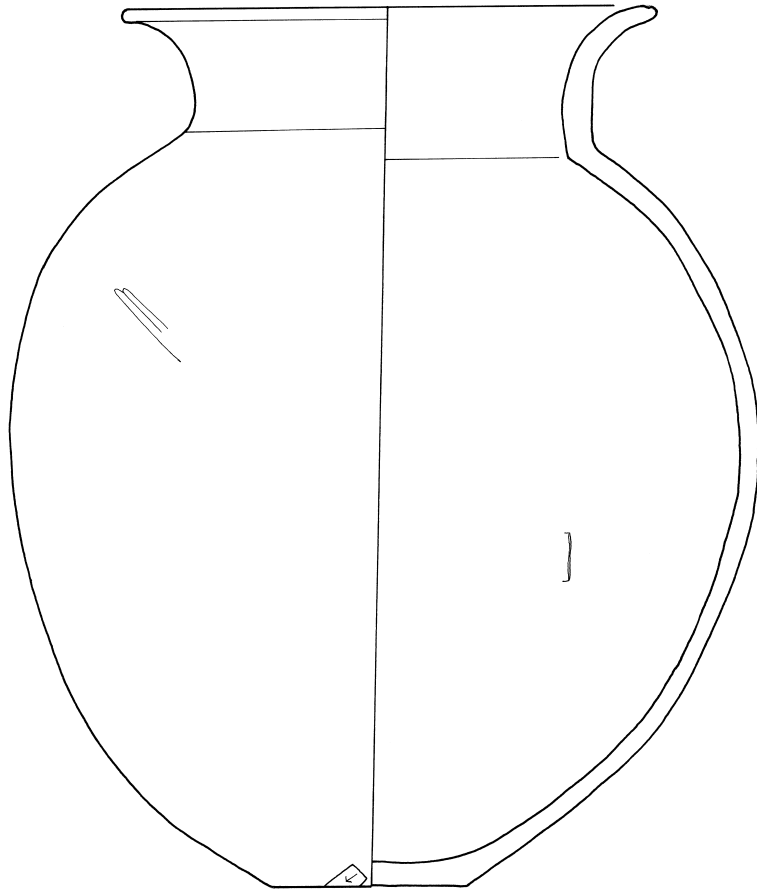
1 黒褐色	ロームブロック少量	6 褐色	ローム粒子多量
2 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	7 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
3 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	8 褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子中量	9 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
5 褐色	ローム粒子中量	10 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量

遺物出土状況 土師器片801点（坏65，椀2，高坏9，甕類710，甑15）が中央部を中心に出土しているが、ほとんどが細片である。また、混入した須恵器片25点も出土している。出土層位は東壁際が高く中央部がやや低いことから、住居の廃絶後に東側から投棄されたと考えられる。445・446は中央部の覆土中層から出土した破片が接合したものであり、住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。447は中央部西寄りの床面から逆位で出土しており、住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

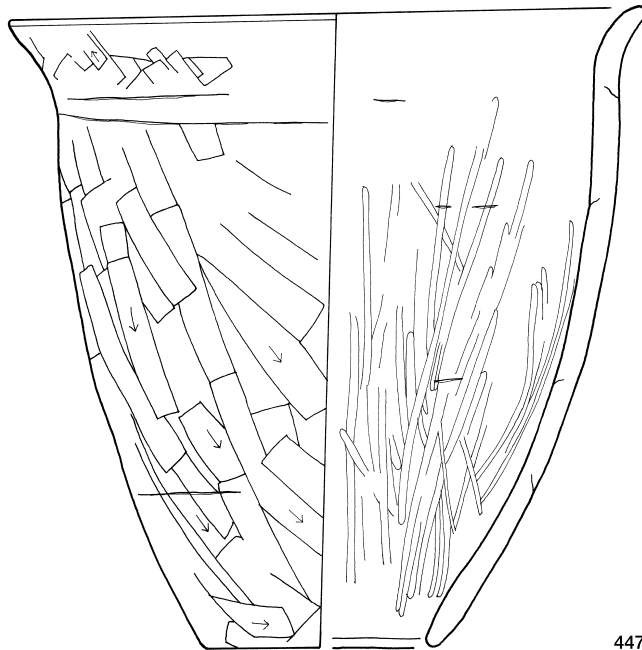
所見 時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。



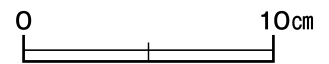
第272図 第2247号住居跡出土遺物実測図(1)



446



447



第273图 第2247号住居跡出土遺物実測図(2)

第2247号住居跡出土遺物観察表（第272・273図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
445	土師器	甕	32.4	34.8	9.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	覆土中層	65% PL183
446	土師器	甕	21.0	35.2	7.7	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラナデ	覆土中層	60% PL183
447	土師器	甕	25.1	25.5	9.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面	85% PL186

第2248号住居跡（第274・275図）

位置 調査区北西部のB 9 c3区，標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 西部は調査区域外であり，南北軸4.68m，東西軸は2.68mだけが確認された。主軸方向N - 8° - Wの方形または長方形と推定される。壁高は36～52cmでほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。確認された部分の壁下には，幅12～19cm，深さ3～11cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁に付設されている。左袖部の外側は調査区域外であり，確認された部分の規模は，焚口部から煙道部まで124cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面に砂質粘土を用いて構築されている。火床部は10cmほど皿状に掘りくぼめた後，床面とほぼ同じ高さまで埋め戻して使用しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に58cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。第1層は天井部の崩落層である。

竈土層解説

1 灰 褐色 砂質粘土粒子多量	11 褐 灰色 砂質粘土粒子多量
2 暗 赤 褐色 焼土粒子中量，炭化粒子少量	12 灰 褐色 砂質粘土粒子多量，焼土粒子少量
3 極暗 赤 褐色 焼土粒子多量	13 灰 褐色 砂質粘土粒子多量，焼土粒子中量
4 黒 褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量	14 灰 褐色 砂質粘土粒子多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
5 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	15 褐色 ローム粒子中量，焼土粒子少量
6 褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化物・ローム粒子微量	16 にぶい赤褐色 焼土粒子多量，炭化粒子少量
7 灰 褐色 砂質粘土粒子中量，炭化物・焼土粒子微量	17 暗 褐色 ローム粒子中量，焼土粒子少量
8 灰 褐色 砂質粘土粒子中量，炭化粒子微量	18 極暗 赤 褐色 焼土ブロック少量
9 褐 灰色 砂質粘土粒子多量，炭化粒子微量	19 極暗 赤 褐色 焼土粒子中量，ローム粒子少量
10 灰 褐色 砂質粘土粒子多量，焼土ブロック少量	

ピット 3か所。P1は深さ52cm，P2は深さ67cmで，ともに支柱穴である。P3は深さ12cmで，南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 31層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

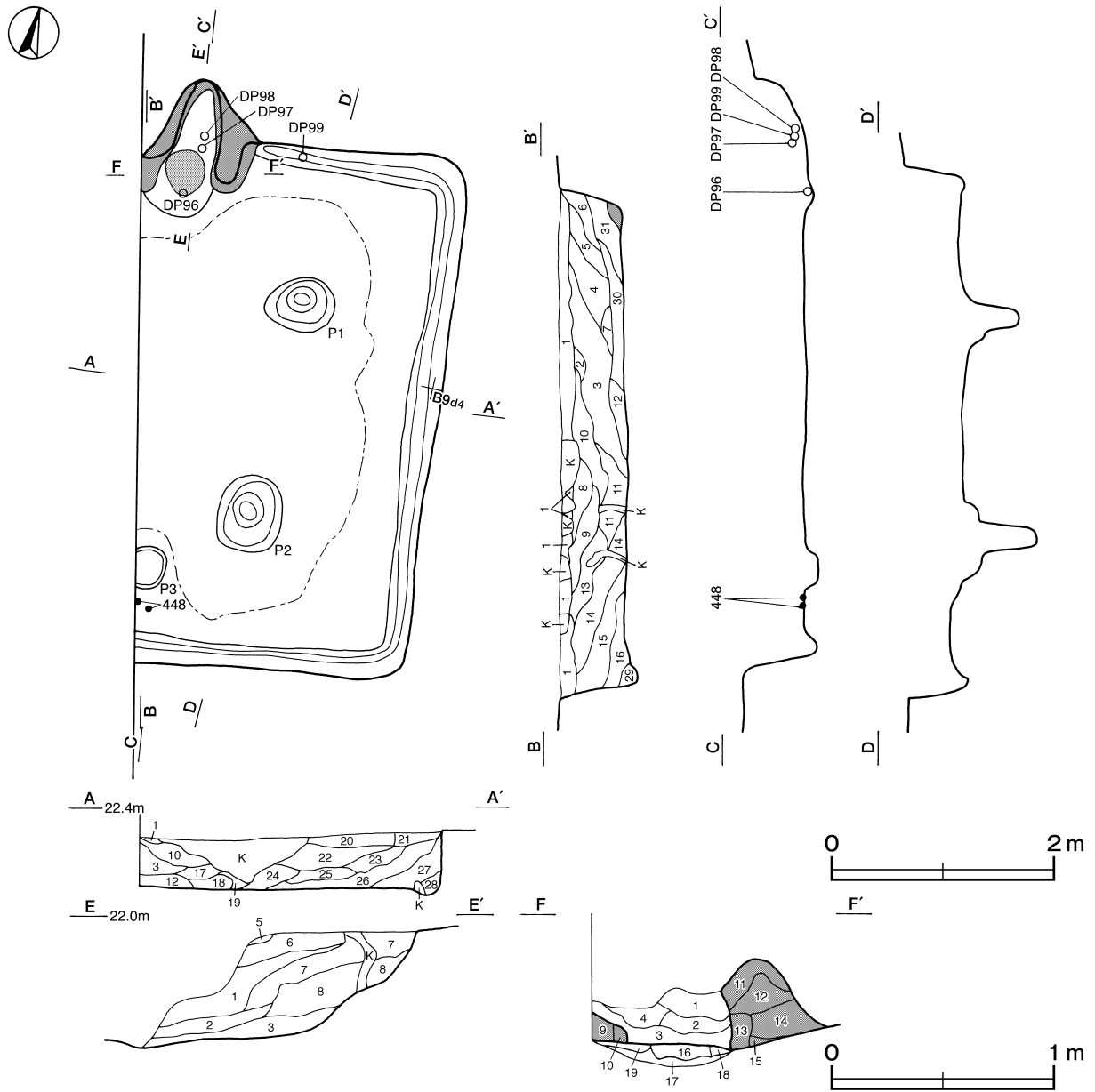
土層解説

1 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	17 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	18 暗 褐色 ロームブロック少量
3 暗 褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	19 暗 褐色 粘土ブロック・ローム粒子微量
4 褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	20 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
5 暗 褐色 ロームブロック微量	21 褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量
6 褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量	22 暗 褐色 ロームブロック微量
7 暗 褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	23 褐色 ロームブロック微量
8 暗 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量	24 褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9 暗 褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量	25 暗 褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
10 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	26 褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
11 褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・粘土粒子微量	27 褐色 ローム粒子微量
12 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量	28 黒 褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
13 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量	29 褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
14 褐色 ローム粒子中量	30 褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
15 褐色 ロームブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量	31 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，粘土粒子微量
16 褐色 ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量	

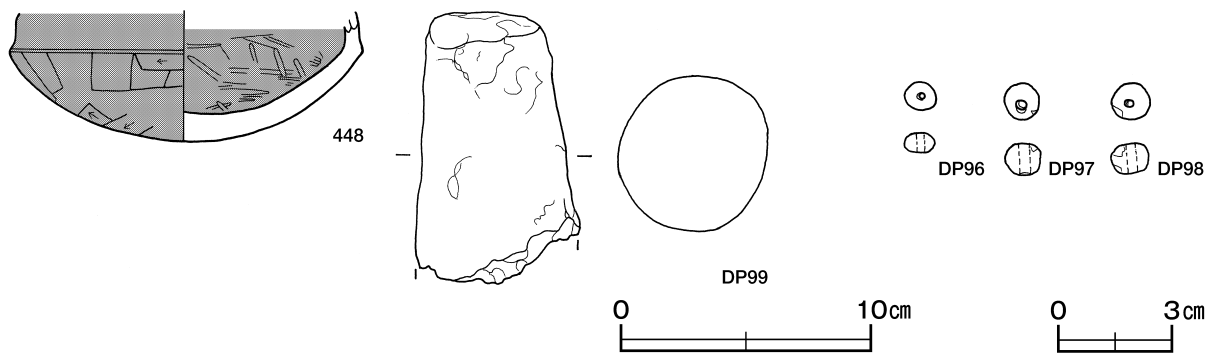
遺物出土状況 土師器片258点（坏37，甕類221），土製品5点（小玉3，支脚2）が竈覆土および竈の右側を中心に出土している。また，混入した須恵器片4点も出土している。448は南壁際の床面から出土しており，

住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。また、DP96～98はいずれも竈の覆土下層、DP99は竈右側の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土遺物から6世紀後葉と考えられる。



第274図 第2248号住居跡実測図



第275図 第2248号住居跡出土遺物実測図

第2248号住居跡出土遺物観察表（第275図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
448	土師器	坏	-	(5.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面磨き	床面	65%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP96	小玉	0.8	0.5	0.2	0.4	土（長石）	ナデ 一方向の穿孔	竈覆土下層	PL190
DP97	小玉	0.9	0.8	0.3	0.6	土（長石）	ナデ 一方向の穿孔	竈覆土下層	
DP98	小玉	1.0	0.8	0.2	0.9	土（長石）	ナデ 一方向の穿孔	竈覆土下層	PL190

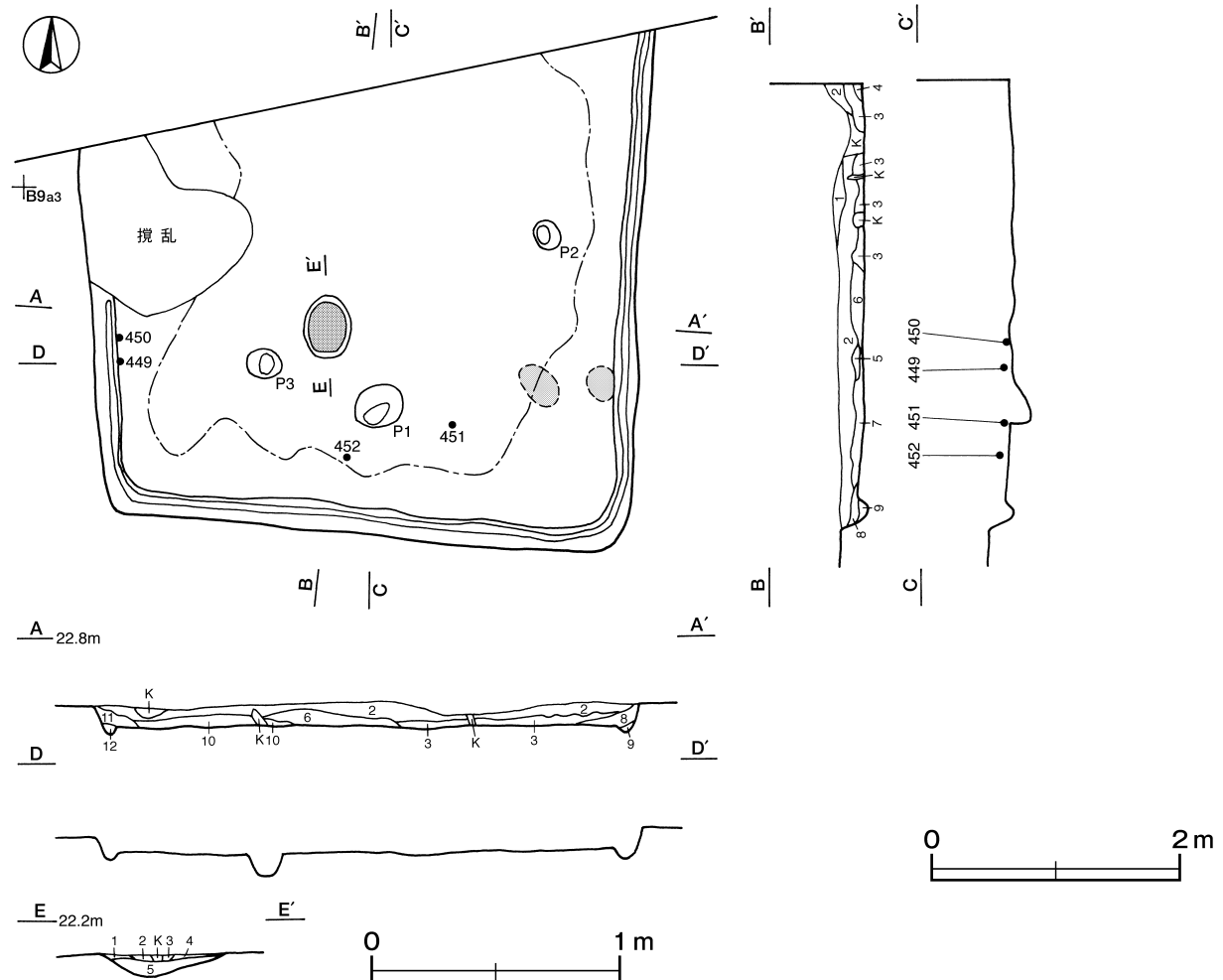
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP99	支脚	(10.8)	6.5	6.2	(333.6)	土（長石・赤色粒子）	ナデ にぶい黄橙色を呈する	覆土下層	

第2249号住居跡（第276・277図）

位置 調査区北西部のB 9 a3区，標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 北部は調査区域外であり，東西軸4.35m，南北軸は4.09mだけが確認された。確認された壁の位置から，主軸方向N - 4° - Eの方形または長方形と推定される。壁高は13~18cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。確認された部分の壁下には，幅13~17cm，深さ6~9cmでU字状の断面形を呈する壁溝が巡っている。また，南東部の床面に，8cmほどの厚みを有した焼土が堆積している。



第276図 第2249号住居跡実測図

炉 中央部の南寄りに位置している。長径51cm，短径37cmの楕円形で，床面を皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床面は12cmの厚みで焼け締っており，長期間使用されたと考えられる。

炉土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------|----------|----------------|
| 1 にぶい赤褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子少量 | 4 暗赤褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 5 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量 |
| 3 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | | |

ピット 3か所。P1は深さ16cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P2・P3の性格は不明である。

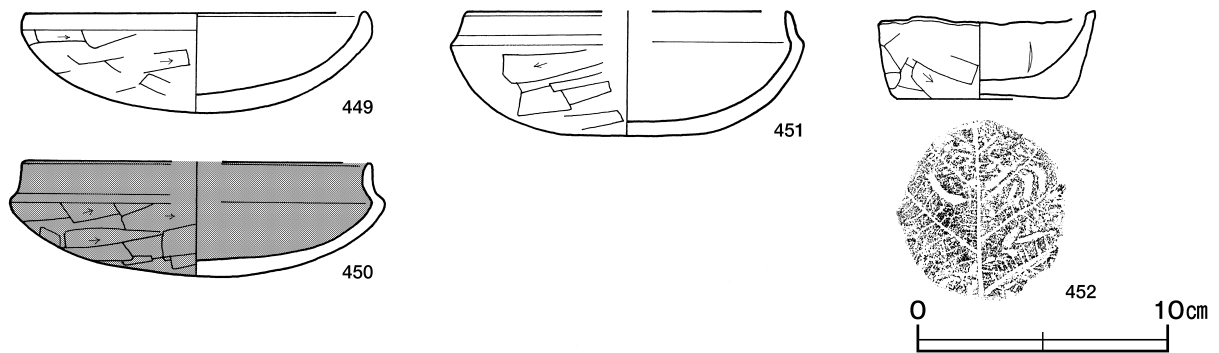
覆土 12層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|--------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量 | 11 褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量 | 12 褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片175点（坏35，椀3，鉢1，甕類136），土製品9点（支脚）が，炉の周辺および南部を中心に出土している。また，混入した須恵器片5点も出土している。449・450は西壁際の覆土下層，451・452は南部の覆土下層からそれぞれ出土しており，いずれも住居の廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 北部は調査区域外であり竈は確認されていないが，本調査区における同時期の住居はいずれも北壁に竈が付設されていることや，調査区域外へ続く北壁には竈材と考えられる粘土が認められることから，本住居も北壁際に竈をもつと考えられる。また，中央部のやや南寄りには炉が確認されており，竈と炉は同時期に使用されていたと考えられる。時期は，出土土器から6世紀中葉と考えられる。



第277図 第2249号住居跡出土遺物実測図

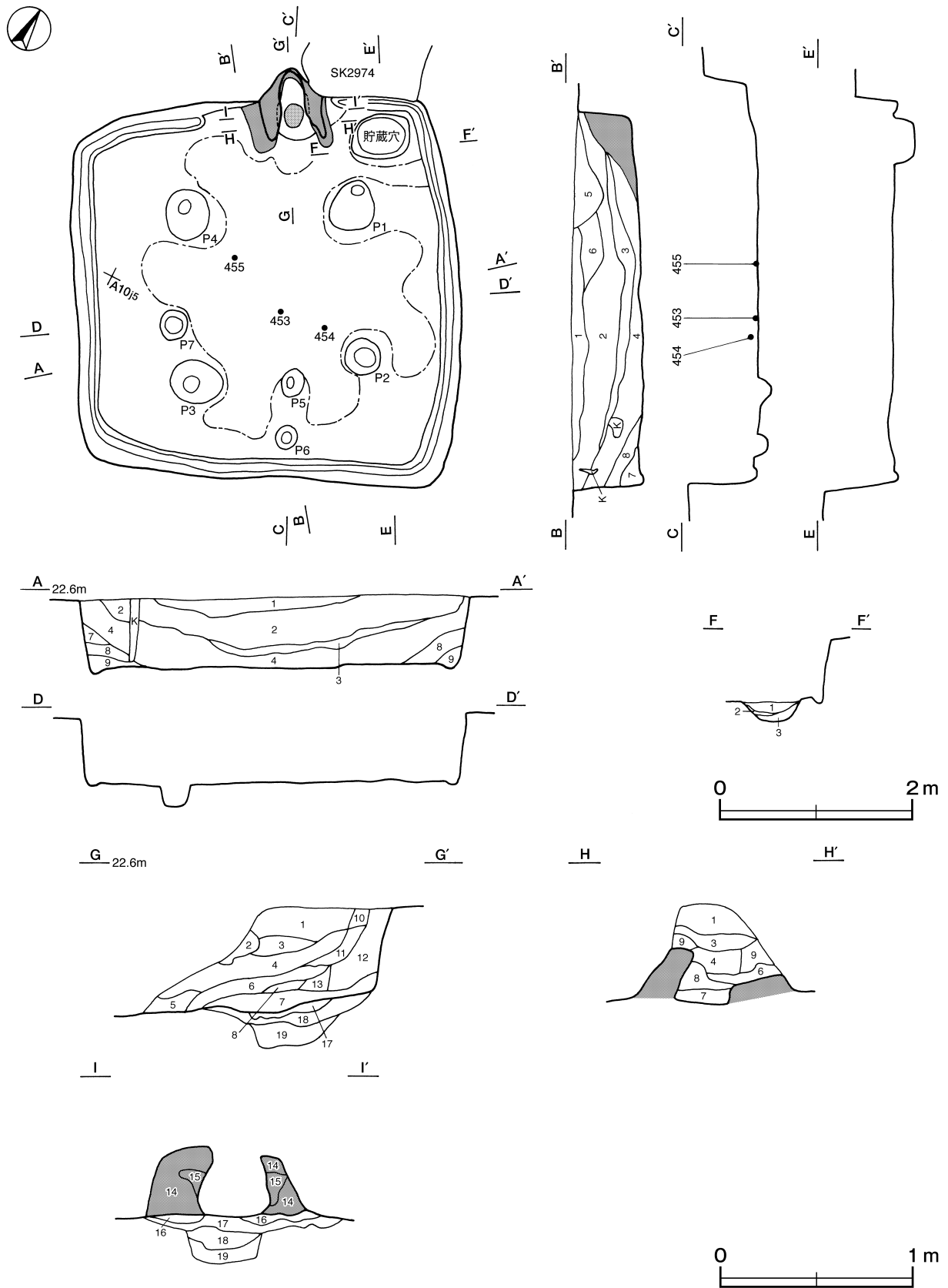
第2249号住居跡出土遺物観察表（第277図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
449	土師器	坏	13.5	4.0	-	長石・石英	褐灰	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土下層	90% PL158
450	土師器	坏	[13.6]	4.5	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデ	覆土下層	50%
451	土師器	坏	12.6	4.9	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデ	覆土下層	60%
452	土師器	鉢	8.6	3.5	7.0	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデ	覆土下層	95%

第2256号住居跡（第278・279図）

位置 調査区北西部のA10i5区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2974号土坑に掘り込まれている。



第278図 第2256号住居跡実測図

規模と形状 長軸3.95m，短軸3.94mの方形で，主軸方向はN - 26° - Wである。壁高は65～67cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部および貯蔵穴周辺が踏み固められている。壁下には、幅12～16cm、深さ4～9cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで75cm、袖部幅84cmであり、袖部は床面をやや掘りくぼめた後に砂質粘土を用いて構築されている。火床部は床面を25cmほど掘りくぼめた後に、床面とほぼ同じ高さまで埋め戻して使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に30cm掘り込まれ、火床部から急な傾斜で立ち上がっている。第4層は、天井部の崩落層である。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------|--------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 11 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 12 暗褐色 | 焼土粒子少量、炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 暗褐色 | 焼土粒子中量、炭化物少量 |
| 4 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 14 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子微量 |
| 5 褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 15 赤褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子微量 |
| 6 暗褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 16 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量 | 17 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 8 褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 18 褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 9 灰褐色 | 砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量 | 19 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 10 暗褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | | |

ピット 7か所。P1～P4は支柱穴で、深さは26～48cmである。P5は深さ16cm、P6は深さ13cmで、ともに竈と対峙する南壁際に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

P7は深さ22cmで、P3とP4の間に位置しているが、正確は不明である。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長軸57cm、短軸46cmの隅丸長方形で、深さは27cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、覆土は自然堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック、焼土粒子微量 | | |

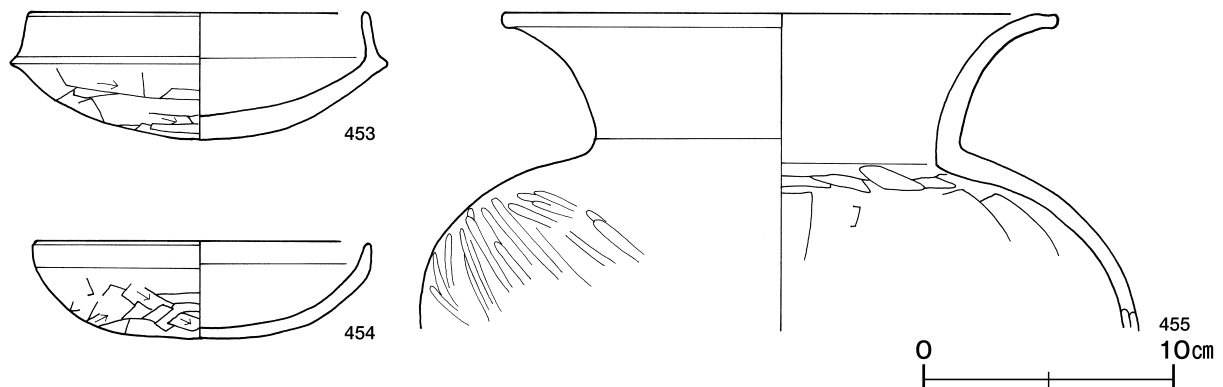
覆土 9層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 8 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片768点（坏127，高坏8，甗類633），土製品2点（支脚）が中央部を中心に出土している。また、混入した石器1点（石鏃），須恵器片16点，磁器片1点も出土している。出土層位は壁際で高く中央部で低いことから、住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。453～455は、いずれも中央部の覆土下層から出土しているが、453は斜位，455は逆位で出土し、住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、土器および重複関係から6世紀後葉以前と考えられる。



第279図 第2256号住居跡出土遺物実測図

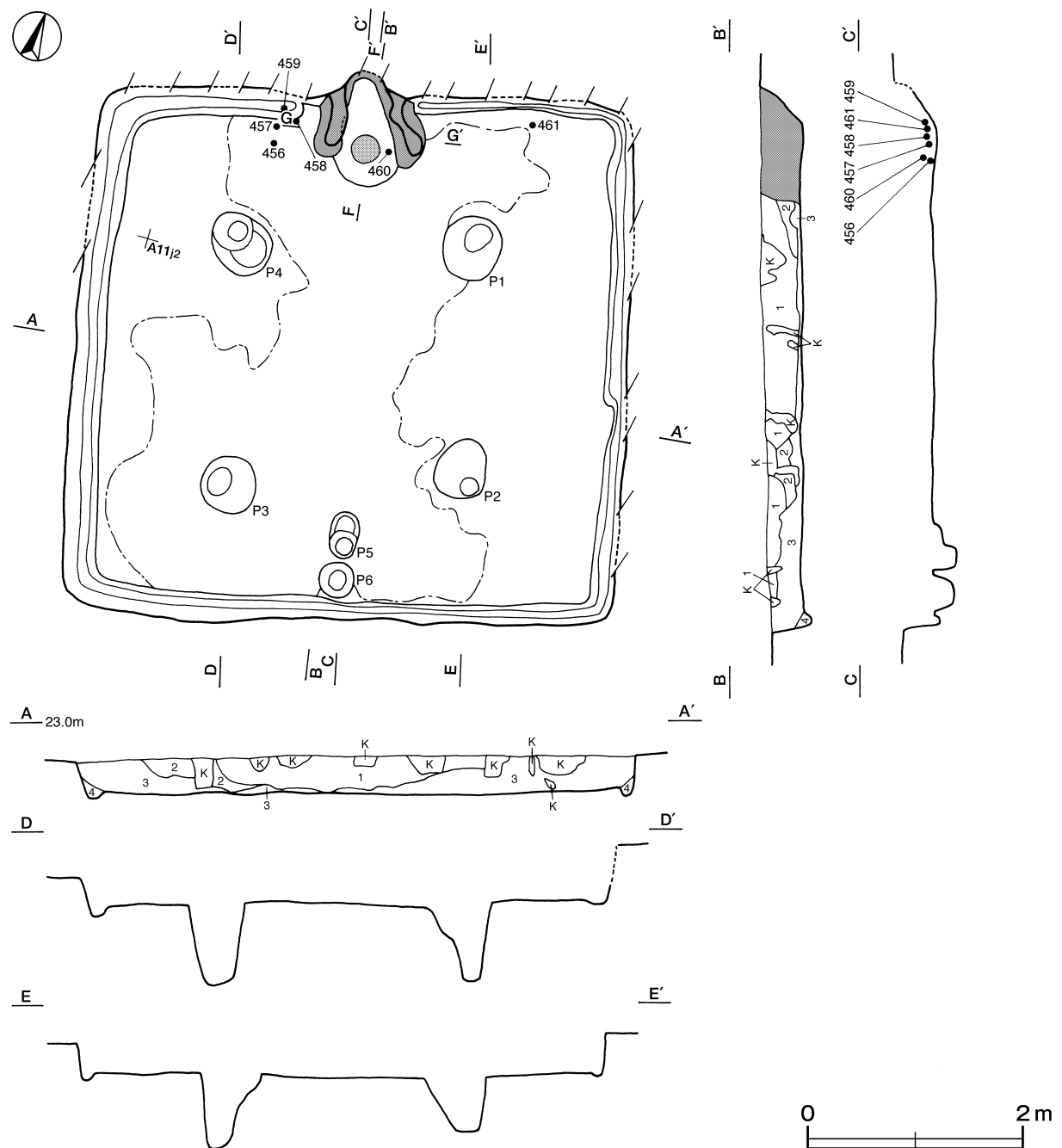
第2256号住居跡出土遺物観察表（第279図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
453	土師器	坏	13.4	5.0	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	覆土下層	85% PL159
454	土師器	坏	13.3	3.8	-	雲母	黒褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	覆土下層	85% PL159
455	土師器	甕	21.9	(12.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら磨き 内面へらナデ	覆土下層	30%

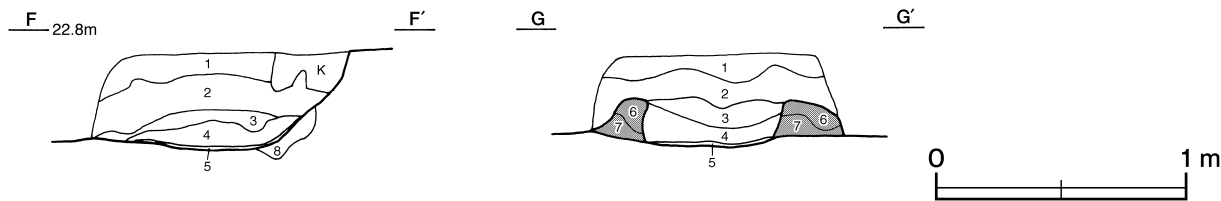
第2257号住居跡（第280～282図）

位置 調査区北西部のA11i2区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸5.09m，短軸4.92mの方形で，主軸方向はN - 13° - Wである。壁高は28～58cmで，ほぼ直立している。



第280図 第2257号住居跡実測図(1)



第281図 第2257号住居跡実測図(2)

床 ほぼ平坦で、竈周囲から南壁際まで踏み固められている。壁下には、幅8～19cm、深さ3～9cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。煙道部の上部を耕作による攪乱で壊されており、確認された部分の規模は袖部幅102cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面にローム混じりの砂質粘土を用いて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さの地山面を使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|----------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子多量 | 6 明灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子中量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 7 灰褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | | |
| 5 赤褐色 | 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子中量 | | |

ピット 6か所。P1～P4は支柱穴で、深さは52～73cmである。P5は深さ27cm、P6は深さ21cmで、竈と対峙する南壁際に位置していることから、ともに出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 4層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

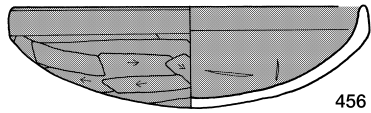
- | | | | |
|-------|-----------|------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 3 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 4 褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片188点(坏25, 甕類160, 甌1, 手捏土器2), 土製品1点(支脚)が竈周辺を中心に出土している。また、混入した須恵器片14点, 陶器片1点も出土している。456～459は竈左側の床面, 460は竈の火床部, 461は北東部北壁際の床面からそれぞれ出土しており、いずれも住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

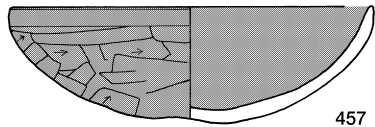
所見 時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。

第2257号住居跡出土遺物観察表(第282図)

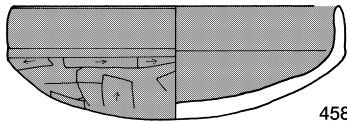
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
456	土師器	坏	13.9	4.0	-	石英・雲母	黒褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	95% PL159
457	土師器	坏	14.4	4.6	-	石英・雲母	黒	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	100% PL159
458	土師器	坏	12.8	4.5	-	石英・雲母	黒	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	100% PL159
459	土師器	坏	13.1	4.5	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデ	床面	100% PL159
460	土師器	甕	23.9	36.4	9.1	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 輪積み痕 体部外面へラ磨き 内面へラナデ	竈火床部	60%
461	土師器	甌	28.0	30.7	10.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ磨き 内面へラナデ	床面	95% PL186



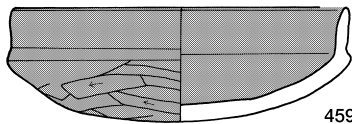
456



457



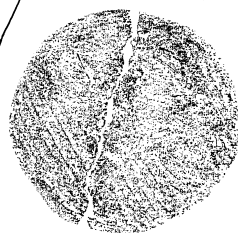
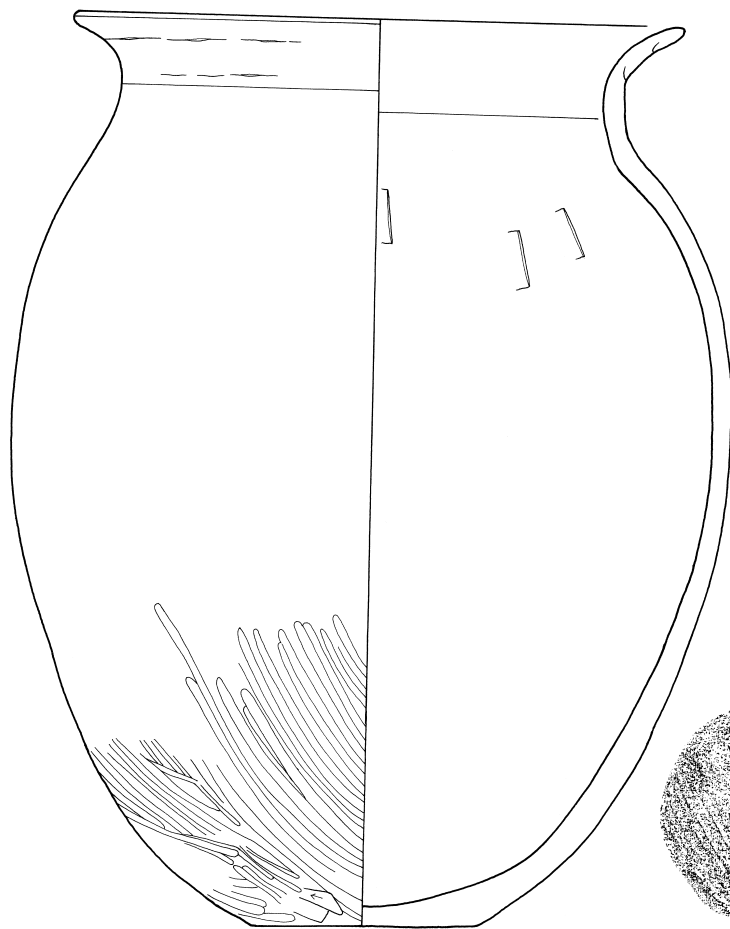
458



459



461



460



第282图 第2257号住居跡出土遺物実測図

第2260号住居跡（第283～285図）

位置 調査区北西部のA10j7区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 南部は東西方向の耕作による攪乱を受けている。

規模と形状 長軸6.01m，短軸5.55mの方形で，主軸方向はN-36°-Wである。壁高は34～60cmで，壁はほぼ直立している。

床 ほぼ平坦であり，壁際を除いて踏み固められている。壁下には，幅12～28cm，深さ4～14cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁やや西寄りに付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで150cm，袖部幅128cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さを基部として砂質粘土で構築されている。火床部は床面を6cm掘りくぼめており，火を受けて赤変硬化している。煙道部は第16・17層で，壁外に48cm掘り込まれ，直立ぎみに立ち上がっている。第7・3層は砂質粘土を多量に含み，第7層は天井部，第3層は天井部の崩落層と考えられる。

竈土層解説

1 灰褐色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量	11 にぶい黄褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
2 褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量	12 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3 橙褐色	砂質粘土粒子多量	13 暗褐色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
4 極暗褐色	焼土ブロック中量，炭化物少量	14 暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒色	炭化粒子中量，焼土粒子微量	15 灰褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子・焼土粒子少量
6 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量	16 暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
7 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	17 暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化物微量
8 極暗赤褐色	焼土ブロック多量，炭化物少量，ローム粒子微量		
9 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量，焼土粒子少量		
10 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量，ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量		

ピット 7か所。P1～P4は主柱穴で，深さ44～90cmである。P5は深さ29cmで，竈に対峙する位置にあることや硬化面の広がりから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7は深さ28・18cmで，性格は不明である。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長軸140cm，短軸74cmの長方形で，深さは18cmである。底面は凸凹状で，壁は緩やかに外傾して立ち上がり，覆土は人為堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子多量，ローム粒子少量
2 褐色	ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量

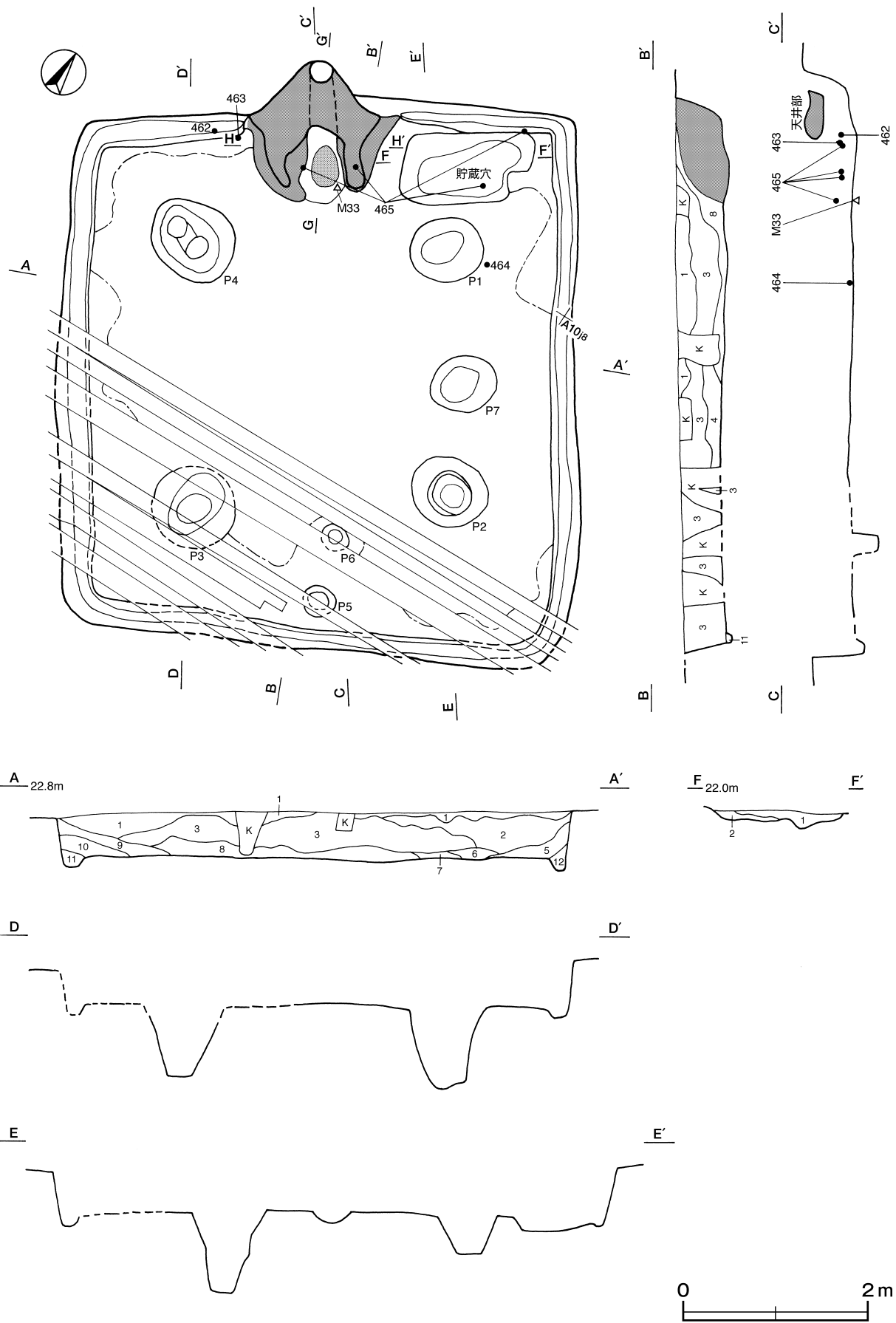
覆土 12層に分けられる。各層にロームブロックを多く含む人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	7 褐色	ローム粒子中量
2 暗褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量
3 褐色	ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土ブロック微量	9 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
4 暗褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量	10 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子少量
6 暗褐色	ローム粒子少量	12 褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片1037点(坏128，甕類906，甗3)，須恵器片23点(坏4，甕類19)，土製品1点(土玉)，金属製品1点(耳環)，鉄滓1点が北東部を中心に全体から出土している。その他，混入した陶器片6点，磁器片4点も出土している。464は北東部床面，462・463は北壁際の竈付近下層からそれぞれ出土しており，住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。465は竈の両袖部内と貯蔵穴付近の覆土下層から出土した破片が接合しており，竈の構築材として利用されたものと想定される。DP100は北西部覆土下層，M33は竈内からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から7世紀前葉と考えられる。



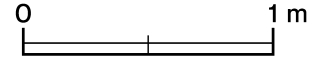
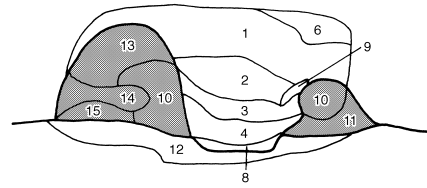
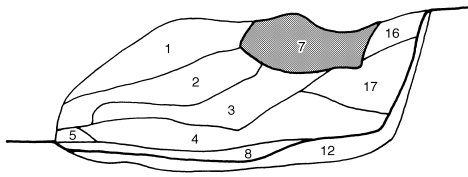
第283图 第2260号住居跡実测图(1)

G 22.8m

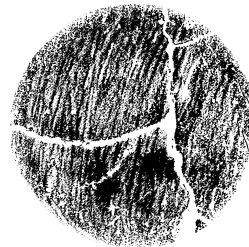
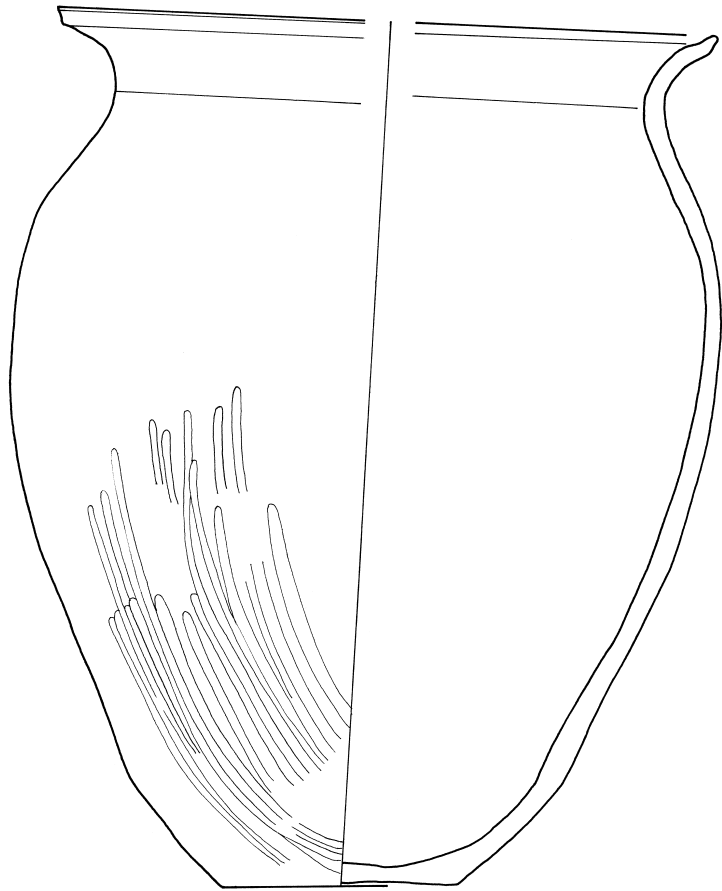
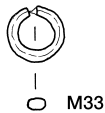
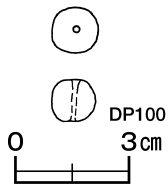
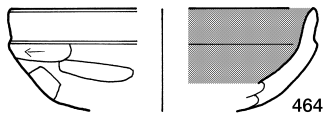
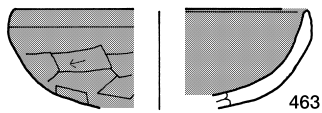
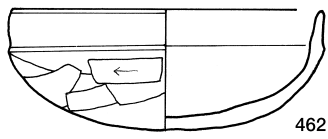
G'

H

H'



第284図 第2260号住居跡実測図(2)



第285図 第2260号住居跡出土遺物実測図

第2260号住居跡出土遺物観察表 (第285図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
462	土師器	坏	12.4	4.7	-	雲母・赤色粒子	黒褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	98% PL159

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
463	土師器	坏	[11.6]	(3.9)	-	長石・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土下層	10%
464	土師器	坏	[12.0]	(4.0)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	10%
465	土師器	甕	[26.3]	35.0	9.4	石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ磨き 内面へラナデ 底部へラ磨き	竈袖部下層 覆土下層	70%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP100	土玉	1.2	1.1	0.15	1.6	土(長石・石英・雲母)	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL190

番号	器種	長径	短径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M33	耳環	2.1	2.3	0.7	9.7	銅	鍍銀	竈覆土下層	PL196

第2262号住居跡 (第286～288図)

位置 調査区北西部のA10h9区、標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2263号住居に竈の煙道部が掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.24m、短軸4.10mの方形で、主軸方向はN - 75° - Eである。壁高は45～50cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められており、厚さ2～4cmの貼床が確認されている。壁下には、幅6～11cm、深さ1～5cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。掘り方は、北西部から南東部へ弧を描く掘り込みと南西部に3か所掘り込んでいる状況が確認され、住居床面からの深さは、深いところで22cmである。また、掘り方からP6・P7が確認されている。

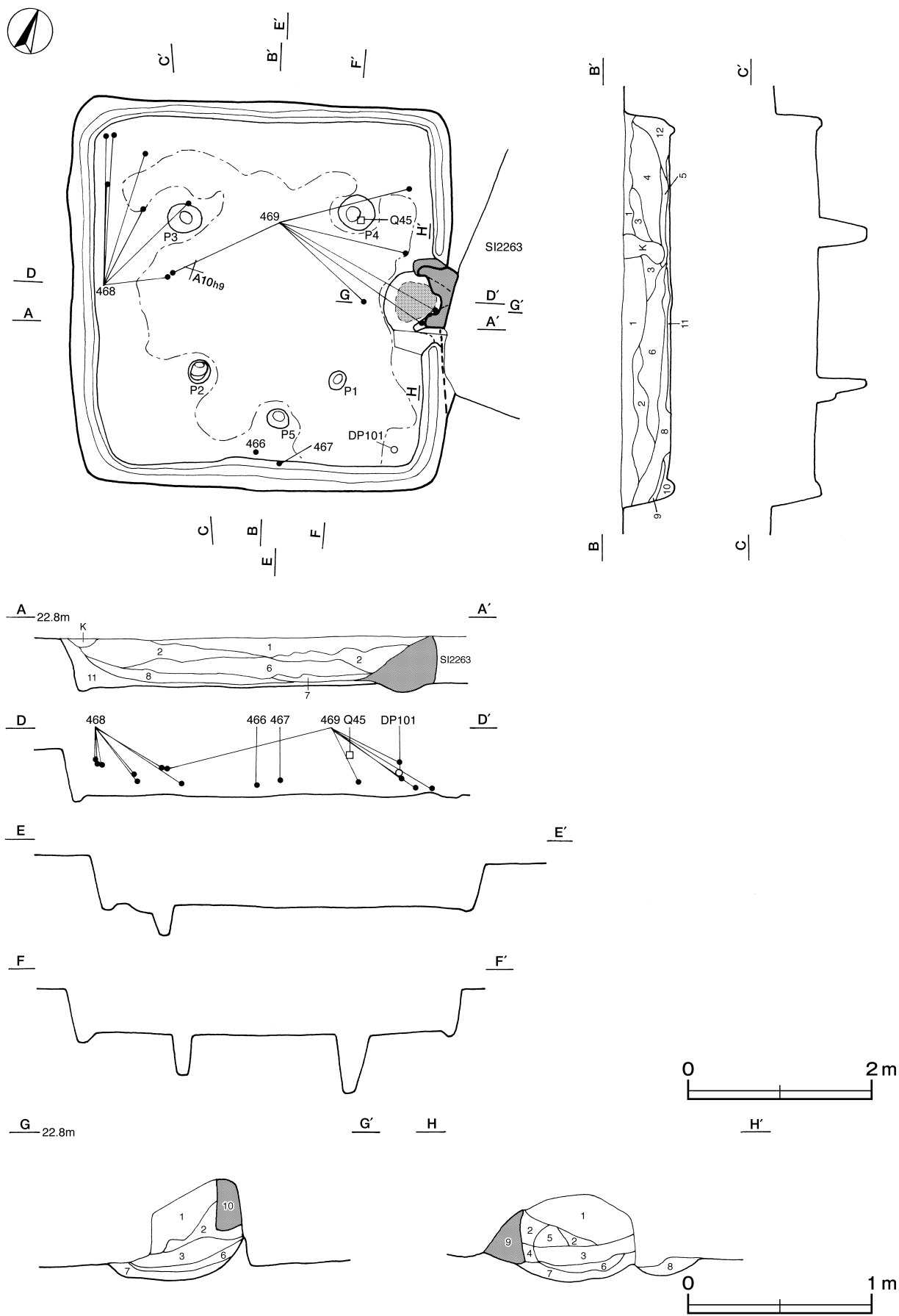
竈 東壁中央部に付設されており、右袖部はほとんど遺存していない。規模は、焚口部から遺存している煙道部まで83cm、袖部幅は推定で102cmである。袖部は地山を掘り込み、砂質粘土を主体に構築されている。火床部は床面を9cm掘りくぼめてローム土を埋め戻しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は第2263号住居に掘り込まれており、遺存していない。第2層は天井部の崩落土層、第10層は天井の残存部である。また、北壁中央部に掘り込まれたくぼみに砂質粘土や焼土などが充填されていたことから、北壁に付設されていた竈が東壁へ造り替えられたと考えられる。

竈土層解説

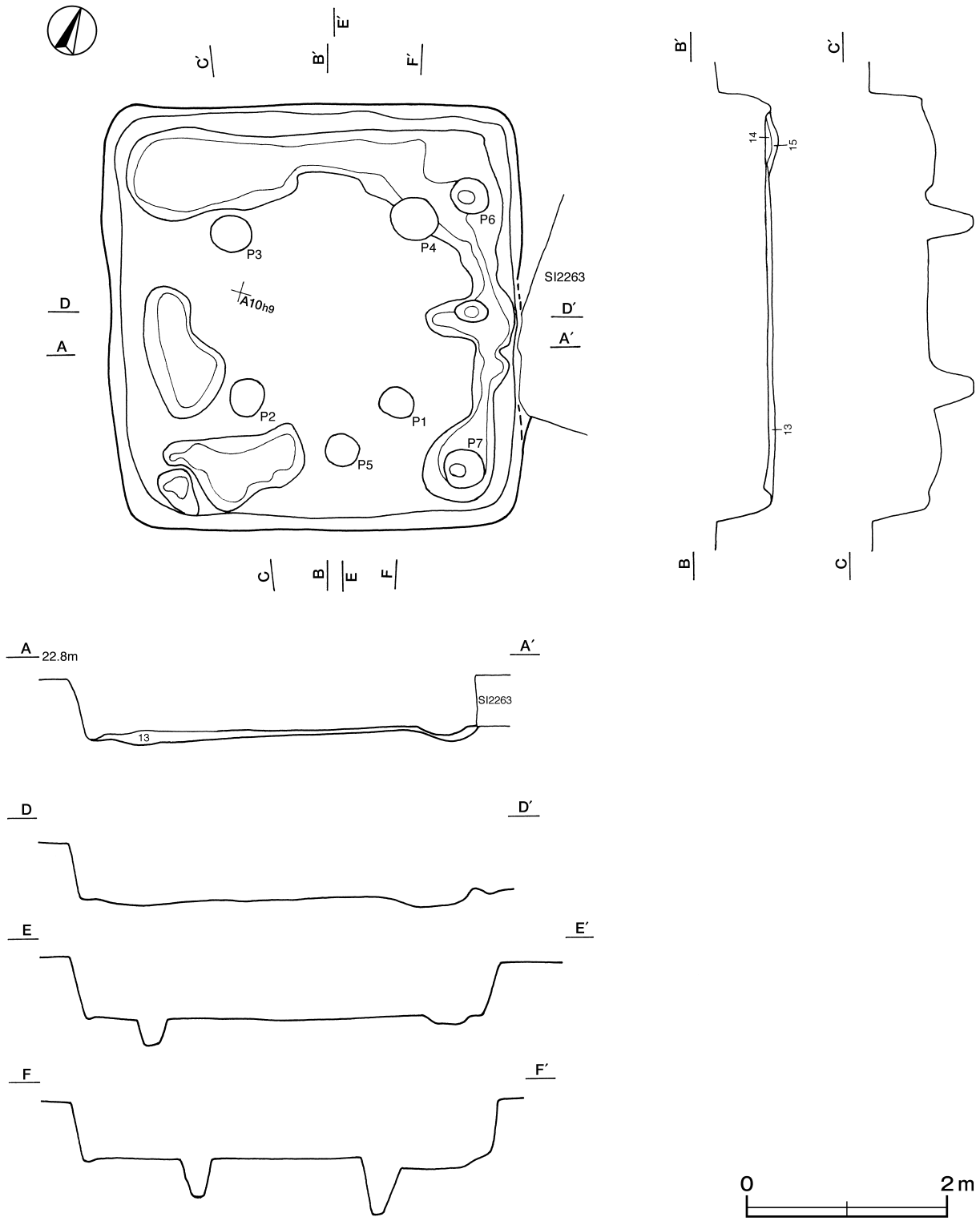
1 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	5 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
2 にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量	6 黒褐色	焼土ブロック・炭化物中量、ロームブロック微量
3 赤褐色	焼土粒子多量、炭化物・砂質粘土ブロック・ローム粒子微量	7 暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量
4 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	8 灰褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
		9 灰黄褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量
		10 灰黄褐色	砂質粘土ブロック多量、ローム粒子少量

ピット 7か所。P1～P4は支柱穴で、深さは45～65cmである。P5は深さ35cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7は床下から確認され、それぞれの深さは24cmと29cmで、性格は不明である。

覆土 15層に分けられる。壁や竈の一部が崩落して堆積した後、人為的に埋め戻され(第2～6層)で、くぼ地に表土が流入した堆積状況を示している。第13層はよく締まった貼床の構築土、第14・15層は北壁で機能していた竈の掘り方にローム土を埋め込んだ貼床の構築土である。



第286图 第2262号住居跡実測図(1)



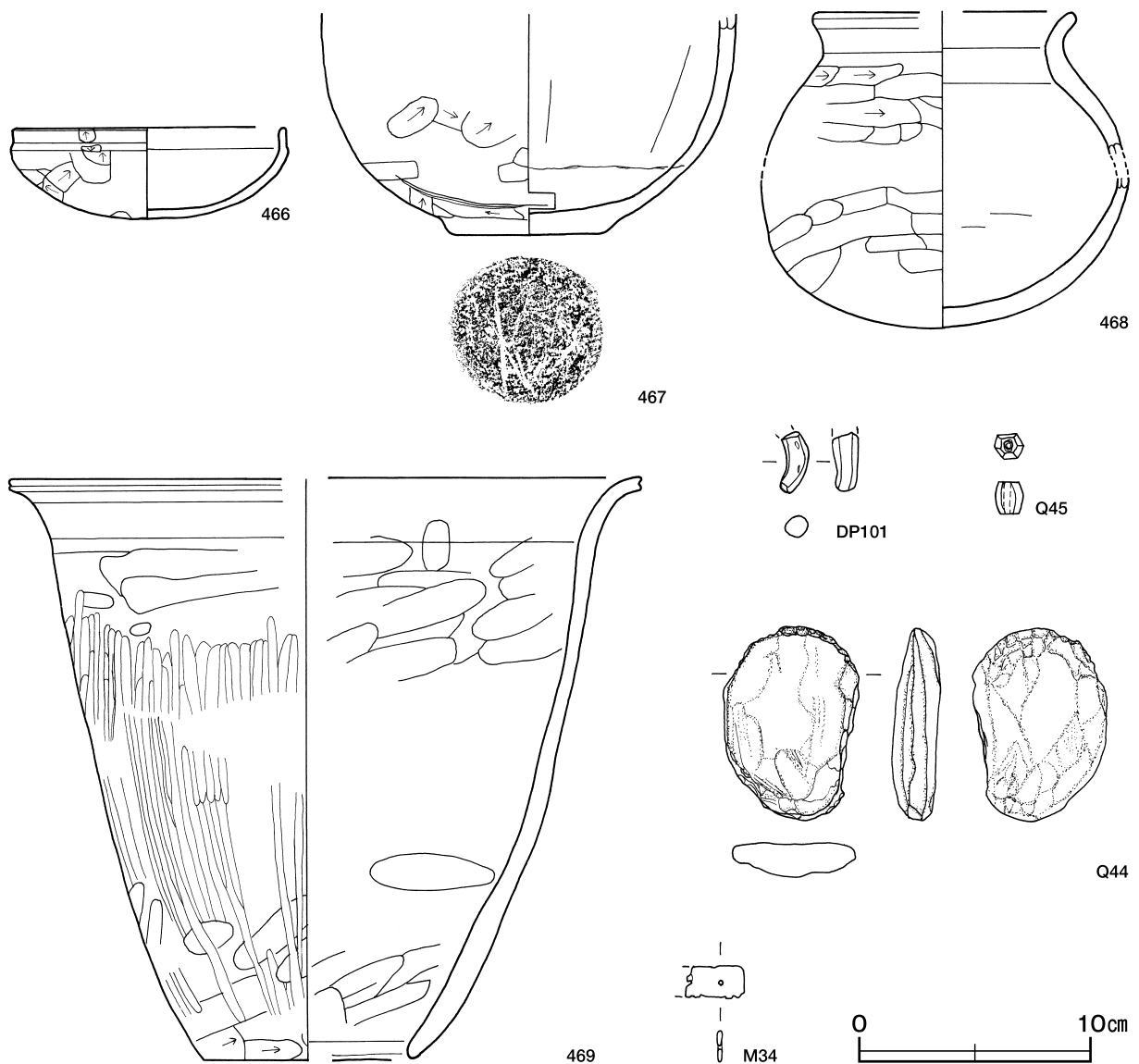
第287図 第2262号住居跡実測図(2)

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------|--------|----------------------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック微量 | 9 明褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 明褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック微量 | 10 褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 褐色 | ロームブロック・炭化物中量, 焼土粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 5 褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 13 明褐色 | ロームブロック多量 |
| 6 褐色 | ロームブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 14 褐色 | ローム粒子多量, 焼土ブロック・炭化粒子少量, 砂質粘土粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 15 褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子少量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片913点（坏76，甕類805，甑30，手捏土器2），須恵器片2点（蓋，甕類），土製品1点（勾玉），石器・石製品2点（敲石，切子玉）のほか，混入した縄文土器片4点，ハケ目痕のある土師器片2点も出土している。南壁際から466が床面よりもやや浮いた状態で出土し，467は覆土下層から出土し，廃絶時に廃棄されたと考えられる。468・469は破損した状態で人為堆積層から出土していることから，廃絶後に投棄されたと考えられる。また，DP101は南東コーナー部の覆土中層，Q45・M34は北東部の覆土上層，Q44は北東部の床面から出土している。

所見 本住居は改築がされていることが確認されている。改築されている施設は北壁から東壁へ造り替えた竈，北竈の掘り方へ埋土して構築された壁とその壁下の壁溝である。また，床下より主柱穴になり得るピットが確認されなかったことから，主柱の移動はされていないと推定できる。時期は，出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第288図 第2262号住居跡出土遺物実測図

第2262号住居跡出土遺物観察表（第288図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
466	土師器	坏	11.5	4.0	-	長石・雲母	灰黄	普通	口辺部内外面横ナデ 外面ヘラ削り 体部外面ヘラ削り・ヘラ磨き 内面横ナデ	覆土下層	95% PL159
467	土師器	甗	-	(9.5)	6.1	長石・石英・小礫	にぶい橙	普通	体部外面ナデ・ヘラ削り 内面ナデ 体部下端ヘラ削り 輪積痕 使用痕一ヶ所	覆土下層	35% 転用砥石
468	土師器	小形甗	[11.0]	[13.5]	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ・ヘラナデ 底部ヘラ削り	覆土上～下層	70%
469	土師器	甗	[26.8]	25.0	9.0	長石・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部ヘラナデ後ヘラ磨き 下端ヘラ削り 内面ナデ	覆土中～下層	口辺部5% 体部65%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP101	勾玉	(2.5)	1.1	0.9	(2.7)	土(長石・雲母)	ナデ 頭部欠損	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q44	敲石	8.3	5.8	2.0	118.4	雲母片岩	端部に敲打痕	床面	
Q45	切子玉	1.3	1.1	1.3	2.8	水晶	孔径0.2cm 側面中央部から両端部へ向かったの研磨 一方からの穿孔	覆土上層	PL194

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M34	鎌	(2.5)	1.4	(0.2)	(1.8)	鉄	手鎌 片隅残存 径1.85cmの目釘穴あり	覆土上層	

第2264号住居跡（第289・290図）

位置 調査区北西部のB10b0区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2977号・2978号土坑と第128号溝に掘り込まれ，ほぼ全面が耕作による攪乱を受けている。

規模と形状 長軸7.26m，短軸は推定6.50mの長方形で，主軸方向はN - 10° - Wである。壁高は28～40cmであり，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 攪乱のため，北壁中央部に付設されていた形跡が確認されるだけで，構築方法は不明である。

ピット 7か所。P1～P4は主柱穴で，深さは33～77cmである。P5は深さ24cmで，竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7の性格は不明である。

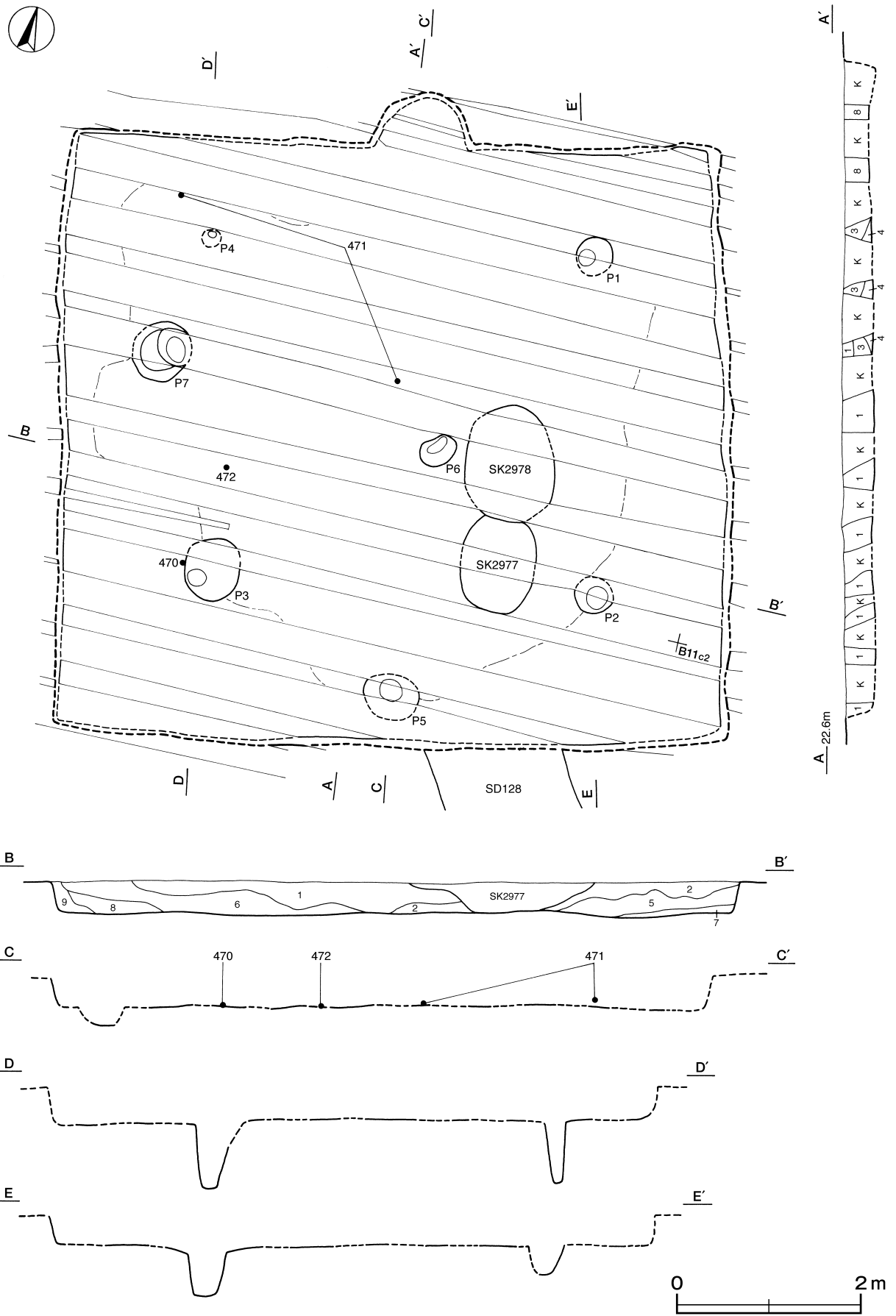
覆土 9層に分けられる。壁や竈が崩落して堆積した後，第1層が南方向から人為的に埋められ，南壁が崩落したと考えられる。

土層解説

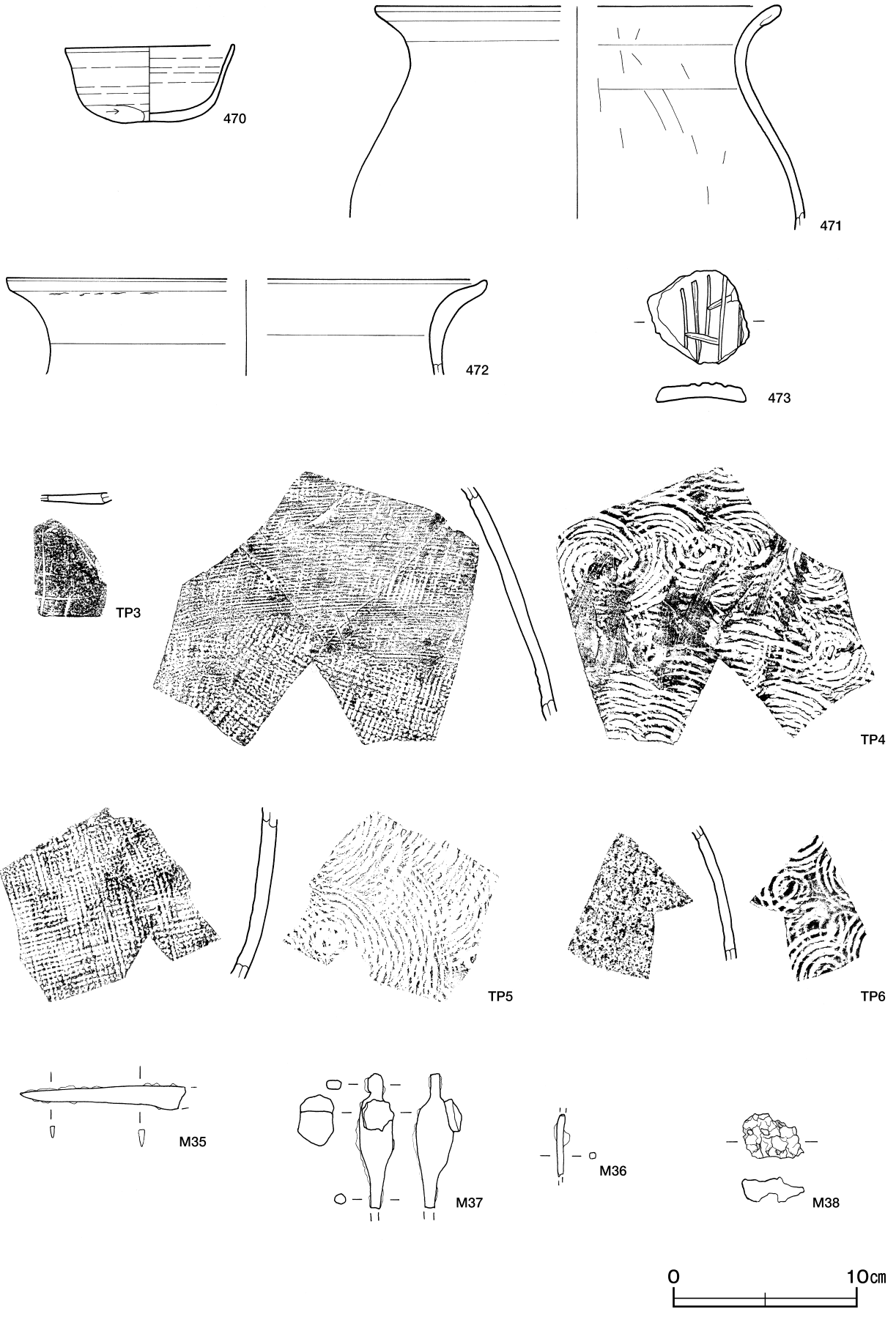
1	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量 炭化粒子微量	5	暗褐色	ローム粒子少量，炭化物微量
2	褐色	ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子微量	6	黒褐色	ロームブロック少量 焼土ブロック・炭化粒子微量
3	灰褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量	7	褐色	ローム粒子中量
4	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
			9	黒褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片1118点（坏168，甗類949，甗1），須恵器片298点（坏118，高台付坏1，蓋2，壺類2，甗類175），土製品2点（羽口），鉄製品4点（刀子1，釘3），鉄滓1点のほか，混入した縄文土器片4点，灰釉陶器片1点，陶器片30点，磁器片15点も出土している。470はP3周辺の床面から出土しており，廃絶に伴って廃棄された考えられる。471は北西部と中央部の覆土上層から床面に散在していた破片が接合したもので，472は中央部西側の床面から破損した状態で出土し，いずれも廃絶後に廃棄されたと考えられる。竈付近から片顎分の馬歯が出土しているが，他の部位が検出されていないことから，攪乱による混入と考えられる。また，TP4は北部の覆土下層から出土した破片が接合し，TP5は南西部の覆土上層，M37は南東部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から7世紀後葉と考えられる。



第289图 第2264号住居跡実測图



第290图 第2264号住居跡出土遺物実測図

第2264号住居跡出土遺物観察表（第290図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
470	須恵器	坏	8.9	4.2	-	長石・石英	褐灰	普通	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	床面	95% PL159
471	土師器	甕	[21.7]	(12.0)	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	覆土上層-床面	10%
472	土師器	甕	[25.8]	(5.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 外面ヘラ削り	床面	5%
473	土師器	甕	-	(5.2)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	幅5.5cm 使用痕六か所	覆土	5% 転用砥石
TP3	須恵器	坏	-	(0.7)	[6.8]	長石・雲母	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後多方向ヘラ削り	覆土上層	ヘラ記号「+」カ
TP4	須恵器	甕	-	(13.8)	-	長石	灰	普通	体部外面格子状平行叩き 内面同心円状の当て具痕	覆土下層	
TP5	須恵器	甕	-	(9.4)	-	長石・小礫	灰白	普通	体部外面格子状平行叩き 内面同心円状の当て具痕	覆土上層	
TP6	須恵器	甕	-	(7.3)	-	長石・黒色粒子	黄灰	普通	体部外面自然釉付着 内面同心円状の当て具痕	覆土上~下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M35	刀子	(9.0)	(1.3)	0.4	(7.5)	鉄	茎部欠損	覆土上層	
M36	釘	(3.4)	(0.4)	(0.4)	(1.8)	鉄	頭部・下端部欠損 若干の曲がりが見られる	覆土下層	
M37	不明	(7.3)	1.8	2.8	(62.4)	鉄	上部穴が開いていた形跡有り 中央部舵状の部位有り 下端部欠損	覆土上層	
M38	鉄滓	2.6	3.4	1.3	12.6	鉄	外面焼土付着 熱を受けている	覆土下層	

第2265号住居跡（第291～294図）

位置 調査区北西部のB10e0区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第121号溝に南西コーナー部を掘り込まれており，北東部は東西方向の耕作による攪乱を受けている。

規模と形状 長軸9.28m，短軸9.24mの方形で，主軸方向はN - 24° - Wである。壁高は44～62cmで，壁は外傾して直立ぎみに立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり，壁際を除いて踏み固められている。壁下には，幅12～20cm，深さ3～9cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部やや西寄りに付設されている。攪乱を受けているため全体の形状は不明であるが，焚口部から煙道部まで150cmほど，袖部幅116cmである。袖部は覆土の状況から砂質粘土で構築されていたと推定される。火床部は床面を5cm掘りくぼめており，火床面は火を受けて赤変している。煙道部は壁外に32cm掘り込まれ，直立ぎみに立ち上がっていたと推定される。

竈土層解説

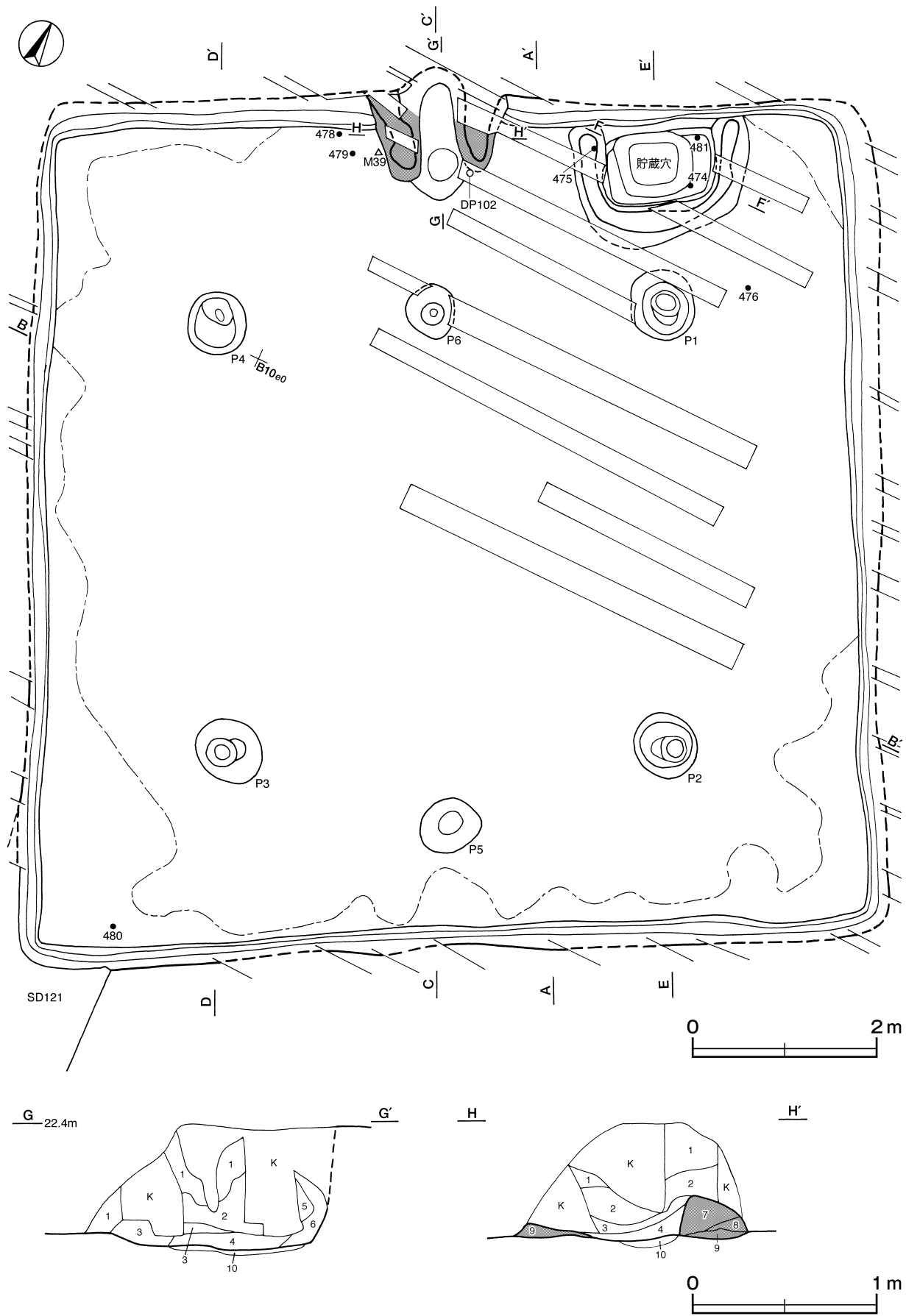
1 褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・砂質粘土粒子微量	6 褐色	ローム粒子多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	7 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量，焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化物微量
3 暗褐色	焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子少量	8 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土ブロック・砂質粘土粒子微量
4 黒褐色	炭化粒子中量，焼土ブロック少量，ローム粒子微量	9 褐色	ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化物微量
5 にぶい赤褐色	焼土粒子多量，炭化粒子少量，ローム粒子微量	10 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量

ピット 6か所。P1～P4は支柱穴で，深さは52～76cmである。P5は深さ31cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ60cmで，性格は不明であるが，出入口ピットと軸線上に並んでいることから，支柱とも想定される。

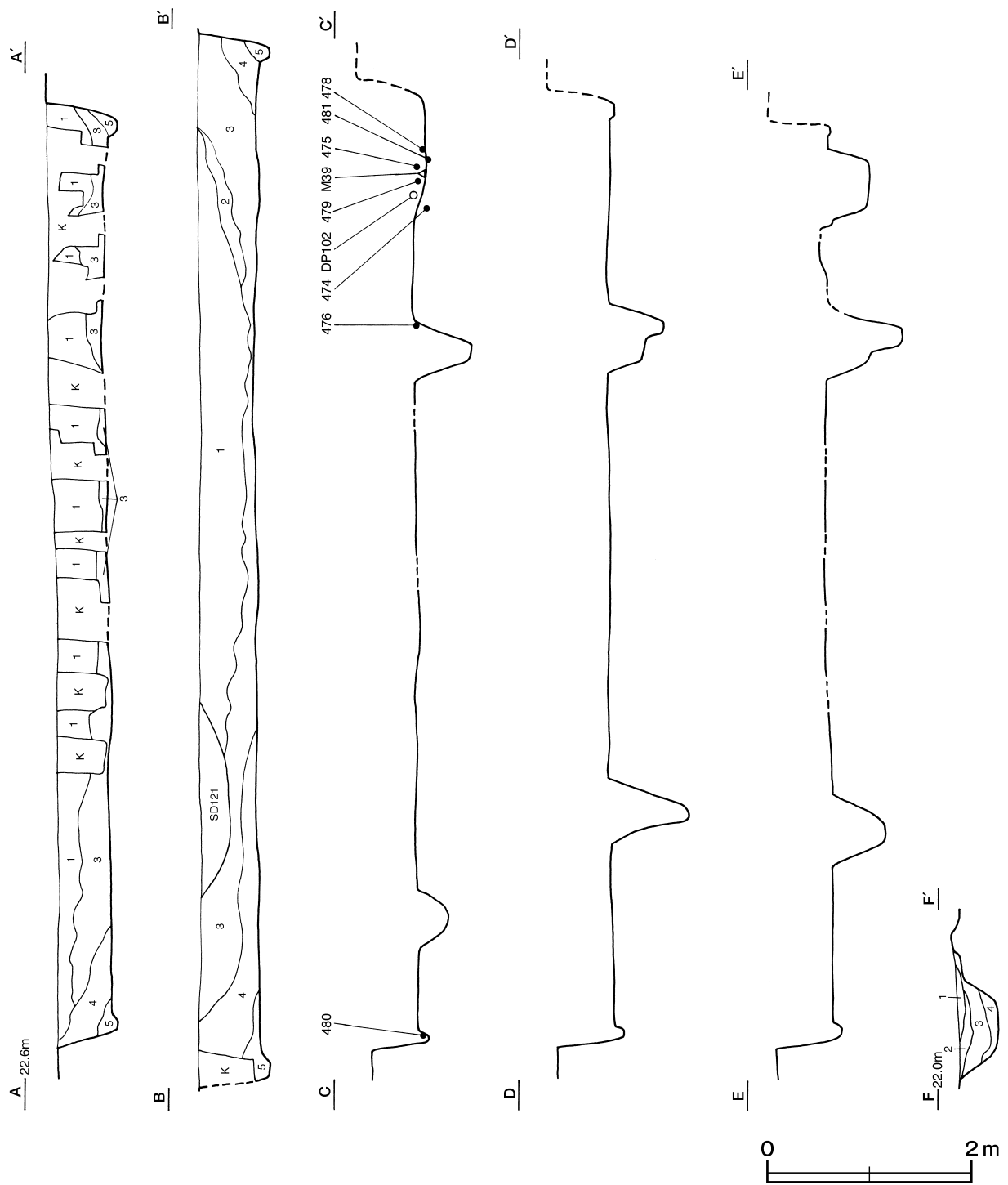
貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長軸118cm，短軸77cmの長方形で，深さは40cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がり，覆土は自然堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	3 暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量	4 褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量



第291图 第2265号住居跡实测图(1)

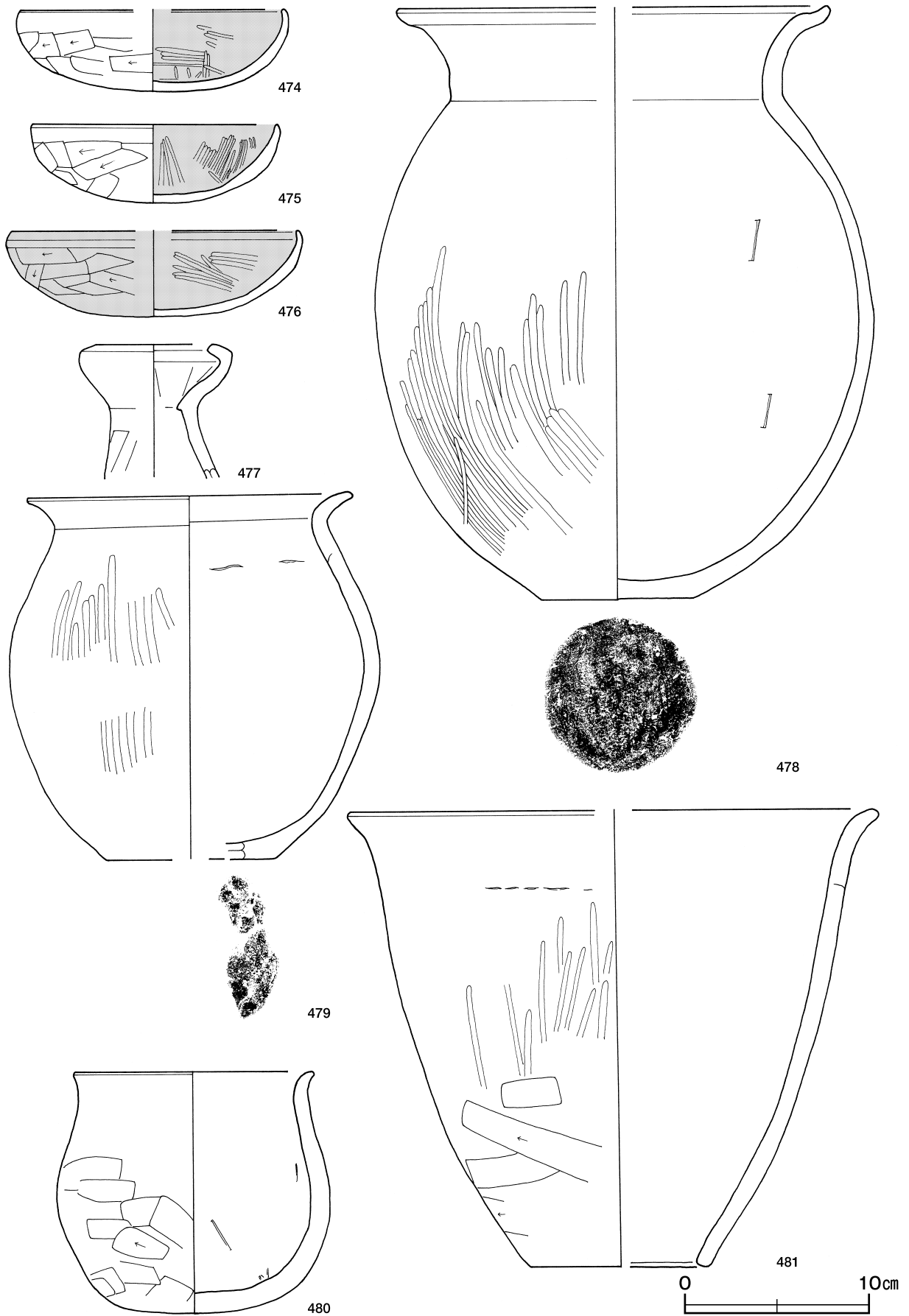


第292図 第2265号住居跡実測図(2)

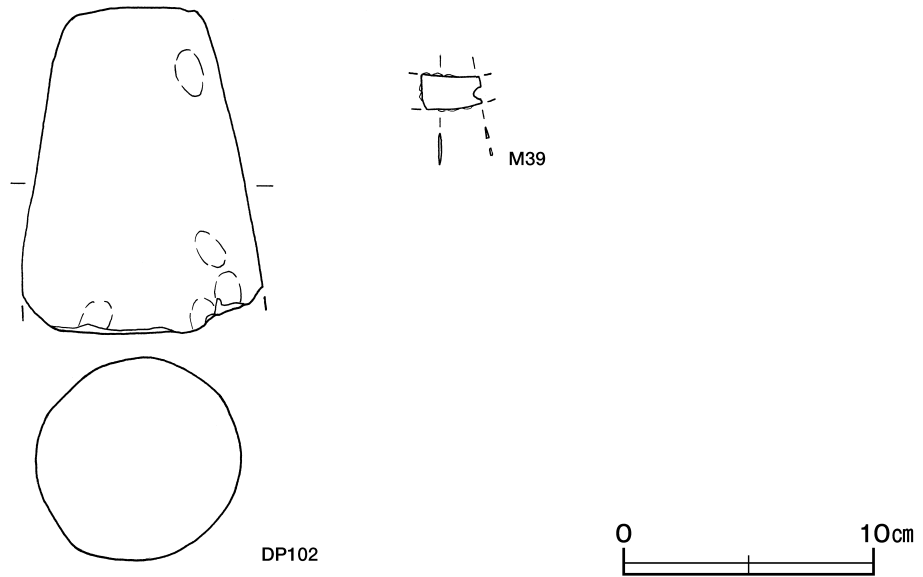
覆土 5層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|------|---------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 4 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量 | 5 褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |



第293图 第2265号住居跡出土遺物実測図(1)



第294図 第2265号住居跡出土遺物実測図(2)

遺物出土状況 土師器片2090点(坏403, 埴1, 炉器台7, 高坏8, 甕類1667, 甌3, 手捏土器1), 須恵器片97点(坏22, 蓋1, 甕類74), 土製品1点(支脚), 鉄製品1点(刀子カ), 鉄滓1点が覆土上層から中層にかけてほぼ全域から出土している。その他, 混入した陶器片10点, 磁器片12点も出土している。474・481は貯蔵穴内, 475は北壁際床面, 476は北東部床面からそれぞれ出土しており, 住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。M39は竈付近床面, DP102は竈前面床面からそれぞれ出土している。

所見 北側を除いて, 貯蔵穴に周提状の高まりが確認されている。時期は, 出土土器から6世紀中葉と考えられる。7世紀前葉に比定される約10mを越える住居跡が検出されているが, この時期に比定される住居跡としては最大級のものである。

第2265号住居跡出土遺物観察表(第293・294図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
474	土師器	坏	[14.2]	4.4	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・小礫	赤	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へら磨き	貯蔵穴上層	80%
475	土師器	坏	13.1	4.2	-	長石・石英・小礫	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へら磨き	床面	60%
476	土師器	坏	[15.4]	4.6	-	長石・石英・小礫	赤褐色にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へら磨き	床面	40%
477	土師器	炉器台	6.2	(7.2)	-	長石・雲母	橙	普通	受部外面ナデ内面へらナデ 脚部外面へら削り 内面へらナデ	覆土中層	70% PL172
478	土師器	甕	[23.2]	32.0	8.2	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら磨き 内面へらナデ	床面	55%
479	土師器	甕	17.2	19.8	[9.0]	長石・石英	浅黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら磨き 内面へらナデ 輪種痕	床面	60%
480	土師器	小形甕	12.8	13.0	-	石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へらナデ	床面	98% PL177
481	土師器	甌	[28.3]	24.7	9.6	長石・石英・雲母・赤色粒子・礫	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら磨き後へら削り 輪種痕 内面へらナデ	貯蔵穴上層	80% PL187

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP102	支脚	(13.0)	(9.5)	8.1	(725.5)	土(長石・石英)	ナデ 指頭痕	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M39	刀子カ	(2.4)	(1.4)	0.05~0.1	(1.9)	鉄	基部破片	床面	

第2268号住居跡 (第295・296図)

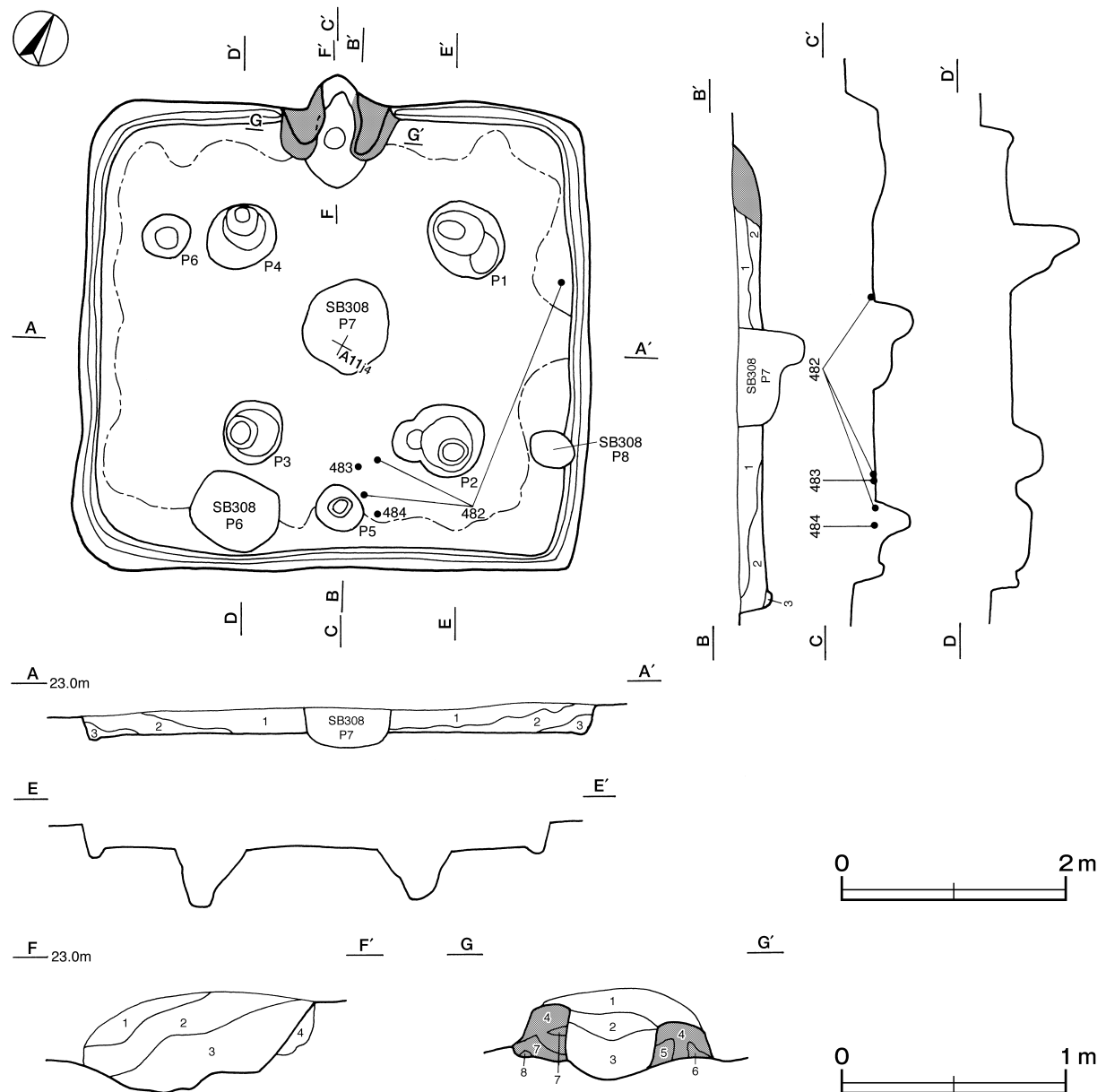
位置 調査区北部のA11i3区, 標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第308号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.54m, 短軸4.12mの長方形で, 主軸方向はN - 29° - Wである。壁高は17~28cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり, 壁際を除いて踏み固められている。壁下には, 幅7~14cm, 深さ2~9cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで100cmほど, 袖部幅105cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面を14cm掘りくぼめており, 火を受けて赤変している。煙道部は壁外に30cmほど掘り込まれ, 外傾して立ち上がっている。



第295図 第2268号住居跡実測図

竈土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------------|-------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | 砂質粘土粒子多量, ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量, 砂質粘土粒子少量炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 4 黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック多量 |

ピット 6か所。P1～P4は主柱穴で、深さは45～58cmである。P5は深さ28cmで、竈に対峙する位置にあることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ20cmで、性格は不明である。

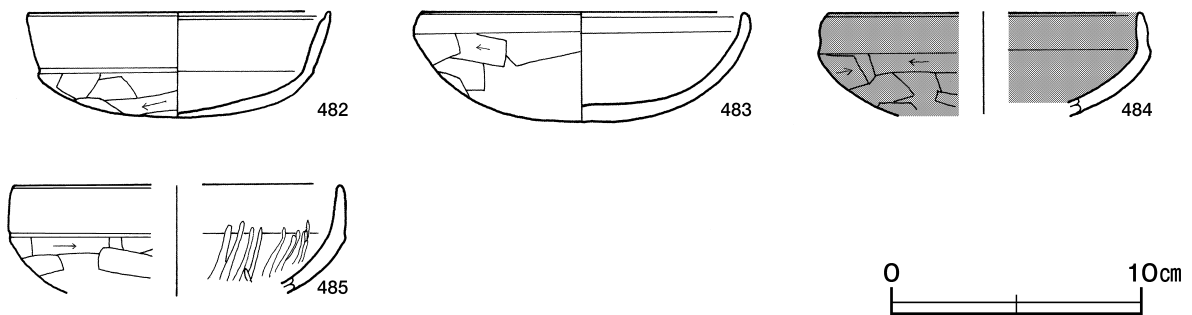
覆土 3層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片319点(坏69, 甗類250), 須恵器片3点(甗類)が出土している。また, 混入した陶器片2点も出土している。483・484は南壁寄りの床面からそれぞれ出土しており, 住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。482は東壁際から中央部の床面にかけて出土した破片が接合したものである。

所見 時期は, 出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第296図 第2268号住居跡出土遺物実測図

第2268号住居跡出土遺物観察表(第296図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
482	土師器	坏	12.0	4.2	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	床面	65% PL159
483	土師器	坏	12.8	4.4	-	長石・石英	暗赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	床面	10%
484	土師器	坏	[12.4]	(4.1)	-	雲母・赤色粒子	黒褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	床面	5%
485	土師器	坏	[13.0]	(4.3)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面放射状のへら磨き	覆土中層	70%

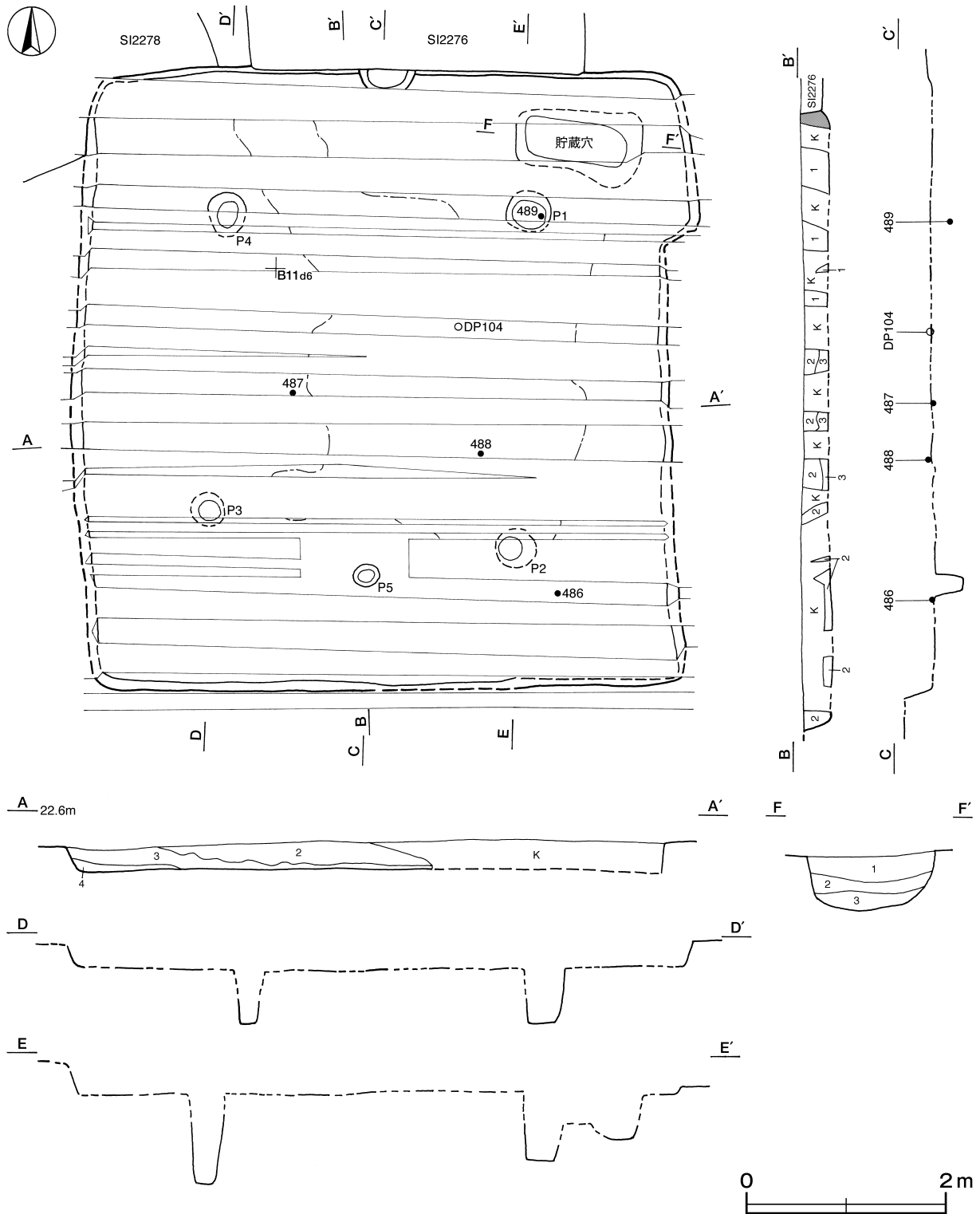
第2277号住居跡(第297・298図)

位置 調査区北東部のB11d6区, 標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2278号住居跡を掘り込み, 第2276号住居に掘り込まれている。東西方向の耕作による攪乱を受けている。

規模と形状 長軸6.08m, 短軸6.01mの方形で, 主軸方向はN-3°-Wである。壁高は10～28cmで, 各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 現存する床はほぼ平坦であり, 中央部が踏み固められている。



第297図 第2277号住居跡実測図

竈 北壁中央部に付設されているが、第2276号住居に掘り込まれているため、火床部の一部が確認されただけである。

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で、深さは54～91cmである。P5は深さ29cmで、竈に対峙する位置にあることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長軸125cm、短軸58cmの長方形で、深さは52cmである。底面は皿状

で、壁は外傾して立ち上がり、覆土は自然堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

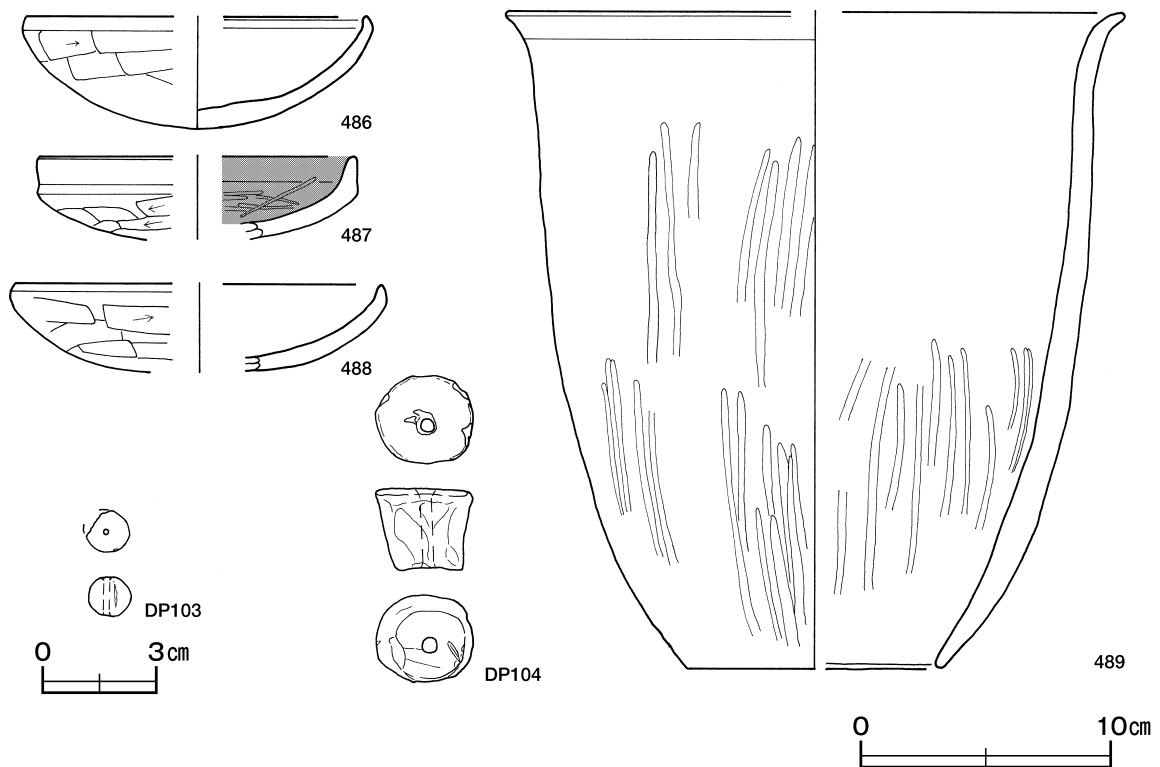
覆土 4層に分けられる。攪乱が激しいが、堆積状況は自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片780点(坏162, 甕類579, 甌39), 須恵器片42点(坏5, 甕類37), 土製品2点(小玉, 紡錘車), 鉄滓3点が出土している。また、混入した須恵器片8点, 灰釉陶器片5点, 磁器片3点, 陶器片13点も出土している。486は南東部床面, 487・488は中央部床面からそれぞれ出土しており、住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。DP103は覆土, DP104は中央部床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第298図 第2277号住居跡出土遺物実測図

第2277号住居跡出土遺物観察表 (第298図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
486	土師器	坏	[13.4]	4.5	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	45%
487	土師器	坏	[12.6](3.2)	-	-	長石・石英・白色粒子・小礫	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面へラ磨き	床面	15%
488	土師器	坏	[14.4](3.5)	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	15%
489	土師器	甌	[24.4]	26.1	10.0	長石・石英・雲母・礫	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部内外面へラ磨き	P1 覆土	40%

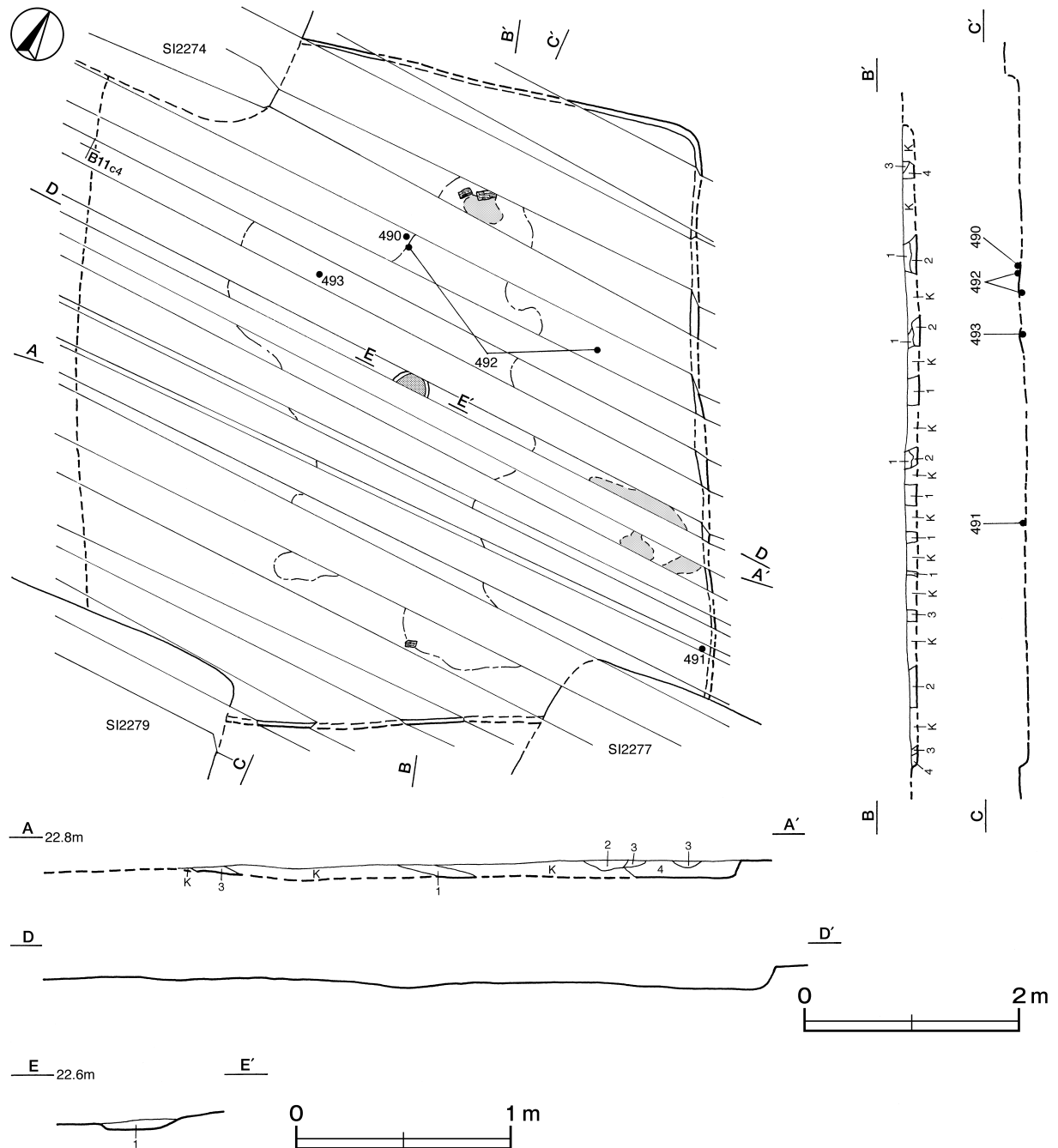
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP103	小玉	1.1	1.0	0.15	(1.0)	土(長石・石英)	ナデー方向からの穿孔	覆土	PL190
DP104	紡錘車	3.8	3.3	0.5	45.8	土(長石・石英)	ナデ両方向からの穿孔	床面	PL193

第2278号住居跡 (第299・300図)

位置 調査区北部のB11c4区、標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2274・2277・2279号住居に掘り込まれ、東西方向の耕作による攪乱を受けている。

規模と形状 長軸6.28m、短軸5.72mの方形と推定され、主軸方向はN - 25° - Wである。壁高は20cmほどで、外傾して立ち上がっている。



第299図 第2278号住居跡実測図

床 現存する床はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。東部床面に焼土や炭化材の広がりが確認されている。

炉 中央部に位置し、長径40cm、短径30cmの楕円形と推定される。床面を浅く皿状に掘りくぼめた地床炉で、炉床面は赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量，炭化粒子微量

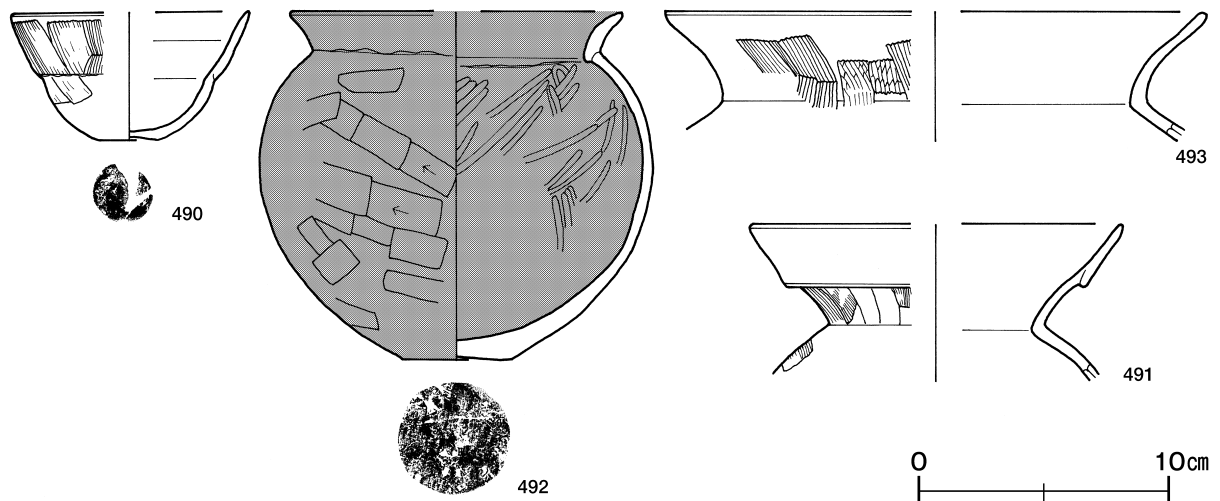
覆土 4層に分けられる。各層にロームブロックや焼土を含んだ人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック少量，ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片283点（坏7，埴12，甕類264），須恵器片45点（坏6，甕類39），粘土塊1点，鉄滓1点が出土している。また、混入した灰釉陶器片1点，陶器片5点も出土している。493・490は中央部床面，491は東壁際床面からそれぞれ出土しており，住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 床面に焼土や炭化材が広がっており，焼失住居と考えられる。時期は，出土土器から4世紀後半と考えられる。



第300図 第2278号住居跡出土遺物実測図

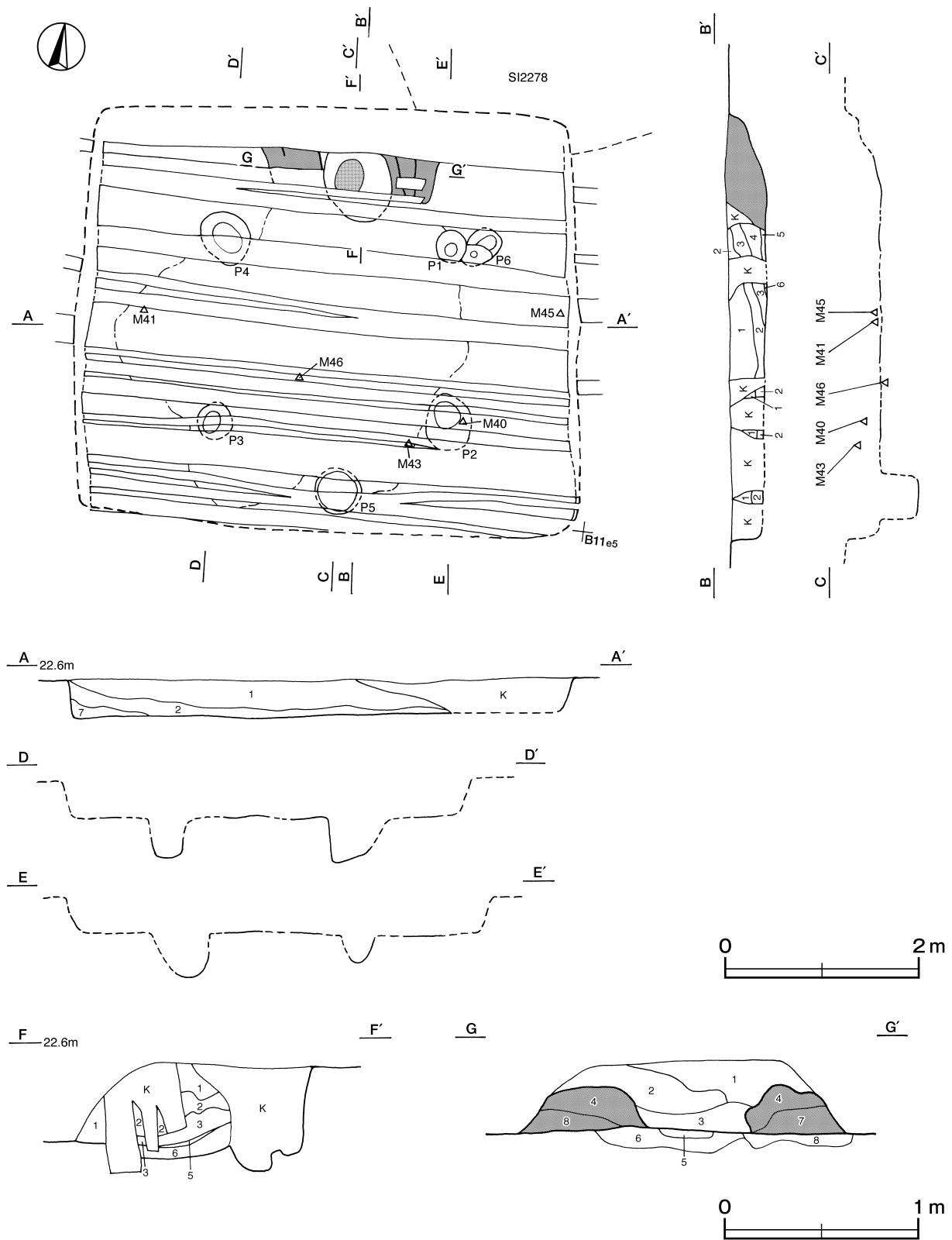
第2278号住居跡出土遺物観察表（第300図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
490	土師器	埴	[9.3]	5.1	2.2	長石・石英・白色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部外面ハケ目調整 内面横ナデ 頸部外面ハケ目調整 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	床面	70%
491	土師器	甕	[14.8]	(6.2)	-	長石・石英	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 頸部外面ハケ目調整後ヘラ削り 内面ヘラナデ	床面	10%
492	土師器	甕	[13.2]	13.8	4.4	長石・石英	黒褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き 輪積痕	床面	50%
493	土師器	甕	[21.4]	(5.1)	-	石英・雲母	褐	普通	口辺部内外面横ナデ 頸部外面ハケ目調整	床面	10%

第2279号住居跡（第301～303図）

位置 調査区北部のB11d4区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2278号住居跡を掘り込んでいる。また，東西に横切る耕作による攪乱を受けており，本跡の遺存状態は非常に悪い。



第301図 第2279号住居跡実測図

規模と形状 長軸5.10m，短軸4.35mの長方形で，主軸方向はN - 3° - Wである。壁高は35～43cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで122cm、袖部幅は130cmである。袖部は地山を掘り込んだくぼみにローム土を埋め込み、砂質粘土を主体に構築されている。火床部は7cm掘りくぼめ、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | |
|-----------------------------------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 5 暗褐色 焼土粒子多量,炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 焼土粒子中量,砂質粘土粒子少量,炭化粒子微量 | 6 褐色 ローム粒子・焼土粒子中量,炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子中量,炭化物少量,砂質粘土粒子微量 | 7 灰褐色 砂質粘土粒子中量,ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 灰褐色 砂質粘土粒子中量,焼土粒子少量,炭化粒子微量 | 8 褐色 ローム粒子多量,炭化粒子少量,焼土粒子微量 |

ピット 6か所。P1～P4は支柱穴で、深さは29～42cmである。P5は深さ39cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6の性格は不明である。

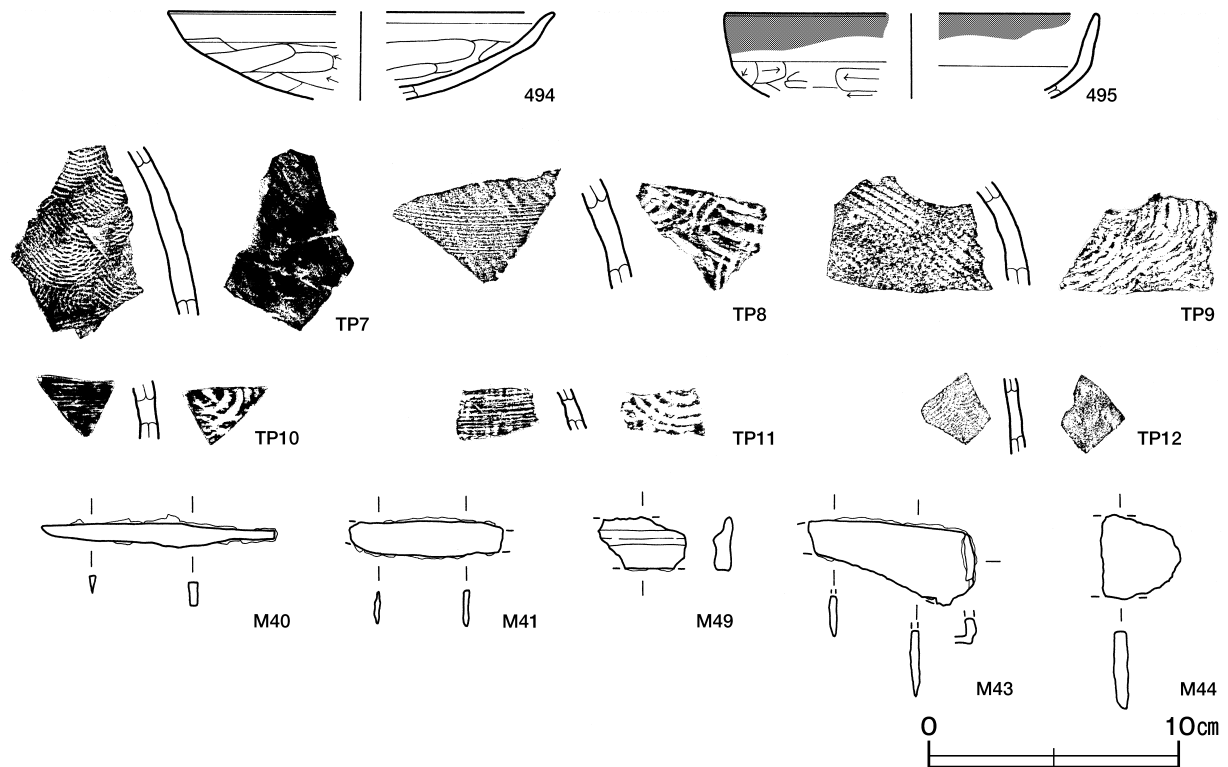
覆土 7層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

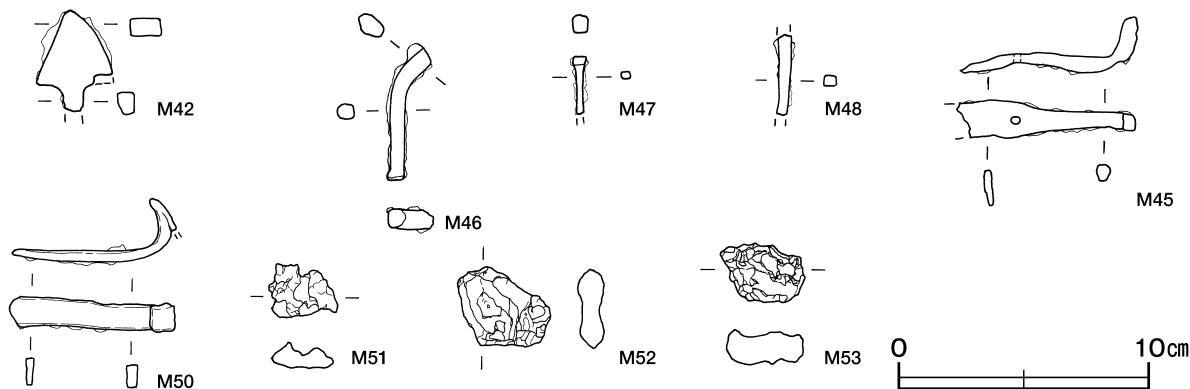
- | | |
|---------------------------------|----------------------------------|
| 1 極暗褐色 ローム粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量,ローム粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 7 褐色 ローム粒子中量,焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片1911点(坏178,甕類1730,甌3),須恵器片292点(坏59,蓋7,高盤2,瓶類1,甕類223),石器5点(砥石),鉄製品17点(刀子5,鎌5,釘3,不明4),鉄滓4点のほか、混入した陶器片22点,磁器片18点も出土している。494は竈の覆土内と北東部の床面から出土した破片が接合したもので、495・TP9は竈の覆土内,TP12は覆土下層から出土しており、いずれも廃絶時に廃棄されたと考えられる。また、M45は東壁際の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀後葉と考えられる。



第302図 第2279号住居跡出土遺物実測図(1)



第303図 第2279号住居跡出土遺物実測図(2)

第2279号住居跡出土遺物観察表 (第302・303図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
494	土師器	坏	[15.1]	(3.5)	-	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラナデ 内底ヘラナデ	床面 竈覆土内	20%
495	土師器	坏	[14.8]	(3.4)	-	長石・雲母	橙	普通	口辺部若干の黒色処理 体部外面ヘラ削り	竈覆土 竈袖部内	10%
TP7	須恵器	甕	-	(6.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面同心円状叩き 内面ナデ	覆土下層	
TP8	須恵器	甕	-	(4.4)	-	長石・黒色粒子	灰白	普通	体部外面カキ目調整 内面同心円状の当て具痕	覆土下層	
TP9	須恵器	甕	-	(4.2)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部外面格子状叩き 内面同心円状の当て具痕	竈袖部内	
TP10	須恵器	甕	-	(2.3)	-	長石	灰オリブ	普通	体部外面カキ目調整 自然釉付着 内面同心円状の当て具痕	床面	TP11と同一個体
TP11	須恵器	甕	-	(1.7)	-	長石	暗オリブ	普通	体部外面カキ目調整 自然釉付着 内面同心円状の当て具痕	覆土下層	TP10と同一個体
TP12	須恵器	甕	-	(3.2)	-	長石・雲母	褐灰	普通	体部外面同心円状叩き 内面ナデ	覆土下層	

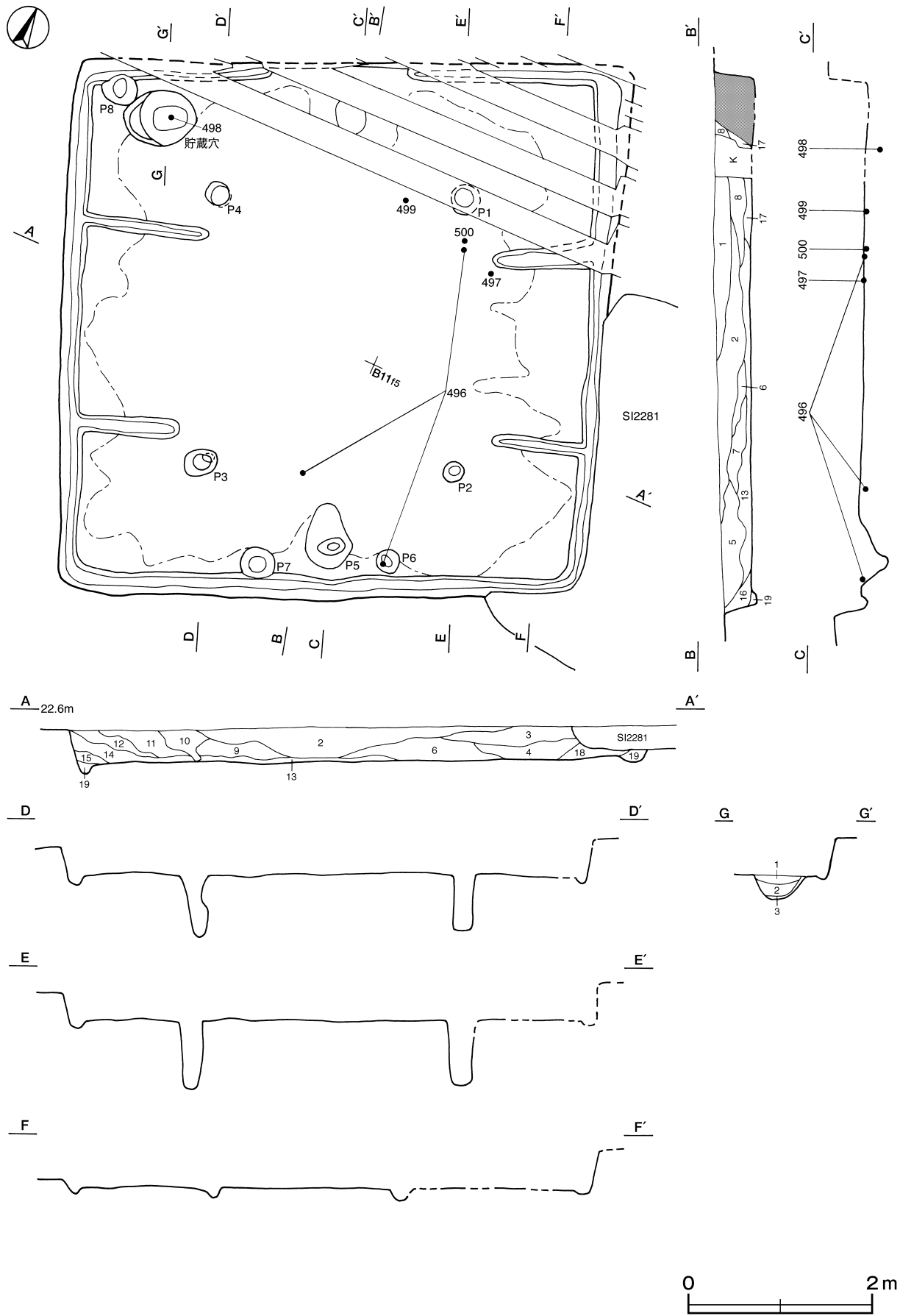
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M40	刀子	(9.3)	1.0	0.4	(9.1)	鉄	茎部湾曲している 茎部の端部欠損	覆土中層	
M41	刀子	(6.1)	1.4	0.2	(10.0)	鉄	刃部切先欠損 茎部若干残存	覆土下層	
M42	鏃	(4.0)	(3.0)	1.0	(22.2)	鉄	短頸三角鏃 鏃身断面長方形 茎部欠損	覆土下層	
M43	鎌	(6.7)	1.4~3.1	0.3	(22.7)	鉄	端部上端折り返し 刃部切先欠損	覆土中層	
M44	鎌	(3.1)	3.4	0.5	(12.2)	鉄	左鎌 刃部のみ残存	覆土下層	
M45	手鎌	(7.1)	1.6	0.5	(11.1)	鉄	1.88cmの目釘穴あり 刃部若干残存している 端部折り曲げられている	床面	
M46	釘	(5.4)	0.8	0.7	(7.9)	鉄	頭部欠損 下端部先叩かれ平らになっている	貼り床層	
M47	釘	(2.4)	0.5	0.3	(1.6)	鉄	頭部先端平らに薄く引き延ばされている 下端部欠損 火を受けている	覆土中層	
M48	釘	(3.3)	(0.5)	(0.5)	(2.6)	鉄	頭部欠損 火を受け外面に焼土付着	覆土中層	
M49	火打金	(3.6)	2.3	0.7	(9.9)	鉄	表面中央部に一本の綾有り 綾から縁にかけて厚さが薄くなる 裏面平坦	覆土上層	
M50	不明	(6.6)	(1.4)	0.5	(11.8)	鉄	足金物の脚部カ 曲線状に折り曲げられている 端部が折り曲げられている	覆土	
M51	鉄滓	2.1	2.8	1.0	3.5	鉄	湾状滓 外面焼土付着	覆土上層	
M52	鉄滓	3.1	3.8	1.1	17.9	鉄	鎌の未製品カ 外面焼土付着	覆土中層	
M53	鉄滓	2.4	3.4	1.5	17.0	鉄	一部融解し再び固まっている 外面焼土付着	覆土	

第2280号住居跡 (第304・305図)

位置 調査区北部のB11e4区、標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2281号住居に掘り込まれている。北部が耕作による攪乱を受けている。

規模と形状 長軸5.95m、短軸5.75mの方形で、主軸方向はN-22°-Wである。壁高は29~43cmで、ほぼ直立している。



第304图 第2280号住居跡実测图

床 ほぼ平坦であり、壁際を除いて踏み固められている。壁下には、幅12~25cm、深さ4~12cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。また、幅12~25cm、深さ3~11cmの間仕切り溝が東西壁側で各2条確認され、断面形はU字状を呈している。

竈 北壁中央部に付設されているが、耕作による攪乱のため火床部が確認されただけで全体の形状は不明である。

覆土 19層に分けられる。粒の大きいロームブロックを含み、全体的にブロック状の堆積状況を示すことから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	10 灰褐色	ロームブロック・炭化物微量
2 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	11 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック中量・焼土粒子・炭化粒子微量	12 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
4 褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量	13 暗褐色	ローム粒子少量
5 黒褐色	ローム粒子中量	14 灰褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
6 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	15 黒褐色	ローム粒子少量
7 極暗褐色	ロームブロック中量	16 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8 灰褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック微量	17 暗褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量
9 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	18 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
		19 暗褐色	ローム粒子微量

ピット 8か所。P1~P4は支柱穴で、深さは63~76cmである。P5は深さ32cmで、竈に対峙する位置にあることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられ、P6・P7もその一部と考えられる。

P8は深さ16cmで、性格は不明である。

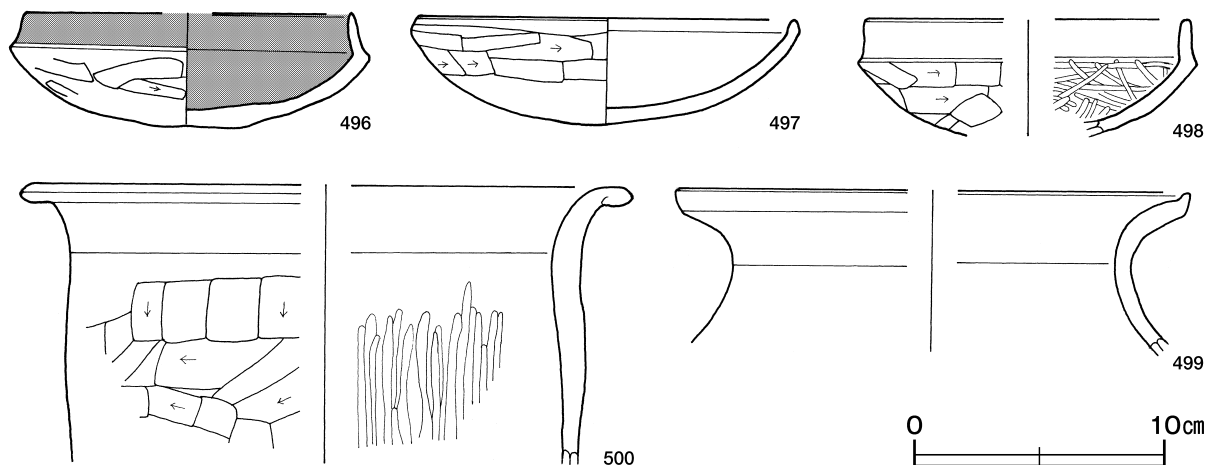
貯蔵穴 北西コーナー部に位置している。長径78cm、短径59cmの楕円形で、深さは30cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、覆土は人為堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	3 灰褐色	ローム粒子少量
2 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片1064点(坏255,器台2,高坏1,甕類781,甌25),須恵器片9点(坏3,甕類6),粘土塊1点,鉄滓1点が中央部を中心に覆土上層から中層にかけて出土している。また、混入した須恵器片1点,灰釉陶器片1点,磁器片2点なども出土している。497は北東部の床面,498は貯蔵穴内から出土しており、遺棄されたものと考えられる。496は南東部から中央部にかけての床面から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第305図 第2280号住居跡出土遺物実測図

第2280号住居跡出土遺物観察表（第305図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
496	土師器	坏	[12.8]	4.5	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	床面	80%
497	土師器	坏	14.8	4.3	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	床面	70%
498	土師器	坏	[12.8](4.6)	-	-	長石・石英	黒褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へら磨き	貯蔵穴下層	40%
499	土師器	甕	[20.3](6.4)	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口辺部内外面横ナデ	床面	20%
500	土師器	甕	[23.4](11.0)	-	-	長石・石英・赤色粒子・小礫	にぶい褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へら磨き	床面	30%

第2286号住居跡（第306～308図）

位置 調査区北部のA11e8区，標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸7.51m，短軸7.18mの方形で，主軸方向はN - 10° - Eである。壁高は4～18cmで，外傾して立ち上がっている。全体が東西方向，東部は南北方向の耕作による攪乱を受けている。

床 ほぼ平坦であり，南壁際の出入口付近が踏み固められている。硬化面の部分を除いた壁下には，幅10～15cm，深さ4～6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されているが，攪乱を受けているため全体の形状は不明である。規模は，焚口部から煙道部まで121cm，袖部幅110cmほどである。袖部は砂質粘土で構築されていたと推定される。火床部は床面を浅く皿状に掘りくぼめており，火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に78cm掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗赤褐色	焼土ブロック少量，ロームブロック微量	7 暗赤褐色	焼土粒子中量
2 暗赤褐色	焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量	8 にぶい黄褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・砂質粘土粒子微量
3 暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量	9 暗褐色	ローム粒子少量，焼土ブロック微量
4 灰褐色	砂質粘土粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量	10 黒褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量
5 黒褐色	焼土粒子少量，ロームブロック微量	11 褐色	ロームブロック少量
6 暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量	12 暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量

ピット 16か所。P1～P3は主柱穴で，深さは30～46cmである。P4は深さ10cmで，竈に対峙する位置にあることや硬化面の広がりから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P5～P16は深さ12～71cmで，性格は不明である。

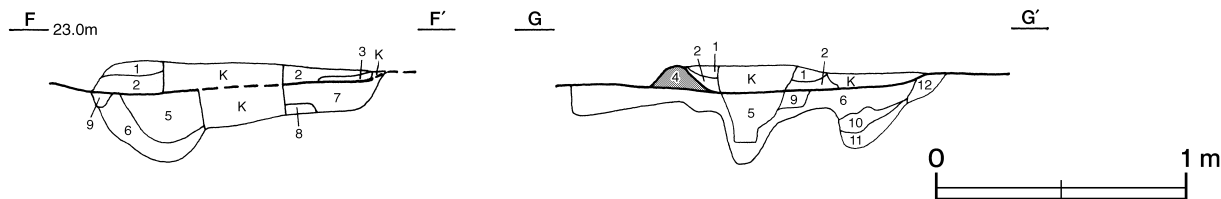
覆土 13層に分けられる。薄い，ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

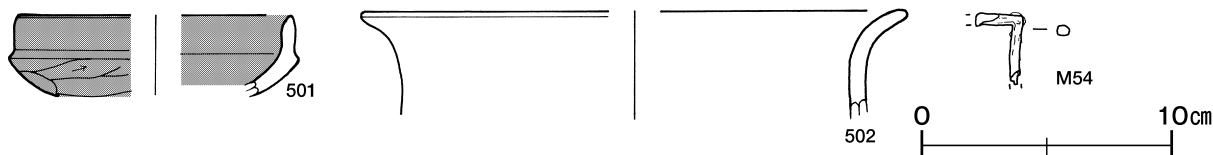
1 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	8 暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量	9 暗褐色	ローム粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子少量	10 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4 褐色	ロームブロック中量	11 褐色	ローム粒子中量
5 暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	12 褐色	ロームブロック多量
6 暗褐色	ロームブロック微量	13 黒褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
7 黒褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片281点（坏46，甕類235），須恵器片9点（坏1，甕類8），不明鉄製品1点が出土している。その他，混入した灰釉陶器片1点，陶器片1点も出土している。502は北西部床面から出土しており，住居廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。501は北東部の覆土から出土しており，廃棄されたものと考えられる。M54はP13の覆土から出土している。

所見 時期は，出土土器と住居形態から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第307図 第2286号住居跡実測図(2)



第308図 第2286号住居跡出土遺物実測図

第2286号住居跡出土遺物観察表 (第308図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
501	土師器	坏	[10.8]	(3.2)	-	雲母・赤色粒子	灰褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土	5%
502	土師器	甕	[21.4]	(4.2)	-	雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	口辺部内外面横ナデ	床面	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M54	不明鉄製品	(1.9)	(2.7)	0.4	(2.9)	鉄	胴部湾曲 断面円形	P13 覆土	

第2291号住居跡 (第309・310図)

位置 調査区北部のB11d8区、標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2289・2290号住居、第2979号土坑に掘り込まれている。東部は南北方向、西部は東西方向の耕作による攪乱を受けている。

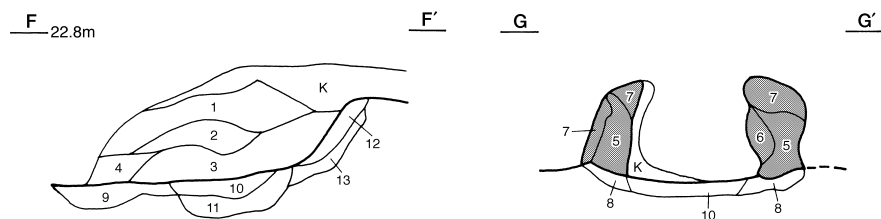
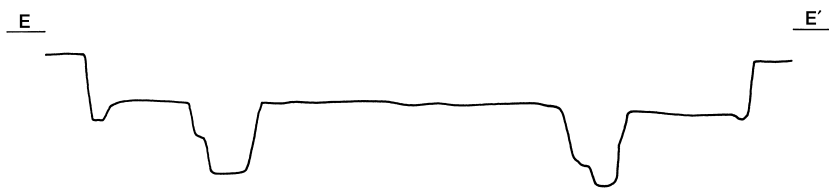
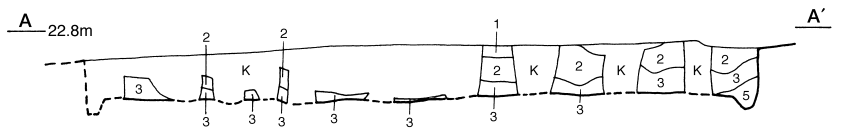
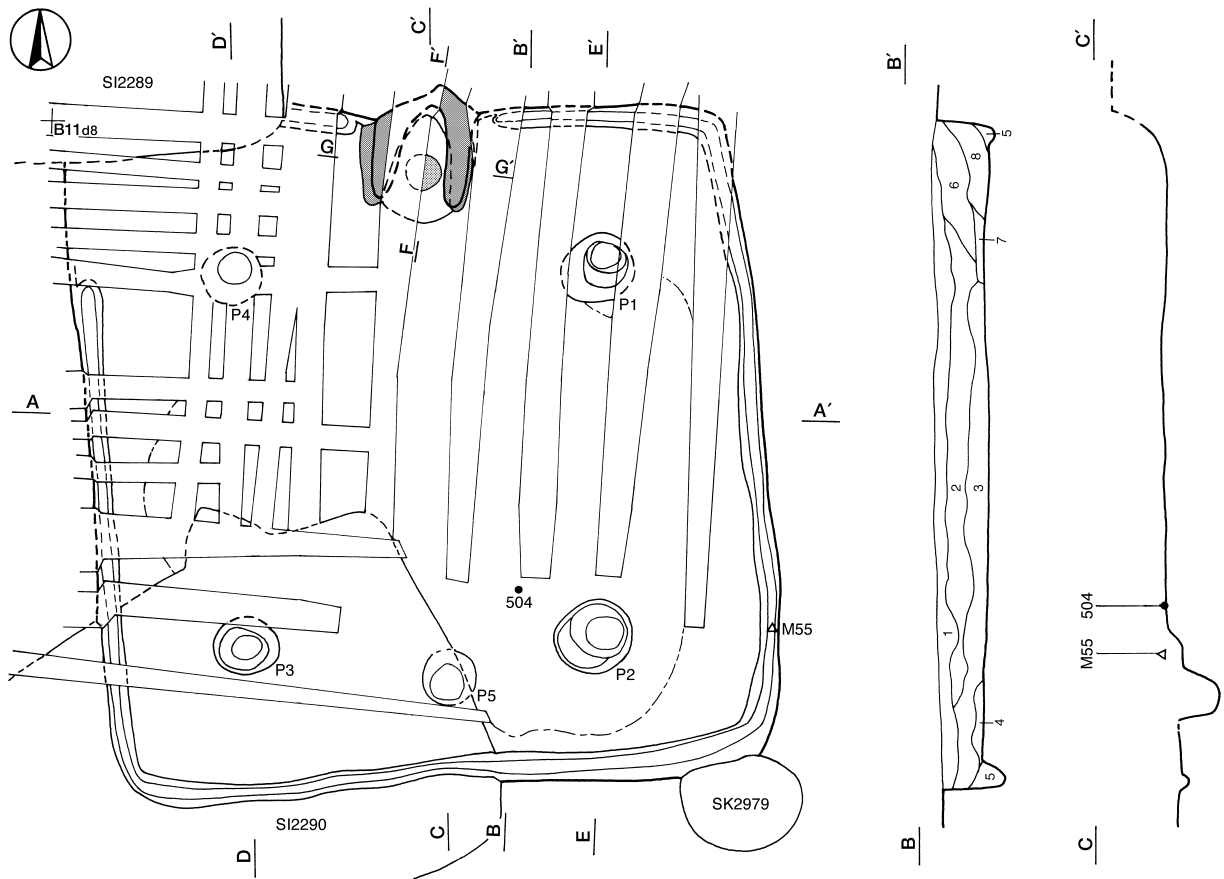
規模と形状 長軸5.41m、短軸5.36mの方形で、主軸方向はN - 3° - Wである。壁高は38~44cmで、直立ぎみに立ち上がっている。

床 現存部はほぼ平坦であり、壁際を除いて踏み固められている。北西コーナー部を除いた壁下には、幅12~18cm、深さ4~15cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで109cm、袖部幅90cmほどである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面を7cm掘りくぼめており、火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に16cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------------|------------------------------------|
| 1 暗褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化物少量, ローム粒子微量 | 7 暗褐色 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量 |
| 3 暗褐色 焼土粒子中量, 炭化物・砂質粘土粒子・灰少量, ローム粒子微量 | 9 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 暗赤褐色 焼土粒子多量, 炭化粒子少量 |
| 5 灰褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ロームブロック微量 | 11 黒褐色 焼土粒子中量, 炭化物少量, ローム粒子微量 |
| 6 灰褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, 炭化物・ローム粒子微量 | 12 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量 |
| | 13 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量 |



第309图 第2291号住居跡実測图

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で、深さは57～62cmである。P5は深さ33cmで、竈に対峙する位置にあることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

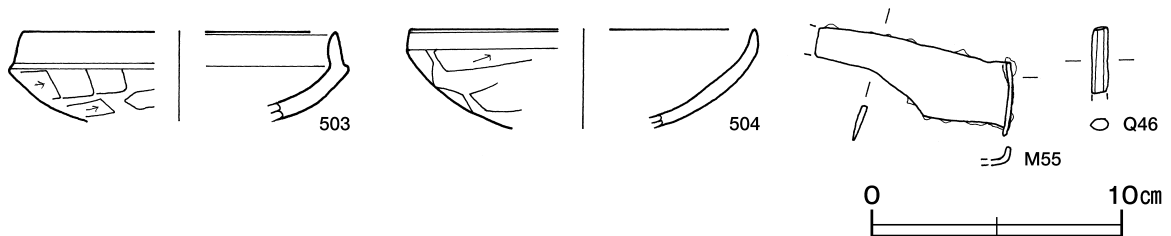
覆土 8層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|---------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 5 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | 6 黒褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 4 褐色 ローム粒子中量 | 8 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片401点（坏67，埴1，甕類333），須恵器片36点（坏14，甕類22），粘土塊2点，土製品2点（支脚），不明石製品1点，鉄製品1点（鎌）が出土している。また、混入した灰釉陶器片4点，磁器片6点，陶器片7点も出土している。504は中央部の床面から出土しており，住居の廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。503は北西部の覆土下層から出土しており，住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。Q46は覆土中層，M55は東壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器と住居形態から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第310図 第2291号住居跡出土遺物実測図

第2291号住居跡出土遺物観察表（第310図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
503	土師器	坏	[12.4]	(3.5)	-	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土下層	5%
504	土師器	坏	[13.6]	(3.9)	-	石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q46	不明石製品	(2.6)	0.7	0.5	(1.7)	チャート	全面研磨 一部欠損 断面楕円形	覆土中層	PL196

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M55	鎌	(7.9)	3.0	0.2	(16.1)	鉄	先端部欠損	覆土下層	PL196

第2293号住居跡（第311・312図）

位置 調査区北部のB11f0区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2176・2292・2306号住居，第313号掘立柱建物，第2988・2989・3004・3005号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部から中央部を第2292号住居に掘り込まれている。長軸6.08m，短軸5.96mの方形で，主軸方向はN - 6° - Eと推定される。壁高は16～37cmで外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，北壁および東壁際近くまで踏み固められている。確認された部分の南壁際以外の壁下には，幅7～12cm，深さ4～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

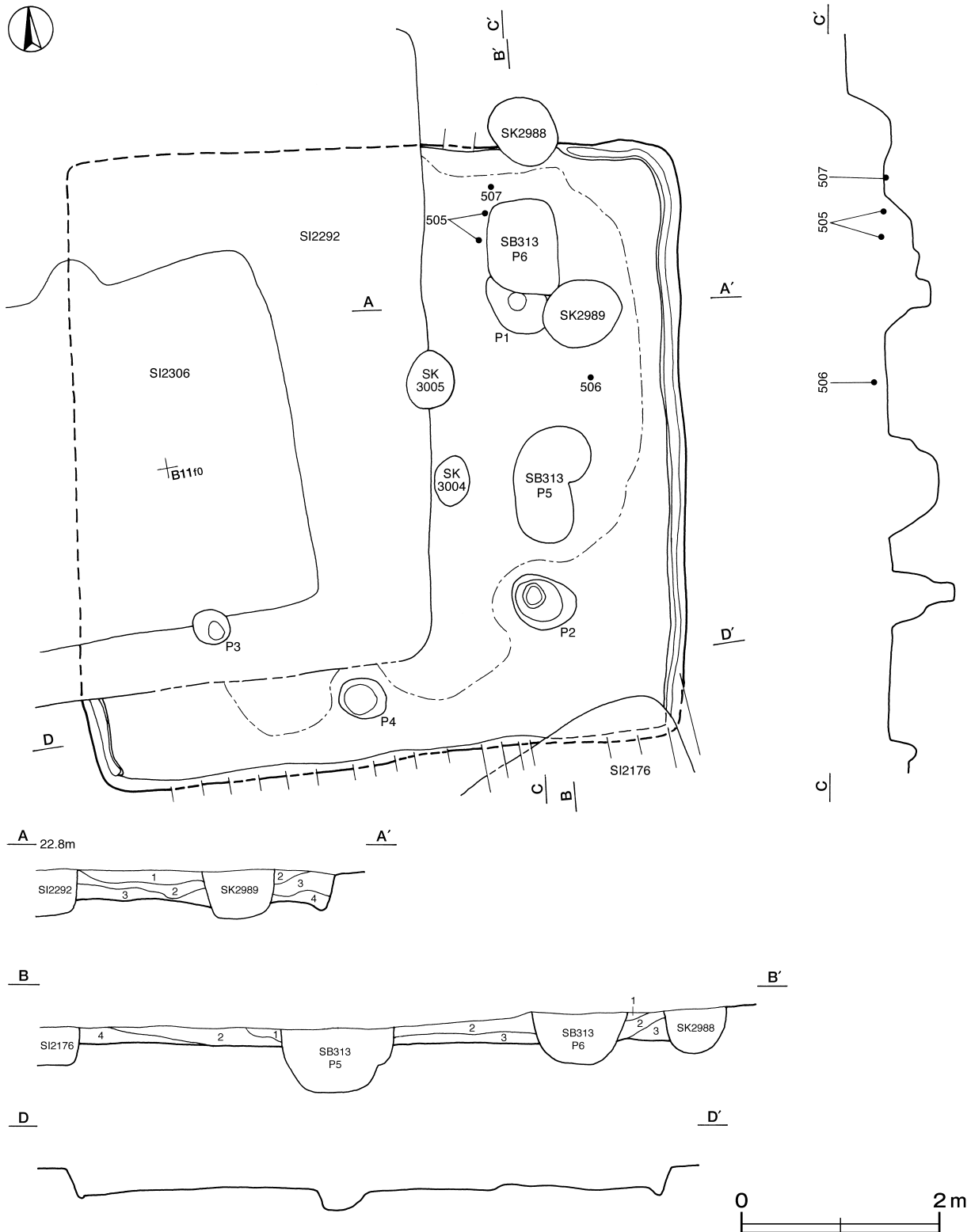
ピット 4か所。P1～P3は主柱穴で，深さは37～64cmである。P4は深さ21cmで，南壁際の中央部に位置

することや硬化面の広がりから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 4層に分けられる。各層にロームブロックを含み，不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

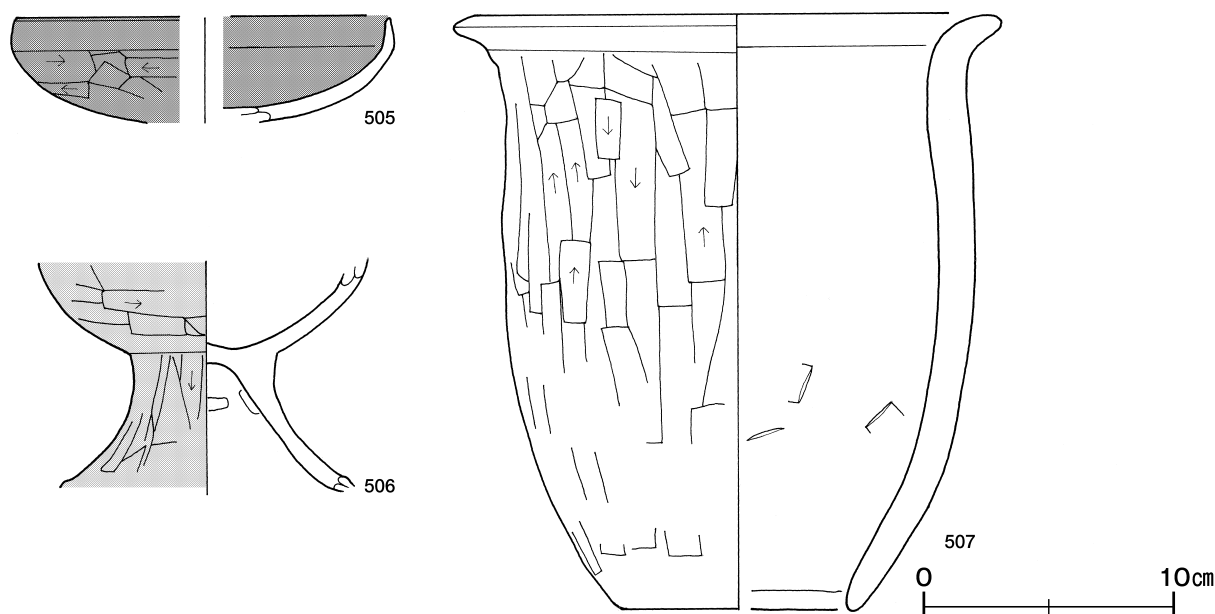
- | | |
|-----------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 3 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量 |



第311図 第2293号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片130点（坏27，高坏10，甕類76，甌17）が散在した状態で出土している。また，混入した須恵器片10点，陶器片4点，磁器片1点，瓦3点，鉄滓1点も出土している。507は北東部の床面から出土しており，住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。505は北東部，506は東部の覆土下層からそれぞれ出土しており，住居の廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器および重複関係から6世紀中葉と考えられる。



第312図 第2293号住居跡出土遺物実測図

第2293号住居跡出土遺物観察表（第312図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
505	土師器	坏	[14.8]	[4.2]	-	石英・雲母	灰褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	40%
506	土師器	高坏	-	(9.3)	-	長石・石英・赤色粒子	赤褐	普通	坏部外面ヘラ削り後ナデ 内面ナデ 脚部外面ヘラ削り後ナデ 内面ヘラナデ 裾部内外面横ナデ	覆土下層	50%
507	土師器	甌	20.2	23.6	9.4	長石・石英・小礫	黒褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	床面	90%

第2299号住居跡（第313～315図）

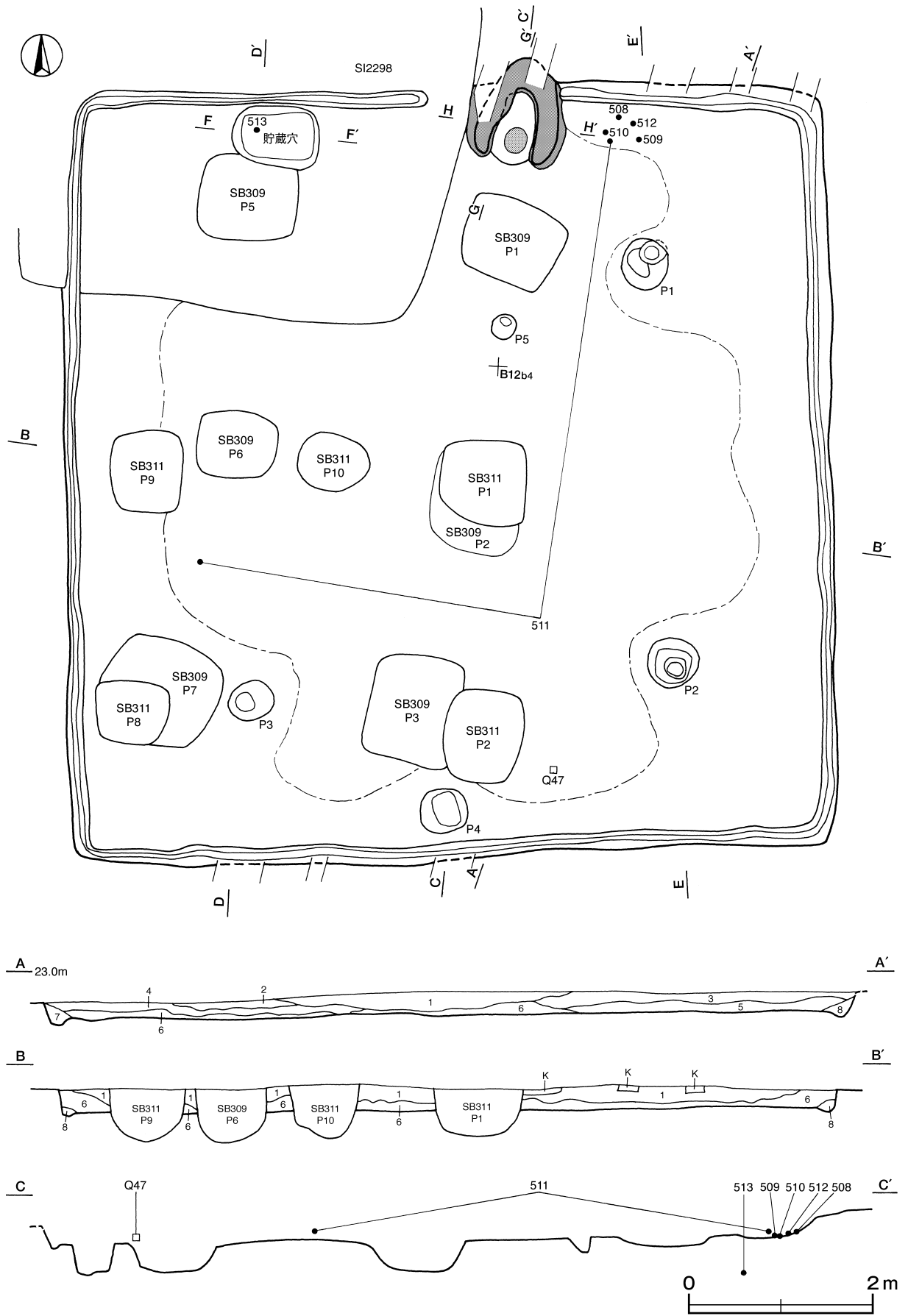
位置 調査区北部のB12b3区，標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2298号住居，第309・311号掘立柱建物に掘り込まれている。

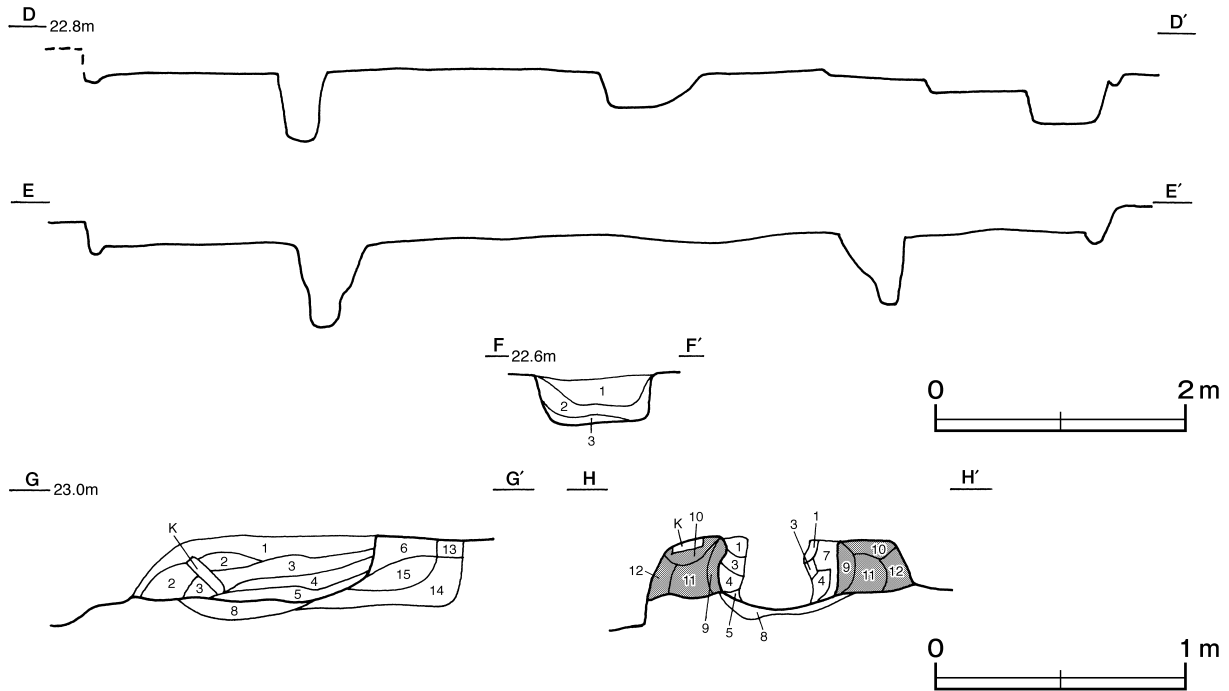
規模と形状 長軸8.25m，短軸8.16mの方形で，主軸方向はN - 2° - Wである。壁高は18～22cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり，壁際を除いて踏み固められている。壁下には，幅9～16cm，深さ4～9cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁やや東寄りに付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで118cm，袖部幅106cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さを基部とし，砂質粘土で構築されている。火床部は床面を6cm掘りくぼめており，火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に32cm掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。



第313图 第2299号住居跡実測图(1)



第314図 第2299号住居跡実測図(2)

竈土層解説

- | | |
|---|--|
| 1 灰黄褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 8 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 9 暗赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 | 10 暗褐色 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 | 11 暗褐色 砂質粘土粒子中量, ロームブロック微量 |
| 5 灰褐色 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 12 灰黄褐色 砂質粘土粒子中量, ロームブロック微量 |
| 6 にぶい赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 13 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 7 にぶい赤褐色 焼土粒子多量, 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 14 極暗赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| | 15 暗赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子中量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量 |

ピット 5か所。P1～P3は主柱穴で、深さは54～65cmである。P4は深さ30cmで、南壁際の竈に向かい合う位置にあることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P5は深さ20cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 北西コーナー部に位置している。長径94cm、短径65cmの不整楕円形で、深さは34cmである。底面は皿状で、壁は外傾して直立ぎみに立ち上がり、覆土は自然堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|-------------------------|--------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 3 褐色 ローム粒子中量 |
| 2 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量 | |

覆土 8層に分けられる。ローム粒子が層内に均一に存在し、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

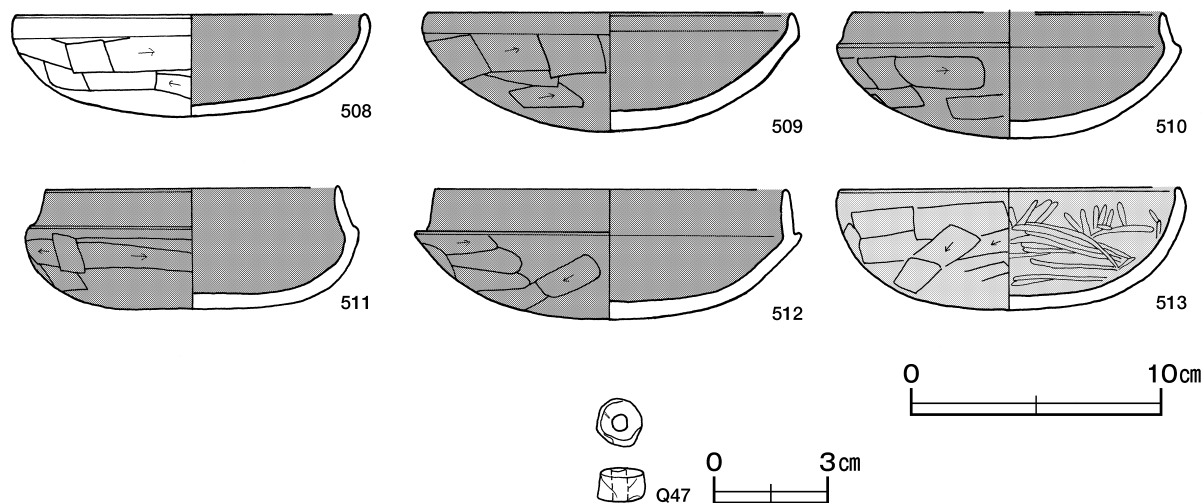
土層解説

- | | |
|----------------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック微量 | 5 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量 | 6 褐色 ローム粒子中量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 4 極暗褐色 ロームブロック微量 | 8 褐色 ローム粒子多量 |

遺物出土状況 土師器片733点(坏99, 甕類632, 甗2), 須恵器片24点(坏13, 壺1, 甕類10), 粘土塊2点, 土製品2点(支脚), 石器1点(砥石), 石製品1点(小玉)が出土している。また、混入した縄文土器片1点, 須恵器片1点, 灰釉陶器片1点, 磁器片1点, 陶器片1点も出土している。513は貯蔵穴内, 508・509・510・512は竈右袖部付近の床面からいずれも伏せた状態で出土しており、遺棄されたものと考えられる。Q47は南

東部床面から出土している。

所見 時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第315図 第2299号住居跡出土遺物実測図

第2299号住居跡出土遺物観察表（第315図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
508	土師器	坏	13.8	4.1	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	98%
509	土師器	坏	14.5	4.6	-	長石・石英・雲母・白色粒子	黒	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	98%
510	土師器	坏	[12.4]	5.0	-	雲母	黒褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	95%
511	土師器	坏	11.6	4.8	-	石英・雲母	黒褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土下層	95% PL160
512	土師器	坏	14.0	5.1	-	長石・石英	黒	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	80%
513	土師器	坏	13.4	4.8	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面へラ磨き	貯蔵穴下層	80%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q47	小玉	1.2	0.8	0.4	1.5	滑石	両面研磨 一方向からの穿孔 側面円筒状	床面	

第2300号住居跡（第316・317図）

位置 調査区北部のA12g6区，標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 南北方向の耕作による攪乱を受けており，長軸4.53m，短軸4.28mの方形と推定され，主軸方向はN - 16° - Eである。壁高は10~22cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり，壁際を除いて踏み固められている。竈左袖部脇の床面に焼土や砂質粘土の広がり確認されている。

竈 北壁やや東寄りに付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで94cm，袖部幅103cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面を8cm掘りくぼめており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に28cm掘り込まれ，外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|---|---|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子中量，炭化粒子・砂質粘土粒子少量，
ローム粒子微量 | 4 黒褐色 灰中量，炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子
微量 |
| 2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 にぶい赤褐色 ローム粒子中量，砂質粘土粒子少量，焼土粒子・
炭化粒子微量 |
| 3 灰褐色 灰多量，炭化粒子少量，焼土粒子微量 | |

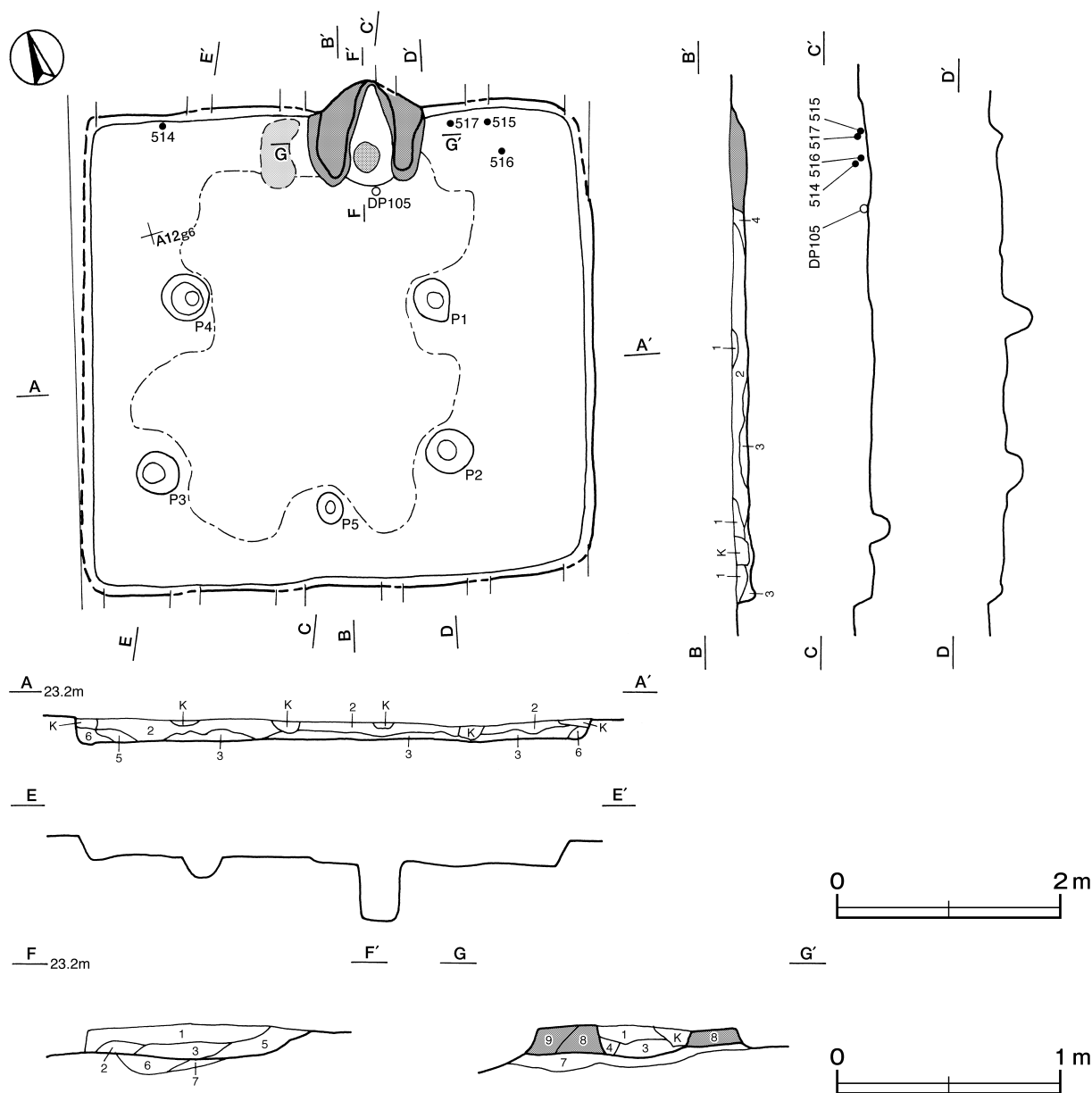
- | | |
|--------------------------------------|----------------------|
| 6 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 9 黒褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 7 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | |
| 8 灰黄褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | |

ピット 5か所。P1～P4は支柱穴で、深さは16～54cmである。P5の深さは16cmで、竈に対峙する位置にあることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 6層に分けられる。含有物も均一でなくブロック状に堆積している人為堆積である。

土層解説

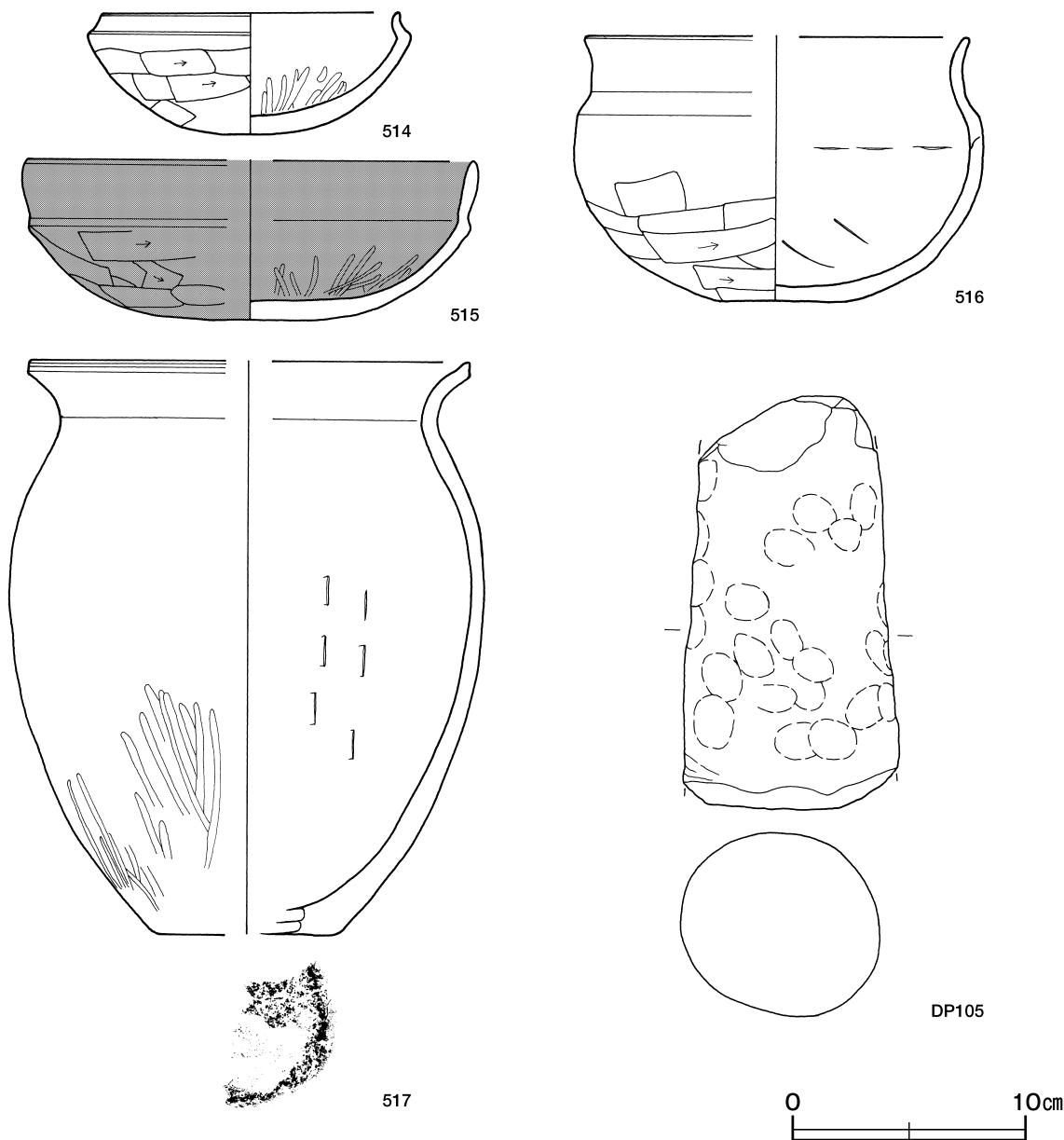
- | | |
|------------------------------------|---------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子中量 | 5 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 6 褐色 ローム粒子中量 |
| 3 褐色 ローム粒子中量 | |
| 4 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | |



第316図 第2300号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片311点（坏41，高坏2，鉢15，甕類246，甑7），須恵器片5点（坏1，甕類4），土製品1点（支脚），石器1点（砥石）が出土している。その他，混入した灰釉陶器片9点，陶器片1点も出土している。515・516・517は北壁際の覆土下層，514は北壁際の覆土中層からそれぞれ出土しており，住居の廃絶後流れ込んだものと考えられる。DP105は竈前面の床面から出土している。

所見 時期は，出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第317図 第2300号住居跡出土遺物実測図

第2300号住居跡出土遺物観察表（第317図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
514	土師器	坏	12.6	5.2	-	雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデヘラ磨き 体部外面ヘラ削り 内面	覆土中層	95% PL160
515	土師器	坏	[19.0]	6.8	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口辺部内外面横ナデヘラ磨き 体部外面ヘラ削り 内面	覆土下層	70%
516	土師器	鉢	[16.4]	11.2	-	石英・雲母・礫	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデヘラナデ 輪種痕 体部外面ヘラ削り 内面	覆土下層	70%
517	土師器	甕	[18.6]	24.4	[7.6]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデヘラナデ 体部外面ヘラ磨き 内面	覆土下層	50%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP105	支脚	(17.5)	(9.3)	7.8	(1225.5)	並長石炭赤色粒子	ナデ 指頭痕 熱を受けて脆い にぶい橙	床面	

第2301号住居跡 (第318・319図)

位置 調査区北部のA12i2区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 北部から東部を東西方向に第120号溝に掘り込まれている。また、南西部は南北方向の耕作による攪乱を受けている。

規模と形状 長軸6.61m、短軸6.14mの方形で、主軸方向はN - 26° - Wである。壁高は4～28cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり、壁際を除いて踏み固められている。壁下には、幅6～16cm、深さ11～13cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。また、幅14～20cm、深さ4～10cmの間仕切り溝が東・西壁でそれぞれ1条ずつ確認され、断面形はU字状を呈している。

竈 北壁西寄りに付設されている。左袖部から焚口部にかけて、第120号溝に掘り込まれているため全体の形状は不明である。袖部は床面とほぼ同じ高さを基部とし、砂質粘土で構築されている。火床面は火を受けて赤変している。煙道部は壁外に73cm掘り込まれ、外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック少量,ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量,ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 砂質粘土粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 炭化粒子少量,ローム粒子・焼土粒子微量 | 9 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量,ロームブロック微量 |
| 5 灰褐色 砂質粘土粒子中量 | |

ピット 14か所。P1～P4は主柱穴で、深さは58～91cmである。P5・P6は深さ30・46cmで、竈に対峙する位置にあることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P7～P14は深さ16～38cmであるが、性格は不明である。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径164cm、短径88cmの楕円形で、深さは26cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

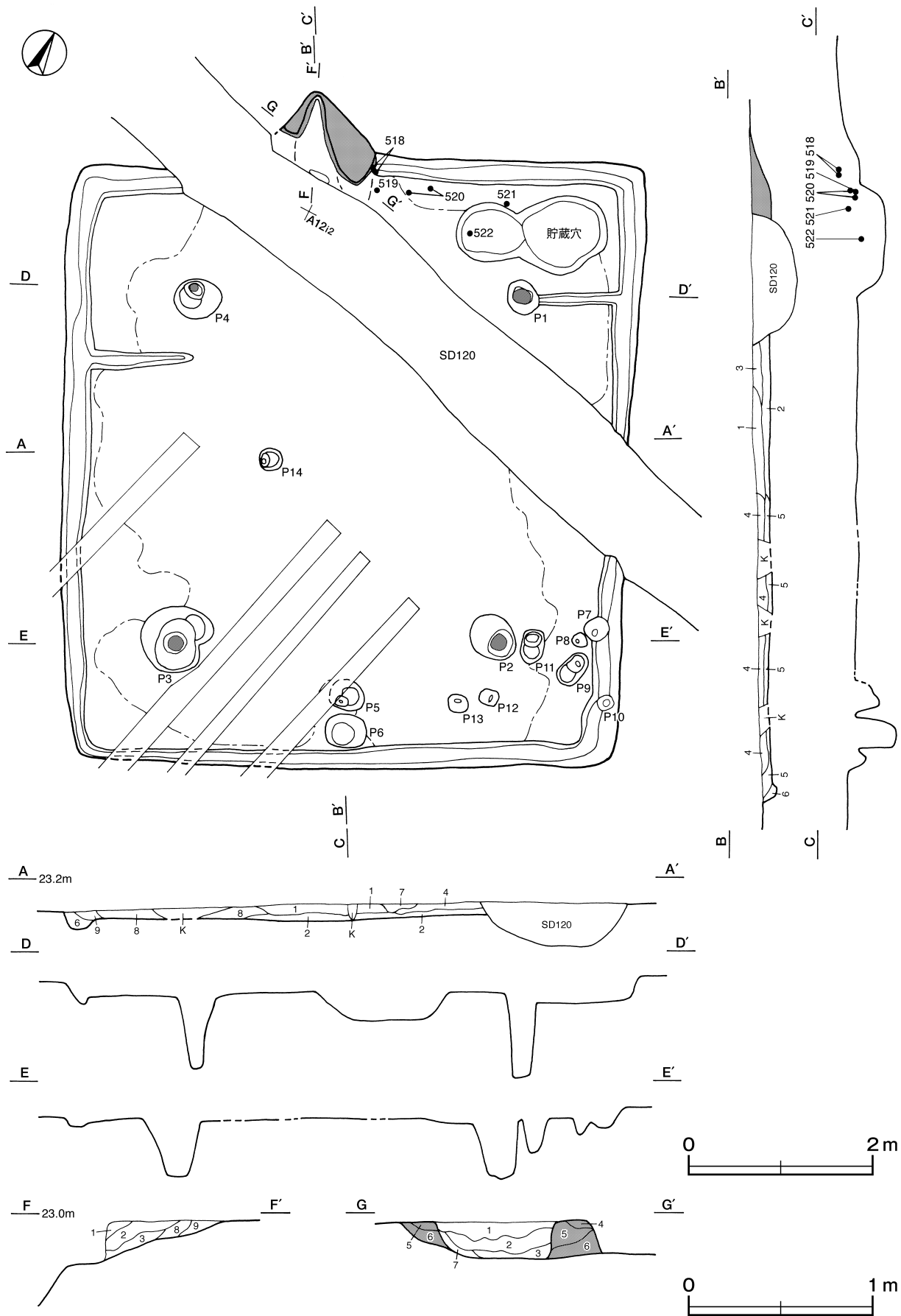
覆土 9層に分けられる。各層にロームブロックや焼土を多く含む人為堆積である。

土層解説

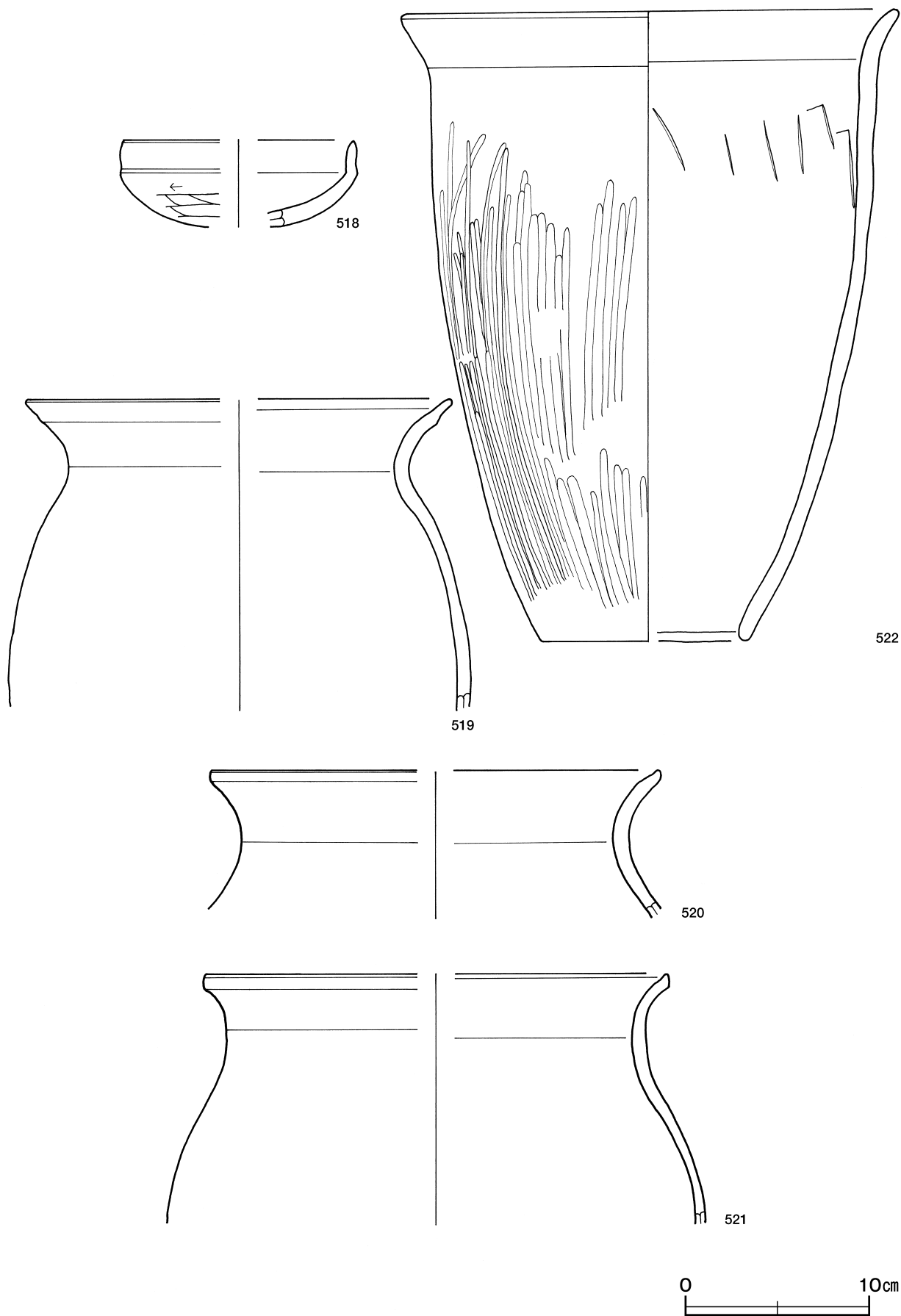
- | | |
|---------------------------------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 灰褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量,焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子少量,焼土粒子微量 | 8 暗褐色 ロームブロック少量・焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック少量,焼土ブロック・砂質粘土粒子微量 | 9 褐色 ロームブロック中量 |
| 5 黒褐色 ローム粒子少量 | |

遺物出土状況 土師器片567点(坏68,甕類435,甌64),須恵器片9点(坏7,甕類2)が出土している。その他、混入した灰釉陶器片1点,陶器片1点も出土している。竈右袖部付近を中心に破片が多く出土している。519・520は竈右袖部付近の床面,522は貯蔵穴内からそれぞれ出土しており、住居の廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 すべての主柱穴の底面から柱のあたり痕が確認されている。時期は、出土土器と住居形態から7世紀前葉と考えられる。



第318图 第2301号住居跡実測図



第319图 第2301号住居跡出土遺物実測図

第2301号住居跡出土遺物観察表（第319図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
518	土師器	坏	[12.4](4.6)	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	覆土上層	5%
519	土師器	甕	[22.8](16.8)	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ	床面	5%
520	土師器	甕	[24.1](8.0)	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ	床面	5%
521	土師器	甕	[24.8](13.6)	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ	床面	5%
522	土師器	甕	26.6	34.1	11.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら磨き 内面へらナデ	貯蔵穴上層	70%

第2302号住居跡（第320・321図）

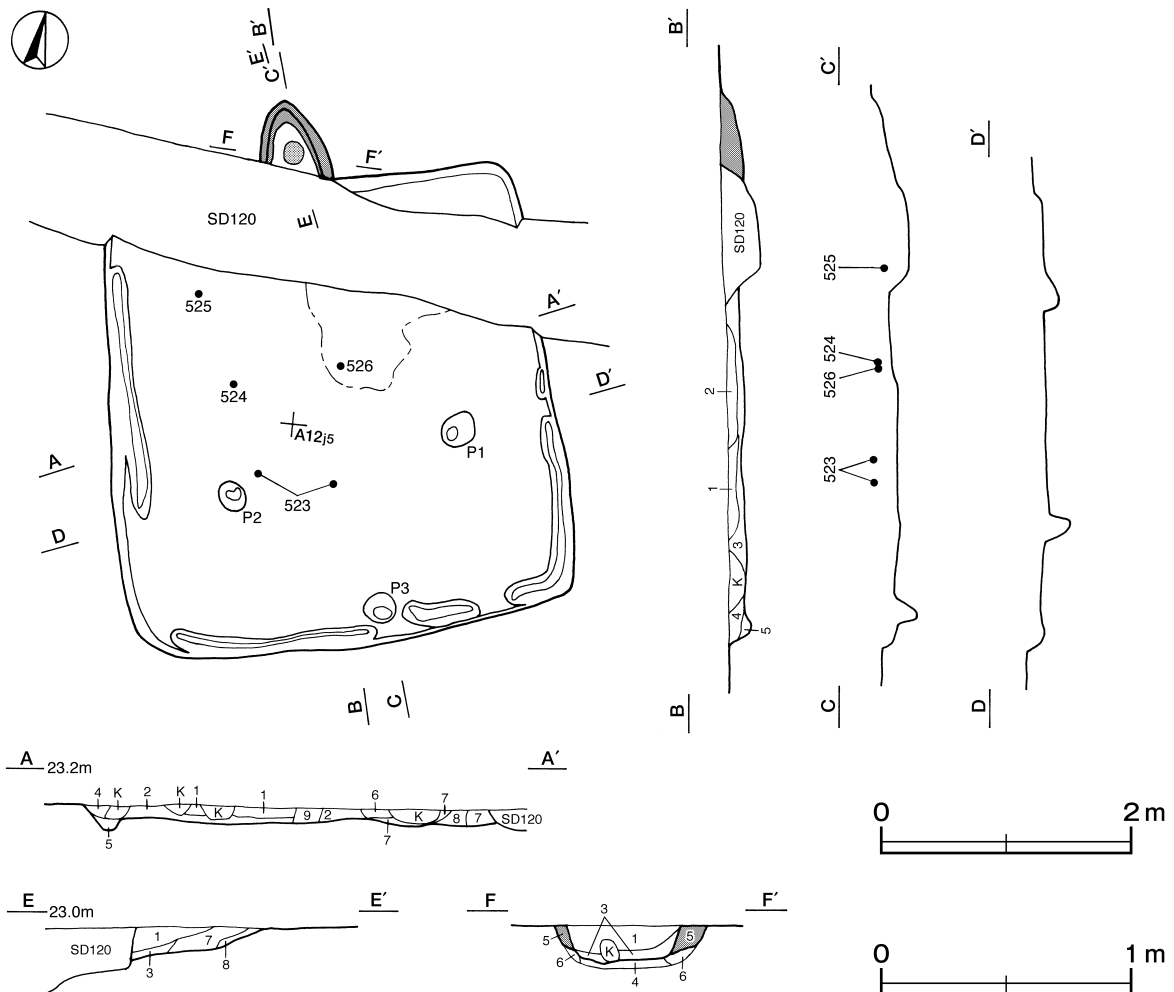
位置 調査区北部のA12i5区，標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 北部から東部を東西方向に第120号溝に掘り込まれている。

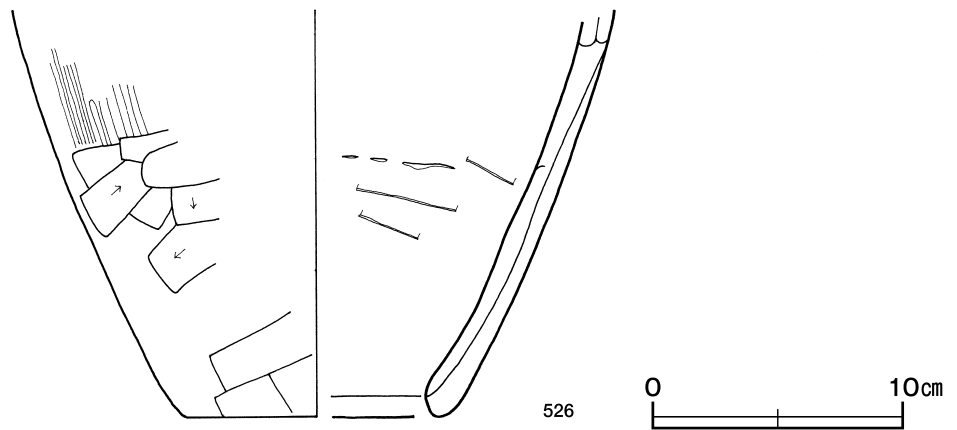
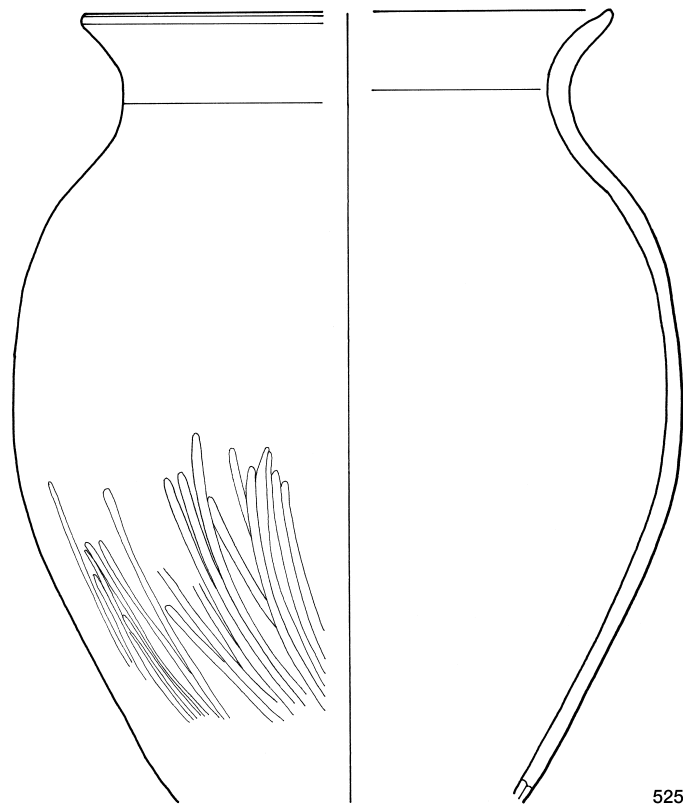
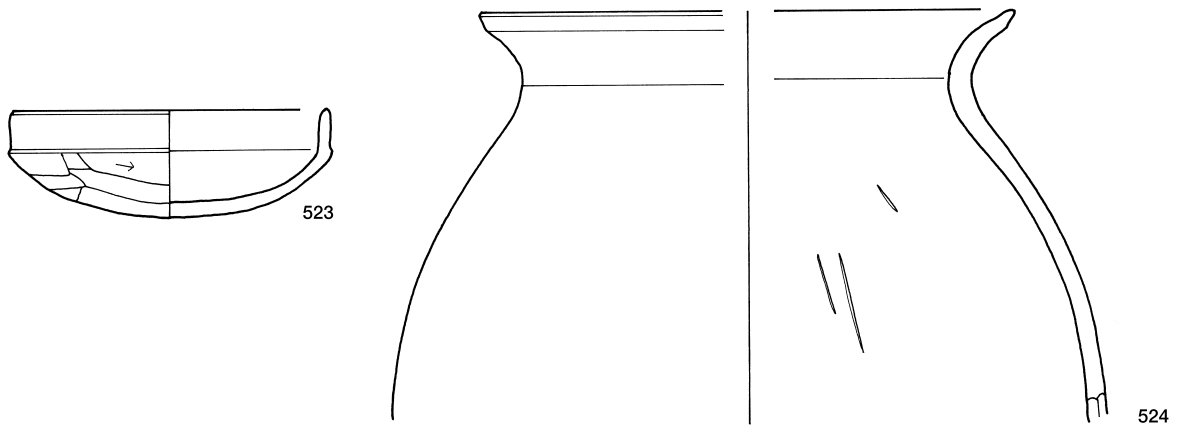
規模と形状 長軸3.64m，短軸3.53mの方形と推定され，主軸方向はN - 13° - Wである。壁高は6～14cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり，北東部が踏み固められている。南壁と東・西壁の一部の壁下には，幅12～16cm，深さ8～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁やや西寄りに付設されている。両袖部が第120号溝に掘り込まれているため全体の形状は不明である。袖部の状況から，ロームを掘り残し，内側に砂質粘土を貼り付けて構築したと推定される。火床面は火を受け



第320図 第2302号住居跡実測図



第321图 第2302号住居跡出土遺物実測図

て赤変硬化している。煙道部は壁外に72cm掘り込まれ、外傾して緩やかに立ち上がっている。第2層は砂質粘土を多く含み、天井部の崩落層と考えられる。

電土層解説

- | | |
|------------------------------------|---------------------------------------|
| 1 灰 褐 色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, ロームブロック微量 | 5 灰 黄 褐 色 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ロームブロック微量 |
| 2 灰 黄 褐 色 砂質粘土粒子多量 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | 6 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 3 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土ブロック・砂質粘土粒子微量 | 7 暗 褐 色 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 | 8 暗 褐 色 焼土ブロック・炭化粒子少量 |

ピット 3か所。P1・P2は主柱穴で、深さは12・22cmである。P3は竈に対峙する位置にあることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 9層に分けられる。含有物は均一でなくブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| 1 黒 褐 色 炭化粒子少量, ロームブロック微量 | 6 灰 褐 色 砂質粘土粒子中量・ローム粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量 | 7 褐 色 ロームブロック多量 |
| 3 暗 褐 色 ローム粒子少量 | 8 暗 褐 色 ロームブロック少量 |
| 4 褐 色 ロームブロック中量 | 9 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 5 褐 色 ローム粒子中量 | |

遺物出土状況 土師器片173点(坏2, 高坏1, 甕類155, 甌15), 須恵器片2点(坏), 石器1点(砥石)が出土している。525は北西部床面から出土しており、住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。523は中央部の覆土上層から出土した破片が接合したものである。

所見 遺物は覆土上層からの出土が多く時期の特定が難しいが、出土土器から7世紀代と考えられる。

第2302号住居跡出土遺物観察表(第321図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
523	土師器	坏	12.4	4.3	-	長石・石英	灰黄褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	覆土上層	90%
524	土師器	甕	[21.0]	(16.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 内面へらナデ	覆土中層	10%
525	土師器	甕	[21.0]	(31.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら磨き 内面へらナデ	床面	30%
526	土師器	甌	-	(16.1)	10.4	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面へら磨き後へら削り 内面へらナデ 輪積痕	覆土中層	20%

第2304号住居跡(第322・323図)

位置 調査区北部のB12b6区, 標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2303号住居, 第312号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.16m, 短軸3.94mの長方形で、主軸方向はN-10°-Eである。壁高は7~11cmで、外傾して立ちあがっている。

床 ほぼ平坦であり、壁際を除いて踏み固められている。壁下には、幅13~22cm, 深さ5cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁西寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで97cm, 袖部幅116cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面を7cm掘りくぼめており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に39cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

電土層解説

- | | |
|--|--|
| 1 黒 褐 色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量 | 3 暗 赤 褐 色 焼土粒子中量, 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 灰 褐 色 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 暗 褐 色 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

- | | | | |
|------------|----------------------------------|-----------|----------------------------------|
| 5 にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子・ローム粒子微量 | 9 暗 赤 褐 色 | 焼土粒子中量, 砂質粘土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 6 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 10 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 7 灰 黄 褐 色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 灰 褐 色 | 砂質粘土粒子中量, 炭化物・焼土粒子微量 |
| 8 暗 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | | |

ピット 4か所。P1・P2は主柱穴で、深さは32・40cmである。P3・P4は深さ18・36cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 竈の東側に位置している。長径60cm, 短径45cmほどの楕円形で、深さは22cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、覆土は人為堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

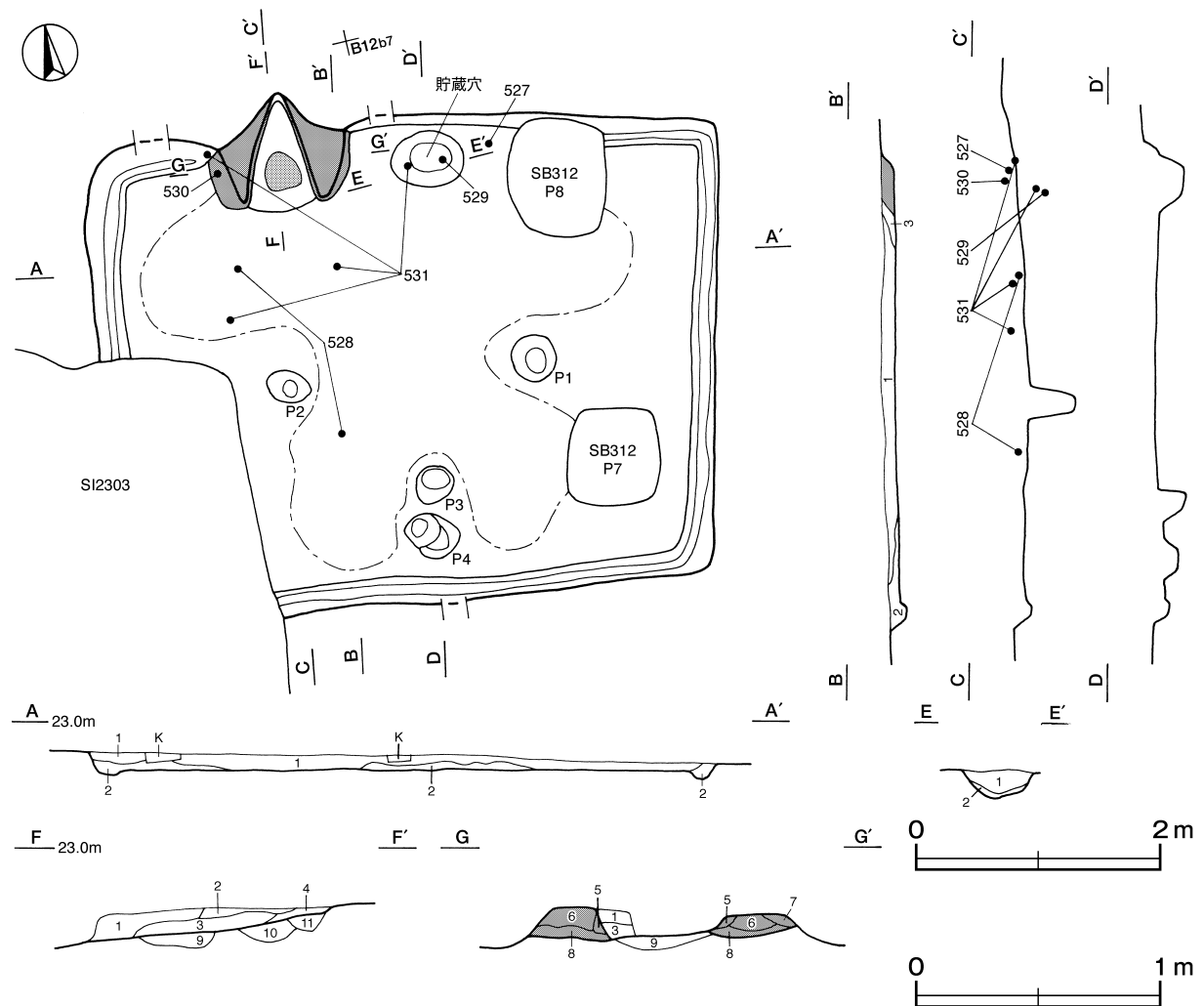
- | | | | |
|---------|------------------------------|---------|---------|
| 1 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 2 暗 褐 色 | ローム粒子少量 |
|---------|------------------------------|---------|---------|

覆土 3層に分けられる。薄いが、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------|---------|------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐 色 | ロームブロック中量 | | |

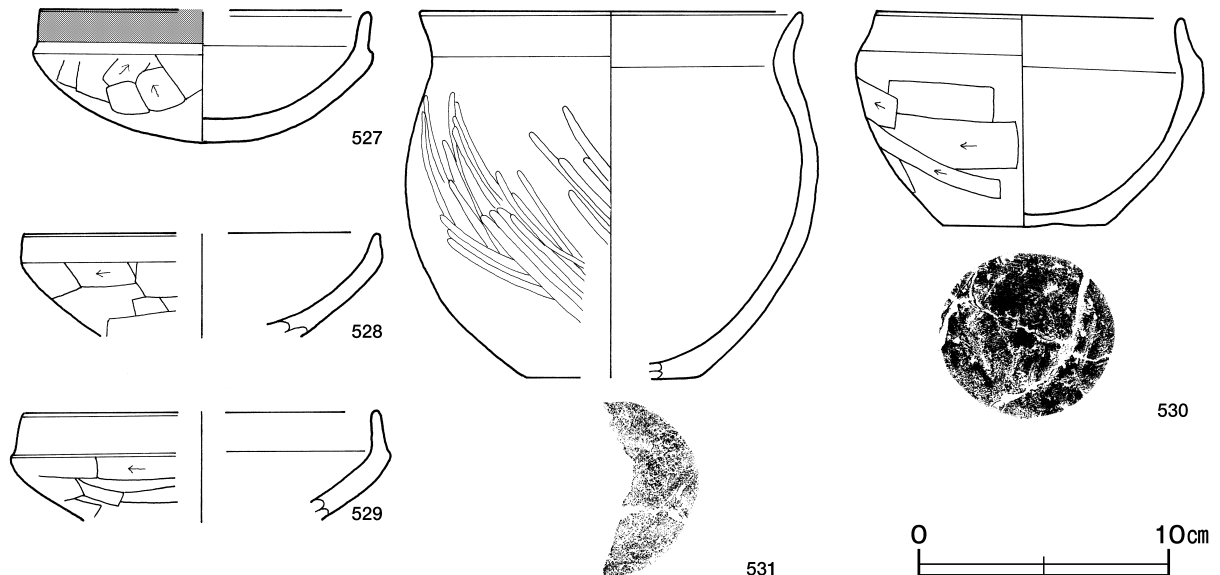
遺物出土状況 土師器片268点(坏26, 高坏1, 鉢15, 甕類222, 手捏土器4), 須恵器片3点(坏2, 甕類1), 粘土塊1点, 土製品2点(支脚), 石器1点(砥石), 鉄滓2点が出土している。527は北壁際床面から出土し



第322図 第2304号住居跡実測図

ており、住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。529は貯蔵穴内から出土し、住居廃絶時に廃棄されたものと考えられる。530は竈袖部内から出土しており、竈の構築材としての利用が想定される。

所見 竈がかなり西寄りに付設されて特徴的である。時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第323図 第2304号住居跡出土遺物実測図

第2304号住居跡出土遺物観察表（第323図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
527	土師器	坏	[13.0]	5.2	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	床面	90%
528	土師器	坏	[14.0]	(4.1)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	覆土下層	20%
529	土師器	坏	[13.8]	(4.3)	-	石英・赤色粒子	灰褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	貯蔵穴下層	10%
530	土師器	鉢	12.2	8.6	6.6	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へらナデ 底部へら削り	竈袖部下層	80%
531	土師器	甕	15.0	14.4	[6.9]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら磨き 内面へらナデ	貯蔵穴中層 土中層・灰層	60%

(2) 溝跡

第122号溝跡（第324図）

位置 調査区南西部のD9 h5 ~ D9 h7区、標高20.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2051号住居跡を掘り込み、第2023号住居に掘り込まれている。

規模と形状 N - 81° - Eの方向に直線的に延び、長さ8.36m、上幅90~103cm、下幅60~77cm、深さ12~19cmである。断面はU字状で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

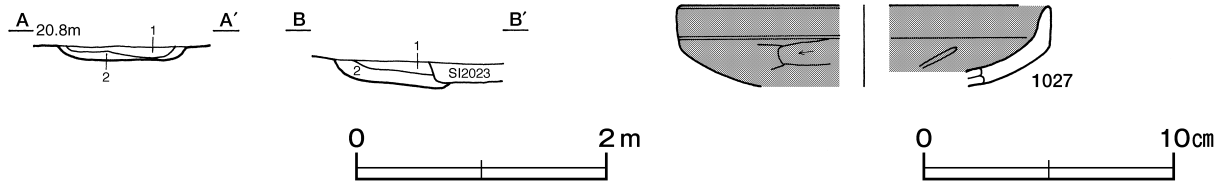
覆土 2層に分かれる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量，焼土粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック中量，焼土粒子少量

遺物出土状況 土師器片42点（坏13，甕類29）が出土している。1027は覆土から出土している。

所見 時期は、重複関係と出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第324図 第122号溝跡・出土遺物実測図

第122号溝跡出土遺物観察表（第324図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1027	土師器	坏	[14.6]	(3.2)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄 橙・黒	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面へラ磨き	覆土	5%

(3) 井戸跡

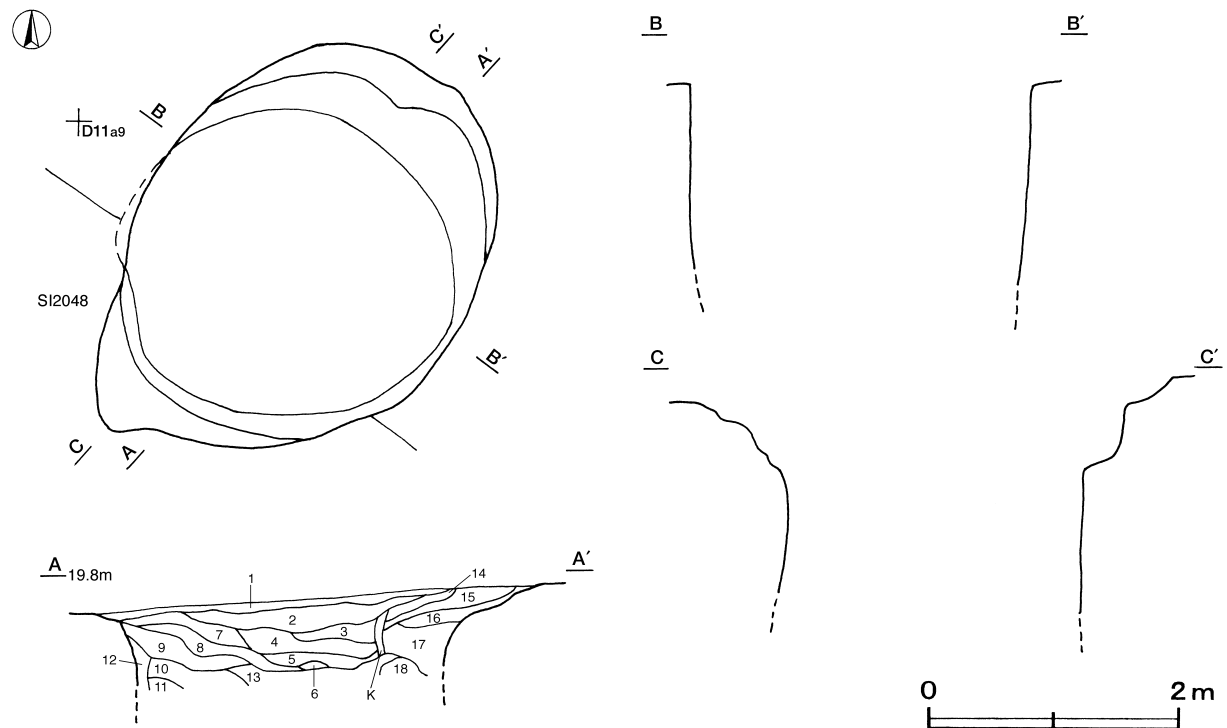
第45号井戸跡（第325図）

位置 調査区南部のD11a9区，標高19.5mほどの西への緩斜面に位置している。

重複関係 第2048号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径3.78m，短径2.7mの楕円形である。確認面から0.10～0.40mまで漏斗状に掘り込んだ後に，円筒状に掘り下げている。深さ1.80mほど掘り下げた時点で崩落のおそれがあることから，下部の調査を断念した。

覆土 18層に分けられる。含有物や不自然な堆積状況から人為堆積である。



第325図 第45号井戸跡実測図

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量
2 暗褐色	粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・粘土粒子微量
3 暗褐色	粘土粒子少量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	11 暗褐色	焼土粒子・粘土粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	12 暗褐色	粘土ブロック少量, 焼土粒子微量
5 褐色	粘土ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量	13 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・粘土粒子微量
6 暗褐色	粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量	14 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
7 暗褐色	焼土粒子少量, ローム粒子・粘土粒子微量	15 暗褐色	粘土ブロック・炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
8 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	16 暗褐色	粘土ブロック・焼土粒子微量
		17 暗褐色	粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量
		18 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況 土師器片160点(坏1, 高坏1, 甕類158), 須恵器片19点(坏1, 蓋1, 高盤1, 甕類16), 灰釉陶器片(椀)などが出土している。いずれも細片で覆土中から出土しており, 第2048号住居跡からの流れ込みや廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 素掘りの構造で, 時期は, 重複関係や出土土器の傾向から, 7世紀代に機能し, 8世紀代には廃絶土坑として利用されていたと考えられる。

(4) 土坑

第2757号土坑(第326図)

位置 調査区南西部のD9e0区, 標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2032号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.66m, 短径0.60mの円形で, 長径方向はN-42°-Wである。深さは40cmで, 底面は平坦であり, 壁は直立している。

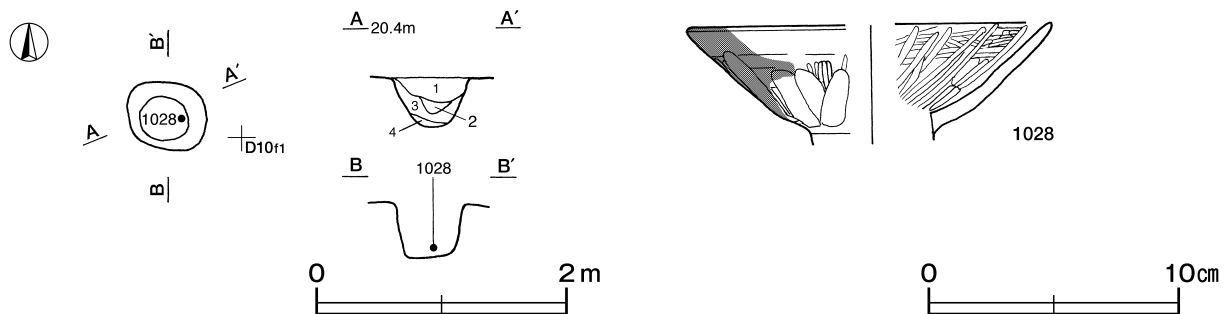
覆土 4層に分けられる。第3層は炭化物や焼土を含み, 締まりが弱いため, 有機物などを焼いた堆積土と考えられる。その後, くぼ地にロームや炭化物を含む土で埋め戻されたと想定される。

土層解説

1 暗褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量	3 黒褐色	炭化物中量, 焼土ブロック・ローム粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	4 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片17点(高坏2, 甕類15), 須恵器片1点(坏)が出土している。1028は底面から若干浮いた状態で出土している。内外面に熱を受けた痕跡が確認されており, 何らかの意図で焼かれたと考えられる。

所見 時期は, 出土遺物や重複関係から5世紀後半と考えられる。第3層に炭化物が含まれ, 1028は熱を受けていることなどから, 有機物を焼いた跡と想定されるが, 遺構の性格は不明である。



第326図 第2757号土坑・出土遺物実測図

第2757号土坑出土遺物観察表(第326図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1028	土師器	高坏	[14.3]	(4.5)	-	長石	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ 体部外面へラ磨き後へラナデ 体部内面へラ磨き	覆土下層	20%

表3 古墳時代竪穴住居跡一覽表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	備考 (時期)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴			
2001	D 9 g5	N - 14 ° - W	方形	3.21×3.02	6 ~ 12	平坦	[全周]	-	1	1	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 土製品	7世紀前葉
2002	D 9 e5	N - 30 ° - W	方形	5.25×5.11	5 ~ 10	平坦	[全周]	2	1	1	竈1	-	人為	土師器片	6世紀後葉
2004	D 9 j6	N - 22 ° - W	方形	6.32×6.04	16 ~ 40	平坦	半周	4	1	-	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 土製品, 石製品	6世紀後葉
2007	D 9 c8	N - 1 ° - W	方形	2.78×2.68	48 ~ 62	平坦	全周	-	-	-	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 石器	7世紀前葉
2009	C 9 e9	N - 10 ° - W	[方形・長方形]	5.80×(2.48)	4 ~ 9	平坦	-	2	-	-	竈1	-	人為	土師器片	7世紀代
2010	D 9 d6	N - 97 ° - E	長方形	4.54×3.96	12 ~ 26	平坦	一部	-	-	-	竈1	-	人為	土師器片, 土製品, 石製品, 鉄器・鉄製品	7世紀後葉
2011	D 9 f7	N - 34 ° - W	方形	6.34×6.21	32 ~ 52	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 土製品, 鉄製品, 種子	6世紀後葉
2012	D 9 g6	N - 45 ° - W	方形	4.12×3.98	6 ~ 17	平坦	全周	-	-	-	炉1	1	自然	土師器片	5世紀前半
2013	D 9 d6	N - 3 ° - W	長方形	[4.55×4.09]	39	平坦	半周	4	1	-	竈1	-	自然	土師器片, 土製品, 石製品	7世紀前葉
2015	D 9 c5	N - 28 ° - W	方形	5.96×5.92	30 ~ 60	平坦	ほぼ全周	4	1	5	竈1	1	自然	土師器片, 須惠器片, 土製品, 石製品	6世紀後葉
2016	D 10 a2	N - 72 ° - E	方形	6.12×5.88	19 ~ 36	平坦	ほぼ全周	4	2	-	竈2	1	人為	土師器片, 須惠器片, 土製模造品, 石器, 鉄製品	6世紀後葉
2018	B 9 i8	N - 3 ° - W	方形	5.68×5.49	24 ~ 36	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 土製品, 鉄製品	6世紀後葉
2019	B 9 h5	N - 20 ° - W	方形	6.36×6.31	29 ~ 42	平坦	全周	4	2	-	竈1	2	人為	土師器片, 須惠器片, 土製品, 石器, 石製品, 鉄製品	6世紀中葉
2020	B 9 e7	N - 14 ° - E	方形	4.75×4.72	22 ~ 37	平坦	ほぼ全周	4	1	-	炉1 竈1	1	人為	土師器片, 土製品	6世紀後葉
2022	C 9 a5	N - 8 ° - W	[方形・長方形]	5.02×(1.92)	33 ~ 35	平坦	(全周)	2	-	-	竈1	1	人為	土師器片, 鉄製品	6世紀後葉
2023	D 9 i7	N - 75 ° - E	長方形	3.65×2.72	10 ~ 12	平坦	-	-	-	-	竈1	-	不明	土師器片, 須惠器片, 土製品	7世紀前葉
2024	E 9 b8	N - 28 ° - W	方形	9.82×9.75	30 ~ 67	平坦	全周	4	1	3	竈1	1	人為	土師器片, 須惠器片, 土製品, 石器, 鉄製品	7世紀前葉
2025	E 9 c5	N - 19 ° - W	方形	4.75	17 ~ 25	平坦	半周	4	1	2	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 土製品, 石器, 石製品	7世紀前葉
2026	E 9 f6	N - 32 ° - W	方形	5.35×5.27	24 ~ 52	平坦	(全周)	4	1	2	竈1	1	人為	土師器片, 須惠器片, 土製品, 石器	6世紀後葉
2027	E 9 g6	N - 11 ° - W	[方形・長方形]	5.88×(3.85)	32 ~ 40	平坦	(全周)	1	-	1	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 土製品, 石製品	6世紀後葉 ~ 7世紀前葉
2028	D 9 a9	N - 28 ° - W	方形	5.15×5.05	39 ~ 50	平坦	(全周)	3	1	-	-	-	自然	土師器片, 須惠器片, 土製品, 石製品	6世紀後葉
2029	D 9 d0	N - 35 ° - W	方形	4.27×3.97	22 ~ 47	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	自然	土師器片, 土製品, 石器, 鉄製品	7世紀前葉
2030	D 9 c0	N - 37 ° - W	方形	5.67×5.57	25 ~ 45	平坦	全周	4	1	-	竈1	1	人為	土師器片, 土製品, 鉄製品	6世紀後葉
2032	D 9 e0	N - 38 ° - E	長方形	5.61×4.50	8 ~ 26	平坦	半周	2	-	1	-	-	人為	土師器片	5世紀前半
2034A	D 10 f1	N - 9 ° - W	方形	4.48×4.29	30 ~ 40	平坦	全周	-	-	-	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 土製品, 石製品, 鉄製品	7世紀中葉
2034B	D 10 f1	N - 9 ° - W	[方形]	4.20×4.00	-	平坦	全周	-	-	-	竈1	-	不明	石製品	7世紀中葉以前
2035	D 10 e1	N - 10 ° - E	長方形	6.04×5.54	23 ~ 35	平坦	(全周)	4	1	5	-	-	人為	土師器片, 須惠器片, 土製品, 鉄製品	7世紀前葉以前
2037	D 10 h2	N - 16 ° - W	方形	5.15×4.83	5 ~ 25	平坦	半周	4	1	2	竈1	1	自然	土師器片, 須惠器片, 土製品	6世紀後葉
2038	D 9 j0	N - 25 ° - W	長方形	3.95×2.65	23 ~ 28	平坦	全周	-	-	-	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片	7世紀後葉以前
2039	D 9 j0	N - 31 ° - W	方形	6.38×6.14	24 ~ 56	平坦	全周	4	1	-	竈1	1	人為	土師器片, 須惠器片, 土製品, 石器	7世紀中葉
2040	E 9 a9	N - 13 ° - W	方形	4.02×4.00	8 ~ 43	平坦	全周	4	1	1	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 土製品, 鉄器	6世紀後葉 ~ 7世紀前葉
2041	D 10 c2	N - 55 ° - E	方形	7.75×7.15	7 ~ 27	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	自然	土師器片, 石製品, 鉄滓	7世紀前葉
2042	D 10 c2	N - 41 ° - W	長方形	4.80×4.40	4 ~ 8	平坦	-	3	1	1	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 石器・石製品	7世紀前葉以降
2044	D 10 g3	N - 26 ° - W	方形	5.57×5.07	30 ~ 42	平坦	(全周)	2	-	-	竈1	-	人為	土師器片, 土製品, 石製品, 鉄製品	6世紀後葉
2045	C 10 h3	N - 15 ° - W	方形	5.65×5.57	2 ~ 9	平坦	ほぼ全周	4	2	1	竈1	-	不明	土師器片, 須惠器片	古墳時代後期
2048	D 11 a8	N - 43 ° - E	[方形・長方形]	5.12×(3.44)	14 ~ 20	平坦	-	-	-	-	-	-	自然	土師器片・石器	5世紀以前

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	備考 (時期)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴			
2049	D10b2	N - 65 ° - E	長方形	4.30×3.25	25 ~ 30	平坦	-	4	1	-	-	-	不明	土師器片	7世紀前葉以前
2051	D9h8	N - 42 ° - W	方形	8.89×8.85	23 ~ 55	平坦	ほぼ 全周	4	1	5	竈1	3	人為	土師器片, 須惠器片, 土 製品, 石製品, 銅製品	6世紀後葉
2052	E9g7	N - 28 ° - W	方形	6.10×5.66	28 ~ 35	平坦	全周	4	2	-	竈1	-	人為	土師器片, 土製品, 鉄製品	7世紀中葉
2053	B9c5	N - 16 ° - W	方形	5.65×5.32	50 ~ 67	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器 片, 土製品	6世紀後葉以前
2056	B9d9	N - 20 ° - W	方形	4.75×4.35	30 ~ 38	平坦	全周	4	1	4	竈1	1	自然	土師器片, 土製品, 鉄製品	6世紀中葉
2057	B9f0	N - 23 ° - W	方形	3.92×3.87	8 ~ 30	平坦	全周	2	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器 片	6世紀後葉以前
2061	D9a0	N - 29 ° - W	方形	6.23×6.03	23 ~ 32	平坦	(全周)	3	2	-	-	-	自然	土師器片, 土製品	6世紀中葉以前
2062	D12b8	N - 5 ° - E	長方形	7.00×6.14	36	平坦	-	-	-	-	-	-	不明	土師器片	7世紀代
2064	B11i7	N - 28 ° - W	長方形	6.85×6.03	14 ~ 25	平坦	全周	4	2	3	炉1	-	自然	土師器片	5世紀前半
2066	C13g3	N - 20 ° - W	[方形・ 長方形]	5.11×(4.65)	10 ~ 13	平坦	(全周)	3	-	1	竈1	1	人為	土師器片, 土製品	6世紀中葉以前
2068	C11e0	N - 12 ° - W	方形	(2.45×2.18)	5 ~ 11	平坦	-	-	-	-	竈1	-	不明	土師器片	6世紀後半
2069	C11b6	N - 5 ° - W	方形	5.22×4.96	2 ~ 20	傾斜	-	-	-	-	竈1	-	不明	土師器片, 須惠器 片	6世紀後葉 - 7世紀前葉
2072	C11i2	N - 10 ° - W	方形	4.02×3.98	12 ~ 24	平坦	一部	4	1	-	竈1	1	自然	土師器片, 須惠器 片	6世紀後葉
2074	D11b4	N - 6 ° - W	[方形・ 長方形]	[6.00]×(3.16)	4	平坦	一部	1	-	-	竈1	1	不明	土師器片	7世紀前葉
2075	C11f7	N - 17 ° - W	[方形]	[5.90×5.60]	-	平坦	-	4	1	-	竈1	-	不明	土師器片, 須惠器 片, 石製品	6世紀後半
2082	C12j7	N - 25 ° - W	[方形]	[4.90×4.30]	10 ~ 13	平坦	一部	4	-	-	-	-	不明	土師器片, 土製品	6世紀後半
2083	D13b3	N - 6 ° - E	方形	6.85×6.58	27 ~ 65	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器 片, 鉄器・鉄製品	7世紀末葉 - 8世紀初頭
2086	C12i6	N - 4 ° - E	[方形]	[7.10×6.90]	4 ~ 21	平坦	一部	4	-	-	竈1	-	不明	土師器片, 須惠器 片, 銅製品	7世紀前葉
2088	D13c8	N - 15 ° - E	方形	7.08×6.65	30 ~ 38	傾斜	-	2	-	6	-	-	自然・ 人為	土師器片, 須惠器 片	7世紀中葉
2092	C12e6	N - 1 ° - W	[方形]	5.88×(5.60)	4	平坦	(全周)	4	-	1	炉1	-	不明	土師器片	5世紀前半
2093	C12c9	N - 4 ° - W	方形	4.36×4.30	4 ~ 6	平坦	-	-	-	-	竈1	-	不明	土師器片, 須惠器 片	7世紀代
2095	C12g7	N - 15 ° - W	[方形・ 長方形]	8.58×(5.36)	20 ~ 25	平坦	(全周)	4	-	-	竈2	1	自然	土師器片, 須惠器片, 土製品, 石製品	6世紀後葉
2097	C13e1	N - 10 ° - W	長方形	[3.46]×2.80	4 ~ 15	平坦	一部	-	-	-	竈1	-	不明	土師器片, 須惠器 片	7世紀後葉
2099	C12j9	N - 6 ° - E	[方形]	(2.91×2.86)	20 ~ 23	平坦	(全周)	-	-	-	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器 片, 鉄製品	7世紀前葉以前
2114	B14h4	N - 17 ° - E	方形	2.97×2.91	21 ~ 28	平坦	-	-	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器 片	7世紀代
2119	C14b2	N - 5 ° - E	[方形]	9.34×[9.32]	24	平坦	半周	4	1	11	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 土製品, 石製品	7世紀前葉
2122	B12g6	N - 15 ° - W	方形	6.81×6.73	3 ~ 18	平坦	ほぼ 全周	4	2	2	竈1	-	不明	土師器片, 須惠器 片, 石器	6世紀後葉
2124	C13a1	N - 8 ° - W	方形	5.02×4.98	7 ~ 18	平坦	ほぼ 全周	4	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 鉄滓	7世紀前葉
2127	C12a9	N - 2 ° - E	方形	4.83×4.70	12 ~ 25	平坦	[全周]	4	1	2	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器 片	7世紀中葉
2130	B13e6	N - 4 ° - W	方形	7.25×6.67	8 ~ 15	平坦	-	-	-	-	炉1	-	不明	土師器片, 須惠器 片, 石器	4世紀後半
2131	B13c3	N - 10 ° - E	不明	[4.15×3.69]	16 ~ 38	平坦	半周	2	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器 片	古墳時代後期
2133	B13b5	N - 4 ° - E	[方形]	[2.84×2.79]	23	平坦	一部	-	-	-	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器 片	7世紀前葉以降
2140	B14b1	N - 7 ° - E	[方形・ 長方形]	(2.81×0.87)	50 ~ 56	平坦	一部	-	-	-	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器 片	7世紀代
2142	B13b5	N - 5 ° - W	方形	6.43×5.91	10 ~ 13	平坦	-	-	-	-	-	-	不明	土師器片	5世紀以前
2143	B13j4	N - 3 ° - W	方形	5.47×5.42	7	平坦	(全周)	2	-	-	竈1	-	不明	土師器片	6世紀後葉 - 7世紀前葉
2145	B13a9	N - 5 ° - E	[方形]	5.98×(5.56)	20 ~ 30	平坦	(全周)	4	1	2	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器 片	6世紀後葉 - 7世紀前葉
2146	B13a7	N - 4 ° - W	方形	5.91×5.73	8 ~ 30	平坦	(全周)	4	-	-	竈1	-	人為	土師器片	6世紀後葉

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	備考 (時期)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴			
2147	B13g4	N - 6 ° - E	方形	5.82×5.55	5 ~ 14	平坦	-	4	1	4	-	-	不明	土師器片, 須惠器片	5世紀以前
2149	C11c0	N - 4 ° - W	長方形	[5.20×4.60]	5 ~ 15	平坦	-	4	-	-	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 鉄製品	6世紀後葉
2152	C12c2	N - 13 ° - W	不明	2.92×4.04	8	平坦	-	-	-	-	-	-	自然	土師器片, 須惠器片	6世紀後葉~7世紀前葉
2153	D11b9	N - 37 ° - W	方形	6.18×[6.08]	20 ~ 38	平坦	半周	4	-	-	-	-	人為	土師器片, 須惠器片, 鉄製品	7世紀前葉
2154	C11e7	N - 0 °	[方形]	[6.32×6.11]	4	平坦	-	1	-	3	竈1	-	不明	土師器片, 須惠器片	7世紀前半
2157	C11a0	N - 5 ° - W	[方形]	[7.29×5.91]	6 ~ 27	不明	-	2	-	-	-	-	不明	土師器片, 須惠器片, 鉄製品	7世紀前葉
2158	C11a8	N - 3 ° - W	方形	6.02×5.98	15 ~ 33	平坦	(全周)	3	-	3	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 鉄製品	7世紀前葉
2159	C12d1	N - 25 ° - W	[方形]	[6.29×5.87]	4 ~ 18	平坦	-	3	1	2	竈1	-	不明	土師器片	7世紀後半
2161	C12c2	N - 10 ° - W	不明	5.24×[2.24]	8 ~ 16	平坦	-	-	-	-	-	-	不明	土師器片	4世紀後半
2163	B9b9	N - 25 ° - W	方形	5.22×5.19	48 ~ 52	平坦	全周	4	1	2	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 土製品, 石製品, 鉄滓	7世紀前葉
2164	C11f4	N - 13 ° - W	長方形	4.64×4.17	4	平坦	-	-	-	-	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 鉄滓	7世紀代
2165	C11f3	N - 16 ° - W	方形	4.11×3.98	4	平坦	-	-	-	-	-	-	不明	土師器片	6世紀以前
2168	C10a7	N - 7 ° - W	方形	4.72×4.70	5 ~ 15	平坦	全周	4	1	8	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 土製品, 鉄滓	7世紀前葉
2171	C10a9	N - 5 ° - W	方形	5.85×[5.77]	8 ~ 10	平坦	全周	4	1	4	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 鉄製品	7世紀前葉
2173	B12e5	N - 9 ° - W	方形	6.02×5.96	4	平坦	[全周]	4	1	1	竈1	-	不明	土師器片, 土製品	古墳時代後期
2174	C10d7	N - 14 ° - W	方形	[7.44×6.68]	8	不明	一部	3	-	-	竈1	-	不明	土師器片, 須惠器片	6世紀後葉~7世紀前葉
2176	B11g0	N - 17 ° - W	[方形]	5.87×5.72	14 ~ 39	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 鉄製品	6世紀後葉
2177	C11j5	N - 14 ° - W	[方形]	6.27×[6.00]	10	平坦	-	-	-	-	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 土製品	6世紀後葉以前
2178	C11h5	N - 10 ° - W	不明	(4.80×1.60)	4	平坦	-	-	-	-	竈1	-	不明	土師器片, 須惠器片	古墳時代後期
2184	C12i2	N - 17 ° - W	[方形・長方形]	(3.31×2.98)	-	平坦	(全周)	-	-	-	竈1	-	不明	土師器片	古墳時代後期
2185	D11a0	N - 8 ° - E	[方形・長方形]	6.34×(3.55)	2 ~ 7	平坦	-	2	-	-	竈1	1	不明	土師器片	6世紀後半
2187	D10j6	N - 45 ° - W	方形	5.26×5.19	4 ~ 44	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片	7世紀前葉
2192	D10i4	N - 26 ° - W	長方形	5.14×4.39	3 ~ 26	平坦	(全周)	4	1	-	竈1	-	自然	土師器片, 石器	7世紀前葉以前
2193	E9d5	N - 42 ° - W	方形	7.15×6.91	24 ~ 45	平坦	全周	4	2	3	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 土製品, 石製品	6世紀後葉以前
2194	E9e4	N - 35 ° - W	長方形	6.13×3.71	17 ~ 30	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	土師器片, 石製品	6世紀中葉以前
2196	E9e9	N - 34 ° - W	方形	3.82×3.61	24 ~ 48	平坦	(全周)	1	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 土製品, 鉄滓	6世紀後葉
2197	E9e8	N - 32 ° - W	方形	3.11×2.94	-	緩斜	半周	-	-	10	-	-	不明	土師器片, 土製品	6世紀後葉以前
2202	E9f9	N - 25 ° - W	方形	3.91×3.85	32 ~ 51	平坦	全周	-	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 石製品, 鉄製品	7世紀前半
2204	C11a1	N - 4 ° - W	[方形]	4.98×[4.84]	5 ~ 15	平坦	[全周]	4	1	-	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 土製品	6世紀後葉~7世紀前葉
2205	B10j3	N - 2 ° - W	方形	4.75×4.66	-	平坦	[全周]	-	1	2	竈1	-	不明	土師器片, 土製品	6世紀後半~7世紀前半
2207	C11b3	N - 13 ° - W	[方形]	[4.38×4.34]	-	傾斜	-	4	2	3	竈1	-	不明	土師器片	古墳時代後期
2213	B11i0	N - 88 ° - E	方形	3.42×3.32	23 ~ 44	平坦	半周	-	-	-	-	-	自然	土師器片, 須惠器片, 土製品	6世紀後葉以前
2214	B12i1	N - 63 ° - E	方形	4.82×4.80	26 ~ 46	平坦	半周	4	-	-	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 土製品, 石器	7世紀前葉
2215	B12e3	N - 18 ° - W	長方形	4.24×3.69	19 ~ 25	平坦	全周	-	1	-	竈1	-	人為	土師器片	6世紀後葉
2216	B9f4	N - 11 ° - W	[方形・長方形]	4.34×[3.45]	27 ~ 35	平坦	[全周]	4	1	-	竈1	-	人為	土師器片	6世紀後葉
2217	B12g3	N - 26 ° - W	[長方形]	[6.12×5.26]	10 ~ 12	平坦	-	-	-	-	-	-	不明	土師器片	4世紀中葉
2218	B11g5	N - 22 ° - W	方形	6.35×6.25	16 ~ 25	平坦	全周	4	1	5	竈2	-	人為	土師器片, 須惠器片, 土製品, 鉄製品, 鉄滓	7世紀前葉以前

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	備考 (時期)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴			
2220	C11e6	N - 8 ° - W	[方形]	[5.82×5.62]	2	不明	-	2	1	1	竈1	-	不明	土師器片, 須惠器片, 土製品	6世紀後半
2221	B11i3	N - 4 ° - E	方形	4.93×4.83	9 ~ 24	平坦	[全周]	4	1	1	竈1	-	人為	土師器片, 土製品	7世紀前葉
2222	B10h0	N - 19 ° - W	長方形	4.01×3.27	20	平坦	[全周]	2	1	7	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 鉄製品, 鉄滓	6世紀後葉
2223	B11g2	N - 18 ° - W	方形	7.85×7.75	18 ~ 37	平坦	全周	4	1	13	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 土製品, 石器, 鉄製品	7世紀中葉
2225	B10i0	N - 22 ° - W	長方形	5.89×4.28	5	平坦	-	3	1	3	-	-	人為	土師器片, 石器	5世紀前半
2226	B10h8	N - 40 ° - W	方形	4.38×4.25	15 ~ 18	平坦	一部	4	-	-	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 土製品, 石器	6世紀後葉
2229	B10h8	N - 3 ° - E	長方形	4.87×4.05	10 ~ 28	平坦	[全周]	3	1	6	竈1	-	人為	土師器片	7世紀前葉
2230	B10g6	N - 15 ° - W	方形	5.73×5.54	33 ~ 43	平坦	全周	4	1	1	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 土製品	7世紀前半
2231	B10h6	N - 27 ° - W	[方形・長方形]	3.38×(1.76)	12	平坦	-	-	1	2	-	-	人為	土師器片	5世紀前半
2237	C10d0	N - 5 ° - W	方形	3.50×3.42	4 ~ 20	平坦	-	-	-	-	竈1	-	不明	土師器片, 須惠器片	6世紀後半以降
2238	B10e5	N - 75 ° - E	方形	4.65×4.59	12 ~ 32	平坦	全周	4	-	1	竈2	1	人為	土師器片	6世紀後葉
2239	B10e2	N - 30 ° - W	方形	5.11×4.91	23 ~ 32	平坦	全周	4	1	1	竈1	1	人為	土師器片, 須惠器片, 土製品, 鉄製品	6世紀後葉
2240	B10c6	N - 2 ° - W	方形	5.42×5.31	43 ~ 48	平坦	全周	4	2	-	竈2	-	人為	土師器片, 須惠器片, 土製品, 石器, 石製品, 鉄製品	7世紀前葉以前
2241	B10c3	N - 35 ° - W	方形	4.85×4.63	36 ~ 52	平坦	全周	4	1	2	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 土製品	6世紀後葉
2245	C9c9	-	不明	(3.46×1.88)	14	平坦	-	-	-	-	-	-	自然	土師器片, 須惠器片	古墳時代後期
2247	A9j7	N - 23 ° - W	方形	4.72×4.67	48 ~ 53	平坦	[全周]	4	1	-	竈1	-	人為	土師器片	6世紀後葉
2248	B9c3	N - 8 ° - W	[方形・長方形]	4.68×(2.68)	36 ~ 52	平坦	[全周]	2	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 土製品	6世紀後葉
2249	B9a3	N - 4 ° - E	[方形・長方形]	4.35×(4.09)	13 ~ 18	平坦	[全周]	-	1	2	炉1	-	人為	土師器片, 土製品	6世紀中葉
2256	A10i5	N - 26 ° - W	方形	3.95×3.94	65 ~ 67	平坦	全周	4	2	1	竈1	1	自然	土師器片, 土製品	6世紀後葉以前
2257	A11i2	N - 13 ° - W	方形	5.09×4.92	28 ~ 58	平坦	全周	4	2	-	竈1	-	人為	土師器片, 土製品	6世紀後葉
2260	A10j7	N - 36 ° - W	方形	6.01×5.55	34 ~ 60	平坦	全周	4	1	2	竈1	1	人為	土師器片, 須惠器片, 土製品, 金属製品, 鉄滓	7世紀前葉
2262	A10h9	N - 75 ° - E	方形	4.24×4.10	45 ~ 50	平坦	全周	4	1	2	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 土製品, 石器	7世紀前葉
2264	B10b0	N - 10 ° - W	長方形	7.26×[6.50]	28 ~ 40	平坦	-	4	1	2	竈1	-	自然・人為	土師器片, 須惠器片, 土製品, 鉄製品, 鉄滓	7世紀後葉
2265	B10e0	N - 24 ° - W	方形	9.28×9.24	44 ~ 62	平坦	全周	4	1	1	竈1	1	自然	土師器片, 須惠器片, 土製品, 鉄製品, 鉄滓	6世紀中葉
2268	A11i3	N - 29 ° - W	長方形	4.54×4.12	17 ~ 28	平坦	全周	4	1	1	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片	6世紀後葉
2277	B11d6	N - 3 ° - W	方形	6.08×6.01	10 ~ 28	平坦	-	4	1	-	竈1	1	自然	土師器片, 須惠器片, 土製品, 鉄滓	7世紀前葉
2278	B11c4	N - 25 ° - W	[方形]	6.28×[5.72]	20	平坦	-	-	-	-	炉1	-	人為	土師器片	4世紀後半
2279	B11d4	N - 3 ° - W	長方形	5.10×4.35	35 ~ 43	平坦	-	4	1	1	竈1	-	自然	土師器片, 石製品, 鉄製品・鉄滓	7世紀後葉
2280	B11e4	N - 22 ° - W	方形	5.95×5.75	29 ~ 43	平坦	全周	4	3	1	竈1	1	人為	土師器片, 須惠器片, 鉄滓	6世紀後葉
2286	A11e8	N - 10 ° - E	方形	7.51×7.18	4 ~ 18	平坦	(全周)	3	1	12	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 鉄製品	6世紀後葉~7世紀前葉
2291	B11d8	N - 3 ° - W	方形	5.41×5.36	38 ~ 44	平坦	(全周)	4	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 土製品, 石製品, 鉄製品	6世紀後葉~7世紀前葉
2293	B11f0	N - 6 ° - E	方形	6.08×5.96	16 ~ 37	平坦	一部	3	1	-	-	-	人為	土師器片	6世紀中葉
2299	B12b3	N - 2 ° - W	方形	8.25×8.16	18 ~ 22	平坦	全周	3	1	1	竈1	1	自然	土師器片, 須惠器片, 土製品, 石器, 石製品	6世紀後葉
2300	A12g6	N - 16 ° - E	[方形]	[4.53]×4.28	10 ~ 22	平坦	-	4	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 土製品, 石器	6世紀後葉~7世紀前葉
2301	A12i2	N - 26 ° - W	方形	6.61×6.14	4 ~ 28	平坦	全周	4	2	8	竈1	1	人為	土師器片, 須惠器片	7世紀前葉
2302	A12i5	N - 13 ° - W	[方形]	3.64×[3.53]	6 ~ 14	平坦	一部	2	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 石器	7世紀代
2304	B12b6	N - 10 ° - E	長方形	5.16×3.94	7 ~ 11	平坦	(全周)	2	-	2	竈1	1	人為	土師器片, 須惠器片, 土製品, 石器, 鉄滓	6世紀後葉

茨城県教育財団文化財調査報告第264集

島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅻ

上 巻

平成18(2006)年3月20日 印刷
平成18(2006)年3月24日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587

印刷 (有)川田プリント
〒310-0041 水戸市上水戸4丁目6-53
TEL 029-253-5551